

WebSAM DeploymentManager Ver6.2

リファレンスガイド

—第 1 版—

目次

はじめに.....	7
対象読者と目的	7
本書の構成	7
DeploymentManagerマニュアル体系	8
本書の表記規則	8
1. Webコンソール	11
1.1. Webコンソールの概要	11
1.1.1.DeploymentManagerログイン	14
1.1.2.アカウント	15
2. 管理	17
2.1. 「管理」ビュー	17
2.2. 「ユーザ」アイコン	17
2.3. ユーザー一覧	18
2.3.1.ユーザ追加	19
2.3.2.ユーザ編集	21
2.3.3.ユーザ削除	22
2.4. 「ライセンス」アイコン	22
2.5. 登録ライセンスの詳細情報	23
2.5.1.ライセンスキー追加	23
2.5.2.ライセンスキー削除	24
2.6. 「DPMサーバ」アイコン	25
2.7. 管理サーバの基本情報	25
2.7.1.詳細設定	25
2.7.1.1.「全般」タブ	26
2.7.1.2.「シナリオ」タブ	30
2.7.1.3.「ネットワーク」タブ	31
2.7.1.4.「DHCPサーバ」タブ	33
2.7.2.ガードパラメータ設定	34
2.7.3.パッケージのダウンロード設定	35
2.7.3.1.パッケージWebサーバ追加	37
2.7.3.2.パッケージWebサーバ編集	39
2.7.3.3.パッケージWebサーバ削除	41
2.7.3.4.パッケージWebサーバの基本情報	42
2.7.4.自動更新設定	43
3. 運用	46
3.1. 「運用」ビュー	46
3.2. 「リソース」アイコン	46
3.3. 「マシン」アイコン	47
3.3.1.マシングループ追加	48
3.3.2.マシングループ削除	50
3.3.3.マシン情報インポート	51
3.3.4.マシン情報エクスポート	55
3.4. 「グループ」アイコン	55
3.5. マシングループ詳細	55
3.5.1.マシングループ編集	58
3.5.2.マシングループ削除	61
3.5.3.サブマシングループ追加	61
3.5.4.サブマシングループ削除	63
3.5.5.管理対象マシンの登録	64
3.5.6.マシン移動	71
3.5.7.マシン削除	72
3.5.8.ネットワーク一括設定	72

3.5.9.自動更新時間一括設定	74
3.6. グループへのメニュー操作	76
3.6.1.一括操作	76
3.7. 管理対象マシン詳細	79
3.7.1.マシンのステータス	81
3.7.1.1.HotFix/アプリケーション一覧	83
3.7.1.2.パッケージ適用状況(パッケージ一覧)	84
3.7.2.管理対象マシン編集	86
3.7.3.マシン移動	92
3.7.4.マシン削除	92
3.8. マシンへのメニュー操作	93
3.8.1.電源ON	93
3.8.2.シャットダウン	93
3.8.3.シナリオ割り当て	95
3.8.4.シナリオ割り当て解除	99
3.8.5.電源管理スケジュール	99
3.8.6.シナリオ実行	102
3.8.7.シナリオ実行中断	105
3.8.8.エラー解除	106
3.8.9.中断解除	106
3.8.10.ファイル/フォルダ詳細	107
3.9. 「新規マシン」アイコン	109
3.9.1.新規マシンの基本情報	110
3.9.2.新規マシン登録	110
3.9.3.新規マシン削除	118
3.10. 「シナリオ」アイコン	118
3.10.1.シナリオグループ追加	119
3.10.2.シナリオグループ削除	120
3.11. 「シナリオグループ」アイコン	121
3.12. シナリオグループ詳細	121
3.12.1.シナリオグループ編集	123
3.12.2.シナリオグループ削除	124
3.12.3.サブシナリオグループ追加	124
3.12.4.サブシナリオグループ削除	125
3.12.5.シナリオ追加	126
3.12.6.シナリオ移動	126
3.12.7.シナリオコピー	127
3.12.8.シナリオ削除	129
3.12.9.シナリオ割り当て	129
3.13. シナリオ追加	131
3.13.1.「HW設定」タブ	132
3.13.2.「OS」タブ	133
3.13.3.「パッケージ」タブ	135
3.13.4.「バックアップ/リストア」タブ	139
3.13.5.「オプション」タブ	147
3.14. シナリオへのメニュー操作	148
3.14.1.シナリオ編集	148
3.14.2.シナリオコピー	149
3.14.3.シナリオ移動	149
3.14.4.シナリオ削除	150
3.14.5.シナリオ割り当て	150
3.15. シナリオの詳細情報	150
3.16. 「イメージ」アイコン	152
3.17. イメージの詳細情報	152
3.17.1.パッケージイメージの詳細情報	154
3.17.2.パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)	155
3.17.3.バックアップイメージの詳細情報	157
4. 監視	159
4.1. 「監視」ビュー	159

4.2.	「シナリオ実行一覧」アイコン	159
4.3.	シナリオ実行一覧	159
4.3.1.	ステータスの一括クリア	161
4.3.2.	バックアップ/リストア実行一覧	162
4.3.3.	今すぐ実行	165
4.3.4.	シナリオ中断	166
4.4.	「シナリオ実行結果一覧」アイコン	166
4.5.	シナリオ実行結果一覧の詳細	166
4.5.1.	CSV形式で保存	168
4.5.2.	ログの削除	168
4.6.	「自動更新結果一覧」アイコン	169
4.7.	自動更新結果一覧の詳細	169
4.7.1.	自動更新結果の詳細表示	170
4.7.2.	最大ログ数設定	171
4.7.3.	CSV形式で保存	172
4.7.4.	ログの削除	172
5.	イメージビルダ	173
5.1.	接続設定	173
5.2.	フロッピーディスクのイメージ作成	174
5.3.	オペレーティングシステムの登録	176
5.4.	セットアップパラメータファイルの作成	178
5.4.1.	ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows).....	178
5.4.1.1.	ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows Server 2000/Windows Server 2003/Windows XP)	178
5.4.1.2.	ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows Server 2008/Windows Vista以降).....	196
5.4.2.	ディスク複製用情報ファイルの大量作成(Windows).....	215
5.4.3.	ディスク複製用パラメータファイルの作成(Linux).....	222
5.4.4.	ディスク複製用パラメータファイルの大量作成(Linux)	238
5.4.5.	OSクリアインストール用パラメータファイル作成(Linux).....	243
5.4.6.	OSクリアインストール用パラメータファイル大量作成(Linux)	280
5.5.	パッケージの登録/修正	286
5.5.1.	Windowsパッケージ作成	287
5.5.2.	Windowsパッケージ修正	303
5.5.3.	Linuxパッケージ作成	304
5.5.4.	Linuxパッケージ修正	308
5.5.5.	パッケージの登録/修正の終了	309
5.6.	パッケージ削除	309
5.7.	一括登録	311
5.8.	同意画面の表示設定	312
6.	PackageDescriber	313
6.1.	初期設定:環境設定	313
6.2.	パッケージ作成	317
6.2.1.	基本情報	317
6.2.2.	実行設定情報	323
6.2.3.	対応OSと言語情報	325
6.2.4.	依存情報	326
6.2.5.	識別情報	334
6.3.	パッケージ修正/削除	339
6.4.	パッケージWebサーバへの登録/削除	341
6.5.	オンライン更新	343
7.	その他ツール.....	345
7.1.	ポート開放ツール	345
7.1.1.	ポート番号の設定	345
7.1.2.	マシンごとの適用	346
7.2.	ディスク構成チェックツール.....	347
7.2.1.	シナリオの作成	347
7.2.2.	シナリオの割り当て	348

7.2.3.シナリオの実行	349
7.2.4.シナリオ実行結果の確認	350
7.2.5.ディスク番号(パーティション番号)の確認	350
7.3. 自動更新状態表示ツール	354
7.3.1.クライアント設定ツール	355
7.3.2.DeploymentManagerについて	356
7.4. バックアップイメージファイルの確認ツール	356
8. DPMコマンドライン	357
8.1. DPMコマンドラインからの操作	357
8.1.1.DPMサーバ表示	360
8.1.2.管理対象マシン一覧表示、管理対象マシン詳細表示	360
8.1.3.シナリオ一覧表示	361
8.1.4.電源ON	362
8.1.5.シャットダウン	362
8.1.6.シナリオ割り当て/割り当て解除	363
8.1.7.シナリオ実行	363
8.1.8.シナリオ実行中断	364
8.1.9.シナリオ実行状況表示	364
8.1.10.ステータスクリア	365
8.1.11.管理対象マシンの登録	365
8.1.12.管理対象マシンの削除	365
8.1.13.ライセンス情報表示	366
8.1.14.ヘルプ	366
9. 保守	367
9.1. 管理サーバのIPアドレス変更手順	367
9.2. データベースサーバのIPアドレス変更手順	369
9.3. 管理対象マシンのIPアドレス変更手順	370
9.4. データバックアップ計画	371
9.4.1.データバックアップ手順	371
9.4.2.データ復旧手順	373
9.5. DPMで使用するポート変更手順	375
10. 注意事項	377
10.1. 装置/ストレージの注意事項	377
10.1.1.機種対応モジュール	377
10.2. 管理サーバ、および管理対象マシンのコンピュータ名(ホスト名)を変更する場合の注意事項	377
10.3. 管理サーバ、および管理対象マシンのOSのユーザ名/パスワードを変更する場合の注意事項	377
10.4. OSクリアインストールに関する注意事項	378
11. トラブルシューティング	380
11.1. Webコンソール	380
11.2. 管理サーバ	384
11.3. 管理対象マシン	385
11.4. シナリオ	386
11.5. シナリオ実行	386
11.5.1. 全般	386
11.5.2.Linuxインストールパラメータファイルの作成	390
11.5.3.ディスク複製OSインストール	391
11.5.4.OSクリアインストール	393
11.5.5.サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストール	394
11.5.6.バックアップ/リストア	396
11.5.7.BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信	400
11.6. 管理対象マシンの登録	401
11.7. 自動更新	401
11.8. 自動ダウンロード	406
11.9. 電源ON	408
11.10. スケジュール管理	409

11.11.	マシン情報インポート/エクスポート.....	409
11.12.	ネットワーク設定	409
11.13.	DHCPサーバを使用しない場合の運用.....	410
11.14.	PackageDescriber	412
11.15.	障害発生時の情報採取	412
付録 A	サービス一覧	415
	サービスの開始、停止方法と順序	417
付録 B	イベントログ	418
付録 C	エラー情報	418
付録 D	ネットワークポートとプロトコル一覧.....	418
付録 E	DPMが出力するログ	425
付録 F	各コンポーネントのバージョン確認方法	431
付録 G	用語集.....	432
付録 H	LDAPサーバを使用したWebコンソールのログイン方法	434
付録 I	改版履歴	435

はじめに

対象読者と目的

「リファレンスガイド」は、WebSAM DeploymentManager(以下、DPM)の画面操作およびツールの説明、メンテナンス関連情報、およびトラブルシューティングについて説明します。

本書の構成

- ・1 「Webコンソール」: DeploymentManagerのWebコンソールの各名称、および概要について説明します。
- ・2 「管理」: DeploymentManagerの「管理」ビューで管理しているユーザ/ライセンス/DPMサーバの設定について説明します。
- ・3 「運用」: DeploymentManagerの運用について説明します。
- ・4 「監視」: DeploymentManagerの管理対象マシンの状態やログの参照について説明します。
- ・5 「イメージビルダ」: イメージを登録するためのツールであるイメージビルダについて説明します。
- ・6 「PackageDescriber」: パッケージを作成して、パッケージWebサーバに登録するためのツールであるPackageDescriberについて説明します。
- ・7 「その他ツール」: DPMで使用するツールについて説明します。
- ・8 「DPMコマンドライン」: DPMで使用するコマンドラインについて説明します。
- ・9 「保守」: DPMの保守情報について説明します。
- ・10 「注意事項」: DPMに関する各種注意事項を説明します。
- ・11 「トラブルシューティング」: DPMのエラー情報に対する対処方法を説明します。

付録

- ・付録 A 「サービース一覧」
- ・付録 B 「イベントログ」
- ・付録 C 「エラー情報」
- ・付録 D 「ネットワークポートとプロトコル一覧」
- ・付録 E 「DPMが出力するログ」
- ・付録 F 「各コンポーネントのバージョン確認方法」
- ・付録 G 「用語集」
- ・付録 H 「LDAPサーバを使用したWebコンソールのログイン方法」
- ・付録 I 「改版履歴」

DeploymentManager マニュアル体系

DPMのマニュアルは、以下のように構成されています。
本書内では、各マニュアルは「本書での呼び方」の名称で記載します。

マニュアル名	本書での呼び方	各マニュアルの役割
WebSAM DeploymentManager Ver6.2 ファーストステップガイド	ファーストステップガイド	DPMを使用するユーザを対象読者としてします。製品概要、各機能の説明、システム設計方法、動作環境などについて説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.2 インストールガイド	インストールガイド	DPMの導入を行うシステム管理者を対象読者としてします。DPMのインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールなどについて説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.2 オペレーションガイド	オペレーションガイド	DPMの運用を行うシステム管理者を対象読者としてします。運用のための環境の設定手順、および運用する際の操作手順を実際の流れに則して説明します。
WebSAM DeploymentManager Ver6.2 リファレンスガイド	リファレンスガイド	DPMの操作を行うシステム管理者を対象読者としてします。DPMの画面操作およびツールの説明、メンテナンス関連情報、およびトラブルシューティングについて記載します。「インストールガイド」および「オペレーションガイド」を補完する役割を持ちます。

なお、DPMに関する最新情報は、以下の製品サイトから入手できます。
<http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>

また、リファレンスガイドはインストール媒体には含まれていません。製品サイトで公開しています。

本書の表記規則

本書の表記に関する注意点を説明します。

- DPM 製品の表記は以下とします。

本書での表記	製品名
DPM単体製品	WebSAM DeploymentManager Ver6.2
SSC向け製品	WebSAM DeploymentManager Ver6.2 for SSC(※1)

※1

SigmaSystemCenter、VirtualPCCenterに同梱している製品となります。

- 画面イメージは DPM 単体製品の表示に基づいています。特にライセンス関連の表示は、DPM 単体製品のみで、SSC 向け製品では表示されません。
- 製品のバージョンは、以下のように表記します。
 - DPM Ver6.2 の全リビジョン共通の内容:「DPM Ver6.2」
 - DPM Ver6.2x の特定リビジョンに特化した内容:「DPM Ver6.2x」※xには、リビジョン番号が入ります。
- DPM 製品に添付されているインストール媒体を「インストール媒体」と表記します。
- IPv4 アドレスを「IP アドレス」、IPv6 アドレスを「IPv6 アドレス」と表記します。
- 32bit 版 OS を「x86」、64bit 版 OS を「x64」と表記します。

- Windows OS では DPM がインストールされるフォルダパス、レジストリキーを x86 のフォルダパス、レジストリキーで表記します。x64 を使用している場合は、特に断りがない限り以下のように適宜読み替えてください。

DPMインストールフォルダ

- x86 の場合 : C:\Program Files\NEC\DeploymentManager
- x64 の場合 : C:\Program Files (x86)\NEC\DeploymentManager

- x86 の場合 : C:\Windows\System32
- x64 の場合 : C:\Windows\SysWOW64

レジストリキー

- x86 の場合 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\DeploymentManager
- x64 の場合 : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\DeploymentManager

- 各アイコンの意味は以下の表のとおりです。

アイコン	説明
	重要事項です。 使用している環境に関係なく、運用を行う場合に必ず注意が必要な事項です。
	注意事項です。 特定の環境、または操作において注意が必要な事項です。
	補足事項です。 より便利に製品を使用するための参考/関連情報です。

- DPM を使用するにあたって、OS によって表示/手順が異なる場合があります。原則として Windows OS の場合、Windows Server 2008 および Windows 7 に基づいて記載しています。Windows Server 2008、Windows 7 以外の OS で DPM を使用する場合は読み替えてください。(一部、Windows Server 2008、および Windows 7 以外の OS に基づいて記載している場合もあります。)

例)

DPM のバージョンを確認する手順が以下のように異なります。

- Windows Server 2012/Windows 8 の場合

- (1) Windows デスクトップから、画面右上隅(、または右下隅)にマウスポインタを合わせて、表示されたチャームから「設定」を選択します。
- (2) 「設定」画面が表示されますので、「コントロール パネル」→「プログラム」→「プログラムと機能」を選択します。

- Windows Server 2008/Windows 7/Windows Vista の場合

「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。

※「バージョン」欄が表示されていない場合は、以下の(1)(2)の手順を行ってください。

- (1) 画面中央の「名前」の部分で右クリックし、「その他」を選択します。
- (2) 「詳細表示の設定」画面で、「バージョン」チェックボックスにチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。

- 上記以外の OS の場合

- (1) 「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」を選択します。
- (2) 該当するコンポーネントを選択し、「サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください」をクリックします。

- Windows Server 2003 R2/Windows Server 2008 R2 については、明記していない限り、それぞれ Windows Server 2003/Windows Server 2008 の説明を適宜読み替えてください。

- 操作手順の説明で、ユーザが設定する任意の名称(データベースのインスタンス名など)については、「**インスタンス名**」のように太字/斜体文字で表記します。

例)

- 以下のサービスを再起動します。

SQL Server(**インスタンス名**)

- ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**シナリオグループ**」アイコンをクリックします。

- SQL Server についてはインストール媒体に同梱している SQL Server 2012 SP1 Express に基づいて記載を行っています。インストール媒体に同梱している SQL Server 2012 SP1 Express 以外を使用する場合は、読み替えてください。

例)

DPM のデータベースのパス

- SQL Server 2012 SP1 Express x86 の場合：

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11. **インスタンス名**¥MSSQL¥Binn

- SQL Server 2008 R2 SP1 Express x86 の場合：

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL10_50.DPMDBI¥MSSQL¥Binn

- SQL Server 2005 Express Edition x86 の場合：

C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL.x¥MSSQL¥Binn

※x には、インスタンス数の数値が入ります。

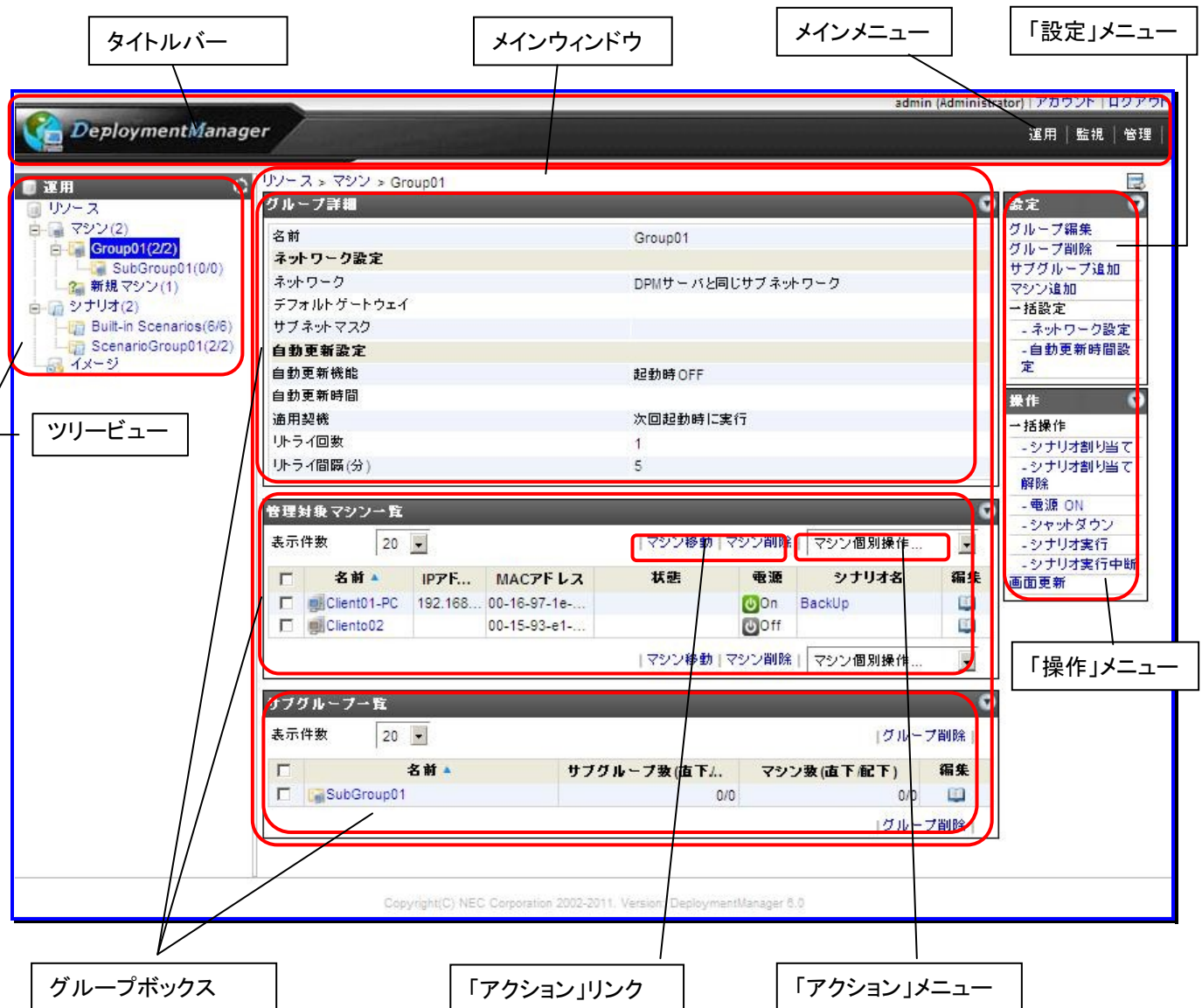
- 本書中で「DPM に関する処理を終了してください。」と記載がある場合は、以下の対処を行ってください。
 - シナリオを実行中の場合はシナリオが完了するまで待ってください。
 - 自動更新中の場合は自動更新が完了するまで待ってください。
 - Webコンソール、DPMの各種ツール類を起動している場合はそれらを終了してください。
- 1MByte は 1024KByte として計算します。
1GByte は 1024MByte として計算します。

1. Web コンソール

本章では、DPM の Web コンソールの各名称、および概要について説明します。

1.1. Web コンソールの概要

Webコンソールを使用して、マシンの操作やグループ管理など様々な操作を行うことができます。
Webコンソールは、以下の九つのパーツから構成されています。



(1) タイトルバー

Web コンソール上部には常にタイトルバーが表示されます。

タイトルバーは、アカウント管理機能、メインメニューから構成されます。

アカウント管理機能

ログインユーザに対する設定、および管理を行うことができます。

項目	説明
ユーザ名(権限)	ログインしているユーザ名と権限を表示します。
アカウント	ログインしているユーザのパスワード変更や、お知らせダイアログ表示、およびグループボックスの表示件数を設定します。 詳細は、「1.1.2 アカウント」を参照してください。
ログアウト	DPMからログアウトします。

メインメニュー

各メニューをクリックすることにより、ツリービュー、メインウィンドウに表示される内容を切り替えることができます。

項目	説明
管理	「管理」ビューは、DPMのユーザと権限の管理、ユーザー一覧、ライセンス管理、およびDPMサーバの設定など、DPMの初期設定/環境設定を行う場合に使用するビューです。
運用	「運用」ビューは、新規グループ/マシンの追加、シナリオ実行など、通常運用を行う場合に使用するビューです。
監視	「監視」ビューは、シナリオ実行状況や自動更新実行状況など、DPMを使用するにあたって必要な情報の監視を行うビューです。

(2) ツリービュー

メインメニューをクリックすることにより、ツリービューが切り替わります。

ツリービューのアイコンをクリックすると、そのアイコンに関する詳細情報がメインウィンドウに表示され、そのアイコンに対する設定/操作が「設定」メニュー、「操作」メニューに表示されます。

(3) メインウィンドウ

DPM のメインウィンドウです。ツリービューで選択したアイコンに関する詳細情報が表示されます。

グループボックス

グループボックスは、メインウィンドウに表示される詳細情報、各一覧表示ボックスを指します。グループボックス内の項目をクリックすると「△」(昇順)、または「▽」(降順)が表示されソートできます。



グループボックス内に表示される項目は、以下の表のとおりです。

表示件数	グループボックス内に表示されるユーザー一覧や管理対象マシンなどの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	各グループボックス内にあるリンクのことを指し、グループボックス内の選択したリソースに対して操作を行います。 グループボックス内の左端のチェックボックスにチェックを入れて操作する対象リソースを選択し、「アクション」リンクをクリックして実行します。
「アクション」メニュー	各グループボックス内にある「マシン個別操作」から選択できるメニューのことを指し、グループボックス内の選択したリソースに対して操作を行います。 グループボックス内の左端のチェックボックスにチェックを入れて操作する対象リソースを選択し、「アクション」メニューを選択して実行します。
チェックボックス	アクションリンク/アクションメニューからの操作対象の項目を選択します。 1番上のチェックボックスにチェックを入れると、該当ページのすべてのユーザや管理対象マシンなどを選択します。
「表示件数」に指定した数を上回る場合は、以下を表示します。	
<	前のページに遷移します。
>	次のページに遷移します。
<<	先頭ページに遷移します。
>>	末尾ページに遷移します。
(テキストボックス)	ページを指定します。
Go	テキストボックスに指定されたページに遷移します。

(4) 「設定」メニュー、「操作」メニュー

対象リソースの設定/操作するためのメニューです。メニューの内容は、ユーザの権限 (Administrator/Operator/Observer)によって異なります。

ユーザの権限については、「2.2 「ユーザ」アイコン」を参照してください。

メニューで行う操作は、ツリービューで選択したアイコン内のリソースに対して行うことができます。

操作を実行できない場合は、警告ダイアログボックスを表示します。

注意

- 「F1」キーなどのブラウザ固有のショートカットキーを使用すると、Web コンソールの動作に影響を与える場合があります。
- 日本語を入力できる項目(グループ名やマシン名など)に、外字を入力すると文字化けが発生します。
- Web コンソールの操作中に管理サーバ上の全フォルダ/ファイルに対して「一覧の取得」、「フォルダの作成」の操作を行う場合があります。
このような操作を行って問題のあるフォルダ/ファイルが存在する場合は、以下のサービスについてデフォルトのログオンアカウントである「ローカルシステムアカウント」から管理者権限を持つ他のアカウントに変更し、そのアカウントに対してアカウント制限を行うことを推奨します。
DeploymentManager API Service
- JIS2004 には、対応していません。
- 「操作」メニューの「画面更新」は、「F5」キーを押して画面更新する動作と同じです。
ただし、画面操作の途中で「F5」キーを押した場合は、「運用」「監視」「管理」ビューに切り替えた直後の画面に移動します。「操作」メニューの「画面更新」をクリックした場合は、そのままの画面で画面更新します。

ヒント

ガードパラメータ設定により、画面操作を行う際、パスワードを要求したり警告を表示できます。設定画面については、「2.7.2 ガードパラメータ設定」を参照してください。

1.1.1. DeploymentManager ログイン

DPMのWebコンソールを起動すると、「DeploymentManagerログイン」画面が表示されます。以下の手順で、DPMのWebコンソールを起動してください。

ヒント

LDAP サーバのユーザアカウントを使用して Web コンソールにログインする場合は、「付録 H LDAP サーバを使用した Web コンソールのログイン方法」を参照して事前に設定を行ってください。

- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Internet Explorer」を選択します。
- (2) ブラウザのアドレス欄に、以下のいずれかのURLを入力し、Webコンソールを立ち上げます。(すべて同じページが表示されます)

http://ホスト/DPM/

http://ホスト/DPM/Login.aspx

http://ホスト/DPM/Default.aspx

ホストには、Web コンソールから接続する管理サーバの DNS 名、または IP アドレスを入力します。
大文字小文字の区別はありません。

注意

- DPM サーバのホスト名に Windows で推奨されていない文字列(半角英数字と、「-」(ハイフン)以外)が含まれる場合 Web ブラウザのアドレス欄には、IP アドレスを指定してください。
DNS 名を指定すると Web コンソールの起動に失敗する可能性があります。
- Web サービス(IIS)で使用するポートを既定値(80)から変更した場合は、変更したポート番号を含めた URL(以下)を指定してください。
http://ホスト:ポート番号/DPM/

ヒント

DPM サーバと同じサーバからアクセスする場合は、ホストは localhost が指定できます。
http://localhost/DPM/

- (3) DPMのWebコンソールが起動し、「DeploymentManagerログイン」画面が表示されます。

DeploymentManager ログイン

認証情報

ユーザ名

DeploymentManager パスワード

☐ 次回からユーザ名の入力を省略

ログイン

DeploymentManagerログイン	
ユーザ名 (入力必須)	ユーザ名を入力します。
パスワード (入力必須)	パスワードを入力します。
次回からユーザ名の入力を省略	チェックボックスにチェックを入れると、次回からのログインの際、ユーザ名の入力が省略できます。 Internet Explorerの「インターネットオプション」からCookieを削除するとチェックが外れ、ユーザ名を再度入力する必要があります。
ログイン	ユーザ名/パスワードを入力後、「ログイン」ボタンをクリックすると、DPMにログインします。

1.1.2. アカウント

ログインしているユーザのパスワード変更やお知らせダイアログ表示などを設定します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「アカウント」をクリックします。
- (2) メインウィンドウに「アカウント設定」画面が表示されます。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

管理

アカウント設定

☐ パスワード変更

古いパスワード

新しいパスワード

新しいパスワード(確認用)

☐ お知らせダイアログ表示

1ページに表示する件数 20, 50, 100

⚠ 1~999の範囲の数字を指定してください。複数指定する場合は","(カンマ)で区切ってください。

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.02-18955

アカウント設定	
パスワード変更	「パスワード変更」チェックボックスにチェックを入れると、パスワードの変更ができます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
古いパスワード (入力必須)	現在使用しているパスワードを入力します。
新しいパスワード (入力必須)	新しく設定するパスワードを入力します。入力できる文字数は、1～128Byte(半角1～128文字)です。使用できる文字は、半角英数字/以下の記号です。 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }~
新しいパスワード(確認用) (入力必須)	「新しいパスワード」で入力した内容を再度入力します。
お知らせダイアログ表示	「お知らせダイアログ表示」チェックボックスにチェックを入れると、お知らせダイアログ表示の設定ができます。 チェックを入れた場合は、次回のWebコンソール起動時にお知らせダイアログが表示されます。また、任意の画面で「F5」キーを押すことでも表示されます。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。
1ページに表示する件数 (入力必須)	「管理対象マシン一覧」のような一覧を複数ページで表示する画面に対して、1ページに表示する件数を設定します。 1ページに表示する上限は、999件です。 件数の設定は、複数の数字を入力して設定できます。 複数設定する場合は、半角数字とカンマで区切って入力してください。 既定値は、「20,50,100」です。 複数の数字を設定した場合は、グループボックスの「表示件数」に設定した数字が選択肢として表示されます。 なお、テキストボックスに、先頭に入力した数字が既定値となります。 例)「50,20,100」と入力した場合は、「50」が既定値となります。
OK	「アカウント設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「アカウント設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2. 管理

本章では、DPMの「管理」ビューで管理しているユーザ/ライセンス/DPMサーバの設定について説明します。

2.1. 「管理」ビュー

「管理」ビューでは、DPMのユーザと権限の管理、ユーザー一覧、ライセンス管理、およびDPMサーバの設定などDPMを使用するにあたって必要な情報を設定します。

タイトルバーの「管理」をクリックすると、「管理」ビューに切り替わります。メインウィンドウには「管理機能一覧」グループボックスが表示されます。



2.2. 「ユーザ」アイコン

「ユーザ」アイコンでは、DPMを使用するユーザのアカウントを管理します。

「ユーザ」アイコンは、「管理」ビューのツリービュー上の「ユーザ」アイコン、または「管理」ビューのメインウィンドウに表示される「管理機能一覧」グループボックスの「ユーザ」からアクセスできます。

「ユーザ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ユーザー一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「2.3 ユーザー一覧」を参照してください。

各ユーザアカウントには権限を設定する必要があります。設定された権限によってDPMの利用範囲が制限されます。

権限は以下の3種類があります。

Administrator	「管理」、「運用」、「監視」ビューでDPMの設定、変更、マシンの操作やグループの管理など、すべての操作を行うことができます。 Administratorはすべてのユーザのパスワードを変更できます。
Operator	「運用」、「監視」ビューでマシンやマシングループ/シナリオグループの管理などの操作を行うことができます。 「管理」ビューでDPMサーバの管理やユーザと権限の管理、ライセンスの管理を行うことはできません。
Observer	「運用」、「監視」ビューでマシンの稼働状況など、参照のみできます。 「管理」、「運用」、「監視」ビューでの操作はできません。

ユーザアカウント	管理ビュー	運用ビュー	監視ビュー
Administrator	◎	◎	◎
Operator	△	◎	◎
Observer	△	○	○

◎: 操作、および参照ができます。

○: 参照のみできます。

△: 以下の画面のみ参照できます。

- ・管理サーバの基本情報(詳細は、「2.7 管理サーバの基本情報」を参照してください)
- ・管理サーバの詳細設定(詳細は、「2.7.1 詳細設定」を参照してください)

ヒント

- 権限やパスワードの変更については、「2.3.2 ユーザ編集」を参照してください。
- SSC からの処理を行う場合、および DPM コマンドラインを使用するためにインストール時に既に設定されているユーザ(deployment_user)があります。本ユーザについては、以下の制限があります。
 - ・本ユーザによる Web コンソールからのログインはできません。
 - ・本ユーザの削除はできません。
 本ユーザの初期パスワードは「dpmmgr」です。DPM コマンドラインを実行する場合には、deployment_user のパスワードを指定してください。

2.3. ユーザー一覧

「ユーザー一覧」グループボックスでは DPM に登録されているユーザの一覧を表示します。「ユーザー一覧」グループボックスは、「ユーザ」アイコンをクリックするとメインウィンドウに表示されます。



ユーザー一覧	
表示件数	ユーザー一覧の表示件数を選択できます。
「アクション」リンク	「ユーザ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているユーザを削除します。 複数チェックを入れると、複数のユーザをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているユーザすべてにチェックが入ります。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。編集はできません。 ログイン状態をアイコンで確認できます。  :ログイン中  (グレー):ログオフ
権限	ユーザの持つ権限を表示します。 権限については、「2.2 「ユーザ」アイコン」を参照してください。
説明	ユーザの説明を表示します。
編集	ユーザ情報の編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ユーザ編集」画面が表示されます。編集画面については、「2.3.2 ユーザ編集」を参照してください。

2.3.1. ユーザ追加

DPMを使用するユーザを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「ユーザ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ユーザ」をクリックします。
- (3) 「ユーザ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「ユーザ追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「ユーザ追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。

ユーザ追加

ユーザ名 (入力必須)	新規に追加するユーザ名を入力します。 入力できる文字数は、1～32Byte(半角1～32文字/全角1～16文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ¥ / < > * : ; , + = ? " アルファベットの大文字と小文字は、区別します。
権限 (選択必須)	ユーザの権限を選択します。ユーザの権限は、以下の3種類があります。 ・Administrator ・Operator ・Observer
パスワード (入力必須)	ユーザのパスワードを入力します。 入力できる文字数は、1～128Byte(半角1～128文字)です。入力できる文字は、半角英数字/以下の記号です。 ! " # \$ % & ' () * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ ` { } ~ アルファベットの大文字と小文字は区別されます。
パスワード(確認用) (入力必須)	確認のため再度同じパスワードを入力します。
説明	ユーザの説明が入力できます。 入力できる文字数は、128Byte(半角128文字/全角64文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。 入力必須ではありません。
OK	ユーザ追加処理され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	ユーザ追加処理せずに、元のウィンドウに戻ります。

ヒント

ユーザ追加の最大数に制限はありません。

2.3.2. ユーザ編集

DPMに登録されているユーザを編集します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「ユーザ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ユーザ」をクリックします。
- (3) 「ユーザー一覧」グループボックスが表示されますので、編集するユーザの「編集アイコン(📖)」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「ユーザ編集」画面が表示されますので、各項目を編集します。

The screenshot shows the Deployment Manager web console interface. The title bar at the top indicates the user is 'admin (Administrator)' and provides links for 'アカウント' (Account) and 'ログアウト' (Logout). The main navigation bar includes '運用' (Operation), '監視' (Monitoring), and '管理' (Management). The left sidebar shows a tree view with '管理' (Management) selected, containing sub-items like 'ユーザ' (User), 'ライセンス' (License), and 'DPMサーバ' (DPM Server). The main content area displays the 'ユーザ編集' (User Edit) form for the 'admin' user. The form includes fields for 'ユーザ名' (Username) set to 'admin', '権限' (Permissions) set to 'Administrator', a checkbox for 'パスワード変更' (Change Password), and fields for 'パスワード' (Password) and 'パスワード(確認用)' (Password (Confirmation)). A warning message states: '⚠ 設定内容は再ログイン後に反映されます。' (⚠ Settings will be reflected after re-login). A '説明' (Description) text area is also present. At the bottom right of the form are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. The footer of the console shows the copyright information: 'Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.02-18955'.

ユーザ編集	
ユーザ名	ユーザ名を表示します。編集はできません。
権限	ユーザの権限を表示します。リストボックスから権限を変更できます。再ログイン後、権限の設定が有効になります。
パスワード変更	「パスワード変更」チェックボックスにチェックを入れると、パスワードの変更ができます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。変更したパスワードは、即時反映します。
パスワード	新しく設定するパスワードを入力します。 入力できる文字数は、1～128Byte(半角1～128文字)です。入力できる文字は、半角英数字/以下の記号です。 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }~ アルファベットの太文字と小文字は区別されます。
パスワード(確認用) (入力必須)	「パスワード」で入力した内容を再度入力します。
説明	ユーザの説明を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、128Byte(半角128文字/全角64文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。
OK	「ユーザ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「ユーザ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.3.3. ユーザ削除

DPMで使用しているユーザを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「ユーザ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ユーザ」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「ユーザー一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するユーザ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「ユーザ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

ログイン中のユーザ、または自分自身を削除した場合、削除されたユーザは、ログオフするか、Webコンソールがタイムアウトするまで有効です。

2.4. 「ライセンス」アイコン

「ライセンス」アイコンでは、DPMに登録するライセンスを管理します。

「ライセンス」アイコンは、「管理」ビューのツリービュー上の「ライセンス」アイコン、または「管理」ビューのメインウィンドウに表示される「管理機能一覧」グループボックスの「ライセンス」からアクセスできます。「ライセンス」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ライセンス情報」グループボックスと「登録ライセンス一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「2.5 登録ライセンスの詳細情報」を参照してください。

2.5. 登録ライセンスの詳細情報

「ライセンス」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ライセンス情報」グループボックスと「登録ライセンス一覧」グループボックスが表示されます。

「ライセンス情報」グループボックスには、ライセンスの使用状況を表示します。「登録ライセンス一覧」グループボックスでは、DPMに登録されているライセンスの一覧を表示します。



ライセンス情報	
ライセンス合計	登録したライセンスの合計を表示します。
使用済	使用済のライセンス数(登録されている管理対象マシン数)を表示します。
残り	残りのライセンス数を表示します。
登録ライセンス一覧	
表示件数	登録したライセンス一覧の表示件数を選択できます。
「アクション」リンク	「ライセンスキー削除」をクリックすると、選択したライセンスを削除します。
(ラジオボタン)	削除するライセンスを選択します。
ライセンス名称	ライセンスキーの名称を表示します。
ライセンスキー	ライセンスキーを表示します。
登録日	ライセンスキーを登録した日付を表示します。

ヒント

SSC向け製品を使用している場合には、DPMのライセンス登録の必要はないため「管理」ビューで「ライセンス」アイコンは表示されません。
SSC向け製品のライセンス登録については、「SigmaSystemCenterインストールガイド」を参照してください。

2.5.1. ライセンスキー追加

DPMのライセンスキーを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

- (2) ツリービュー上で、「ライセンス」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ライセンス」をクリックします。
- (3) 「ライセンス」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「ライセンスキー追加」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「ライセンスキー追加」画面が表示されますので、ライセンスキーを入力して「OK」ボタンをクリックします。



ライセンスキー追加		
	ライセンスキー (入力必須)	ライセンスキーを入力します。大文字/小文字を正しく入力してください。 ・ライセンスは、DPMが導入/運用/管理するすべてのマシンの台数分必要です。 ・ライセンスに関する詳細については、「ファーストステップガイド 2.3 DeploymentManagerの製品体系とライセンス」を参照してください。 ・ライセンスキーの登録を行わない場合は、登録できるマシンは10台まで、試用期間は30日までになります。30日が経過するとDPMが使用できなくなります。
OK		ライセンスが追加され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		ライセンスを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.5.2. ライセンスキー削除

DPMのライセンスキーを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「ライセンス」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「ライセンス」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「登録ライセンス一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するライセンス**」を選択します。
- (4) 「アクション」リンクの「ライセンスキー削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

2.6. 「DPM サーバ」アイコン

「DPM サーバ」アイコンでは DPM サーバの動作やイメージ格納用フォルダなど、DPM の環境設定を行います。「DPM サーバ」アイコンは、「管理」ビューのツリービュー上の「DPM サーバ」ノード、または「管理」ビューのメインウィンドウに表示される「管理機能一覧」グループボックスの「DPM サーバ」からアクセスできます。

「DPM サーバ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」グループボックスが表示されます。画面については、「2.7 管理サーバの基本情報」を参照してください。

2.7. 管理サーバの基本情報

「基本情報」グループボックスではDPMサーバの基本情報を表示します。「基本情報」グループボックスは、「DPMサーバ」ノードをクリックするとメインウィンドウに表示されます。



基本情報	
製品名	「DeploymentManager」と表示します。
製品バージョン	DPMのバージョンを表示します。
IP構成	
IPアドレス	管理サーバのIPアドレスを表示します。IPアドレスが複数ある場合は、すべて表示します。
Webサイト情報	
説明	Webサイト情報の説明を表示します。
通信プロトコル	Webサイトと接続の通信プロトコルを表示します。
IPアドレス:TCPポート	WebサイトのIPアドレスとポート番号を表示します。

2.7.1. 詳細設定

管理サーバの設定を確認/変更します。

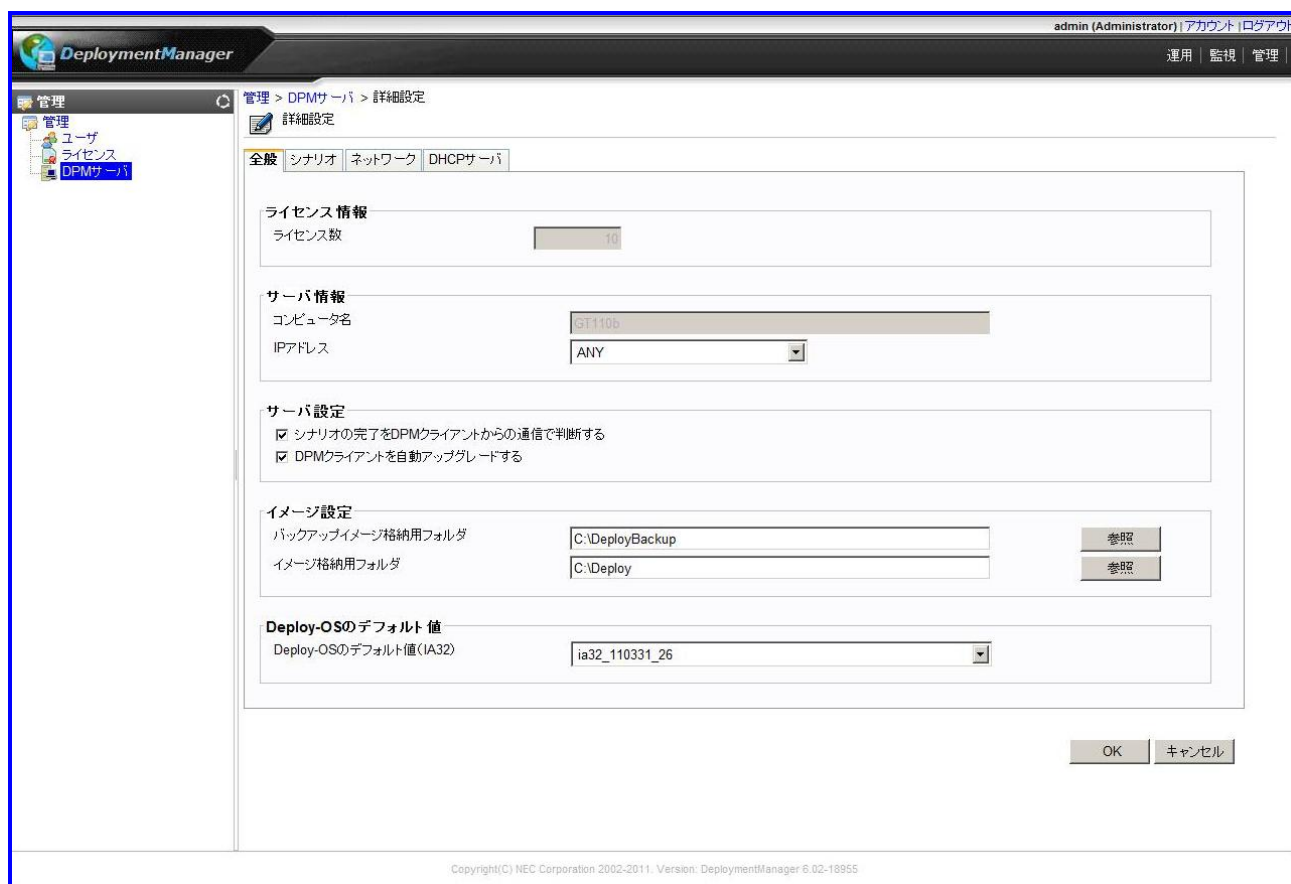
- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「詳細設定」をクリックします。

- (4) メインウィンドウに「詳細設定」画面が表示されますので、「全般」、「シナリオ」、「ネットワーク」、「DHCPサーバ」の各タブより、各項目を設定します。
各タブの説明については、「2.7.1.1 「全般」タブ」から「2.7.1.4 「DHCPサーバ」タブ」を参照してください。



2.7.1.1. 「全般」タブ

「全般」タブでは、ライセンス情報/サーバ情報/サーバ設定/バックアップイメージ格納用フォルダやイメージ格納用フォルダを表示/設定します。



全般		
ライセンス情報		
	ライセンス数	DPMサーバに登録されているライセンス数を表示します。編集はできません。SSC向け製品の場合、「ライセンス」は表示しません。 (DPMのライセンスはSSC製品に含まれるため)
サーバ情報		
	コンピュータ名	管理サーバのマシン名を表示します。編集はできません。
	IPアドレス	管理対象マシンとの接続に使用するIPアドレスを設定します。 接続に使用するIPアドレスを固定にする場合は、リストボックスからIPアドレスを指定してください。(管理サーバに搭載の全LANボードに設定されているIPアドレスがリストボックスに表示されます。) 接続に使用するIPアドレスを任意とする場合は、「ANY」を指定してください。 デフォルトは、「ANY」です。(※1)
サーバ設定		
	シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する	「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオの終了をリアルタイムに監視します。DPMサーバとDPMクライアントが通信することにより、シナリオ完了したことが確認できます。 DPMクライアントをインストールしない運用を行う場合は、チェックを入れないでください。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。 なお、SSC向け製品の場合は、必ずチェックを入れた状態で運用してください。
	DPMクライアントを自動アップグレードする	「DPMクライアントを自動アップグレードする」チェックボックスにチェックを入れると、DPMクライアントは起動時にDPMサーバと通信を行い、DPMクライアントのバージョンがDPMサーバと異なる場合は、DPMサーバと同じバージョンに自動的にアップグレードを実行します。 DPMクライアントをインストールしない運用を行う場合は、チェックを入れないでください。 デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。(SSC向け製品の場合、デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。) なお、SSC向け製品の場合は、必ずチェックを外した状態で運用してください。
イメージ設定		
	バックアップイメージ格納用フォルダ	バックアップイメージ格納用フォルダを設定します。 保存先フォルダは、「参照」ボタンから選択、または直接入力してパスを指定できます。 入力できる文字数は、1～80Byte(半角1～80文字/全角1～40文字)です。使用できる文字は、半角英数字/半角スペース/記号/全角文字です。 以下の記号は、使用できません。 /*?<>" : デフォルトは、「C:\DeployBackup」です。 バックアップイメージ格納用フォルダは、十分な空き容量を確保したフォルダを設定してください。 設定必須ではありません。(※2)(※3)

	イメージ格納用フォルダ (設定必須)	DPMでリモートインストールを行うOS、アプリケーション、サービスパックなどを格納するフォルダを設定します。 保存先フォルダは、「参照」ボタンから選択、または直接入力してパスを指定できます。 入力できる文字数は、1～254Byte(半角1～254文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 /*?<>" , デフォルトは、「C:\Deploy」です。 イメージ格納用フォルダは、十分な空き容量を確保したフォルダを設定してください。(※2)(※4)
	Deploy-OSのデフォルト値	
	Deploy-OSのデフォルト 値(IA32)	Deploy-OSのデフォルト値を設定します。 リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 デフォルトは、「ia32_110331_26」です。 なお、本項目の変更は、既に「デフォルト値を使用」を指定している管理対象マシンにも適用されます。 管理対象マシンの設定項目の詳細については、「3.5.5 管理対象マシンの登録」を参照してください。
OK	「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。	
キャンセル	「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。	

※1

- IP アドレスの設定を変更した場合は、イメージビルダ(リモートコンソール)の接続先 IP アドレスの指定を変更してください。接続設定は「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択すると起動します。
- 「IP アドレス」に ANY 以外を選択する場合は、以下に注意してください。
一つの LAN ボードに複数 IP アドレスが割り当てられている場合は、OS 上で先頭に見える IP アドレスを設定してください。それ以外の IP アドレスを設定すると DPM サーバが正常に動作しない場合があります。
- OS 上でネットワーク情報の変更(IP アドレスの変更や増減など)を行った場合は、以下のサービスを再起動してください。
 - ・DeploymentManager PXE Management
 - ・DeploymentManager PXE Mtftp
 DPM クライアントは次回通信時、管理サーバの IP アドレス変更を検知し、以降は変更後の IP アドレスへ接続するよう自動で再設定します。ただし、IP アドレス変更後の管理サーバと DPM クライアントがネットワーク接続できる必要があります。
- 「IP アドレス」に ANY を指定し、かつ、リモートアップデートのシナリオでマルチキャストによる配信を行う場合は、配信対象となる管理対象マシンは、管理サーバの一つの LAN ボード配下に接続されるようにしてください。
- リストアシナリオでマルチキャストによる配信を行う場合は、「IP アドレス」に ANY 以外(使用する LAN ボードに設定している IP アドレス)を設定してください。

※2

- バックアップイメージ格納用フォルダを変更した場合は、既に作成したバックアップ/リストアシナリオと、デフォルトで作成されている以下のシナリオのイメージファイルの参照先を変更してください。
 - ・System_Backup
 - ・System_Restore_Unicast
- バックアップイメージ格納用フォルダ、およびイメージ格納用フォルダの参照先として、以下のフォルダを指定できません。
 - ・バックアップイメージ格納用フォルダとイメージ格納用フォルダが同一のフォルダ
 - ・イメージ格納用フォルダのサブフォルダ
 - ・Windowsのシステムフォルダ
 - ・他のアプリケーションで使用しているフォルダ
 - ・ドライブ直下
例)「D:\」
 - ・ネットワークドライブ(シナリオ単体でネットワーク上のイメージファイルを直接指定することはできません。)

なお、バックアップイメージ格納用フォルダ、およびイメージ格納用フォルダを変更する場合は、ユーザズガイドに記載している手順以外(エクスプローラから直接、編集・削除など)で行わないでください。

※3

バックアップイメージ格納用フォルダの設定を変更した場合には、バックアップイメージファイルは、自動的に変更先に移動しません。手動でファイルの移動を行う必要があります。

※4

■ イメージ格納用フォルダには、DPMの操作を行うユーザ、および管理サーバ上の"DeploymentManager"という名称で始まる各種サービスが使用するアカウント(既定値ではローカルシステムアカウント(SYSTEM))がフルコントロールでアクセスできるようにアクセス許可を与えてください。

■ イメージ格納用フォルダ配下の「exports」フォルダをNFS共有フォルダに設定している場合は、「イメージ格納用フォルダ」の変更を行う際、以下の手順で行ってください。

- 1) 「exports」フォルダのNFS共有フォルダの設定を外します。
- 2) 詳細設定画面から「イメージ格納用フォルダ」を変更します。
- 3) 新たに移動した先でイメージ格納用フォルダ配下の「exports」フォルダをNFS共有フォルダに設定します。

■ 既存のフォルダを新しいイメージ格納用フォルダに設定する場合は、空のフォルダを指定してください。

■ イメージ格納用フォルダにOSイメージなどのサイズの大きいイメージが登録されていると、イメージ格納用フォルダ変更時に時間がかかり、Webコンソールでタイムアウトが発生する場合があります。イメージ格納用フォルダの変更を行う前にイメージ格納用フォルダのサイズを確認の上、以下のDPMサーバ、およびIISのタイムアウト値を必要に応じて変更してください。

なお、タイムアウトが発生した場合は、フォルダ変更処理が終わるまでお待ちください。フォルダ変更処理完了後にWebコンソールで再度、ログインする必要があります。

(1) DPMサーバのタイムアウト値

以下のファイルでタイムアウト値を変更してください。

<DPMサーバのインストールフォルダ>\¥WebServer¥App_Data¥Config¥MgrServerList.xml

項目: Timeout

デフォルトでは、1200秒に設定されています。タイムアウト値を変更した場合には、IISを再起動する必要があります。

(2) IISのタイムアウト値

以下の手順でタイムアウト値を変更してください。

(IIS 7.0(Windows Server 2008)の手順を例として説明します。)

以下の手順内の6)、9)、11)でタイムアウト値を4箇所設定します。設定値のうち最小値がタイムアウト値として有効になります。このため、4箇所すべて同じ値にすることを推奨します。

デフォルトの設定では20分でタイムアウトします。

なお、設定は即時有効になります。

- 1) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャー」を選択します。
- 2) 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」画面が表示されますので、画面左側の「アプリケーション プール」をクリックします。
- 3) 画面中央の「アプリケーション プール」で「DeploymentManagerPool」を選択して、画面右側の「アプリケーション プール タスク」で「停止」をクリックします。
- 4) 画面左側の「Default Web Site」をクリックして、画面右側の「Web サイトの管理」で「停止」をクリックします。
- 5) 画面左側の「Default Web Site」直下の「DPM」をクリックして、画面中央の「ASP.NET」で「セッション状態」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。
- 6) 画面中央の「セッション状態」画面で「Cookie の設定」-「タイムアウト(分)(O):」(デフォルト20分)でタイムアウト値を指定して、画面右側の「操作」で「適用」をクリックします。
- 7) 画面左側の「Default Web Site」直下の「DPM」をクリックして、画面中央の「IIS」で「認証」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。
- 8) 画面中央の「認証」画面で「フォーム認証」を選択して、画面右側の「操作」で「編集...」をクリックします。
- 9) 「フォーム認証設定の編集」画面が表示されますので、「認証 Cookie のタイムアウト (分)(A)」(デフォルト30分)でタイムアウト値を指定して、「OK」ボタンをクリックします。

- 10) 画面左側の「アプリケーション プール」をクリックして、画面中央の「アプリケーション プール」で「DeploymentManagerPool」を選択して、画面右側の「アプリケーション プールの編集」で「詳細設定...」をクリックします。
 - 11) 「詳細設定」画面が表示されますので、以下の2項目にタイムアウト値を指定して、「OK」ボタンをクリックします。
 - ・「プロセスモデル」-「アイドル状態のタイムアウト(分)」(デフォルト20分)
 - ・「リサイクル」-「定期的な間隔 (分)」(デフォルト1740分)
 - 12) 画面右側の「アプリケーション プールタスク」で「開始」をクリックします。
 - 13) 画面左側の「Default Web Site」をクリックして、画面右側の「Web サイトの管理」で「開始」をクリックします。
- イメージビルダは、イメージ格納用フォルダ変更前に一度終了し、フォルダ変更後にあらためて起動してください。

注意

IPアドレス、またはイメージ格納用フォルダを変更すると、DPMの各サービスが再起動されます。

2.7.1.2. 「シナリオ」タブ

「シナリオ」タブでは、シナリオのタイムアウト時間を設定します。

The screenshot shows the 'Deployment Manager' web interface. The 'Scenario' tab is selected under the 'Management' section. The 'Timeout Settings' section has two input fields: 'Hardware Settings' (set to 10) and 'Linux Installation' (set to 120). Below these is a 'Description' box stating that these are default values and can be changed. At the bottom right are 'OK' and 'Cancel' buttons. The footer indicates 'Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0'.

シナリオ		
タイムアウト設定(※1)		
	ハードウェアの設定 (入力必須)	BIOS/ファームウェアアップデート用フロッピーディスクのイメージ配信処理(シナリオの「HW設定」タブ)のタイムアウト時間の既定値を設定します。 「1～9999」分までの1分単位で設定できます。 既定値は、「10」分です。
	Linuxインストール (入力必須)	LinuxのOSクリアインストール(シナリオの「OS」タブ)のタイムアウト時間を設定します。 「1～9999」分までの1分単位で設定できます。 既定値は、「120」分です。
OK		「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1

- シナリオタイムアウト時間は、シナリオを開始してからタイムアウトするまでの時間です。各項目で設定した時間を過ぎてもシナリオが終了しない場合は、シナリオ実行エラーとなります。
- 「シナリオ追加」画面で「HW設定」タブと「OS」タブの両方を設定した場合は、「ハードウェアの設定」、「Linuxインストール」実行時にそれぞれのタイムアウトで設定されている時間が有効になります。

2.7.1.3. 「ネットワーク」タブ

「ネットワーク」タブでは、リモート電源操作の設定とシナリオの同時実行可能台数を設定します。

ネットワーク	
リモート電源操作の設定	
リモート電源ON実行間隔 (入力必須)	リモート電源ONが一括で実行される場合の各マシンに対するリモート電源ONの実行間隔を設定します。 「1～99」秒までの1秒単位で設定できます。 既定値は、「2」秒です。
リモート電源ONタイムアウト (入力必須)	リモート電源ON、またはシナリオ実行時にマシンからの応答を待つ時間です。「0～99」分までの1分単位で設定できます。 既定値は、「10」分です。 0を指定すると管理対象マシンからの応答を待ち続けます(リモート電源ONタイムアウトしなくなります)。(※1)
シナリオ実行の設定	
同時実行可能台数 (入力必須)	シナリオを同時に実行する台数の上限値を設定します。「1～1000」台まで設定できます。既定値は、「5」台です。(※2)
OK	「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1

複数台の管理対象マシンに対してリモート電源ONやシナリオ実行を行う場合は、既定値のリモート電源ONタイムアウト値ではタイムアウトエラーが発生する可能性があります。

目安としてリモート電源ONタイムアウトを「リモート電源ON実行間隔×シナリオ実行台数と管理対象マシンの起動時間」を加えた程度の値に設定ください。

なお、時間内に反応が無い場合はリモート電源ONエラーになります。電源ONはするがリモート電源ONエラーが発生するという場合は、この数値を大きくしてください。

※2

■同時実行可能台数に設定した値より多い台数に対して同時に実行した場合は、それぞれ以下の動作となります。

シナリオの種類	同時実行可能台数を超過した分
バックアップ/リストア(ユニキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは待機状態になります。その後、実行中のシナリオが完了すると待機状態の管理対象マシンが順次シナリオ実行状態になります。 なお、シナリオ実行待ちとなっている管理対象マシンの電源を手動で投入した場合は、同時実行可能台数を超過してシナリオが実行されます。
リモートアップデート(ユニキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは待機状態になります。その後、実行中のシナリオが完了すると待機状態の管理対象マシンが順次シナリオ実行状態になります。
リストア(マルチキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは待機状態になります。その後、実行中のシナリオがすべて完了すると、待機状態の管理対象マシンのうち、次の同時実行可能台数分がシナリオ実行状態になります。以降、シナリオ実行した管理対象マシンの台数に達するまで同じ動作を繰り返します。
リモートアップデート(マルチキャスト配信)	同時実行可能台数に設定した値の台数がシナリオ実行され、それ以外の管理対象マシンは、シナリオ実行エラーとなります。エラー解除をした後に再度シナリオ実行を行ってください。(エラー解除については、「3.8.8 エラー解除」を参照してください。)

■同時実行台数の最大値は1000台となっていますが、同時実行するシナリオ数が増えるとネットワークの負荷が高くなります。

■シナリオと、自動更新が同時に実行できる台数は、1000台までです。そのため、ここで設定した台数と、「管理」ビュー-「DPMサーバ」アイコン-「設定」メニューの「自動更新設定」-「自動更新を行う管理対象マシンの上限(1-1000台)」でどちらも1000台に設定している場合、シナリオ同時実行台数は1000台未満になる場合があります。

2.7.1.4. 「DHCP サーバ」タブ

「DHCPサーバ」タブでは、DHCPサーバを使用するかどうかを設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

管理 > DPMサーバ > 詳細設定

管理 > DPMサーバ > 詳細設定

全般 シナリオ ネットワーク **DHCPサーバ**

「DHCPサーバを使用する」「DHCPサーバを使用しない」の設定を変更した場合は、DPMサーバを再起動してください。

☒ **DHCPサーバを使用する**

☐ DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している

☐ DHCPサーバが別のマシン上で動作している

説明
DHCPサーバの指定や変更を行う前に、DHCPサーバの設定が正しいことを確認してください。
DHCPサーバの設定変更を行った場合、本設定も変更する必要があります。

☐ **DHCPサーバを使用しない**
DHCPサーバを使用しない場合、次の機能は使用できません。

- BIOS/ファームウェア/EFIアプリケーションのアップデート
- OSクリーンインストール
- マルチキャストリストア
- ディスク複製OSインストール
- シナリオ実行後オプション(シャットダウン/再起動)

アップデートシナリオはシナリオ実行後オプションをサポートします。

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

DHCPサーバ	
DHCPサーバを使用する	DHCPサーバを使用する場合に選択します。
DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している	DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している場合に選択します。
DHCPサーバが別のマシン上で動作している	DHCPサーバがDPMサーバと別のマシン上で動作している場合に選択します。
DHCPサーバを使用しない	DHCPサーバを使用しない場合に選択します。
OK	「詳細設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「詳細設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

ヒント

DHCPサーバを設置しない運用については、「ファーストステップガイド 付録 B DHCPサーバの導入が困難なお客様へ」を参照してください。

2.7.2. ガードパラメータ設定

ガードパラメータを設定します。ガードパラメータを設定することで、それぞれの処理実行時にログインユーザのパスワードを入力するか、警告メッセージを表示して、操作ミスを防ぐことができます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「ガードパラメータ設定」をクリックします。
- (4) パスワード入力を要求する画面が表示されますので、パスワードを入力します。

ヒント

パスワードは、ログインユーザのパスワードを入力してください。

- (5) 「ガードパラメータ設定」画面が表示されますので、「パスワード」、「警告」、「なし」のいずれかを選択し、「OK」ボタンをクリックします。設定後は、すぐ有効になります。DPMサーバのサービスは再起動する必要はありません。

「ガードパラメータ設定」画面で選択する「パスワード」、「警告」、「なし」の動作については、以下の表のとおりです。

設定	説明
パスワード	処理実行時に、パスワードを入力する画面を表示し、正しいパスワードを入力しないと処理を実行できません。
警告	処理実行時に、確認メッセージを表示して警告します。
なし	処理実行時に、何も表示しません。



ヒント

カードパラメータ設定のデフォルトは、上の図のとおりです。

ガードパラメータ設定	
マシン追加	マシンの追加のガードパラメータを設定します。
マシン削除	マシンの削除のガードパラメータを設定します。
グループ追加	グループ追加のガードパラメータを設定します。
グループ削除	グループ削除のガードパラメータを設定します。
シナリオ追加	シナリオ追加のガードパラメータを設定します。
シナリオ編集	シナリオ編集のガードパラメータを設定します。
シナリオ削除	シナリオ削除のガードパラメータを設定します。
シナリオ割り当て	シナリオ割り当てのガードパラメータを設定します。
シナリオ割り当て解除	シナリオ割り当て解除のガードパラメータを設定します。
シナリオ実行	シナリオ実行のガードパラメータを設定します。
シナリオ実行中断	シナリオ実行中断のガードパラメータを設定します。
電源ON/シャットダウン	電源ON/シャットダウンのガードパラメータを設定します。
パッケージのダウンロード設定	パッケージのダウンロード設定のガードパラメータを設定します。
自動更新設定	自動更新設定のガードパラメータを設定します。
自動更新時間一括設定	自動更新時間一括設定のガードパラメータを設定します。
OK	「ガードパラメータ設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「ガードパラメータ設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.7.3. パッケージのダウンロード設定

パッケージWebサーバの追加/編集/削除、およびパッケージの自動ダウンロードを設定します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「パッケージのダウンロード設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト | 運用 | 監視 | 管理 |

DeploymentManager

管理 > DPMサーバ > パッケージのダウンロード設定

パッケージのダウンロード設定

プロキシ
アドレス ポート

☒ 自動ダウンロードを行う
毎日 8:00

パッケージWebサーバ
表示件数 | 追加 | 削除 |

☐	サーバのアドレス	サーバID	ダウンロード	プロキシ	最終ダウンロード情報	編集
☐	192.168.0.1	1158793	はい	はい		

| 追加 | 削除 |

⚠ ダウンロード中は設定の変更はできません。

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

パッケージのダウンロード設定	
プロキシ	
アドレス	プロキシを利用してパッケージWebサーバにアクセスする場合は、プロキシのIPアドレス、またはホスト名を設定します。 入力できる文字数は、127Byte(半角127文字/全角63文字)以内です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ¥ * ? デフォルトは、空白です。
ポート (入力必須)	プロキシを利用してパッケージWebサーバにアクセスする場合は、プロキシサーバのポート番号を設定します。 「1～65535」の範囲で設定できます。 既定値は、「80」です。
自動ダウンロードを行う	「自動ダウンロードを行う」チェックボックスにチェックを入れると、自動ダウンロードするタイミングを設定することができます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。(※1)
左のリストボックス	自動ダウンロードを実行する周期/曜日を設定します。以下から選択できます。 ・毎時 ・毎日 ・日曜日～土曜日
右のリストボックス	自動ダウンロードを実行する時刻を設定します。以下から選択できます。 ・毎時を選択した場合 「0～50」分までの10分単位 ・毎日を選択した場合 「0:00～23:00」までの1時間単位 ・日曜日～土曜日のいずれかを選択した場合 「0:00～23:00」までの1時間単位
パッケージWebサーバ	
表示件数	パッケージWebサーバの表示件数を選択できます。

	「アクション」リンク	・「追加」をクリックすると、「パッケージWebサーバ追加」画面が表示され、パッケージWebサーバを追加することができます。追加方法については「2.7.3.1 パッケージWebサーバ追加」を参照してください。 ・「削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているパッケージWebサーバを削除します。 複数チェックを入れると、複数のパッケージWebサーバをまとめて削除できます。
	(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているパッケージWebサーバすべてにチェックが入ります。
	サーバのアドレス	パッケージWebサーバのアドレスを表示します。 パッケージWebサーバが複数登録されている場合は、昇順で表示されます。 表示されているアドレスをクリックすると、メインウィンドウに選択したパッケージWebサーバの基本情報が表示されます。
	サーバID	パッケージWebサーバの識別子を表示します。 パッケージが管理サーバにダウンロードされると、各パッケージのID番号の前にサーバIDを付けます。
	ダウンロード	パッケージWebサーバが自動ダウンロード対象であるかどうかを表示します。
	プロキシ	パッケージWebサーバからパッケージをダウンロードする際に、プロキシを経由するかどうかを表示します。
	最終ダウンロード情報	ダウンロードの成功、失敗、または最終ダウンロードの時刻を表示します。
	編集	パッケージWebサーバの編集を行います。「」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「パッケージWebサーバ編集」画面が表示されます。編集画面については、「2.7.3.2 パッケージWebサーバ編集」を参照してください。
OK		「パッケージのダウンロードの設定」画面の設定内容を保存して元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「パッケージのダウンロードの設定」画面の設定内容を保存せずに元のウィンドウに戻ります。

※1

DPMサーバは、次回ダウンロードを行うまで最新のシステム時刻を取得しないため、自動ダウンロード設定後にWindowsのシステム時刻を変更した場合は、ダウンロードが予定どおり行われなかったことがあります。

注意

- イメージビルダのパッケージ削除機能を利用することにより、管理サーバに自動ダウンロードしたパッケージを一時的に削除できます。
ただし、パッケージ Web サーバから該当パッケージを削除しない場合は、設定した自動ダウンロード時刻になると再度ダウンロードされます。
- PackageDescriber を使用してパッケージ Web サーバからパッケージを削除した場合、次の自動ダウンロード実行時に管理サーバのパッケージが削除されます。

ヒント

自動ダウンロード中は、「パッケージのダウンロード設定」の変更はできません。

2.7.3.1. パッケージ Web サーバ追加

パッケージWebサーバを追加します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「アクション」リンクの「追加」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。

パッケージWebサーバ追加	
サーバID (設定必須)	パッケージWebサーバのIDを設定します。 入力できる文字数は、1～7Byte(半角1～7文字)です。使用できる文字は、半角英数字/以下の記号です。 - 「local」(大小文字区別無し)はあらかじめ予約されているため使用できません。
アドレス (設定必須)	パッケージWebサーバのURLを設定します。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字/全角127文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ¥*? デフォルトは、空白です。
ポート (設定必須)	パッケージWebサーバのポート番号を設定します。「1～65535」の範囲で設定できます。既定値は、「80」です。

	プロキシを使用する	「プロキシを使用する」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバへアクセスする際にプロキシサーバを使用します。 プロキシサーバを使用する場合は、プロキシサーバにユーザ認証は設定しないでください。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
	自動ダウンロード対象にする	「自動ダウンロード対象にする」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバからパッケージを定期的にダウンロードします。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。(※1)
	ユーザ認証	「ユーザ認証」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバへのアクセス時にユーザ認証を行います。 パッケージWebサーバへのアクセスにユーザ認証が必要な場合は、チェックを入れます。「ユーザ認証」にチェックを入れると「ユーザ名」、「パスワード」の入力が有効になり、「ユーザ名」は必須入力項目となります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
	ユーザ名 (入力必須)	IISで設定されている基本認証のユーザ名を入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。
	パスワード	IISで設定されている基本認証のパスワードを入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 入力必須ではありません。
OK		「パッケージWebサーバ追加」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「パッケージWebサーバ追加」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1

管理サーバは、次回ダウンロードを行うまで最新のシステム時刻を取得しないため、自動ダウンロード設定後にWindowsのシステム時刻を変更した場合は、ダウンロードが予定どおり行われなかったことがあります。

2.7.3.2. パッケージ Web サーバ編集

パッケージWebサーバを編集します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、編集するパッケージWebサーバの「編集アイコン()」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ編集」画面が表示されますので、各項目を編集します。

また、「パッケージWebサーバ編集」画面は、以下の手順でも表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。

- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「**編集するパッケージWebサーバ**」のサーバのアドレスをクリックします。
- (5) パッケージWebサーバに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージWebサーバ編集」をクリックします。
- (6) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ編集」画面が表示されますので、各項目を編集します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

管理 > DPMサーバ > パッケージのダウンロード設定 > 1158793

パッケージWebサーバ編集

サーバID: 1158793

アドレス: 192.168.0.1

ポート: 80

☐ プロキシを使用する

☒ 自動ダウンロード対象にする

☐ ユーザ認証を変更する

☒ ユーザ認証

ユーザ名: dpmmgr

パスワード: ●●●●●

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

パッケージWebサーバ編集

サーバID	パッケージWebサーバのIDを表示します。編集はできません。
アドレス (入力必須)	パッケージWebサーバのURLを編集できます。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字/全角127文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ¥*?
ポート (入力必須)	パッケージWebサーバのポート番号を編集できます。「1～65535」の範囲で設定できます。既定値は、「80」です。
プロキシを使用する	「プロキシを使用する」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバへアクセスする際にプロキシサーバを使用します。プロキシサーバを使用する場合は、プロキシサーバにユーザ認証は設定しないでください。
自動ダウンロード対象にする	「自動ダウンロード対象にする」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージWebサーバからパッケージを定期的にダウンロードします。

	ユーザ認証を変更する	「ユーザ認証を変更する」チェックボックスにチェックを入れると、「ユーザ認証」チェックボックスが有効になります。
	ユーザ認証	パッケージWebサーバへのアクセスにユーザ認証が必要な場合は、「ユーザ認証」チェックボックスにチェックを入れます。 チェックを入れると、「ユーザ名」「パスワード」の入力が有効になります。
	ユーザ名 (入力必須)	IISで設定されている基本認証のユーザ名を編集します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。
	パスワード	IISで設定されている基本認証のパスワードを編集します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 入力必須ではありません。
OK		「パッケージWebサーバ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「パッケージWebサーバ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.7.3.3. パッケージ Web サーバ削除

パッケージWebサーバを削除します。

- Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。
- メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「**削除するパッケージWebサーバ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「削除」をクリックします。
- 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

また、「基本情報」画面からもパッケージWebサーバを削除できます。

- Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。
- メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「**削除するパッケージWebサーバ**」のサーバのアドレスをクリックします。

- (5) パッケージWebサーバに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージWebサーバの削除」をクリックします。



- (6) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

2.7.3.4. パッケージ Web サーバの基本情報

パッケージWebサーバの基本情報を確認します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「パッケージのダウンロード設定」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「パッケージWebサーバ」グループボックスが表示されますので、「サーバのアドレス」をクリックします。
- (5) メインウィンドウにパッケージWebサーバの「基本情報」グループボックスが表示されます。



基本情報	
サーバID	パッケージWebサーバのIDを表示します。
アドレス	パッケージWebサーバのアドレスを表示します。
ポート	パッケージWebサーバのポート番号を表示します。
プロキシ使用	プロキシを使用している場合は「はい」、プロキシを使用していない場合は「いいえ」を表示します。
自動ダウンロード対象	自動ダウンロード対象の場合は「はい」、自動ダウンロード対象でない場合は「いいえ」を表示します。
ユーザ認証	ユーザ認証を行っている場合は「使用」、ユーザ認証を行っていない場合は「未使用」を表示します。
ユーザ名	ユーザ名を表示します。

2.7.4. 自動更新設定

自動更新を設定します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「管理」をクリックして、「管理」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「DPM サーバ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「管理機能一覧」グループボックスが表示されますので、「DPM サーバ」をクリックします。
- (3) 「DPMサーバ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「自動更新設定」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「自動更新設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) アカウント ログアウト

運用 | 監視 | 管理

管理 > DPMサーバ > 自動更新設定

自動更新設定

自動更新を行う管理対象マシン数の上限(1-1000台)

☐ 最大転送レート(1-500MB/分)

グループ追加時の自動更新設定

自動更新機能

自動更新時間

適用契機

リトライ回数

リトライ間隔(分)

⚠ 新規に作成するグループの自動更新設定のデフォルト値です。(作成済みのグループに対して設定を変更する場合は、「運用」ビューで設定を変更するグループを選択した後に「設定」メニュー→「グループ編集」にて設定を変更してください。)

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

自動更新設定	
自動更新を行う管理対象マシン数の上限(1-1000台) (入力必須)	同時に自動更新を行うマシン数の上限を設定します。 「自動更新を行う管理対象マシン数の上限」は、グループ単位ではなく、管理サーバに登録されているすべてのマシンが対象になります。 「1～1000」台の範囲で設定できます。既定値は、「5」台です。(※1)
最大転送レート(1-500MB/分)	「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、自動更新のファイル転送時、転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～500」の範囲で設定できます。既定値は、「500」MByte/分です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
グループ追加時の自動更新設定	
自動更新機能	新規グループの自動更新機能のデフォルト値を設定します。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※2)
自動更新時間	新規グループの自動更新時間のデフォルト値を設定します
左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
適用契機	新規グループの自動更新適用契機のデフォルト値を設定します。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンに画面は表示されません。(※3)
リトライ回数	新規グループのリトライ回数のデフォルト値を設定します。設定したリトライ回数までDPMサーバとの接続をリトライします。「0～5」回の範囲で設定できます。既定値は「1」回です。
リトライ間隔(分)	新規グループのリトライ間隔(分)のデフォルト値を設定します。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。既定値は「5」分です。
OK	「自動更新設定」画面の設定内容を保存して元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「自動更新設定」画面の設定内容を保存せずに元のウィンドウに戻ります。

※1

自動更新とシナリオが同時に実行できる台数は、1000台までです。そのため、ここで設定した台数と、「管理」ビュー-「DPMサーバ」アイコン→「設定」メニューの「詳細設定」→「ネットワーク」タブ-「シナリオ実行の設定」グループボックスの「同時実行可能台数」を両方1000台に設定している場合は、自動更新の同時実行台数が1000台未満になる可能性があります。

※2

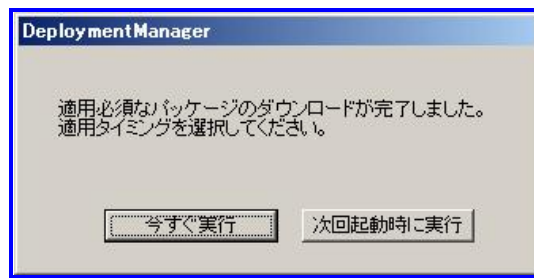
自動更新の設定例と動作

- ・自動更新機能を「起動時ON」、自動更新時間を「毎日12:00」に設定した場合は、管理対象マシンの起動時、および毎日「12:00」に自動更新が行われます。
- ・自動更新機能を「起動時OFF」、自動更新時間を「水曜日12:00」に設定した場合は、管理対象マシンは毎週水曜日の「12:00」に自動更新が行われます。管理対象マシンの起動時に自動更新は行われません。

※3

「適用契機」の各選択肢と動作については、以下の表のとおりです。

選択肢	動作
今すぐ実行	即時にパッケージの適用を行います。 管理対象マシンのステータスは「自動更新パッケージ適用中」に変わります。
次回起動時に実行	次回再起動時にパッケージの適用を行います。 管理対象マシンのステータスは「自動更新再起動待ち中」に変わります。
ユーザ確認画面を表示	管理対象マシン上に以下の画面が表示されます。 「すぐ実行」、または「次回起動時に実行」ボタンをクリックして、実行してください。



注意

新規マシングループに登録されているマシンに対しては、自動更新を行いません。自動更新を行うためには、グループへの追加が必要です。

ヒント

自動更新で配信されるパッケージは、作成時に緊急度を「最高」、または「高」に設定しているものになります。詳細については、「5.5 パッケージの登録/修正」、または「6.2. パッケージ作成」を参照してください。

3. 運用

本章では、「運用」ビューでのDPMの運用について説明します。

3.1. 「運用」ビュー

「運用」ビューでは、各種リソース(マシン、シナリオ、イメージなど)に対して、情報の設定、情報の表示、情報の管理(追加、編集、削除)などの機能を提供します。
タイトルバーの「運用」をクリックすると、「運用」ビューに切り替わります。メインウィンドウには「サマリ情報」グループボックスが表示されます。

3.2. 「リソース」アイコン

「リソース」アイコンでは、DPMを使用するリソースを管理します。



サマリ情報		
リソースの種類		
マシン	マシン	「マシン」をクリックすると、「グループ一覧」画面を表示します。
	シナリオ実行中	「シナリオ実行中」をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」画面で「正常ステータス」のマシンを表示します。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
	シナリオ実行エラー	「シナリオ実行エラー」をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」画面で「異常ステータス」のマシンを表示します。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
	シナリオ実行中断	「シナリオ実行中断」をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」画面で「異常ステータス」のマシンを表示します。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
シナリオ		「シナリオ」をクリックすると、「シナリオグループ一覧」グループボックスを表示します。画面については、「3.10 「シナリオ」アイコン」を参照してください。
イメージ		「イメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」画面を表示します。画面については、「3.16 「イメージ」アイコン」を参照してください。

	HWイメージ	「HWイメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「HWイメージ」一覧を表示します。画面については、「3.17 イメージの詳細情報」を参照してください。
	OSイメージ	「OSイメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「OSイメージ」一覧を表示します。画面については、「3.17 イメージの詳細情報」を参照してください。
	パッケージ	「パッケージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「パッケージ」の一覧を表示します。画面については、「3.17.1 パッケージイメージの詳細情報」を参照してください。
	バックアップイメージ	「バックアップイメージ」をクリックすると、「イメージ一覧」グループボックスに「バックアップイメージ」の一覧を表示します。画面については、「3.17.3 バックアップイメージの詳細情報」を参照してください。

3.3. 「マシン」アイコン

「マシン」アイコンでは、マシングループ、および管理対象マシンを管理します。

「マシン」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「マシン」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「マシン」からアクセスできます。

「マシン」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ一覧」グループボックスが表示されます。



グループ一覧	
表示件数	DPMサーバに登録されているグループの表示件数を選択できます。
「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているグループを削除します。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているグループすべてにチェックが入ります。
名前	DPMサーバに登録されているグループの名前を表示します。名前をクリックすると、当該グループの詳細情報を表示します。
サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のグループ数を表示します。
マシン数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のマシン(管理対象マシン)数を表示します。
編集	グループ情報の編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」画面が表示されます。「3.5.1 マシングループ編集」を参照してください。

3.3.1. マシングループ追加

マシングループを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「マシン」をクリックします。
- (3) 「マシン」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ追加」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「グループ追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > マシン > グループ追加

グループ追加

名前

ネットワーク設定

☒ DPMサーバと同じサブネットワーク

☐ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ

サブネットマスク

自動更新設定

自動更新機能 起動時OFF

自動更新時間 0:00

適用契機 次回起動時に実行

リトライ回数 1

リトライ間隔(分) 5

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

グループ追加	
名前 (入力必須)	グループ名を入力します。入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ; /
ネットワーク設定	グループのネットワークを設定します。 新規に追加されるマシンのデフォルトになります。 デフォルトは、「DPMサーバと同じサブネットワーク」です。
DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。

	DPMサーバと別のサブネットワーク	DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 グループがルータを介して管理サーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
	デフォルトゲートウェイ (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
	サブネットマスク (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクを設定します。
自動更新設定		新規に追加されるマシンのデフォルト値になります。 「管理」ビューの「自動更新設定」画面で設定した値がデフォルトとして表示されます。 「自動更新設定」画面については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。
自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下の操作が選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
自動更新時間		自動更新時間を設定します。
	左のリストボックス	日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
	右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
適用契機		パッケージの適用契機の動作を設定します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
リトライ回数		管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した回数で接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。 既定値は、「1」回です。
リトライ間隔(分)		管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 既定値は、「5」分です。

OK	「グループ追加」画面の設定内容でマシングループが作成され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「グループ追加」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

なお、マシングループ数、および管理対象マシン台数に関する上限は以下の表のとおりです。

項目	上限値
マシングループ総数(サブマシングループを含む全マシングループの合計数)	1000
マシングループの階層数	20
管理対象マシン総台数(サブマシングループを含めた全マシングループに所属する管理対象マシンの合計数)	40000

3.3.2. マシングループ削除

マシングループを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコンをクリック→「マシン」アイコンをクリックします。
- (3) 「グループ一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するマシングループ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックして、実行してください。

また、「マシングループ削除」は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコンをクリック→「マシン」アイコンをクリック→「**削除するマシングループ**」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。



(4) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

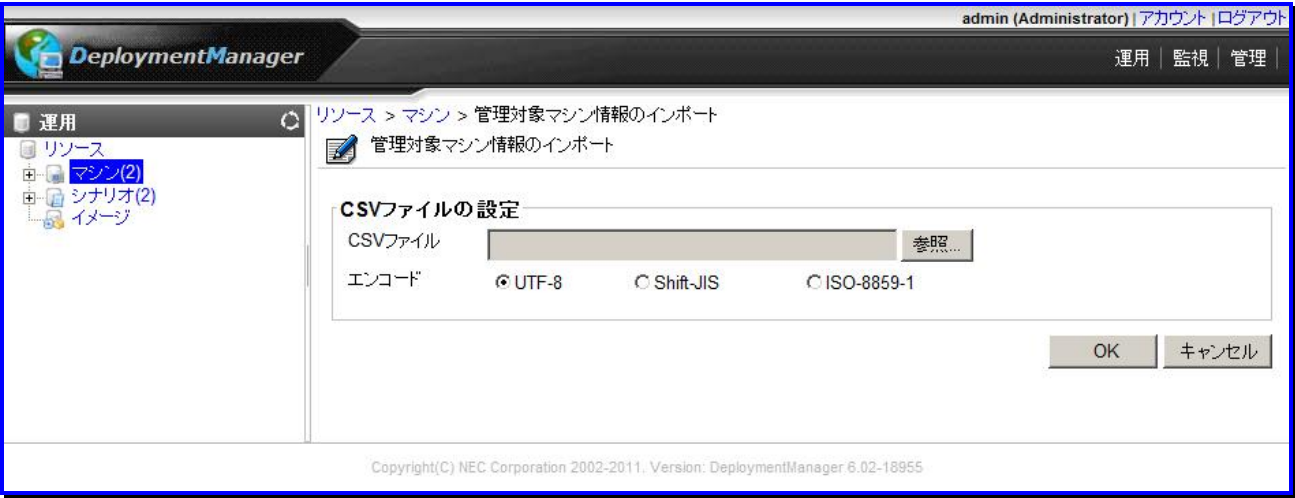
- グループを削除すると、当該グループ配下にあるサブグループとマシンも削除されます。
- グループに所属するいずれかの管理対象マシンの「状態」欄が以下のステータスの場合は、グループ削除できません。なお、サブグループのマシンのステータスの状態がいずれかの場合も、グループ削除できません。
 - ・シナリオ実行中
 - ・シナリオ実行エラー
 - ・シナリオ実行中断
 - ・リモート電源 ON エラー
 - ・自動更新中
 - ・自動更新ファイル転送中
 - ・自動更新時間設定中

3.3.3. マシン情報インポート

マシンの情報を一括で登録します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「マシン」をクリックします。
- (3) 「マシン」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン情報インポート」をクリックします。

- (4) メインウィンドウに「管理対象マシン情報のインポート」画面が表示されますので、「CSVファイルの設定」グループボックスの「参照」ボタンからCSVファイルを選択してインポートしてください。



CSVファイルの設定

CSVファイル (設定必須)	CSVファイルのパスを表示します。
参照	「参照」ボタンをクリックして、マシン情報インポート用のCSVファイルを選択します。 「CSVファイルのパス」が空白やCSV形式ではない、またはCSVファイルのフォーマットが無効な場合は、ファイルをインポートできません。 ファイルのインポート後は、「操作」メニュー→「画面更新」をクリックし、正しくインポートされているか確認してください。(※1)
エンコード	
UTF-8	エンコードがUTF-8の場合に選択します。
Shift-JIS	エンコードがShift-JISの場合に選択します。
ISO-8859-1	エンコードがISO-8859-1の場合に選択します。

※1

- DPM Ver6.0 以降のバージョンの Web コンソールでエクスポートした CSV ファイルをインポートする場合、エンコードは UTF-8 を選択してください。CSV ファイルを手動で作成した場合には、そのファイルと同じエンコードを選択してください。
- 旧バージョンで作成したマシン情報(CSV ファイル)をインポートする場合は、以下に注意してください。
 - 1)DPM Ver5.0より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)をインポートする場合
CSVファイルは、編集せずにそのままインポートできます。
ただし、DPM Ver5.0以降で追加となった「識別名」、「IPアドレス」、「カーネルID」、「カーネル表示名」、「UUID」については、インポートを行うと空欄(指定なし)として設定されます。
 - 2)DPM Ver6.0より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)をインポートする場合
 - ・エンコードは「Shift-JIS」を選択してください。
 - ・DPM Ver6.0より前のバージョンではグループの種別(一般グループ/BladeServerグループ)がありましたが、DPM Ver6.0以降はグループの種別がなくなり、一般グループ(DPM Ver6.0以降は単に「グループ」と呼びます)に統一されました。
なお、BladeServerグループで作成したユニットID/スロットID/シナリオ割り当て許可、スロット幅の値は無視されます。シナリオ割り当て許可については、DPM Ver6.0以降、常時シナリオ割り当てとなります。

3)DPM Ver6.02より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)をインポートする場合

DPM Ver6.02以降のバージョンでは、登録するグループの指定方法が、マシンが直属するマシングループの名前からマシンの登録先のグループのパス名に変更となりました。このため、DPM Ver6.02より前のバージョンで作成したマシン情報(CSVファイル)を使用する場合は、グループのパス名を記述するように見直してください。(DPM Ver6.02より前のバージョンで作成した設定ファイルをそのまま使用した場合、「マシン」アイコン直下にマシングループが作成されます。)

また、機能強化で追加となった「識別名」については、インポートを行うと空欄(指定なし)として設定されます。

■ マシン情報ファイル(CSV ファイル)の記入フォーマットと記入方法を説明します。

・1、2行目は固定(下記に記載の文字列)を記入し、3行目以降に管理対象マシンの情報を記入します。

Version:1.0
管理対象マシン名,識別名,グループパス,MACアドレス,IPアドレス,カーネルID,カーネル表示名,UUID
"1台目のマシン名","1台目の識別名","グループパス","MACアドレス","IPアドレス","カーネルID","カーネル表示名","UUID"
"2台目のマシン名","2台目の識別名","グループパス","MACアドレス","IPアドレス","カーネルID","カーネル表示名","UUID"
.
.

・3行目以降の各項目の記入方法

項目	指定必須/任意	説明
管理対象マシン名	設定必須	管理対象マシン名を入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。 . , ; ` ~ ! @ # \$ % ^ & * = + { } % ¥ : ' " < > / ? [] また、数字のみのマシン名は、登録できません。
識別名	任意	管理対象マシンの識別名を入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみの識別名は、登録できません。 . , ; ` ~ ! @ # \$ % ^ & * = + { } % ¥ : ' " < > / ? []
グループパス	設定必須	管理対象マシンを登録するマシングループのフルパスを入力します。 グループパスの最大階層数は20です。 マシングループの階層の区切り文字は"/"(半角スラッシュ)で記述してください。 各階層ともグループ名として入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ; 指定したパスに該当するマシングループが存在しない場合は、自動的にマシングループを作成します。
MACアドレス	任意	MACアドレスを入力します。 入力できる文字種は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。 入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。 MACアドレスが複数ある場合は、MACアドレス毎に「 」で区切って記述してください。例)「00-15-87-1e-c2-11 00-12-75-1e-d2-32」 MACアドレスを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。 なお、マシン情報のインポートを実行すると、CSVに記述しているすべてのMACアドレスをインポートします。 MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方を入力してください。

IPアドレス	任意	IPアドレスを入力します。 入力できる文字種は、「0～9」です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 複数のIPアドレスをIPアドレス毎に「,」で区切って入力できます。ただし、先頭に記載のIPアドレスのみをインポートします。 IPアドレスを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。
カーネルID	任意	カーネルIDを入力します。 カーネルIDを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。
カーネル表示名	任意	カーネル表示名を入力します。 カーネル表示名を省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。
UUID	任意	UUIDを入力します。 入力できる文字は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。 入力は、「xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx」の形式で入力してください。UUIDを省略する場合は、「--」(半角ハイフン二つ)を入力してください。 MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方を入力してください。

ヒント

- 「"」を含む文字列を指定する場合は、「"」を記入し、項目自体を「"」で囲んでください。
例)
グループ名が「/group/p/」の場合、「"/group""p/"」と記入してください。
- 「マシン情報エクスポート」で出力した CSV ファイルを使用した登録もできます。出力した CSV ファイルについては、「3.3.4 マシン情報エクスポート」を参照してください。

例)以下の表の内容でマシン情報を登録するCSVファイルを作成する場合は、sample01.csvのようになります。

管理対象 マシン名	識別名	グループ パス	MAC アド レス	IP アドレス	カーネル ID	カーネル 表示名	UUID
COMP1	IDEN1	/GROUP1/ GROUP2/ GROUP3	00-11-22- 33-44-55	なし	なし	なし	なし
COMP2	IDEN2		00-11-22- 33-44-66	192.168.0.1	なし	なし	b4e8f2e4-a2ff-4 464-a97c-7e93f ef0542a
COMP3	なし		00-11-22- 33-44-77	192.168.0.2	kernel1	NEC Express5 800 001	なし
COMP4	IDEN4	/GROUP4	00-11-22- 33-44-88 00-11-22- 33-44-99	192.168.0.3 192.168.0.4	kernel2	NEC Express5 800 002	8dda9b94-6918 -42ed-bd4c-1aa 3cfec750c

sample01.csv

```
Version:1.0
管理対象マシン名,識別名,グループパス,MACアドレス,IPアドレス,カーネルID,カーネル表示名,UUID
"COMP1","IDEN1","/GROUP1/GROUP2/GROUP3","00-11-22-33-44-55","--","--","--","--"
"COMP2","IDEN2","/GROUP1/GROUP2/GROUP3","00-11-22-33-44-66","192.168.0.1","--","--","b4e8f2e4-a2ff-4464-a97c-7e93fef0542a"
"COMP3","","/GROUP1/GROUP2/GROUP3","00-11-22-33-44-77","192.168.0.2","kernel1","NEC Express5800 001","--"
"COMP4","IDEN4","/GROUP4","00-11-22-33-44-88|00-11-22-33-44-99","192.168.0.3,192.168.0.4","kernel2","NEC Express5800 002","8dda9b94-6918-42ed-bd4c-1aa3cfec750c"
```

3.3.4. マシン情報エクスポート

マシンの情報をCSV形式のファイルにエクスポートします。マシン情報エクスポートを一度行くと、簡単にフォーマットの作成ができます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「マシン」をクリックします。
- (3) 「マシン」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン情報エクスポート」をクリックします。
- (4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてください。

ヒント

- サブグループ配下を含むすべてのマシンがエクスポートされます。
- エクスポート時にUTF-8にエンコードされます。
- エクスポートされるのは、マシンが登録されているグループのみです。
- 「ネットワーク設定」と「自動更新時間設定」情報はエクスポートされません。インポートした場合のデフォルトは、登録されているグループの設定と同じになります。
- 管理対象マシンが複数のMACアドレスを持っている場合は、すべてのMACアドレスをエクスポートします。

3.4. 「グループ」アイコン

「グループ」アイコンでは、マシンをグループごとに分類、管理します。

「グループ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「マシン」アイコン→「グループ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「マシン」→「グループ」アイコンからアクセスできます。

「グループ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ詳細」、「管理対象マシン一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。

3.5. マシングループ詳細

グループの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「グループ詳細を表示するマシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「グループ詳細」、「管理対象マシン一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。



グループ詳細		グループの詳細を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
親グループ名		サブマシングループ(第2階層以下のグループ)の場合のみ、親グループ名が表示されます。マシン直下のマシングループ(第1階層のグループ)の場合、親グループ名は表示されません。
名前		グループ名を表示します。
ネットワーク設定		グループのネットワーク設定を表示します。
	ネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークかどうかを表示します。
	デフォルトゲートウェイ	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイが表示されます。
	サブネットマスク	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクが表示されます。編集はできません。
自動更新設定		グループの自動更新設定を表示します。
	自動更新機能	自動更新機能を表示します。
	自動更新時間	自動更新時間を表示します。
	適用契機	自動更新適用契機についての動作を表示します。
	リトライ回数	リトライ回数を表示します。
	リトライ間隔(分)	リトライ間隔を表示します。

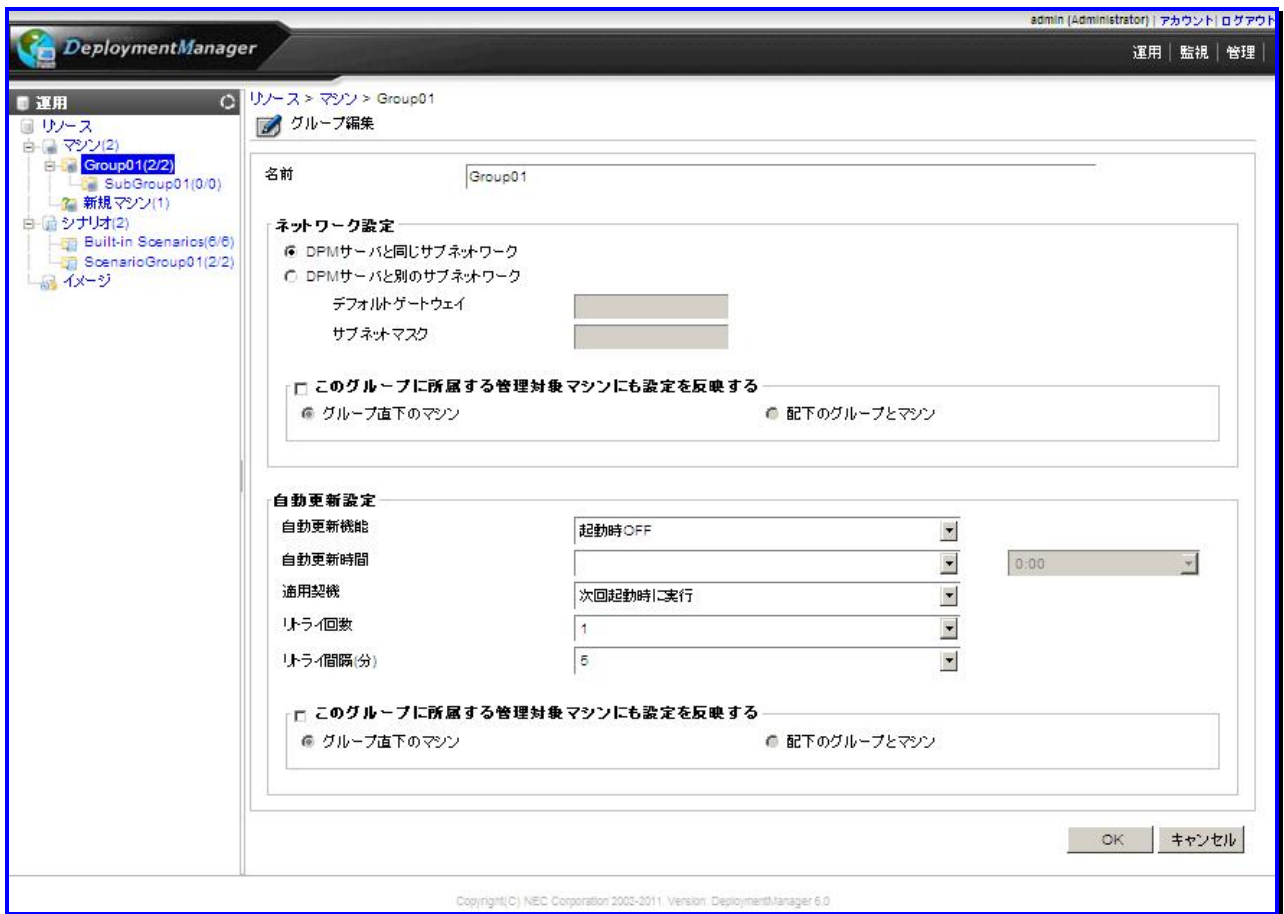
管理対象マシン一覧	
表示件数	グループに登録されている管理対象マシンの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	・「マシン移動」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている管理対象マシンのグループ間移動を行います。 複数チェックを入れると、複数の管理対象マシンをまとめてグループ間移動できます。 ・「マシン削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている管理対象マシンを削除します。 複数チェックを入れると、複数の管理対象マシンをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されている管理対象マシンすべてにチェックが入ります。
「アクション」メニュー	選択した管理対象マシンの操作を行います。「アクション」メニューは、以下から選択できます。 ・電源ON ・シャットダウン ・電源管理スケジュール ・シナリオ割り当て ・シナリオ割り当て解除 ・シナリオ実行 ・シナリオ実行中断 ・エラー解除 ・中断解除 「電源管理スケジュール」を選択した場合は、「電源管理スケジュール」画面が表示されます。画面については、「3.8.5 電源管理スケジュール」を参照してください。
名前	グループに登録されている管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。編集はできません。
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。編集はできません。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。編集はできません。
状態	管理対象マシンの状態を表示します。状態の種類、および説明については、「3.7.1 マシンのステータス」を参照してください。
電源	マシンの電源状態を表示します。
シナリオ名	マシンに割り当てられたシナリオ名を表示します。 「シナリオ名」をクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ詳細」画面が表示されます。 画面については、「3.15 シナリオの詳細情報」を参照してください。
編集	管理対象マシンの編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「管理対象マシン編集」画面が表示されます。編集画面については、「3.7.2 管理対象マシン編集」を参照してください。
サブグループ一覧	
表示件数	グループに登録されているサブグループの表示件数を選択できます。
「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているサブグループを削除します。 複数チェックを入れると、複数のサブグループをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているサブグループすべてにチェックが入ります。
名前	グループに登録されているサブグループの名前を表示します。編集はできません。
サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のサブグループ数を表示します。
マシン数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のマシン(管理対象マシン)数を表示します。

編集	サブグループの編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」画面が表示されます。編集画面については、「3.5.1 マシングループ編集」を参照してください。

3.5.1. マシングループ編集

マシングループを編集します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**編集するマシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ編集」をクリックします。
- (4) 「OK」ボタンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」画面が表示されますので、各項目を編集してください。



admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

DeploymentManager

リソース > マシン > Group01

グループ編集

名前: Group01

ネットワーク設定

☒ DPMサーバと同じサブネットワーク

☐ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ:

サブネットマスク:

☐ このグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映する

☒ グループ直下のマシン ☐ 配下のグループとマシン

自動更新設定

自動更新機能:

自動更新時間:

適用契機:

トライ回数:

トライ間隔(分):

☐ このグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映する

☒ グループ直下のマシン ☐ 配下のグループとマシン

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2005-2011. Version: DeploymentManager 6.0

グループ編集	
親グループ名	サブマシングループ(2階層以下のグループ)の場合のみ、親グループ名が表示されます。 マシン直下のマシングループ(第1階層のグループ)の場合、親グループ名は表示されません。
名前 (入力必須)	グループ名を入力します。入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ;/
ネットワーク設定	グループのネットワーク設定を編集します。 デフォルトは、「グループ追加」画面で設定した値です。「グループ追加」画面については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 グループのネットワーク設定を編集した場合は、新たに追加されるマシンのデフォルト値になります。
DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
DPMサーバと別のサブネットワーク	DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 グループがルータを介してDPMサーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定してください。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
デフォルトゲートウェイ (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
サブネットマスク (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクを設定します。
このグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映する	「このグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映する」チェックボックスにチェックを入れると、ネットワーク設定をこのグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映できます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
グループ直下のマシン	設定内容をグループ直下のマシンに反映する場合に選択します。 デフォルトは、「グループ直下のマシン」が選択されています。
配下のグループとマシン	設定内容を配下のグループとマシンに反映する場合に選択します。
自動更新設定	グループの自動更新設定を編集します。 デフォルトは、「グループ追加」画面で設定した値です。「グループ追加」画面については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 グループの自動更新設定の編集を行った場合は、新たに追加されるマシンのデフォルト値になります。

	自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	自動更新時間		自動更新時間を設定します。
	左のリストボックス		自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
	右のリストボックス		「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
	適用契機		パッケージの適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	リトライ回数		DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数で接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。 マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
	リトライ間隔(分)		DPMサーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 マシングループ追加で設定した値です。設定値については、「3.3.1 マシングループ追加」を参照してください。
	このグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映する		「このグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映する」チェックボックスにチェックを入れると、自動更新設定をこのグループに所属する管理対象マシンにも設定を反映できます。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
	グループ直下のマシン		設定内容をグループ直下のマシンに反映する場合に選択します。 デフォルトは、「グループ直下のマシン」が選択されています。
	配下のグループとマシン		設定内容を配下のグループとマシンに反映する場合に選択します。

OK	「グループ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「グループ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.5.2. マシングループ削除

マシングループを削除します。
詳細については、「3.3.2 マシングループ削除」を参照してください。

3.5.3. サブマシングループ追加

サブマシングループを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「サブグループを追加するマシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「サブグループ追加」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「グループ追加」画面が表示されますので、サブグループ情報を入力し、各項目を設定します。

サブグループ追加		
親グループ名		親グループの名前を表示します。編集はできません。
名前 (入力必須)		サブグループ名を入力します。入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ;/
ネットワーク設定		サブグループのネットワーク設定を行います。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。 なお、サブグループでネットワーク設定を行った場合は、当該グループ配下にあるマシンのデフォルトになります。
DPMサーバと同じサブネットワーク		DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
DPMサーバと別のサブネットワーク		DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 サブグループがルータを介して管理サーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
デフォルトゲートウェイ (設定必須)		DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
サブネットマスク (設定必須)		DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクを設定します。
自動更新設定		サブグループの自動更新設定を行います。 デフォルトは、親グループで設定した値を継承します。 なお、サブグループで自動更新設定を行った場合は、当該グループ配下にあるマシンのデフォルトになります。
自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
自動更新時間		自動更新時間を設定します。
左のリストボックス		自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
右のリストボックス		「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。

	適用契機	パッケージ適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンに画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	リトライ回数	管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数まで接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。 既定値は、「1」回です。
	リトライ間隔(分)	管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 既定値は、「5」分です。
OK		「グループ追加」画面の設定内容でサブマシングループが作成され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「グループ追加」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

なお、マシングループ数、および管理対象マシン台数に関する上限は以下の表のとおりです。

項目	上限値
マシングループ総数(サブマシングループを含む全マシングループの合計数)	1000
マシングループの階層数	20
管理対象マシン総台数(サブマシングループを含めた全マシングループに所属する管理対象マシンの合計数)	40000

3.5.4. サブマシングループ削除

サブマシングループを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「サブマシングループを削除するマシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「サブグループ一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するマシングループ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、サブマシングループの削除は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**削除するサブマシングループ**」アイコンをクリックします。

- (3) 「サブマシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。



- (4) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

グループを削除すると、配下のサブグループと管理対象マシンも削除されます。

3.5.5. 管理対象マシンの登録

管理対象マシンを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコンをクリック→「**管理対象マシンを追加するマシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) グループに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「管理対象マシン追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。

DeploymentManager

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

運用

- リソース
 - マシン(2)
 - Group01(2/2)
 - 新規マシン(1)
 - シナリオ(2)
 - Built-in Scenarios(6/6)
 - ScenarioGroup01(2/2)
 - イメージ

リソース > マシン > Group01 > 管理対象マシン追加

管理対象マシン追加

グループ名

Group01

マシン名

識別名

MACアドレス

UUID

IPアドレス

Deploy-OS

デフォルト値を使用

シナリオ設定

☐ シナリオ割り当て

シナリオ名

参照

☐ シナリオ割り当て解除

☒ シナリオ実行管理スケジュール

☒ 一回のみ
☐ 日単位
☐ 週単位
☐ 月単位

日付

2011/10/27

時刻

時

分

☐ 電源管理スケジュール

☒ 一回のみ
☐ 曜日指定

電源ON時刻

2011/10/27

時

分

シャットダウン時刻

2011/10/27

時

分

☐ カウントダウンダイアログを表示しない

ネットワーク設定

☒ DPMサーバと同じサブネットワーク

☐ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ

サブネットマスク

自動更新設定

自動更新機能

起動時OFF

自動更新時間

0:00

適用契機

次回起動時に実行

リトライ回数

1

リトライ間隔(分)

5

OK

キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.02-18955

管理対象マシン追加	
グループ名	管理対象マシンの所属するグループの名前を表示します。編集はできません。
マシン名 (入力必須)	管理対象マシン名を入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみのマシン名は、登録できません。 .,;`~!@#\$%^&*+=+{}%¥ :'"<>/?[] 追加するマシンに既にOSがインストールされている場合は、必ずマシンと同じ名前にしてください。 DPMクライアントがインストールされている場合は、追加したマシン名と実際のマシン名が違っていても、マシンを電源ONしたときに自動でWebコンソール上のマシン名を実際のマシン名に変更します。
識別名	管理対象マシンの識別名を入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみの識別名は、登録できません。 .,;`~!@#\$%^&*+=+{}%¥ :'"<>/?[] 同じDPMサーバ配下で同じ識別名は作成不可です。
MACアドレス (MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方入力必須)	管理対象マシンのMACアドレスを入力します。 入力できる文字は16進数(0～9/a～f/A～F)です。 入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。
UUID (MACアドレス/UUIDのどちらか、または両方入力必須)	管理対象マシンのUUIDを入力します。 入力できる文字は、16進数(0～9/a～f/A～F)です。入力は、「xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx」の形式で入力してください。すべて「0」、またはすべて「F」を入力した場合は、DPMでは入力値がないものとみなします。 UUIDが不明な場合は、UUIDを空にしてマシンを登録した後に、該当のマシンをネットワークブートさせるか、DPMクライアントのインストールを行ってください。ネットワークブート、またはDPMクライアントのインストールを行うことでUUIDが補完されます。(※1)
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを入力します。 入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 同じDPMサーバ配下で同じIPアドレスは、追加不可です。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。 管理対象マシンにDPMクライアントをインストールしない場合は必ずIPアドレスを入力してください。

Deploy-OS		バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを選択します。 各機種で設定する値については、以下の製品サイトを参照してください。 WebSAM DeploymentManager (http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/) →「動作環境」を選択 →「対応装置一覧」を選択 リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 使用している機種で設定するDeploy-OSがリストボックスに表示されない場合は、上記製品サイトから機種対応モジュールを入手してDPMサーバにインストールすると、対応するDeploy-OSがリストボックスに表示されるようになります。
シナリオ設定		
	シナリオ割り当て	管理対象マシンにシナリオ割り当てする場合に選択します。「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
	シナリオ名	管理対象マシンに割り当てるシナリオを設定します。 「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
	シナリオ割り当て解除	シナリオの割り当てを解除する場合に選択します。
シナリオ実行管理スケジュール		「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールが設定できます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。
一回のみ		
	1回のみ、スケジュールを実行します。	
	日付 (設定必須)	日付を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 使用できる文字は、半角数字です。
日単位		
	開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	間隔 (設定必須)	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 既定値は、「1日に一回」です。

週単位	毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
月単位	毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始月 (設定必須)	開始月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。
	終了月	終了月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	毎月 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「毎月」を選択した場合は、リストボックスから日を設定します。 例)「月末」日
	曜日 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「曜日」を選択した場合は、リストボックスから曜日を設定します。 例)第「1」「月曜日」
電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。
1回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。

	シャットダウン時刻(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
曜日指定	設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	電源ON時刻(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	シャットダウン時刻(電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日指定(設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
ネットワーク設定		
	DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
	DPMサーバと別のサブネットワーク	DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 管理対象マシンがルータを介してDPMサーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
	デフォルトゲートウェイ(設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
	サブネットマスク(設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクを設定します。

自動更新設定		
自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
自動更新時間		自動更新時間を設定します。
左のリストボックス		自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
右のリストボックス		「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。
適用契機		パッケージ適用契機についての動作を編集します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
リトライ回数		管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数で接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。 既定値は、「1」回です。
リトライ間隔(分)		管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 既定値は、「5」分です。
OK		「管理対象マシン追加」画面の設定内容でマシンを追加し、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「管理対象マシン追加」画面の設定内容でマシンを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

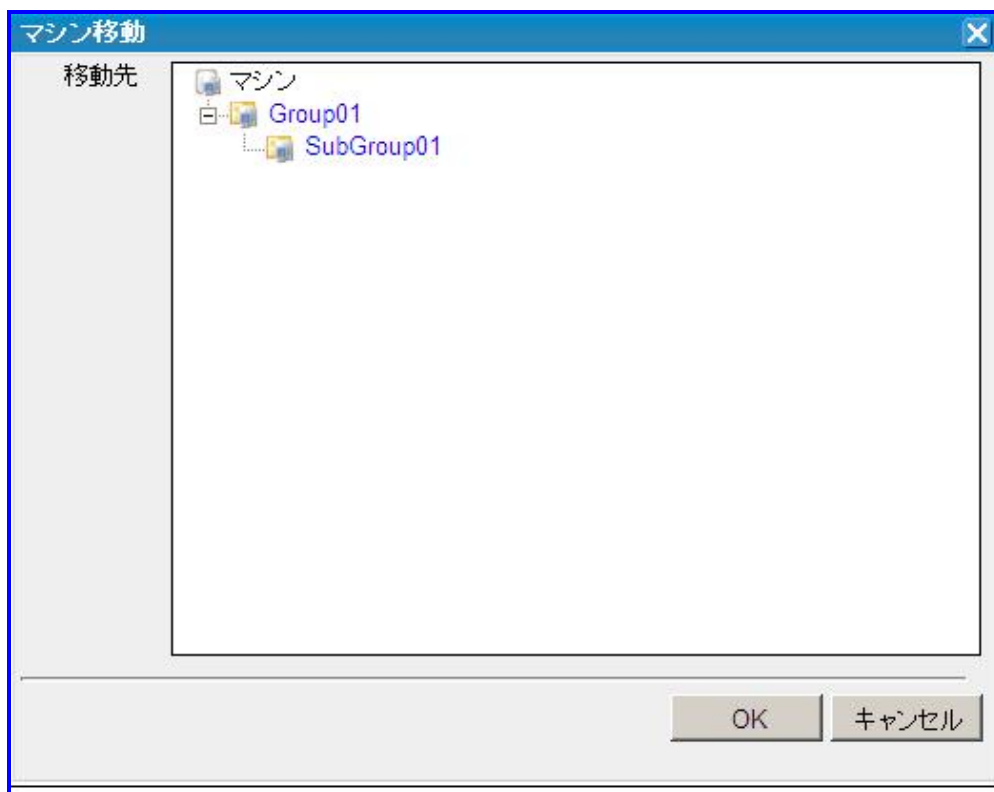
※1

DPMは登録されたマシンをUUIDで識別するため、UUIDが未登録の場合は、正常にSSC連携が行われませんが、その場合はUUIDを登録してください。

3.5.6. マシン移動

管理対象マシンをグループ間移動します。管理対象マシンの状態(自動更新の状態/シナリオの状態/電源の状態)を問わず、いつでも移動できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**移動するマシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「マシン移動」をクリックします。
- (5) 「マシン移動」ダイアログボックスが表示されますので、「**移動先のグループ**」を指定します。



- (6) 「OK」ボタンをクリックします。

また、マシン移動は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**移動するマシン**」の名前をクリックします。
- (4) マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン移動」をクリックします。

(5) 「マシン移動」ダイアログボックスが表示されますので、「**移動先のグループ**」を指定します。

(6) 「OK」ボタンをクリックします。

3.5.7. マシン削除

管理対象マシンを削除します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するマシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」リンクの「マシン削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、マシン削除は、以下の手順でも実行できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するマシン**」の名前をクリックします。

(4) マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン削除」をクリックします。

(5) 「OK」ボタンをクリックします。

3.5.8. ネットワーク一括設定

ネットワーク情報を一括設定します。ネットワーク一括設定では、適用対象としてグループ直下のマシン、または配下のグループとマシンに適用できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**ネットワーク一括設定するマシングループ**」アイコンをクリックします。

(3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「一括設定」より「ネットワーク設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「ネットワーク一括設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。



ネットワーク一括設定	
グループ名	グループの名前を表示します。編集はできません。
ネットワーク設定	ネットワーク設定を行います。 デフォルトは、「DPMサーバと同じサブネットワーク」が選択されています。
DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
DPMサーバと別のサブネットワーク	DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 「適用対象」に指定するグループや、管理対象マシンがルータを介してDPMサーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
デフォルトゲートウェイ (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
サブネットマスク (設定必須)	「DPMサーバと別のサブネットワーク」を選択した場合は、サブネットマスクを設定します。
適用対象	ネットワーク一括設定の適用対象を設定します。
グループ直下のマシン	直下のマシンに反映する場合に選択します。 デフォルトは、「グループ直下のマシン」が選択されています。
配下のグループとマシン	当該グループ配下のグループとマシンに反映する場合に選択します。
OK	「ネットワーク一括設定」画面の設定内容で一括設定され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「ネットワーク一括設定」画面の設定内容で一括設定せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.5.9. 自動更新時間一括設定

グループに登録されている管理対象マシンに自動更新時間を一括設定します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「自動更新時間一括設定するマシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「マシングループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「一括設定」より「自動更新時間設定」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「自動更新時間設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。

The screenshot shows the 'Automatic Update Time Setting' window in the Deployment Manager application. The left pane shows a tree view with 'Group01(2/2)' selected. The main area contains the following settings:

- グループ名: Group01
- 自動更新機能: 起動時OFF (dropdown)
- 自動更新時間: [empty] (dropdown) | 0:00 (time picker)
- 適用契機: 次回起動時に実行 (dropdown)
- リトライ回数: 1 (dropdown)
- リトライ間隔(分): 5 (dropdown)
- 適用対象:
 - ☒ グループ直下のマシン
 - ☐ 配下のグループとマシン

Buttons at the bottom: OK, キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

自動更新時間一括設定	
グループ名	グループの名前を表示します。編集はできません。
自動更新時間設定	
自動更新機能	グループの自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
自動更新時間	グループの自動更新時間を設定します。
左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。

	適用契機	適用対象のパッケージ適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 デフォルトは、「次回起動時に実行」です。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	リトライ回数	管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数で接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。 既定値は、「1」回です。
	リトライ間隔(分)	管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。 既定値は、「5」分です。
	適用対象	自動更新時間一括設定の適用対象を設定します。
	グループ直下のマシン	直下のマシンに反映する場合に選択します。デフォルトは、「グループ直下のマシン」です。
	配下のグループとマシン	配下のグループとマシンに反映する場合に選択します。
OK		「自動更新時間一括設定」画面の設定内容で一括設定され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「自動更新時間一括設定」画面の設定内容で一括設定せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.6. グループへのメニュー操作

グループで使用する操作に関するメニューについて説明します。

3.6.1. 一括操作

グループに所属するすべての管理対象マシンに対して、「シナリオ割り当て」、「シナリオ割り当て解除」、「電源ON」、「シャットダウン」、「シナリオ実行」、「シナリオ実行中断」を一括操作します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「シナリオ一括操作するマシングループ」アイコンをクリックします。

- (3) 「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「操作」メニューの「一括操作」から、それぞれ操作してください。なお、各「操作」メニューに対する設定項目/注意事項については、管理対象マシンに対する「操作」メニューと同様となります。「3.8 マシンへのメニュー操作」の該当章も参照してください。



一括操作	
シナリオ割り当て	グループに所属するすべての管理対象マシンに一括シナリオ割り当てします。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シナリオ割り当て解除	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シナリオ割り当て解除します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
電源ON	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括電源ONします。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シャットダウン	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シャットダウンします。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シナリオ実行	グループに所属するすべての理対象マシンを一括シナリオ実行します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。
シナリオ実行中断	グループに所属するすべての管理対象マシンを一括シナリオ実行中断します。 適用対象マシンについては、下記の例)のように「適用対象」グループボックスで適用対象をラジオボタンで選択します。

重要

- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXE ブートするタイミングで電源 OFF されます。
- 同時実行可能台数を超えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。

例)

「操作」メニューの「一括操作」から「シナリオ割り当て」をクリックした場合は、「シナリオ一括割り当て」画面が表示されます。

適用対象	
グループ名	グループの名前を表示します。編集はできません。
適用対象	一括操作の適用対象を設定します。
グループ直下のマシン	直下のマシンにシナリオ割り当てを適用する場合に選択します。デフォルトは、「グループ直下のマシン」が選択されています。
グループ配下のマシン	配下のマシンにシナリオ割り当てを適用する場合に選択します。
すぐに実行	適用対象のマシンに、すぐにシナリオ実行します。適用対象のマシンにシナリオが割り当てられていない場合は、エラーメッセージが表示されます。
OK	画面上で設定した内容で一括操作され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	画面上で設定した内容で一括操作されせずに、元のウィンドウに戻ります。

3.7. 管理対象マシン詳細

マシンの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**詳細を表示するマシン**」の名前をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。

The screenshot displays the Deployment Manager web interface. The top navigation bar shows the user is logged in as 'admin (Administrator)' and provides links for 'アカウント' (Account) and 'ログアウト' (Logout). The main interface is divided into three sections: a left sidebar, a central main area, and a right sidebar.

Left Sidebar (Tree View): Shows a hierarchy starting with 'リソース' (Resources), followed by 'マシン(1)' (Machines), then 'Group01(1/1)', and finally 'マシン' (Machines). The 'マシン' item is selected.

Central Main Area: The breadcrumb path is 'リソース > マシン > Group01 > Server01'. The title is '管理対象マシン詳細' (Management Target Machine Details). Below the title is a table of machine details:

マシン名	Server01
識別名	
グループ	Group01
UUID	7459bebb-6688-e011-bbda-b59857ee78e3
IPアドレス	172.28.154.22 192.168.17.1 192.168.179.1
IPv6アドレス	fe80::94e1:8215:f029:cb66 fe80::c9be:c8d:3f47:e03f fe80::f0e8:8451:11c3:4855
MACアドレス	78-e3-b5-98-57-ee(*) 00-50-56-c0-00-01 00-50-56-c0-00-08
Deploy-OS	デフォルト値を使用
状態	
電源	On
オペレーティングシステム	Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise Edition
サービスパック	Service Pack 1
OS言語	
HotFix/アプリケーション	詳細
パッケージ適用状況	詳細
シナリオ割り当て	
シナリオ名	
シナリオ実行管理スケジュール	
スケジュール	
電源管理スケジュール	
スケジュール	
電源ON時刻	
シャットダウン時刻	
カウントダウンダイアログを表示しない	
ネットワーク設定	
ネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワーク
デフォルトゲートウェイ	
サブネットマスク	
自動更新設定	
自動更新機能	起動時OFF
自動更新時間	
適用契機	次回起動時に実行
リトライ回数	1
リトライ間隔(分)	5

Right Sidebar: Contains two sections: '設定' (Settings) with links for 'マシン編集' (Edit Machine), 'マシン移動' (Move Machine), and 'マシン削除' (Delete Machine); and '操作' (Actions) with links for '電源ON' (Power On), 'シャットダウン' (Shutdown), '電源管理スケジュール' (Power Management Schedule), 'シナリオ割り当て' (Assign Scenario), 'シナリオ割り当て解除' (Unassign Scenario), 'シナリオ実行' (Execute Scenario), 'シナリオ実行中断' (Interrupt Scenario Execution), 'エラー解除' (Clear Error), '中断解除' (Interrupt Clear), 'ファイル/フォルダ詳細' (File/Folder Details), and '画面更新' (Refresh Screen).

At the bottom of the window, a copyright notice reads: 'Copyright(C) NEC Corporation 2002-2013. Version: DeploymentManager 6.2.'

管理対象マシン詳細		
	マシン名	管理対象マシンのマシン名を表示します。編集はできません。
	識別名	管理対象マシンの識別名を表示します。編集はできません。
	グループ	管理対象マシンの所属するグループの名前を表示します。編集はできません。
	UUID	管理対象マシンのUUIDを表示します。
	IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、すべてのIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報がない場合は、空白を表示します。
	IPv6アドレス	管理対象マシンのIPv6アドレスを表示します。 管理対象マシンに複数のIPv6アドレスが存在する場合は、すべてのIPv6アドレスを表示します。IPv6アドレスの情報がない場合は、空白を表示します。
	MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。状態については、「3.7.1 マシンのステータス」を参照してください。 「状態」をクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」画面が表示されます。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。電源状態については、「3.8.1 電源ON」から「3.8.2 シャットダウン」を参照してください。
	オペレーティングシステム	管理対象マシンのOS名を表示します。
	サービスパック	管理対象マシンのサービスパックの情報を表示します。
	OS言語	管理対象マシンのOS言語を表示します。
	HotFix/アプリケーション	HotFix、およびアプリケーションがある場合は、「詳細」を表示します。 「詳細」をクリックすると、メインウィンドウに「HotFix/アプリケーション一覧」画面が表示されます。 詳細については「3.7.1.1 HotFix/アプリケーション一覧」を参照してください。
	パッケージ適用状況	「詳細」リンクを表示します。 「詳細」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」画面が表示されます。 画面については、「3.7.1.2 パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」を参照してください。
シナリオ割り当て		
	シナリオ名	管理対象マシンに割り当てられたシナリオ名を表示します。 「シナリオ名」をクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ詳細」画面が表示されます。 画面については、「3.15 シナリオの詳細情報」を参照してください。
	シナリオ実行管理スケジュール	シナリオ実行管理スケジュールを表示します。
	スケジュール	シナリオ実行管理スケジュール時刻を表示します。
電源管理スケジュール		
	スケジュール	電源管理スケジュールを表示します。
	電源ON時刻	電源ON時刻を表示します。
	シャットダウン時刻	シャットダウン時刻を表示します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示するかどうかを表示します。

- (4) メインウィンドウに「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されますので、「状態」欄、および「電源」欄を確認してください。



◆状態

マシンのシナリオ実行状態ステータスと自動更新ステータスを表示します。

状態	説明
(空白)	シナリオ実行や自動更新中でない場合は、空白です。
シナリオ実行中	シナリオ実行中の場合に表示されます。
シナリオ実行中断	マシンに対するシナリオ実行が中断された場合に表示されます。 「状態」欄に表示される「シナリオ実行中断」をクリックすると、シナリオ実行一覧が表示されます。シナリオ実行一覧については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。

シナリオ実行エラー	シナリオ実行エラーの場合に表示されます。 「状態」欄に表示される「シナリオ実行エラー」をクリックすると、シナリオ実行一覧が表示されます。シナリオ実行一覧については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。 なお、管理対象マシンの状態が、シナリオ実行エラーと、自動更新エラーの両方の場合は、シナリオ実行エラーと表示されます。 エラーの状態については、「4.7 自動更新結果一覧の詳細」を参照してください。
リモート電源ONエラー	電源ONの操作がエラーになった場合に表示されます。 「状態」欄に表示される「リモート電源ONエラー」をクリックすると、シナリオ実行一覧が表示されます。シナリオ実行一覧については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。
自動更新パッケージ適用中	自動更新パッケージを適用している場合に表示されます。
自動更新ファイル転送中	管理対象マシンへ自動更新ファイルを転送している場合に表示されます。
自動更新ユーザ確認中	自動更新するユーザを確認している場合に表示されます。
自動更新再起動待ち中	マシンの再起動を待っている場合に表示されます。
自動更新中	自動更新開始後、パッケージの確認中に表示されます。
自動更新実行エラー	自動更新がエラーになった場合に表示されます。
自動更新時間設定中	管理対象マシンに対して自動更新時間設定中に表示されます。
自動更新設定エラー	自動更新設定エラーになった場合に表示されます。

ヒント

シナリオに関するエラー、自動更新に関するエラーに対し、それぞれ対処方法が異なります。

- ・シナリオに関するエラー
エラー解除を行ってください。解除方法については、「3.8.8 エラー解除」を参照してください。
なお、「2.7.1.2 「シナリオ」タブ」で設定したタイムアウト時間を過ぎてもシナリオが終了しない場合は、シナリオ実行エラーとなります。
- ・自動更新に関するエラー
再度実行するか、または DPM クライアントの再起動にて対処してください。

◆電源

マシンの電源状態を表示します。

電源状態	説明
 On	マシンの電源がオンの状態です。
 Off	マシンの電源がオフの状態です。
 Unknown	マシンの電源状態が不明な状態です。 管理対象マシンにIPアドレスが設定されていない場合に表示します。 シャットダウンなど一部の機能が使用できません。

3.7.1.1. HotFix/アプリケーション一覧

マシンに適用されたHotFix/アプリケーション一覧を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「HotFix/アプリケーションを適用したマシン」の名前をクリックします。
- (4) 「管理対象マシン詳細」グループボックス内の「HotFix/アプリケーション」→「詳細」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「適用されたHotFix」、「インストールされたアプリケーション」グループボックスが表示されます。



適用されたHotFix	
HotFix名	適用されたHotFix一覧を表示します。
インストールされたアプリケーション	
アプリケーション名	インストールされたアプリケーション一覧を表示します。

注意

Windowsの管理対象マシンに対して、サービスパック/HotFix/アプリケーションのインストールを行う場合は、以下の状態では適用後のシャットダウンができません。

シャットダウンを指定される場合は、こういった状態にならないように注意してください。

- ・ワークステーションロックによりロックされている状態
- ・パスワード付きスクリーンセーバによるロック状態
- ・リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
- ・編集集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態

3.7.1.2. パッケージ適用状況(パッケージ一覧)

管理対象マシンのパッケージ適用状況(パッケージ一覧)を表示します。

パッケージ適用状況が表示されるのはWindows OSのパッケージのみです。Linux OSのパッケージは表示されません。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「パッケージを適用したマシン」の名前をクリックします。
- (4) 「管理対象マシン詳細」グループボックス内の「パッケージ適用状況」→「詳細」をクリックします。

- (5) メインウィンドウに「パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」グループボックスが表示されますので、パッケージIDの「適用状態」欄を確認してください。



パッケージ適用状況(パッケージ一覧)	
表示件数	パッケージ一覧の表示件数が選択できます。
パッケージID	パッケージIDを表示します。
概要	パッケージの概要を表示します。
適用日付	パッケージの適用日付を表示します。
適用状態	パッケージの適用状態を表示します。(※1)

ヒント

管理対象マシンに適用できないパッケージは、一覧に表示されません。

※1

パッケージ適用状態の表示について説明します。

パッケージ適用状態の表示	説明
適用済み	パッケージが管理対象マシンに適用済みの状態です。 パッケージを適用する際の前提条件(パッケージ作成時に「依存情報」タブで指定した条件)を満たし、かつパッケージ適用済みの条件(「MS番号」、「識別情報」、アプリケーションの情報で指定した条件)を満たしている場合に表示します。 吸収されたサービスパックについては、自動更新処理において管理対象マシンのサービスパックのバージョンが「吸収されたサービスパック」と同じかそれ以後であれば、パッケージ適用済みの条件を満たしていると判断します。
未適用	パッケージが未適用の状態です。 「依存情報」タブで指定した条件を満たしていますが、「MS番号」、「識別情報」、アプリケーションの情報で指定した条件を満たしていない場合に表示します。
適用不要	パッケージは適用不要です。 「依存情報」タブで指定した条件を満たしていない場合に表示します。
識別不可	適用状況を識別できません。 「MS番号」、および「識別情報」タブの指定が無い場合に表示します。

以下の場合にはパッケージ適用対象外のため、一覧には表示しません。

イメージビルダ、およびPackageDescriberでパッケージ作成時の「対応OSと言語」で指定しているOS/言語/ベースとなるサービスパック/吸収されるサービスパックが管理対象マシンのOS/言語/サービスパックを満たしていない場合は、パッケージ適用対象外のため、一覧には表示しません。
これらの指定方法の詳細については、「5 イメージビルダ」、および「6 PackageDescriber」を参照してください。

パッケージの適用状態の表示の条件を以下にまとめます。

OS/言語/サービスパック/グループ情報					条件を満たさない
条件を満たす				一覧に表示しない	
管理対象マシンの情報調査					
調査済み			調査未		
MS番号/識別情報/サービスパック			"未適用" (※2)		
条件を満たす	条件を満たさない				パッケージにMS番号および識別情報がない
"適用済み" (※1)	依存関係		"識別不可"		
	条件を満たす	条件を満たさない			
	"未適用"	"適用不要"			

※1

パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)では、一覧に表示しません。

※2

自動更新処理、および情報送付時において調査未の状態では"未適用"と表示します。

3.7.2. 管理対象マシン編集

管理対象マシンの設定情報を編集します。

注意

管理対象マシンの状態が以下のいずれかの場合、「管理対象マシン編集」はできません。

- ・シナリオ実行中
- ・シナリオ実行エラー
- ・シナリオ実行中断
- ・リモート電源 ON エラー
- ・自動更新中
- ・自動更新ファイル転送中
- ・自動更新時間設定中

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「編集するマシン」の名前をクリックします。
- (4) マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン編集」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「管理対象マシン編集」画面が表示されますので、各項目を編集してください。

また、「管理対象マシン編集」画面は、以下の手順でも表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。

- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、編集する管理対象マシンの「編集アイコン(📖)」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「管理対象マシン編集」画面が表示されますので、各項目を編集してください。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > マシン > Group01 > Client01-PC

管理対象マシン編集

グループ名: Group01

マシン名: Client01-PC

識別名:

MACアドレス: 00-16-97-1e-d2-32

UUID: a88fb000-0131-1000-8010-0016971ed232

IPアドレス: 192.168.0.100

Deploy-OS: デフォルト値を使用

シナリオ設定

☒ シナリオ割り当て

シナリオ名: Restore_Scenario01 参照

☐ シナリオ割り当て解除

☐ シナリオ実行管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 日単位 ☐ 週単位 ☐ 月単位

日付: 2011/10/28

時刻: 時 分

☐ 電源管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 曜日指定

☐ 電源ON時刻: 2011/10/28 時 分

☐ シャットダウン時刻: 2011/10/28 時 分

☐ カウントダウンダイアログを表示しない

ネットワーク設定

☒ DPMサーバと同じサブネットワーク

☐ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ:

サブネットマスク:

自動更新設定

自動更新機能: 起動時OFF

自動更新時間: 0:00

適用契機: 次回起動時に実行

リトライ回数: 1

リトライ間隔(分): 5

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.02-18955

管理対象マシン編集	
グループ名	管理対象マシンの所属するグループの名前を表示します。編集はできません。
マシン名 (入力必須)	管理対象マシン名を編集します。入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみのマシン名には、変更できません。 .,;`~!@#\$%^&*+=+{}%¥ :'"<>/?[] DPMクライアントがインストールされている場合は、Webコンソール上で登録したマシン名と実際のマシン名が違っていても、マシンを電源ONしたときに自動でWebコンソール上のマシン名を実際のマシン名に変更します。(※1)
識別名	識別名を編集します。入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみの識別名には、変更できません。 .,;`~!@#\$%^&*+=+{}%¥ :'"<>/?[] 同じDPMサーバ配下で同じ識別名に変更できません。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。編集はできません。
UUID	管理対象マシンのUUIDを表示します。編集はできません。
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを編集します。入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 同じDPMサーバ配下で同じIPアドレスには、変更できません。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。 管理対象マシンにDPMクライアントをインストールしない場合は必ずIPアドレスを入力してください。
Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを設定します。 各機種で設定する値については、以下の製品サイトを参照してください。 WebSAM DeploymentManager (http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/) →「動作環境」を選択 →「対応装置一覧」を選択 リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 使用している機種で設定するDeploy-OSがリストボックスに表示されない場合は、上記製品サイトから機種対応モジュールを入手してDPMサーバにインストールすると、対応するDeploy-OSがリストボックスに表示されるようになります。
シナリオ設定	
シナリオ割り当て	管理対象マシンにシナリオ割り当てする場合に選択します。「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
シナリオ名	管理対象マシンに割り当てるシナリオを設定します。「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
シナリオ割り当て解除	管理対象マシンのシナリオの割り当てを解除する場合に選択します。
シナリオ実行管理スケジュール	「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールが編集できます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。

	一回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
		日付 (設定必須)	日付を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		時刻 (設定必須)	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	日単位	開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
		開始日 (設定必須)	開始日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 (設定必須)	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		間隔 (設定必須)	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 既定値は、「1日に一回」です。
	週単位	毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
		開始日 (設定必須)	開始日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
		終了日	終了日を編集します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
		時刻 (設定必須)	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
		曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
	月単位	毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
		開始月 (設定必須)	開始月を編集します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。

	終了月	終了月を編集します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を編集します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	毎月 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「毎月」を選択した場合は、リストボックスから日を設定します。 例)「月末」日
	曜日 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「曜日」を選択した場合は、リストボックスから曜日を設定します。 例)第「1」月曜日
電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、管理対象マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。
一回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を編集できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。
	シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を編集できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
曜日指定	設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を編集できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59

	シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を編集できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
ネットワーク設定		
	DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。
	DPMサーバと別のサブネットワーク	DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 管理対象マシンがルータを介して管理サーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
	デフォルトゲートウェイ (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
	サブネットマスク (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクを編集します。
自動更新設定(※2)		
	自動更新機能	自動更新機能を設定します。以下の操作が選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定値は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	自動更新時間	自動更新時間を設定します。
	左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日
	右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。左のリストボックスで「空白」を選択した場合は、設定した時間は無効になります。

		適用契機	自動更新適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示。 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
		リトライ回数	管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数で接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。
		リトライ間隔(分)	管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。
OK		「管理対象マシン編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。	
キャンセル		「管理対象マシン編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。	

※1

Webコンソールが起動していないときに、シナリオのスケジュールが設定されているマシンのマシン名は変更しないでください。シナリオ実行エラーが発生するか、誤ったマシンにシナリオが実行される場合があります。ただし、Webコンソールが起動しているときに変更されたものについては、正しくスケジュールが実行されます。

※2

管理対象マシンのステータスが以下のいずれかの場合は、次回マシン起動時に設定されます。ステータスの詳細については、「3.7.1 マシンのステータス」を参照してください。

- ・「状態」欄
 - シナリオ実行中
 - シナリオ実行中断
 - 自動更新パッケージ適用中
 - 自動更新ファイル転送中
 - 自動更新ユーザ確認中
 - 自動更新再起動待ち中
 - 自動更新中
- ・「電源」欄
 - Off

3.7.3. マシン移動

マシンを移動します。

マシン移動については、「3.5.6 マシン移動」を参照してください。

3.7.4. マシン削除

マシンを削除します。

マシン削除については、「3.5.7 マシン削除」を参照してください。

3.8. マシンへのメニュー操作

マシンに対する「アクション」メニュー、「操作」メニューについて説明します。

3.8.1. 電源 ON

管理対象マシンを電源ONします。

「電源ON」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「電源ONする管理対象マシン」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「操作」メニューの「電源ON」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「電源ONする管理対象マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「電源ON」をクリックします。

「電源ON」した場合、「電源」欄のアイコンは、「 (緑)On」になります。

「電源ON」に失敗した場合、「リモート電源ONエラー」が表示されます。また、エラーメッセージが表示されます。

ヒント

- 「電源 ON」を選択後も「管理対象マシン一覧」グループボックスの状態が電源 OFF のままの場合は、「操作」メニューから「画面更新」をクリックし、最新の情報に更新してください。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括電源 ON」については、「3.6.1 一括操作」を参照してください。

3.8.2. シャットダウン

管理対象マシンをシャットダウンします。

「シャットダウン」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シャットダウンする管理対象マシン」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シャットダウン」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シャットダウンする管理対象マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シャットダウン」をクリックします。

「シャットダウン」した場合、「電源」欄のアイコンは、「 (黒)Off」になります。

「シャットダウン」に失敗した場合は、何も表示しません。

重要

- シャットダウンを行う場合は、マシンにDPMクライアントをインストールしてください。詳しくは「インストールガイド 2.2 DPM クライアントをインストールする」を参照してください。
- Windowsの管理対象マシンの状態が以下の場合は、シャットダウンできません。
 - ・ワークステーションロックによりロックされている状態
 - ・パスワード付きスクリーンセーバによるロック状態
 - ・リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
 - ・編集集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態既定でパスワードロックがかかるOSの場合は、必ず、パスワードロックを解除してから、シャットダウンしてください。

注意

Linux のマシンが X Window システムで動作している場合は、コンソールが起動していないとシャットダウンを実行されたことが認識できません。

ヒント

- 「シャットダウン」を選択後も「管理対象マシン一覧」グループボックスの状態が電源 ON のままの場合は、「操作」メニューから「画面更新」をクリックし、最新の情報に更新してください。
- シャットダウンを行うマシンが Windows の場合は、マシン側でカウントダウンのダイアログボックスが表示されます。この時に「キャンセル」ボタンをクリックすると、シャットダウンを中止することができます。マシンが Linux の場合は、マシン側でカウントダウンメッセージが表示されますが、コンソール上で `/usr/local/bin/depcancel` を実行することによりシャットダウンを中止することができます。管理対象マシンの OS が SUSE Linux Enterprise の場合で X-Window が起動していない環境(ランレベル 3)では、リモートアップデート、およびリモートシャットダウン時のメッセージが 2 行表示されることがありますが、動作に影響はありません。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シャットダウン」については、「3.6.1 一括操作」を参照してください。

3.8.3. シナリオ割り当て

管理対象マシンに対してシナリオ割り当てします。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ割り当てする管理対象マシン」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ割り当て」をクリックします。
- (5) 「シナリオ割り当て」画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「シナリオ割り当て」画面は、以下の手順でも表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ割り当てする管理対象マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ割り当て」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「シナリオ割り当て」画面が表示されますので、各項目を設定します。

シナリオ割り当て

基本情報	管理対象マシンの基本情報を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
名前	管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
グループ	管理対象マシンが所属するグループの名前を表示します。
UUID	UUIDを表示します。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。管理対象マシンに複数のIPアドレスがある場合は、すべてのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。
Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを表示します。
OS名	OS名を表示します。
サービスパック	マシンのサービスパックの情報を表示します。 サービスパックを適用していない場合は、表示されません。

シナリオ設定

シナリオ割り当て	シナリオの割り当てをする場合に選択します。 本項目を選択すると、「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
シナリオ名	マシンに割り当てるシナリオを設定します。「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

	シナリオ割り当て解除	この画面では、「シナリオ割り当て解除」は選択できません。 「シナリオ割り当て解除」する場合は、「管理対象マシン一覧」グループボックス→「アクション」メニュー→「シナリオ割り当て解除」から実行してください。詳細は、「3.5 マシングループ詳細」を参照してください。(※1)
	シナリオ実行管理スケジュール	「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールの設定ができます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。
	一回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。
	日付 (設定必須)	日付を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	日単位	開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。
	開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	間隔 (設定必須)	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 既定値は、「1日に一回」です。
	週単位	毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。
	開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。

	月単位	毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始月 (設定必須)	開始月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。	
	終了月	終了月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。	
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59	
	毎月 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「毎月」を選択した場合は、リストボックスから日を選択してください。 例)「月末」日	
	曜日 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「曜日」を選択した場合は、リストボックスから曜日を選択してください。 例)第「1」月曜日	
すぐに実行		シナリオ割り当てを行い、すぐにシナリオ実行します。	
OK		「シナリオ割り当て」画面の設定内容でシナリオ割り当てされ、元のウィンドウに戻ります。	
キャンセル		「シナリオ割り当て」画面の設定内容でシナリオ割り当てせずに、元のウィンドウに戻ります。	

※1

「操作」メニュー→「一括シナリオ割り当て」画面の「シナリオ割り当て解除」も同様に、常時ラジオボタンを選択できません。

注意

- 以下のいずれかに該当すると、シナリオ実行が正常に行われない場合があります。
 - ・シナリオ実行時刻の設定後に管理サーバの時計の日付と時刻をシナリオ実行時刻を跨ぐ(未来から過去、または過去から未来)ように変更した
 - ・シナリオ実行時刻を電源 ON/シャットダウンの時刻と同一時刻に設定した
- 月単位で、毎月 29 日/30 日/31 日のいずれかを指定すると、月によって存在しない日がありますので、その場合、スケジュールは実行されません。
例)月単位の毎月31日を指定した場合、2月/4月/6月/9月/11月には、スケジュールは実行されません。1月/3月/5月/7月/8月/10月/12月にスケジュールが実行されます。

ヒント

すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ割り当て」については、「3.6.1 一括操作」を参照してください。

3.8.4. シナリオ割り当て解除

管理対象マシンに割り当てたシナリオを割り当て解除します。

「シナリオ割り当て解除」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**シナリオ割り当て解除する管理対象マシン**」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ割り当て解除」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**シナリオ割り当て解除する管理対象マシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ割り当て解除」を選択して実行してください。

ヒント

すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ割り当て解除」については、「3.6.1 一括操作」を参照してください。

3.8.5. 電源管理スケジュール

管理対象マシンに対して電源管理スケジュールを設定します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**電源管理をスケジュールする管理対象マシン**」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「電源管理スケジュール」→「OK」ボタンをクリックします。
- (5) 「OK」ボタンをクリックすると、「電源管理スケジュール」画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「電源管理スケジュール」画面は、以下の手順でも表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「電源管理をスケジュールする管理対象マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「電源管理スケジュール」→「OK」ボタンをクリックします。
- (5) 「OK」ボタンをクリックすると、「電源管理スケジュール」画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理 |

リソース > マシン > ▼ > Client01 > 電源管理スケジュール

電源管理スケジュール

基本情報

名前	Client01
グループ	Group01
UUID	00000000-0000-0000-0000-0003#000001
IPアドレス	172.128.154.54
MACアドレス	00-03-ff-00-00-01(*)
Deploy-OS	デフォルト値を使用
OS名	
サービスパック	

☐ 電源管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 曜日指定

☐ 電源ON時刻 2012/06/20 時 分

☐ シャットダウン時刻 2012/06/20 時 分

☐ カウントダウンダイアログを表示しない

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2012. Version: DeploymentManager 6.1-20813

電源管理スケジュール	
基本情報	管理対象マシンの基本情報を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
名前	管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
グループ	管理対象マシンが所属するグループの名前を表示します。
UUID	UUIDを表示します。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。管理対象マシンに複数のIPアドレスがある場合は、すべてのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。
Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを表示します。
OS名	OS名を表示します。
サービスパック	マシンのサービスパックの情報を表示します。 サービスパックを適用していない場合は、表示されません。

電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。
一回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
曜日指定	設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールが実行されます。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 「電源ON時刻」と同時に指定する場合は、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
OK		「電源管理スケジュール設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「電源管理スケジュール設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.8.6. シナリオ実行

管理対象マシンに割り当てたシナリオを実行します。

「シナリオ実行」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**シナリオ実行する管理対象マシン**」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ実行」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**シナリオ実行する管理対象マシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ実行」をクリックします。

重要

- バックアップ/リストア/ディスク構成チェックのシナリオを実行するには、シナリオ実行前に管理対象マシンに対して使用している機種に応じた Deploy-OS を設定する必要があります。詳細については、「3.9.2 新規マシン登録」を参照してください。
- リモートアップデートシナリオ以外のシナリオを実行する際に管理対象マシンの電源が ON 状態でシナリオ実行が開始されない場合には以下のいずれかの操作を行ってください。
 - ・「シナリオ編集」画面から、「オプション」タブ-「シナリオ実行動作設定」グループボックスにて、「シナリオ開始時に対象マシンの OS を再起動する」のチェックを入れる
 - ※Windows の管理対象マシンが以下の状態の場合は、「シナリオ開始時に対象マシンの OS を再起動する」にチェックを入れていても再起動できません。
 - ワークステーションロックによりロックされている状態
 - パスワード付きスクリーンセーバによるロック状態
 - リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
 - 編集集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態
 - ・手動で管理対象マシンを再起動する。

注意

- DPM は、マルチキャストでデータを送信する場合は、UDP 通信を行います。UDP 通信では転送速度が異なる機器が経路上にある場合などで、送信側と受信側で転送するデータ量に差が生じ、データがうまく転送できない状態になることがあります。このような場合は、シナリオ完了までの時間が長くなる場合があります。
- DPM を用いて Express5800 シリーズ向けの RUR(リビジョンアップリリース)モジュールを適用する場合は、適用対象のマシンに任意のユーザでログインし、スクリーンセーバが起動していない状態でシナリオを実行する必要があります。ログインしていてもマシンのロック状態や、適用中にスクリーンセーバが起動した場合、自動インストールが継続できない場合があります。
- サービスパック適用前後で、ファイアウォール機能が無効から有効に切り替わるサービスパック (Windows XP SP2 など)をシナリオ実行した場合は、サービスパック適用時にほぼすべてのポートがブロックされ、管理対象マシンと通信できない状態となるため、シナリオ実行エラーとなってしまいます。その場合は、エラー解除した後にはポート開放ツールにて、DPM で使用するポートを開放してください。
ポート開放ツールについては、「7.1 ポート開放ツール」を参照してください。

ヒント

- 再起動前の管理対象マシンは、シナリオの「パッケージ」タブ-「実行タイミング設定」の「次回起動時にパッケージを実行」を指定したシナリオを合計 100 個実行することができます。101 個以上のシナリオを実行する場合は、管理対象マシンを再起動してください。再起動することにより新たに 100 個のシナリオを実行することができます。
- サービスパック/HotFix/Linux パッチファイルの適用と同時にアプリケーションも設定した場合は、サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル適用の後にアプリケーションのインストールを実行します。
- すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ実行」については、「3.6.1 一括操作」を参照してください。

また、「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「ガードパラメータ設定」画面の「シナリオ実行」に「パスワード」、または「警告」を設定している場合は、シナリオ実行時に以下の「シナリオ設定確認」画面が表示されます。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

DeploymentManager

運用 | 監視 | 管理 |

運用

リソース > マシン > Group01 > シナリオ設定確認

シナリオ設定確認

シナリオ名

Restore

シナリオ情報

シナリオ名	Restore
シナリオグループ名	ScenarioGroup01
種類	リストア
リストア	
イメージファイル	C:\DeployBackup\test.lbr
フルセクタオプション	指定
ディスク番号	1
パーティション設定	ディスク全体
隠しパーティションを無視する	無視する
配信条件設定	ユニキャストでデータを送信する

オプション

シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	いいえ
シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	いいえ

対象マシン

管理対象マシン名	Client01

OK

キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2012. Version: DeploymentManager 6.1-20813

シナリオ設定確認	
シナリオ名	シナリオ名を表示します。
シナリオ情報	
シナリオ名	シナリオ名を表示します。
シナリオグループ名	シナリオグループ名を表示します。
種類	シナリオの種類を表示します。
ここに表示されるシナリオの情報については、「シナリオ名」で選択するシナリオの種類によって異なります。詳細については、「3.15 シナリオの詳細情報」を参照してください。	
オプション	
「シナリオ追加」画面-「オプション」タブで設定した「シナリオ実行動作設定」が表示されます。設定については、「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。	
対象マシン	
管理対象マシン名	シナリオ実行する管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
OK	「シナリオ設定確認」画面の設定内容でシナリオ実行され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオ設定確認」画面の設定内容でシナリオ実行せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.8.7. シナリオ実行中断

管理対象マシンに割り当てたシナリオ実行を中断します。

「シナリオ実行中断」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行中断する管理対象マシン」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「シナリオ実行中断」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行中断する管理対象マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「シナリオ実行中断」をクリックします。

「シナリオ実行中断」した場合、マシン名のアイコンは、になり、「シナリオ実行中断」が表示されます。「シナリオ実行中断」に失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

重要

- シナリオ中断したシナリオを、再開して実行できません。再度、シナリオを実行する時は、シナリオ実行中断処理が終わってから、再度シナリオ実行を行ってください。
- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXEブートするタイミングで電源OFFされます。
- 同時実行可能台数を超えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。

注意

「シナリオ実行中断中」のステータスは、中断処理が完了すれば自動的にクリアされ正常に戻ります。実行していたシナリオによっては、中断処理に時間がかかる場合があります。

ヒント

すべての管理対象マシンを一括操作する「一括シナリオ実行中断」については、「3.6.1 一括操作」を参照してください。

3.8.8. エラー解除

管理対象マシンに割り当てたシナリオの「シナリオ実行エラー」、または「リモート電源ONエラー」のエラーを解除します。「エラー解除」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**エラー解除する管理対象マシン**」の名前をクリックします。
- (4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「エラー解除」をクリックします。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**エラー解除するマシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) 「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**エラー解除する管理対象マシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「エラー解除」をクリックします。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

3.8.9. 中断解除

管理対象マシンに割り当てたシナリオを中断解除します。

「中断解除」は、管理対象マシン1台のみ、または複数台選択して個別に操作する「マシン個別操作」があります。

中断解除は、「シナリオ実行中断」を行ってから2時間以上経過しているが最新情報の取得をしてもステータスが「シナリオ実行中断」、または「中断処理中」の管理対象マシンの電源を手動でOFFにした場合に行います。

通常、「シナリオ実行中断」の処理が完了するとステータスが正常に戻るため「中断解除」を行う必要はありません。

・管理対象マシン1台のみ操作する場合

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「**マシングループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**中断解除する管理対象マシン**」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「中断解除」をクリックします。

・管理対象マシンを複数台選択して操作する場合

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**中断解除する管理対象マシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「中断解除」をクリックします。

ヒント

- 「シナリオ実行中断解除」を選択後も、DPM の Web コンソールのマシンのステータスが「シナリオ実行中断」のままの場合は、「操作」メニューの「画面更新」をクリックして、最新の情報に更新してください。
- 「シナリオ実行中断解除」を行うと、中断処理が正常に行われず、以下のような状態になる場合があります。この場合は、管理対象マシンの電源を手動で「ON」、または「OFF」にしてください。
 - ・Web コンソールから管理対象マシンの電源を「ON」、または「OFF」できない。
 - ・シナリオ実行できない。

3.8.10. ファイル/フォルダ詳細

管理対象マシンのファイル/フォルダの一覧を表示します。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**ファイル/フォルダの一覧を表示する管理対象マシン**」の名前をクリックします。

(4) 管理対象マシンに対する「操作」メニューが表示されますので、「ファイル/フォルダ詳細」をクリックします。

また、「ファイル/フォルダ詳細」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「**ファイル/フォルダの一覧を表示する管理対象マシン**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。

(4) 「アクション」メニューの「マシン個別操作」より「ファイル/フォルダ詳細」をクリックします。

(5) メインウインドウに「ファイル/フォルダ詳細」画面が表示されます。



ファイル/フォルダ詳細	
基本情報	管理対象マシンの基本情報を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
名前	管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
グループ	管理対象マシンが所属するグループの名前を表示します。
UUID	UUIDを表示します。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。管理対象マシンに複数のIPアドレスがある場合は、すべてのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。
Deploy-OS	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを表示します。
OS名	OS名を表示します。
サービスパック	マシンのサービスパックの情報を表示します。 サービスパックを適用していない場合は、表示されません。
フォルダパス	カレントフォルダのパスを表示します。
表示件数	カレントフォルダ直下のフォルダ、およびファイルの表示件数が選択できます。
ファイル名	フォルダ、またはファイルの名前を表示します。編集はできません。 ドライブ名/フォルダ名のリンクをクリックすると、該当ドライブ/フォルダ直下の内容を表示します。 📁..リンクをクリックすると、一つ上の階層を表示します。
更新日時	フォルダ、またはファイルの更新日時を表示します。編集はできません。 ドライブの場合は表示されません。

サイズ	ファイルサイズを表示します。編集はできません。 ドライブ/フォルダの場合は表示されません。

注意

以下のいずれかに該当する場合は、該当のフォルダ、またはファイル名を正しく表示できません。

- ・管理対象マシンがLinux OSで、フォルダパス/ファイルパスに以下の文字が含まれている場合
「¥」、「:」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」、「\$」、「~」、「\」
- ・フォルダパス/ファイルパスが259Byteより長い場合

3.9. 「新規マシン」アイコン

「新規マシン」アイコンでは、新規マシンを管理します。

「新規マシン」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンからアクセスできます。

「新規マシン」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「新規マシン一覧」グループボックスが表示されます。

なお、「新規マシン」アイコンは、管理対象マシンがPXEブートに対応していれば、PXEパケット受信時に自動的にリソースツリーに「新規マシン」アイコンを表示します。

また、PXEブートに対応していない場合でも、DPMクライアントがインストールされていれば、管理対象マシン起動時にDPMクライアントが管理サーバへ通信を行い、自動的にリソースツリーに「新規マシン」アイコンを表示します。



新規マシン一覧	
表示件数	新規マシンの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	・「マシン追加」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている新規マシンを追加します。 - 複数チェックを入れると、複数の新規マシンをまとめて追加できます。 ・「マシン削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っている新規マシンを削除します。 - 複数チェックを入れると、複数の新規マシンをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されている新規マシンすべてにチェックが入ります。
MACアドレス	新規マシンのMACアドレスを表示します。 MACアドレスをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」グループボックスが表示されます。基本情報については、「3.9.1 新規マシンの基本情報」を参照してください。
UUID	新規マシンのUUIDを表示します。

IPアドレス	新規マシンのIPアドレスを表示します。 複数のIPアドレスが存在する場合は、管理サーバと通信するIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報が無い場合は、空白を表示します。

3.9.1. 新規マシンの基本情報

新規マシンの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。
- (3) 「新規マシン一覧」画面が表示されますので、詳細情報を表示する新規マシンの「MACアドレス」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「基本情報」グループボックスが表示されますので、新規マシンの基本情報を確認してください。



基本情報	
UUID	UUIDを表示します。編集はできません。
MACアドレス	MACアドレスを表示します。編集はできません。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。編集はできません。 複数のIPアドレスが存在する場合は、管理サーバと通信するIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報が無い場合は、空白を表示します。

3.9.2. 新規マシン登録

新規マシンを追加します。

新規マシンの追加は、1台のみ、または複数台選択して同一のグループに追加できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「新規マシン一覧」画面が表示されますので、「追加する新規マシン」の左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「マシン追加」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「新規マシン追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。

また、「新規マシン追加」画面は、以下の手順でも表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコン→「追加する新規マシンのMACアドレス」をクリックします。
- (3) 新規マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン追加」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「新規マシン追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > マシン > 新規マシン > 新規マシン追加

新規マシン追加

グループ名

マシン

Group01

マシン名

PC-192_168_0_1(00-24-1d-76-72-1c)

識別名

MACアドレス

00-24-1d-76-72-1c

UUID

00241d76-721c-0905-0010-001800232009

IPアドレス

192.168.0.1

Deploy-OS

デフォルト値を使用

シナリオ設定

☐ シナリオ割り当て

シナリオ名

参照

☐ シナリオ割り当て解除

☐ シナリオ実行管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 日単位 ☐ 週単位 ☐ 月単位

日付

2010/12/31

時刻

時 分

☐ 電源管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 曜日指定

☐ 電源ON時刻

2010/12/31

時 分

☐ シャットダウン時刻

2010/12/31

時 分

☐ カウントダウンダイアログを表示しない

ネットワーク設定

☒ DPMサーバと同じサブネットワーク

☐ DPMサーバと別のサブネットワーク

デフォルトゲートウェイ

サブネットマスク

自動更新設定

自動更新機能

起動時OFF

自動更新時間

0:00

適用契機

次回起動時に実行

リトライ回数

1

リトライ間隔(分)

5

OK キャンセル

Version: DeploymentManager 6.02-18955

新規マシン追加	
グループ名	ツリーからマシン追加先のグループ名を選択します。
マシン名	新規マシンの名前を表示します。 新規マシンを1台追加する場合は、管理対象マシン名を編集できます。入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみのマシン名には、変更できません。 .,;`~!@#\$%^&*+=+{}%¥ :'"<>/?[] デフォルトは、「PC-xxx_xxx_xxx_xxx(yy-yy-yy-yy-yy-yy)」となります。 xxx_xxx_xxx_xxxはIPアドレス、yy-yy-yy-yy-yy-yyはMACアドレスです。 なお、IPアドレスが取得できない場合は、「PC-(yy-yy-yy-yy-yy-yy)」となります。 新規マシンを複数追加する場合は、リストボックスにすべての新規マシンの名前が表示されます。この場合は、マシン名の編集はできません。 DPMクライアントがインストールされている場合は、Webコンソール上で登録した新規管理対象マシン名と実際の管理対象マシン名が違っていても、管理対象マシンを電源ONしたときに自動でWebコンソール上の新規管理対象マシン名を実際の管理対象マシン名に変更します。
識別名	新規マシンを1台追加する場合は、管理対象マシンの識別名を入力します。 入力できる文字数は、1～63Byte(半角1～63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。また、数字のみの識別名は、登録できません。 .,;`~!@#\$%^&*+=+{}%¥ :'"<>/?[] 同じDPMサーバ配下で同じ識別名は作成不可です。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。
MACアドレス	新規マシンを1台追加する場合は、MACアドレスを自動的に取得し、表示します。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。
UUID	新規マシンを1台追加する場合は、UUIDを自動的に取得し、表示します。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。
IPアドレス	新規マシンを1台追加する場合は、IPアドレスを自動的に取得し、表示します。編集する場合は、入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 同じDPMサーバ配下で同じIPアドレスには、変更できません。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。 新規マシンを複数追加する場合は、本項目は表示されません。

Deploy-OS		バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSを設定します。 各機種で設定する値については、以下の製品サイトを参照してください。 WebSAM DeploymentManager (http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/) →「動作環境」を選択 →「対応装置一覧」を選択 リストボックスには、DPMサーバにインストールされているDeploy-OSが表示されます。 使用している機種で設定するDeploy-OSがリストボックスに表示されない場合は、上記製品サイトから機種対応モジュールを入手してDPMサーバにインストールすると、対応するDeploy-OSがリストボックスに表示されます。
シナリオ設定		
	シナリオ割り当て	シナリオの割り当てをする場合に選択します。 本項目を選択すると、「シナリオ名」テキストボックスの「参照」ボタンが有効になります。
	シナリオ名	追加する管理対象マシンに割り当てるシナリオを設定します。「参照」ボタンをクリックすると「シナリオ選択」画面が表示されますので、シナリオを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。
	シナリオ割り当て解除	シナリオの割り当てを解除する場合に選択します。
シナリオ実行管理スケジュール		「シナリオ実行管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行管理スケジュールが設定できます。シナリオを設定していない場合は、チェックボックスにチェックを入れることができません。項目を有効にした場合は、設定必須です。
一回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
	日付 (設定必須)	日付を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力値は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
日単位	開始日を基準とし、設定した「日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力値は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力値は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	間隔 (設定必須)	日単位で間隔を編集します。「1～99」日の範囲で設定できます。 既定値は、「1日に一回」です。

週単位	毎週、設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始日 (設定必須)	開始日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。
	終了日	終了日を設定します。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 終了日を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
月単位	毎月、設定した「日時」の「時刻」にスケジュールを実行します。	
	開始月 (設定必須)	開始月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。
	終了月	終了月を設定します。 年月を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM」形式で入力してください。 終了月を設定しない場合は、スケジュールは設定した内容で繰り返し実行されます。設定必須ではありません。
	時刻 (設定必須)	時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	毎月 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「毎月」を選択した場合は、日を選択します。 ・01～31 ・月末 例)「月末」日
	曜日 (毎月/曜日のどちらか設定必須)	「曜日」を選択した場合は、曜日を設定します。 例)第「1」「月曜日」
	左のリストボックス 右のリストボックス	以下から選択できます。 ・「第」1～4 ・「第」最終 以下から選択できます。 ・月曜日～日曜日
電源管理スケジュール		「電源管理スケジュール」チェックボックスにチェックを入れると、マシンの電源状態を管理できます。 チェックを入れた場合は、「電源ON時刻」か「シャットダウン時刻」のどちらか、または両方を設定します。

1回のみ	1回のみ、スケジュールを実行します。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「  」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59 現在時刻から5分以降の時刻を設定します。「電源ON時刻」と同時に指定する場合、間隔を10分以上空けて設定します。
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
曜日単位	設定した「曜日」の「時刻」にスケジュールが実行されます。	
	電源ON時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「電源ON時刻」チェックボックスにチェックを入れると、電源ON時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	シャットダウン時刻 (電源ON時刻/シャットダウン時刻のどちらか、または両方設定必須)	「シャットダウン時刻」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時刻を設定できます。 テキストボックスは、以下の範囲で入力できます。 ・「時」0～23 ・「分」0～59
	カウントダウンダイアログを表示しない	「カウントダウンダイアログを表示しない」チェックボックスにチェックを入れると、シャットダウン時にカウントダウンダイアログを表示しません。
	曜日指定 (設定必須)	日曜日～土曜日のいずれか一つ以上設定します。
ネットワーク設定		新規管理対象マシンのネットワーク設定を行います。 デフォルトは、「DPMサーバと同じサブネットワーク」が選択されています。
	DPMサーバと同じサブネットワーク	DPMサーバと同じサブネットワークの場合に選択します。

	DPMサーバと別のサブネットワーク		DPMサーバと別のサブネットワークの場合に選択します。 新規管理対象マシンがルータを介して管理サーバとは別のサブネットワークに属する場合に設定します。 「DPMサーバと別のサブネットワーク」を設定した場合は、以下の項目が有効になります。 ・デフォルトゲートウェイ ・サブネットマスク 項目を有効にした場合は、設定必須です。
		デフォルトゲートウェイ (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、デフォルトゲートウェイを設定します。IPアドレスの最上位(第1オクテット)は、「1～223」の範囲で設定できます。
		サブネットマスク (設定必須)	DPMサーバと別のサブネットワークの場合は、サブネットマスクを設定します。
	自動更新設定		新規管理対象マシンの自動更新設定を行います。 デフォルトは、「管理」ビューの「自動更新設定」画面で設定した値です。 「自動更新設定」画面については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。
	自動更新機能		自動更新機能を設定します。以下から選択できます。 ・常にOFF ・起動時ON ・起動時OFF デフォルトは、「起動時OFF」です。 「常にOFF」が設定されている場合は、以下の設定は無効になります。 ・自動更新時間 ・適用契機 ・リトライ回数 ・リトライ間隔(分) 自動更新機能を「常にOFF」に設定すると、管理対象マシンは管理サーバに未適用パッケージの配信要求を行いません。(※「自動更新設定例と動作」については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
	自動更新時間		自動更新時間を設定します。
		左のリストボックス	自動更新を実行する日を設定します。以下から選択できます。 ・毎日 ・日曜日～土曜日 デフォルトは、空白です。
		右のリストボックス	「0:00～23:00」までの1時間単位で選択できます。
	適用契機		グループに新規管理対象マシンを登録した際の、自動更新適用契機についての動作を設定します。以下から選択できます。 ・すぐ実行 ・次回起動時に実行 ・ユーザ確認画面を表示 適用契機に「すぐ実行」、「次回起動時に実行」を設定している場合は、管理対象マシンにユーザ確認画面は表示されません。(※「適用契機」の各選択肢と動作については、「2.7.4 自動更新設定」を参照してください。)
OK	リトライ回数		管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定したリトライ回数で接続をリトライします。「0～5回」の範囲で設定できます。
	リトライ間隔(分)		管理サーバとの接続に失敗した場合は、設定した時間の間隔でリトライします。「5～30」分までの5分間隔で設定できます。
	キャンセル		「新規マシン追加」画面の設定内容で新規マシンを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.9.3. 新規マシン削除

新規マシンを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。
- (3) 「新規マシン一覧」画面が表示されますので、削除する新規マシンの左端のチェックボックスにチェックを入れ、「アクション」リンクの「マシン削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (4) 「OK」ボタンをクリックします。

また、「新規マシン削除」は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「新規マシン」アイコンをクリックします。
- (3) 「新規マシン一覧」画面が表示されますので、「削除する新規マシンのMACアドレス」をクリックします。
- (4) 新規マシンに対する「設定」メニューが表示されますので、「マシン削除」をクリックします。
- (5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

3.10. 「シナリオ」アイコン

「シナリオ」アイコンでは、シナリオグループ、およびシナリオを管理します。

「シナリオ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「シナリオ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「シナリオ」からアクセスできます。

「シナリオ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「グループ一覧」グループボックスが表示されます。



シナリオグループ一覧	
表示件数	シナリオグループの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオグループを削除します。 複数チェックを入れると、複数のシナリオグループをまとめて削除できます。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているシナリオグループすべてにチェックが入ります。
名前	シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のサブグループ数を表示します。
シナリオ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のシナリオ数を表示します。
編集	シナリオグループ名の編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオグループ編集」画面が表示されます。 「シナリオグループ編集」画面については、「3.12.1 シナリオグループ編集」を参照してください。

ヒント

DPM サーバをインストールすると、「Built-in Scenarios」シナリオグループが作成され、以下のシナリオが登録されます。

- ・System_AgentUpgrade_Multicast
- ・System_Backup
- ・System_DiskProbe
- ・System_LinuxAgentUpgrade_Multicast
- ・System_LinuxMasterSetup(※)
- ・System_Restore_Unicast
- ・System_WindowsMasterSetup(※)
- ・System_WindowsMasterSetupVM(※)

※マスタマシンセットアップ用のシナリオとなります。シナリオを正常に動作させるための特別な処理が組み込まれており、削除、編集することができません。コピーはできますが、コピー後、シナリオを編集すると特別な処理がクリアされてしまいマスタマシンのセットアップ用には使用できなくなります。

3.10.1. シナリオグループ追加

シナリオの追加を行う前に、シナリオが属するシナリオグループを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ追加」をクリックします。

- (4) メインウィンドウに「シナリオグループ追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。



シナリオグループ追加		
名前 (入力必須)	シナリオグループ名を入力します。入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ; /	
OK	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でシナリオグループが作成され、元のウィンドウに戻ります。	
キャンセル	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でシナリオグループを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。	

シナリオグループ数、およびシナリオファイル数に関する上限は、以下の表のとおりです。

項目	上限値
シナリオグループ総数(サブシナリオグループを含む全シナリオグループの合計数)	1000
シナリオグループの階層数	20
1シナリオグループに登録できるシナリオファイル数	制限なし
シナリオ総数(サブシナリオグループを含めた全シナリオグループに所属するシナリオの合計数)	制限なし

3.10.2. シナリオグループ削除

シナリオグループを削除します。

- Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコンをクリックします。
- メインウィンドウに「グループ一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するシナリオグループ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- 「OK」ボタンをクリックします。

また、シナリオグループ削除は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコンをクリック→「シナリオ」アイコン→「**削除するシナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。
- (4) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

- シナリオグループを削除すると、当該グループ配下にあるサブシナリオグループとシナリオも削除されます。
- 「シナリオ実行中」、「シナリオ実行エラー」、「シナリオ実行中断」のマシンがある場合は、シナリオグループの削除はできません。

3.11. 「シナリオグループ」アイコン

「シナリオグループ」アイコンでは、シナリオをシナリオグループごとに分類、管理します。

「シナリオグループ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンからアクセスできます。

「シナリオグループ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。

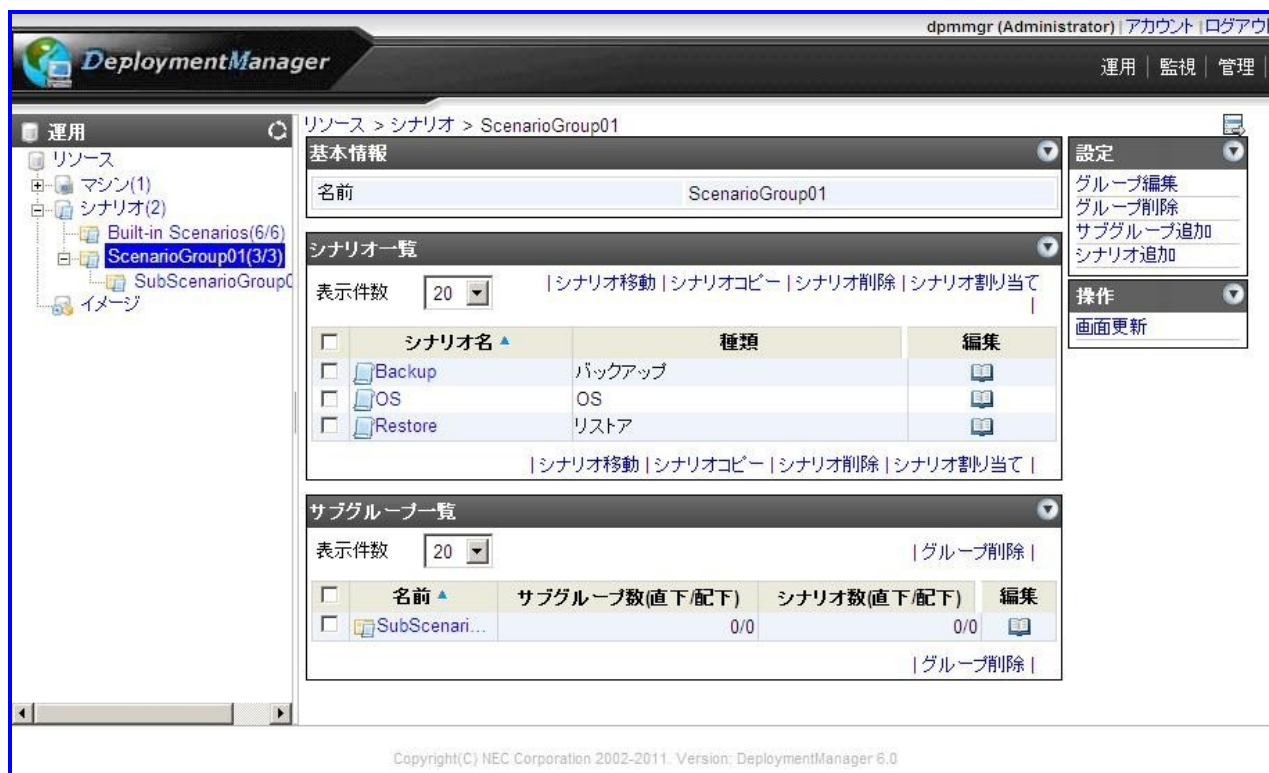
画面については、「3.12 シナリオグループ詳細」を参照してください。

3.12. シナリオグループ詳細

シナリオグループの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**詳細を表示するシナリオグループ**」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ一覧」、「サブグループ一覧」グループボックスが表示されます。



基本情報		シナリオグループの基本情報を表示します。 このグループボックスは、デフォルトで非表示になっています。 右端の矢印(▼)をクリックして展開してください。
親グループ名		サブシナリオグループ(第2階層以下のシナリオグループ)の場合のみ、親グループ名が表示されます。「シナリオ」アイコン直下のシナリオグループ(第1階層のシナリオグループ)の場合、親グループ名は表示されません。
名前		シナリオグループの名前を表示します。
シナリオ一覧		
表示件数		このグループに登録されているシナリオの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク		・「シナリオ移動」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオのグループ間移動を行います。 複数チェックを入れると、複数のシナリオをまとめてグループ間移動できます。 ・「シナリオコピー」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオのコピーを行います。複数のシナリオを同時にコピーはできません。 ・「シナリオ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオの削除を行います。 複数チェックを入れると、複数のシナリオをまとめて削除できます。 ・「シナリオ割り当て」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているシナリオを管理対象マシンに割り当てます。複数のシナリオを同時に割り当てはできません。
(チェックボックス)		1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているシナリオすべてにチェックが入ります。
シナリオ名		このシナリオグループに登録されているシナリオの名前を表示します。
種類		シナリオの種類を表示します。

編集	シナリオの編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されます。 「シナリオ編集」画面については、「3.13.1 「HW設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。
サブグループ一覧	
表示件数	このグループに登録されているサブグループの表示件数が選択できます。
「アクション」リンク	「グループ削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているサブグループを削除します。
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているサブグループすべてにチェックが入ります。
名前	このグループに登録されているサブグループの名前を表示します。
サブグループ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のサブグループ数を表示します。
シナリオ数(直下/配下)	当該グループの直下/配下のシナリオ数を表示します。
編集	シナリオグループ名の編集を行います。「  」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオグループ編集」画面が表示されます。「シナリオグループ編集」画面については、「3.12.1 シナリオグループ編集」を参照してください。

3.12.1. シナリオグループ編集

シナリオグループ名を編集します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**編集するシナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ編集」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「シナリオグループ編集」画面が表示されますので、シナリオグループ名を編集してください。



シナリオグループ編集	
名前 (入力必須)	シナリオグループ名を編集します。入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ; /
OK	「シナリオグループ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオグループ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.12.2. シナリオグループ削除

シナリオグループを削除します。

詳細は、「3.10.2 シナリオグループ削除」を参照してください。

3.12.3. サブシナリオグループ追加

サブシナリオグループを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「サブシナリオグループを追加するシナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「サブグループ追加」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「シナリオグループ追加」画面が表示されますので、サブシナリオグループ名を設定します。



シナリオグループ追加	
親グループ名	親シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
名前 (設定必須)	シナリオグループ名を設定します。 入力できる文字数は、1～64Byte(半角1～64文字/全角32文字)です。同一階層では、同名不可です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ; /

OK	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でサブシナリオグループが作成され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオグループ追加」画面の設定内容でサブシナリオグループを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

シナリオグループ数、およびシナリオファイル数に関する上限は以下の表のとおりです。

項目	上限値
シナリオグループ総数(サブシナリオグループを含む全シナリオグループの合計数)	1000
シナリオグループの階層数	20
1シナリオグループに登録できるシナリオファイル数	制限なし
シナリオ総数(サブシナリオグループを含めた全シナリオグループに所属するシナリオの合計数)	制限なし

3.12.4. サブシナリオグループ削除

サブシナリオグループを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**サブシナリオグループを削除するシナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) 「サブグループ一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するサブシナリオグループ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「グループ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、サブシナリオグループの削除は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**サブシナリオグループを削除するシナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) 「サブグループ一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するサブシナリオグループ**」の名前をクリックします。
- (4) 「サブシナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「グループ削除」をクリックします。
- (5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

3.12.5. シナリオ追加

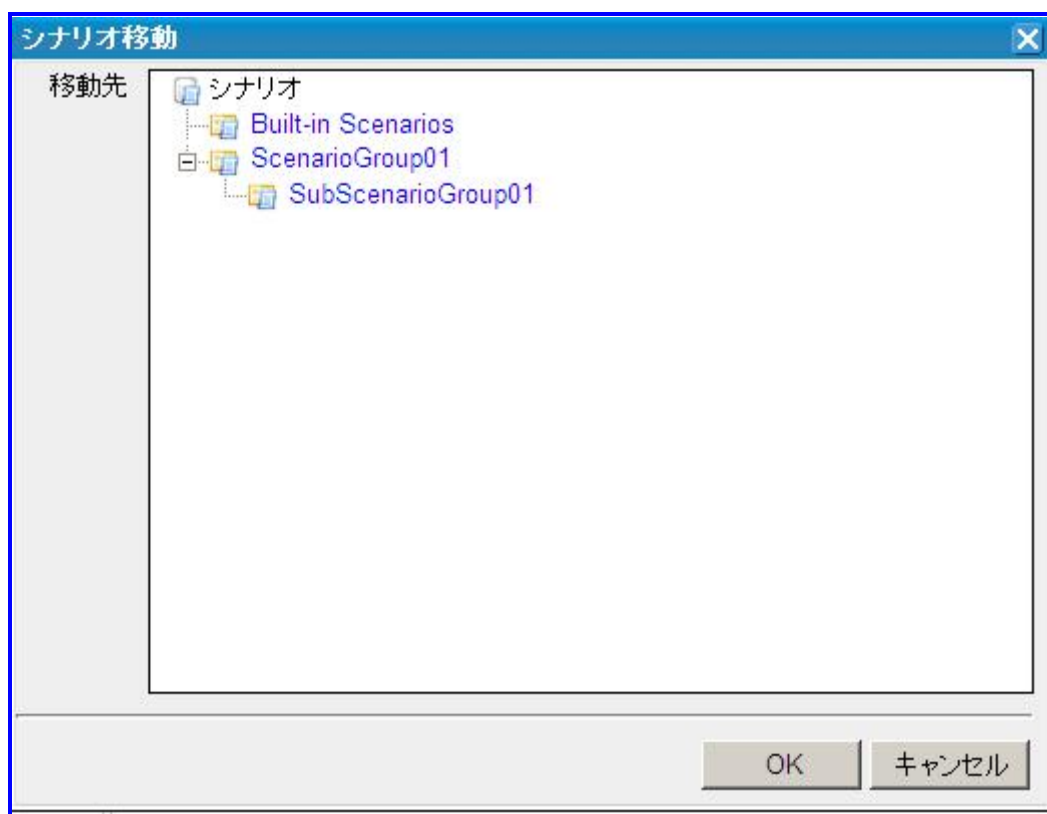
シナリオを追加します。

詳細については、「3.13 シナリオ追加」を参照してください。

3.12.6. シナリオ移動

シナリオをグループ間移動します。シナリオは、管理対象マシンの状態(自動更新の状態/シナリオの状態/電源の状態)を問わず、いつでも移動できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「移動するシナリオ」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「シナリオ移動」をクリックします。
- (5) 「シナリオ移動」ダイアログボックスが表示されますので、「移動先のグループ」を指定します



- (6) 「OK」ボタンをクリックします。

また、シナリオ移動は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**シナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「**移動するシナリオ**」の名前をクリックします。
- (4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ移動」をクリックします。
- (5) 「シナリオ移動」ダイアログボックスが表示されますので、「**移動先のグループ**」を指定します。
- (6) 「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

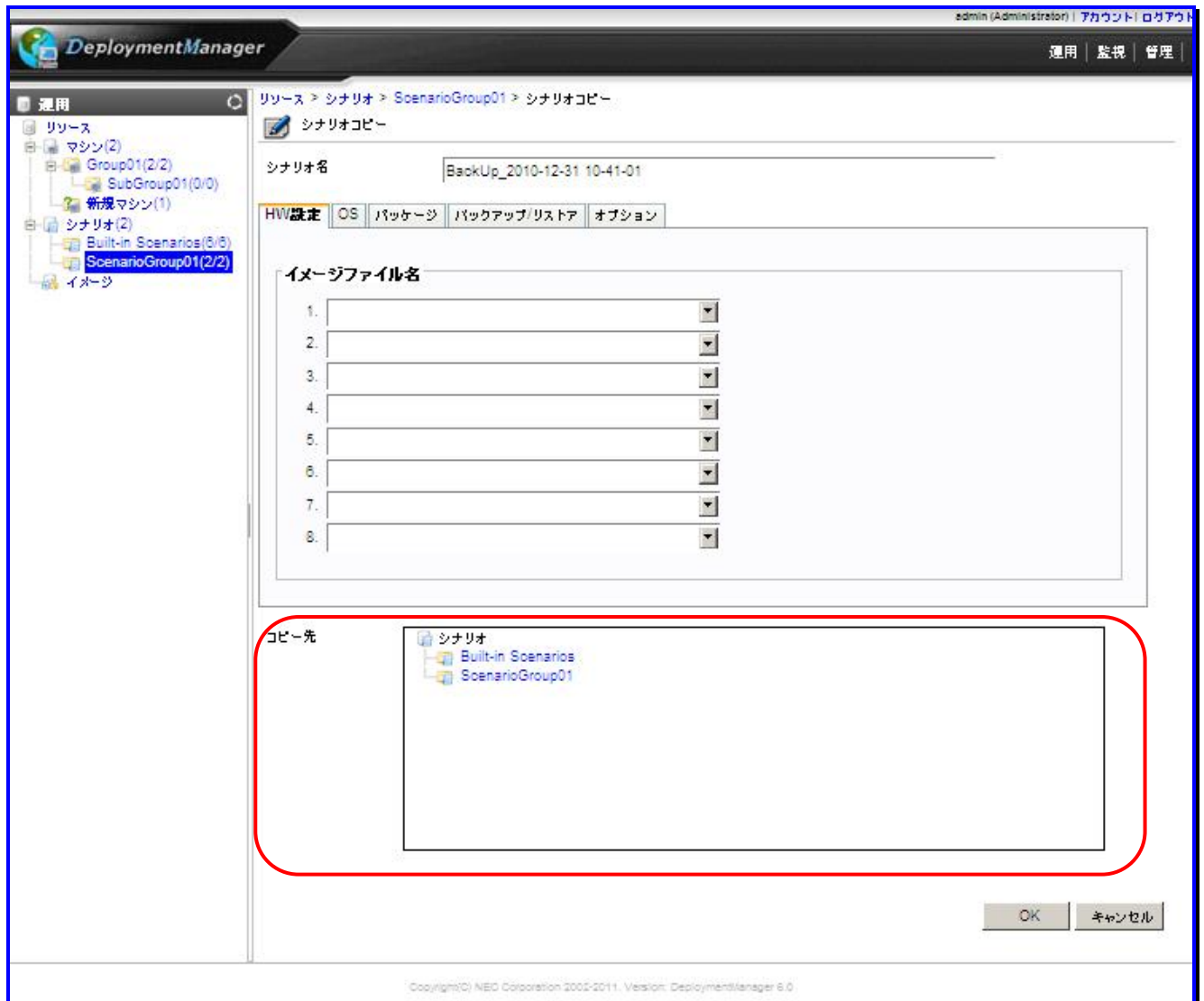
シナリオは、同一グループ配下の複数のシナリオを選択して移動することができます。

3.12.7. シナリオコピー

シナリオをグループ間コピーします。シナリオは、管理対象マシンの状態(自動更新の状態/シナリオの状態/電源の状態)を問わず、いつでもコピーできます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**シナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「**コピーするシナリオ名**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「シナリオコピー」をクリックします。

- (5) メインウィンドウに「シナリオコピー」画面が表示されますので、「コピー先」→シナリオグループツリー→「**コピー先のシナリオグループ**」を選択します。



- (6) 「OK」ボタンをクリックします。

また、「シナリオコピー」画面は、以下の手順でも表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「**シナリオグループ**」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「**コピーするシナリオ名**」をクリックします。
- (4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオコピー」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「シナリオコピー」画面が表示されますので、「コピー先」→シナリオグループツリー→「**コピー先のシナリオグループ**」を選択します。

(6) 「OK」ボタンをクリックします。

シナリオコピー	
シナリオ名 (入力必須)	コピー先のシナリオ名を表示します。 シナリオ名は、「コピー元のシナリオ名_YYYY-MM-DD hh-mm-ss」の形式で表示します。 シナリオ名は編集できます。入力できる文字数は、1～58Byte(半角1～58文字/全角29文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 . , ¥ / ; * ? " < >
コピー先	コピー先のシナリオグループを選択します。
OK	「シナリオコピー」画面の設定内容でシナリオコピーして、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオコピー」画面の設定内容でシナリオコピーせずに、元のウィンドウに戻ります。

ヒント

各タブの内容は、コピー元のシナリオの設定値を表示し、編集もできます。編集については、「3.13.1 「HW 設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。

3.12.8. シナリオ削除

シナリオを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「**削除するシナリオ**」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「シナリオ削除」をクリックすると、確認のダイアログボックスが表示されます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。

また、シナリオ削除は、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「削除するシナリオ」の名前をクリックします。
- (4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ削除」をクリックします。
- (5) 確認のダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

3.12.9. シナリオ割り当て

シナリオを割り当てます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ名」の左端のチェックボックスにチェックを入れます。
- (4) 「アクション」リンクの「シナリオ割り当て」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「シナリオ割り当て」画面が表示されますので、「グループ」を選択します。



- (6) 「管理対象マシン一覧」グループボックスに(5)で選択したグループ配下のマシン一覧が表示されますので、「シナリオ割り当てするマシン」を選択します。
- (7) 「OK」ボタンをクリックして、実行してください。

また、シナリオ割り当ては、以下の手順でも実行できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ名」をクリックします。
- (4) 「シナリオ」に対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ割り当て」をクリックします。

- (5) メインウィンドウに「シナリオ割り当て」画面が表示されますので、「グループ」を選択します。
- (6) 「管理対象マシン一覧」グループボックスに(5)で選択したグループ配下のマシン一覧が表示されますので、「シナリオ割り当てするマシン」を選択します。
- (7) 「OK」ボタンをクリックします。

3.13. シナリオ追加

シナリオを追加します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオ追加するシナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオグループ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ追加」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「シナリオ追加」画面が表示されますので、各項目を設定します。



シナリオ追加	
グループ名	シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
シナリオ名 (入力必須)	シナリオ名を設定します。入力できる文字数は、1～58Byte(半角1～58文字/全角29文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ., ¥ / : ; * ? " < >

ヒント

各タブ(「HW 設定」、「OS」、「パッケージ」、「バックアップ/リストア」、「オプション」)の説明については、「3.13.1 「HW 設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。

3.13.1. 「HW 設定」タブ

シナリオの「HW設定」タブを設定します。

The screenshot shows the 'Deployment Manager' application window. The left sidebar shows a tree view with 'Resources' > 'Scenarios' > 'ScenarioGroup01' selected. The main area is titled 'リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加' (Resources > Scenarios > ScenarioGroup01 > Add Scenario). Below this is a 'シナリオ追加' (Add Scenario) section with a 'グループ名' (Group Name) field containing 'ScenarioGroup01' and an empty 'シナリオ名' (Scenario Name) field. Below these are tabs: 'HW設定' (HW Setting), 'OS', 'パッケージ' (Package), 'バックアップ/リストア' (Backup/Restore), and 'オプション' (Options). The 'HW設定' tab is active, showing a section titled 'イメージファイル名' (Image File Name) with eight numbered list items (1. to 8.), each with a text input field and a dropdown arrow. At the bottom right are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. The footer of the window reads 'Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0'.

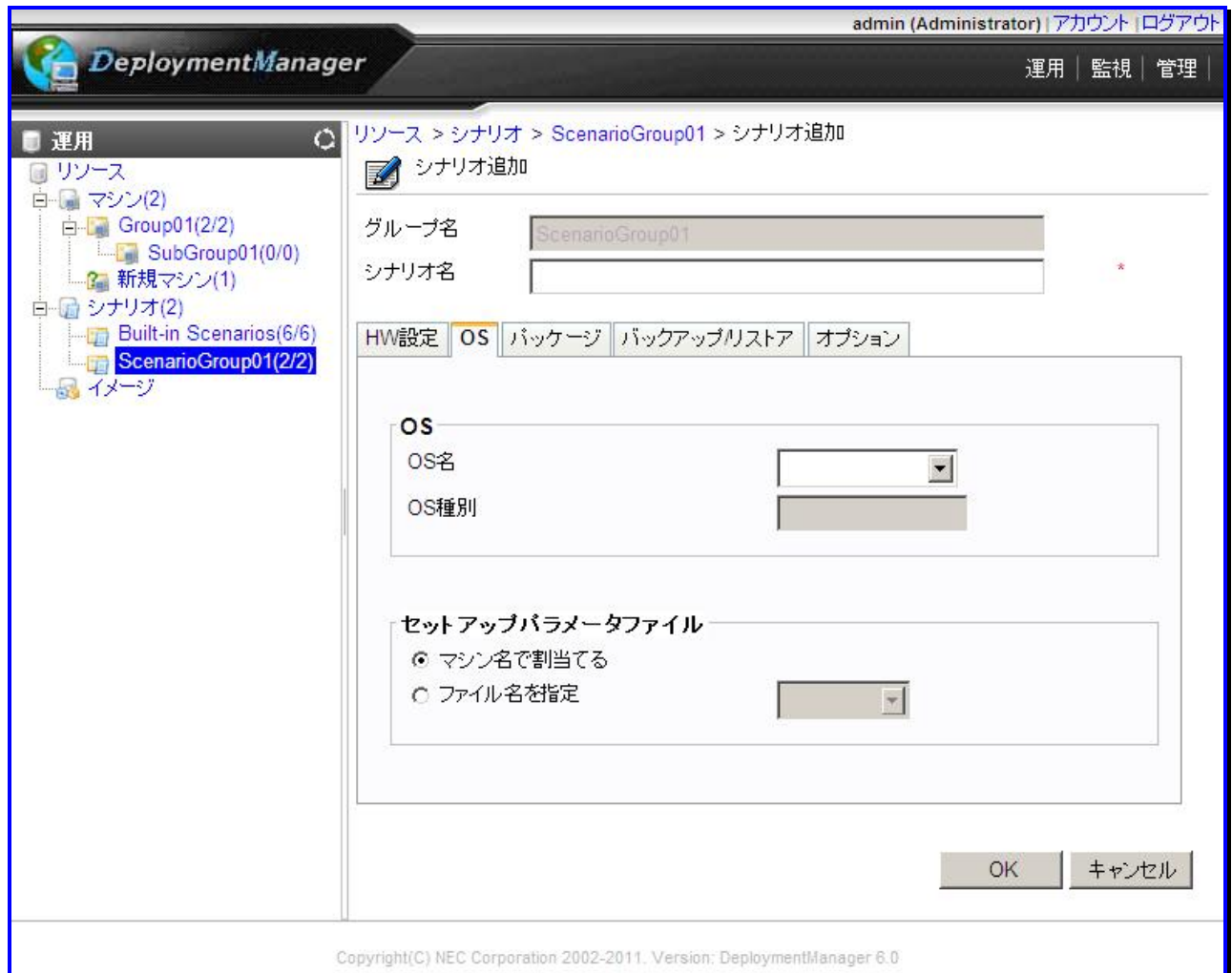
HW設定		
イメージファイル名		
1.～8.	八つのリストボックスからイメージファイルを選択します。 イメージファイルは、イメージビルダで作成した「フロッピーディスクイメージ」を選択してください。 「バックアップ/リストア」タブ-「バックアップ/リストアを実行する」で「ディスク構成チェック」のラジオボタンを選択した場合、ここでイメージファイル名の選択はできません。	

注意

イメージファイルの登録/削除と、シナリオの作成/編集は同時には行えません。シナリオ作成/編集画面を開いている時は、イメージビルダを操作しないでください。

3.13.2. 「OS」タブ

シナリオの「OSタブ」を設定します。



OS	
OS	
OS名	OS名を選択します。 リストボックスに表示されるOSは、「Linux」と「Linux(gPXE)」です。 通常は、「Linux」を選択してください。 なお、OSを選択した場合は、「セットアップパラメータファイル」の設定項目が有効になります。 「バックアップ/リストア」タブ-「バックアップ/リストアを実行する」の「リストア」、または「ディスク構成チェック」のラジオボタンが選択されている場合、「OS名」は設定できません。
OS種別	「OS名」で「Linux」と「Linux(gPXE)」を選択した場合は、OS種別に「Linux」と表示します。
セットアップパラメータファイル	
マシン名で割り当てる	マシン名で割り当てる場合に選択します。 デフォルトは、「マシン名で割り当てる」が選択されています。 なお、同名の管理対象マシンが存在する場合は、本項目は、選択しないでください。
ファイル名を指定	事前にイメージビルダで作成したセットアップパラメータのファイル名を指定する場合に選択します。 ラジオボタンを選択するとリストボックスからファイル名を設定できます。 項目を有効にした場合は、設定必須です。

注意

リストアシナリオでは、「OS」、および「パッケージ」タブの設定を同時にできません。

3.13.3. 「パッケージ」タブ

シナリオの「パッケージ」タブを設定します。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加

シナリオ追加

グループ名: ScenarioGroup01

シナリオ名:

HW設定 | OS | **パッケージ** | バックアップ/リストア | オプション

パッケージ

名前	種別	セットアップパラメータ
Local-Package01	アプリケーション	-s -s

実行タイミング設定

☒ 配信後すぐにパッケージを実行

☐ 次回起動時にパッケージを実行

実行後動作設定

☐ パッケージ実行後に再起動を行う

配信条件設定

☒ ユニキャストでデータを送信する

☐ マルチキャストでデータを送信する

最大ターゲット数(1-1000):

最大待ち時間(1-1440分): 10

・マルチキャストIPアドレス(パッケージ): 239.192.0.1

・マルチキャストTTL: 16

>>Time to live(TTL)とは、ネットワーク上でマルチキャストトラフィックが通過するルータの数です。

☐ 最大転送レート: 500 MB/分

OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2013. Version: DeploymentManager 6.2-24107

パッケージ		
パッケージ		
名前	実行するパッケージの名前を表示します。	
種別	実行するパッケージの種別を表示します。 以下の2種類があります。 ・サービスパック/HotFix/Linuxパッチ ・アプリケーション	

セットアップパラメータ	実行するパッケージのセットアップパラメータを設定します。 入力できる文字数は、128Byte(半角128文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 デフォルトは、パッケージ作成時にセットアップパラメータに設定した値です。 なお、設定する値については、パッケージ作成時と同様に注意事項があります。詳細は、「5.5.1 Windowsパッケージ作成」の「■「実行設定」タブ」または、「6.2.2 実行設定情報」を参照してください。																	
「アクション」リンク	・「追加」をクリックすると、「パッケージ追加」グループボックスが表示されます。 パッケージ追加 <table><thead><tr><th>☐</th><th>名前</th><th>種別</th><th>デフォルトセットアップパラメータ</th></tr></thead><tbody><tr><td>☐</td><td>Local-pkg</td><td>サービスパック/HotFix/Linuxパッチ</td><td>-s -t</td></tr><tr><td>☐</td><td>AgentUpgrade</td><td>アプリケーション</td><td></td></tr><tr><td>☐</td><td>LinuxAgentUpgrade</td><td>アプリケーション</td><td></td></tr></tbody></table> OK キャンセル 追加するパッケージの左端のチェックボックスにチェックを入れて、複数のパッケージを選択して追加できます。追加したパッケージは、「パッケージ」グループボックスに表示されます。 なお、追加するパッケージは、イメージビルダやPackageDescriberを使用して作成してください。作成方法については、「5.5 パッケージの登録/修正」、または「6.2 パッケージ作成」を参照してください。 ・「削除」をクリックすると、左端のチェックボックスにチェックが入っているパッケージを削除します。 複数チェックを入れると、複数のパッケージをまとめて削除できます。		☐	名前	種別	デフォルトセットアップパラメータ	☐	Local-pkg	サービスパック/HotFix/Linuxパッチ	-s -t	☐	AgentUpgrade	アプリケーション		☐	LinuxAgentUpgrade	アプリケーション	
☐	名前	種別	デフォルトセットアップパラメータ															
☐	Local-pkg	サービスパック/HotFix/Linuxパッチ	-s -t															
☐	AgentUpgrade	アプリケーション																
☐	LinuxAgentUpgrade	アプリケーション																
(チェックボックス)	1番上のチェックボックスにチェックを入れると、一覧に表示されているパッケージすべてにチェックが入ります。																	
[↑]	左端のチェックボックスにチェックを入れたパッケージを一つ上に移動します。																	
[↓]	左端のチェックボックスにチェックを入れたパッケージを一つ下に移動します。																	
パッケージ追加																		
(チェックボックス)	追加するパッケージの左端のチェックボックスにチェックを入れます。 チェックボックスにチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックすると、「パッケージ」グループボックスに、パッケージが追加されます。																	
名前	作成されているパッケージの名前を表示します。																	
種別	作成されているパッケージの種別を表示します。 以下の2種類があります。 ・サービスパック/HotFix/Linuxパッチ ・アプリケーション																	
デフォルトセットアップパラメータ	パッケージ作成時に指定したセットアップパラメータを表示します。																	
OK	パッケージを追加して、「パッケージ追加」グループボックスを閉じます。																	
キャンセル	パッケージを追加せずに、「パッケージ追加」グループボックスを閉じます。																	
実行タイミング設定																		
配信後すぐにパッケージを実行	配信後すぐにパッケージを実行する場合は、ラジオボタンを選択し、設定します。																	

次回起動時にパッケージを実行		次回起動時にパッケージを実行する場合に選択します。 再起動前の管理対象マシンは、シナリオの「パッケージ」タブ-「実行タイミング設定」の「次回起動時にパッケージを実行」指定したシナリオを合計100個実行することができます。101個以上のシナリオを実行する場合は、管理対象マシンを再起動してください。再起動することにより新たに100個のシナリオを実行することができます。 なお、「次回起動時にパッケージを実行」を選択した場合は、下記に注意してください。 ・「オプション」タブの「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れた場合は、アップデート完了後に管理対象マシンの電源がOFFされるのではなく、データの配信後に電源がOFFされます。 ・管理対象マシン上で、次回起動時のアップデート中にアップデート、またはアプリケーションのシナリオ実行を行った場合は、シナリオ実行エラーとなります。シナリオ実行する場合は、アップデートの完了後に再度行ってください。
実行後動作設定		
パッケージ実行後に再起動を行う		「パッケージ実行後に再起動を行う」チェックボックスにチェックを入れると、パッケージ実行後に管理対象マシンを再起動します。 「パッケージ」タブのみを設定したシナリオの場合は、「パッケージ実行後に再起動を行う」の設定が優先され、パッケージ実行後に管理対象マシンを再起動します。
配信条件設定		
ユニキャストでデータを送信する		ユニキャストでデータを送信する場合に選択します。デフォルトは、「ユニキャストでデータを送信する」です。 ルータを越えた別セグメントのネットワークにアップデートを行う際など、マルチキャストのデータが送信できない場合についても、「ユニキャストでデータを送信する」を選択してください。 なお、「ユニキャストでデータを送信する」にチェックを入れているシナリオは、マルチキャストIPの設定を行う必要はありません。
マルチキャストでデータを送信する		マルチキャストでデータを送信する場合に選択します。以下の項目が有効になります。(※1) ・最大ターゲット数(1-1000) ・最大待ち時間(1-1440分) ・マルチキャストIPアドレス(パッケージ) ・マルチキャストTTL ・最大転送レート
最大ターゲット数(1-1000)		シナリオを同時実行するマシン数の最大値を設定します。。 本項目で指定した数のマシンに対して、シナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始されます。 「1～1000」の範囲で設定できます。 デフォルトは、「空白」です。
最大待ち時間(1-1440分)		マルチキャストでデータを送信する場合は、最大待ち時間を設定します。 「1～1440」分の範囲で設定できます。 既定値は、「10」分です。 「最大待ち時間」が過ぎると、ファイル転送待ちの状態となっている管理対象マシンのみアップデートが開始されます。

		マルチキャストIPアドレス(パッケージ) (設定必須)	マルチキャストIPアドレスを設定します。 マルチキャストIPとは、マルチキャスト時に指定するIPアドレスです。マルチキャストIPアドレスは、「224.0.0.0～239.255.255.255」の間で指定できます。ただし、「239.192.0.0～239.255.255.255」の間を指定することを推奨します。(※1) サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールで異なるシナリオを複数同時に実行する場合は、それぞれのシナリオでマルチキャストIPアドレスが重複しないように設定してください。
		マルチキャストTTL (入力必須)	マルチキャストTTLの数を設定します。「1～127」の範囲で設定できます。既定値は、「16」です。(※2)
		最大転送レート (設定必須)	「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオの転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～99999999」の範囲で設定できます。既定値は、「500」MByte/分です。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。使用している環境に合わせて設定を行ってください。

※1

- マルチキャストとは、単一のパケットを使用し、同一データを複数のマシンに対して同時に送信する通信方法を行います。これにより、LAN 内のトラフィックを軽減できます。
- パッケージの実行は、シナリオの実行を指示後、実行準備の完了したマシンが最大ターゲット数と同じ台数になるか、最大待ち時間が経過するまで待機します。待機中のマシンに対してただちにパッケージを実行する機能はありません。
- 最大ターゲット数、最大待ち時間の両方とも指定しない場合は、シナリオ実行後、他のマシンを待たずに即実行します。

※2

TTLとは、パケットの生存期間をあらわします。この値は、ルータを越えるたびに1ずつ減らされていき、0になった時点で破棄されます。1を指定すると、パケットはルータを越えることができなくなります。

注意

リストアシナリオでは、「OS」、または「パッケージ」タブは同時に設定できません。

3.13.4. 「バックアップ/リストア」タブ

シナリオの「バックアップ/リストア」タブを設定します。

The screenshot shows the 'Deployment Manager' application window. The left sidebar contains a tree view with '運用' (Operation) selected, showing a hierarchy of 'リソース' (Resources) > 'マシン' (Machines) > 'Group01(2/2)' > '新規マシン(1)' > 'シナリオ(2)' > 'Built-in Scenarios(6/6)' > 'ScenarioGroup01(2/2)' > 'イメージ' (Image). The main area is titled 'リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加' (Resources > Scenario > ScenarioGroup01 > Add Scenario). Below the title bar, there are tabs for 'HW設定' (HW Settings), 'OS', 'パッケージ' (Package), 'バックアップ/リストア' (Backup/Restore), and 'オプション' (Options). The 'バックアップ/リストア' tab is active. The form contains several sections: 1. 'バックアップ/リストアを実行する' (Execute Backup/Restore) with radio buttons for 'バックアップ' (selected), 'リストア', and 'ディスク構成チェック'. It includes a text field for 'イメージファイル' (Image File) with a '参照' (Browse) button, and checkboxes for 'マシン名', 'MACアドレス', and 'UUID'. 2. 'バックアップ/リストア対象' (Backup/Restore Target) with a checkbox for 'フルセクタオプション' (Full Sector Option) and a text field for 'ディスク番号(1-1000)' (Disk Number) with the value '1'. 3. 'パーティション設定' (Partition Settings) with radio buttons for 'ディスク全体' (selected) and '指定する' (Specify), a text field for 'パーティション番号(1-1000)' (Partition Number) with the value '1', and a checked checkbox for '隠しパーティションを無視する' (Ignore Hidden Partitions). 4. '配信条件設定' (Distribution Condition Settings) with radio buttons for 'ユニキャストでデータを送信する' (selected) and 'マルチキャストでデータを送信する'. It includes text fields for '最大ターゲット数(1-1000)' (Maximum Number of Targets) with the value '10', '最大待ち時間(1-1440分)' (Maximum Wait Time) with the value '10', 'マルチキャストIPアドレス(リストア)' (Multicast IP Address) with the value '239.192.0.2', 'マルチキャストTTL' (Multicast TTL) with the value '16', and a checkbox for '最大転送レート' (Maximum Transfer Rate) with the value '500 MB/分'. 5. 'バックアップ設定' (Backup Settings) with radio buttons for 'データ圧縮' (selected) and '圧縮しない' (Do not compress), a text field for 'バックアップイメージファイル世代管理数(0-99)' (Backup Image File Generation Management Count) with the value '0', and a checkbox for 'ペリファイデータ作成' (Create Peripheral Data). At the bottom right, there are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. The version 'Version: DeploymentManager 6.1' is displayed at the bottom center.

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

運用

リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加

シナリオ追加

グループ名: ScenarioGroup01

シナリオ名: *

HW設定 | OS | パッケージ | **バックアップ/リストア** | オプション

☐ バックアップ/リストアを実行する

☒ バックアップ ☐ リストア ☐ ディスク構成チェック

イメージファイル: 参照

☐ マシン名 ☐ MACアドレス ☐ UUID

備考:

バックアップ/リストア対象

☐ フルセクタオプション

ディスク番号(1-1000):

パーティション設定

☒ ディスク全体 ☐ 指定する

パーティション番号(1-1000):

☒ 隠しパーティションを無視する

配信条件設定

☒ ユニキャストでデータを送信する ☐ マルチキャストでデータを送信する

最大ターゲット数(1-1000):

最大待ち時間(1-1440分):

・マルチキャストIPアドレス(リストア):

・マルチキャストTTL:

>>Time to live(TTL)とは、ネットワーク上でマルチキャストトラフィックが通過するルータの数です。

☐ 最大転送レート: MB/分

バックアップ設定

データ圧縮

☒ 圧縮する ☐ 圧縮しない

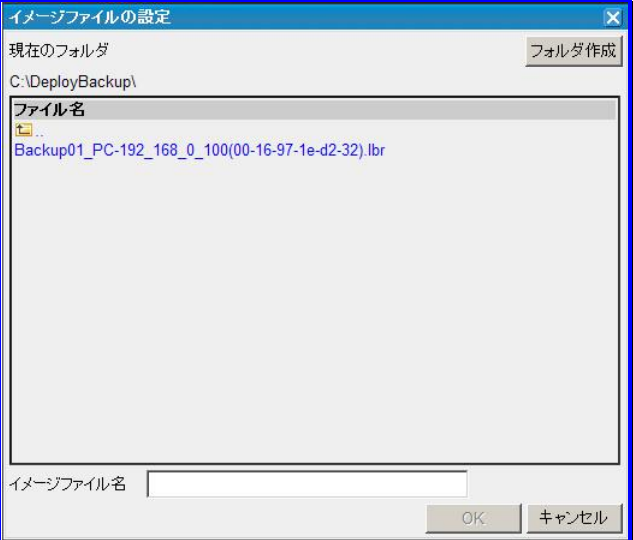
バックアップイメージファイル世代管理数(0-99):

☐ ペリファイデータ作成

OK キャンセル

Version: DeploymentManager 6.1

バックアップ/リストア	
バックアップ/リストアを実行する	
(チェックボックス)	チェックボックスにチェックを入れると、バックアップ/リストア、およびディスク構成チェックシナリオに関する設定項目が有効になります。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
バックアップ	バックアップシナリオを作成する場合に選択します。
リストア	リストアシナリオを作成する場合に選択します。 「HW」タブ以外の設定と同時にラジオボタンを選択できません。
ディスク構成チェック	ディスク構成チェックシナリオを作成する場合に選択します。 「パッケージ」タブを設定している場合は、同時に「ディスク構成チェック」を選択できません。
イメージファイル (設定必須)	バックアップ/リストアシナリオのバックアップイメージファイル名、および格納先を設定します。「イメージファイル」欄は、拡張子(.lbr)も含めたファイルパスを入力するか、または「参照」ボタンをクリックして、バックアップイメージファイルを指定してください。「バックアップ」を選択し、拡張子(.lbr)を入力していない場合は、自動で「.lbr」を補完します。 ・入力する場合、入力できる文字数は、バックアップ/リストアそれぞれ以下のとおりです。 -バックアップ: 120Byte(半角120文字、全角60文字) ※上記の文字数は、マシン名/MACアドレス/UUIDチェックボックスすべてにチェックを入れた場合の最大文字数です。それ以外の場合は、128Byte(半角128文字、全角64文字)です。 -リストア: 236Byte(半角236文字、全角118文字) ※上記の文字数は、マシン名/MACアドレス/UUIDチェックボックスのいずれかにチェックを入れた場合の最大文字数です。いずれもチェックが入っていない場合は、260Byte(半角260文字、全角130文字)です。 ・使用できる文字は、バックアップ/リストアどちらも半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 /*?<> :" ・「参照」ボタンから指定する場合 -「バックアップ」、または「リストア」のチェックボックスをチェックしている場合に選択できます。 -存在しないフォルダは指定できません。存在しないフォルダを設定した場合は、バックアップシナリオ実行時にシナリオ実行エラーとなります。 また、「バックアップイメージ」の保存先として、FAT形式でフォーマットしたドライブの場合は、システムの制限により、「バックアップイメージ」は最大4GByte(FAT16では2GByte)までのものしか作成できません。 また、バックアップシナリオの作成時に「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」にチェックを入れた場合、リストアシナリオの作成時にも同じチェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れると、バックアップイメージファイル名にマシン名、MACアドレス、UUIDを自動で付加するため、同じチェックボックスにチェックを入れていない場合は、リストア実行時、バックアップイメージファイル名と異なるファイル名がバックアップイメージとして指定されるため、リストアを実行できません。(※1)

		参照	「参照」ボタンからバックアップシナリオ、またはリストアシナリオのバックアップイメージファイルを設定します。 「参照」ボタンをクリックすると、「イメージファイルの設定」画面が表示されますので、バックアップイメージファイル(.lbr)を選択してください。 または、「イメージファイル名」欄にバックアップイメージファイル名を入力してください。 
		マシン名	「マシン名」チェックボックスにチェックを入れると、バックアップイメージファイル名にマシン名が自動で付加されます。 例)BackUp_Server01.lbr バックアップイメージファイル名(BackUp)とマシン名(Server01)の間にはアンダーバーが付きます。 また、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」を複数指定した場合は、マシン名、MACアドレス、UUIDの順番で付加されます。 以下の場合に、チェックボックスにチェックを入れることができます。 ・バックアップシナリオ、またはユニキャストリストアシナリオを作成する ・バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ なお、同名の管理対象マシンが存在する場合は、「MACアドレス」、「UUID」と組み合わせて使用してください。
		MACアドレス	「MACアドレス」チェックボックスにチェックを入れると、バックアップイメージファイル名にMACアドレスが自動で付加されます。 例)BackUp_00-16-57-1a-b2-47.lbr バックアップイメージファイル名(BackUp)とMACアドレス(00-16-57-1a-b2-47)の間にはアンダーバーが付きます。 また、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」を複数指定した場合は、マシン名、MACアドレス、UUIDの順番で付加されます。 以下の場合に、チェックボックスにチェックを入れることができます。 ・バックアップシナリオ、またはユニキャストリストアシナリオを作成する ・バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ
		UUID	「UUID」チェックボックスにチェックを入れると、バックアップイメージファイル名にUUIDが自動で付加されます。 以下の場合に、チェックボックスにチェックを入れることができます。 ・バックアップシナリオ、またはユニキャストリストアシナリオを作成する ・バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ
		備考	バックアップイメージファイルのコメントを情報として追加できます。 入力できる文字数は、638Byte(半角638文字/全角319文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。 設定必須ではありません。

バックアップ/リストア対象

フルセクタオプション	フルセクタオプションを設定します。 リストアシナリオを作成する場合、配信するバックアップイメージにあわせて設定してください。
ディスク番号(1-1000) (入力必須)	ディスク番号を指定します。「1～1000」の範囲で設定できます。 既定値は、「1」です。 なお、ディスク番号は、必ず「ディスクビューア」にて確認してから設定してください。(DPMのバージョンによって、ディスク番号が異なる場合がありますので、「ディスク構成チェックツール」を実行してください。) 詳細については、「7.2 ディスク構成チェックツール」を参照してください。 (※2)

パーティション設定(※3)

ディスク全体	バックアップ/リストアを実行する場合は、選択できます。 本項目を選択すると、バックアップ/リストアはディスク全体になります。				
指定する	バックアップ/リストアを実行する場合は、選択できます。 パーティション番号を指定する場合に選択します。選択すると、「パーティション番号」を指定できます。				
パーティション番号 (1-1000) (入力必須)	パーティション番号を指定します。「1～1000」の範囲で設定できます。既定値は、「1」です。 通常、「パーティション番号」はディスクの先頭から順に割り振りますが、ディスクに隠しパーティションや拡張パーティションがある場合は、番号の振り方が変わります。 そのため、バックアップ/リストアを行う前は、必ず「ディスクビューア」を使用してパーティション番号を確認してください。 また、パーティションを指定してリストアを行う場合は、バックアップ元と同一場所を指定して、バックアップ元とリストア先のパーティションサイズとファイルシステム種別を一致させてください。				
隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)	パーティション番号を指定してバックアップ/リストアを行う場合に「隠しパーティションを無視する」チェックボックスにチェックを入れると、隠しパーティションを無視します。デフォルトは、チェックボックスにチェックが入っています。 「隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)」にチェックが入っている場合は、隠しパーティションをカウントしません。 そのため、以下の例のような(A)～(D)まで四つのパーティションに区切られたディスク装置で、パーティション(D)を指定したい場合は、パーティション番号に「2」を指定します。 例)ディスク装置 <table><tr><td>隠しパーティション(A)</td><td>通常のパーティション(B)</td><td>隠しパーティション(C)</td><td>通常のパーティション(D)</td></tr></table> 「隠しパーティションを無視する(バックアップ/リストア)」のチェックを外した場合は、パーティション番号は「4」を指定してください。 パーティション番号を指定せずにディスク全体のバックアップ/リストアを行う場合は、本設定は無視されます。(※4)	隠しパーティション(A)	通常のパーティション(B)	隠しパーティション(C)	通常のパーティション(D)
隠しパーティション(A)	通常のパーティション(B)	隠しパーティション(C)	通常のパーティション(D)		

配信条件設定

バックアップ/リストアを実行する	グループボックスで「リストア」を選択した場合のみ配信条件設定ができます。

ユニキャストでデータを送信する	ユニキャストでデータを送信する場合に選択します。「バックアップ/リストアを実行する」で「リストア」を選択した場合のみ設定が有効になります。 デフォルトは、「ユニキャストでデータを送信する」です。 ルータを越えた別セグメントのネットワークにリストアを行う際など、マルチキャストのデータが送信できない場合についても、「ユニキャストでデータを送信する」を選択してください。 なお、「ユニキャストでデータを送信する」にチェックを入れているシナリオは、マルチキャストIPの設定を行う必要はありません。
マルチキャストでデータを送信する	マルチキャストでデータを送信する場合に選択します。「バックアップ/リストアを実行する」で「リストア」を選択した場合のみ設定が有効になり、以下の項目を指定できます。 ・最大ターゲット数(1-1000) ・最大待ち時間(1-1440分) ・マルチキャストIPアドレス(パッケージ) ・マルチキャストTTL ・最大転送レート
最大ターゲット数(1-1000)	シナリオを同時実行するマシン数の最大値を設定します。 本項目で指定した数のマシンに対して、シナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始されます。 最大ターゲット数は、「1～1000」の範囲で設定できます。 設定数を越えてリストアシナリオを実行した場合は、マシンはリストア実行待ちとなります。実行待ちとなったマシンは、実行中のマシンのリストアが完了次第、最大ターゲット数または最大待ち時間のいずれかの条件を満たす場合、または「バックアップ/リストア実行一覧」画面で「今すぐ開始」のクリックにより開始されます。 なお、DPMは、マルチキャストでデータを送信する場合は、UDP通信を行います。 UDP通信では転送速度が違う機器が経路上にある場合などで、送信側と受信側で転送するデータ量に差が生じ、データがうまく転送できない状態になることがあります。 このような場合は、シナリオ完了までの時間が長くなる場合があります。
最大待ち時間(1-1440分)	マルチキャストでデータを送信する場合は、最大待ち時間を設定します。 リストア選択時のみ設定できます。ここで設定した待ち時間を過ぎると、Restore StandByとなっているマシンのみリストアが開始されます。「1～1440」分の範囲で設定できます。 既定値は、「10」分です。
マルチキャストIPアドレス (リストア) (設定必須)	マルチキャストIPアドレスを設定します。 マルチキャストIPとは、マルチキャスト時に指定するIPアドレスです。マルチキャストIPアドレスは、「224.0.0.0～239.255.255.255」の間で指定できます。ただし、「239.192.0.0～239.255.255.255」の間を指定することを推奨します。 リストアシナリオを複数同時に実行する場合は、それぞれのシナリオでマルチキャストIPアドレスが重複しないように設定してください。(※5)
マルチキャストTTL (設定必須)	マルチキャストTTLの数を設定します。「1～127」の範囲で指定できます。 既定値は、「16」です。(※6)
最大転送レート (設定必須)	「最大転送レート」チェックボックスにチェックを入れると、転送レートの制御を行います。 最大転送レートは、1分間に転送する最大のデータ量をMByte単位で指定します。「1～99999999」の範囲で設定できます。既定値は、「500」MByte/分です。デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。 使用している環境に合わせて設定を行ってください。

バックアップ設定		
データ圧縮		
圧縮する	バックアップ/リストア実行時、データを圧縮して転送する場合は、ラジオボタンを選択してください。	
圧縮しない	バックアップ/リストア実行時、データを圧縮せずに転送する場合は、ラジオボタンを選択してください。	
バックアップイメージファイル世代管理数(0-99) (入力必須)	バックアップイメージファイル世代管理数を設定します。世代管理とは、通常のバックアップイメージファイルに加え、何世代まで保存するかを指定する機能です。 「0～99」の範囲で設定できます。既定値は、「0」です。 世代管理の機能を使用する場合は、バックアップイメージファイル(世代管理の数+1)が作成されますので、バックアップイメージファイルの保存先のHDDの空き容量に注意してください。(※7) 例) 世代管理の数が五つあり、一つのバックアップイメージファイルのサイズが約5GByteの場合は、最大で約30GByteの空き容量が必要となります。 $5\text{GByte}(5+1)=30\text{GByte}$	
ベリファイデータ作成	「ベリファイデータ作成」チェックボックスにチェックを入れると、ベリファイデータを作成します。 「ベリファイデータ作成」は、バックアップしたデータが、バックアップ時から破損していないかを確認するための機能です。リストアする際にバックアップデータに不正(データの破損など)がないか、あらかじめ「バックアップイメージファイル確認ツール」で確認できます。	

※1

■ リストアシナリオの場合は、以下の注意事項があります。

- ・「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスにチェックが入っている場合、そのマシンのマシン名などが変更されると、変更前にバックアップしたバックアップイメージは続けて管理できません。そのため、既存のバックアップイメージをリストアする場合、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスのチェックを外し、「イメージファイル」欄には、既存のバックアップイメージを指定してください。
- ・「マルチキャストでデータを送信する」を選択した場合、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスにチェックを入れないでください。チェックを入れた場合、シナリオが失敗します。
- ・「ユニキャストでデータを送信する」を選択し、「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスにチェック入れると、チェックを入れた内容に応じてバックアップイメージファイル名を取得します。
- ・世代管理を行っているバックアップイメージファイルを指定する場合、「yyyymmddhhmmss」の部分削除した状態(バックアップシナリオの「イメージファイル」で指定したファイルパスと同じ値)を指定してください。自動的に一番新しい日時の付加されたバックアップイメージファイルでリストアします。

■ 「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスのチェックを外してバックアップする場合

一つのシナリオで複数の管理対象マシンのバックアップを実行しないことを推奨します。一つのシナリオで実行した場合、バックアップイメージファイルが上書きされてしまいます。

■ バックアップを実行すると、バックアップデータは一時的なテンポラリファイルで作成されます。このテンポラリファイルは、バックアップ完了時にシナリオで指定したイメージファイル名にリネームされます。そのため、既に作成したバックアップイメージファイルが存在している場合は、作成済みのバックアップイメージファイルに加え、一時的に作成されるテンポラリファイルを含めたディスク容量が必要になります。

■ ネットワークに接続している他のマシン(以下ファイルサーバと呼びます)にバックアップイメージファイルのパスの指定を行う場合は、以下を行ってください。

例)

管理サーバ、ファイルサーバのOSにWindows Server 2008/Windows Server 2008 R2を使用した場合は、以下のように設定してください。

以下の1)～3)の手順は、管理サーバ側で行ってください

1) DPMサーバをインストールしたマシンに管理者権限を持つユーザでログオンする。アカウントは半角英数字を使用してください。

2)「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を起動します。

以下のサービスのプロパティを開き、「ログオン」タブの"アカウント"にチェックを入れ、DPMサーバのインストール時に使用したOSの"アカウント"とその"パスワード"を入力してください。

→DeploymentManager Backup/Restore Management

→DeploymentManager API Service

Webコンソールで「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコン→「詳細設定」→「DHCPサーバ」タブ→「DHCPサーバを使用しない」を選択している場合のみ、「DeploymentManager PXE Management」にも設定する必要があります。

Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2の場合、パスワードポリシーの要件を満たすパスワードを設定してください。

ファイルサーバについては、以下の注意点が 있습니다。

- ・ ファイルサーバにDPMサーバのインストール時に使用する"アカウント"と"パスワード"をもつユーザを作成する必要があります。
- ・ ファイルサーバ上のイメージ格納用フォルダにここで指定するアカウントがフルコントロールでアクセスできるようにアクセス許可の設定を行ってください。

3)手順2で設定変更を行ったサービスを再起動する。

以下の4)～6)の手順は、ファイルサーバ側で行ってください

4)管理者権限をもつアカウントでログオンする。

5)エクスプローラなどからバックアップイメージを保存するバックアップイメージ格納用フォルダを作成する。

6)手順5で作成したバックアップイメージ格納用フォルダへのアクセス許可に、2で設定した管理者権限を持つアカウントを追加する。

以下の7)～8)の手順は、Webコンソール側で行ってください

7)シナリオ作成時にバックアップ/リストアタブのイメージファイルに手順5で作成したフォルダの下のファイルのパスを入力する。

イメージファイル保存先のパスについてはUNC(Universal Naming Convention)形式(¥¥「マシン名」¥¥「バックアップイメージ格納用フォルダ」¥¥「サブフォルダ」)のパス名をイメージファイルに入力してください。

8)シナリオ実行する。

- イメージファイルの登録/削除とシナリオの作成/編集は、同時に行えません。シナリオ作成/編集画面を開いている場合は、イメージビルダを操作しないでください。

※2

以下のいずれかに該当する場合は、必要なデータが格納されている全ディスク/パーティションをバックアップしてください。全ディスク/パーティションのバックアップ/リストアが完了するまではOSを起動させないように注意してください。なお、シナリオ実行のタイミングでOSが起動しないように、「オプション」タブで、「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」にチェックを入れてください。

- ・ バックアップ元とリストア先が別の装置の場合
- ・ OS 起動に必要なデータが複数ディスクにまたがって格納されている場合
- ・ OS 起動に必要なデータとディスク複製 OS インストールに必要なデータ (Windows:sysprep、Linux:/opt/dpmclient)が複数ディスクにまたがって格納されている場合
- ・ システムとして必要なファイル、またはデータが別の HDD に格納されている場合
- ・ 他のドライブをマウントするなど、複数のディスク、複数のパーティションにわたってディスクが連結されているような場合
- ・ ディスク、またはパーティション間でデータ内容の整合性をとる必要がある場合(ダイナミックディスク、LVM1/LVM2 など)

※3

ハードディスクの物理障害/論理障害に対して、バックアップ/リストア機能で復旧できる範囲については、「ファーストステップガイド 2.2.2 バックアップ/リストアについて」の「ハードディスクの物理障害、論理障害に対して、バックアップ/リストア機能で復旧できる範囲について」を参照してください。

※4

- メーカーによっては、保守用パーティションを隠しパーティションとして認識しない場合があります。
例) 弊社のExpress5800シリーズのEXPRESSBUILDERで使用する保守用パーティションは隠しパーティションと認識しません。
- パーティション番号は、プライマリパーティション、拡張パーティションの論理ドライブの順で番号が割り振られます。
例) 以下のディスク装置では、パーティション(A)は「1」、拡張パーティションの論理ドライブ(B)は「3」、拡張パーティションの論理ドライブ(C)は「4」、パーティション(D)は「2」になります。

ディスク装置

プライマリ パーティション(A)	拡張パーティション		プライマリ パーティション(D)
	論理ドライブ(B)	論理ドライブ(C)	

※5

マルチキャストとは、単一の packets を使用し、同一データを複数のマシンに対して同時に送信する通信方法を行います。これにより、LAN 内のトラフィックを軽減できます。

※6

TTL とは、パケットの生存期間をあらわします。この値は、ルータを越えるたびに 1 ずつ減らされていき、0 になった時点で破棄されます。1 を指定すると、パケットはルータを越えることができなくなります。

※7

- 世代管理を行った場合は、バックアップイメージファイル名に作成時のタイムスタンプ(年月日時分秒)を付加します。
 - ・世代管理数が0の場合
バックアップイメージファイル名にタイムスタンプは付加されません。バックアップする前にシナリオで指定されたバックアップイメージファイル名が存在すれば、このバックアップイメージを削除します。
 - ・世代管理数が1以上の場合
バックアップする前にシナリオで指定されたバックアップイメージファイル名が存在すれば、このバックアップイメージファイル更新時刻を取得して、世代管理対象のバックアップイメージファイル名にタイムスタンプが付加されます。

重要

世代管理が無効のシナリオを、運用の途中で有効に変更した場合、次回バックアップ時より、バックアップイメージファイル名にタイムスタンプが付加されます。
その際、以前に世代管理が無効の状態で採取したバックアップイメージにもそのシナリオ実行当時のタイムスタンプを付加し、リネームします。

注意

世代管理が有効な状態で、タイムスタンプを含めた同じファイル名のバックアップイメージが既に存在する場合、バックアップイメージファイルの上書きはせず、シナリオ実行エラーとなります。

- 設定した数値を超える回数のバックアップを行う場合は、最も古いバックアップイメージファイルが自動的に削除されます。

例) 最新のバックアップデータ以外に10回分のバックアップデータを保存しておきたい場合は、「10」と入力します。

バックアップが実行されると、バックアップイメージファイル名を、<指定したファイル名>タイムスタンプ.lbrとして保存します。

重要

「マシン名」、「MACアドレス」、「UUID」チェックボックスは、バックアップをとるマシンとリストア先のマシンが同じ場合にのみ、チェックを入れることができます。

- ・以下の場合は、チェックを入れることができます。
 - バックアップ/リストア(同じマシンにリストアする場合)
- ・以下の場合は、チェックを入れることができません。
 - ディスク複製OSインストール
 - バックアップ/リストア(別のマシンにリストアする場合)

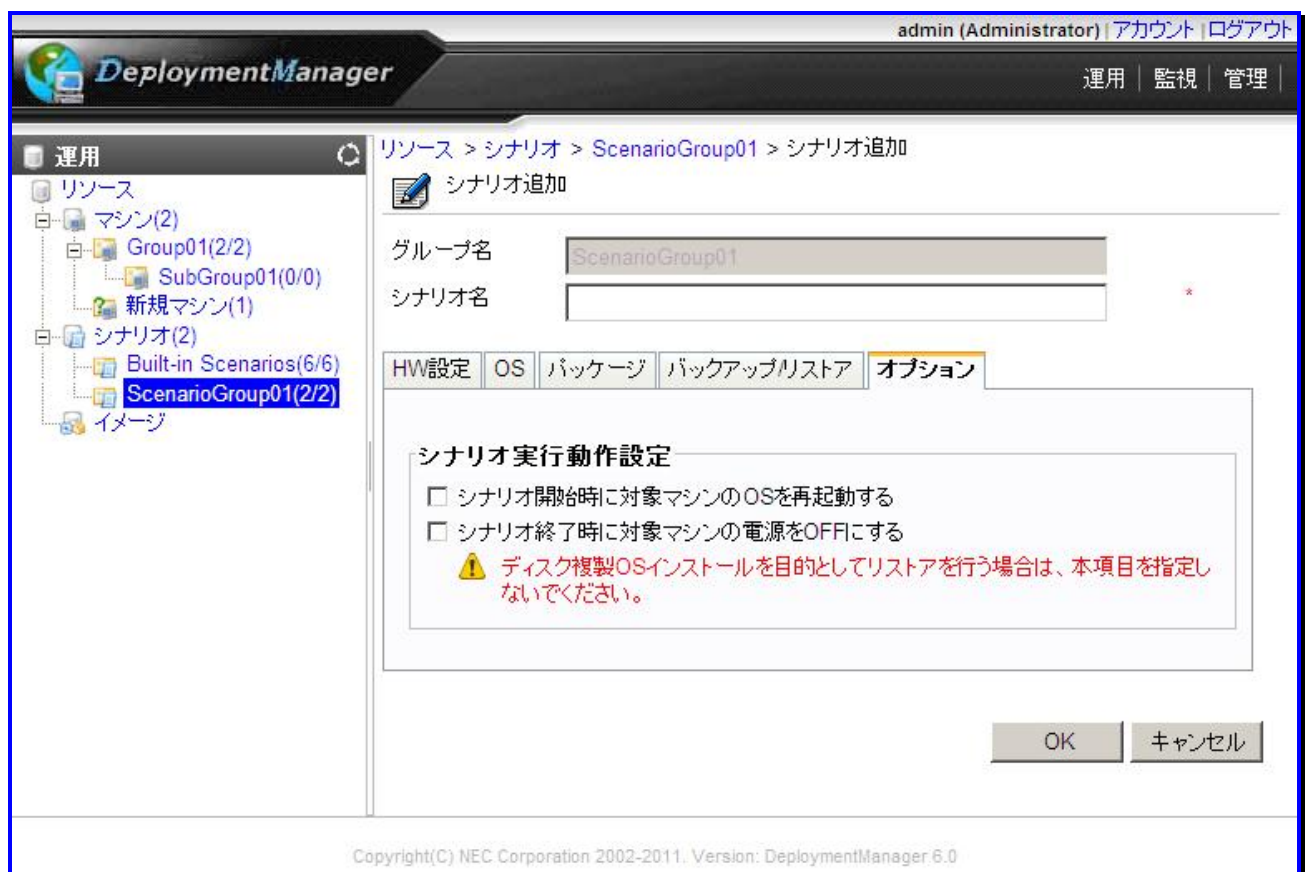
注意

- リストアシナリオでは、「OS」タブ、または「パッケージ」タブの設定を同時にできません。
- 世代管理数を減らした場合、次回バックアップ時に、設定された値と同じバックアップイメージファイル数となるよう最も古いバックアップイメージから順に自動で削除されます。
例)世代管理数「10」から「3」に変更してバックアップを実行した場合、最も古いバックアップイメージファイルから順に7個のファイルが自動で削除されます。

3.13.5. 「オプション」タブ

シナリオの「オプションタブ」を設定します。

「オプション」タブでは、シナリオ実行の前と後で管理対象マシンの電源の状態をどのようにするかを決めることができます。



オプション	
シナリオ実行動作設定	
シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行前に管理対象マシンを再起動します。 シナリオ実行前に管理対象マシンのOSが稼働していた場合は、強制的に再起動してシナリオを実行します。 ただし、以下の条件の場合のみです。 ・DPMクライアントを管理対象マシンにインストールしている ・以下の機能を使用している -バックアップ -リストア -OSクリアインストール -BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信 ・OSが起動している管理対象マシンに対しシナリオを実行する
シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	「シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする」チェックボックスにチェックを入れると、シナリオ実行後に管理対象マシンの電源を切ります。
OK	「シナリオ追加」画面の設定内容でシナリオ追加され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオ追加」画面の設定内容でシナリオ追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

注意

- OSが起動しているマシンに、シナリオを実行する場合は、必ず「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れてください。ただし、リモートアップデート(単独でのサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストール)のシナリオを実行する場合は、OSが起動していても問題ありませんので、「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れる必要はありません。もし、チェックを入れてシナリオ実行を行った場合でもマシンの再起動は行われません。
- Windowsの管理対象マシンの状態が以下の場合は、「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れていてもシャットダウンできません。
 - ・ワークステーションロックによりロックされている状態
 - ・パスワード付きスクリーンセーバによるロック状態
 - ・リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
 - ・編集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態

3.14. シナリオへのメニュー操作

シナリオで使用する操作に関するメニューについて説明します。

3.14.1. シナリオ編集

シナリオを編集します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「編集するシナリオ名」をクリックします。

(4) 「シナリオ」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「シナリオ編集」をクリックします。

(5) メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されますので、各項目を編集してください。

また、「シナリオ編集」画面は、以下の手順でも表示できます。

(1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。

(2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、編集するシナリオの「編集アイコン(📖)」をクリックします。

(4) メインウィンドウに「シナリオ編集」画面が表示されますので、各タブを編集してください。



シナリオ編集	
グループ名	シナリオグループの名前を表示します。編集はできません。
シナリオ名	シナリオの名前を表示します。編集はできません。編集したい場合は、再度同じシナリオを作成し、新たにシナリオ名を指定してください。
OK	「シナリオ編集」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「シナリオ編集」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

ヒント

各タブの編集については、「3.13.1 「HW 設定」タブ」から「3.13.5 「オプション」タブ」を参照してください。

3.14.2. シナリオコピー

シナリオをコピーします。

詳細については、「3.12.7 シナリオコピー」を参照してください。

3.14.3. シナリオ移動

シナリオを移動します。

詳細は、「3.12.6 シナリオ移動」を参照してください。

3.14.4. シナリオ削除

シナリオを削除します。
詳細は、「3.12.8 シナリオ削除」を参照してください。

3.14.5. シナリオ割り当て

シナリオを割り当てます。
詳細は、「3.12.9 シナリオ割り当て」を参照してください。

3.15. シナリオの詳細情報

シナリオの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「シナリオ」アイコン→「シナリオグループ」アイコンをクリックします。
- (3) 「シナリオ一覧」グループボックスが表示されますので、「**詳細情報を表示するシナリオ名**」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「シナリオ詳細」、「オプション」、「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されます。



シナリオ詳細		
シナリオ名	シナリオ名を表示します。編集はできません。	
シナリオグループ名	シナリオグループ名を表示します。編集はできません。	

種類	以下のいずれかの種類を表示します。 ・ディスク構成チェック ・リストア ・バックアップ ・パッケージ ・OS ・HW設定 ここで表示される種類とその設定内容が、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。
HW設定	「種類」欄に「HW設定」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。 「シナリオ追加」画面-「HW設定」タブで設定したイメージファイル名が表示されます。
イメージファイル名	イメージファイル名を表示します。
OSのインストール	「種類」欄に「OSのインストール」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。また、「シナリオ追加」画面-「OS」タブで設定したステータスのみ表示されます。
OS名	OS名を表示します。
OS種別	OS種別を表示します。
セットアップパラメータファイル	セットアップパラメータファイルを表示します。
バックアップ	「種類」欄に「バックアップ」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。また、「シナリオ追加」画面-「バックアップ/リストア」タブでバックアップシナリオを作成し、設定したステータスのみ表示されます。
イメージファイル	バックアップシナリオのバックアップイメージファイルを表示します。
イメージファイルコメント	「備考」欄にコメントを入力した場合は、表示されます。
フルセクタオプション	フルセクタオプションの設定状況を表示します。
ディスク番号	ディスク番号を表示します。
パーティション設定	パーティションの設定を表示します。
隠しパーティションを無視する	隠しパーティションを無視するかどうかを表示します。
データ圧縮設定	データを圧縮するかどうかを表示します。
バックアップイメージファイル世代管理数	バックアップイメージファイル世代管理数を表示します。
ベリファイデータ作成	ベリファイデータ作成をするかどうかを表示します。
リストア	「種類」欄に「リストア」表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。また、「シナリオ追加」画面-「バックアップ/リストア」タブでリストアシナリオを作成し、設定したステータスのみ表示されます。
イメージファイル	リストアシナリオのバックアップイメージファイルを表示します。
フルセクタオプション	フルセクタオプションの設定状況を表示します。
ディスク番号	ディスク番号を表示します。
パーティション設定	パーティション設定を表示します。
隠しパーティションを無視する	隠しパーティションを無視するかどうかを表示します。
配信条件設定	「ユニキャストでデータを送信する」、または「マルチキャストでデータを送信する」を表示します。
最大ターゲット数	最大ターゲット数を表示します。
最大待ち時間	最大待ち時間を表示します。単位は分です。
マルチキャストIPアドレス(リストア)	マルチキャストIPアドレスを表示します。
マルチキャストTTL	マルチキャストTTLの数を表示します。

	最大転送レート	最大転送レートを表示します。単位はMByte/分です。
パッケージ	パッケージ	「種類」欄に「パッケージ」が表示されている場合は、「シナリオ詳細」グループボックスに表示されます。また、「シナリオ追加」画面-「パッケージ」タブで設定したステータスのみ表示されます。
	パッケージ名	サービスパック/HotFix/アプリケーション名を表示します。
	実行タイミング設定	シナリオの実行タイミングを表示します。
	実行後動作設定	パッケージ実行後にDPMクライアントの再起動を行う場合は、表示されません。
	配信条件設定	「ユニキャストでデータを送信する」、または「マルチキャストでデータを送信する」を表示します。
	最大ターゲット数	最大ターゲット数を表示します。
	最大待ち時間	最大待ち時間を表示します。単位は分です。
	マルチキャストIPアドレス (パッケージ)	マルチキャストIPアドレスを表示します。
	マルチキャストTTL	マルチキャストTTLの数を表示します。
	最大転送レート	最大転送レートを表示します。単位はMByte/分です。
オプション		
	シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する	シナリオ実行前に管理対象マシンの再起動を強制実行するかどうかを表示します。
	シナリオ終了時に対象マシンの電源をOFFにする	シナリオ実行後に管理対象マシンの電源を切るかどうかを表示します。
管理対象マシン一覧		
	表示件数	管理対象マシンの表示件数が選択できます。
	マシン名	シナリオを割り当てている管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
	IPアドレス	シナリオを割り当てている管理対象マシンのIPアドレスを表示します。
	MACアドレス	シナリオを割り当てている管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	グループ名	シナリオを割り当てている管理対象マシンが登録されているグループ名を表示します。

3.16. 「イメージ」アイコン

「イメージ」アイコンでは、パッケージ、バックアップイメージ、HWイメージ、OSイメージそれぞれのイメージ情報を管理します。

「イメージ」アイコンは、「運用」ビューのツリービュー上の「イメージ」アイコン、または「運用」ビューのメインウィンドウに表示される「サマリ情報」グループボックスの「イメージ」アイコンからアクセスできます。

「イメージ」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「検索条件」、「イメージ一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「3.17 イメージの詳細情報」を参照してください。

3.17. イメージの詳細情報

パッケージ、バックアップイメージ、HWイメージ、OSイメージそれぞれのイメージの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「イメージ」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「検索条件」、「イメージ一覧」グループボックスが表示されます。



検索条件

イメージの種類

検索するイメージの種類を選択します。以下から選択できます。

- ・All Type
- ・HWイメージ
- ・OSイメージ
- ・パッケージ
- ・バックアップイメージ

デフォルトは、「All Type」です。

「パッケージ」、または「バックアップイメージ」を選択した場合は、それぞれ条件を指定して検索できます。検索できる条件は、「パッケージ」、または「バックアップイメージ」によって以下のとおり異なります。

- ・パッケージ
「OS」、「タイプ」、「日付」
- ・バックアップイメージ
「日付」、「マシン名」

OS

OSの種類で検索する場合は、検索するOSの種類を選択します。

デフォルトは、「ALL OS」です。

なお、バックアップイメージは、バックアップイメージ格納用フォルダに保存されているバックアップイメージのみが検索対象となります。

バックアップイメージ格納用フォルダについては、「2.7.1.1 全般タブ」を参照してください。

タイプ

タイプで検索する場合は、パッケージの種類を選択します。以下から選択できます。

- ・All Type
- ・HotFix
- ・サービスパック
- ・Linuxパッチ
- ・アプリケーション

デフォルトは、「All Type」です。

日付	日付で検索する場合は、検索する開始日と終了日を入力します。年月日を入力するか、またはテキストボックス横の「」アイコンをクリックして、表示されるカレンダーから日付が選択できます。入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 ・開始日のみを指定する場合は、開始日以降を検索条件として検索します。 ・終了日のみを指定する場合は、終了日以前を検索条件として検索します。 ・開始日と終了日を指定する場合は、指定した期間内を検索条件として検索します。
マシン名	マシン名で検索するマシン名を入力します。入力できる文字数は、1～63Byte(半角63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。
検索	「検索」ボタンをクリックすると、指定した検索条件によりイメージを検索します。検索結果は、「イメージ一覧」グループボックスに表示されます。
イメージ一覧	
表示件数	イメージの表示件数が選択できます。
イメージ名	イメージ名を表示します。「パッケージ」、および「バックアップイメージ」は、イメージ名をクリックしてイメージの基本情報が確認できます。「パッケージ」については、「3.17.1 パッケージイメージの詳細情報」を参照してください。「バックアップイメージ」については、「3.17.3 バックアップイメージの詳細情報」を参照してください。「HWイメージ」、および「OSイメージ」は、イメージ名をクリックできません。
概要	イメージの概要を表示します。
イメージ種類	イメージの種類を表示します。
日付	イメージの作成日を表示します。
適用状況	「イメージ種類」が「パッケージ」の場合は、「適用状況」欄に「>>」が表示されます。「>>」をクリックすると、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」画面が表示されます。画面については、「3.17.2 パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」を参照してください。「イメージ種類」が「パッケージ」以外の場合、「適用状況」欄は、空白です。

3.17.1. パッケージイメージの詳細情報

パッケージイメージの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。
- (3) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「**イメージ名**」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「基本情報」、「適用対象のOS/言語」グループボックスが表示されます。

また、パッケージイメージの詳細情報は、以下の手順でも表示できます。

- (1) メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「パッケージ」アイコンをクリックします。

- (2) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「**イメージ名**」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「基本情報」、「適用対象のOS/言語」グループボックスが表示されます。



基本情報	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
概要	パッケージの概要を表示します。
タイプ	パッケージのタイプを表示します。
リリース日付	パッケージのリリース日を表示します。
MS番号	HotFix/サービスパックのMS Q番号、またはKB番号を表示します。
メジャーバージョン	サービスパックのメジャーバージョンを表示します。
マイナーバージョン	サービスパックのマイナーバージョンを表示します。
アプリケーション名	パッケージのアプリケーション名を表示します。
適用対象のOS/言語	
OS名	パッケージ対象のOS名を表示します。
言語	適用対象のOSの言語を表示します。
ベースとなるサービスパック	ベースとなるサービスパッケー一覧を表示します。
吸収されるサービスパック	吸収されるサービスパッケー一覧を表示します。

3.17.2. パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)

パッケージの適用状況(管理対象マシン一覧)を表示します。
 パッケージ適用状況が表示されるのはWindows OSのパッケージのみです。Linux OSのパッケージは表示されません。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。

- (3) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「適用状況」欄の「>>」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「基本情報」、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」グループボックスが表示されます。
- また、パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)は、以下の手順でも表示できます。
- (1) メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「パッケージ」アイコンをクリックします。
- (2) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「適用状況」欄の「>>」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「基本情報」、「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」グループボックスが表示されます。



パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)	
基本情報	
パッケージID	パッケージIDを表示します。
管理対象マシン数	パッケージに関連する管理対象マシン数を表示します。
適用済み	パッケージが適用された管理対象マシンの数を表示します。
未適用	パッケージが適用されていない管理対象マシンの数を表示します。
適用不要	パッケージを適用する必要のない管理対象マシンの数を表示します。
識別不可	パッケージの適用状況を識別できない管理対象マシンの数を表示します。
パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)	
表示件数	「パッケージ適用状況(管理対象マシン一覧)」画面のマシンの表示件数が選択できます。
グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
マシン名	管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
適用状況	パッケージの適用状況を表示します。 適用状況の詳細については、 「3.7.1.2 パッケージ適用状況(パッケージ一覧)」を参照してください。

3.17.3. バックアップイメージの詳細情報

バックアップイメージの詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「イメージ」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「サマリ情報」グループボックスが表示されますので、「イメージ」→「バックアップイメージ」をクリックします。
- (3) 「イメージ一覧」グループボックスが表示されますので、「イメージ名」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「イメージの基本情報」、「作成元の基本情報」、「作成元のパッケージ適用情報」グループボックスが表示されます。

The screenshot shows the DeploymentManager web console interface. The top navigation bar includes the title 'DeploymentManager' and user information 'admin (Administrator) | アカウント | ログアウト'. The main content area is divided into three sections: 'イメージの基本情報', '作成元の基本情報', and '作成元のパッケージ適用情報'.

イメージの基本情報

イメージ名	C:\DeployBackup1\backup_client.lbr
作成日時	2011/03/18 16:06:13
ディスク番号	1
パーティション番号	ディスク全体
圧縮有/無	圧縮
ペリファイデータ指定/未指定	未指定
隠しパーティションを無視する/しない	無視する
バックアップ処理時間	00:02:58
イメージファイルの容量	1.31GB (1402394523BYTES)
フルセクタオプション指定/未指定	未指定
製品バージョン(DPMサーバ側)	6.00.000

作成元の基本情報

マシン名	client
概要	
IPアドレス	192.168.183.131
MACアドレス	00-0c-29-43-17-dd(*)
UUID	564da982-de46-005f-188b-ddfb0e4317dd
OS名	Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition Windows 2003 SP 2

作成元のパッケージ適用情報

表示件数: 20

パッケージ名 ▲	概要	タイプ
AgentUpgrade	Agent Upgrade Package	アプリケーション

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

イメージの基本情報	
イメージ名	バックアップイメージの格納先とイメージ名を表示します。
作成日時	バックアップイメージの作成日時を表示します。
ディスク番号	バックアップ対象のディスク番号を表示します。
パーティション番号	バックアップ対象のパーティション情報を表示します。
圧縮有/無	バックアップイメージの圧縮の有無を表示します。
ベリファイデータ指定/未指定	バックアップイメージのベリファイデータの有無を表示します。
隠しパーティションを無視する/しない	バックアップイメージの隠しパーティションを無視するかどうかを表示します。
バックアップ処理時間	バックアップの実行にかかった時間を表示します。
イメージファイルの容量	イメージファイルのサイズを表示します。
フルセクタオプション指定/未指定	フルセクタオプションの設定状況を表示します。
製品バージョン(DPMサーバ側)	管理サーバのDPMのバージョンを表示します。
作成元の基本情報	
マシン名	バックアップ作成元のマシン名を表示します。
概要	バックアップイメージのコメントを表示します。
IPアドレス	バックアップ作成元のマシンのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	バックアップ作成元のマシンのMACアドレスを表示します。
UUID	バックアップ作成元のマシンのUUIDを表示します。
OS名	バックアップ作成元のマシンのOS名を表示します。
作成元のパッケージ適用情報	
表示件数	作成元のパッケージ適用状況(パッケージ一覧)の表示件数が選択できます。
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
概要	パッケージの概要を表示します。
タイプ	パッケージのタイプを表示します。

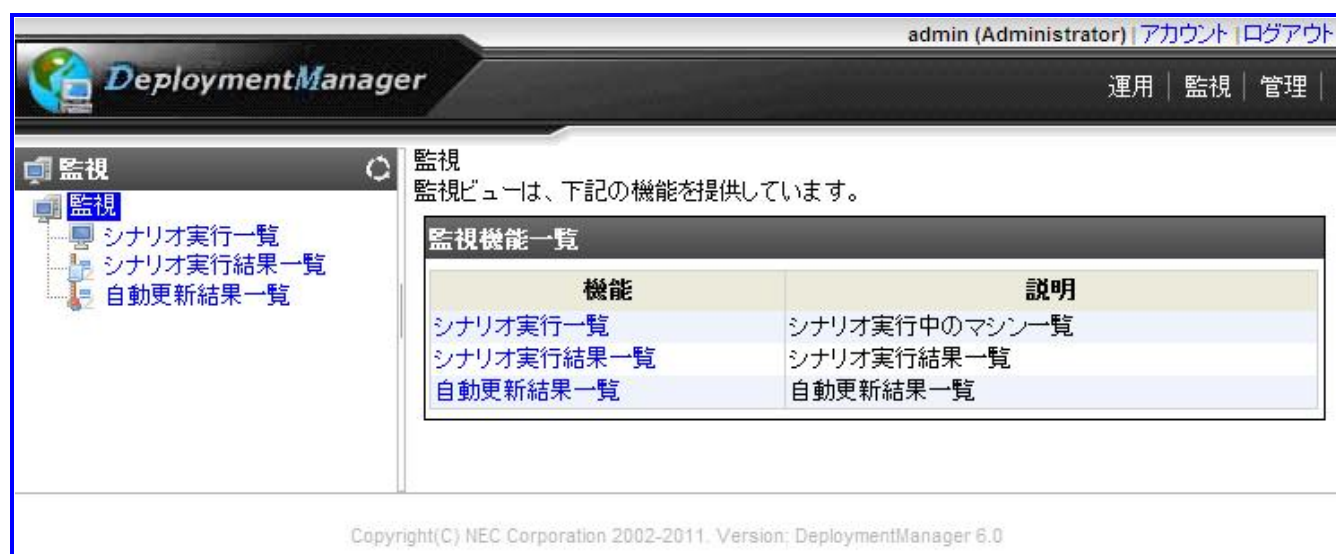
4. 監視

本章では、「監視」ビューで DPM の管理対象マシンの状態やログの参照について説明します。

4.1. 「監視」ビュー

「監視」ビューでは、シナリオ実行状況と自動更新実行状況など、DPMを使用するにあたって必要な情報を監視します。また、ステータスの一括クリアができます。

タイトルバーの「監視」をクリックすると、「監視」ビューに切り替わります。メインウィンドウには「監視機能一覧」グループボックスが表示されます。



4.2. 「シナリオ実行一覧」アイコン

「シナリオ実行一覧」アイコンでは、DPMで実行したシナリオ実行状況一覧の表示、および異常ステータスを一括クリアします。

「シナリオ実行一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「シナリオ実行一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「シナリオ実行一覧」からアクセスできます。

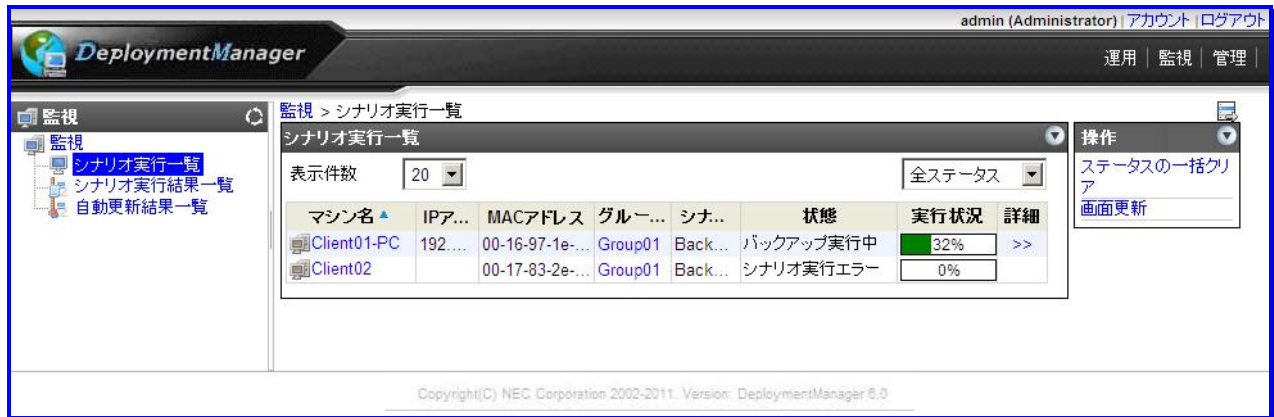
「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。

4.3. シナリオ実行一覧

「シナリオ実行一覧」画面では、以下の情報が表示されます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されます。



シナリオ実行一覧	
表示件数	管理対象マシンの表示件数が選択できます。
ステータス	シナリオ実行状態は、以下の3種類から選択し表示できます。 ・全ステータス ・正常ステータス ・異常ステータス 実行中のステータスを確認する場合は、「正常ステータス」を選択してください。 デフォルトは、「全ステータス」です。
マシン名	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。クリックすると、「運用」ビューの「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。「管理対象マシン詳細」グループボックスについては、「3.7 管理対象マシン詳細」を参照してください。
IPアドレス	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンのIPアドレスを表示します。IPアドレスの情報がなかった管理対象マシンは空白で表示されます。
MACアドレス	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
グループ名	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンのグループ名を表示します。グループが階層化されている場合は、シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの親グループ名を表示します。 グループ名をクリックすると、「運用」ビューの「グループ詳細」グループボックスが表示されます。「グループ詳細」グループボックスについては、「3.5 マシングループ詳細」を参照してください。
シナリオ名	シナリオ実行中、および実行完了のシナリオ名を表示します。
状態	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの状態を表示します。(※1)
実行状況	シナリオ実行の進行状況は、プログレスバーで「%」表示します。 状態が「シナリオ実行中」の場合、プログレスバーは「100%」まで表示します。 「シナリオ実行中断」、「シナリオ実行エラー」、「リモート電源ONエラー」の場合、プログレスバーは「0%」で表示されます。

詳細	バックアップ/リストアを含むシナリオ実行中は、「詳細」欄に「>>」を表示します。その他のシナリオの場合は、空白です。 「>>」をクリックすると、「バックアップ/リストア実行状況」画面が表示されます。画面については、「4.3.2 バックアップ/リストア実行一覧」を参照してください。(※2)

※1

シナリオ実行中および実行完了の管理対象マシンの状態は、次の種類があります。

実行状況	説明
シナリオ実行中	シナリオ実行中に表示します。
シナリオ実行中断	実行中のシナリオが中断された場合に表示します。
シナリオ実行エラー	シナリオが実行エラーの場合に表示します。
リモート電源ONエラー	リモートによる管理対象マシンの電源ONに失敗した場合に表示されます。
実行完了	シナリオ実行が完了した場合に表示します。

※2

「>>」は、管理対象マシンに対するバックアップ/リストアを含むシナリオのステータス情報が解除されるまで表示します。上記以外の場合、「>>」は表示されません。

4.3.1. ステータスの一括クリア

DPMで実行したシナリオのステータスを一括クリアします。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。
- (3) 「操作」メニューの「ステータスの一括クリア」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「ステータス一括クリア」画面が表示されますので、クリアするステータス情報のチェックボックスにチェックを入れます。
- (5) 「OK」ボタンをクリックします。



クリアするステータス情報	
シナリオ実行完了	シナリオ実行が完了したステータスです。
シナリオ実行中断	シナリオ実行が中断したステータスです。
シナリオ実行エラー	シナリオ実行エラーのステータスです。
リモート電源ONエラー	リモート電源ONエラーのステータスです。
OK	チェックを入れたステータスの一括クリアを実行して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	ステータスの一括クリアを実行せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.3.2. バックアップ/リストア実行一覧

バックアップ/リストアのシナリオ実行状況を管理します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。
- (3) 「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに「バックアップ/リストア実行一覧」画面が表示されます。
「バックアップ/リストア実行一覧」画面は、ユニキャストでデータを送信した場合と、マルチキャストでデータを送信した場合で表示される画面が異なります。

<ユニキャストでデータを送信した場合>

The screenshot shows the Deployment Manager web interface. The breadcrumb navigation is: 監視 > シナリオ実行一覧 > バックアップ/リストア実行一覧. The main content area displays details for a single machine named 'client3'.

マシン名	IPアドレス	MACアドレス	グループ名
client3	192.168.183.247	00-0c-29-0c-4a-da	Group01

実行状況	
シナリオ名	Restore
種類	リストア(ユニキャスト)
実行進捗状況	28%
開始時刻	15:29:37
実行経過時間	00:03:25
転送サイズ(MB)	907 / 3239

At the bottom of the page, the copyright notice reads: Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0

マシン情報	
マシン名	管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
実行状況	
シナリオ名	シナリオ名を表示します。
種類	以下のいずれかが表示されます。 ・バックアップ ・リストア(ユニキャスト)
実行進捗状況	シナリオの実行進捗状況をステータスバー(%)で表示します。
開始時刻	シナリオ開始時刻を表示します。
実行経過時間	シナリオ実行中の場合は、「実行経過時間」が表示されます。 シナリオ実行が完了した場合は、「シナリオ終了時間」が表示されます。
転送サイズ(MB)	転送サイズを表示します。全体のサイズと転送済みのサイズを表示します。単位はMByte(MB)です。

<マルチキャストでデータを送信した場合>

Deployment Manager

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

監視

シナリオ実行一覧
シナリオ実行結果一覧
自動更新結果一覧

監視 > シナリオ実行一覧 > バックアップ/リストア実行一覧

マシン情報

マシン名	IPアドレス	MACアドレス	グループ名
client	192.168.183.240	00-0c-29-45-9a-e4	group1

実行状況

シナリオ名	multirestore
種類	リストア<マルチキャスト>
実行進捗状況	50%
開始時刻	11:23:05
実行経過時間	00:06:56
転送サイズ(MB)	1633 / 3235

マルチキャスト実行状況

開始ターゲット数	5
現在のターゲット数	2
開始までの時間(分)	10

マルチキャスト対象一覧

表示件数 20

マシン名 ▲	MACアドレス	グループ名	実行状況
client	00-0c-29-45-9a-e4	group1	リストア実行中
client3	00-0c-29-0c-4a-da	group1	リストア実行中

| 今すぐ開始 | シナリオ中断 |

操作

画面更新

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 5.0

マシン情報	
マシン名	管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
IPアドレス	管理対象マシンのIPアドレスを表示します。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
実行状況	
シナリオ名	シナリオ名を表示します。
種類	「リストア(マルチキャスト)」と表示されます。
実行進捗状況	シナリオの実行進捗状況をステータスバー(%)で表示します。
開始時刻	シナリオ開始時刻を表示します。
実行経過時間	シナリオ実行中の場合は、「実行経過時間」が表示されます。 シナリオ実行が完了した場合は、「シナリオ終了時間」が表示されます。
転送サイズ(MB)	転送サイズを表示します。全体のサイズと転送済みのサイズを表示します。単位はMByte(MB)です。
マルチキャスト実行状況	
開始ターゲット数	シナリオ実行が開始されるまでの管理対象マシンの数を表示します。 設定した数の管理対象マシンのシナリオ実行の準備が整うとシナリオが開始します。
現在のターゲット数	シナリオ実行の準備ができている管理対象マシンの数を表示します。 この数が「開始ターゲット数」と同じになるか、または「開始までの時間」を過ぎた場合、シナリオ実行が開始されます。
開始までの時間(分)	シナリオ実行開始までの時間を表示します。1分単位で表示されます。
マルチキャスト対象一覧	
表示件数	管理対象マシンの表示件数が選択できます。
マシン名	シナリオ実行中、および実行完了の管理対象マシンの識別名(識別名の指定が無い場合は、マシン名)を表示します。
MACアドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
グループ名	管理対象マシンが所属するグループ名を表示します。
実行状況	シナリオの進行状況を表示します。(※1)
「アクション」リンク	・「今すぐ開始」をクリックすると、該当シナリオが割り当てられているすべてのマシンに対してリストアが開始されます。 ・「シナリオ中断」をクリックすると、該当シナリオが割り当てられているすべてのマシンに対してバックアップ/リストアの実行を中断します。

※1

表示される進行状況の状態は、次の種類があります。

実行状況	説明
バックアップ準備中	バックアップ準備中の場合に表示されます。
バックアップ実行待ち	バックアップが実行待ちの場合に表示されます。
バックアップ実行中	バックアップが実行中の場合に表示されます。
バックアップ正常終了	バックアップが正常終了した場合に表示されます。
バックアップベリファイ用データ作成中	バックアップシナリオのベリファイ用データが作成中の場合に表示されます。
バックアップ中止処理中	バックアップの中止処理中の場合に表示されます。
バックアップエラー停止処理中	バックアップのエラー停止処理中の場合に表示されます。
バックアップ中止	ユーザがバックアップを中止した場合に表示されます。
バックアップエラー停止	バックアップがエラーで停止した場合に表示されます。
バックアップ一時停止中	バックアップが一時停止中の場合に表示されます。
リストア準備中	リストアが準備中の場合に表示されます。
リストア実行待ち	リストアが実行待ちの場合に表示されます。
リストア実行中	リストアが実行中の場合に表示されます。
リストア正常終了	リストアが正常終了した場合に表示されます。
リストア中止処理中	リストアが中止処理中の場合に表示されます。
リストアエラー停止処理中	リストアがエラー停止処理中の場合に表示されます。
リストア中止	ユーザが管理対象マシンに対してリストアの実行を中止した場合に表示されます。
リストアエラー停止	リストアがエラーで停止した場合に表示されます。
リストア一時停止中	リストアが一時停止中の場合に表示されます。

ヒント

最新の実行状況を確認する場合は、「操作」メニューから「画面更新」をクリックし、最新の情報に更新してください。

4.3.3. 今すぐ実行

開始条件を満たしていない状態でもすぐにバックアップ/リストアします。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。
- (4) 「シナリオ実行一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「今すぐ開始」をクリックします。
- (5) 開始条件を満たしていない状態のバックアップ/リストアをすぐに開始します。

重要

「開始条件を満たしていない」とは、実行準備が完了した管理対象マシンが、最大ターゲット数に満たないか、最初にリストアを実行した管理対象マシンの実行時間が最大待ち時間になっていない状態を指します。

注意

実行準備が完了した管理対象マシンは「バックアップ/リストア実行一覧」の実行状況が「実行待ち」になります。

4.3.4. シナリオ中断

バックアップ/リストア時にシナリオを中断します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行一覧」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されますので、「詳細」欄の「>>」をクリックします。
- (4) 「シナリオ実行一覧」画面が表示されますので、「アクション」リンクの「シナリオ中断」をクリックします。

重要

- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXE ブートするタイミングで電源 OFF されます。
- 同時実行可能台数を越えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。

注意

「シナリオ中断」を何度もクリックすると、「シナリオ実行結果一覧」にクリックした回数分だけ「実行中断」のログが表示されます。

4.4. 「シナリオ実行結果一覧」アイコン

「シナリオ実行結果一覧」アイコンでは、DPMで実行したシナリオ実行結果一覧を表示します。

「シナリオ実行結果一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「シナリオ実行結果一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「シナリオ実行結果一覧」からアクセスできます。

「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「シナリオ実行結果一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.5 シナリオ実行結果一覧の詳細」を参照してください。

4.5. シナリオ実行結果一覧の詳細

「シナリオ実行結果一覧」画面では、以下の情報が表示されます。

「シナリオ実行結果一覧」では、各項目（「種類」、「日時」、「MACアドレス」、「シナリオ名」、「マシン名」、「IPアドレス」）でソートして表示できます。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行結果一覧」をクリックします。

(3) メインウィンドウに「基本情報」、「シナリオ実行結果一覧」グループボックスが表示されます



基本情報	
シナリオ実行ログ数	シナリオ実行したログの数を表示します。 ここで表示される数のログを以下の「シナリオ実行結果一覧」グループボックスで確認できます。
シナリオ実行結果一覧	
表示件数	シナリオ実行ログの表示件数が選択できます。
種類	シナリオ実行状態を表示します。(※1)
日時	シナリオ実行日時を表示します。
シナリオ名	シナリオ名を表示します。
マシン名	管理対象マシンのマシン名を表示します。 なお、DPM Ver6.0より前のバージョンからアップグレードインストールした場合には、アップグレード前に実行したシナリオ実行結果にはマシン名が表示されません。
IPアドレス	IPアドレスを表示します。 なお、DPM Ver6.0より前のバージョンからアップグレードインストールした場合には、アップグレード前に実行したシナリオ実行結果にはIPアドレスが表示されません。
MACアドレス	シナリオ実行した管理対象マシンのMACアドレスを表示します。 MACアドレスをクリックすると、「運用ビュー」の「管理対象マシン詳細」グループボックスが表示されます。 「管理対象マシン詳細」グループボックスについては、「3.7 管理対象マシン詳細」を参照してください。

※1

表示されるシナリオ実行結果一覧の状態は、次の種類があります。

種類	説明
実行中断	シナリオ実行が中断した場合に表示されます。
タイムアウト中断	「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「シナリオ」タブで設定したタイムアウト時間を越えた場合に表示されます。 「ハードウェアの設定」、または「Linuxインストール」のシナリオ実行の場合のみに「タイムアウト中断」を表示します。
実行開始	シナリオ実行が開始された場合に表示されます。
実行完了	シナリオ実行が完了した場合に表示されます。
エラー発生	シナリオ実行中にエラーが発生した場合に表示されます。

ヒント

シナリオ実行エラーの場合は、エラー解除してください。エラー解除については、「3.8.8 エラー解除」を参照してください。

4.5.1. CSV 形式で保存

シナリオの実行結果をCSV形式で保存します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行結果一覧」をクリックします。
- (3) 「シナリオ実行結果一覧」アイコンに対する「操作」メニューが表示されますので、「CSV形式で保存」をクリックします。
- (4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてファイルを保存してください。

「ファイルのダウンロード」画面が表示されない場合は、ブラウザのセキュリティの設定を確認してください。

• Internet Explorer

「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選択し、「セキュリティ」タブ内の「このゾーンのセキュリティレベル」の「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「セキュリティ設定」画面を表示します。

- 1) 「ダウンロード」-「ファイルのダウンロード」を「有効にする」に設定する。
- 2) 「ダウンロード」-「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を「有効にする」に設定する。
(Internet Explorer 7/8のみ)

4.5.2. ログの削除

ログファイルを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「シナリオ実行結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオ実行結果一覧」をクリックします。
- (3) 「シナリオ実行結果一覧」アイコンに対する「操作」メニューが表示されますので、「操作」メニューから「ログの削除」をクリックします。
- (4) 「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

シナリオ実行結果のログファイルは、以下のフォルダに格納されます。また、ログファイルは削除されるまで制限なく増え続けます。

デフォルト:C:\Program Files\NEC\DeploymentManager\Datafile\LogFile\SnrReport

ログについては、「付録 E DPM が出力するログ」を参照してください。

4.6. 「自動更新結果一覧」アイコン

「自動更新結果一覧」アイコンでは、DPMで実行した自動更新結果一覧を表示します。

「自動更新結果一覧」アイコンは、「監視」ビューのツリービュー上の「自動更新結果一覧」アイコン、または「監視」ビューのメインウィンドウに表示される「監視機能一覧」グループボックスの「自動更新結果一覧」からアクセスできます。

「自動更新結果一覧」アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「自動更新結果一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.7 自動更新結果一覧の詳細」を参照してください。

4.7. 自動更新結果一覧の詳細

「自動更新結果一覧」画面では、以下の情報が表示されます。

- Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。
- メインウィンドウに「自動更新結果一覧」グループボックスが表示されます。



基本情報	
自動更新ログ数	自動更新ログ数を表示します。
自動更新結果	
表示件数	自動更新ログの表示件数が選択できます。
種類	自動更新ログの種類を表示します。(※1)
日時	自動更新日時を表示します。
マシン名	自動更新のマシン(管理対象マシンのマシン名)を表示します。
MACアドレス	自動更新対象のマシンのMACアドレスを表示します。
詳細	「  」をクリックすると、「自動更新結果の詳細表示」画面が表示されます。

※1

表示される自動更新結果一覧の種類は、次の種類があります。

種類	説明
更新完了	自動更新に成功した場合に表示します。
更新警告	自動更新実行前チェックにより、実行条件を満たしていない場合に表示します。実行条件を満たしていない場合とは、最大自動更新クライアント台数を超える場合やシナリオ実行中などがあります。
更新エラー	自動更新中にエラーが発生した場合に表示します。 ※ファイル転送エラーや適用するパッケージの検索に失敗するなど
通知完了	自動更新通知に成功した場合に表示します。
通知エラー	通信エラーなどにより、自動更新通知中にエラーが発生した場合に表示します。
時間設定完了	自動更新時間の設定に成功した場合に表示されます。
時間設定警告	管理対象マシンとの接続に失敗した場合や通信に失敗した場合などにより、自動更新時間の設定に失敗した時に表示します。

ヒント

自動更新エラーの場合は、再実行するか、または DPM クライアントを再起動して対処してください。

4.7.1. 自動更新結果の詳細表示

自動更新結果の詳細情報を表示します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。
- (3) メインウィンドウに「自動更新結果一覧」グループボックスが表示されますので、自動更新結果を確認する管理対象マシンの「詳細アイコン(📖)」をクリックします。
- (4) メインウィンドウに自動更新結果の詳細表示が表示されます。



ヒント

「自動更新結果」グループボックスの「詳細アイコン(📖)」をクリックして表示される「自動更新結果の詳細表示」画面は、DPM インストールフォルダ
(既定値: C:\Programfiles\NEC\DeploymentManager\Datafile\LogFile\AuReport)に、
自動更新結果(xx-xx-xx-xx-xx-xx.rpt)が存在する場合のみ表示します。

4.7.2. 最大ログ数設定

自動更新に関する最大出力件数を設定します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。
- (3) 「自動更新結果一覧」アイコンに対する「設定」メニューが表示されますので、「最大ログ数」をクリックします
- (4) メインウィンドウに「最大ログ数設定」画面が表示されますので、最大ログ数を設定します。

The screenshot shows the 'DeploymentManager' application window. The title bar indicates the user is 'admin (Administrator)' with links for 'アカウント' (Account) and 'ログアウト' (Logout). The main menu includes '運用' (Operation), '監視' (Monitoring), and '管理' (Management). The left sidebar shows a tree view with '監視' (Monitoring) selected, containing sub-items like 'シナリオ実行一覧' (Scenario Execution List), 'シナリオ実行結果一覧' (Scenario Execution Results List), and '自動更新結果一覧' (Automatic Update Results List). The main content area displays the '監視 > 自動更新結果一覧 > 最大ログ数設定' (Monitoring > Automatic Update Results List > Maximum Log Count Setting) path. Below this is a text input field labeled '最大ログ数 (1-100000)' with the value '10000' entered. At the bottom right are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons. The footer of the application window states 'Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 6.0'.

最大ログ数設定		
	最大ログ数(1-100000) (入力必須)	自動更新に関する最大出力ログの件数を設定します。 「1～100000」までの範囲で設定できます。 既定値は、「10000」です。
OK		「最大ログ数設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル		「最大ログ数設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注意

- 指定した最大ログ数だけ画面に表示します。
- 最大ログ数を 10000 以内に設定した場合は、最大ログ数を超えると古い情報から順に削除されます。最大ログ数を 10000 より大きいに設定した場合は、最大ログ数を超えると古いログから 10%が削除されます。
- 最大ログ数を前の設定値より小さく設定すると、ログの一部が削除される可能性があります。

ヒント

- 最大ログ数は管理する管理対象マシン数によって変更してください。
- 最大ログ数は「管理対象マシン数」以上に設定することを推奨します。
例えば、100 台の管理対象マシンを管理する場合は、最大ログ数を 100 以上に設定すれば、全管理対象マシンの更新の自動更新結果を確認することができます。

4.7.3. CSV 形式で保存

自動更新の実行結果、および詳細情報をCSV形式で保存します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。
- (3) 「自動更新結果一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「CSV 形式で保存」をクリックします。
- (4) 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので、「保存」ボタンをクリックしてファイルを保存してください。

ヒント

「ファイルのダウンロード」画面が表示されない場合は、ブラウザのセキュリティの設定を確認してください。設定については、「4.5.1 CSV 形式で保存」を参照してください。

4.7.4. ログの削除

自動更新結果のログファイルを削除します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「監視」をクリックして、「監視」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「監視」アイコン→「自動更新結果一覧」アイコンをクリックします。または、メインウィンドウに「監視機能一覧」グループボックスが表示されますので、「自動更新結果一覧」をクリックします。
- (3) 「自動更新結果一覧」画面が表示されますので、「操作」メニューの「ログの削除」をクリックします。
- (4) 「OK」ボタンをクリックします。

ヒント

自動更新結果のログファイルは、以下のフォルダに格納されます。
デフォルト:C:\Program Files\NEC\DeploymentManager\Datafile\LogFile\AuReport
ログについては、「付録 E DPM が出力するログ」を参照してください。

5. イメージビルダ

本章では、イメージを登録するためのツールであるイメージビルダについて説明します。

注意

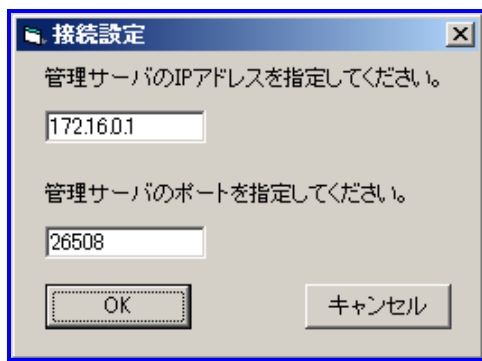
- Windows Server 2012/Windows 8の場合は、必ずAdministratorユーザでログオンして使用してください。
- Windows Server 2012/Windows 8以外でUACを有効にしている場合、イメージビルダの起動は、管理者として実行してください。それ以外の権限では、正常に動作しない場合があります。

5.1. 接続設定

イメージビルダ(リモートコンソール)を使用している場合に設定します。

イメージビルダ(リモートコンソール)を接続する管理サーバを変更する場合は、初回起動時に入力したIPアドレスとポートを以下の手順に沿って変更してください。

- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
- (2) 「接続設定」をクリックします。「接続設定」画面が表示されます。



- (3) 管理サーバの IP アドレスと管理サーバのポート入力後、「OK」ボタンをクリックしてください。

以上で、接続設定は終了です。

ヒント

- イメージビルダ(リモートコンソール)が接続する管理サーバの IP アドレスは、「管理」ビュー→「DPM サーバ」アイコン→「詳細設定」→「全般」タブ-「サーバ情報」-「IP アドレス」に指定した内容となります。
- イメージビルダ(リモートコンソール)が接続する管理サーバのポートは、管理サーバに設定したポート番号となります。
管理サーバに設定したポート番号は、以下のファイルで確認できます。
<DPM サーバのインストールフォルダ>¥PXE¥Images¥Port.ini
 - ・キー名: FTUnicast
 - ・デフォルト値: 26508(DPM Ver6.1 より前のバージョンから DPM サーバをアップグレードインストールした場合は、56023 となります。)

5.2. フロッピーディスクのイメージ作成

フロッピーディスクのイメージ作成機能を使うことにより、BIOS、およびファームウェアのアップデート用フロッピーディスクイメージをDPMへ登録し、ネットワークを介して配信できます。

また、フロッピーディスクサイズ(1.44MByte)までの場合は、フロッピーディスク単体として起動できるようオリジナル作成したツールもDPMを使用して配信、実行できます。

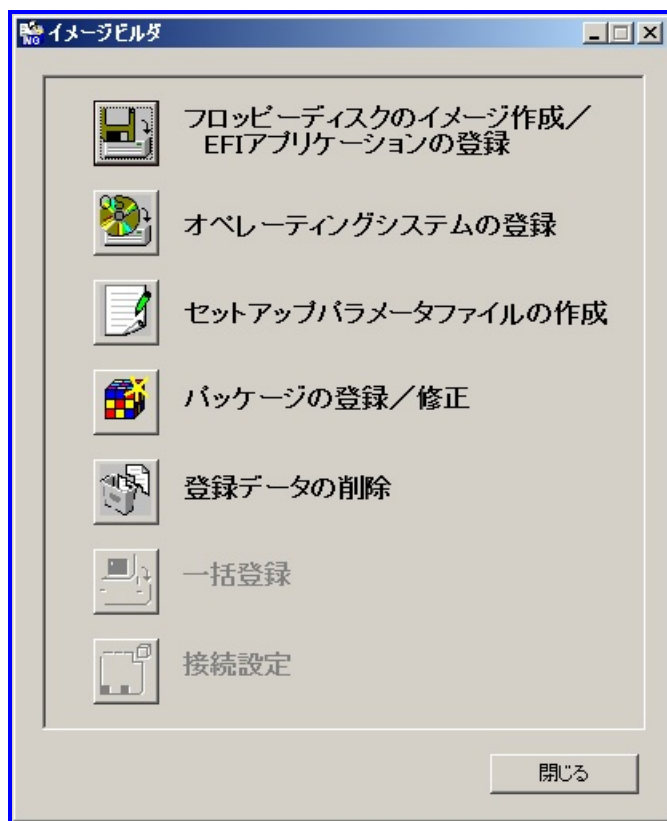
■フロッピーディスクのイメージ作成について説明します。

イメージは、イメージビルダを使用して作成します。イメージが作成されるとDPMサーバに登録されます。

イメージビルダを用いてフロッピーディスクのイメージをDPMに登録する方法について説明します。

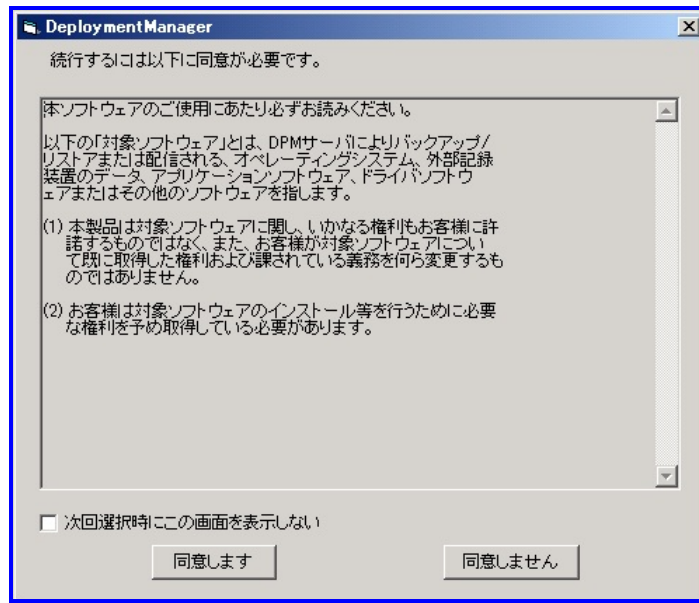
はじめに、BIOS、およびファームウェアのアップデートを自動的に実行するフロッピーディスクを用意します。用意ができたらDPMに登録するために管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンのフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを挿入します。

- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンから「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
- (2) イメージビルダが起動されますので、「フロッピーディスクのイメージ作成/EFIアプリケーションの登録」をクリックします。

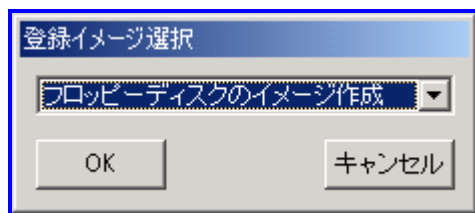


ヒント

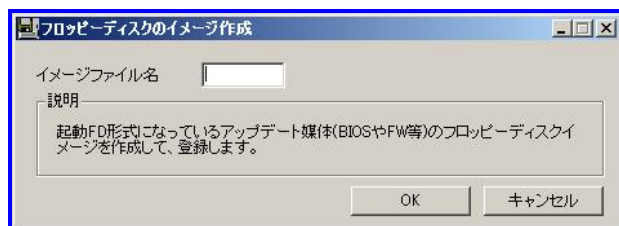
イメージビルダを起動し、メニューをクリックすると、初回に以下の画面が表示されます。内容をよく確認し、「同意します」ボタンをクリックしてください。「同意しません」ボタンをクリックすると本機能は使用できません。



- (3) 「登録イメージ選択」画面が表示されますので、「フロッピーディスクのイメージ作成」を選んで「OK」ボタンをクリックします。



- (4) 「フロッピーディスクのイメージ作成」画面が表示されますので、イメージファイル名を入力して、「OK」ボタンをクリックします。



フロッピーディスクのイメージ作成

イメージファイル名

イメージファイル名を入力します。
入力できる文字数は、8Byte(半角8文字)です。使用できる文字は、半角英数字/以下の記号です。

・ _ -

- (5) 確認画面が表示されますので、フロッピーディスクが挿入されていることを確認して「OK」ボタンをクリックします。

- (6) 以下の画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。



5.3. オペレーティングシステムの登録

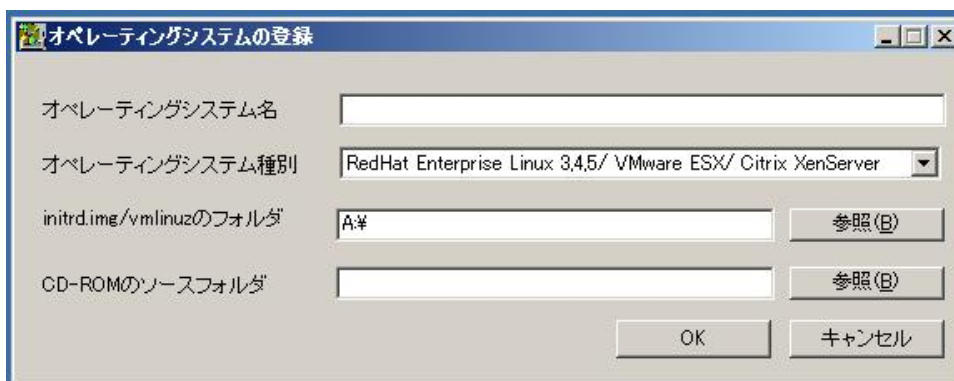
重要

NFS 公開フォルダを<イメージ格納用フォルダ>¥exports 以外に作成する場合は、イメージビルダを使用せず、手作業による登録が必要になります。詳細については、「オペレーションガイド 3.5.6 注意事項、その他」の「Linux のインストールについて」を参照してください。

注意

Express5800に「Linux基本サービスセット」を使用してLinuxのインストールを行う場合は、「Linux基本サービスセット」のCD内容もインストールCDと合わせてコピーする必要があります。手順については、「オペレーションガイド 3.5.6 注意事項、その他」の「Linux基本サービスセット」の使用方法」を参照してください。

- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンから「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
- (2) イメージビルダが起動されますので、「オペレーティングシステムの登録」をクリックします。
- (3) 「オペレーティングシステムの登録」画面が表示されますので、各項目を設定して「OK」ボタンをクリックします。

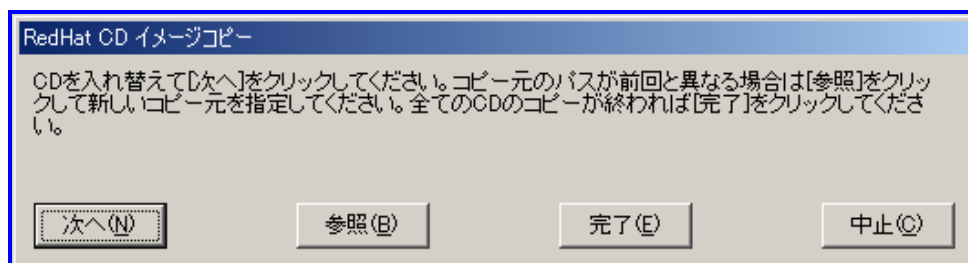


オペレーティングシステムの登録	
オペレーティングシステム名	オペレーティングシステム名を入力します。 「Linux」、「Linux(gPXE)」、「ks」、「daemon」、「pxelinux.～」という名前は、予約されているため登録できません。 Linuxの場合は、英数字/以下の記号のみ使用できます。 ._-()
オペレーティングシステム種別	リストボックスから以下のオペレーティングシステムを設定します。 ・Red Hat Linux 3,4,5/VMware ESX/Citrix XenServer ・Red Hat Enterprise Linux 6
initrd.img/vmlinuzのフォルダ	フロッピーディスクのドライブが表示されます。デフォルトは、「A:¥」です。 「参照」ボタンをクリックして、「initrd.img/vmlinuz」が格納されている箇所を指定して設定できます。 「オペレーティングシステム種別」で「Red Hat Enterprise Linux 6」を選択した場合は、「インストール媒体のimages¥pxeboot」フォルダを直接指定するか、インストール用ISOファイルをマウントしてimages/pxebootを指定してください。
CD-ROMのソースフォルダ (「オペレーティングシステム種別」で「Red Hat Enterprise Linux 6」が選択されている場合には、「インストール用ISO」と表示されます。)	「オペレーティングシステム種別」を設定すると、CD-ROMのドライブが表示されます。 「参照」ボタンをクリックして、OSが格納されているフォルダを指定して設定できます。 「Red Hat Enterprise Linux 6」を選択した場合には、インストール用ISOファイルを指定してください。
OK	「オペレーティングシステムの登録」画面の設定内容でOSイメージが作成され、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「オペレーティングシステムの登録」画面の設定内容でOSイメージが作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

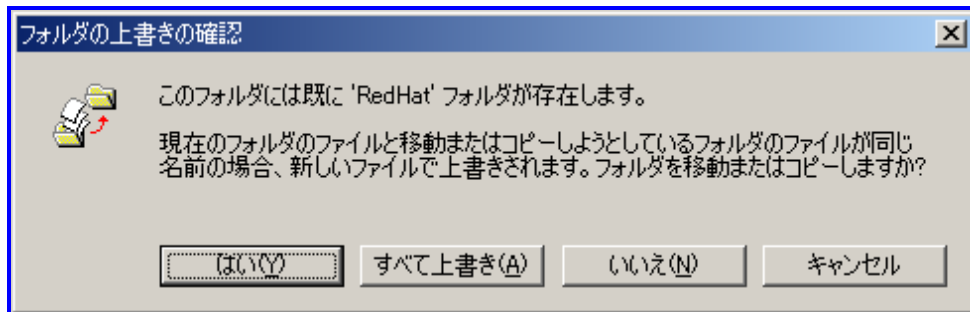
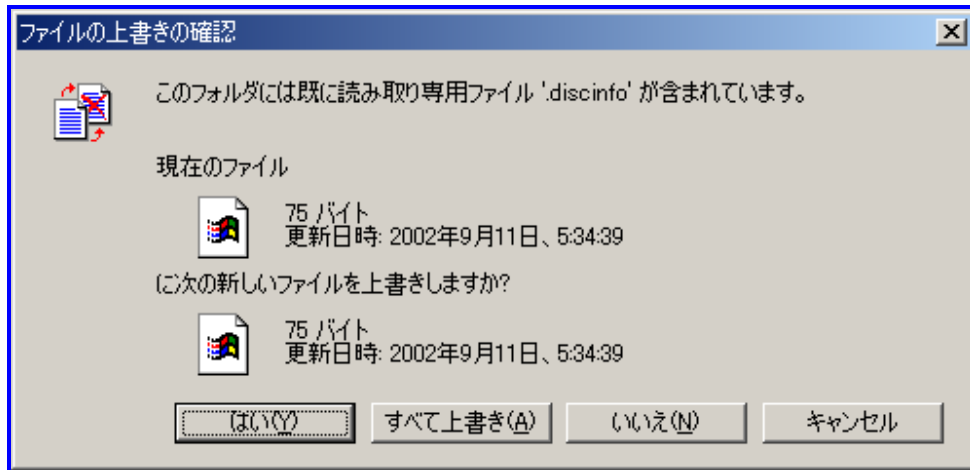
ヒント

Linuxのイメージファイル作成では、指定されたCD-ROMのソースフォルダ以下をすべてイメージファイルとしてコピーします。
Red Hat Linuxでは、CD-ROMが複数枚に分かれているので、1枚目のコピー終了後に次のCD-ROMコピーを促すメッセージが表示されます。順番にCD-ROMを入れ替えて、コピーを継続してください。
このとき、上書き確認のメッセージダイアログが表示されますが、「上書き」、または「すべて上書き」を選択して、続行してください。

- (4) 「vmlinuz/initrd.img」ファイル、および CD のコピーが完了するまで、しばらくお待ちください。
続いて「Red Hat CD イメージコピー」画面が表示されますので、登録する Red Hat のインストール CD がまだある場合は、CD を入れ替えて「次へ」ボタンをクリックします。Red Hat のインストール CD は複数枚あります。



(5) 途中で上書き確認が表示される場合は、「すべて上書き」をクリックしてください。



(6) すべての CD のコピーが完了すると、「Red Hat CD イメージコピー」画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックしてください。

5.4. セットアップパラメータファイルの作成

セットアップパラメータファイルとは、ディスク複製 OS インストールや OS クリアインストールを行うために使用するファイルです。このファイルを使用して、管理対象マシンの設定を行います。各管理対象マシンごとにセットアップパラメータファイルを作成する方法と、一括して大量作成する方法を説明します。

5.4.1. ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows)

Windows でディスク複製 OS インストールを行う場合に、各マシンに設定を行うためのディスク複製用情報ファイルを作成する手順について説明します。

5.4.1.1. ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows Server 2000/Windows Server 2003/Windows XP)

Windows Server 2000/2003/XP用のディスク複製用情報ファイルの作成は、情報ファイルを作成し、その情報ファイルを元にしてディスク複製用情報ファイルを作成します。手順については、「1.情報ファイルの作成」から「2.ディスク複製用情報ファイルの作成」を参照してください。

また、「1.情報ファイルの作成」で設定される各設定値は、「2.ディスク複製用情報ファイルの作成」で作成するディスク複製用情報ファイルのデフォルト値になります。

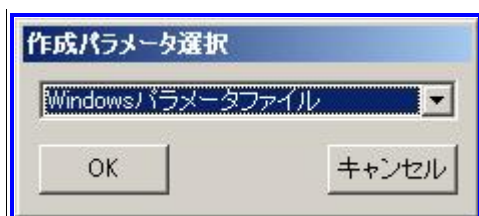
1.情報ファイルの作成

ディスク複製用情報ファイルを作成する元となる、情報ファイルを一つ作成します。

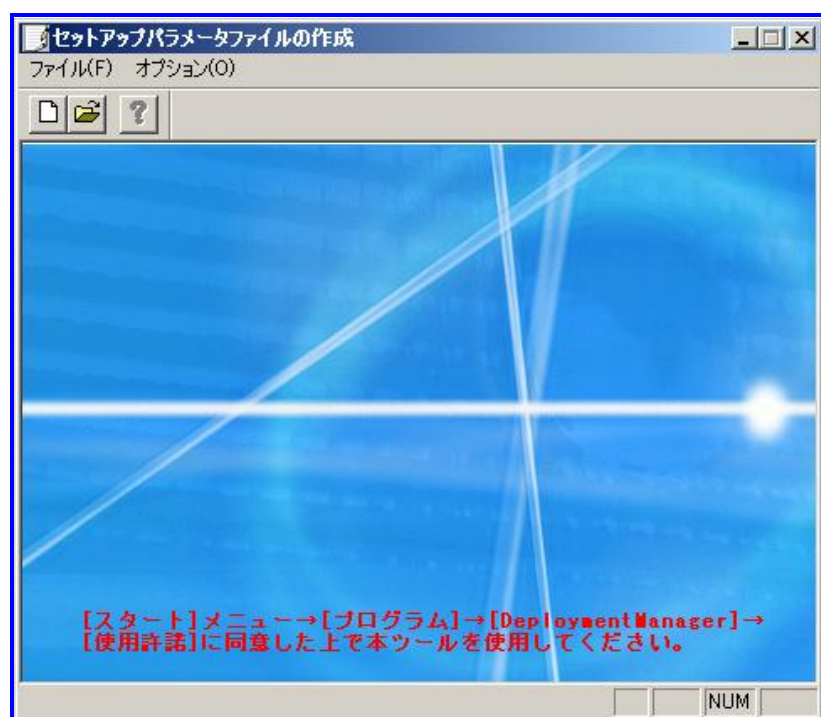
注意

- Windows OS の種類によって入力する項目が違います。
- 項目によっては他の項目のチェックが必要な場合があります。画面にそのようなメッセージが表示された場合は、その画面の指示に従ってください。
- セットアップパラメータファイルは必ず DPM で作成したものを使用してください。
Express5800 シリーズに標準添付されている EXPRESSBUILDER を使ったシームレスセットアップなどの DPM 以外の製品で作成したセットアップパラメータは使用できません。

- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (2) 「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックします。「作成パラメータ選択」画面が表示されますので「Windows パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されます。



- (4) セットアップパラメータファイルの作成」画面の「ファイル」メニュー→「情報ファイル新規作成」をクリックすると、「基本情報」画面が表示されますので、以下の画面の赤枠で囲んだ OS 種別を設定します。赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。

以下の項目は設定する必要はありません。

- ・対象マシン
- ・インストールパス
- ・パーティション

基本情報	
OS種別	インストール時のOS種別を選択します。以下のOSが選択できます。(※1) -Windows 2000 Professional -Windows 2000 Server -Windows 2000 Advanced Server -Windows XP Professional -Windows Server 2003 Standard Edition -Windows Server 2003 Enterprise Edition -Windows Server 2003 Standard x64 Edition -Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition
アクティベーション	「OS種別」でWindows XP/Windows Server 2003を選択した場合は、「アクティベーション」の設定が有効になります。
Retail 版またはNEC 以外の OEM 版	Retail版、またはNEC以外のOEM版を使用している場合に選択してください。(※2)
NEC OEM 版	NEC OEM版を使用している場合に選択してください。(※2)

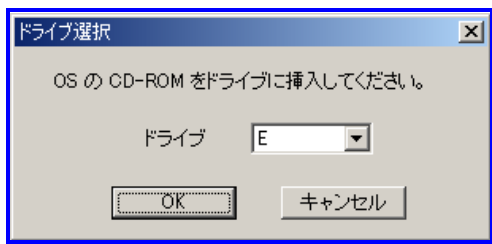
※1

- 以下のOSを選択した場合は、「アクティベーション」が有効になります。
 「Retail版、またはNEC以外のOEM版」、「NEC OEM版」のいずれか選択します。
 -Windows XP Professional
 -Windows Server 2003 Standard Edition
 -Windows Server 2003 Enterprise Edition
 -Windows Server 2003 Standard x64 Edition
 -Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition
- 「OS種別」の変更を行うと設定情報は維持されません。各項目が正しく設定されているかを必ず確認してください。

- 「OS種別」に以下が表示されますが、本バージョンでは対応していません。
 - ・Windows Server 2003 Datacenter Edition
 - ・Windows Server 2003 Datacenter x64 Edition
- ディスク複製OSインストールの実行中にアクティベーション(ライセンス認証)を要求される場合があります。要求された場合は、画面の指示に従ってライセンス認証手続きを行ってください。

※2

- x64でDPMサーバを運用している場合は、以下に注意してください。
 - ・下記の弊社製 OS 媒体に対しては、「NEC OEM 版」を選択して情報ファイルは作成はできません。これらのOSに対してディスク複製 OS インストールを行う場合は、「Retail 版、または NEC 以外の OEM 版」を選択し、OS 媒体、またはハードウェアに添付のプロダクトキーを使用して情報ファイルを作成してください。
 - Windows XP Professional(SP なし、SP1)(CD 型番:243-110442-007-A)
 - Windows XP Professional w/SP2(2006/06 以降除く)(CD 型番:243-110442-007-C)
 - Windows Server 2003 Standard Edition(SP なし)(CD 型番:243-110442-100-A/C)
 - Windows Server 2003 Enterprise Edition(SP なし)(CD 型番:243-110442-101-A/B/C)
- 「アクティベーション」で「NEC OEM版」を選択した場合は、以下の画面が表示されますので、OSのCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、「OK」ボタンをクリックします。



(5) 「次へ」ボタンをクリックすると、「ユーザ情報」画面が表示されますので、各項目を設定します。

ユーザ情報	
使用者名 (入力必須)	使用者名を入力します。 入力できる文字数は、50Byte(半角50文字/全角25文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は入力できません。 ,
会社名	会社名を入力します。 入力できる文字数は、50Byte(半角50文字/全角25文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は入力できません。 , 入力必須ではありません。
プロダクトキー	Windows OSのプロダクトキーを入力します。 入力は、半角で「xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx」の形式で入力してください。 「NEC OEM版」選択時には、入力不要です。 プレインストール装置の場合は、マシン本体に貼り付けられているシールのプロダクトキーを入力してください。マイクロソフト社とボリュームライセンス契約を結ばれ、専用媒体でインストールを行う場合は、媒体に添付されているプロダクトキーを入力してください。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。リストボックスから該当する地域を選択してください。設定必須ではありません。

- (6) 「次へ」ボタンをクリックすると、「コンピュータの役割」画面が表示されますので、以下の画面の赤枠で囲んだ各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。

以下の項目は設定する必要はありません。

- ・クライアントライセンス
- ・ドメイン参加アカウントの指定
- ・ネットワークの設定

The screenshot shows the 'コンピュータの役割' (Computer Role) configuration window. A red rectangular box highlights the following fields, which are required for setup:

- コンピュータ名 (Computer Name)
- Administratorのパスワード (Administrator Password)
- Administratorのパスワードの確認 (Administrator Password Confirmation)
- MAGアドレス (MAC Address)
- WorkGroup (selected under the Workgroup radio button)

Below the highlighted area, there are three additional sections:

- クライアントライセンス (Client Licensing):** Includes options for '同時使用するユーザ数' (Number of concurrent users, set to 5) and 'アクセスするコンピュータ数' (Number of computers to access).
- ドメイン参加アカウントの指定 (Domain Account Specification):** Includes fields for 'アカウント名' (Account name), 'パスワード' (Password), and 'パスワード確認' (Password confirmation).
- ネットワークの設定 (Network Settings):** Includes radio buttons for 'ネットワークの詳細設定を行う' (Perform detailed network settings) and 'ネットワークの設定をすべてデフォルトでインストールする' (Install all network settings by default).

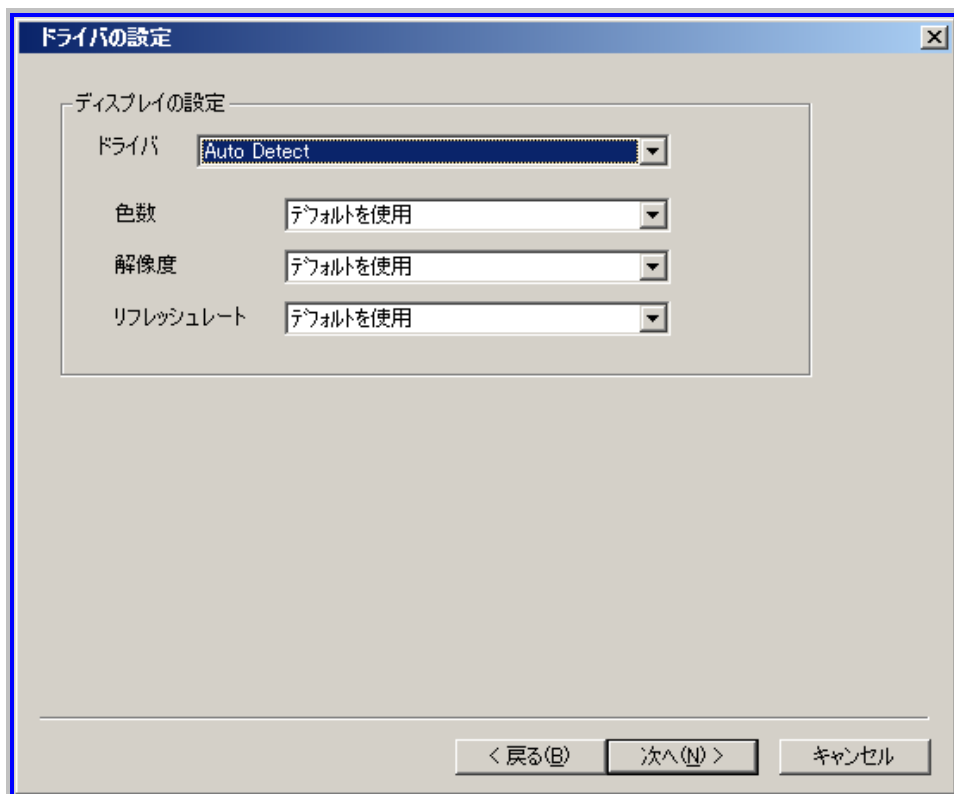
At the bottom of the window are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

コンピュータの役割	
コンピュータ名 (入力必須)	DPMに登録しているマシン名を入力します。 入力できる文字数は、15Byte(半角15文字/全角7文字)です。 使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号/半角スペースは、使用できません。 . , ` ~ ! @ # \$ % & * = + { } ¥ ; : ' " < > / ? [] ^ () また、数字のみのコンピュータ名は、登録できません。 他のマシン名、ドメイン/ワークグループ名と同じにならないようにしてください。
Administratorのパスワード	Administrator(管理者)権限のパスワードを設定します。 入力できる文字数は、14Byte(半角14文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/半角スペース/半角カナ/全角文字は、使用できません。 , " , 設定必須ではありません。 設定する場合は、パスワードの設定は、各OSのパスワード設定ポリシーも参照してください。
Administratorのパスワードの確認	「Administratorのパスワード」で設定したパスワードを再入力します。 「Administratorのパスワード」を設定した場合は、入力必須です。
MACアドレス	ディスク複製OSインストール時に使用します。この項目は設定できません。
ドメイン	ドメインの設定を行います。「ドメイン」を選択して、対応する名称を入力してください。(※1) 以下の記号/半角スペースは、使用できません。 . , " ¥ / ; : * ? < > 「 」 []
ワークグループ	ワークグループの設定を行います。「ワークグループ」を選択後、対応する名称を入力します。 以下の記号は、使用できません。 , " ¥ ; : * ? < > + =

※1

- 「ドメイン」を設定する場合は、ドメインコントローラのパスワード設定のポリシーに従って設定してください。ポリシーに従わない設定を行った場合は、ディスク複製 OS インストール時の途中からログイン毎にログイン画面で止まることがあります。その場合は、手動でログインしてください。
- 「パスワード」は省略しないでください。省略した場合は、シナリオ実行エラーとなります。

- (7) 「次へ」ボタンをクリックすると、「ドライバの設定」画面が表示されますが、ディスク複製 OS インストールでは設定不要な項目のため、そのまま「次へ」ボタンをクリックします。



- (8) 「次へ」ボタンをクリックすると、「ネットワーク設定」画面が表示されますので、NIC(LAN ボード)を設定します。以下の画面の赤枠で囲んだ各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。

以下の項目は設定する必要はありません。

- ・ネットワークサービス
- ・ネットワーククライアント

「NIC の設定」を行うと、NIC に対して「プロトコルの設定」、「IP アドレス」、「DNS」、「WINS」の設定ができます。これらの設定は、マシンの NIC に直接指定できます。ただし NIC を指定する場合には MAC アドレスの入力が必須です。

ネットワーク設定

NICの設定

☐ AutoDetect

☐ MACアドレス

追加

追加するNICのMACアドレス一覧

プロトコルの設定

削除

ネットワークサービス

☐ リモートアクセスサービス

☐ SAPエージェント

詳細設定

ネットワーククライアント

☒ Microsoft ネットワーク用クライアント

ネームサービスプロバイダ

Windows ルーター

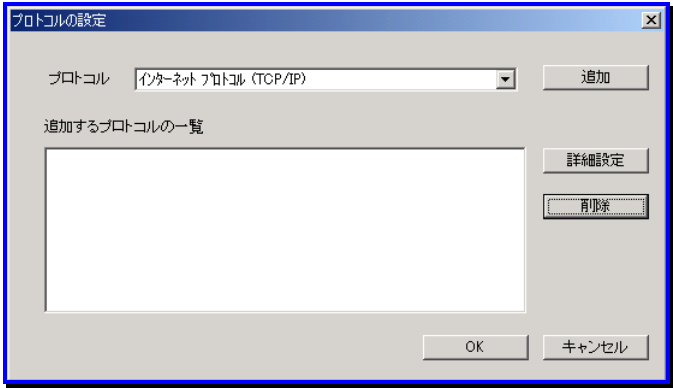
ネットワークアドレス

☐ Netware用クライアントサービス

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

ネットワーク設定	
NICの設定	
AutoDetect	NICを指定しない場合は、「AutoDetect」を選択します。 「AutoDetect」を「追加するNICのMACアドレス一覧」に追加した場合は、「AutoDetect」に1～4の数字が付加されます。 「AutoDetect」を設定してディスク複製OSインストールを行う際、マシンにNICが複数ある場合は、どのNICに対して設定が行われるかは分かりません。
MACアドレス	NICを指定する場合は、「MACアドレス」を選択して、テキストボックスにMACアドレスを入力します。 「MACアドレス」の入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。 「MACアドレス」を設定してディスク複製OSインストールを行う際、指定したMACアドレスに設定が行われます。 DPMIに登録しているMACアドレスを持つNICには、固定IPアドレス、DHCPサーバから取得に関わらず必ずネットワーク通信ができるように設定します。ネットワーク通信ができない場合は、シナリオを実行した際にシナリオが完了しない場合があります。
追加	「追加するNICのMACアドレス一覧」にNICを追加します。 「AutoDetect」を選択、または「MACアドレス」を入力してから、「追加」ボタンをクリックしてください。
追加するNICのMACアドレス一覧	MACアドレス一覧を表示します。 NICは、一つ以上設定してください。「AutoDetect」と「MACアドレス」を合わせて四つまで追加できます。
プロトコルの設定	追加したNICに対するプロトコルの設定を行います。「プロトコルの設定」ボタンをクリックすると、「プロトコルの設定」画面が表示されます。画面については、以降の「■プロトコルの設定」を参照してください。  「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を追加する際、「追加するプロトコルの一覧」には、「NICの設定」-「追加」で追加したNICの数だけインターネット プロトコル(TCP/IP)が追加されます。 「NICの設定」-「追加」でNICを「00-00-00-00-00-00」と「AutoDetect1」の二つ追加していた場合は、以下のようになります。 例)追加するプロトコルの一覧 ・インターネットプロトコル(TCP/IP) 00-00-00-00-00-00 ・インターネットプロトコル(TCP/IP) AutoDetect1
削除	追加したMACアドレス、またはAutoDetectを削除する場合は、一覧から選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

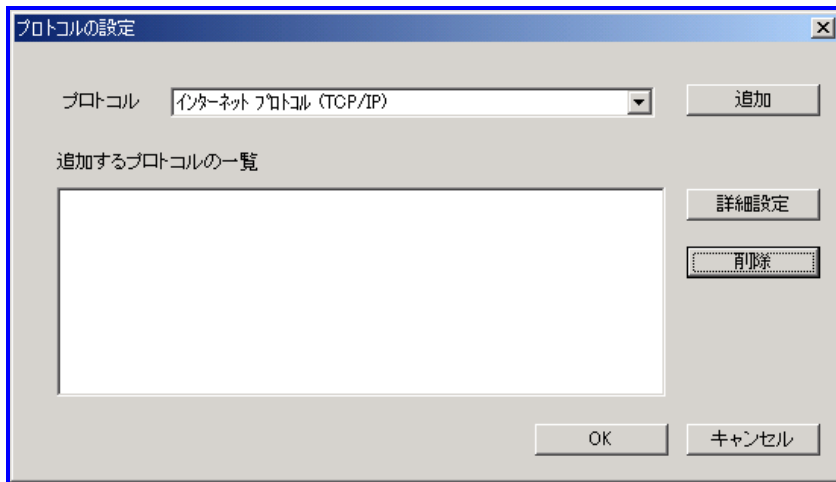
■ プロトコルの設定

「プロトコルの設定」画面について説明します。

ヒント

複数のNIC(LANボード)に対して設定を行う場合は、3)から4)を繰り返し設定します。

- 1) 「プロトコルの設定」画面→「プロトコル」のリストボックスから「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



プロトコルの設定	
プロトコル	NICにプロトコルの設定を行います。 追加できるプロトコルは、以下のとおりです。ただし、OSごとに選択できる項目が変わります。 -インターネット プロトコル(TCP/IP) (設定必須) -NWLink IPX/SPX/NetBIOS互換トランスポート プロトコル -Apple Talk プロトコル -ネットワーク モニタ ドライバ -NetBEUI プロトコル -DLC プロトコル -Streams環境
追加するプロトコルの一覧 (設定必須)	追加するプロトコルの一覧を表示します。 「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックすると、「追加するプロトコルの一覧」に追加されます。
詳細設定	各NICに対するインターネット プロトコル(TCP/IP)の詳細設定を行います。 「追加するプロトコルの一覧」から「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を選択すると、「詳細設定」ボタンがクリックできます。 「詳細設定」ボタンをクリックすると、「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。 画面については、以降の説明を参照してください。 設定必須ではありません。(※1)
削除	追加したプロトコルを削除します。 「追加するプロトコルの一覧」から削除するプロトコルを選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。
OK	「プロトコルの設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。

キャンセル	「プロトコルの設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1

設定しない場合、IPアドレス、DNS、WINSの設定はすべてデフォルトの「自動的に取得する」となります。スコープIDの値は反映されません。

「プロトコルの設定」画面の「OK」ボタンをクリック→「ネットワーク設定」画面の「次へ」ボタンをクリックして、(9)「コンポーネント設定」画面に進んでください。

- 2) 「追加するプロトコル一覧」に「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が追加されますので、プロトコルを選択し、「詳細設定」ボタンをクリックします。
- 3) 「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面が表示されますので、「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面→「IP設定」タブの各項目を設定します。

インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定	
IP設定	IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、メトリックの設定を行うことができます。設定は自動で取得するか、値を設定するかによって異なります。
IPアドレスを自動的に取得する	ラジオボタンを選択すると、IPアドレスを自動的に取得します。デフォルトは、「IPアドレスを自動的に取得する」が選択されています。
次のIPアドレスを使う	ラジオボタンを選択すると、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、メトリックの設定項目が有効になります。
IPアドレス	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IPアドレス」画面が表示されますので、IPアドレス、およびサブネットマスクを入力してください。  入力値は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 「TCP/IPアドレス」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「IPアドレス」の一覧に、IPアドレス、およびサブネットマスクが追加されます。 IPアドレス、サブネットマスクは、各NICに対して最大四つまで追加できます。
編集	「IPアドレス」の一覧から編集するIPアドレス/サブネットマスクを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IPアドレス」画面が表示されますので、IPアドレス/サブネットマスクを編集してください。
削除	「IPアドレス」の一覧から削除するIPアドレス/サブネットマスクを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、IPアドレス/サブネットマスクが削除されます。
デフォルト ゲートウェイ	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IP ゲートウェイ アドレス」画面が表示されますので、ゲートウェイ、およびメトリックを入力してください。  「ゲートウェイ」は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 「メトリック」は半角数字を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。既定値は、「1」です。 「TCP/IP ゲートウェイ アドレス」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「デフォルト ゲートウェイ」の一覧に、ゲートウェイ/メトリックが追加されます。 ゲートウェイ/メトリックは、最大四つまで追加することができます。
編集	「デフォルト ゲートウェイ」の一覧から編集するゲートウェイ/メトリックを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IP ゲートウェイ アドレス」画面が表示されますので、ゲートウェイ/メトリックを編集してください。
削除	「デフォルト ゲートウェイ」の一覧から削除するゲートウェイ/メトリックを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、ゲートウェイ/メトリックが削除されます。

注意

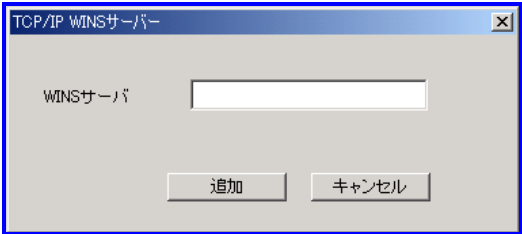
Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコンをクリックし、「設定」メニューの「詳細設定」→「全般」タブ-「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」チェックボックスにチェックを入れて運用する場合、設定したIPアドレスで管理対象マシンが管理サーバと通信できないとシナリオの実行完了を検出できない可能性があります。管理サーバと通信できるIPアドレスを設定してください。

「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」チェックボックスのチェックを外して運用する場合は、管理サーバとの通信可否に関係なくシナリオ実行完了を検出できます。

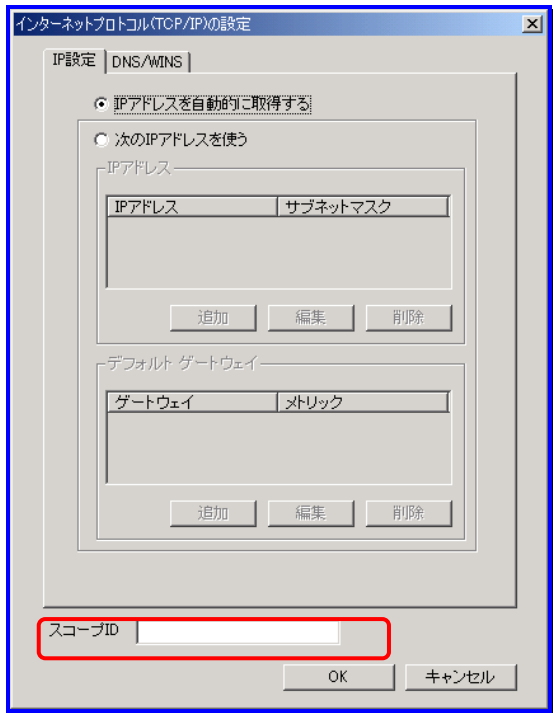
- 4) 「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面→「DNS/WINS」タブの各項目を設定します。

インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定

DNS/WINS	DNS、WINSの設定を行うことができます。設定は自動で取得するか、値を設定するかによって異なります。
DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する	DNSサーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。管理対象マシンがDNSサーバの場合は、選択してください。デフォルトは、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されています。
次のDNSサーバーのアドレスを使う	DNSサーバのIPアドレスを設定する場合「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択してください。

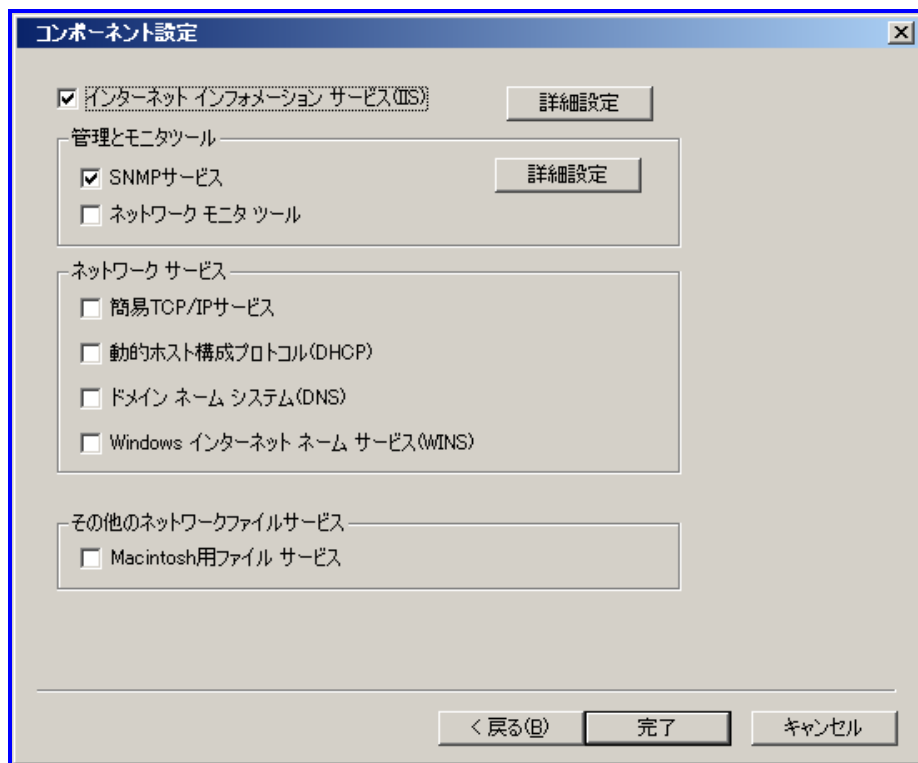
DNSサーバーアドレス(使用順)	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IP DNSサーバー」画面が表示されますので、DNSサーバのIPアドレスを入力してください。  入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 「TCP/IP DNSサーバー」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧に、DNSサーバのIPアドレスが追加されます。DNSサーバのIPアドレスは、最大四つまで追加できます。
編集	「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧から編集するDNSサーバのアドレスを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IP DNSサーバー」画面が表示されますので、DNSサーバのアドレスを編集してください。
削除	「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧から削除するDNSサーバのIPアドレスを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、DNSサーバのIPアドレスが削除されます。
WINSサーバーのアドレスを自動的に取得する	WINSサーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。 管理対象マシンがWINSサーバの場合は、「WINSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。 デフォルトは、「WINSサーバーのアドレスを自動的に取得する」が選択されています。
次のWINSサーバーのアドレスを使う	WINSサーバのIPアドレスを設定する場合は、「次のWINSサーバーのアドレスを使う」を選択してください。
WINSサーバーアドレス(使用順)	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IP WINSサーバー」画面が表示されますので、WINSサーバのアドレスを入力してください。  入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 「TCP/IP WINSサーバー」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「WINSアドレス(使用順)」の一覧に、WINSサーバのアドレス追加されます。WINSサーバのアドレスは最大四つまで追加できます。
編集	「WINSアドレス(使用順)」の一覧から編集するWINSサーバのIPアドレスを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IP WINSサーバー」画面が表示されますので、WINSサーバのIPアドレスを編集してください。
削除	「WINSアドレス(使用順)」の一覧から削除するWINSサーバのIPアドレスを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、WINSサーバのIPアドレスが削除されます。

5) 「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の「スコープID」の設定をしてください。

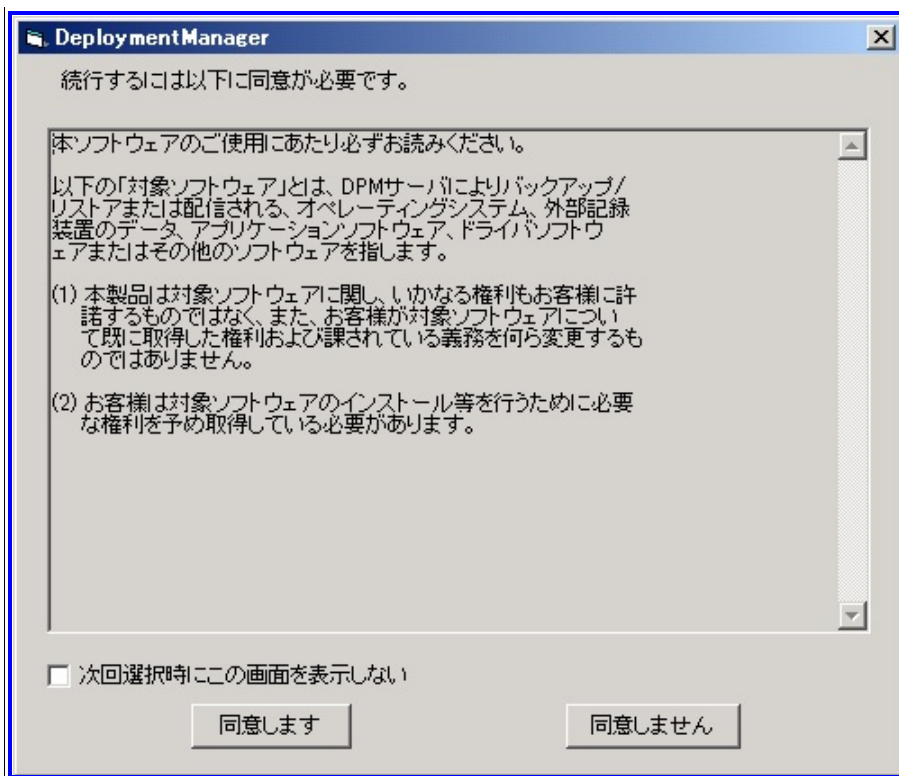


インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定	
スコープID	スコープIDを設定します。 スコープIDの設定はNICごとに設定できません。ひとつのNICに対してインターネット プロトコル(TCP/IP)のスコープIDを設定した場合は、他のNICに対するインターネット プロトコル(TCP/IP)の「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面を開いても、前に設定を行ったスコープIDの設定が表示されます。 設定必須ではありません。
OK	「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

- (9) 「次へ」ボタンをクリックすると、「コンポーネント設定」画面が表示されますが、ディスク複製 OS インストールでは設定不要な項目のため、そのまま「完了」ボタンをクリックします。



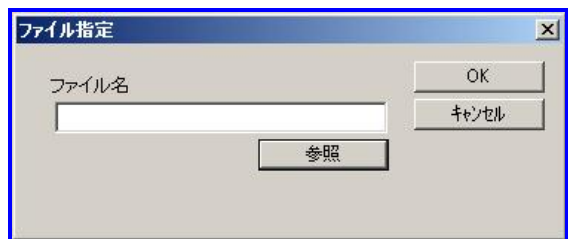
- (10) 同意画面が表示されますので、内容をよくお読みいただき「同意します」ボタンをクリックします。



ヒント

「同意しません」ボタンをクリックすると本機能は使用いただけません。

- (11) 「同意します」ボタンをクリックすると、「ファイル指定」画面が表示されますので、「参照」ボタンからファイル名を指定して、情報ファイルを保存します。



ファイル指定	
ファイル名	設定した情報ファイルの名前と格納先を設定します。 「参照」ボタンから格納先の選択、または直接入力してファイルのパスを設定できます。 入力できる文字数は、63Byte(半角63文字/全角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は、使用できません。 "/ ¥ ; : , * ? < > 「参照」ボタンを使用して、格納先、ファイル名を設定する場合は、パスを含めて254Byte(半角254文字/全角127文字)以内になるようにファイル名を設定します。
OK	「ファイル指定」画面で指定した格納先に情報ファイルを保存して、ウィンドウを閉じます。
キャンセル	これまで設定した内容で情報ファイルを保存せずに、ウィンドウを閉じます。

「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されたら、情報ファイルの作成は完了です。

2. ディスク複製用情報ファイルの作成

「1. 情報ファイルの作成」で作成した情報ファイルを元にディスク複製用情報ファイルを作成します。

ヒント

ディスク複製用情報ファイルは展開するマシン毎に作成する必要があります。

- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (2) 「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックします。「作成パラメータ選択」画面が表示されますので「Windows パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
- (3) 「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されますので、「ファイル」メニュー→「ディスク複製用情報ファイルの新規作成 2003/2000/XP(P)」をクリックすると、「ファイルを開く」画面が表示されます。
- (4) 「5.4.1.1 ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows Server 2000/Windows Server 2003/Windows XP)」-「1. 情報ファイルの作成」で作成した情報ファイルを選択してファイルを開きます。

- (5) 「セットアップ情報ファイル」画面が表示されますので、セットアップする端末に必要な情報を設定します。以下の画面の赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。
以下のタブは設定する必要はありません。
- ・基本情報
 - ・ドライバの設定
 - ・コンポーネント設定

セットアップ情報ファイル(※1)	
コンピュータの役割	・「コンピュータ名」は設定必須です。 DPMに登録されたマシン名を入力して、「MACアドレス」欄にカーソルを合わせると、自動的にMACアドレスが入力されます。 ・「Administratorパスワード」、「ドメイン参加アカウントの指定」のパスワードには、以下の記号/半角カナ/全角文字は使用できません。 " , ・「MACアドレス」は、ディスク複製OSインストールを行うマシンのMACアドレスを入力します。入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。
ユーザ情報	・「使用者名」は設定必須です。 ・「プロダクトキー」は、ディスク複製OSインストールを行うマシンで使用するプロダクトキーを設定します。
ネットワーク設定	- 必要に応じて設定を行ってください。 - DPMに登録しているMACアドレスを持つNICには、固定IPアドレス、DHCPサーバから取得に関わらず必ずネットワーク通信ができるように設定します。ネットワーク通信ができない場合は、シナリオを実行した際にシナリオが完了しない可能性があります。

※1

各項目は用意した情報ファイルの内容で設定されていますが、必要に応じて変更してください。

- (6) 「OK」ボタンをクリックすると、「ファイル指定」画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、「セットアップ情報ファイル」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注意

作成したセットアップパラメータのファイル名は、自動的に入力したMACアドレスとなります。ファイル名の変更はできません。

以上で、ディスク複製用情報ファイルの作成は完了です。

5.4.1.2. ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows Server 2008/Windows Vista 以降)

Windows Server 2008/Windows Vista以降用のディスク複製用情報ファイルを作成します。

Windows Server 2008/Windows Vista以降用のディスク複製用情報ファイルには、DPM Ver6.0より前のバージョンで使用していた従来の「ディスク複製用情報ファイル(Windowsパラメータファイル)」と、高速にマシンをセットアップできる「ディスク複製用情報ファイル(Windows高速化パラメータファイル)」があります。

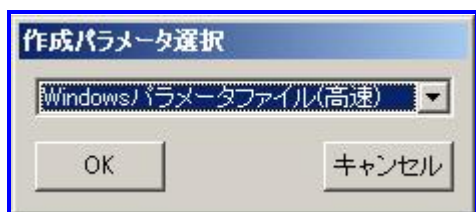
注意

- ディスク複製用情報ファイルの大量作成について、Windows高速化パラメータファイルは使用できませんので、従来のディスク複製用情報ファイル使用してください。大量作成用の「ディスク複製用情報ファイル」の作成については、後述の「2.ディスク複製用情報ファイル(Windowsパラメータファイル)の作成」を参照してください。
- Windows高速化パラメータファイルで作成したディスク複製用情報ファイルは、イメージビルダでWindowsパラメータファイルを指定して編集できません。
また、Windowsパラメータファイルで作成したディスク複製用情報ファイルは、イメージビルダでWindows高速化パラメータファイルを指定して編集できません。
- イメージビルダの画面上で入力不可となっている項目は、この手順(Windows Server 2008/Windows Vista以降の場合のディスク複製用情報ファイル作成)の設定では、使用しません。

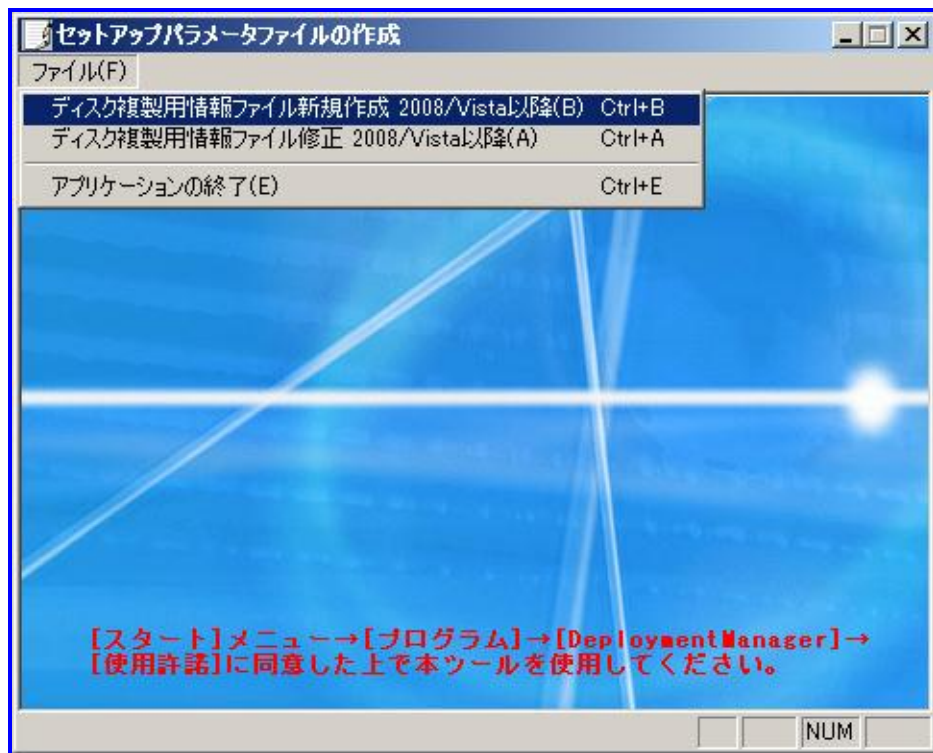
1.ディスク複製用情報ファイル(Windows 高速化パラメータファイル)の作成

ディスク複製用情報ファイル(Windows 高速化パラメータファイル)の作成では、高速にマシンをセットアップできるディスク複製用情報ファイルを作成する手順を説明します。

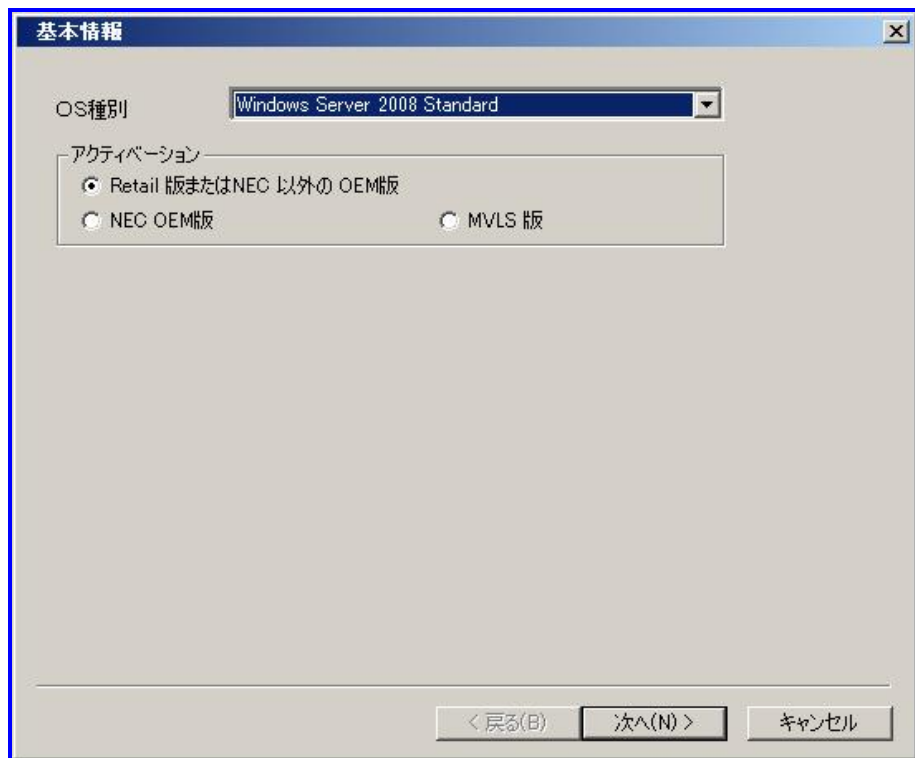
- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」から「イメージビルダ」を選択します。
- (2) 「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックします。「作成パラメータ選択」画面が表示されますので「Windowsパラメータファイル(高速)」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されますので、「ファイル」メニューから、「ディスク複製用情報ファイル新規作成 2008/Vista以降(B)」をクリックします。



- (4) 「基本情報」画面が表示されますので、OS 種別を設定します。



基本情報	
OS種別	インストール時のOS種別を選択します。以下のOSが選択できます。(※1) - Windows Server 2008 Standard - Windows Server 2008 Enterprise - Windows Server 2008 Datacenter - Windows Server 2008 Standard x64 Edition - Windows Server 2008 Enterprise x64 Edition - Windows Server 2008 Datacenter x64 Edition - Windows Server 2008 R2 Standard - Windows Server 2008 R2 Enterprise - Windows Server 2008 R2 Datacenter - Windows Vista Business - Windows Vista Enterprise - Windows Vista Ultimate - Windows 7 Professional - Windows 7 Ultimate - Windows 7 Enterprise - Windows 7 Professional x64 Edition - Windows 7 Ultimate x64 Edition - Windows 7 Enterprise x64 Edition - Windows 8 Pro - Windows 8 Enterprise - Windows 8 Pro x64 Edition - Windows 8 Enterprise x64 Edition - Windows Server 2012 Standard - Windows Server 2012 Datacenter
アクティベーション	
Retail 版または NEC 以外 の OEM 版	「Retail 版または NEC 以外の OEM 版」を使用している場合に選択してください。
NEC OEM 版	NEC OEM 版を使用している場合に選択してください。 ただし、Windows Vista/Windows 7/Windows 8については、ライセンス上、NEC OEM 版のディスク複製 OS インストールは認められていないので、選択できません。
MVLS 版	ボリュームライセンス版を使用している場合に選択してください。

※1

- 「OS 種別」の変更を行うと設定情報は維持されません。各項目が正しく設定されているかを必ず確認してください。
- ディスク複製 OS インストールの実行中にアクティベーション(ライセンス認証)を要求される場合があります。要求された場合は、画面の指示に従ってライセンス認証手続きを行ってください。
- 「OS 種別」に以下が表示されますが、本バージョンでは対応していません。
 - ・Windows Server 2008 Datacenter Edition
 - ・Windows Server 2008 Datacenter x64 Edition
 - ・Windows Server 2008 R2 Datacenter

- (5) 「基本情報」画面の設定後、「次へ」ボタンをクリックすると、「ユーザ情報」画面が表示されますので、各項目を設定します。

<Windows Server 2008/Windows Server 2012 選択時>

<Windows Vista/Windows 7/Windows 8 選択時>

ユーザ情報	
ユーザー名 (入力必須)	ユーザー名を入力します。 入力できる文字数は、50Byte(半角50文字/全角25文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は入力できません。 ,
会社名	会社名を入力します。 入力できる文字数は、50Byte(半角50文字/全角25文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は入力できません。 , 入力必須ではありません。
プロダクトキー	Windows OSのプロダクトキーを入力します。 入力は、半角で「xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx-xxxxxx」の形式で入力してください。 プレインストール装置の場合は、マシン本体に貼り付けられているシールのプロダクトキーを入力してください。マイクロソフト社とボリュームライセンス契約を結ばれ、専用媒体でインストールを行う場合は、媒体に添付されているプロダクトキーを入力してください。 「基本情報」画面の「アクティベーション」の設定で「Retail版、またはNEC以外のOEM版」を選択した場合には、入力必須です。 「NEC OEM版」を選択した場合には、入力不要です。 「MVLS版」を選択した場合には、入力は任意です。
タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。リストボックスから該当する地域を選択してください。
言語設定	使用する言語をリストボックスから選択してください。
Windowsを自動的に保護するように設定してください	この項目は、Windows Vista/Windows 7/Windows 8のみです。 Windowsを自動的に保護する設定をリストボックスから選択します。以下の3種類があります。 ・推奨設定を使用します ・重要な更新プログラムのみインストールします ・後で確認します

お使いのコンピュータの現在の場所を選択してください	この項目は、Windows Vista/Windows 7/Windows 8のみです。 お使いのコンピュータの現在の場所をリストボックスから選択します。以下の3種類があります。 ・家庭 ・職場 ・公共の場所

- (6) 「ユーザ情報」画面を設定後、「次へ」ボタンをクリックすると、「コンピュータの役割」画面が表示されますので以下の画面の赤枠で囲んだ各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。
 以下の項目は設定する必要はありません。
- ・クライアントライセンス
 - ・ネットワークの設定

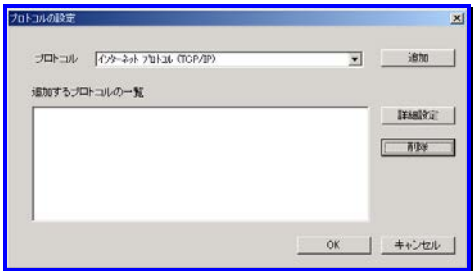
ドメイン参加アカウントの指定	「ドメイン」を選択した場合のみ入力できます。 ドメイン参加時のアカウント、パスワードの設定を行う場合は、チェックを入れてください。 チェックを入れた場合は、「アカウント名」、「パスワード」、「パスワード確認」の設定ができます。
アカウント名	アカウント名を入力します。 使用できる文字数は、32Byteです。以下の記号は、使用できません。 , "/ ; : * ? < > + = []
パスワード	パスワードを入力します。 ・Windows Server 2008/Windows Server 2012の場合、入力できる文字数は、半角英数字混在(英字には大小文字を含む)で3～14Byte以内です。以下の記号は、使用できません。 , " ・Windows Vista/Windows 7/Windows 8の場合、入力できる文字数は、14Byte以内です。以下の記号は、使用できません。 , " 「パスワード」は省略しないでください。省略した場合は、シナリオ実行エラーとなります。
パスワード確認	「パスワード」で設定したパスワードを入力してください。

- (7) 「コンピュータの役割」画面を設定後、「次へ」ボタンをクリックすると、「ネットワーク設定」画面が表示されますので、以下の画面の赤枠で囲んだ各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。

以下の項目は設定する必要はありません。

- ・ネットワークサービス
- ・ネットワーククライアント

NIC(LAN ボード)に対してプロトコルの設定、IP アドレス/DNS/WINS の設定を行うことができます。これらの設定は、コンピュータの NIC を直接指定して行うことができます。ただし NIC を指定する場合には、MAC アドレスの入力が必須です。

ネットワーク設定	
NICの設定	
AutoDetect	NICを指定しない場合に「AutoDetect」を選択します。 「AutoDetect」を「追加するNICのMACアドレス一覧」に追加した場合は、「AutoDetect」に以下の数字が付加されます。 ・Windows高速化パラメータファイル:1～8 ・Windowsパラメータファイル:1～4 「AutoDetect」を設定して、ディスク複製OSインストールを行う際、マシンにNICが複数ある場合は、どのNICに対して設定が行われるかは分かりません。
MACアドレス	NICを指定する場合は、「MACアドレス」を選択して、テキストボックスにMACアドレスを入力します。 「MACアドレス」の入力は、「xx-xx-xx-xx-xx-xx」の形式で入力してください。 「MACアドレス」を設定した情報ファイルを使用すると、指定したMACアドレスに設定が行われます。 DPMに登録しているMACアドレスを持つNICには、固定IPアドレス、DHCPサーバから取得に関わらず必ずネットワーク通信ができるように設定します。ネットワーク通信ができない場合は、シナリオを実行した際にシナリオが完了しない場合があります。
追加	NICを追加します。「AutoDetect」を選択、または「MACアドレス」を入力してから、「追加」ボタンをクリックしてください。
追加するNICのMACアドレス一覧	追加したNICのMACアドレス一覧を表示します。 「追加」ボタンをクリックしてMACアドレスを一覧に追加してください。 NICは、一つ以上設定します。「AutoDetect」と「MACアドレス」を合わせて以下の数まで追加できます。 ・Windows高速化パラメータファイル:8まで ・Windowsパラメータファイル:4まで ここで設定を行わなかったNICは自動的にDHCPによるIPアドレス取得を行う設定になります。
プロトコルの設定	追加したNICに対するプロトコルの設定を行います。「プロトコルの設定」ボタンをクリックすると、「プロトコルの設定」画面が表示されます。画面については、以降の「■プロトコルの設定」を参照してください。  「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を追加する際、「追加するプロトコルの一覧」には、「NICの設定」-「追加」で追加したNICの数だけインターネット プロトコル(TCP/IP)が追加されます。 「NICの設定」-「追加」でNICを「00-00-00-00-00-00」と「AutoDetect1」の二つ追加していた場合は、以下のようになります。 例)追加するプロトコルの一覧 ・インターネットプロトコル(TCP/IP) 00-00-00-00-00-00 ・インターネットプロトコル(TCP/IP) AutoDetect1
削除	追加したMACアドレス、またはAutoDetectを削除する場合は、一覧から選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。

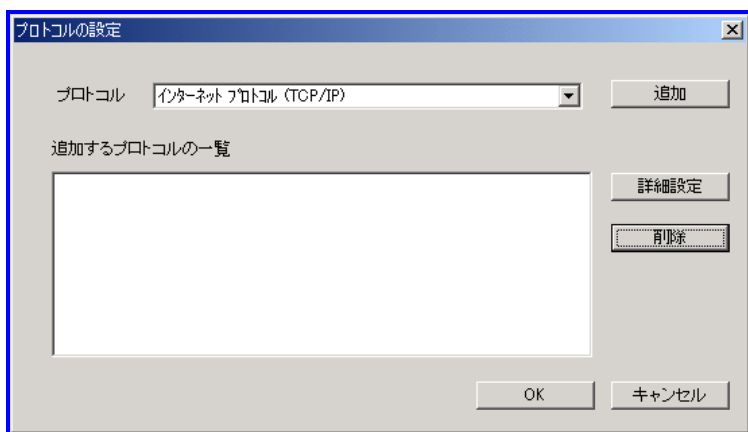
■ プロトコルの設定

「プロトコルの設定」画面について説明します。

- 1) 「プロトコルの設定」画面→「プロトコル」リストボックスから「インターネットプロトコル(TCP/IP)」,または「インターネットプロトコル(TCP/IPv6)」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

注意

- 管理サーバと通信するLANボードには、必ずIPアドレス(IPv4)を設定してください。
- Windows高速化パラメータファイルのみ、IPv6アドレスを設定することができます。



プロトコルの設定	
プロトコル	NICにプロトコルの設定を行います。 追加できるプロトコルは、「インターネット プロトコル(TCP/IP)」,または「インターネット プロトコル(TCP/IPv6)」です。 追加できるプロトコルは、作成するディスク複製用情報ファイルによって数が異なります。 ・Windows高速化パラメータファイル: 16まで ・Windowsパラメータファイル: 4まで
追加するプロトコルの一覧 (設定必須)	追加するプロトコルの一覧を表示します。 「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックすると、「追加するプロトコルの一覧」画面に追加されます。
詳細設定	各NICに対するプロトコルの詳細設定を行います。 「追加するプロトコルの一覧」から「インターネット プロトコル(TCP/IP)」,または「インターネット プロトコル(TCP/IPv6)」を選択すると、「詳細設定」ボタンがクリックできます。 「詳細設定」ボタンをクリックすると、設定画面が表示されますので以降の説明を参照して、各項目を設定してください。 設定は必須ではありません。 NICを設定しない場合は、IPアドレス、DNS、WINSの設定は、すべてデフォルトの「自動的に取得する」になります。スコープIDの値は、反映されません。以降の設定については、(8)に進んでください。
削除	追加したプロトコルを削除します。 「追加するプロトコルの一覧」から削除するプロトコルを選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。
OK	「プロトコルの設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	「プロトコルの設定」画面の設定内容を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

- 2) 「追加するプロトコルー覧」に「インターネット プロトコル(TCP/IP)」、または「インターネット プロトコル (TCP/IPv6)」を追加して、「詳細設定」ボタンをクリックします。
- 3) 以下のように設定画面が表示されますので、「IP設定」タブを設定します。

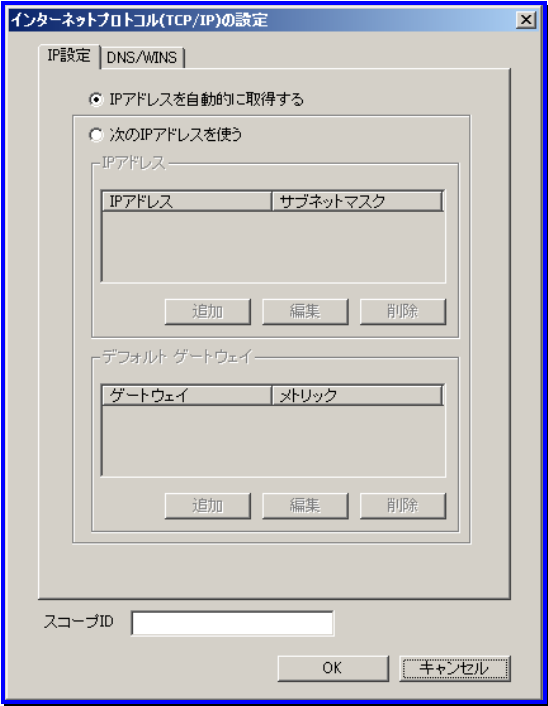
注意

ディスク複製用情報ファイル(Windows高速化パラメータファイル)では、スコープIDの入力域はありません。

ヒント

複数のNICに対して設定を行う場合は、3)から4)を繰り返し設定します。

■「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の場合



インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定		
	IP設定	IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、メトリックの設定を行うことができます。設定は自動で取得するか、値を設定するかによって異なります。
	IPアドレスを自動的に取得する	ラジオボタンを選択すると、IPアドレスを自動的に取得します。デフォルトは、ラジオボタンが選択されています。
	次のIPアドレスを使う	ラジオボタンを選択すると、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、メトリックの設定項目が有効になります。

IPアドレス	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IPアドレス」画面が表示されますので、IPアドレス、およびサブネットマスクを入力してください。  入力は、「xxx xxx xxx xxx」の形式で入力してください。 「TCP/IPアドレス」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「IPアドレス」の一覧に、IPアドレス、およびサブネットマスクが追加されます。 IPアドレス、サブネットマスクは、各NICに対して最大以下の数まで追加できます。 ・Windows高速化パラメータファイル:16まで ・Windowsパラメータファイル:4まで
編集	「IPアドレス」グループボックスから編集するIPアドレス/サブネットマスクを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IPアドレス」画面が表示されますので、IPアドレス/サブネットマスクを編集してください。
削除	「IPアドレス」グループボックスから削除するIPアドレス/サブネットマスクを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、IPアドレス/サブネットマスクが削除されます。
デフォルトゲートウェイ	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IPゲートウェイアドレス」画面が表示されますので、ゲートウェイ、およびメトリックを入力してください。  ゲートウェイの入力は、「xxx xxx xxx xxx」の形式で入力してください。 メトリックは、半角数字を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。既定値は、「1」です。 「TCP/IPゲートウェイアドレス」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「デフォルト ゲートウェイ」の一覧に、ゲートウェイ/メトリックが追加されます。 ゲートウェイ、メトリックは、最大以下の数まで追加することができます。 ・Windows高速化パラメータファイル:16まで ・Windowsパラメータファイル:4まで
編集	「デフォルト ゲートウェイ」の一覧から編集するゲートウェイ/メトリックを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IPゲートウェイアドレス」画面が表示されますので、ゲートウェイ/メトリックを編集してください。
削除	「デフォルト ゲートウェイ」の一覧から削除するゲートウェイ/メトリックを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、ゲートウェイ/メトリックが削除されます。

注意

Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコンをクリックし、「設定」メニューの「詳細設定」→「全般」タブ-「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」チェックボックスにチェックを入れて運用する場合、設定したIPアドレスで管理対象マシンが管理サーバと通信できないとシナリオの実行完了を検出できない可能性があります。管理サーバと通信できるIPアドレスを設定してください。

「シナリオの完了をDPMクライアントからの通信で判断する」チェックボックスのチェックを外して運用する場合は、管理サーバとの通信可否に関係なくシナリオ実行完了を検出できます。

■「インターネットプロトコル(TCP/IPv6)の設定」画面の場合

インターネットプロトコル(TCP/IPv6)の設定

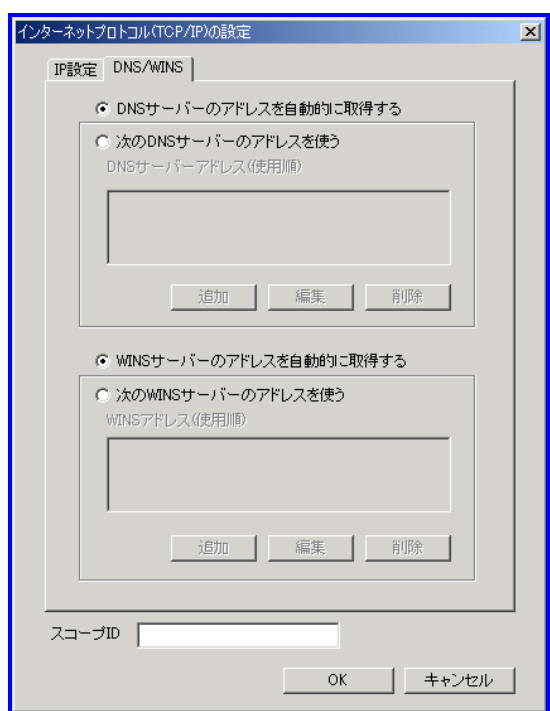
IP設定	IPv6アドレス、サブネットプレフィックス、ゲートウェイ、メトリックの設定を行うことができます。設定は自動で取得するか、値を設定するかによって異なります。
ルータ広告	「ルータ広告」チェックボックスにチェックを入れると、ルータ広告を受信します。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
IPアドレスを自動的に取得する	ラジオボタンを選択すると、IPv6アドレスを自動的に取得します。 デフォルトは、ラジオボタンが選択されています。
次のIPアドレスを使う	ラジオボタンを選択すると、IPv6アドレス、サブネットプレフィックス、ゲートウェイ、メトリックの設定項目が有効になります。

IPアドレス	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IPv6アドレス」画面が表示されますので、IPv6アドレス、およびサブネットプレフィックスを入力してください。  「IPアドレス」は、「xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx」の形式で入力してください。 例) fe80::1895:3454:53e3:40cc 「サブネットプレフィックス」はプレフィックス長をビット(半角数字)で入力します。「0～128」の範囲で設定できます。 例) 64 「TCP/IPv6アドレス」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「IPアドレス」の一覧にIPv6アドレス、およびサブネットプレフィックスが追加されます。 IPv6アドレス、サブネットプレフィックスは、各NICに対して最大16まで追加できます。
編集	「IPアドレス」の一覧から編集するIPv6アドレス/サブネットプレフィックスを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IPv6アドレス」画面が表示されますので、IPv6アドレス/サブネットプレフィックスを編集してください。
削除	「IPアドレス」の一覧から削除するIPv6アドレス/サブネットプレフィックスを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、IPv6アドレス/サブネットプレフィックスが削除されます。
デフォルト ゲートウェイ	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IPv6 ゲートウェイ アドレス」画面が表示されますので、ゲートウェイ、およびメトリックを入力してください。  「ゲートウェイ」は、「xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx」の形式で入力してください。 例) fe80::1895:3454:53e3:40cc 「メトリック」は半角数字を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。既定値は、「1」です。 「TCP/IPv6 ゲートウェイ アドレス」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「デフォルト ゲートウェイ」の一覧に、ゲートウェイ/メトリックが追加されます。 ゲートウェイ、メトリックは、16個まで追加できます。

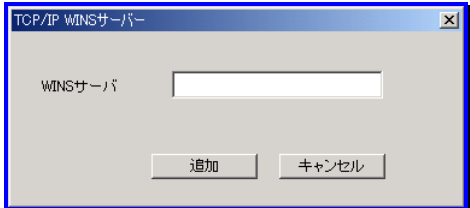
				編集	「デフォルト ゲートウェイ」の一覧から編集するゲートウェイ/メトリックを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IPv6 ゲートウェイ アドレス」画面が表示されますので、ゲートウェイ/メトリックを編集してください。
				削除	「デフォルト ゲートウェイ」の一覧から削除するゲートウェイ/メトリックを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、ゲートウェイ/メトリックが削除されます。

4) 以下のように設定画面が表示されますので、「DNS/WINS」タブ(「DNS」タブ)を設定します。

■「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の場合



インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定		
	DNS/WINS	DNS、WINSの設定を行うことができます。設定は自動で取得するか、値を設定するかによって異なります。
	DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する	DNSサーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。展開先のマシンがDNSサーバの場合は、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。デフォルトは、ラジオボタンが選択されています。
	次のDNSサーバーのアドレスを使う	DNSサーバのIPアドレスを設定する場合「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択してください。

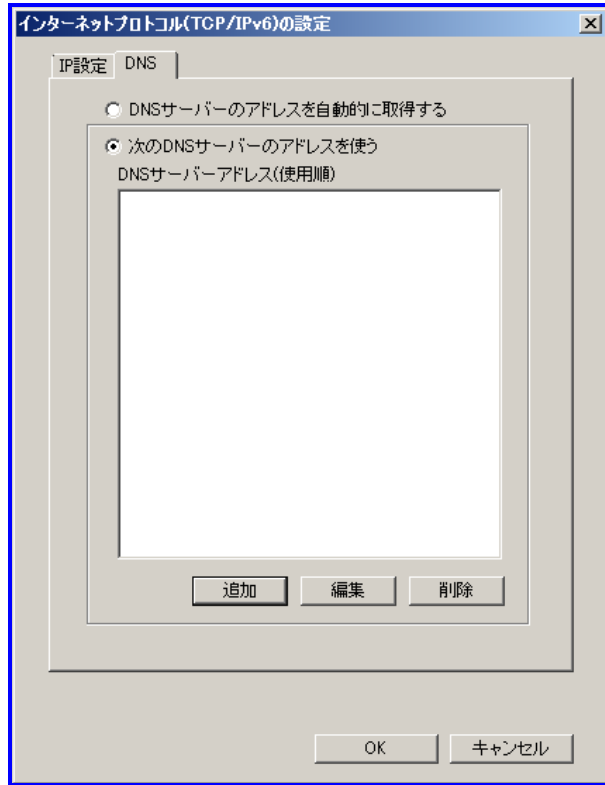
DNSサーバーアドレス(使用順)	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IP DNSサーバー」画面が表示されますので、DNSサーバのアドレスを入力してください。  入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 「TCP/IP DNSサーバー」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧にDNSサーバのIPアドレスが追加されます。 DNSサーバのIPアドレスは最大以下の数まで追加できます。 ・Windows高速化パラメータファイル:16まで ・Windowsパラメータファイル:4まで
編集	「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧から編集するDNSサーバのアドレスを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IP DNSサーバー」画面が表示されますので、DNSサーバのIPアドレスを編集してください。
削除	「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧から削除するDNSサーバのIPアドレスを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、DNSサーバのIPアドレスが削除されます。
WINSサーバーのアドレスを自動的に取得する	WINSサーバのIPアドレスを自動的に取得する場合に選択します。展開先のマシンがWINSサーバの場合は、「WINSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。 デフォルトは、ラジオボタンが選択されています。
次のWINSサーバーのアドレスを使う	WINSサーバのIPアドレスを設定する場合「次のWINSサーバーのアドレスを使う」チェックボックスにチェックを入れてください。
WINSアドレス(使用順)	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IP WINSサーバー」画面が表示されますので、WINSサーバのIPアドレスを入力してください。  入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 「TCP/IP WINSサーバー」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「WINSアドレス(使用順)」の一覧に、WINSサーバのIPアドレスが追加されます。 WINSサーバのIPアドレスは最大以下の数まで追加できます。 ・Windows高速化パラメータファイル:16まで ・Windowsパラメータファイル:4まで
編集	「WINSアドレス(使用順)」の一覧から編集するWINSサーバのIPアドレスを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IP WINSサーバー」画面が表示されますので、WINSサーバのIPアドレスを編集してください。
削除	「WINSアドレス(使用順)」の一覧から削除するWINSサーバのIPアドレスを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、WINSサーバのIPアドレスが削除されます。

注意

Windows Server 2008/Windows Vistaの場合、Windows高速化パラメータファイルでWINSサーバのアドレスを指定しても、ディスク複製OSインストール後のマシンにWINSサーバのアドレスが設定されない場合があります。

原因に関しては、Microsoft社のページ(以下)を参照してください。

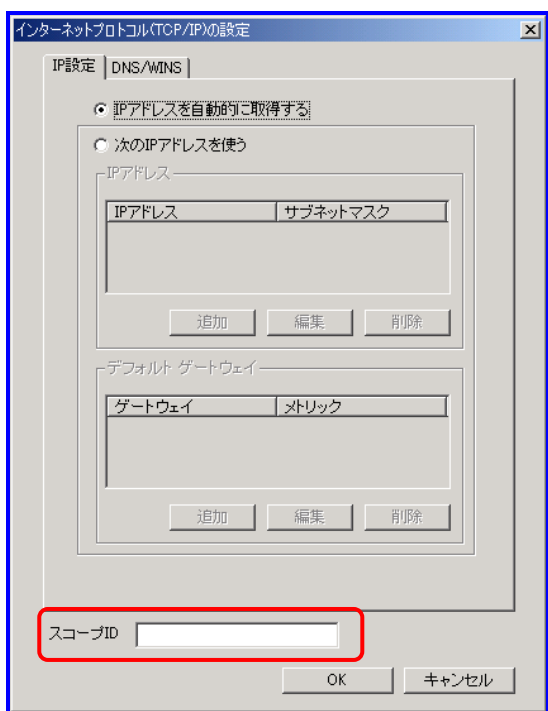
<http://support.microsoft.com/kb/2642668/ja>

■「インターネットプロトコル(TCP/IPv6)の設定」画面の場合**インターネットプロトコル(TCP/IPv6)の設定**

DNS		DNSの設定を行うことができます。設定は自動で取得するか、値を設定するかによって異なります。
DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する		DNSサーバのアドレスを自動的に取得する場合に選択します。展開先のマシンがDNSサーバの場合は、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択してください。デフォルトは、ラジオボタンが選択されています。
次のDNSサーバーのアドレスを使う		DNSサーバのIPv6アドレスを設定する場合「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択してください。

DNSサーバーアドレス(使用順)	
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「TCP/IPv6 DNSサーバー」画面が表示されますので、DNSサーバのIPv6アドレスを入力してください。  入力は、「xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx」の形式で入力してください。 例) fe80::1895:3454:53e3:40cc 「TCP/IPv6 DNSサーバー」画面の「追加」ボタンをクリックすると、「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧にDNSサーバのIPv6アドレスが追加されます。 DNSサーバのIPv6アドレスは16個まで追加できます。
編集	「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧から編集するDNSサーバのIPv6アドレスを選択し、「編集」ボタンをクリックすると、「TCP/IPv6 DNSサーバー」画面が表示されますので、DNSサーバのIPv6アドレスを編集してください。
削除	「DNSサーバーアドレス(使用順)」の一覧から削除するDNSサーバのIPv6アドレスを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、DNSサーバのIPv6アドレスが削除されます。

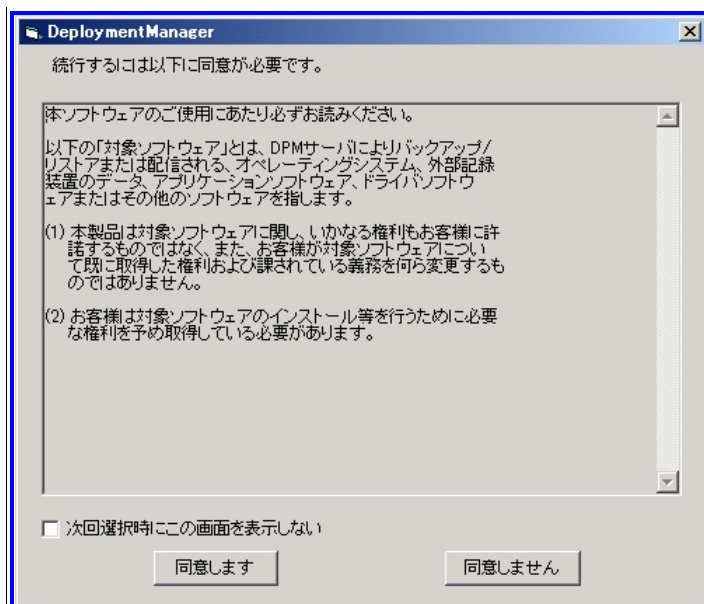
- 5) 「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の「スコープID」の設定をします。ディスク複製用情報ファイル(Windowsパラメータファイル)の場合のみ、設定できます。ディスク複製用情報ファイル(Windows高速化パラメータファイル)では設定しません。



インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定	
スコープID	スコープIDを設定します。 スコープIDの設定はNICごとに設定できません。一つのNICに対してインターネット プロトコル(TCP/IP)のスコープIDを設定した場合は、他のNICに対するインターネット プロトコル(TCP/IP)の「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面を開いても、前に設定を行ったスコープIDの設定が表示されます。 設定必須ではありません。
OK	3)～5)の設定を反映する場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。
キャンセル	3)～5)の設定を反映しない場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。「インターネットプロトコル(TCP/IP)の設定」画面の設定内容を保存して、元のウィンドウに戻ります。

(8) 「ネットワーク設定」画面の設定後、「完了」ボタンをクリックします。

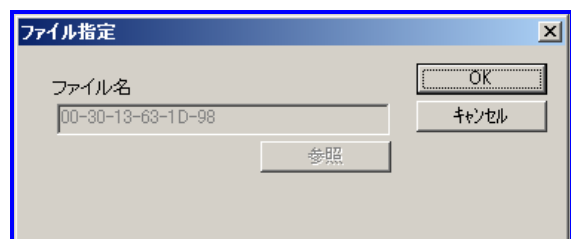
(9) 同意画面が表示されますので、内容をよくお読みいただき「同意します」ボタンをクリックします。



ヒント

「同意しません」ボタンをクリックすると本機能は使用いただけません。

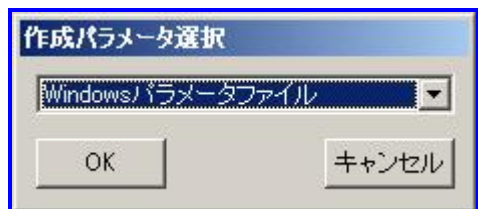
(10) 「同意します」ボタンをクリックすると、「ファイル指定」画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されたら、パラメータファイルの作成は完了です。
ファイル名は、自動的に入力した MAC アドレスとなります。



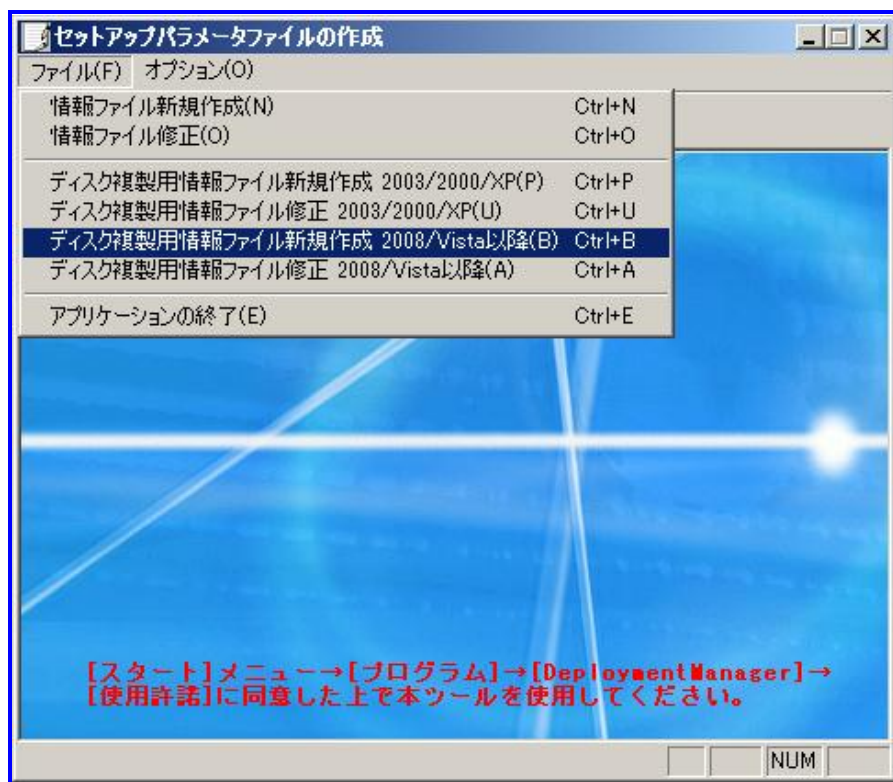
2. ディスク複製用情報ファイル(Windowsパラメータファイル)の作成

ディスク複製用情報ファイル(Windowsパラメータファイル)を作成する手順を説明します。

- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」から「イメージビルダ」を選択します。
- (2) 「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックします。「作成パラメータ選択」画面が表示されますので「Windowsパラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されますので、「ファイル」メニューから、「ディスク複製用情報ファイル新規作成 2008/Vista以降(B)」をクリックします。



- (4) 以後の設定内容は Windows 高速化パラメータファイルと同じですので、「1. ディスク複製用情報ファイル(Windows 高速化パラメータファイル)の作成」の記述を参照してください。設定できる上限値が Windows 高速化パラメータファイルと Windows パラメータファイルで異なる場合があります。異なる点については、Windows 高速化パラメータファイルの記載の中で説明しています。

5.4.2. ディスク複製用情報ファイルの大量作成(Windows)

複数のWindowsの管理対象マシンにディスク複製OSインストールを実行する場合は、実行台数分のディスク複製用情報ファイルを作成する必要があります。

ここでは、Windowsのディスク複製用情報ファイルの大量作成方法について説明します。

注意

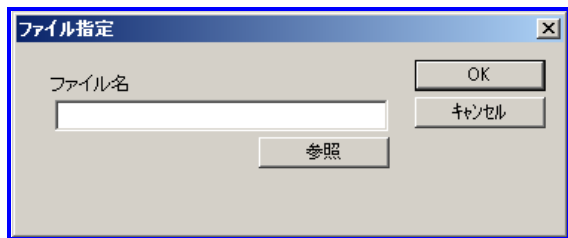
Windows高速化パラメータファイルで作成したディスク複製用情報ファイルを使用して、大量作成はできません。

- (1) 大量のディスク複製用情報ファイルを作成する元となるディスク複製用情報ファイルを用意します。

ヒント

セットアップパラメータファイルの作成方法については、「5.4.1 ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows)」を参照してください。

- (2) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (3) 「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックすると「作成パラメータ選択」画面が表示されますので、「Windows パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
- (4) 「セットアップパラメータファイルの作成」画面が表示されますので、「オプション」メニュー→「ディスク複製用情報ファイル大量作成アシスト」→「ディスク複製用情報ファイル CSV 形式出力(F)」をクリックします。
- (5) 「ファイルを開く」画面が表示されますので、(1)で用意したディスク複製用情報ファイルを指定して開きます。
- (6) 保存する CSV ファイル名を指定して、「OK」ボタンをクリックします。CSV 形式のディスク複製用情報ファイルが作成され、<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥Sysprep¥csv 配下に格納されます。



ヒント

ここで作成したCSVファイルは、以降「雛形ファイル」と呼びます。

- (7) (6)で作成された雛形ファイルを編集します。<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥Sysprep¥csv 配下から(6)で作成した CSV ファイルを開きます。
- (8) <イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥Sysprep¥csv 配下から、作成した CSV 形式の雛形ファイルを開いて編集してください。
雛形ファイルの各行は以下のようになっています。

- (1) 1 行目
雛形ファイルの元となるファイル名
- (2) 2 行目
大量作成時に指定できるディスク複製用情報ファイルの各項目

- (3) 3 行目
雛形ファイルの元となるファイルで指定したパラメータ
- (4) 4 行目以降
大量作成を行うために、2 行目の項目に対して入力を行います。1 行につき、一つのディスク複製用情報ファイルとなります。

重要

1行目から3行目までは変更を行わないでください。変更を行った場合は、その雛形ファイルを使用して大量作成ができません。

4 行目以降については、以下の表を参照して設定してください。

重要

- テキストファイルで編集を行う場合は、各項目は「,」で区切られていますので、2 行目と 4 行目以降を対応させて入力してください。
- CSV ファイルの 4 行目以降を編集するときは、項目の前後に空白をいれないでください。また、各項目に「,」「"」を入力しないでください。正常にディスク複製用情報ファイルが作成されない場合があります。
- 4 行目の各項目の形式は、下記の表に指定がない場合は、「5.4.1 ディスク複製用情報ファイルの作成(Windows)」に従ってください。下記の表に指定がある場合は、大文字、小文字も正確に入力してください。
- マシン名の入力必須です。
- 各 LAN ボードに対する DNS/WINS は、雛形ファイルの元となるファイルの各 LAN ボードに設定している DNS/WINS に対応します。
雛形ファイルの元となるファイルを作成する際に「プロトコルの設定」画面の「追加するプロトコルの一覧」には LAN ボードの数だけインターネットプロトコル(TCP/IP)が追加されています。DNS/WINS の設定は、この一覧の上から順に LAN ボード 1、LAN ボード 2、LAN ボード 3、LAN ボード 4 となります。

例)

追加するプロトコルの一覧

Apple Talk プロトコル			
インターネットプロトコル(TCP/IP)	00-00-00-00-00-00	←→	LANボード1
インターネットプロトコル(TCP/IP)	00-00-00-00-00-11	←→	LANボード2
インターネットプロトコル(TCP/IP)	AutoDetect1	←→	LANボード3
インターネットプロトコル(TCP/IP)	AutoDetect2	←→	LANボード4

2行目の項目	4行目以降の入力項目の説明	4行目以降の項目が空白の場合、(9)で大量作成を行ったときの取り扱い
コンピュータ名 (入力必須)	コンピュータ名を入力する。	エラーとなる。
MACアドレス (ディスク複製情報ファイル用の場合のみ項目を表示) (入力必須)	マシンのMACアドレスを入力する。	エラーとなる。
使用者名	使用するユーザ名を入力する。	雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
会社名	会社名を入力する。	雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
プロダクトキー	「Retail版、またはNEC 以外のOEM版」の場合は、プロダクトキーを入力する。 「NEC OEM版」の場合は、「NEC OEM」と入力する(NECとOEMの間は半角スペースです)。ただし、雛形ファイルの3行目のプロダクトキーが「NEC OEM」でない場合は、ディスク複製情報ファイル作成時にエラーとなる。	雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
管理者 (Administrator) 権限のパスワード	管理者 (Administrator) 権限のパスワードを平文で入力する。	雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
ワークグループ	ワークグループ名を入力する。 ただし、ワークグループの入力を行ったとき「ドメイン」、「ドメイン参加アカウント名」、「ドメイン参加アカウントのパスワード」を入力するとディスク複製情報ファイル作成時にエラーとなる。	「ドメイン」に入力が行われていない場合は、雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
ドメイン	ドメイン名を入力する。 ただし、ドメインの入力を行ったとき「ワークグループ」を入力するとディスク複製情報ファイル作成時にエラーとなる。	「ワークグループ」に入力が行われていない場合は、雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
ドメイン参加アカウント名	ドメイン参加アカウント名を入力する。 ただし、ドメインの入力を行ったとき「ワークグループ」を入力するとディスク複製情報ファイル作成時にエラーとなる。	「ワークグループ」、「ドメイン」、「ドメインのアカウント名」が入力されていない場合は、雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
ドメイン参加アカウントのパスワード	ドメイン参加アカウントのパスワードを平文で入力する。 ただし、ドメインの入力を行ったとき「ワークグループ」を入力するとディスク複製情報ファイル作成時にエラーとなる。	「ワークグループ」、「ドメイン」、「ドメインのアカウント名」、「ドメインアカウントのパスワード」が入力されていない場合は、雛形ファイルの3行目のパラメータと同じ値とする。
NIC1	一つ目のLANボードを入力する。NICを指定する場合は、MACアドレスを入力する。指定しない場合は、「AutoDetect」と入力する。	「AutoDetect1」と設定され、NIC1のIPアドレスは「IPアドレスを自動的に取得する」となる。IPアドレス1(NIC1)～Metric4(NIC1)の値は反映されない。

2行目の項目	4行目以降の入力項目の説明	4行目以降の項目が空白の場合、(9)で大量作成を行ったときの取り扱い
IPアドレス1 (NIC1)	LANボード1の一つ目のIPアドレスを入力する。 自動的に取得する場合は、「DHCP」と入力する。	"IPアドレスを自動的に取得する"に設定される。SubnetMask1(NIC1)～SubnetMask4(NIC1)の値は反映されない。
SubnetMask1 (NIC1)	LANボード1の一つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス1(NIC1)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定はなしとする。
IPアドレス2(NIC1)	LANボード1の二つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask2(NIC1)	LANボード1の二つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス2(NIC1)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定はなしとする。
IPアドレス3(NIC1)	LANボード1の三つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask3(NIC1)	LANボード1の三つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス3(NIC1)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス4(NIC1)	LANボード1の四つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask4(NIC1)	LANボード1の四つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス4(NIC1)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
Gateway1(NIC1)	LANボード1の一つ目のゲートウェイを入力する。	設定はなしとする。
Metric1(NIC1)	LANボード1の一つ目のメトリックを入力する。	Gateway1(NIC1)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway2(NIC1)	LANボード1の二つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric2(NIC1)	LANボード1の二つ目のメトリックを入力する。	Gateway2(NIC1)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway3(NIC1)	LANボード1の三つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric3(NIC1)	LANボード1の三つ目のメトリックを入力する。	Gateway3(NIC1)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway4(NIC1)	LANボード1の四つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。

2行目の項目	4行目以降の入力項目の説明	4行目以降の項目が空白の場合、(9)で大量作成を行ったときの取り扱い
Metric4(NIC1)	LANボード1の四つ目のメトリックを入力する。	Gateway4(NIC1)が入力されている場合のみ1とする。
NIC2	二つ目のLANボードのMACアドレス、または「AutoDetect」と入力する。	設定なしとする。 IPアドレス1(NIC2)～Metric4(NIC2)の値は反映されない。
IPアドレス1(NIC2)	LANボード2が設定されている場合、LANボード2の一つ目のIPアドレスを入力する。自動的に取得する場合は、「DHCP」と入力する。	"IPアドレスを自動的に取得する"に設定される。SubnetMask1(NIC2)～SubnetMask4(NIC2)の値は反映されない。
SubnetMask1(NIC2)	LANボード2の一つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス1(NIC2)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス2(NIC2)	LANボード2の二つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask2(NIC2)	LANボード2の二つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス2(NIC2)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス3(NIC2)	LANボード2の三つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask3(NIC2)	LANボード2の三つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス3(NIC2)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス4(NIC2)	LANボード2の四つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask4(NIC2)	LANボード2の四つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス4(NIC2)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
Gateway1(NIC2)	LANボード2の一つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric1(NIC2)	LANボード2の一つ目のメトリックを入力する。	Gateway1(NIC2)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway2(NIC2)	LANボード2の二つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric2(NIC2)	LANボード2の二つ目のメトリックを入力する。	Gateway2(NIC2)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway3(NIC2)	LANボード2の三つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric3(NIC2)	LANボード2の三つ目のメトリックを入力する。	Gateway3(NIC2)が入力されている場合のみ1とする。

2行目の項目	4行目以降の入力項目の説明	4行目以降の項目が空白の場合、(9)で大量作成を行ったときの取り扱い
Gateway4(NIC2)	LANボード2の四つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric4(NIC2)	LANボード2の四つ目のメトリックを入力する。	Gateway4(NIC2)が入力されている場合のみ1とする。
NIC3	三つ目のLANボードのMACアドレス、または「AutoDetect」と入力する。	設定はなしとする。IPアドレス1(NIC3)～Metric4(NIC3)の値は反映されない。
IPアドレス1(NIC3)	LANボード3が設定されている場合、LANボード3の一つ目のIPアドレスを入力する。 自動的に取得する場合は、「DHCP」と入力する。	"IPアドレスを自動的に取得する"に設定される。SubnetMask1(NIC3)～SubnetMask4(NIC3)の値は反映されない。
SubnetMask1(NIC3)	LANボード3の一つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス1(NIC3)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス2(NIC3)	LANボード3の二つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask2(NIC3)	LANボード3の二つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス2(NIC3)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス3(NIC3)	LANボード3の三つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask3(NIC3)	LANボード3の三つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス3(NIC3)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス4(NIC3)	LANボード3の四つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask4(NIC3)	LANボード3の四つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス4(NIC3)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
Gateway1(NIC3)	LANボード3の一つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric1(NIC3)	LANボード3の一つ目のメトリックを入力する。	Gateway1(NIC3)が入力されている場合のみ1とする。

2行目の項目	4行目以降の入力項目の説明	4行目以降の項目が空白の場合、(9)で大量作成を行ったときの取り扱い
Gateway2(NIC3)	LANボード3の二つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric2(NIC3)	LANボード3の二つ目のメトリックを入力する。	Gateway2(NIC3)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway3(NIC3)	LANボード3の三つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric3(NIC3)	LANボード3の三つ目のメトリックを入力する。	Gateway3(NIC3)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway4(NIC3)	LANボード3の四つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric4(NIC3)	LANボード3の四つ目のメトリックを入力する。	Gateway4(NIC3)が入力されている場合のみ1とする。
NIC4	四つ目のLANボードのMACアドレス、または「AutoDetect」と入力する。	設定なしとする。 IPアドレス1(NIC4)～Metric4(NIC4)の値は反映されない。
IPアドレス1(NIC4)	LANボード4が設定されている場合、LANボード4の一つ目のIPアドレスを入力する。自動的に取得する場合は、「DHCP」と入力する。	"IPアドレスを自動的に取得する"に設定される。SubnetMask1(NIC4)～SubnetMask4(NIC4)の値は反映されない。
SubnetMask1(NIC4)	LANボード4の一つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス1(NIC4)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス2(NIC4)	LANボード4の二つ目のIPアドレスを入力する。	設定はなしとする。
SubnetMask2(NIC4)	LANボード4の二つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス2(NIC4)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス3(NIC4)	LANボード4の三つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask3(NIC4)	LANボード4の三つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス3(NIC4)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。
IPアドレス4(NIC4)	LANボード4の四つ目のIPアドレスを入力する。	設定なしとする。
SubnetMask4(NIC4)	LANボード4の四つ目のサブネットマスクを入力する。	IPアドレス4(NIC4)が入力されている場合のみ雛形ファイルの元となるファイルのデータと同じ値に設定される。それ以外の場合は、設定なしとする。

2行目の項目	4行目以降の入力項目の説明	4行目以降の項目が空白の場合、(9)で大量作成を行ったときの取り扱い
Gateway1(NIC4)	LANボード4の一つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric1(NIC4)	LANボード4の一つ目のメトリックを入力する。	Gateway1(NIC4)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway2(NIC4)	LANボード4の二つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric2(NIC4)	LANボード4の二つ目のメトリックを入力する。	Gateway2(NIC4)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway3(NIC4)	LANボード4の三つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric3(NIC4)	LANボード4の三つ目のメトリックを入力する。	Gateway3(NIC4)が入力されている場合のみ1とする。
Gateway4(NIC4)	LANボード4の四つ目のゲートウェイを入力する。	設定なしとする。
Metric4(NIC4)	LANボード4の四つ目のメトリックを入力する。	Gateway4(NIC4)が入力されている場合のみ1とする。

(9) CSV ファイルを編集後、ファイルを保存します。

(10) 「セットアップパラメータファイルの作成」画面の「オプション」メニュー→「ディスク複製用情報ファイル大量作成アシスト」→「ディスク複製用情報ファイル大量作成」をクリックします。

(11) 「ファイルを開く」画面が表示されますので、(9)で保存した CSV ファイルを指定します。「大量情報ファイル作成結果」画面が表示され、作成結果が表示されています。CSV ファイルに登録されていたコンピュータの数だけ、ディスク複製用情報ファイルが作成されます。

ヒント

「大量情報ファイル作成結果」画面に、「情報ファイルの作成に失敗しました。」と表示された場合は、「エラー情報表示」をクリックしてください。エラーについての詳細な情報が表示されるので、その内容に従って CSV ファイルを修正後、再度実行してください。

(12) 「OK」ボタンをクリックしてください。情報ファイルの大量作成は完了です。

5.4.3. ディスク複製用パラメータファイルの作成(Linux)

Linux でディスク複製 OS インストールを行う場合に、各マシンに設定を行うためのディスク複製用情報ファイルを作成する手順について説明します。

注意

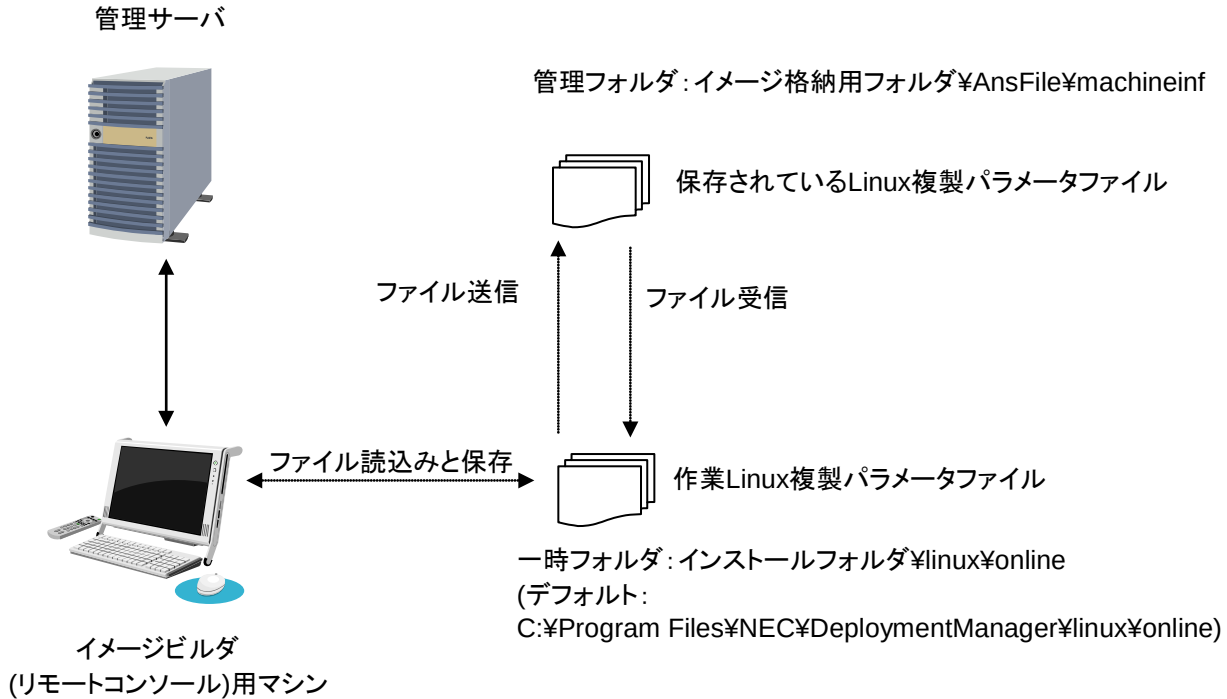
- ディスク複製用情報ファイルの作成では、作業モードとして、オンラインモードとオフラインモードがあります。
オンラインモード: 通常使用するモードです。
オフラインモード: 管理サーバへ送信せずにローカルマシン上にファイルを作成するモードです。
ここでは通常使用するオンラインモードを中心に説明します。
- DPM に登録している MAC アドレスを持つ LAN ボードには、固定 IP アドレス、DHCP サーバから取得に関わらず必ずネットワーク通信ができるように設定してください。ネットワーク通信ができない場合は、シナリオを実行した際にシナリオが完了しない可能性があります。
- ディスク複製 OS インストールでは、Web コンソールに登録されているマシンの MAC アドレスと同じ名称のディスク複製用情報ファイルを使用します。

ヒント

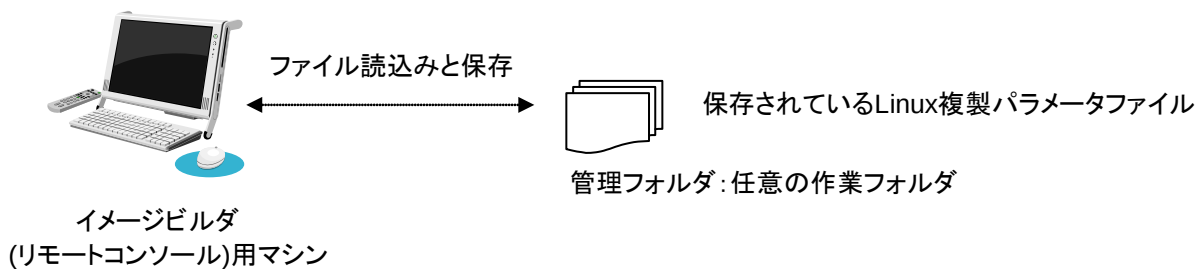
- ディスク複製用情報ファイルは、ディスク複製用情報ファイルを大量作成する雛形になります。
- ディスク複製用情報ファイルは、管理サーバにインストールされているイメージビルダ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)で作成します。

■ オンラインモードの場合

ネットワークを通して、管理サーバ上のイメージ格納用フォルダ配下で、ディスク複製用情報ファイル(Linux複製パラメータファイル)を作成、管理します。

**■ オフラインモードの場合**

イメージビルダを起動したマシン上で、任意のフォルダ配下を作業フォルダとして、ディスク複製用情報ファイル(Linux複製パラメータファイル)を作成、管理します。

**重要**

作業フォルダのデフォルトは、「導入ディレクトリ¥linux¥offline」です。

作業モード、および作業フォルダは、任意のタイミングで切り替え変更ができます。

注意

ディスク複製用情報ファイルは、Linuxのテキストファイル形式で作成されます。Windowsマシン上のテキストエディタや他のアプリケーションで編集する場合はご注意ください。

ディスク複製用情報ファイルを新規作成します。既存のファイルを利用する場合は、後述の「2.その他の操作および表示について」を参照してください。

ヒント

ディスク複製用情報ファイルを作成するためのツールの各種ボタンでのキーボード操作は、「Enter」キー、または「Space」キーのみ有効です。

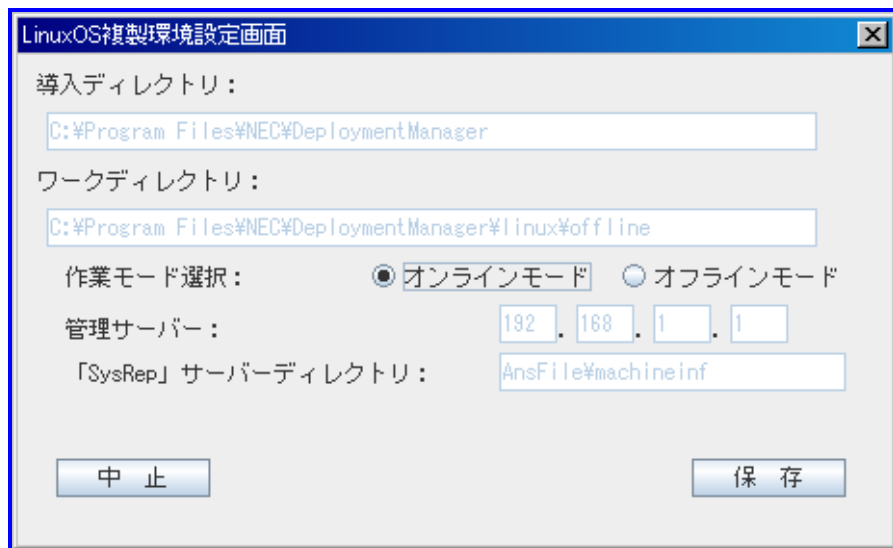
1.ディスク複製用情報ファイル(新規ファイル)の作成

Linux でディスク複製 OS インストールを行う場合に、各マシンに設定を行うためのディスク複製用情報ファイルを新規に作成する手順について説明します。

- (1) 管理サーバまたはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (2) 「セットアップパラメータの作成」をクリックします。
「作成パラメータ選択」画面が表示されますので、「Linux ディスク複製パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



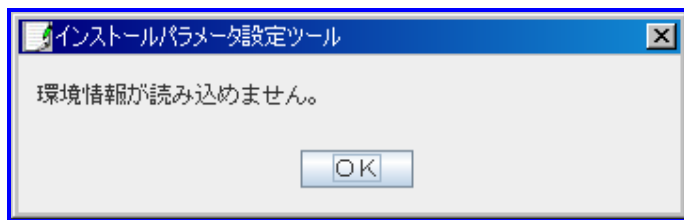
- (3) 初回起動時、または環境設定情報ファイル「LinuxSysRep.cfg」が導入ディレクトリ配下に存在しない場合は、「LinuxOS 複製環境設定画面」が表示されますので、使用している環境にあわせて設定してください。



LinuxOS複製環境設定画面	
導入ディレクトリ	イメージビルダをインストールしたフォルダを表示します。 編集はできません。
ワークディレクトリ	オフラインモード時の作業フォルダを表示します。作業モードがオフラインモード選択時のみ入力できます。 入力できる文字数は、1～254Byte(半角1～254文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号は使用できません。 , ; * ? " ' < > [] @ デフォルトは、「導入ディレクトリ¥linux¥offline」です。
作業モード選択	作業モードを以下から選択します。 ・オンラインモード ・オフラインモード デフォルトは、「オンラインモード」です。
管理サーバ	イメージビルダの導入時に設定した管理サーバのIPアドレスをレジストリ情報から取得し、表示します。
「SysRep」サーバーディレクトリ	オンラインモード時に、ディスク複製用情報ファイルを保存する管理サーバ上のフォルダ名を表示します。(固定情報)
中止	変更内容を破棄して、環境設定画面を閉じます。
保存	設定内容を、環境設定ファイル「LinuxSysRep.cfg」に保存し、環境設定画面を閉じます。

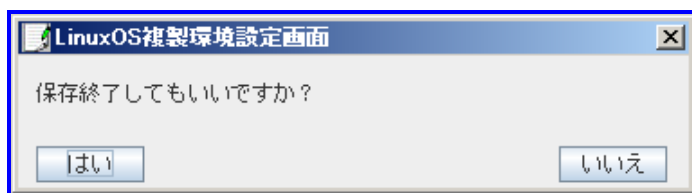
導入ディレクトリ、および管理サーバの IP アドレスの環境情報が、レジストリ、または INI ファイルから取得できない場合は、確認メッセージが表示されます。

「OK」ボタンをクリックすると、ディスク複製用情報ファイルの作成ツールは起動せず、終了します



(4) 設定が完了したら「保存」ボタンをクリックします。

(5) 確認画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



ヒント

設定内容にエラーが存在する場合は、エラーメッセージが赤字で表示され保存できません。エラー内容を修正後、再度保存してください。

LinuxOS複製環境設定画面

導入ディレクトリ: C:\Program Files\NEC\DeploymentManager

ワークディレクトリ:

作業モード選択: ☐ オンラインモード ☒ オフラインモード

管理サーバー: 127.0.0.1

「SysRep」サーバーディレクトリ: AnsFile\machineinf

中止 保存

作業ディレクトリを入力して下さい

「中止」ボタンをクリックした場合は、以下の確認画面が表示され、「はい」ボタンをクリックすると、設定内容を破棄して画面を閉じます。

LinuxOS複製環境設定画面

中止してもいいですか?

はい いいえ

(6) 「LinuxOS 複製パラメータ作成」画面が表示されますので、使用している環境にあわせて各項目を設定します。

LinuxOS複製パラメータ作成

ファイル(E) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

LinuxOS複製情報設定 (必須項目) [オフラインモード]

MACアドレス: []-[]-[]-[]-[]-[]

プライマリDNS: [].[].[].[]

セカンダリDNS: [].[].[].[]

セカンダリDNS: [].[].[].[]

[ネットワーク情報]

デバイス	IPアドレス	ホスト名
eth0	DHCP	
eth1		
eth2		
eth3		
eth4		
eth5		
eth6		

編集 削除

タイムゾーン: Asia/Tokyo

[スクリプト情報]

複製後実行するスクリプトを入力して下さい

読み込み クリア

ファイル保存 終了

LinuxOS複製情報設定	
MACアドレス (入力必須)	管理対象マシンのDPM上で管理されているイーサネットデバイスのMACアドレスを16進数表記、12文字で入力します。 例)「1A-2B-3C-4D-5E-6F」「1a-2b-3c-4d-5e-6f」など ファイル保存時、入力されたMACアドレスを使用して、ディスク複製用情報ファイルが作成、保存されます。拡張子は「.rep」です。 例)「1A2B3C4D5E6F.rep」「1a2b3c4d5e6f.rep」など
プライマリDNS	管理対象マシンに設定するDNSにおけるプライマリサーバのIPアドレスを入力します。入力必須ではありません。
セカンダリDNS	管理対象マシンに設定するDNSにおけるセカンダリサーバのIPアドレスを入力します。入力必須ではありません。

■ ネットワーク情報設定

注意

- 複数の LAN ボード(イーサネットデバイス)に対して同一セグメントの IP アドレスを割り振る設定の場合、LAN ケーブルを接続していない LAN ボードがある状態では通信できなくなることがあります。
LAN ケーブルを接続していない LAN ボードは、固定 IP を割り当てず DHCP 設定とするか、未設定とすることを推奨します。
- NetworkManager daemon が有効な環境では、ディスク複製用情報ファイルで指定した DNS 設定は反映されません。
DNS 設定を行う場合は、マスタイメージ作成時に以下の方法で NetworkManager daemon を無効にしてください。
 - 1) NetworkManager の起動レベルを確認する

```
#chkconfig --list NetworkManager
```

(実行結果例)

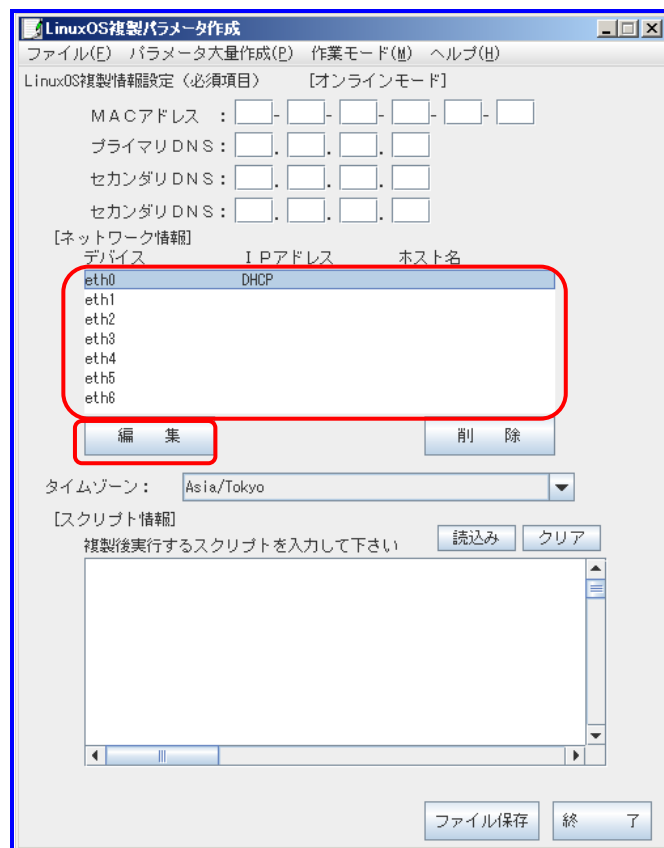
```
NetworkManager 0:off 1:off 2:on 3:on 4:on 5:on 6:off
```

一つでも on が存在する場合は、以下のコマンドを実行してください。
すべて off になります。
 - 2) NetworkManager を無効にする(root 権限で実行)

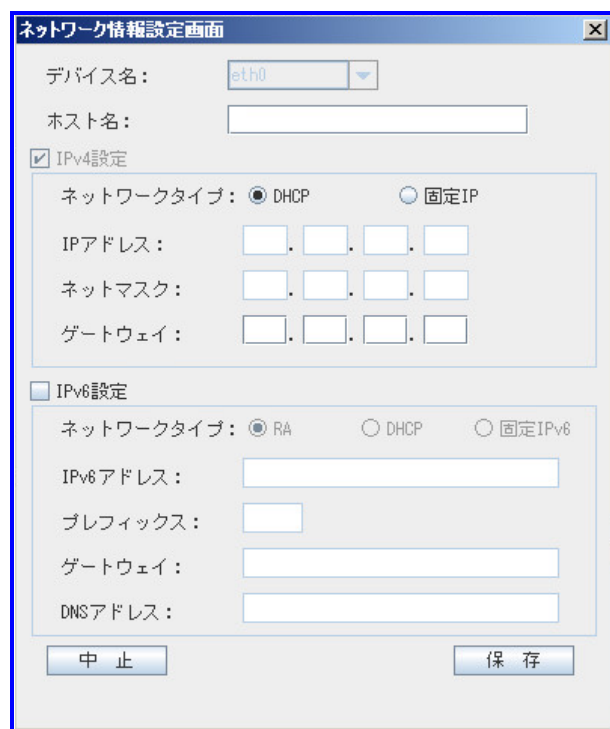
```
#chkconfig NetworkManager off
```


LinuxOS複製ターゲットマシンのイーサネットデバイス「eth0」～「eth6」のTCP/IPネットワークを設定します。

- 1) 設定対象のイーサネットデバイスを選択し、「編集」ボタンをクリックします。



- 2) 「ネットワーク情報設定画面」が表示されますので、使用している環境にあわせて各項目を設定します。



ネットワーク情報設定画面	
デバイス名	編集対象のイーサネットデバイス名を表示します。
ホスト名	ホスト名を設定します。入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@ 空白、全角文字 eth0は入力必須です。
IPv4設定	「IPv4設定」チェックボックスにチェックを入れると、IPアドレスの設定ができます。 eth0は設定必須です。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが入っています。
ネットワークタイプ	TCP/IPネットワークタイプを以下から選択し、設定します。 ・DHCP: DHCPサーバによる動的IPアドレス設定 ・固定IP: 手動でのIPアドレス設定 既定値は、「DHCP」です。
IPアドレス	IPアドレスを設定します。 ネットワークタイプについて「固定IP」を選択している場合のみ、入力必須です。 例)「192.168.0.1」「192.168.100.150」など
ネットマスク	ネットマスクを設定します。 ネットワークタイプについて「固定IP」を選択している場合のみ、入力必須です。 例)「255.255.0.0」「255.255.255.0」など
ゲートウェイ	対象イーサネットデバイスのIPアドレスに対する、ゲートウェイマシンのIPアドレスを入力します。 ネットワークタイプについて「DHCP」、「固定IP」のどちらを選択している場合でも、入力必須ではありません。 例)「192.168.0.250」「192.168.100.200」など
IPv6設定	「IPv6設定」チェックボックスにチェックを入れると、IPv6アドレスの設定ができます。 Red Hat Enterprise Linux 5/5AP/6のみに対応しています。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。
ネットワークタイプ	TCP/IPネットワークタイプを以下から選択し、設定します。 ・RA: ルータ広告によるIPv6アドレス設定 ・DHCP: DHCPサーバによる動的IPv6アドレス設定 ・固定IPv6: 手動でのIPv6アドレス設定 既定値は、「RA」です。
IPv6アドレス	IPv6アドレスを設定します。 ネットワークタイプについて「固定IPv6」を選択している場合のみ、入力必須です。 例)「fe80::1895:3454:53e3:40cc」など
プレフィックス	プレフィックスを設定します。 ネットワークタイプについて「固定IPv6」を選択している場合のみ、入力必須です。 例)「64」など
ゲートウェイ	対象イーサネットデバイスのIPv6アドレスに対する、ゲートウェイマシンのIPv6アドレスを入力します。 ネットワークタイプについて「DHCP」、「固定IPv6」を選択している場合のみ入力できますが、入力必須ではありません。 例)「fe80::1895:3454:53e3:40cc」など

	DNSアドレス	DNSサーバのIPv6アドレスを設定します。 入力必須ではありません。 例)「fe80::1895:3454:53e3:40cc」など
	中止	イーサネットデバイスの設定を保存せずに、ネットワーク情報設定画面を閉じます。
	保存	イーサネットデバイスの設定を保存して、ネットワーク情報設定画面を閉じます。

注意

- DPMに登録しているMACアドレスを持つLANボードには、固定IPアドレス、DHCPサーバから取得に関わらず、必ずネットワーク通信ができるように設定してください。
ネットワーク通信ができない場合は、シナリオを実行した際にシナリオが完了しない可能性があります。
- SUSE Linux Enterpriseの場合は、対象のイーサネットデバイスが「eth0」のゲートウェイの設定のみ有効となります。
DPMサーバに登録されている管理対象マシンには同じセグメントの接続できるIPアドレスを割り当ててください。接続できないIPアドレスを割り当てると管理対象マシンで実行したシナリオが完了しない場合があります。

ヒント

設定内容が正しくない場合は、ネットワーク情報設定画面の最下段に赤字でエラーメッセージが表示され、保存することができません。

The screenshot shows the 'Network Information Setting Screen' (ネットワーク情報設定画面) with the following fields and settings:

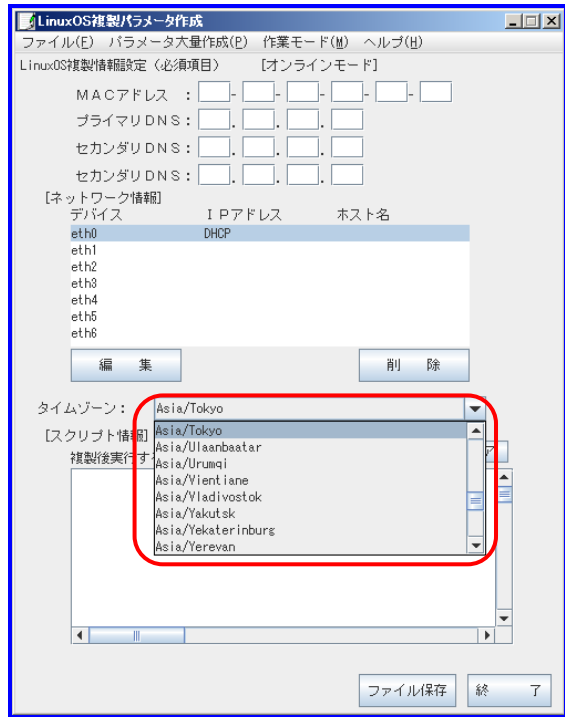
- Device Name (デバイス名): eth0
- Host Name (ホスト名): (Empty)
- IPv4 Setting (IPv4設定): ☒
 - Network Type (ネットワークタイプ): ☒ DHCP ☐ Fixed IP
 - IP Address (IPアドレス): [][] . [][] . [][] . [][]
 - Netmask (ネットマスク): [][] . [][] . [][] . [][]
 - Gateway (ゲートウェイ): [][] . [][] . [][] . [][]
- IPv6 Setting (IPv6設定): ☐
 - Network Type (ネットワークタイプ): ☒ RA ☐ DHCP ☐ Fixed IPv6
 - IPv6 Address (IPv6アドレス): [][][][] : [][][][] : [][][][] : [][][][] : [][][][] : [][][][]
 - Prefix (プレフィックス): [][]
 - Gateway (ゲートウェイ): [][][][] . [][][][] . [][][][] . [][][][]
 - DNS Address (DNSアドレス): [][][][] . [][][][] . [][][][] . [][][][]

Buttons: 中止 (Cancel), 保存 (Save)

Error Message (Red box): ホスト名が入力されていません。

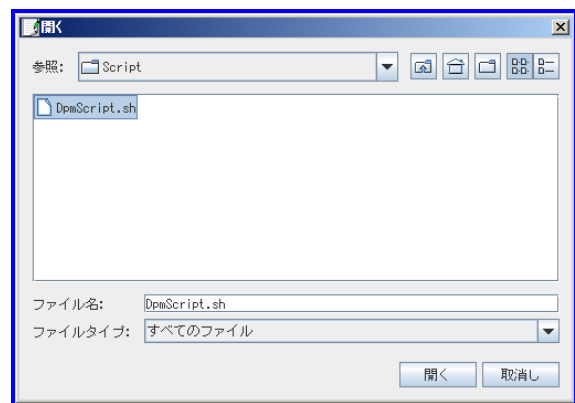
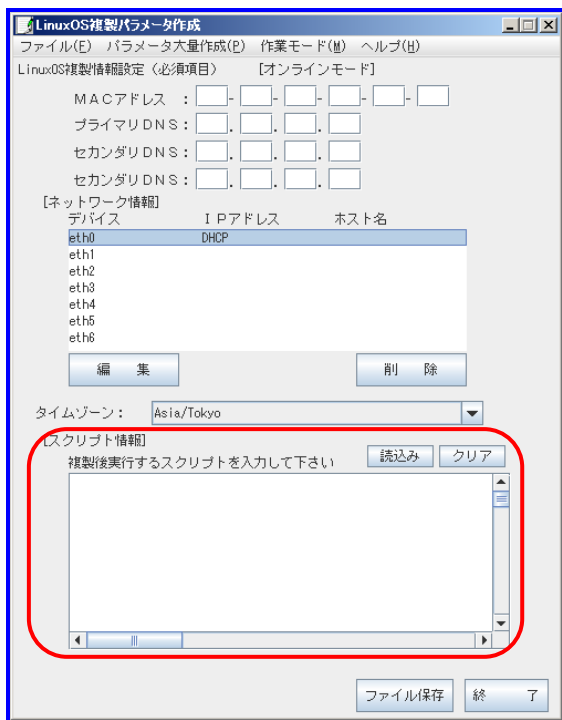
■ タイムゾーン

Linux複製ターゲットマシンに設定するタイムゾーンを、赤枠で囲んだタイムゾーン一覧リストから選択し、設定します。赤枠で囲んだ箇所は、設定必須です。デフォルトは、「Asia/Tokyo」です。



■ スクリプト情報

LinuxOS複製ターゲットマシン上で、複製作業終了後に実行したいLinuxシェルスクリプトを設定します。



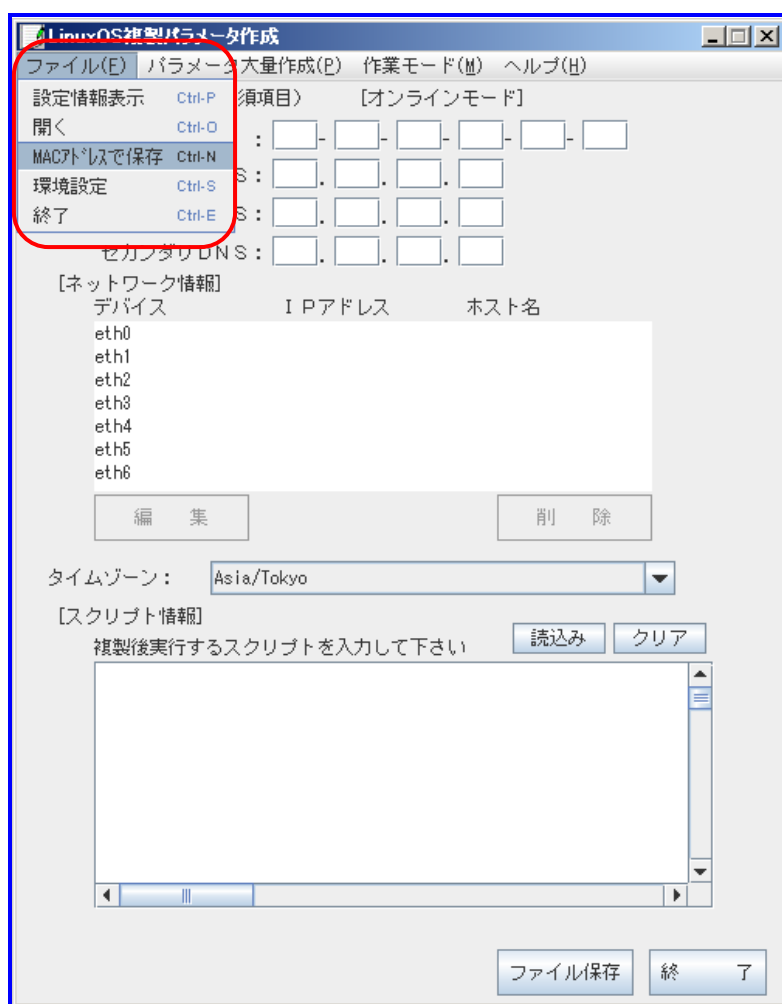
スクリプト情報	スクリプト情報を入力します。入力できる文字数は、最大100行(1行あたり256Byteまで)です。 使用できる文字は、半角英数字/記号です。 既に入力済みの内容と読み込むファイルの内容を合わせて、上記文字数を超える場合、ファイルの読み込みはできません。
読み込み	現在の作業フォルダを初期フォルダとして、ファイル選択ダイアログ画面を表示します。 ファイル名からファイルを選択し、スクリプト情報として読み込みます。
クリア	現在入力されているスクリプト情報をすべて削除します。

(7) ディスク複製用情報ファイルを MAC アドレス名で保存します。

◆ 作業モードがオンラインの場合

現在設定されているLinux複製パラメータの内容を保存します。

1) 「ファイル」メニュー→「MACアドレスで保存」をクリックします。

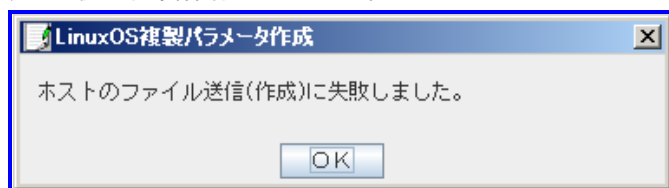


2) ディスク複製用情報ファイルのファイル保存の確認メッセージが表示されますので、保存ファイル名を確認し、「はい」ボタンをクリックします。

管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>%AnsFile%machineinf配下に、入力されているMACアドレス名でファイル保存されます。ファイル名は、「MACアドレス.rep」となります。

ヒント

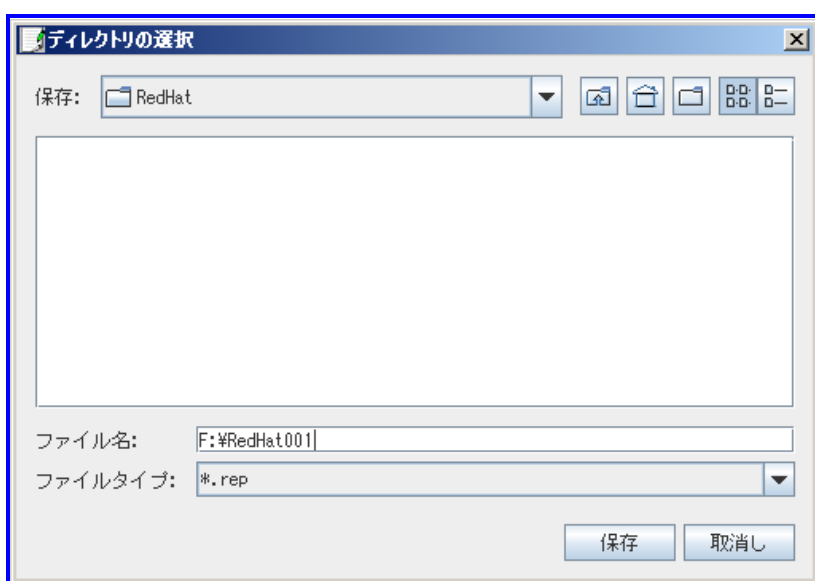
以下のメッセージが表示された場合は、管理サーバ、およびネットワークの設定を確認し、問題を解決した後に再度保存してください。



◆ **作業モードがオフラインの場合**

任意指定のフォルダ配下に、入力されているMACアドレス名でファイル保存されます。
ファイル名は、「MACアドレス.rep」となります。

- 1) 「ディレクトリの選択」画面が表示されますので、ディスク複製用情報ファイルの保存先フォルダを選択します。

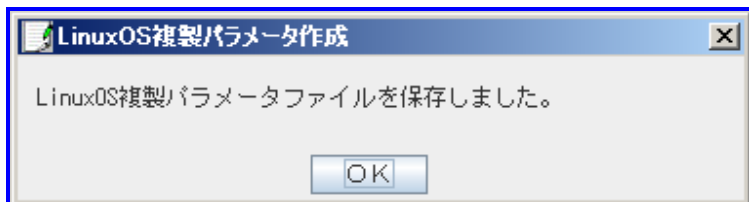


- 2) ディスク複製用情報ファイルのファイル保存の確認メッセージが表示されますので、保存ファイル名を確認して、「はい」ボタンをクリックします。

ヒント

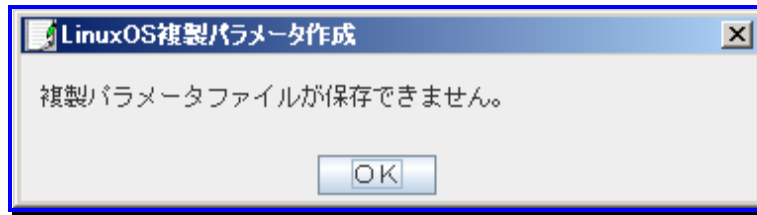
保存先フォルダ配下に、同じファイル名のファイルが存在する場合は、上書き確認メッセージが表示されます。上書き保存する場合は「はい」を、上書き保存しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。

選択した保存先フォルダへのファイル保存が正常に行われた場合は、以下のメッセージが表示されます。



ヒント

以下のメッセージが表示された場合は、保存先フォルダに問題が無いか確認し、再度保存しなおしてください。



2.その他の操作および表示について

■ ディスク複製用情報ファイル(既存ファイル)を開く

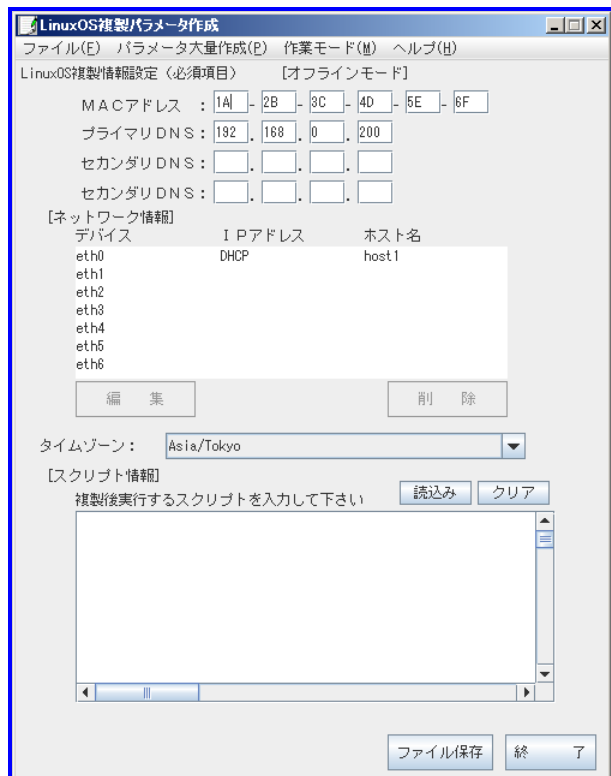
既存ファイルを利用して、ディスク複製用情報ファイルを作成する手順について説明します。

- (1) 「作成パラメータ選択」画面→「Linuxディスク複製パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



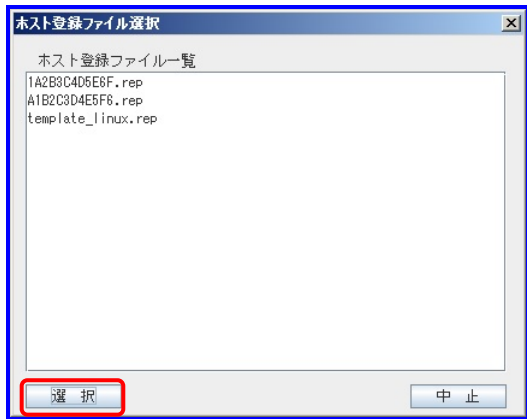
- (2) 「LinuxOS複製パラメータ作成」画面が表示されますので、「ファイル」メニュー→「開く」をクリックして、「**MACアドレス.rep**」を選択し、ファイルを開きます。

- (3) 既存のディスク複製用情報ファイルが表示されます。



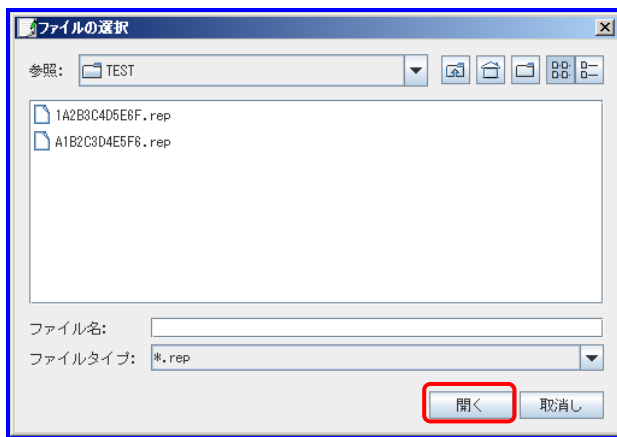
◆ 作業モードがオンラインの場合

「ホスト登録ファイル(管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥machineinf配下に存在するディスク複製用情報ファイル)選択」画面が表示されますので、ホストファイル(雛型ファイル)を選択し、「選択」ボタンをクリックします。



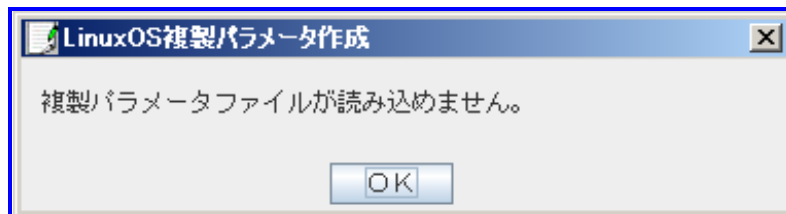
◆ 作業モードがオフラインの場合

現在の作業フォルダ配下に存在するディスク複製用情報ファイルの一覧リストを「ファイルの選択」画面で表示します。ディスク複製用情報ファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。



ヒント

ディスク複製用情報ファイルの読み込み時にいずれかのエラーがある場合は、以下のメッセージが表示されます。ディスク複製用情報ファイルの内容を確認してください。



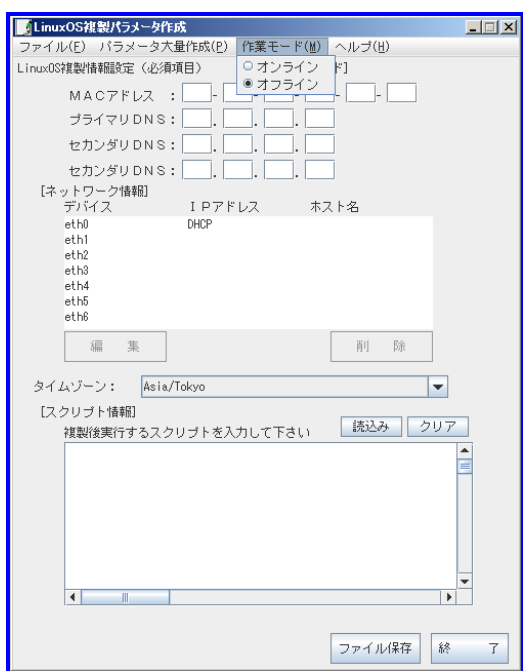
■ 作業モードを変更する場合

作業モードを変更する場合は、以下の手順で作業モードを変更できます。

- (1) 「作成パラメータ選択」画面→「Linux ディスク複製パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- (2) 「LinuxOS 複製パラメータ作成」画面が表示されますので、「作業モード」メニュー→「オンライン」または「オフライン」のラジオボタンを選択して、作業モードを切り替えてください。

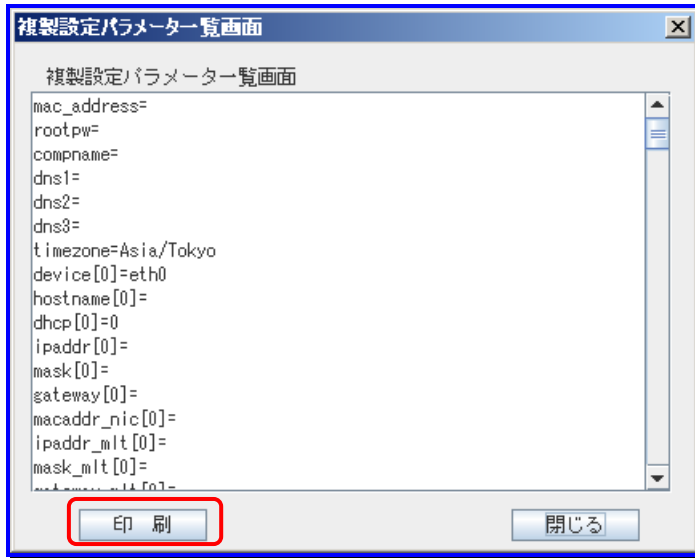


■ 設定情報表示

ディスク複製OSインストールで設定するパラメータの内容を、ディスク複製用情報ファイルの出力形態で、一覧表示、または印刷します。

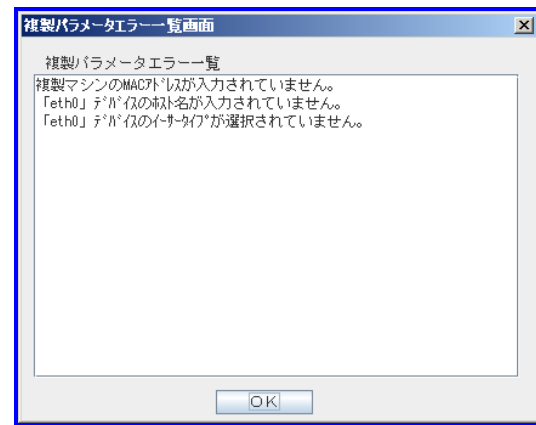
- 1) 「LinuxOS複製パラメータ作成」画面の「ファイル」メニュー→「設定情報表示」をクリックします。

- 2) 「複製設定パラメーター一覧画面」が表示されますので、チェックリストを印刷する場合は、「印刷」ボタンをクリックして印刷してください。



ヒント

現在設定されている内容に不具合、またはエラーが存在する場合は、「複製設定パラメーター一覧画面」が表示されず「複製パラメータエラー一覧画面」が表示されます。エラー一覧に表示されている内容を確認し、「LinuxOS 複製パラメータ作成」画面で修正してください。



■ エラーメッセージ表示領域

いずれかの操作時に不具合または、エラーが見つかった場合にエラーメッセージを赤字で表示します。

5.4.4. ディスク複製用パラメータファイルの大量作成(Linux)

複数のLinuxの管理対象マシンにディスク複製OSインストールを実行する場合、実行台数分のディスク複製用情報ファイルを作成する必要があります。

ここでは、Linuxのディスク複製用情報ファイルの大量作成方法について説明します。

- (1) 大量の情報ファイルを作成する元となるディスク複製用情報ファイルを用意します。ディスク複製用情報ファイルの作成方法については、「5.4.3 ディスク複製用パラメータファイルの作成(Linux)」を参照してください。
- (2) 管理サーバまたはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (3) 「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックすると「作成パラメータ選択」画面が表示されますので、「Linux ディスク複製パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
- (4) 「5.4.3 ディスク複製用パラメータファイルの作成(Linux)」で作成したファイルを開きます。既存ファイルを開く方法は、「5.4.3 ディスク複製用パラメータファイルの作成(Linux)」の「2.その他の操作および表示について」を参照してください。

- (5) 「LinuxOS 複製パラメータ作成」画面が表示されますので、「パラメータ大量作成」メニュー→「複製パラメータ」をクリックします。

LinuxOS複製パラメータ作成

ファイル(F) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

LinuxOS複製情報 複製パラメータ Ctrl-R [オフラインモード]

MACアドレス : 00 - 30 - F1 - 88 - 05 - 7E

プライマリDNS : . . .

セカンダリDNS : . . .

セカンダリDNS : . . .

[ネットワーク情報]

デバイス	IPアドレス	ホスト名
eth0	DHCP	host1
eth1		
eth2		
eth3		
eth4		
eth5		
eth6		

編集 削除

タイムゾーン : Asia/Tokyo

[スクリプト情報]

複製後実行するスクリプトを入力して下さい

読み込み クリア

ファイル保存 終了

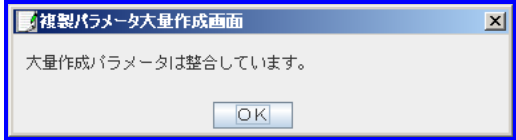
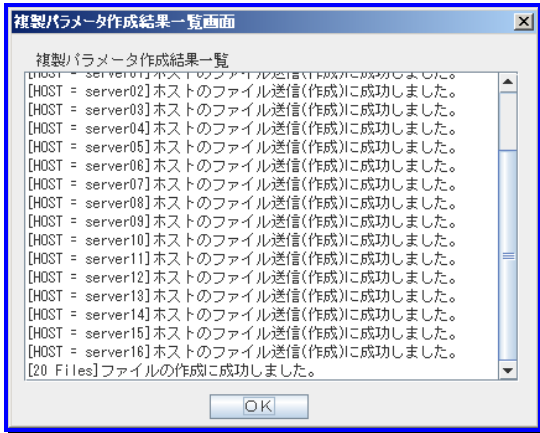
- (6) 「複製パラメータ大量作成画面」が表示されますので、赤枠で囲んだ各項目を設定します。
ディスク複製用パラメータ情報は、最大 100 台の Linux 複製マシンの設定ができます。複製するターゲットマシンでのイーサネットデバイス「eth0」のネットワーク情報を入力してください

[illegible]

複製パラメータ大量作成画面	
モデルホスト名	現在読み込まれている、雛型に使用したディスク複製用情報ファイル名が表示されます。
ホスト名 (設定必須)	イーサネットデバイス「eth0」のホスト名を設定します。入力できる文字数は、255Byte(半角文字255文字)です。
MACアドレス (設定必須)	イーサネットデバイスのMACアドレスを設定します。入力は、16進数の12文字で入力してください。 例)1A-2B-3C-4D-5E-6Fまたは、1a-2b-3c-4d-5e-6f ファイル保存時、入力したMACアドレスを使用して、ディスク複製用情報ファイルが作成され、拡張子「.rep」で保存されます。 例)1A2B3C4D5E6F.repまたは、1a2b3c4d5e6f.rep
DHCP(0: ON) (設定必須)	イーサネットデバイス「eth0」のTCP/IPネットワークタイプを以下から選択し、設定します。 ・DHCP: DHCPサーバによる動的IPアドレスを設定する場合、「0」を入力します。 ・固定IP: 手動でのIPアドレス設定の場合は、何も入力しません。
IPアドレス	イーサネットデバイス「eth0」のIPアドレスを設定します。 例)192.168.0.11または、192.168.100.150など ネットワークタイプが「固定IP」の場合、設定必須です。
マスク値	イーサネットデバイス「eth0」のIPアドレスに対するネットマスク値を設定します。 例)255.255.0.0または、255.255.255.0など ネットワークタイプが「固定IP」の場合に、必須入力項目になります。
ゲートウェイ	イーサネットデバイス「eth0」のIPアドレスに対する、ゲートウェイマシンのIPアドレスを設定します。 例)192.168.0.250または、192.168.100.200など ネットワークタイプが「DHCP」、「固定IP」どちらの場合でも、設定必須ではありません。
DNSアドレス	イーサネットデバイスのIPアドレスに対する、プライマリDNSのIPアドレスを設定します。 例)192.168.0.250または、192.168.100.200など ネットワークタイプが「DHCP」、「固定IP」どちらの場合でも、設定必須ではありません。

- (7) 「保存」ボタンをクリックして、設定を保存します。赤枠で囲んだ各ボタン操作については、以下の表を参照してください。

[illegible]

複製パラメータ大量作成画面	
クリア	現在画面に入力している内容をすべて画面から削除します。
読み込む	CSVファイル形式で保存されている複製パラメータ情報を読み込み、複製パラメータ大量作成入力域へ展開します。現在設定されている作業フォルダ配下の「CSV」フォルダを初期フォルダとして、ファイル選択ダイアログ画面が表示されます。 読み込むファイル名を選択入力して、「開く」ボタンをクリックしてください。
チェック	現在入力されている内容で整合性をチェックします。 不具合またはエラーがない場合は、以下のメッセージダイアログ画面が表示されます。 
保存	入力内容をCSVファイル形式で保存します。 保存場所は、現在設定されている作業フォルダ配下の「CSV」フォルダです。 デフォルトは、<インストールフォルダ>\linux¥offline¥CSVです。 「保存」ボタンをクリックすると、「ファイル名を付けて保存」ダイアログ画面が表示されますので、ファイル名を入力して保存してください。
大量作成	現在入力されている内容で、ディスク複製用情報ファイルを一括作成します。 一括作成が正常に終了した場合は、「複製パラメータ作成結果一覧画面」画面が表示されます。(※1) 
終了	「複製パラメータ大量作成画面」を閉じて、複製パラメータ大量作成を終了します。 終了する場合は「はい」、終了しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。

※1

■ 作業モードがオンラインの場合

管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>\AnsFile¥machineinf配下に、入力されているMACアドレス名でファイル保存されます。

■ 作業モードがオフラインの場合

現在の作業フォルダ配下に、入力されている MAC アドレス名で保存されます。
ファイル名は、「MACアドレス.rep」となります。

ヒント

- 設定の誤りが存在する場合は、「複製パラメータ大量作成画面」が表示されず「複製パラメータエラー一覧画面」が表示されます。エラー一覧に表示されている内容を確認し、「複製パラメータ大量作成画面」で修正してください。
- 複製パラメータの内容に問題がある場合、「複製パラメータエラー一覧画面」が表示され、ファイルの作成は行いません。パラメータの内容を確認し問題を解決後に、再度作成を行ってください。

その他の操作および表示について

■ LinuxOS 複製パラメータ設定の情報

LinuxOS 複製パラメータ設定の情報については、以下の手順で確認できます。

- (1) 「LinuxOS 複製パラメータ作成」画面の「ヘルプ」メニュー→「情報」をクリックすると、LinuxOS 複製パラメータの情報画面が表示されます。



5.4.5. OS クリアインストール用パラメータファイル作成(Linux)

Linuxインストールパラメータファイルは、Linuxインストールのセットアップ時に必要な各項目をあらかじめファイルとして保存しておくことで、OSを無人インストールできるようにするものです。ここでは、そのLinuxインストールパラメータファイルの作成方法について説明します。

重要

- Linuxをインストールする際は、必ず設定してください。
- DPM Ver4.21より前のバージョンのイメージビルダで作成したLinuxインストールパラメータファイルについては、必ず本バージョンのイメージビルダでLinuxインストールパラメータファイルを読み込んでから、上書き保存してください。
 - ・既存ファイルの読み込みについては、本章の「その他の操作および表示について」を参照してください。
 - ・上書き保存については、本章の「■Linuxインストールパラメータファイルの上書き保存」を参照してください。
- Linuxインストールパラメータ設定ツールではrootのパスワードを"deploymgr"に設定しています。パスワードを変更する場合は以下の方法で行ってください。
 - (1)パスワードを暗号化しない場合：
下記に格納されているLinuxインストールパラメータファイル(cfgファイル)の"rootpw"の行を変更してください。
 <イメージ格納用フォルダ>:%exports%ks
 例:rootpw --iscrypted *****.. (暗号化されたパスワード)
 ↓
 rootpw deploy
 - (2)パスワードを暗号化する場合
Linux標準のキックスタートファイル作成ツールでパスワードを設定し、キックスタートパラメータファイルを作成してください。
作成したファイルの"rootpw"の行を、下記に格納されているLinuxインストールパラメータ設定ツールで作成したLinuxインストールパラメータファイル(cfgファイル)の"rootpw"の行にコピーしてください。
 <イメージ格納用フォルダ>:%exports%ks
 例:rootpw --iscrypted *****... (暗号化されたパスワード)
 ↓
 rootpw --iscrypted XXXXXXXXXXXX... (暗号化されたパスワード)

注意

- Linux インストールパラメータファイル作成では、作業モードとして、オンラインモードとオフラインモードがあります。
 - ・オンラインモード:通常使用するモードです
 - ・オフラインモード:NFS共有フォルダ(exports)を<イメージ格納用フォルダ>%exports以外の場所に設定する場合に使用するモードです。ここでは通常使用するオンラインモードを中心に説明します
- NFS サーバを管理サーバ以外のマシンに構築する場合の注意事項については、「オペレーションガイド 3.5.6 注意事項、その他」を参照してください。

ヒント

- 大量に Linux インストールパラメータファイルを作成する場合は、「5.4.6 OS クリアインストール用パラメータファイル大量作成(Linux)」を参照してください。
- 作業モード、および作業フォルダは、任意のタイミングで切り替えできます。
- Linux インストールパラメータファイル作成のためのツールの各種ボタンでのキーボード操作は、「Enter」キー、または「Space」キーのみ有効です。

■ オンラインモードの場合

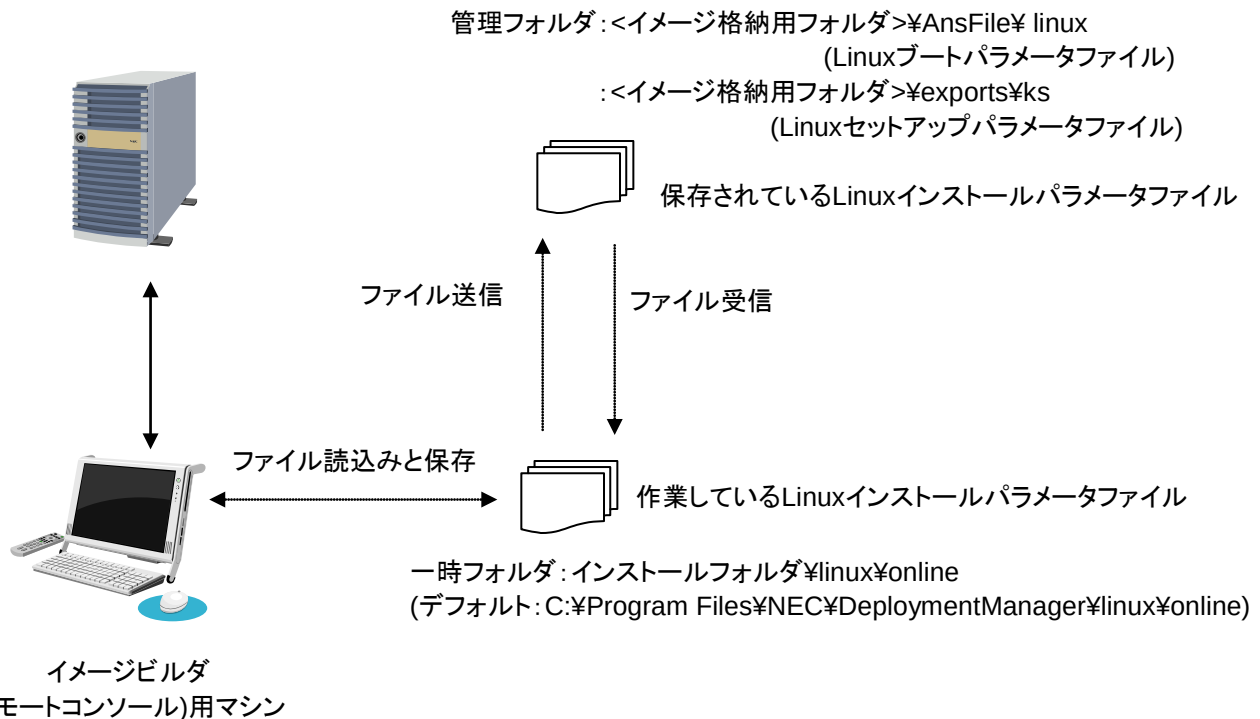
ネットワークを通して、管理サーバ上のイメージ格納用フォルダ配下で、Linuxインストールパラメータファイルを作成、管理します。

注意

Linuxインストールパラメータファイルは二つのファイルで構成、管理されています。

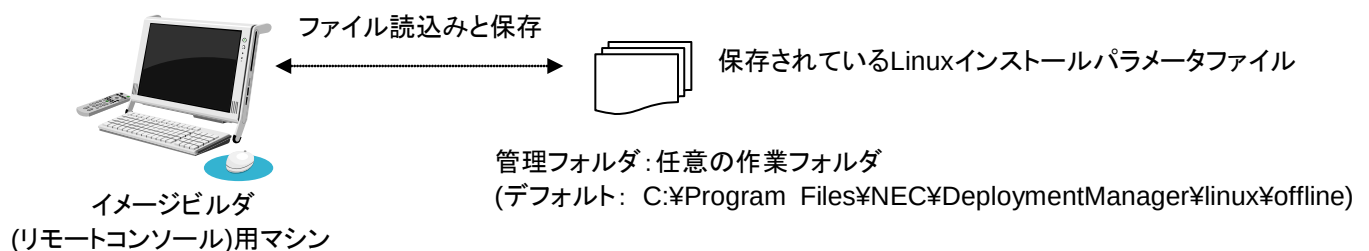
- ・Linuxブートパラメータファイル(拡張子無し) 例)nec_host
(Linuxブートパラメータファイル)
- ・Linuxセットアップパラメータファイル(拡張子「.cfg」) 例)nec_host.cfg
(Linuxセットアップパラメータファイル)

rootのパスワードはdeploymgr固定でファイル出力されます。



■ オフラインモードの場合

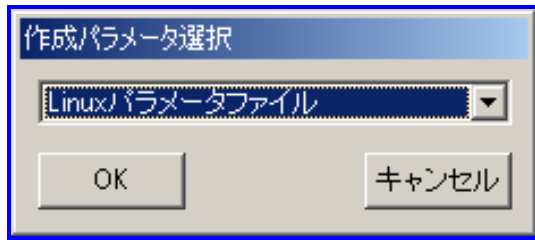
イメージビルダを起動したマシン上で、任意の作業フォルダ配下で、Linuxインストールパラメータファイルを作成、管理します。



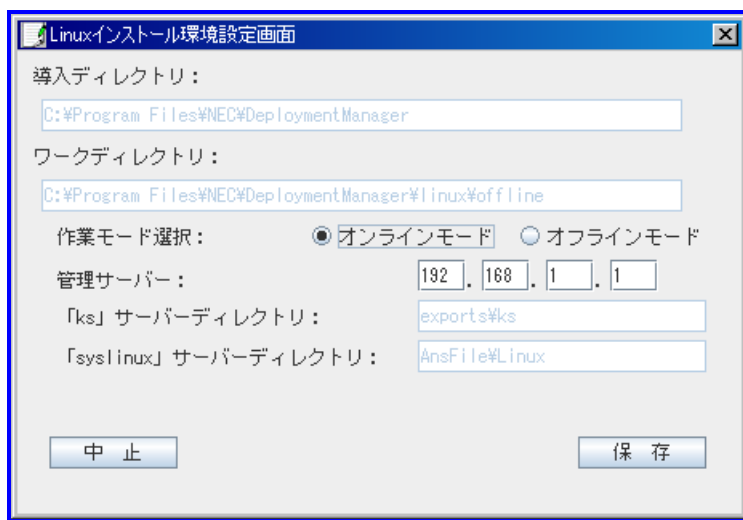
■ Linuxインストールパラメータファイル作成のための初期設定

- (1) 管理サーバまたはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。

- (2) 「セットアップパラメータの作成」をクリックします。
「作成パラメータ選択」画面が表示されますので、「Linux パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



- (3) 初回起動時、または環境設定情報ファイル「LinuxIParm.cfg」が導入ディレクトリ配下に存在しない場合は、「Linux インストール環境設定画面」が表示されますので、使用している環境にあわせて設定してください。



Linuxインストール環境設定画面

導入ディレクトリ	イメージビルダをインストールしたフォルダを表示します。 編集はできません。
ワークディレクトリ	オフラインモード時の作業フォルダを表示します。作業モードがオフラインモード選択時のみ入力できます。 入力できる文字数は、1～254Byte(半角1～254文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号は使用できません。 , ; * ? " ' < > [] @ デフォルトは、「C:\Program Files\NEC\DeploymentManager\linux\offline」です。
作業モード選択	作業モードを以下から選択します。 ・オンラインモード ・オフラインモード デフォルトは、オンラインモードです。
管理サーバ	イメージビルダの導入時に設定した管理サーバのIPアドレスをレジストリ情報から取得し、表示します。
「ks」サーバーディレクトリ	オンラインモード時に、Linuxセットアップパラメータファイルを保存する管理サーバ上のフォルダ名を表示します。 編集はできません。
「syslinux」サーバーディレクトリ	オンラインモード時に、Linuxブートパラメータファイルを保存する、管理サーバ上のフォルダ名を表示します。 編集はできません。

中止	変更内容を破棄して、環境設定画面を閉じます。
保存	設定内容を、環境設定ファイル「LinuxSysRep.cfg」に保存し、環境設定画面を閉じます。

導入ディレクトリ、および管理サーバのIPアドレスの環境情報が正常に取得できない場合は、Linuxインストールパラメータ設定ツールは起動せずに終了します。

- (4) 設定が完了したら「保存」ボタンをクリックします。
- (5) 確認画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。。

ヒント

設定内容にエラーが存在する場合は、エラーメッセージが赤字で表示され保存できません。エラー内容を修正後、再度保存してください。

The screenshot shows a window titled "Linuxインストール環境設定画面" (Linux Installation Environment Configuration Screen). It contains several input fields and buttons. At the bottom, a red box highlights an error message: "作業ディレクトリを入力して下さい。" (Please enter the working directory.). The fields are as follows:

- 導入ディレクトリ: C:\Program Files\NEC\DeploymentManager
- ワークディレクトリ: (empty)
- 作業モード選択: ☐ オンラインモード ☒ オフラインモード
- 管理サーバー: 192 . 168 . 1 . 1
- 「ks」サーバーディレクトリ: exports%ks
- 「syslinux」サーバーディレクトリ: AnsFile%Linux
- Buttons: 中止 (Cancel), 保存 (Save)

■Linuxインストールパラメータファイル作成

(1) 「インストールパラメータ設定ツール」が起動し、以下のメイン初期画面が表示されます。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(F) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定 (必須項目) [オンラインモード]

インストールOS : Red Hat Enterprise Linux ES 3

ブートディレクトリ :

NFSサーバー : 192 . 168 . 1 . 2

インストールデバイス : eth0

インストール言語 : Japanese

使用キーボード種類 : Japanese

使用マウス種類 : Generic Mouse(PS/2)

☐ 3ボタンのエミュレーション

タイムゾーン : Asia/Tokyo

サポート言語 :

Chinese(Mainland)
Chinese(Taiwan)
Czech
Danish
Dutch
English
French
German
Icelandic
Italian
Japanese
Korean
Norwegian
Portuguese
Russian
Slovenian
Spanish

保 存

終 了

(2) Linux インストールパラメータを設定します。
Linuxインストールパラメータは、次の9種類の情報パネルより構成されています。

各ボタンをクリックし、情報パネルを切り替えて、各項目を設定します。

ヒント

各情報パネルで、入力した情報に不具合またはエラーがある場合は、各情報パネルの最下段に、赤字でエラーメッセージが表示されます。

■ 基本情報設定パネル

Linuxブートパラメータ、およびLinuxセットアップパラメータの基本情報を設定します。

インストールパラメータ設定ツール
 ファイル(E) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定 (必須項目) [オフラインモード]

インストールOS : Red Hat Enterprise Linux ES 3

ブートディレクトリ : ...

NFSサーバー : 192 . 168 . 0 . 1

インストールデバイス : eth0

インストール言語 : Japanese

使用キーボード種類 : Japanese

使用マウス種類 : Generic Mouse(PS/2)

☐ 3ボタンのエミュレーション

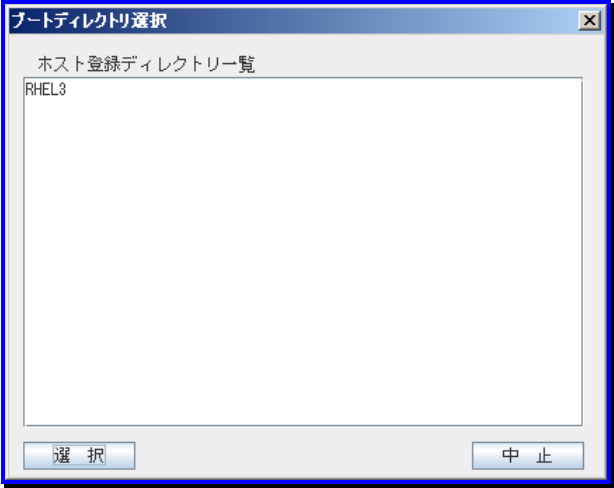
タイムゾーン : Asia/Tokyo

サポート言語 :

- Chinese(Mainland)
- Chinese(Taiwan)
- Czech
- Danish
- Dutch
- English
- French
- German
- Icelandic
- Italian
- Japanese
- Korean
- Norwegian
- Portuguese
- Russian
- Slovenian
- Spanish

保 存

終 了

インストールパラメータ設定ツール	
基本情報設定 (設定必須)	
インストールOS (設定必須)	インストールするLinuxOSの種類をリストボックスから選択します。デフォルトは、「Red Hat Enterprise Linux ES 3」です。 インストールOS選択時、ブートディレクトリが未入力の場合は、選択したインストールOSに該当するブートディレクトリの既定値が、ブートディレクトリに設定されます。(※1)
ブートディレクトリ (設定必須)	インストールするLinuxOSに対するブートディレクトリを選択、またはブートディレクトリを入力します。入力できる文字数は、1～255Byte(半角1～255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 , ; * ? " ' < > [] @ 「…」ボタンをクリックすると、「ブートディレクトリ選択」画面が表示されますので、管理サーバ上のブートディレクトリ一覧リストから選択できます。  オフラインモードの場合、「ブートディレクトリ選択」画面は使用できませんので、ブートディレクトリ名を入力して設定する必要があります。
NFSサーバ (設定必須)	NFSサーバのIPアドレスを設定します。通常はDPMサーバと同じIPアドレスを設定します。 既定値は、管理サーバのIPアドレスです。
インストールデバイス (設定必須)	イーサネットデバイス(通信に使用するインストールデバイス)を設定します。 既定値は、「eth0」です。 管理サーバに登録されていないMACアドレスを持つLANボードを指定した場合、シナリオが完了しないことがあります。
インストール番号	インストールOSに「Red Hat Enterprise Linux 5.1/5.1 AP」を選択した場合に表示されます。 製品ご購入時のRed Hat Enterprise Linuxのインストール番号を入力してください。入力必須ではありません。
インストール言語 (設定必須)	インストール作業時に適用する言語種類を、一覧より選択します。 既定値は、「Japanese」です。 Red Hat Enterprise Linux 6の場合は、選択した内容に関わらず、「English」が設定されます。

使用キーボード種類 (設定必須)	インストールする管理対象マシンで適用するキーボード種類を、一覧より選択します。既定値は、「Japanese」です。 Red Hat Enterprise Linux 6の場合は、選択した内容に関わらず、「US English」が設定されます。
使用マウス種類 (設定必須)	インストールする管理対象マシンで適用するマウス種類を、一覧より選択します。 既定値は、「Generic Mouse(PS/2)」です。 OSクリアインストール後にマウスが正しく設定されていない場合、マウスに「Probe For Mouse」を指定し、マウスの自動検出を行ってください。 Red Hat Enterprise Linux 6では、この項目は表示されません。
3ボタンのエミュレーション	マウスデバイスが、3ボタンのエミュレーション機能を適用する場合、チェックボックスにチェックを入れます。 デフォルトは、チェックボックスのチェックが外れています。 設定必須ではありません。 Red Hat Enterprise Linux 6では、この項目は表示されません。
タイムゾーン	タイムゾーンをリストボックスから選択します。既定値は、「Asia/Tokyo」です。入力必須ではありません。
サポート言語 (設定必須)	言語環境を一覧より設定します。 複数選択する場合、「Ctrl」キーを押しながら選択してください。 既定値は、「English」、および「Japanese」です。「English」を非選択にできません。 Red Hat Enterprise Linux 5/5APの場合、選択した内容に関わらず、すべての言語が設定されます。 Red Hat Enterprise Linux 6の場合、選択した内容に関わらず、「English」が設定されます。

※1

インストールOSは、一覧から以下のLinuxOSが選択できます。

インストールOS	ブートディレクトリ既定値	対応アーキテクチャ
Red Hat Enterprise Linux AS 3	RedHatAS3	x86
Red Hat Enterprise Linux ES 3	RedHatES3	x86
Red Hat Enterprise Linux AS 4	RedHatAS4	x86/x64
Red Hat Enterprise Linux ES 4	RedHatES4	x86/x64
Red Hat Enterprise Linux 5.1/5.1 AP	RedHatServer5.1	x86/x64
Red Hat Enterprise Linux 6	RedHatServer6	x86/x64

ヒント

Red Hat Enterprise Linux 5.2～5.6/5.2 AP～5.6 AP の場合は、「Red Hat Enterprise Linux 5.1/5.1 AP」を選択してください。

■ ブート情報設定

インストールする管理対象マシンのブートローダーに関する設定をします。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(F) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定
ブート情報設定
ディスク情報設定
ネットワーク情報設定
認証情報設定
ファイアウォール情報設定
Xウィンドウ情報設定
パッケージ情報設定
インストール後スクリプト設定

ブート情報設定 (必須項目) [オンラインモード]

☒ 新しいブートローダーをインストールする
☐ ブートローダーをインストールしない

ブートローダーオプション

☐ ブートローダーとしてGRUBを使用する

GRUBオプション

GRUBパスワードを使用:

☒ ブートローダーとしてLILOを使用する

LILOオプション

☒ リニアモードを使用する
☐ LBA32モードを使用する

☒ マスターブートレコード (MBR) にブートローダーをインストール
☐ パートパーティションの先頭セクタ上にブートローダーをインストール

カーネルパラメータ:

保 存
終 了

ブート情報設定	
新しいブートローダーをインストールする	新しいブートローダーをインストールする場合に選択してください。 「新しいブートローダーをインストールする」を選択した場合は、「ブートローダーオプション」の設定が有効になります。 既定値は、「新しいブートローダーをインストールする」です。
ブートローダーをインストールしない	ブートローダーをインストールしない場合に選択してください。 「ブートローダーをインストールしない」を選択してLinuxのインストールを行った場合、シナリオ実行は正常に終了しますが、LinuxをインストールしたパーティションからLinuxを起動できません。
ブートローダーオプション	ブートローダーオプションを設定し、ブートローダーを新規にインストールします。
ブートローダーとしてGRUBを使用する	GRUBブートローダーを導入する場合、設定します。 Red Hat Enterprise Linux AS4、ES4、5/5APではLILOパッケージが廃止となりました。Red Hat Enterprise Linux AS4、ES4、5/5APをインストールする場合は、「ブートローダーとしてGRUBを使用する」を選択してください。 設定必須ではありません。
GRUBオプション GRUBパスワードを使用	「ブートローダーとしてGRUBを使用する」を選択した場合、設定できます。設定必須ではありません。
ブートローダーとしてLILOを使用する	LILOブートローダーを導入する場合、設定します。 既定値は、「ブートローダーとしてLILOを使用する」が設定されています。 Red Hat Enterprise Linux 6では、この項目は設定できません。
LILOオプション	LILOブートローダーの動作モードを設定します。 以下のいずれかのチェックボックスにチェックを入れてください。 ・リニアモードを使用する ・LBA32モードを使用する 設定必須ではありません。
マスターブートレコード(MBR)にブートローダーをインストールする/ ブートパーティションの先頭セクタ上にブートローダーをインストールする (どちらか設定必須)	ブートローダーの導入先を設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・マスターブートレコード(MBR)にブートローダーをインストールする ・ブートパーティションの先頭セクタ上にブートローダーをインストールする ブートローダー導入先のディスクに対してバックアップ/リストアを行う場合、「マスターブートレコード(MBR)にブートローダーをインストールする」を設定します。 Red Hat Enterprise Linux 6では、この項目は設定できません。
カーネルパラメータ	カーネルパラメータを設定します。 入力できる文字数は、1～255Byte(半角1～255文字)です。使用できる文字は、半角英数字です。設定必須ではありません。 Red Hat Enterprise Linux 6では、この項目は設定できません。

■ ディスク情報設定

インストールする管理対象マシンのディスクドライブの使用環境を設定します。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(E) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定
ブート情報設定
ディスク情報設定
ネットワーク情報設定
認証情報設定
ファイアウォール情報設定
Xウィンドウ情報設定
パッケージ情報設定
インストール後スクリプト設定

ディスク (パーティション) 情報設定 (必須項目) [オンラインモード]

マスターブートレコードの設定:

- ☒ マスターブートレコードを消去する
- ☐ マスターブートレコードを消去しない

パーティションの設定:

- ☐ 全ての既存パーティションを削除する
- ☒ 既存のLinuxパーティションのみを削除する
- ☐ 既存のパーティションを保持する

ディסקラベルの設定:

- ☒ ディスクラベルを初期化する
- ☐ ディスクラベルを初期化しない

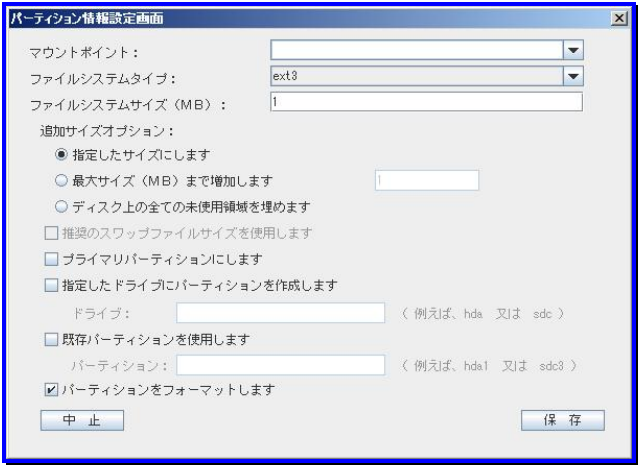
デバイスノ	マウントポイント	タイプ	フォーマット
パーティション番号			

追 加 編 集 削 除

保 存
終 了

注意

本ツールではソフトウェアRAIDの設定はできません。

ディスク情報設定 (設定必須)	
マスターブートレコードの設定 (設定必須)	マスターブートレコードの取り扱いについて設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・マスターブートレコードを消去する ・マスターブートレコードを消去しない
パーティションの設定 (設定必須)	パーティションの取り扱いについて設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・すべての既存パーティションを削除する ・既存のLinuxパーティションのみを削除する ・既存のパーティションを保持する
ディスクラベルの設定 (設定必須)	ディスクラベルの取り扱いについて設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・ディスクラベルを初期化する ・ディスクラベルを初期化しない
追加	インストール時の新規ディスクパーティション情報を設定します。 ディスクパーティションを追加する場合、「追加」ボタンをクリックします。 「追加」ボタンをクリックすると、「パーティション情報設定」画面が表示されます。 
マウントポイント	パーティションのマウントディレクトリをリストボックスから選択、または入力します。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 , ; * ? ' < > [] @ ファイルシステムのタイプが「swap」の場合、選択できません。 「swap」以外のファイルシステムのタイプの場合、設定必須です。
ファイルシステムタイプ (設定必須)	ファイルシステムのタイプをリストボックスから選択します。 既定値は、「ext3」タイプです。
ファイルシステムサイズ(MB)	確保するパーティションの容量を設定します。単位はMByte(MB)で入力してください。既定値は、「1」MByteです。 「追加サイズオプション」で「指定したサイズにします」を選択した場合、設定必須です。

追加サイズオプション (選択できる場合は、設定必須)	確保するパーティションの容量について設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・指定したサイズにします ・最大サイズ(MB)まで増加します ・ディスク上のすべての未使用領域を埋めます 「最大サイズ(MB)まで増加します」を選択した場合、増加容量の単位をMByteで入力してください。
推奨のスワップファイルサイズを使用します	ファイルシステムタイプにて「swap」を選択した場合、チェックボックスにチェックを入れることができます。 チェックを入れた場合、スワップファイルシステムの容量をインストール時に自動設定します。
プライマリパーティションにします	パーティションをプライマリパーティションとして、アロケーションを強制的に実行します。実行できない場合は異常終了します。 設定必須ではありません。
指定したドライブにパーティションを作成します (設定必須)	パーティションを新規作成します。 パーティションを追加するディスクドライブ名を入力してください。使用できる文字は、半角英数字です。 IDEディスクが1番目の場合は「hda」、2番目の場合は「hdb」を設定します。SCSIディスクが1番目の場合は「sda」を設定してください。
既存パーティションを使用します	既存のパーティション名を指定します。 パーティションの設定内容にしたがって、既存のパーティション上に配置されます。 使用できる文字は、半角英数字です。 IDEディスクの1番目の第1パーティションの場合はhda1、2番目の第2パーティション場合はhdb2を指定します。また、SCSIディスクの1番目の第1パーティションの場合はsda1を指定します。
パーティションをフォーマットします	パーティションをフォーマットします。 既定値は、「パーティションをフォーマットします」です。
中止	設定したパーティション情報を保存しないで、画面を閉じます。
保存	設定したパーティション情報を保存して、画面を閉じます。 設定したパーティション情報に不具合またはエラーがある場合、一覧が表示され保存できません。

編集	ディスクパーティションを編集します。 一覧から編集対象のパーティションを選択し、「編集」ボタンをクリックします。 ディスク (パーティション) 情報設定 (必須項目) [オンラインモード] マスターブートレコードの設定: ☒ マスターブートレコードを消去する ☐ マスターブートレコードを消去しない パーティションの設定: ☐ 全ての既存パーティションを削除する ☒ 既存のLinuxパーティションのみを削除する ☐ 既存のパーティションを保持する ディスクラベルの設定: ☐ ディスクラベルを初期化する ☒ ディスクラベルを初期化しない <table><tr><th>デバイス</th><th>マウントポイント</th><th>タイプ</th><th>フォーマット</th></tr><tr><td>hda</td><td></td><td>swap</td><td>はい</td></tr><tr><td>hda</td><td>/</td><td>ext2</td><td>はい</td></tr><tr><td>AUTO</td><td>/tmp</td><td>ext3</td><td>はい</td></tr></table> 追加 編集 削除 「編集」ボタンをクリックすると、「パーティション情報設定」画面が表示されます。 パーティション情報設定画面 マウントポイント: / ファイルシステムタイプ: ext2 ファイルシステムサイズ (MB): 3872 追加サイズオプション: ☒ 指定したサイズにします ☐ 最大サイズ (MB) まで増加します ☐ ディスク上の全ての未使用領域を埋めます ☐ 推奨のスワップファイルサイズを使用します ☒ プライマリパーティションにします ☒ 指定したドライブにパーティションを作成します ドライブ: hda (例えば、hda または sdc) ☐ 既存パーティションを使用します パーティション: hda (例えば、hda1 または sdc3) ☒ パーティションをフォーマットします 中止 保存	デバイス	マウントポイント	タイプ	フォーマット	hda		swap	はい	hda	/	ext2	はい	AUTO	/tmp	ext3	はい
デバイス	マウントポイント	タイプ	フォーマット														
hda		swap	はい														
hda	/	ext2	はい														
AUTO	/tmp	ext3	はい														
削除	現在設定されているディスクパーティションを削除します。 パーティション一覧から削除対象のパーティションを選択し、「削除」ボタンをクリックします。																

ヒント

ディスクが複数あるマシンにインストールする場合、インストールするドライブを指定しない場合には、どのディスクにインストールするかはインストーラが自動で割り振ります。インストールするディスクを指定するには「指定したドライブにパーティションを作成します」にてインストールするドライブを設定してください。

■ ネットワーク情報設定

ネットワーク情報の設定をします。「基本情報設定」パネルでインストールデバイスに指定した LAN ボードに対して設定されます。

The screenshot shows the 'インストールパラメータ設定ツール' (Installation Parameter Setting Tool) window. The 'ネットワーク情報設定' (Network Information Setting) tab is selected and highlighted with a red box. The window displays the following settings:

- 基本情報設定
- ブート情報設定
- ディスク情報設定
- ネットワーク情報設定**
- 認証情報設定
- ファイアウォール情報設定
- Xウィンドウ情報設定
- パッケージ情報設定
- インストール後スクリプト設定

Network Information Setting Screen [Online Mode]

Host Name:

Network Type: ☒ DHCP ☐ Fixed IP

IP Address: . . .

Netmask: . . .

Gateway: 192 . 168 . 0 . 1

DNS Server: 192 . 168 . 1 . 100

Buttons: 保 存 (Save), 終 了 (End)

ネットワーク情報設定	
ホスト名	管理対象マシンのホスト名を入力します。入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@
ネットワークタイプ	TCP/IPネットワークタイプを以下から選択し、設定します。 ・DHCP:DHCPサーバによる動的IPアドレス設定 ・固定IP:手動でのIPアドレス設定 既定値は「DHCP」です。
IPアドレス	IPアドレスを入力します。 ネットワークタイプについて「固定IP」を選択している場合のみ、入力必須です。
ネットマスク	ネットマスクを入力します。 ネットワークタイプについて「固定IP」を選択している場合のみ、入力必須です。
ゲートウェイ	対象イーサネットデバイスのIPアドレスに対する、ゲートウェイマシンのIPアドレスを入力します。 ネットワークタイプについて「DHCP」、「固定IP」のどちらを選択している場合でも、入力必須ではありません。
ネームサーバー	DNSサーバのIPアドレスを入力します。 ネットワークタイプについて「DHCP」、「固定IP」のどちらを選択している場合でも、入力必須ではありません。

注意

DPMに登録しているMACアドレスを持つLANボードには、固定IPアドレス、DHCPサーバから取得に関わらず必ずネットワーク通信ができるように設定してください。ネットワーク通信ができない場合は、シナリオを実行した際にシナリオが完了しない可能性があります。

■ 認証情報設定

インストールする管理対象マシンで使用する各種認証機能の情報設定をします。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(E) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定
ブート情報設定
ディスク情報設定
ネットワーク情報設定
認証情報設定
ファイアウォール情報設定
Xウィンドウ情報設定
パッケージ情報設定
インストール後スクリプト設定

認証情報設定画面 [オンラインモード]

認証方法: ☒ シャドウパスワードを使用... ☒ MD5を使用します

[NIS認証]
☐ NIS認証を有効にします
 NISドメイン名:
☐ NISサーバーの検索にブロードキャストを使用します
 NISサーバー名:

[LDAP認証]
☐ LDAP認証を有効にします
 LDAPサーバー名:
 LDAPデータベース名:

[Kerberos5認証]
☐ Kerberos5認証を有効にします
 レalm名:
 ドメインコントローラ(KDC)名:
 マスターサーバー名:

[HESIOD認証]
☐ HESIOD認証を有効にします
 HESIOD LHS:
 HESIOD RHS:

[SMB認証]
☐ SMB認証を有効にします
 SMBサーバー名:
 SMBワークグループ:

[NSCD認証]
☐ ネームスイッチキャッシュドメイン(nscd)認証を有効にします

保 存
終 了

認証情報設定	
認証方法	ユーザ認証方法を設定します。 ・シャドウパスワードを使用します ユーザパスワードにシャドウパスワードを使用する場合にチェックを入れてください。 ・MD5を使用します ユーザパスワードにMD5暗号化を使用する場合にチェックを入れてください。 Red Hat Enterprise Linux 5/5APの場合は、「シャドウパスワードを使用します」にチェックを入れてください。
NIS認証	NIS(Network Information Service)認証を行う場合、「NIS認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れてください。
NISドメイン名 (設定必須)	NISドメイン名を設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
NISサーバーの検索にブロードキャストを使用します (設定必須)	NISサーバの検索にブロードキャストを使用する場合、チェックボックスにチェックを入れてください。
NISサーバー名 (設定必須)	NISサーバ名を入力してください。 使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ,;*?"<>' []@=
LDAP認証	LDAP(Lightweight Directory Access Protocol)を行う場合、「LDAP認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れてください。
LDAPサーバー名 (設定必須)	LDAPサーバ名を設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
LDAPデータベース名 (設定必須)	LDAPデータベース名を設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
ケルベロス5認証	ケルベロス5認証を行う場合、「ケルベロス5認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れてください。
レルム名 (設定必須)	レルム名を設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
ドメインコントローラ(KDC)名 (設定必須)	ドメインコントローラ(KDC)名を設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=

	マスターサーバー名 (設定必須)	マスターサーバー名を設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@= 設定したレルムに所属するKDCで、「kadmin」が動作しているKDC名は設定必須です。このマスターサーバーがユーザ情報の変更などを取り扱うKDCサーバーになります。
	HESIOD認証	HESIOD認証を行う場合、「HESIOD認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れてください。 HESIOD認証は、DNSを使用してユーザとグループ情報を管理します。
	HESIOD LHS (設定必須)	HESIOD LHS(Left-hand side)は、ユーザ情報などの検索時のLHSを設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
	HESIOD RHS (設定必須)	HESIOD RHS(Right-hand side)は、ユーザ情報などの検索時のRHSを設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
	SMB認証	SMB認証を行う場合、「SMB認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れてください。 Red Hat Enterprise Linux 6の場合、本項目の設定は無効となります。
	SMBサーバー名 (設定必須)	SMBサーバー名を設定します。 複数のSMBサーバーがある場合、サーバー名をカンマで区切って入力してください。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
	SMBワークグループ (設定必須)	SMBワークグループを設定します。 入力できる文字数は、32Byte(半角32文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥/:,;*?"<>' []@=
	NSCD認証	NSCD認証を行う場合、チェックボックスにチェックを入れてください。 「ネームスイッチキャッシュドメイン(nscd)認証を有効にします」のチェックボックスにチェックを入れた場合、ユーザやグループなどの情報をキャッシュできます。 Red Hat Enterprise Linux 6の場合、本項目の設定は無効となります。

■ ファイアウォール情報設定

インストールする管理対象マシンでのファイアウォール環境の情報設定をします。

Red Hat Enterprise Linux 6では、この画面での設定はできません。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(E) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定

ブート情報設定

ディスク情報設定

ネットワーク情報設定

認証情報設定

ファイアウォール情報設定

Xウィンドウ情報設定

パッケージ情報設定

インストール後スクリプト設定

ファイアウォール情報設定画面 [オンラインモード]

[デフォルトのファイアウォールレベル設定]

☐ 高

☒ 中

☐ 低

[デフォルトのファイアウォールのルール設定]

☒ デフォルトのファイアウォールルールを使用します

☐ ファイアウォールルールをカスタマイズします

信頼されるデバイス:

☐ eth0

進入許可:

☐ WWW (HTTP)

☐ FTP

☐ SSH

☐ DHCP

☐ Mail (SMTP)

☐ Telnet

他のポート (1029:tcp)

保存

終了

ファイアウォール情報設定	
デフォルトのファイアウォールレベル設定 (設定必須)	ファイアウォールのレベルを設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・高 ・中 ・低 既定値は、「中」です。 Red Hat Enterprise Linux 5/5APでは、[デフォルトのファイアウォールレベル設定]は「有効」、「無効」の選択になります。 Red Hat Enterprise Linux 6では、[デフォルトのファイアウォールレベル設定]は「無効」として自動的に設定されます。 Red Hat Enterprise Linux 3/4のバージョンでは、以下のようになります。 ・高、中→ファイアウォールの設定あり ・低→ファイアウォールの設定なし
デフォルトのファイアウォールのルール設定	設定するファイアウォールのルールを選択します 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・デフォルトのファイアウォールルールを使用します ・ファイアウォールルールをカスタマイズします 「ファイアウォールルールをカスタマイズします」を選択した場合、 以下で必要となる設定項目のチェックボックスにチェックを入れてください。 ・「信頼されるデバイス」 eth0のみ選択できます。 (選択した場合、eth0には、ファイアウォールの設定が行われません。) ・「進入許可」 ファイアウォール経由で通信を許可する通信プロトコルを選択します。(複数選択できます。) ただし、Red Hat Enterprise Linux 5/5APの場合は、選択した内容に関わらずSSHが必ず許可されます。 -WWW(HTTP) -FTP -SSH -DHCP -Mail(SMTP) -Telnet
他のポート(1029:tcp)	ファイアウォール経由で通信を許可する通信プロトコルとポートを設定します。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥ / ; - * ? " < > ' [] @ 入力は、「ポート番号:プロトコル」の形式で入力してください。 複数入力する場合は、「,」(カンマ)で区切って記述してください。 例)1029:tcp,1040:udp

重要

- Red Hat Enterprise Linux 3 update2 以前の OS をインストールする場合は、「デフォルトのファイアウォールレベル設定」を「低」に設定してください。
- 「デフォルトのファイアウォールレベル設定」が「高」、「中」、「有効」のいずれかの場合は、「ファイアウォールのルールをカスタマイズします」を選択し、「他のポート」に以下のポートを追加してください。

プロトコル	ポート番号
UDP	68
TCP	26509(※1)
TCP	26510(※1)
TCP	26520
UDP	26529(※1)

※1

DPM Ver6.1より前のバージョンからDPMサーバをアップグレードインストールした場合は、使用する(開放する)ポート番号が異なります。詳細については、「付録 D ネットワークポートとプロトコル一覧」の「・管理サーバと管理対象マシンの通信」の注釈説明※10を参照してください。

また、「デフォルトのファイアウォールレベル設定」が「低」、または「無効」の設定で、OSをインストールした後にファイアウォールの設定を行う場合は、上記表に記載のポートを開放してください。

■ X ウィンドウ情報設定

インストールする管理対象マシンでのXウィンドウ環境の情報設定をします。

Red Hat Enterprise Linux 6では、この画面での設定はできません。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(E) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定
ブート情報設定
ディスク情報設定
ネットワーク情報設定
認証情報設定
ファイアウォール情報設定
Xウィンドウ情報設定
パッケージ情報設定
インストール後スクリプト設定

Xウィンドウシステム情報設定画面 [オンラインモード]

☐ Xウィンドウシステムを設定します

色の深さ: 8
解像度: 840x480

デフォルトのデスクトップ:
☐ GNOME
☒ KDE

☒ システム起動時にXウィンドウを起動します

ビデオカード設定:
☒ ビデオカードを調査します

2 the Max MAXColor S3 Trio64V+
2-the-Max MAXColor 6000
3DLabs Oxygen GMX
3DLabs Permedia2 (generic)
3DVision-i740 AGP
928Movie
ABIT G740 8MB SDRAM

ビデオカードRAM: 256KB

モニター設定:
☒ モニターを調査します

Amazing CM-8426
Amazing MS-8431
Acer 11D
Acer 1455
Acer 1555
Acer 15P
Acer 211c
Acer 33

☐ 水平周波数と垂直周波数を直接指定する
水平周波数: Hz 垂直同期: kHz

保 存
終 了

Xウィンドウ情報設定	
Xウィンドウシステムを設定します	Xウィンドウシステムを設定します。 チェックボックスにチェックを入れた場合、導入パッケージに「X Window System」を強制選択します。 また、Xウィンドウ環境の詳細設定ができます。
色の深さ (設定必須)	色の深さを設定します。一覧から選択してください。 既定値は、「8」です。 Red Hat Enterprise Linux 5/5APの場合は、選択した内容に関わらず自動的に設定されます。
解像度 (設定必須)	解像度を設定します。リストボックスから選択してください。 既定値は、「640x480」です。
デフォルトのデスクトップ (設定必須)	デスクトップ環境を設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。既定値は、「KDE」です。 ・GNOME ・KDE Red Hat Enterprise Linux 5.1～5.4、5.1 AP～5.4APの場合は、選択した内容に関わらず、自動的に設定されます。 システム起動時にXウィンドウを起動する場合には、「システム起動時にXウィンドウを起動します」のチェックボックスにチェックを入れてください。
ビデオカード設定	ビデオカードを設定します。 自動設定する場合は、「ビデオカードを調査します」チェックボックスにチェックを入れてください。 手動設定する場合は、一覧から選択してください。
モニター設定	モニターを調査します。 自動設定する場合は、「モニターを調査します」のチェックボックスにチェックを入れてください。 手動設定する場合は、一覧から選択してください。

■ パッケージ情報設定

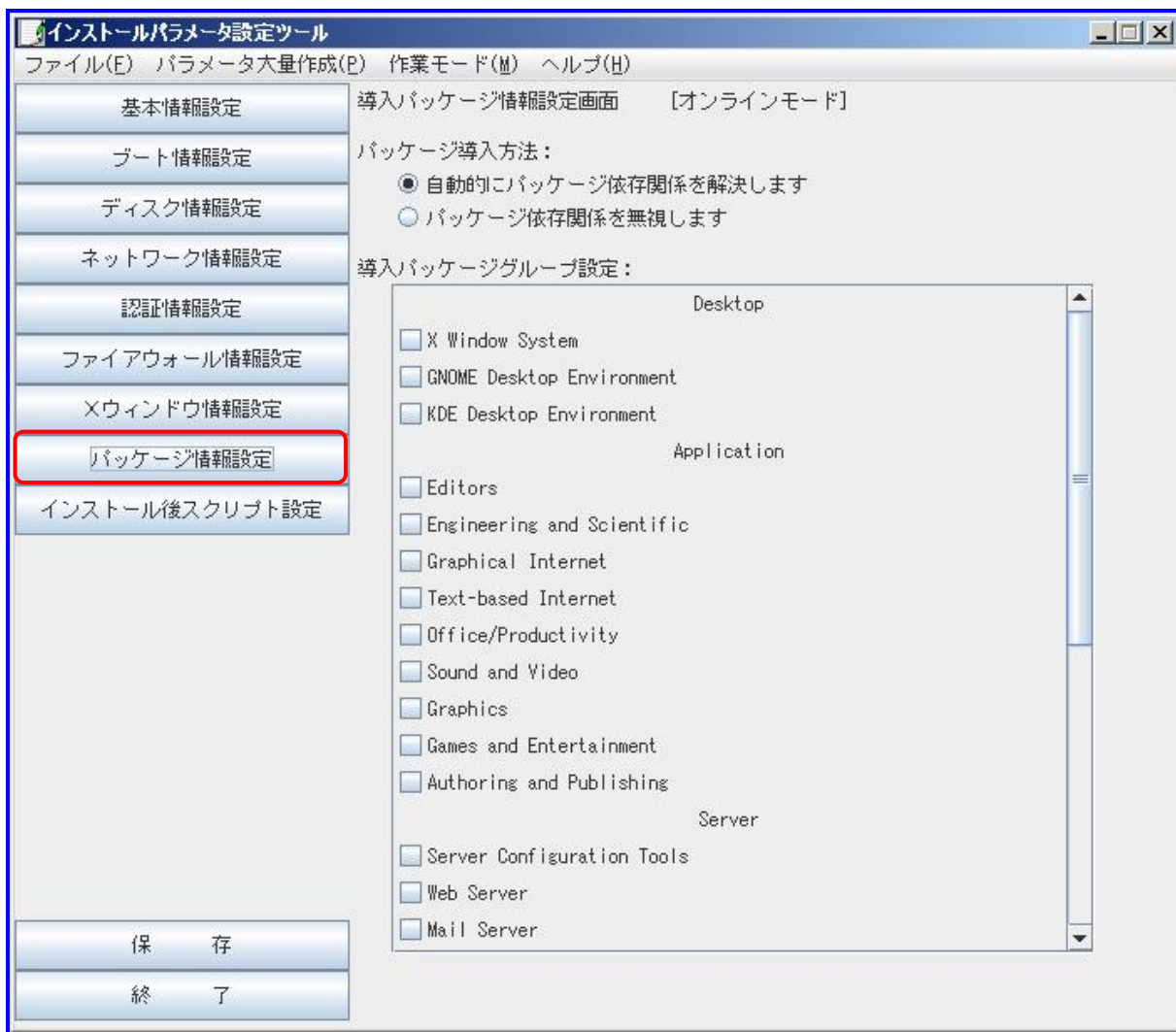
インストールする管理対象マシンに導入するソフトパッケージの情報設定をします。

Red Hat Enterprise Linux 6では、この画面での設定はできません。

ヒント

Red Hat Enterprise Linux 6では以下のパッケージを固定でインストールします。

- ・Server Platform
- ・Development Tools
- ・Server Platform Development
- ・Compatibility libraries
- ・Network file system client
- ・japanese-support



パッケージ情報設定	
パッケージ導入方法	導入するソフトパッケージの導入方法を設定します。 以下のいずれかのラジオボタンを選択してください。 ・自動的にパッケージ依存関係を解決します ・パッケージ依存関係を無視します
導入パッケージグループ設定	インストール作業で導入するソフトパッケージグループを設定します。一覧から選択してください。複数選択できます。 一覧は、基本情報設定パネルの「インストールOS」により内容が変わります。

重要

管理対象マシンがx64 Editionの場合は、/lib/libgcc_s.so.1が必要となります。
/lib/libgcc_s.so.1がない場合は、マルチキャストによるリモートアップデートを行うことはできません。以下のいずれかの方法で/lib/libgcc_s.so.1をインストールしてください。

- 1)OSクリアインストール時にパッケージの「Compatibility Arch Support」を選択してください。
- 2)OSクリアインストール後にユニキャストによるリモートアップデートでlibgcc-3.4.5-2.i386.rpmをインストールしてください。

■ インストール後スクリプト設定

管理対象マシンでインストール終了後に実行したいシェルスクリプトを設定します。

インストールパラメータ設定ツール

ファイル(F) パラメータ大量作成(P) 作業モード(M) ヘルプ(H)

基本情報設定 インストール後のスクリプト設定画面 [オンラインモード]

ブート情報設定 ☐ chroot環境の外で実行します

ディスク情報設定 ☐ インタプリタを使用します

ネットワーク情報設定 %post スクリプトを入力して下さい

認証情報設定

ファイアウォール情報設定

Xウィンドウ情報設定

パッケージ情報設定

インストール後スクリプト設定

保存

終了

読み込み

クリア

インストール後スクリプト設定	
chroot環境の外で実行します	chroot環境の外で実行します。 通常、スクリプトはchroot環境下で実行されます。chroot環境の外で実行したい場合、「chroot環境の外で実行します」のチェックボックスにチェックを入れてください。
インタプリタを使用します	使用するインタプリタのファイル名を設定します。 既定値のシェルインタプリタ以外のインタプリタを使用する場合、使用するインタプリタのファイル名を入力してください。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。以下の記号/空白/全角文字は使用できません。 ¥:;,*?"<>' []@ 例)/usr/bin/python
%postスクリプトを入力してください (テキストボックス)	インストール作業終了後に実行したいLinuxシェルスクリプトを設定します。入力できるスクリプトは、1行の文字数が320Byte(半角320文字)、最大600行まで入力できます。 読み込みを行うスクリプトに320文字を超える行が含まれている場合エラーとなり、postスクリプトの読み込みは行われません。 320文字を超える行については、あらかじめ "¥" を改行する位置に挿入して改行し、1行の文字数が320文字以下になるように修正してください。 例) 以下に修正の例を示します。("XXXX・・・ZZZZ" は、スクリプト内の行です。) 修正前----- : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ : ----- 修正後----- : XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX ¥ ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ : -----
読み込み	ファイルをスクリプト情報として読み込みます。 現在の作業フォルダを初期フォルダとして、ファイル選択画面が表示されますので、ファイルを開いてください。 ファイルを読み込むとDPMクライアントの導入、セットアップ用のスクリプトが自動的に追加設定されます。 ファイルを読み込む際に、入力済みの内容とファイルの内容を合わせて行数が600行を超える場合と、1行の行数が320文字を超える場合は、ファイルの読み込みができません。
クリア	現在入力されているスクリプト情報をすべて削除します。

(3) Linux インストールパラメータを保存します。

インストールパラメータ設定ツール	
保存	ここまで設定したインストールパラメータの内容を「Linuxインストールパラメータファイル」として保存して、終了します。
終了	ここまでで作成したインストールパラメータの内容を、保存せずに終了します。

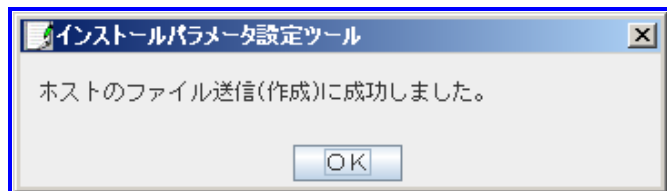
◆ 作業モードがオンラインの場合

作業用の一時フォルダから管理フォルダにファイルを送信します。

デフォルトのフォルダは以下のとおりです。

<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥linux(Linuxブートパラメータファイル)

<イメージ格納用フォルダ>¥exports¥ks (Linuxセットアップパラメータファイル)



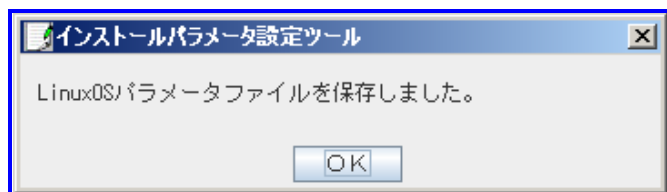
◆ 作業モードがオフラインの場合

作業フォルダで指定したフォルダが表示されますので「ファイル名」を指定して保存します。

デフォルトのフォルダは以下のとおりです。

C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥linux¥offline

正常に保存処理されると以下の画面が表示されます。

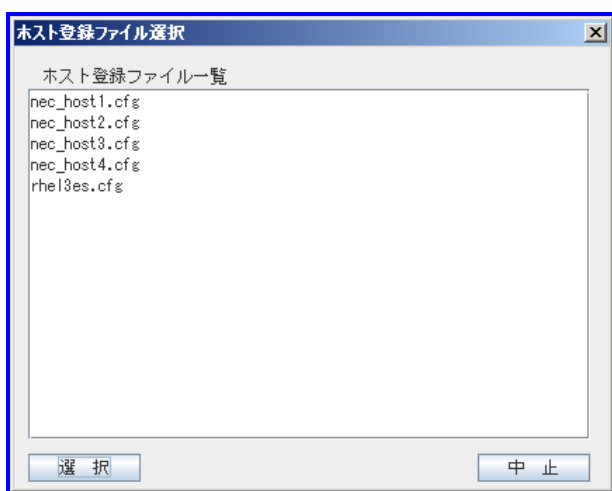


その他の操作および表示について

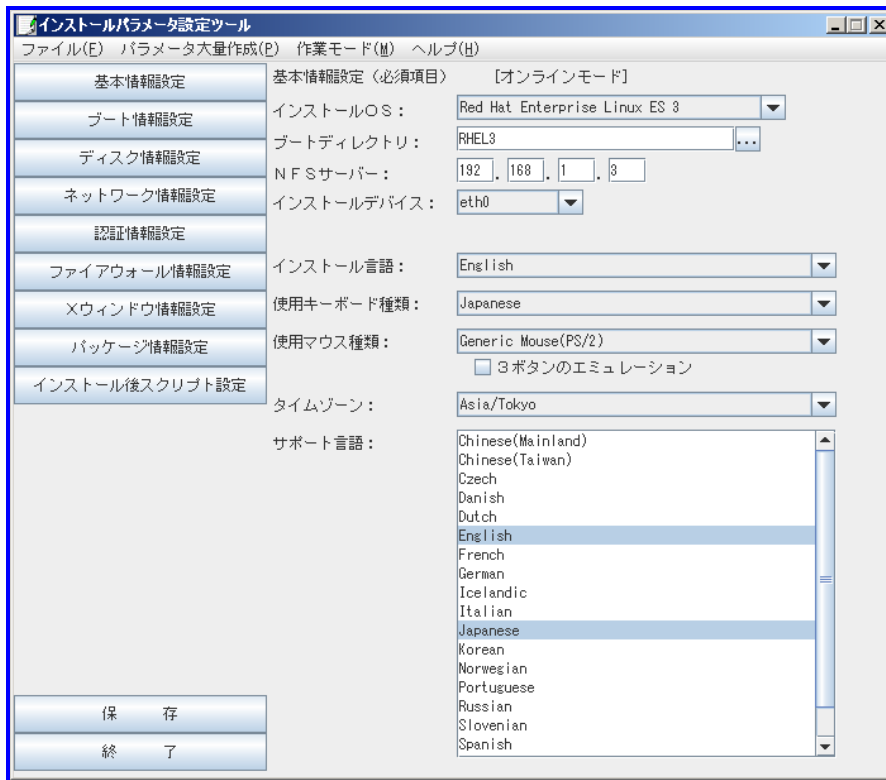
- 既存の Linux インストールパラメータファイルを読み込む
「ファイル」メニューの「開く」を選択します。

◆ 作業モードがオンラインの場合

- (1) 管理サーバ上の「イメージ格納用フォルダ¥exports¥ks」フォルダ配下に存在する、Linux セットアップパラメータファイルの一覧が表示されます。



- (2) 対象の Linux セットアップパラメータファイルをダブルクリック、または Linux セットアップパラメータファイルを選択し、「選択」ボタンをクリックすると、Linux セットアップパラメータファイルが読み込まれて画面に表示されます。

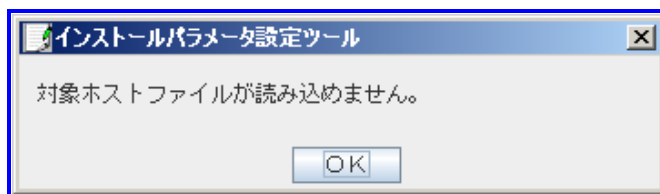


注意

本バージョンで対応していないLinux OSのインストールパラメータファイルは、使用しないでください。対応OSの詳細については、「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」を参照してください。

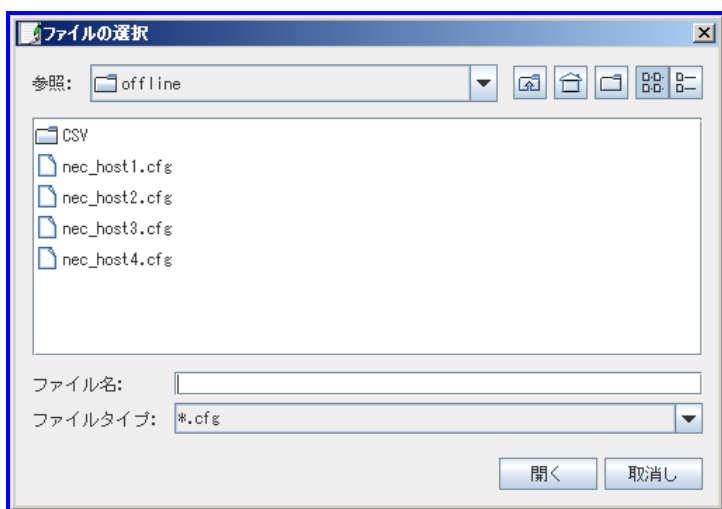
ヒント

Linuxインストールパラメータファイルの読み込み時に、何等かのエラーがある場合は、次のメッセージが表示されます。Linuxセットアップパラメータファイル、およびLinuxブートパラメータファイルの内容を確認してください。

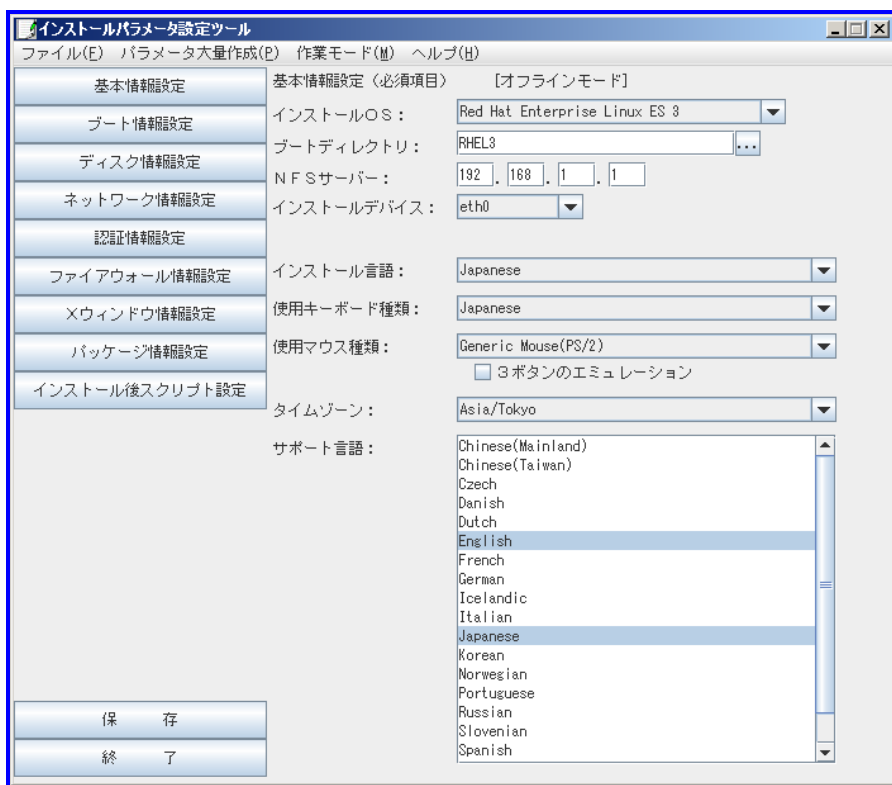


◆ 作業モードがオフラインの場合

- (1) 現在の作業フォルダ配下に存在する Linux セットアップパラメータファイルの一覧が表示されます。



- (2) 対象の Linux セットアップパラメータファイルをダブルクリックまたは Linux セットアップパラメータファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックすると、Linux セットアップパラメータファイルが読み込まれて画面に表示されます。

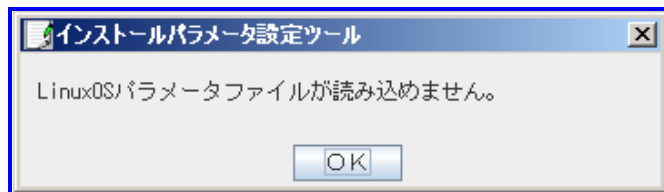


注意

本バージョンで対応していないLinux OSのインストールパラメータファイルは、使用しないでください。対応OSの詳細については、「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」を参照してください。

ヒント

Linuxインストールパラメータファイルの読み込み時に、何等かのエラーがある場合は、次のメッセージが表示されます。Linuxセットアップパラメータファイル、およびLinuxブートパラメータファイルの内容を確認してください。

**■ Linux インストールパラメータファイルの上書き保存**

現在表示されているLinuxインストールパラメータの内容を元のファイルへ上書き保存します。

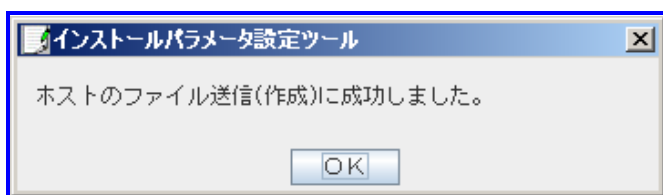
「ファイル」メニューの「上書き保存」を選択します。

◆ 作業モードがオンラインの場合

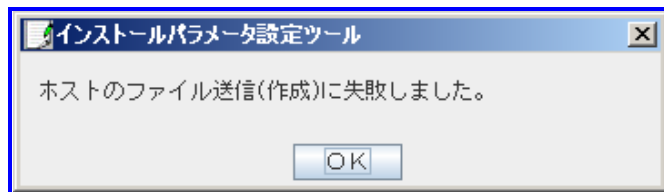
設定されているLinuxインストールパラメータの内容を、以下のファイルに上書き保存します。

- ・Linuxブートパラメータファイル: 管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥Linux
- ・Linuxセットアップパラメータファイル: 管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥exports¥ks

管理サーバへのファイル保存が正常に行われた場合は、次のメッセージが表示されます。

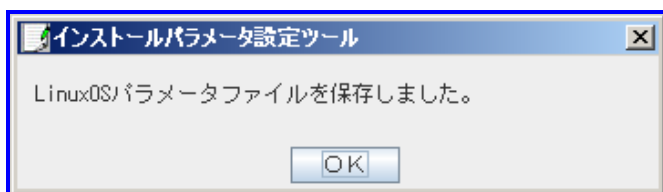
**ヒント**

管理サーバへのファイル保存に何等かの異常があった場合は、次のメッセージが表示されますので、管理サーバまたはネットワークの問題解決後、再保存してください。

**◆ 作業モードがオフラインの場合**

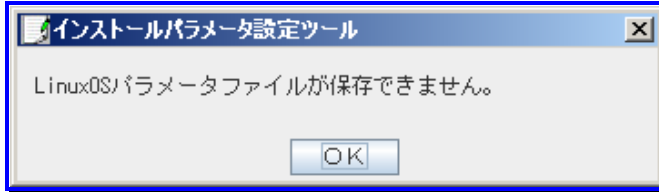
設定されている Linux インストールパラメータの内容を、現在設定されている作業フォルダ配下に、上書き保存します。

作業フォルダ配下にファイル保存が正常に行われた場合は、次のメッセージが表示されます。



ヒント

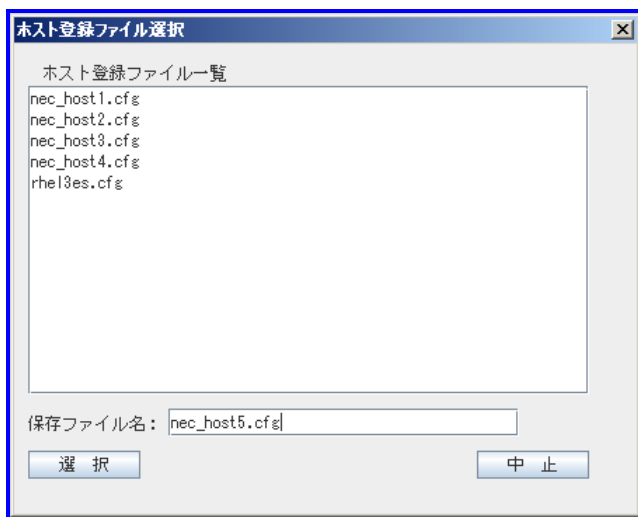
作業フォルダ配下へのファイル保存に何等かの異常があった場合は、次のメッセージが表示されますので、保存先作業フォルダの問題解決後、再保存してください。



- Linux インストールパラメータファイルの名前を付けて保存
現在設定されているLinuxインストールパラメータの内容を、ファイル名を指定して新規保存します。
「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を選択します。

◆ 作業モードがオンラインの場合

管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥exports¥ks配下に存在するファイルの一覧が「ホスト登録ファイル選択」画面で表示されます。「保存ファイル名」を入力して「選択」ボタンをクリックします。



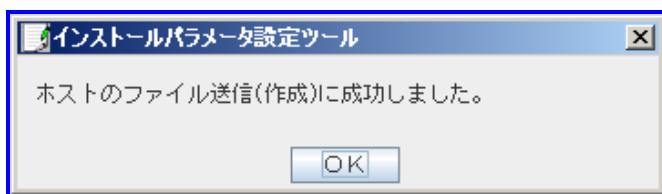
・Linuxブートパラメータファイル:

管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥Linux配下に拡張子無しの入力ファイル名で保存

・Linuxセットアップパラメータファイル:

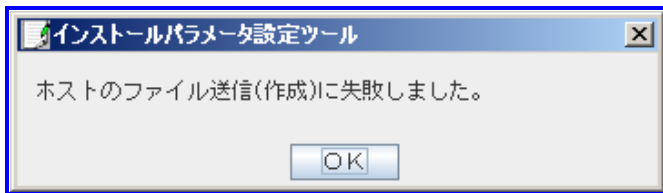
管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥exports¥ks配下に拡張子「.cfg」付の入力ファイル名で保存

管理サーバへのファイル保存が正常に行われた場合は、次のメッセージが表示されます。



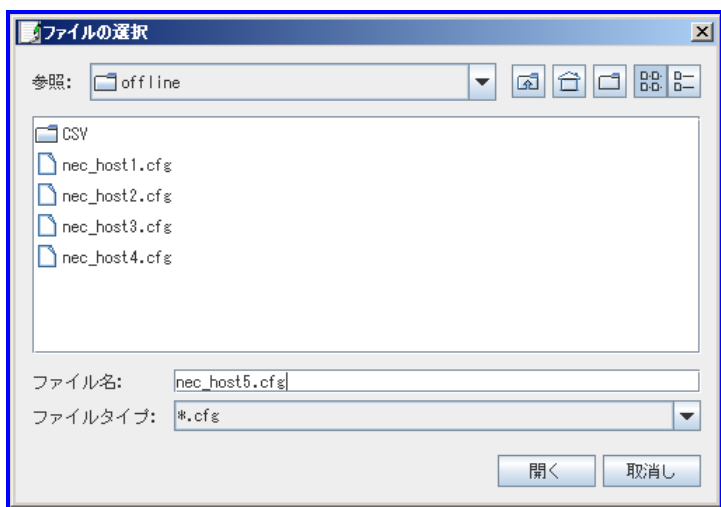
ヒント

管理サーバへのファイル保存に何等かの異常があった場合は、次のメッセージが表示されますので、管理サーバまたはネットワークの問題解決後、再保存してください。



◆ **作業モードがオフラインの場合**

現在設定されている作業フォルダ配下に存在するファイルの一覧が「ファイル選択」画面で表示されます。「ファイル名」を入力して「保存」ボタンをクリックします。



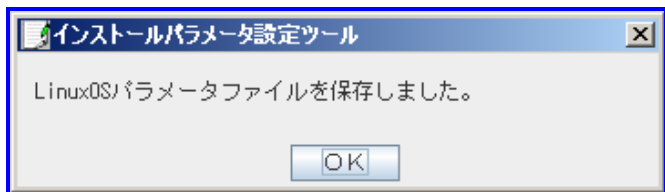
・Linuxブートパラメータファイル:

選択したフォルダ配下に、拡張子無しの入力ファイル名で保存します。

・Linuxセットアップパラメータファイル:

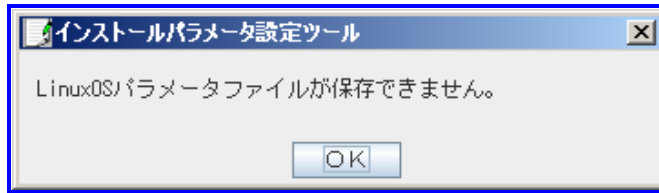
選択したフォルダ配下に、拡張子「.cfg」付の入力ファイル名で保存します。

ファイル保存が正常に行われると、以下のメッセージが表示されます。

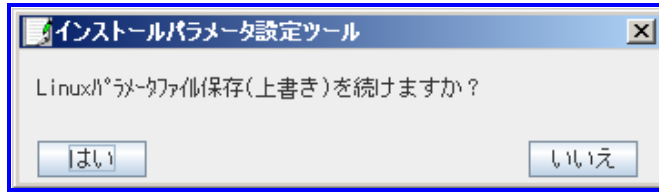


ヒント

- 作業フォルダ配下へのファイル保存に何等かの異常があった場合は、次のメッセージが表示されますので、保存先作業フォルダの問題解決後、再保存してください。



- 保存先フォルダ配下に、同じファイル名のファイルが存在する場合、以下の画面が表示されます。上書き保存する場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。上書きしない場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

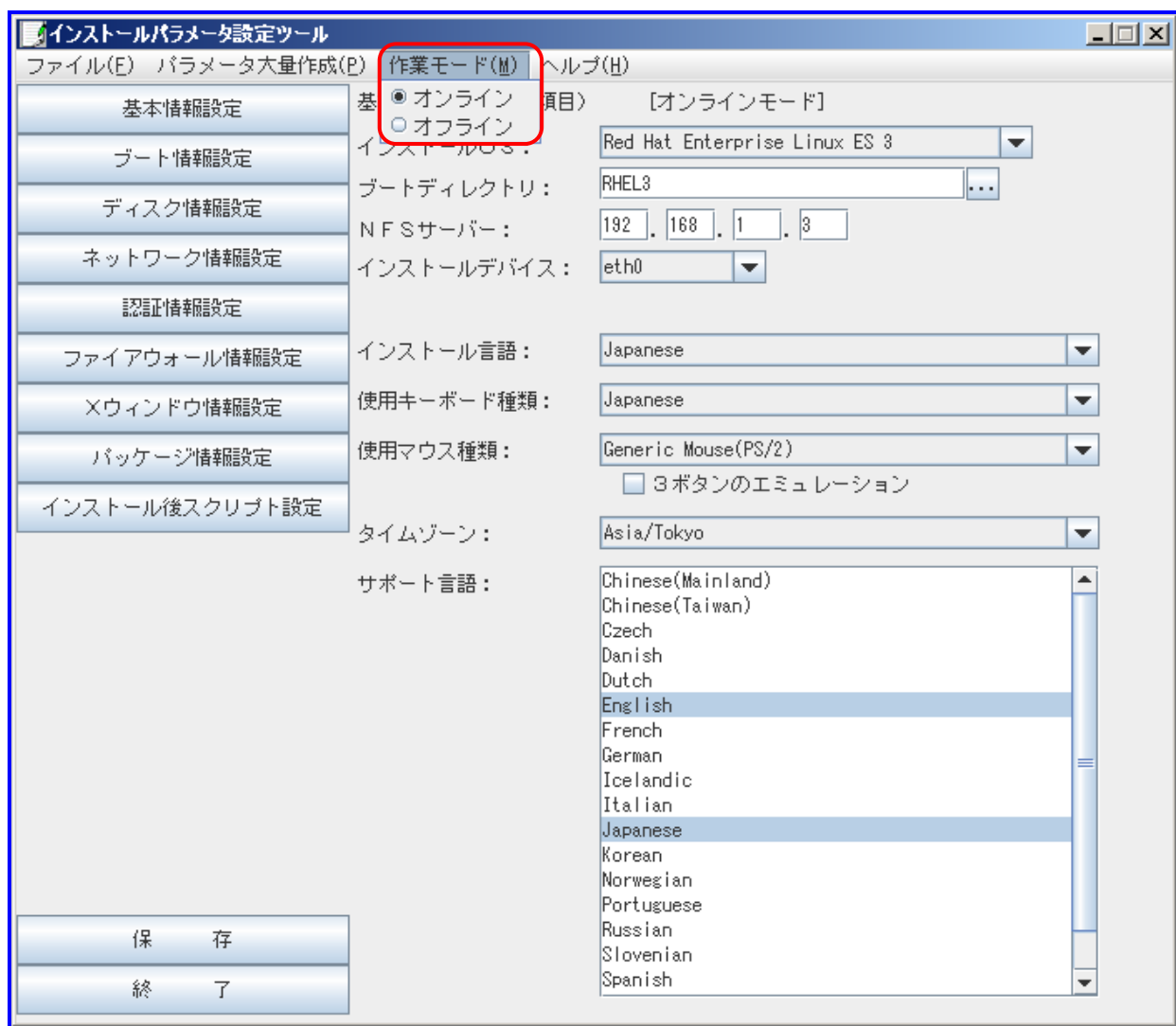


■ 作業モードの変更

現在の作業モードを変更できます。

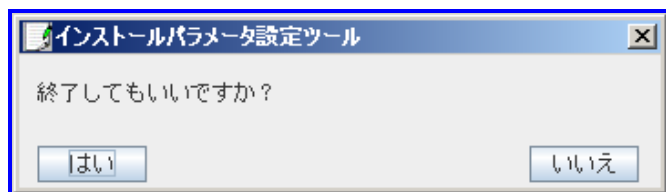
- (1) 管理サーバ、またはイメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (2) 「セットアップパラメータの作成」をクリックします。
- (3) 「作成パラメータ選択」画面が表示されますので、「Linuxパラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

- (4) 「インストールパラメータ設定ツール」画面が表示されますので、「作業モード」メニュー→「オンライン」または「オフライン」のラジオボタンを選択して、作業モードを切り替えてください。



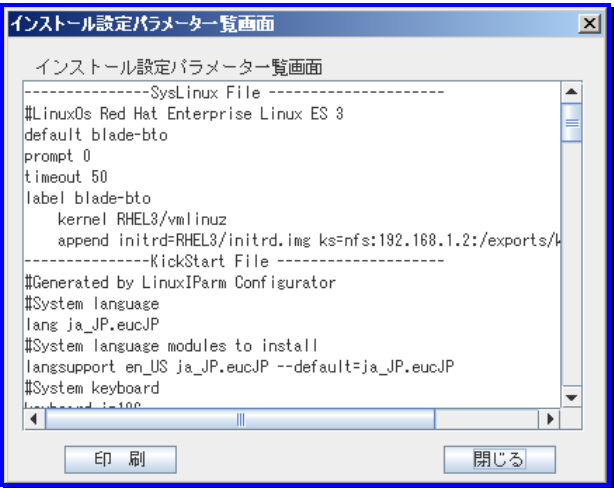
■ インストールパラメータ設定ツールの終了

- (1) 「ファイル」メニューの「終了」ボタンをクリックします。
- (2) 「インストールパラメータ設定ツール」終了確認画面が表示されますので、終了する場合は「はい」を、終了しない場合は「いいえ」ボタンをクリックしてください。
終了の場合は、すべての画面が閉じLinuxインストールパラメータ設定ツールを終了します。
また、メイン画面左下の「終了」ボタンでもインストールパラメータ設定ツールを終了します。



■ 設定情報表示

- (1) 「ファイル」メニューの「設定情報表示」をクリックします。
- (2) 現在設定されているインストールパラメータの内容を、Linux インストールパラメータファイルの出力形態で、一覧表示します。現在設定されている Linux インストールパラメータの内容が表示されます。



インストール設定パラメーター一覧画面	
印刷	「インストール設定パラメーター一覧画面」を印刷します。
閉じる	現在表示されている設定情報表示画面を終了します。

ヒント

現在設定されているLinuxインストールパラメータの内容に不具合またはエラーが存在する場合は、事前に「インストールパラメータエラー一覧」画面が表示されます。エラー一覧に表示されている内容を修正してください。

インストールパラメータエラー一覧画面

インストールパラメータエラー一覧
ホスト名が入力されていません。
ブートディレクトリが入力されていません。
パーティション情報がありません。

OK

- Linux インストールパラメータファイル作成のツールの情報
LinuxOSインストールパラメータ設定の情報については、以下の手順で確認できます。

- (1) 「インストールパラメータ設定ツール」画面の「ヘルプ」メニュー→「情報」をクリックすると、「Linux インストールパラメータ設定ツールの情報」画面が表示されます。

(2) 情報を確認してください。



5.4.6. OS クリアインストール用パラメータファイル大量作成(Linux)

Linuxインストールパラメータファイルを大量に作成する方法を説明します。

- (1) 大量の Linux インストールパラメータファイルを作成する元となる、雛型 Linux インストールパラメータファイルを用意します。

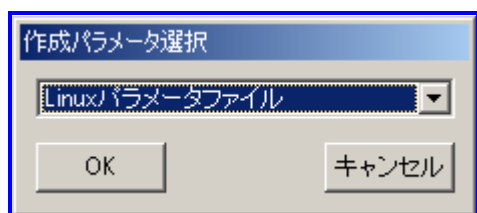
注意

本バージョンで対応していないLinux OSのインストールパラメータファイルは、使用しないでください。対応OSの詳細については、「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」を参照してください。

ヒント

Linuxインストールパラメータファイルの作成方法は、「5.4.5 OSクリアインストール用パラメータファイル作成(Linux)」を参照してください。

- (2) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
- (3) 「イメージビルダ」が起動しますので、「セットアップパラメータファイルの作成」をクリックします。
- (4) 「作成パラメータ選択」画面が表示されますので、「Linux パラメータファイル」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



初回起動時または環境設定情報ファイル「LinuxIParm.cfg」が導入ディレクトリ配下に存在しない場合は、「Linux インストール環境設定画面」が表示されますので、使用している環境にあわせて設定します。

Linuxインストール環境設定画面

導入ディレクトリ:

C:\Program Files (x86)\NEC\DeploymentManager

ワークディレクトリ:

C:\Program Files (x86)\NEC\DeploymentManager\linux\offline

作業モード選択:

☒ オンラインモード

☐ オフラインモード

管理サーバー:

「ks」サーバーディレクトリ:

exports%ks

「syslinux」サーバーディレクトリ:

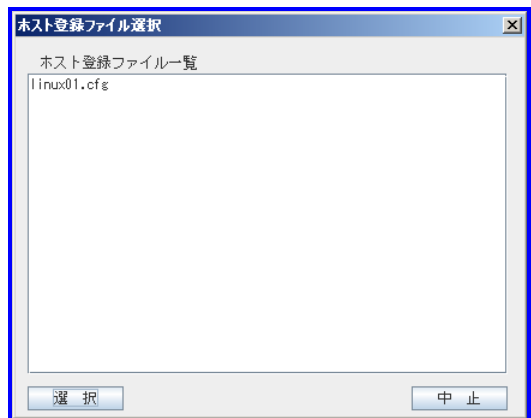
AnsFile%Linux

中止

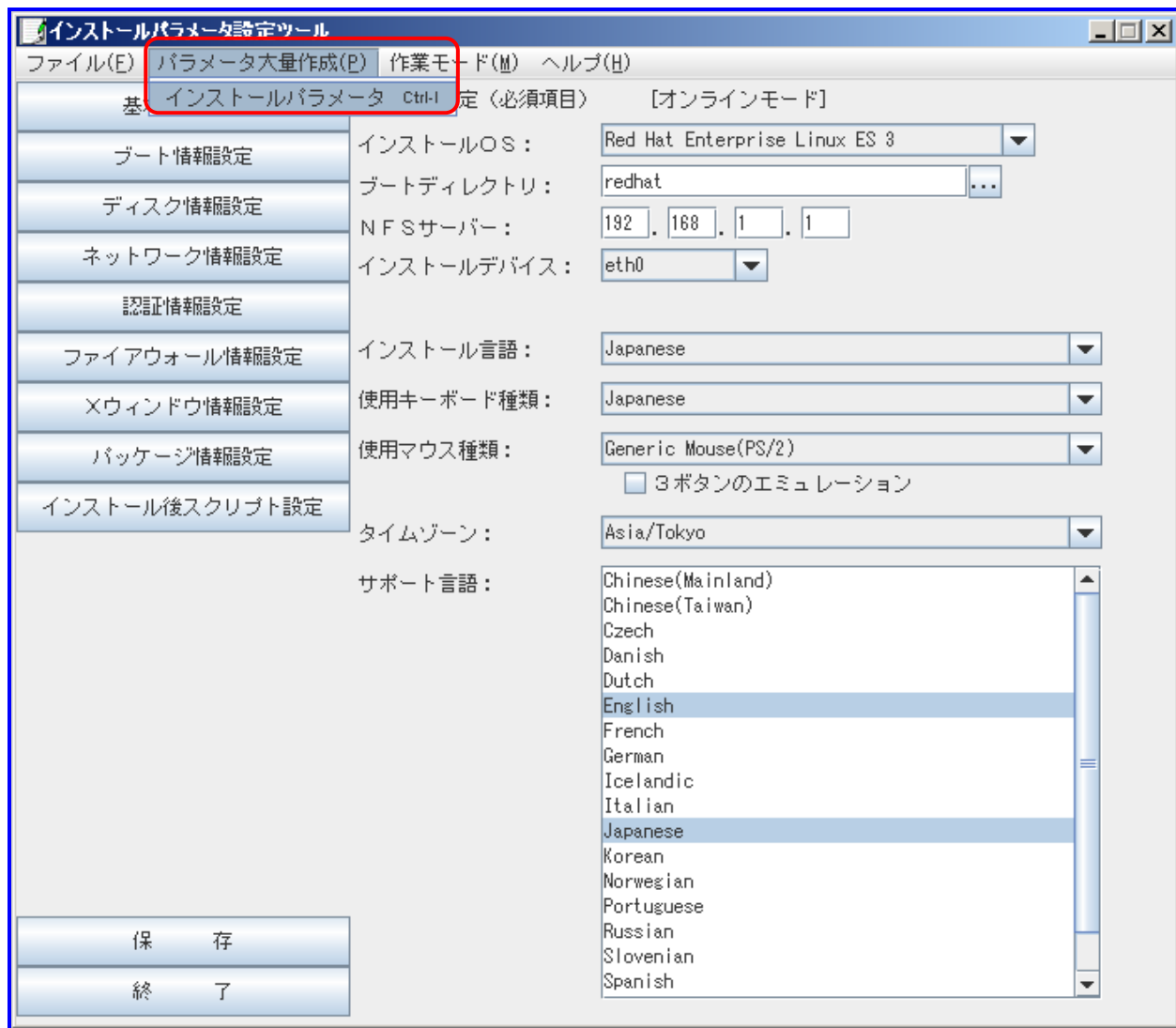
保存

導入ディレクトリ	イメージビルダをインストールしたフォルダを表示します。 デフォルトは、「C:\Program Files\NEC\DeploymentManager」です。
ワークディレクトリ	オフラインモード時の作業フォルダを任意の場所に変更できます。作業モードでオフラインモードを選択している場合のみ入力できます。 デフォルトは、「C:\Program Files\NEC\DeploymentManager\linux\offline」です。 入力できる文字は、半角英数字、および記号です。以下の記号は使用できません。 , ; * ? " ' < > [] @ .
作業モード選択	作業モードをオンラインモード、またはオフラインモードに設定できます。デフォルトは、「オンラインモード」です。
管理サーバー	管理サーバーのIPアドレスを設定します。
「ks」サーバーディレクトリ	オンラインモード時に、Linuxセットアップパラメータファイルを保存する、管理サーバー上のフォルダ名を表示します。固定情報のため、編集はできません。
「syslinux」サーバーディレクトリ	オンラインモード時に、Linuxブートパラメータファイルを保存する、管理サーバー上のフォルダ名を表示します。固定情報のため、編集はできません。
中止	変更内容を破棄して、環境設定画面を閉じます。事前に「中止」確認メッセージが表示されますので「はい」ボタン、または「いいえ」ボタンをクリックします。
保存	設定内容を、環境設定ファイル「LinuxIParm.cfg」に保存し、環境設定画面を閉じます。 事前に「保存」確認メッセージが表示されますので「はい」ボタン、または「いいえ」ボタンをクリックします。

- (5) 「インストールパラメータ設定ツール」が開きますので、「ファイル」メニュー→「開く」→「ホスト登録ファイル」画面で「セットアップパラメータファイル」を選択し、「選択」ボタンをクリックします。



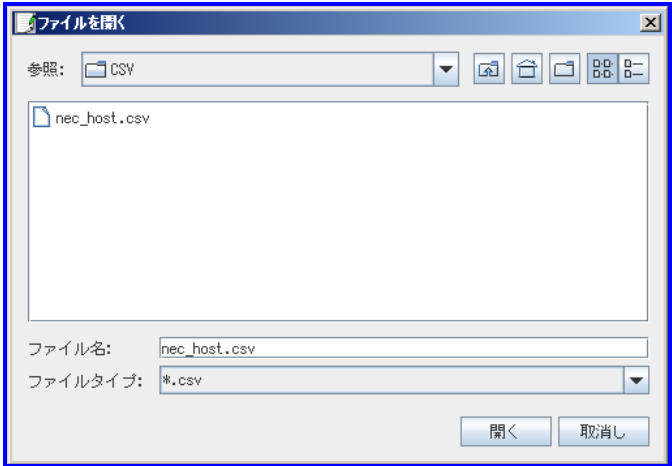
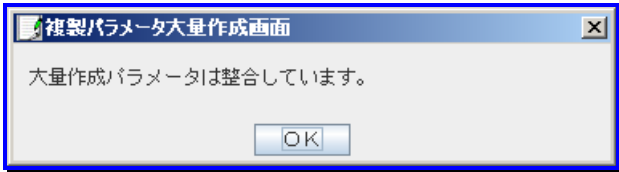
- (6) 「セットアップパラメータファイル」が読み込まれますので、「パラメータ大量作成」メニュー→「インストールパラメータ」をクリックします。

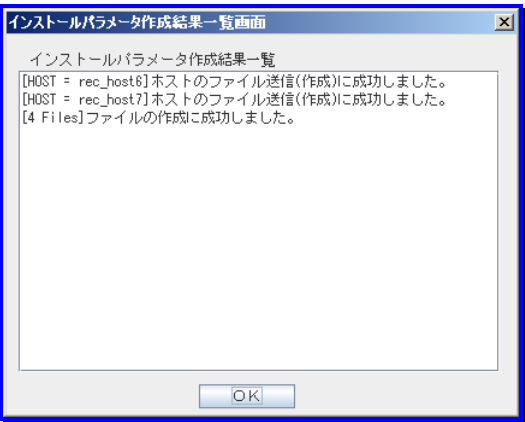


- (7) 現在設定されている Linux インストールパラメータファイルの内容をチェックし、「インストールパラメータ大量作成画面」画面が表示されますので、インストールする Linux ターゲットマシンでのイーサネットデバイス「eth0」のネットワーク情報を入力します。

インストールパラメータ大量作成画面

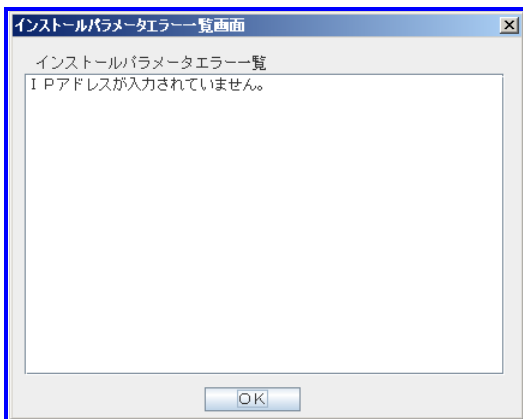
モデルホスト名	現在読み込まれている、雛型に使用したLinuxインストールパラメータファイル名が表示設定されます。
ホスト名 (設定必須)	イーサネットデバイス「eth0」のホスト名を設定します。入力できる文字数は、255Byte(半角文字255文字)です。
DHCP(0:ON)	イーサネットデバイス「eth0」のTCP/IPネットワークタイプを以下から選択し、設定します。 ・DHCP: DHCPサーバによる動的IPアドレスを設定する場合、「0」を入力します。(設定必須) ・固定IP: 手動でのIPアドレス設定の場合は、何も入力しません。
IPアドレス	イーサネットデバイス「eth0」のIPアドレスを設定します。 ネットワークタイプが「固定IP」の場合、設定必須です。
マスク値	イーサネットデバイス「eth0」のIPアドレスに対するネットマスク値を設定します。ネットワークタイプが「固定IP」の場合に、必須入力項目になります。
ゲートウェイ	イーサネットデバイス「eth0」のIPアドレスに対する、ゲートウェイマシンのIPアドレスを設定します。ネットワークタイプが「DHCP」、「固定IP」どちらの場合でも、設定必須ではありません。
DNSアドレス	イーサネットデバイスのIPアドレスに対する、プライマリDNSのIPアドレスを設定します。ネットワークタイプが「DHCP」、「固定IP」どちらの場合でも、設定必須ではありません。

クリア	現在画面に入力している内容をすべて画面から削除します。
読み込む	CSVファイル形式で保存されているインストールパラメータ情報を読み込み、インストールパラメータ大量作成入力域へ展開します。 現在設定されている作業フォルダ配下の「CSV」フォルダを初期フォルダとして、ファイル選択ダイアログ画面が表示されます。読み込むファイル名を選択入力して、「開く」ボタンをクリックしてください。 
チェック	事前に、現在入力されている大量作成インストールパラメータ情報の整合性をチェックします。 不具合またはエラーが無い場合は、以下のメッセージダイアログ画面が表示されます。 
保存	大量作成インストールパラメータ情報のファイルをCSVファイル形式で保存します。 保存場所は、現在設定されている作業フォルダ配下の「CSV」フォルダです。 デフォルトは、<インストールフォルダ>¥linux¥offline¥CSVです。 「保存」ボタンをクリックすると、「ファイル名を付けて保存」ダイアログ画面が表示されますので、ファイル名を入力して保存してください。

大量作成	現在入力されている大量作成インストールパラメータ情報に従って、Linuxインストールパラメータファイルを一括作成します。 一括作成が正常に終了した場合は、「インストールパラメータ作成結果一覧画面」が表示されます。  ・作業モードがオンラインの場合 Linuxブートパラメータファイルは、管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥AnsFile¥Linuxフォルダ配下に、拡張子無しの入力ホスト名で保存されます。 - Linuxセットアップパラメータファイルは、管理サーバ上の<イメージ格納用フォルダ>¥exports¥ksフォルダ配下に、拡張子「.cfg」付の入力ホスト名で保存されます。 ・作業モードがオフラインの場合 現在設定されている作業フォルダ配下に、Linuxブートパラメータファイルは、拡張子無しの入力ホスト名で保存されます。 - Linuxセットアップパラメータファイルは、拡張子「.cfg」付の入力ホスト名で保存されます。
終了	現在表示されているパラメータ大量作成ダイアログ画面を閉じて、インストールパラメータ大量作成を終します。

ヒント

- Linux インストールパラメータファイルを読み込む際、内容に問題がある場合は「インストールパラメータエラー一覧画面」が表示されます。エラー内容を確認し、修正してください。



- 1 度に作成できるインストールパラメータ情報は、最大 100 台分までです。

5.5. パッケージの登録/修正

パッケージの登録/修正をします。以下の手順で行います。

重要

- パッケージの作成/修正の際に以下の設定を含める場合は、PackageDescriber を使用してください。各設定項目の説明は、「6 PackageDescriber」を参照してください。
 - ・「基本」タブのMS番号に「-」半角ハイフン、「.」半角ピリオド、「_」アンダーバーを指定する場合
 - ・「実行設定」タブの「実行ファイル」に拡張子「msp」、「msu」を含むファイルを指定する場合
 - ・「依存情報」タブの「ファイル条件」のファイルパスにレジストリに記載されたパスを指定する場合
 - ・「依存情報」タブの「ファイル条件」や「レジストリ条件」に、以下を指定する場合
 - 存在する(バージョンより小さい)
 - 存在する(バージョン以下)
 - 存在する(バージョンより大きい)
 - 存在する(バージョン以上)
 - ・「依存情報」タブの「条件指定」で「and」、または「or」を使用した複数条件を指定する場合
 - ・「識別情報」タブのファイルパスにレジストリに記載されたパスを指定する場合

注意

- Express5800 シリーズ向けの RUR(リビジョンアップリリース)モジュールをパッケージ登録する場合は、RUR のインストール手順書を必ず確認してからパッケージの登録を行ってください。
- JIS2004 には対応していません。

- (1) イメージビルダを使用できるマシンで、「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
- (2) 「パッケージの登録/修正」をクリックします。
- (3) 「パッケージの登録/修正」画面が表示されますので、「ファイル」メニューから、以下のそれぞれのメニューをクリックしてパッケージ作成/修正します。

Windowsパッケージを作成する場合 →Windowsパッケージ作成

詳細については、「5.5.1 Windowsパッケージ作成」を参照してください。

Windowsパッケージを修正する場合 →Windowsパッケージ修正

詳細については、「5.5.2 Windowsパッケージ修正」を参照してください。

Linuxパッケージを作成する場合 →Linuxパッケージ作成

詳細については、「5.5.3 Linuxパッケージ作成」を参照してください。

Linuxパッケージを修正する場合 →Linuxパッケージ修正

詳細については、「5.5.4 Linuxパッケージ修正」を参照してください。

5.5.1. Windows パッケージ作成

「基本」、「実行設定」、「対応OSと言語」、「依存情報」、「識別情報」タブの設定について、説明します。

注意

- 「基本」タブ-「タイプ」を変更した場合、「緊急度」がデフォルトに変わります。また、「実行設定」タブの設定もデフォルトに変わります。
 - ・タイプをサービスパックに変更した場合
緊急度は「一般」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」のチェックボックスにチェックが自動的に入ります。
コピーするフォルダに複数のフォルダが追加されている場合、フォルダの設定はパッケージからすべて削除されます。
 - ・タイプをHotFixに変更した場合
緊急度は「高」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」チェックボックスのチェックが自動的に外されます。
コピーするフォルダに複数のフォルダが追加されている場合、フォルダの設定はパッケージからすべて削除されます。
 - ・タイプをアプリケーションに変更した場合
緊急度は「一般」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」チェックボックスのチェックが自動的に外されます。
- DPM Ver3.8 以前に「Windows パッケージ作成」画面の「実行設定」タブ-「実行ファイル」で bat ファイルを指定したパッケージを作成した場合は、本バージョンで再作成してください。
- サービスパック適用前後で、ファイアウォール機能が無効から有効に切り替わるサービスパック (Windows XP SP2 など) のパッケージを登録する場合は、サービスパック適用時にほぼすべてのポートがブロックされ、管理対象マシンと通信できない状態となるため、シナリオ実行エラーとなってしまいます。その場合は、エラー解除した後にポート開放ツールにて、DPM で使用するポートを開放してください。
ポート開放ツールについては、「7.1 ポート開放ツール」を参照してください。
- SP2 以降のサービスパックのパッケージを登録する場合は、サービスパックの仕様によりサービスパック適用なしの環境へ直接適用できないものがあります。
サービスパックの仕様については、Microsoft 社のサイトなどで確認してください。

例)

Windows Server 2008 SP2 の場合、SP2 は、適用する前提条件として SP1 が適用済みである必要があります。(SP なしの環境へ直接 SP2 は適用できません。)

- ・パッケージ作成時は、「依存情報」タブの「レジストリ条件」に以下を指定してください。
キー名: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT
¥CurrentVersion
名前: CSDVersion
条件: 存在する
- ・自動更新機能でパッケージを配信する場合、管理サーバに複数のサービスパックのパッケージが登録されていると最新のサービスパックのパッケージを配信します。
前述の説明のように、SP 適用なしの管理対象マシンに対しては、サービスパックの仕様により、適用されません。
SP 適用なしの管理対象マシンへ SP2 を適用したい場合は、以下のいずれかの方法で配信してください。
 - SP2 のパッケージを未登録の場合
前提条件となるサービスパック(SP1)を自動更新機能で配信してください。その後に SP2 を登録してください。
 - SP2 のパッケージを登録済みの場合
前提条件となるサービスパック(SP1)をシナリオで配信してください。その後に該当のサービスパックが自動更新機能で配信されます。

(1) 「Windows パッケージ作成」画面の各タブで各項目を設定します。

■「基本」タブ

「Windows パッケージ作成」画面の「基本」タブをクリックし、各項目を設定します。赤枠で囲んだ箇所(タイプ)は、選択する種類により設定項目が変わります。

・タイプで「HotFix」を選択した場合

The screenshot shows the 'Windows パッケージ作成' (Windows Package Creation) window with the '基本' (Basic) tab selected. The 'タイプ' (Type) dropdown menu is set to 'HotFix' and is highlighted with a red rectangle. Below it, the 'MS 番号' (MS Number) field is empty. To the right, the '緊急度' (Urgency) dropdown is set to '高' (High). The '説明' (Description) field contains the text: '説明: MS Q番号もしくはKB番号を入力してください。例: "Q327269" "KB823980"'. The 'パッケージ ID' (Package ID) field is set to 'Local-'. The '会社名' (Company Name) and 'リリース日付' (Release Date) fields are empty. The 'パッケージ概要' (Package Summary) field is empty. The '実行設定' (Execution Settings), '対応OSと言語' (Supported OS and Language), '依存情報' (Dependency Information), and '識別情報' (Identification Information) tabs are also visible.

基本

パッケージID (入力必須)	パッケージにつけるID番号を入力します。63Byte以内で入力します。入力できる文字は、半角英数と以下の記号です。 - _
会社名	パッケージを発行する発行元の名称を入力します。127Byte以内で入力します。
リリース日	パッケージをリリースした日付を入力します。西暦/月/日の書式で入力します。年は4桁、月と日は2桁で入力してください。 無効な値を入力すると、無視される、または自動的に補正されます。
パッケージ概要	パッケージの概要情報を入力します。511Byte以内で入力します。
タイプ	サービスパック/HotFix、またはアプリケーションをリストボックスから選択します。 デフォルトは、「HotFix」です。
緊急度	パッケージの緊急度(4種類)を設定します。 HotFixを選択した場合のデフォルトは、「高」です。 サービスパック、またはアプリケーションを選択した場合のデフォルトは、「一般」です。(※1)
MS番号	Microsoft社が発行するサービスパックやHotFixにあらかじめ付けられているMS(KB)番号を入力します。31Byte以内で入力します。 例)KB889293 Q819696 ・Microsoft社のHotFixの場合、「MS番号」欄に入力した値とレジストリに書き込まれるMS番号(KBXXXXXXやQXXXXXX)を比較し値が一致すれば、適用されていると判断します。必ず正しい値を「KB」もしくは「Q」を含めて入力してください。「MS番号」欄に入力しない場合は、「識別情報」に入力したレジストリやファイルの情報で適用状態を判断します。 ・Microsoft社のHotFixの場合、「MS番号」「識別情報」とともに情報を入力していないHotFixは、自動更新の対象となりません。緊急度「最高」、または「高」を指定する場合は、いずれかを必ず指定してください。 ・サービスパックの場合、「MS番号」「識別情報」の入力は不要です。

※1

緊急度の種類により配信手順が以下の表のように異なります。

緊急度	コンピュータの電源状態	配信手順
最高	電源ONのコンピュータ	適用可の管理対象マシンに即時配信します。
	電源OFFのコンピュータ	即座に自動更新通知を発行しますが、電源OFFの場合、自動更新は行われません。次回コンピュータの起動時に、パッケージに設定された情報に基づきこのパッケージが適用済みかどうかを判断し、未適用のパッケージのみを配信します。
高	電源ONのコンピュータ	あらかじめ管理サーバ側で指定した時刻に配信します。
	電源OFFのコンピュータ	次回コンピュータの起動時に自動更新を行います。 パッケージに設定された情報に基づきこのパッケージが適用済みかどうかを判断し、未適用のパッケージのみを配信します。
一般		管理サーバ側でシナリオを作成し、手動で配信します。
低		

- ・タイプで「サービスパック」を選択した場合

Windowsパッケージ作成

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

* パッケージ ID: Local

会社名: リリース日付: (YYYY/MM/DD)

パッケージ概要:

タイプ: サービスパック 緊急度: 一般

MS 番号:

* メジャーバージョン:

* マイナーバージョン:

説明:
MS Q番号もしくはKB番号とバージョンを入力してください。
例: Windows 2000サービスパック4の場合、
MS Q番号: Q827194
メジャーバージョン: 4
マイナーバージョン: 0

OK キャンセル

基本

メジャーバージョン/マイナーバージョン

作成するパッケージがサービスパックの場合、メジャーバージョンとマイナーバージョンの入力が必要です。入力できる値は以下です。

メジャーバージョン: 0～65535
マイナーバージョン: 0～65535

Microsoft社のサービスパックの場合、メジャーバージョン欄とマイナーバージョン欄に入力した番号と現在のOSにインストールされているサービスパックのバージョンを比較し、適用されているか判断します。必ず正しい番号を入力してください。

ヒント

- メジャーバージョンとマイナーバージョンに無効な値を入力すると、自動的に補正されます。
- サービスパックの場合、メジャーバージョンとマイナーバージョンは入力必須です。以下の表を参考にして入力してください。

例)Windows 2000/Windows XPの場合

OS種別	サービスパック	メジャーバージョン	マイナーバージョン
Windows 2000	SP1	1	0
	SP2	2	0
	SP3	3	0
	SP4	4	0
Windows XP	SP1	1	0
	SP2	2	0
	SP3	3	0

- ・タイプで「アプリケーション」を選択した場合

Windows パッケージ作成

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

* パッケージ ID:

会社名: リリース日付: (YYYY/MM/DD)

パッケージ概要:

タイプ: **アプリケーション** 緊急度: 一般

表示名:

表示バージョン:

説明:
アプリケーション名と表示バージョンを入力してください。詳しくはユーザーズガイドを参照してください。

OK キャンセル

基本

表示名	アプリケーションの表示名を入力します。 アプリケーションがインストールされた後、レジストリUninstallサブキーに保存する"DisplayName"の値と同じになります。511Byte以内で入力します。
表示バージョン	アプリケーションの表示バージョンを入力します。アプリケーションがインストールされた後、レジストリのUninstallサブキーに保存する"DisplayVersion"の値と同じになります。127Byte以内で入力します。

■「実行設定」タブ

「Windowsパッケージ作成」画面の「実行設定」タブをクリックし、各項目を設定します。

Windowsパッケージ作成

基本

実行設定

対応OSと言語

依存情報

識別情報

コピーするフォルダ

フォルダ名:

参照

追加されたフォルダ

追加

削除

補足: フォルダ指定は省略可能です。
また、アプリケーションの場合は複数のフォルダを追加できます。

インストール

* 実行ファイル:

参照

セットアップパラメータ:

注意: 「サイレントインストール」および「再起動を行わない」の2つのオプションは必ず指定してください。
例: Microsoft社のサービスパックの場合「-q -z」または「-u -z」になります。

☐ インストール後再起動が必要☐ 単独適用が必要

OK

キャンセル

実行設定	
フォルダ名	パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダを入力します。255Byte以内で入力してください。
参照	「参照」ボタンをクリックすると、「フォルダーの参照」画面が表示されます。パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダを選択してください。
追加されたフォルダ	
追加	フォルダ名に入力したフォルダを追加されたフォルダに追加します。
削除	追加されたフォルダから選択したフォルダを削除します。 追加されたフォルダで一つ以上のフォルダが選択されている場合のみ、「削除」ボタンは有効になります。

実行ファイル	実行ファイルを入力します。255Byte以内で入力します。使用できる文字は、半角英数字/記号です。パス長が255Byteより大きい場合、パスが自動的にクリアされます。 実行ファイル名に%xx(xxは16進数の0～f)を含むファイル(例:file%9d.exe)は登録しないでください。%xxを含むパッケージは管理サーバに正しくダウンロードできません。 実行ファイルには、以下のすべての条件を満たしているものを指定してください。 ・サイレントインストールができること。(ファイルを実行中にキー入力など応答が必要ない、またはバッチファイルを作成して、サイレントインストールにできること。) ・インストール中にOSの再起動が発生しないこと。 ・ローカルシステムアカウントでインストールできること。(ネットワーク参照しない。) ・ファイルサイズの合計が2GByteを超えないこと。 ・実行中にプロセスを多段階に生成(実行ファイル→子プロセス→孫プロセス)する場合、生成した子プロセスは孫プロセスの終了を待ってから終了すること。ただし、実行ファイルがbatのようなスクリプトである場合は、実行ファイルは生成した子プロセスの終了を待ってから終了すること。
参照	「参照」ボタンをクリックすると、ファイルを開く画面が表示されます。パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダを選択してください。
セットアップパラメータ	実行ファイルに対するセットアップパラメータを指定します。 入力できる文字数は、128Byte(半角128文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 サービスパック/HotFixの場合、「実行後再起動しない」と「無人モード」、または「Quietモード」の二つのパラメータを指定してください。 例) Windows Server 2008の場合 ・実行後再起動しない:/norestart ・無人モード:/unattend ・Quietモード:/quiet サービスパック、HotFixのパラメータは、あらかじめ実行ファイルに「/h」、または「-?」を指定して実行し、確認してください。 なお、Windows XP SP2/SP3を指定し、かつOEM固有のドライバがインストールされている場合は、「コマンドプロンプトを表示せずに処理を実行」(「-o」)も指定してください。
インストール後再起動が必要	パッケージの適用後に再起動を行う場合に設定します。自動更新方式での適用時に有効です。
単独適用が必要	単独での適用が必要なサービスパックやHotFixの場合に設定します。チェックを入れると適用前に自動で再起動を行います。自動更新方式での適用時に有効です。

重要

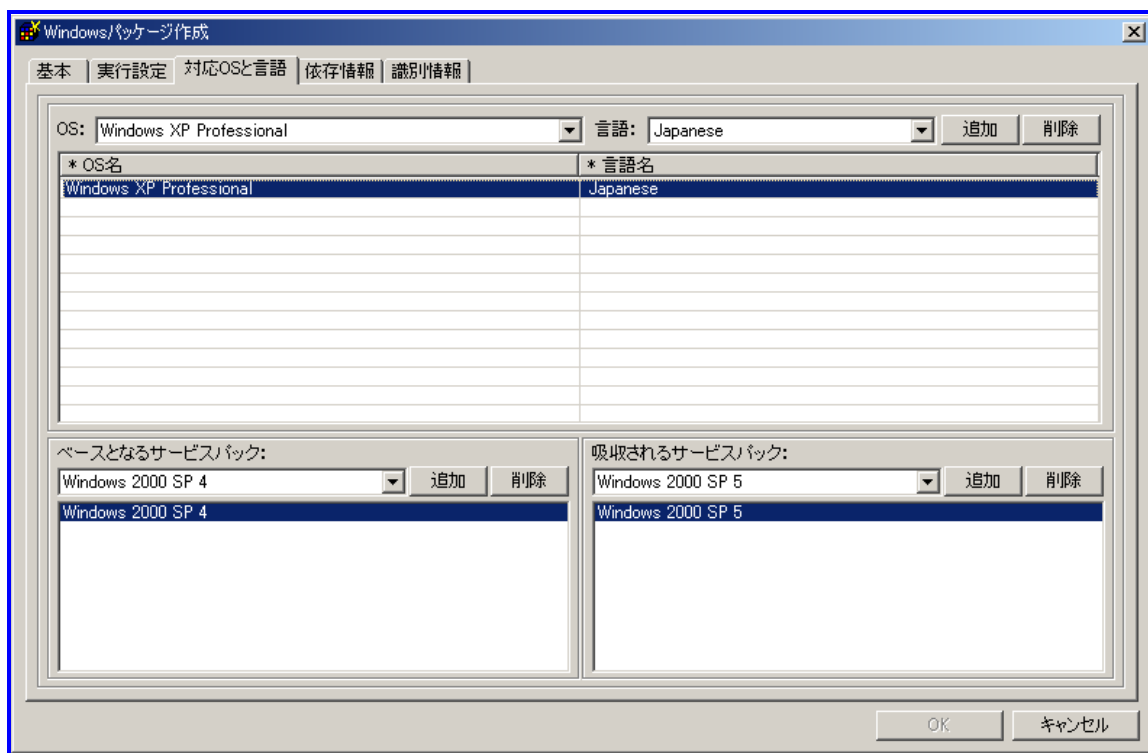
- 登録されたサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションは、管理サーバの内部フォルダにコピーします。登録に必要な空き容量は、登録するサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションの容量の約2倍です。
- ここで登録できるサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションはサイレントインストール型であり、インストール後に再起動をしないものに限りです。(デジタル署名情報によるセキュリティ警告画面が表示されるようなものの場合、適用時に管理対象マシンで確認画面が表示されインストールが続行できません)。
※サイレントインストールとは、実行形式(setup.exe や Update.exe)を実行すれば自動的にセットアップを行う、「次へ」のクリックや値の入力が一切不要なセットアップの形式のことです。
※有効にするために再起動が必要なサービスパック/HotFix などの場合は再起動を行わないオプションをつけてイメージを登録し、シナリオで「実行後に再起動を行う」オプションを設定するようにしてください。

ヒント

パッチの登録は、フォルダ単位で行われます。一つのフォルダ内には一つのパッチのみを格納するようにしてください。

■「対応OSと言語」タブ

「Windowsパッケージ作成」画面の「対応OSと言語」タブをクリックし、各項目を設定します。



対応OSと言語	
OS	パッケージを適用するOSを選択します。 サービスパック/HotFixが対応しているOSを正しく指定してください。 「All OS」を選択した場合は、「Other OS」以外のすべてのOSが対象になります。
言語	パッケージを適用するOSの言語を選択します。
追加	選択した「OS」、「言語」を追加します。
削除	選択した「OS」、「言語」を削除します。
ベースとなるサービスパック	HotFixが適用できる前提となるサービスパックを指定します。
追加	選択した「ベースとなるサービスパック」を追加します。
削除	選択した「ベースとなるサービスパック」を削除します。
吸収されるサービスパック	次期サービスパックを指定します。「ベースとなるサービスパック」と併用して使用します。 例)SP4の適用されたWindows2000のコンピュータがある場合、「ベースとなるサービスパック」にSP4を、「吸収されるサービスパック」にSP5を入力しておきます。これにより【SP4が適用されていて、SP5は未適用のコンピュータに適用】という条件になります。
追加	選択した「吸収されるサービスパック」を追加します。
削除	選択した「吸収されるサービスパック」を削除します。

■「依存情報」タブ

「Windowsパッケージ作成」画面の「依存情報」タブをクリックし、各項目を設定します。

パッケージを適用する際に依存情報をチェックして、依存条件を満たす場合のみ適用を行います。

依存条件は、以下の3種類から指定します。

- ・依存パッケージ
- ・依存ファイル情報
- ・依存レジストリ情報

ヒント

「依存パッケージ」、「依存ファイル情報」、「依存レジストリ情報」を複合して追加すると、各項目の条件をすべて満たした場合にのみ適用します。

例)「依存パッケージ」をA、「依存ファイル情報」をB、「依存レジストリ情報」をCとします。複合適用条件は下記のようになります。

項目	追加情報	各適用条件	複合適用条件
A	1	1、2、3のすべてが適用されている	Aを満たしかつ、 Bを満たしかつ、 Cを満たす
	2		
	3		
B	1	1、2の条件のうちいずれか一つを満たす	
	2		
C	1	1、2の条件のうちいずれか一つを満たす	
	2		

Windowsパッケージ作成

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

☒ パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする

☒ 依存パッケージ

番号	パッケージID	MS 番号	緊急度	概要	対応OSと言語

追加

削除

☐ 下記ファイルのいずれかの存在有無により適用を行う

番号	ファイルパス	ファイルバージョン	条件

追加

修正

削除

☐ 下記レジストリのいずれかの存在有無により適用を行う

番号	ルートキー	サブキー	名前	データ	種類	条件

追加

修正

削除

OK キャンセル

依存情報

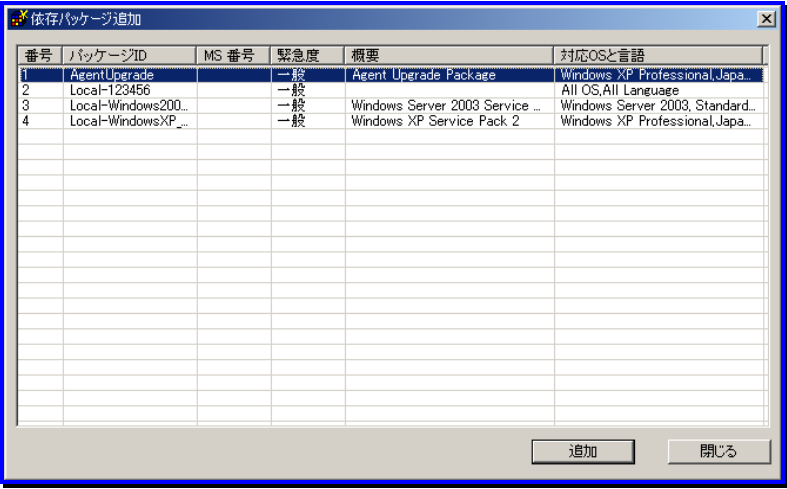
パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする

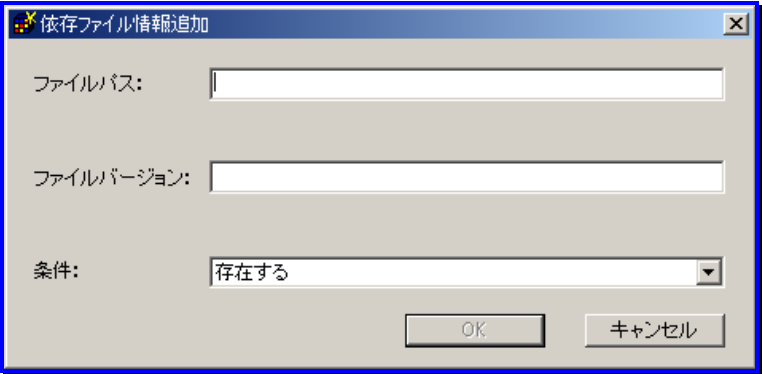
依存パッケージ

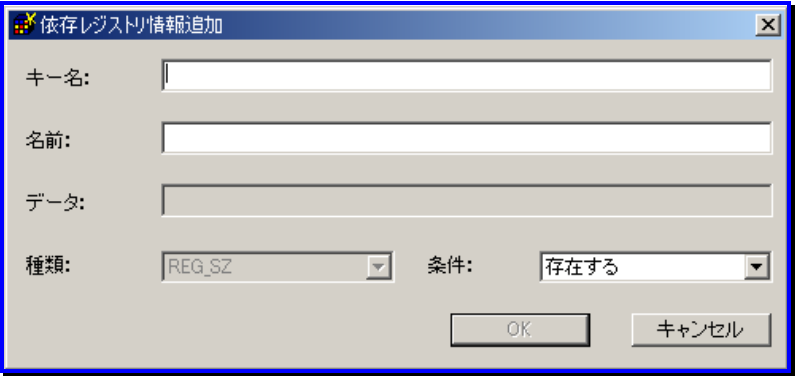
「パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする」チェックボックスにチェックを入れると、設定項目が有効になります。

依存するパッケージがインストールされている場合のみ適用します。「依存パッケージ」チェックボックスにチェックを入れて設定してください。依存するパッケージは、イメージビルダ、またはPackageDescriberで登録されている他のパッケージから選択します。ここで指定するパッケージは、PackageDescriberで作成したパッケージのみになります。また、依存パッケージを複数追加すると、すべての依存パッケージが適用されている場合にパッケージの適用を行います。

例)Internet Explorer用の累積的なセキュリティ更新プログラムは、Internet Explorerがインストールされていないと適用できません。このような場合は、累積的なセキュリティ更新プログラムを適用する依存条件がInternet Explorerとなります。

	追加	「追加」ボタンをクリックすると、「依存パッケージ追加」画面が表示されます。  「依存パッケージ追加」画面に表示されているパッケージは、現在管理サーバに登録されているパッケージです。リストから依存するパッケージを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。
	削除	依存パッケージからパッケージを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、依存パッケージが削除されます。
	下記ファイルのいずれかの存在有無により適用を行う	依存ファイル情報により、ファイルの存在有無に基づいてパッケージを適用すべきかどうかを判断します。ファイルを複数追加した場合は、いずれか一つを満たせば適用します。 「下記ファイルのいずれかの存在有無により適用を行う」チェックボックスにチェックを入れて設定してください。

	追加	「追加」ボタンをクリックすると、「依存ファイル情報追加」画面が表示されます。パッケージの依存情報を追加します。  ・ファイルパス 依存するファイルパスとファイル名を入力します。259Byteで入力します。 ・ファイルバージョン ファイルのバージョンを入力します。31Byte以内で、「x.x.x.x」の形式で入力してください。入力できる文字は、半角数字/以下の記号です。 . ファイルバージョンを入力しない場合は、ファイルの有無が依存条件となります。 ファイルバージョンはファイルプロパティの「バージョン情報」タブから確認できます。 プロパティに「バージョン情報」タブが存在しない、または「バージョン情報」タブの「ファイルバージョン」の項目が空の場合、何も記入する必要はありません。 ・条件 -存在する: 入力したファイルが存在する場合、パッケージの適用を行います。 -存在しない: 入力したファイルが存在しない場合、パッケージの適用を行います。
	修正	ファイルを選択し、「修正」ボタンをクリックすると、「依存ファイル情報変更」画面が表示されます。
	削除	ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、「依存ファイル」が削除されます。
	下記ファイルのいずれかの存在有無により適用を行う	依存レジストリ情報は、レジストリのいずれかの存在有無により適用を行います。レジストリ情報を複数追加した場合は、いずれか一つを満たせば適用します。 「下記ファイルのいずれかの存在有無により適用を行う」チェックボックスにチェックを入れて設定してください。

	追加	「追加」ボタンをクリックすると、「依存レジストリ情報追加」画面が表示されます。パッケージのレジストリを追加します。  ・キー名 ルートキーも含め、レジストリキー名を入力します。255Byte以内で入力します。 ・名前 キー名に所属する値(ValueName)255Byte以内で入力します。 ・データ 値のデータ(ValueData)を入力します。入力できる文字数は、以下のとおりです。 -「REG_SZ」と「REG_BINARY」: 1024Byte以内 -「REG_DWORD」: 0から4294967295までの数字 -「REG_QWORD」タイプ: 0から18446744073709551615までの数字 ・種類 値のタイプ(ValueType)をリストボックスから選択します。以下が選択できます。 -REG_SZ -REG_BINARY -REG_DWORD -REG_QWORD ・条件 -存在する 入力したレジストリが存在する場合パッケージ適用を行います。 -存在しない 入力したレジストリが存在しない場合パッケージ適用を行います。
	修正	レジストリを選択し、「修正」ボタンをクリックすると、「依存レジストリ情報変更」画面が表示されます。
	削除	レジストリを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、依存レジストリが削除されます。

■「識別情報」タブ

「Windowsパッケージ作成」画面の「識別情報」タブをクリックし、各項目を設定します。

識別情報を利用して、マシンにパッケージが適用されたかを判断します。

識別情報は、サービスパック/HotFix/アプリケーションをインストールしたことにより起こる、ファイルのレジストリの変化を「識別情報」として入力します。

例)パッチAを登録し、マシンに配信します。

- 1)配信前→現在どのパッチがインストールされているか
ファイル情報やレジストリはどうなっているか

- 2)配信後→パッチAが配信されると、ファイルやレジストリにどのような変化があるか

上記1)2)を比較して得られる差分情報を元にパッケージの適用状況を判断します。入力したファイル変更情報とレジストリ変更情報をすべて満たした場合、適用済みと判断します。

注意

パッケージを登録する際に識別情報を入力していない場合、パッケージが「識別できないパッケージ」となり管理対象マシンに自動更新通知を発信しません。
HotFixを登録する際に「MS番号」「識別情報」のいずれも入力されていない場合は、管理サーバ側でシナリオを作成し、配信する必要があります。

ヒント

- 作成するパッケージファイルがMicrosoft社の発行したサービスパック/HotFixの場合、識別情報を入力しなくてもレジストリに書き込まれたMS番号(KBXXXXXXやQXXXXXX)と「基本」タブで入力した「MS番号」を比較して一致していれば適用済みと判断することができます。
- MS番号を持っていない、またはMS番号で識別できないパッケージの場合や、レジストリなどにしか情報が残らないパッケージを適用する場合に、識別情報の入力が必要になります。

The screenshot shows the 'Windows Package Creation' dialog box with the 'Identification Information' tab selected. The dialog has a title bar with a close button. Below the title bar are tabs: 'Basic', 'Execution Settings', 'Target OS and Language', 'Dependency Information', and 'Identification Information'. The 'Identification Information' tab contains two sections: 'File Change Information' and 'Registry Change Information'. Each section has a table with columns for identifying changes and buttons for adding, modifying, and deleting entries.

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

ファイル変更情報:

番号	ファイルパス	ファイルバージョン	変更タイプ

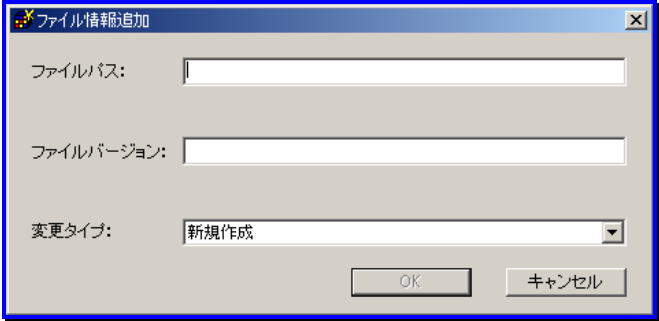
追加 修正 削除

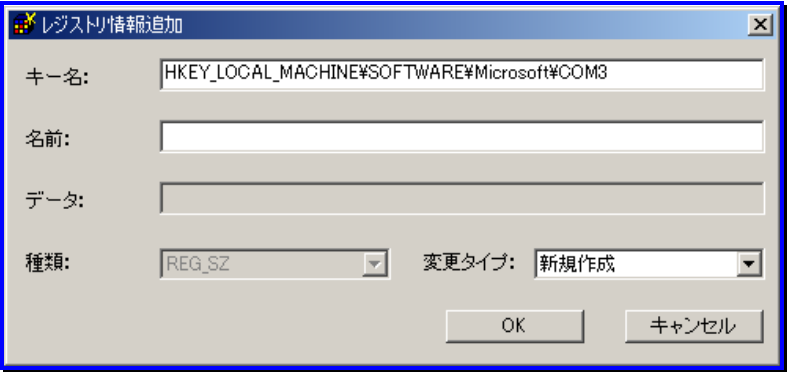
レジストリ変更情報:

番号	ルートキー	サブキー	名前	データ	種類	変更タイプ

追加 修正 削除

OK キャンセル

識別情報	
ファイル変更情報	パッケージを適用したことにより、ファイルシステムに起こる変更情報を元に適用状態の判断を行う場合に使用します。
追加	「追加」ボタンをクリックすると、「ファイル情報追加」画面が表示されます。パッケージのファイル情報を追加します。  ・ファイルパス 変化があったファイルパスとファイル名を入力します。259Byte以内で入力します。 ファイルパスは利用環境によって異なる場合がありますので、システム環境変数を入力してください。 例)C:\WINNT\system32\の配下、winsock.dllに変化があった場合 %WinDir%\system32\winsock.dll ・ファイルバージョン ファイルのバージョンを入力します。31Byte以内で、「x.x.x.x」の形式で入力してください。入力できる文字は、半角数字/以下の記号です。 . ファイルバージョンを入力しない場合は、ファイルの有無が識別情報となります。 なお、ファイルバージョンは、ファイルプロパティの「バージョン情報」タブから確認できます。OS上のプロパティに「バージョン情報」タブが存在しない、または「バージョン情報」タブの「ファイルバージョン」の項目が空の場合、何も記入する必要はありません ・変更タイプ 以下の選択肢から選択できます。 新規作成: パッケージの適用で新規生成される場合 バージョンアップ: パッケージの適用で、既存のファイルより新しい時のみ書き換えられる場合 書き換え: パッケージの適用で、無条件に書き換えられる場合 削除: パッケージの適用で削除される場合
修正	追加したパッケージのファイル識別情報を修正します。
削除	追加したパッケージのファイル識別情報を削除します。
レジストリ変更情報	パッケージを適用したことにより、変更のあったレジストリ情報を元に適用状態の判断を行う場合に使用します。

	追加	「追加」ボタンをクリックすると、「レジストリ情報追加」画面が表示されます。  ・キー名 ルートキーも含め、レジストリキー名を入力します。 ・名前 キー名に所属する値(ValueName)を入力します。 ・種類 値のタイプ(ValueType)を入力します。 ・データ 値のデータ(ValueData)を入力します。「名前」を入力すると、項目が有効になります。 ・変更タイプ 以下の選択肢から選択できます。 新規作成: パッケージの適用で新規生成される場合 書き換え: パッケージの適用で書き換えられる場合 削除: パッケージの適用で削除される場合 修正 追加したパッケージのレジストリ識別情報を修正します。 削除 追加したパッケージのレジストリ識別情報を削除します。

- (2) 必要な情報を入力した後「OK」ボタンをクリックすると、パッケージが作成されます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、入力情報はすべて破棄され「Windows パッケージ作成」画面を閉じます。

以上で、Windows パッケージ作成に必要な情報の入力完了です。

「Windows パッケージ作成」画面の「OK」ボタンをクリックして、Windows パッケージを作成してください。

ヒント

続けてパッケージを作成できます。続けて作成する場合は、次のパッケージの情報を入力して再度「OK」ボタンをクリックしてください。作成作業を完了する場合は、「完了」ボタンをクリックしてください。(一度「OK」ボタンをクリックした後は、「キャンセル」ボタンは「完了」ボタンになります。)

5.5.2. Windows パッケージ修正

(1) 「Windowsパッケージ修正」メニューを選択すると、「Windowsパッケージ選択」画面が表示されます。

[illegible]

(2) 「Windowsパッケージ選択」画面から修正するパッケージを選択し、「修正」ボタンをクリックします。

(3) 「Windowsパッケージ修正」画面が表示されますので各タブの画面でそれぞれ修正してください。修正できる項目については、以下のとおりです。

各タブの画面については、「5.5.1 Windowsパッケージ作成」を参照してください。

- ・「基本」タブ→「パッケージ ID」と「タイプ」以外は修正できます。
- ・「実行設定」タブ→「コピーするフォルダ」と「実行ファイル」以外は修正できます。
- ・「対応 OS と言語」タブ→全項目修正できます。
- ・「依存情報」タブ→全項目修正できます。
- ・「識別情報」タブ→全項目修正できます。

Windows パッケージ修正

基本 | 実行設定 | 対応OSと言語 | 依存情報 | 識別情報

* パッケージ ID: Local 123456

会社名: リリース日付: (YYYY/MM/DD)

パッケージ概要:

タイプ: アプリケーション 緊急度: 一般

表示名:

表示バージョン:

説明:
アプリケーション名と表示バージョンを入力してください。詳しくはユーザーズガイドを参照してください。

OK キャンセル

5.5.3. Linux パッケージ作成

「Linuxパッケージ作成」メニュー項目を選択した場合、「Linuxパッケージ作成」画面が表示されます。

■「基本」タブ

「Linuxパッケージ作成」画面の「基本」タブをクリックし、各項目を設定します。

The screenshot shows a window titled "Linuxパッケージ作成" (Linux Package Creation). It has two tabs: "基本" (Basic) and "実行設定" (Execution Settings). The "基本" tab is active. It contains the following fields:

- * パッケージ ID: A text box with a "Local" button to its left.
- 会社名: A text box.
- リリース日付: (YYYY/MM/DD) A text box.
- パッケージ概要: A large text area.
- タイプ: A dropdown menu with "Linuxパッチ" selected.
- 緊急度: A dropdown menu with "一般" selected.

At the bottom right, there are "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons.

基本	
パッケージID (入力必須)	パッケージにつけるID番号を入力します。63Byte以内で入力します。入力できる文字は、半角英数/以下の記号です。 - _
会社名	パッケージを発行する発行元の名称を入力します。127Byte以内で入力します。
リリース日	パッケージをリリースした日付を入力します。日付書式はYYYY/MM/DD形式です。
パッケージ概要	パッケージの概要情報を入力します。511Byte以内で入力します。
タイプ	Linuxパッチ、またはアプリケーションを選択します。
緊急度	パッケージの緊急度を選択します。変更できません。
OK	すべての入力必要な項目を正しく入力した後、「OK」ボタンが有効になります。「OK」ボタンをクリックして、Linuxのパッケージを作成します。
キャンセル	何も処理をせずに画面を閉じます。

■「実行設定」タブ

「Linuxパッケージ作成」画面の「実行設定」タブをクリックし、各項目を設定します。

Linuxパッケージ作成

基本

実行設定

コピーするフォルダ

フォルダ名:

参照

追加されたフォルダ

追加

削除

補足: フォルダ指定は省略可能です。
また、アプリケーションの場合は複数のフォルダを追加できます。

インストール

* 実行ファイル:

参照

セットアップパラメータ:

注意: 「サイレントインストール」および「再起動を行わない」の2つのオプションは必ず指定してください。
例: Microsoft社のサービスパックの場合「-q -z」または「-u -z」になります。

☐ インストール後再起動が必要☐ 単独適用が必要

OK

キャンセル

実行設定	
フォルダ名	パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダを入力します。255Byte以内で入力してください。
参照	「参照」ボタンをクリックすると、「フォルダーの参照」画面が表示されます。パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダを選択してください。
追加されたフォルダ	追加したフォルダが表示されます。 -Linuxパッチの場合は、一つのフォルダのみ追加できます。 -アプリケーションの場合は、複数のフォルダを追加できます。
追加	「フォルダ名」テキストボックスに入力したフォルダを「追加されたフォルダ」欄に追加します。
削除	「追加されたフォルダ」欄から選択したフォルダを削除します。 追加されたフォルダで一つ以上のあるフォルダが選択されている場合のみ、「削除」ボタンは有効になります。

実行ファイル	実行ファイルを入力します。255Byte以内で入力しますパス長が255Byteより大きい場合、パスが自動的にクリアされます。 実行ファイル名に%xx(xxは16進数の0～f)を含むファイル(例:file%9d.exe)は登録しないでください。%xxを含むパッケージは管理サーバに正しくダウンロードできません。 実行ファイルには、以下のすべての条件を満たしているものを指定してください。 ・サイレントインストールができること。(ファイルを実行中にキー入力など応答が必要ない、またはバッチファイルを作成して、サイレントインストールにできること。) ・インストール中にOSの再起動が発生しないこと。 ・ローカルシステムアカウントでインストールできること。(ネットワーク参照しない。) ・ファイルサイズの合計が2GByteを超えないこと。 ・実行中にプロセスを多段階に生成(実行ファイル→子プロセス→孫プロセス)する場合、生成した子プロセスは孫プロセスの終了を待ってから終了すること。ただし、実行ファイルがshのようなスクリプトである場合は、実行ファイルは生成した子プロセスの終了を待ってから終了すること。 ・実行ファイルに日本語、または「&」を含むファイルパスを入力すると、正しく適用できない場合があります。
参照	「参照」ボタンをクリックすると、ファイルを開く画面が表示されます。パッケージの実行ファイルを選択してください。
セットアップパラメータ	パッケージのセットアップパラメータを指定します。 パラメータは「実行後再起動しない」と「無人モード」、または「Quietモード」の二つのパラメータを指定してください。半角英数128Byte以内で入力します。
インストール後再起動が必要	本項目は無効です。
単独適用が必要	本項目は無効です。

重要

rpmパッケージを登録する場合は、コマンドオプションに「-i」や「-U」など、インストールに適したオプションを指定してください。

注意

- アプリケーションの仕様によっては、実行パスに 2Byte 文字が含まれると処理が正常に行われない可能性があります。アプリケーションを格納する「フォルダ名」は 1Byte 文字で作成されることを推奨します。
また、Linuxの管理対象マシン用に登録する場合は、実行パスには2Byte文字を含まないでください。2Byte文字を含んだ場合は、文字によって実行パスが正しく認識されない場合があります。
- シェルスクリプトを登録する場合は、コンソールにメッセージが出力されないようにしてください。メッセージを出力するとシナリオが失敗します。必要なメッセージの場合は、ログファイルにリダイレクトし、不要なメッセージの場合は、/dev/null にリダイレクトするなどしてください。
例)ログに出力する場合
dmesg >> /tmp/dmesg.log
例)メッセージを保存しない場合
/etc/rc.d/init.d/depagtd start > /dev/null
- シェルスクリプトなどは、正常終了時に終了コードが 0 となるようにしてください。終了コードが 0 以外の場合、スクリプトの実行は成功していてもシナリオ実行エラーとなります。

ヒント

rpm パッケージを登録する場合は、登録するパッケージによって「-i」オプションでは正しくインストールができない可能性があります。原因として署名がある場合や依存関係がある rpm の可能性があります。また、既にインストール済みの場合も失敗します。

代表的なオプションを以下に記述していますので、内容をもとにセットアップパラメータを指定してください。

オプション	サブオプション	内容
-i		新しいパッケージをインストールします。
-U		既にインストールされているパッケージのアップグレードを行います。インストールされていない場合もインストールを実行します。古いバージョンはすべて削除されます。
-F		古いバージョンが現在インストールされている場合に限りアップグレードを行います。古いバージョンはすべて削除されます。
-i	--oldpackage	既にインストール済みのパッケージよりも古いパッケージをインストールします。
-i	--replacefiles	インストール済みの他のパッケージに含まれるファイルを置き換えてしまう場合にもインストールを実行します。
-i	--replacepkgs	インストール済みのパッケージを再インストールします。
-i	--force	--oldpackage + --replacefiles + --replacepkgs
-i	--nodeps	依存関係を無視して強制的にインストールします。
-i	--nosignature	読み込み時にパッケージ、またはヘッダの署名を検査しません。

また、オプションに標準出力されるようなものを指定するとインストールに失敗しますので指定しないでください。

表示系のオプションは以下のようなものになります。

-v, --verbose	より多くの情報を表示する。通常は、ルーチンの進捗メッセージが表示されます。
-vv	たくさんの汚いデバッグ情報を表示する。
-h, --hash	パッケージアーカイブから取り出されるにつれ、50個のハッシュマーク("#")を表示して進捗状況を表します。
--percent	パッケージアーカイブからファイルが取り出されるにつれて、その割合を表示します。

オプションの詳細は、お使いのLinuxオンラインヘルプドキュメントを参照してください

以上で、Linuxパッケージ作成に必要な情報の入力完了です。

「Linuxパッケージ作成」画面の「OK」ボタンをクリックして、Linuxパッケージを作成してください。

ヒント

続けてパッケージを作成できます。続けて作成する場合は、次のパッケージの情報を入力して再度「OK」ボタンをクリックしてください。作成作業を完了する場合は、「完了」ボタンをクリックしてください。(一度「OK」ボタンをクリックした後は、「キャンセル」ボタンは「完了」ボタンになります。)

5.5.4. Linux パッケージ修正

- (1) 「Linux パッケージ修正」メニュー項目を選択すると、「Linux パッケージ選択」画面が表示されます。

- (2) 「Linux パッケージ選択」画面から修正するパッケージを選択し、「修正」ボタンをクリックします。
- (3) 「Linux パッケージ修正」画面が表示されますので、各タブの画面でそれぞれ修正してください。修正できる項目については、以下のとおりです。各タブの画面については、「5.5.3 Linux パッケージ作成」を参照してください。
 - ・「基本」タブ→「パッケージID」、「タイプ」、および「緊急度」以外は、修正できます。
 - ・「実行設定」タブ→「コピーするフォルダ」、「実行ファイル」以外は、修正できます。

Linux/パッケージ修正

基本 | 実行設定

* パッケージ ID: Local= 1234567

会社名: nec リリース日付: (YYYY/MM/DD) 2005/05/09

パッケージ概要:

タイプ: Linux/パッチ 緊急度: 一般

OK キャンセル

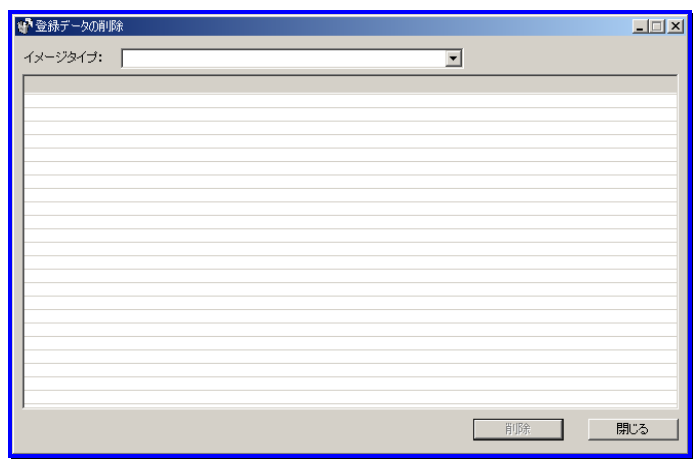
5.5.5. パッケージの登録/修正の終了

「終了」メニューをクリックすると、「パッケージの登録/修正」画面が閉じます。

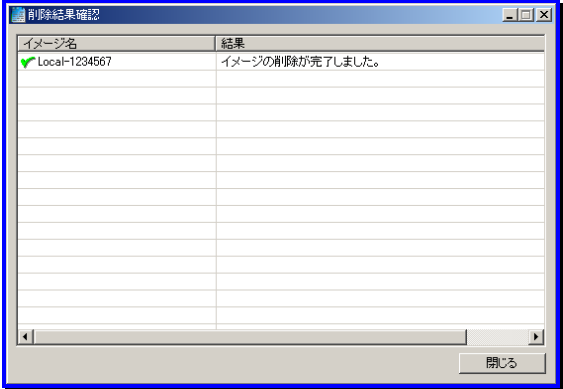
この時点で、登録したパッケージの緊急度によって管理対象マシンに自動更新通知を発信するかを決めます。
緊急度が「最高」のパッケージを登録している場合は、パッケージの適用可の管理対象マシンに自動更新通知を発信し、即座に適用します。

5.6. パッケージ削除

- イメージビルダでは作成したイメージデータを削除します。以下の手順で削除します。
- (1) イメージビルダを使用できるマシンで、「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択し、イメージビルダを起動します。
 - (2) 「登録データの削除」をクリックします。「登録データの削除」画面が表示されます。



登録データの削除	
イメージタイプ	イメージタイプを選択すると、該当するイメージリストが下の表に表示されます。以下から選択できます。 ・イメージファイル ・オペレーティングシステム ・セットアップパラメータファイル ・Linuxパラメータファイル ・サービスパック/HotFix/Linuxパッチ ・アプリケーション

削除	イメージタイプからいずれかのイメージファイルを選択した場合のみ、「削除」ボタンが有効になります。複数のイメージファイルを選択して削除できます。「削除」ボタンをクリックすると、確認ダイアログボックスが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると、イメージファイルを削除し、「削除確認結果」画面が表示されます。 
閉じる	「登録データの削除」画面を閉じます。

注意

- イメージビルダのパッケージ削除機能を利用して、自動ダウンロードより登録されたパッケージを一時的に削除できます。ただし、パッケージWebサーバから当該パッケージを削除しない場合、設定した自動ダウンロード時刻になると再度ダウンロードされます。
- パッケージWebサーバからパッケージを削除する場合、PackageDescriberを使用してください。詳細は、「6 PackageDescriber」を参照してください。
- ディスク複製用情報ファイル、CSV ファイルは、「登録データの削除」から削除することはできません。
Windows用のファイルの場合、管理サーバの<イメージ格納用フォルダ>¥Ansfile以下のフォルダにあるファイルを手作業で削除してください。

例)イメージ格納用フォルダがCドライブにある場合

- ・ディスク複製用情報ファイル(Windows高速化/パラメータファイル)
C:¥Deploy¥Ansfile¥ExpressSysprep¥XX-XX-XX-XX-XX.inf
XX-XX-XX-XX-XX-XX.bat
XX-XX-XX-XX-XX-XX.xml
- ・ディスク複製用情報ファイル(Windows/パラメータファイル)
C:¥Deploy¥Ansfile¥sysprep¥XX-XX-XX-XX-XX-XX.inf
XX-XX-XX-XX-XX-XX.bat
XX-XX-XX-XX-XX-XX.xml
- ・ディスク複製用情報ファイルの大量作成用ディスク複製用情報ファイル
C:¥Deploy¥Ansfile¥sysprep¥csv¥ XXX.csv
C:¥Deploy¥Ansfile¥unattend¥csv¥ XXX.csv

Linux用のファイルの場合、ディスク複製用パラメータファイルは、管理サーバの<イメージ格納用フォルダ>¥Ansfile以下のフォルダにあるファイルを、CSVファイルは保存時に指定した場所にあるファイルを手作業で削除してください。

例)イメージ格納用フォルダがCドライブにある場合

C:¥Deploy¥Ansfile¥machineinf¥XXXXXXXXXXXXXXX.rep

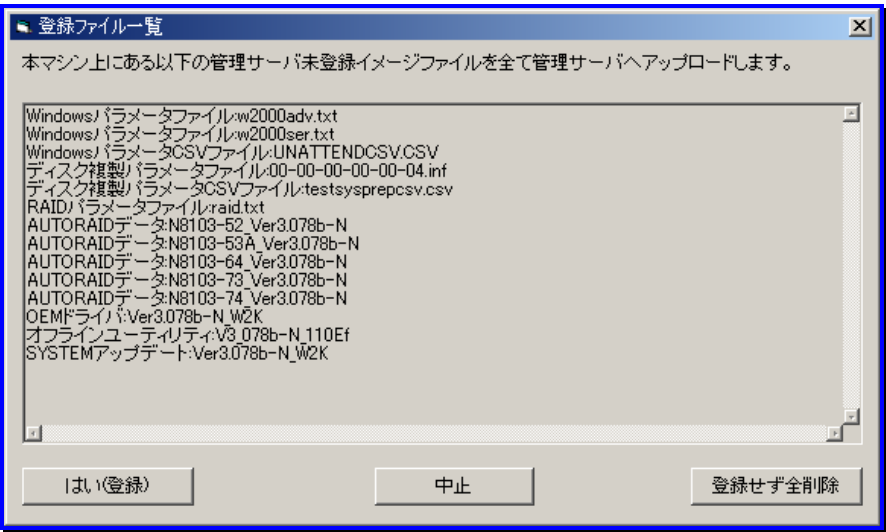
作業フォルダ、導入ディレクトリがデフォルトの場合

C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥linux¥offline¥CSV¥XXX.csv

5.7. 一括登録

- 通常イメージビルダで作成したイメージデータは一時的にイメージビルダ用マシンに保存され、その後自動的に管理サーバへ転送されます。しかし、次のような場合は転送されず、ローカルにデータが残った状態になります。
- ・EXPRESSBUILDER CD-ROM からシステムアップデートやドライバをコピーした。
 - ・テンポラリ作成後、管理サーバとのネットワークが切断された。
- このような場合は、ローカルに作成されたイメージデータを管理サーバに登録するために以下の方法があります。
- ・イメージビルダ(リモートコンソール)を終了する。
 - ・「一括登録」を使用する。

- 「一括登録」を使用して管理サーバに登録する手順を説明します。
- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「イメージビルダ」を選択します。
- (2) 「一括登録」をクリックします。「登録ファイル一覧」画面が表示され一括登録されるデータの一覧が表示されます。



登録ファイル一覧	
はい(登録)	イメージを管理サーバに転送します。
中止	一括登録を中止します。
登録せず全削除	ローカルに残っているデータを削除します。

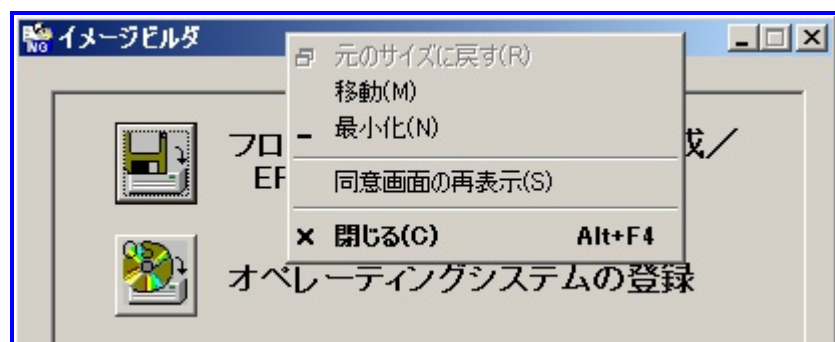
- (3) 「はい(登録)」ボタンをクリックします。管理サーバへの一括登録は完了です。

注意

オフラインユーティリティをリモートイメージビルダから登録する場合は、一組のユーティリティを複数のファイルに分けてアップロードします。ファイルの詳細が分からない場合は、一括登録時すべてアップロードするようにしてください。(同一ファイルがある場合は、上書きしてください)

5.8. 同意画面の表示設定

イメージファイルを登録する時に表示される同意画面にて「次回選択時にこの画面を表示しない」にチェックを入れて「同意します」を選択すると、以後の同意画面は表示されなくなります。再び画面を表示させるようにしたい場合は、システムメニューより「同意画面の再表示」を選択してください。再びすべてのイメージファイル登録処理時に画面が表示されるようになります。



6. PackageDescriber

本章では、パッケージを作成して、パッケージWebサーバに登録するためのツールである「PackageDescriber」について説明します。

注意

Windows Server 2012/Windows 8の場合は、必ずAdministratorユーザでログオンして使用してください。

6.1. 初期設定:環境設定

PackageDescriberは以下の用途に使用します。

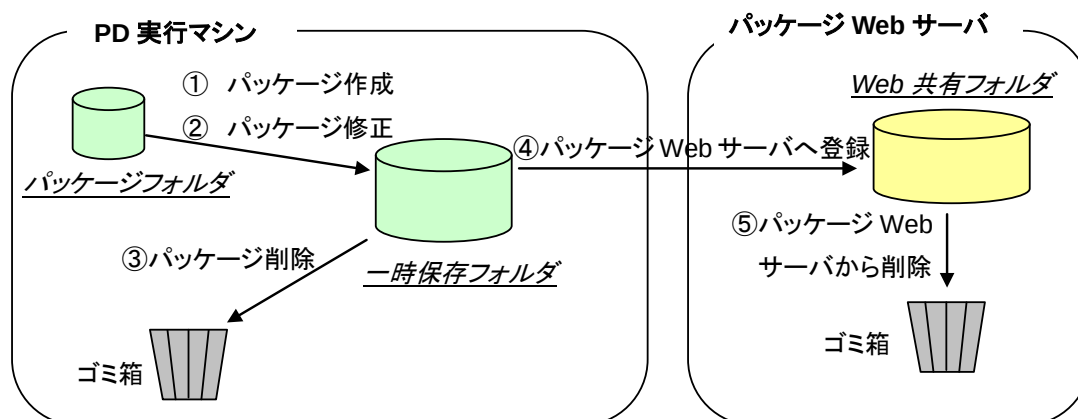
- ・Windows用パッケージの作成・修正
- ・パッケージWebサーバへのパッケージ登録/削除
- ・OS定義ファイルと言語定義ファイルのオンライン更新

注意

PackageDescriberはWindows用のパッケージ作成ツールです。Linuxのパッケージを登録する場合は、イメージビルダを使用してください。

- パッケージ Web サーバの Web 共有フォルダに格納されたパッケージを、管理サーバから HTTP でダウンロードできるように設定する必要があります。設定方法については、「2.7.3. パッケージのダウンロード設定」と「インストールガイド 付録 B パッケージ Web サーバを構築する」を参照してください。
- パッケージ作成、および修正で作成したパッケージは、すべて「一時保存フォルダ」に保存されます。必要に応じてパッケージ Web サーバへ登録してください。
- 「パッケージ Web サーバへの登録/削除」画面からパッケージ Web サーバにパッケージを登録すると、管理サーバからダウンロードできるようになります。

下記は、PackageDescriberに関するフォルダの関係図です。



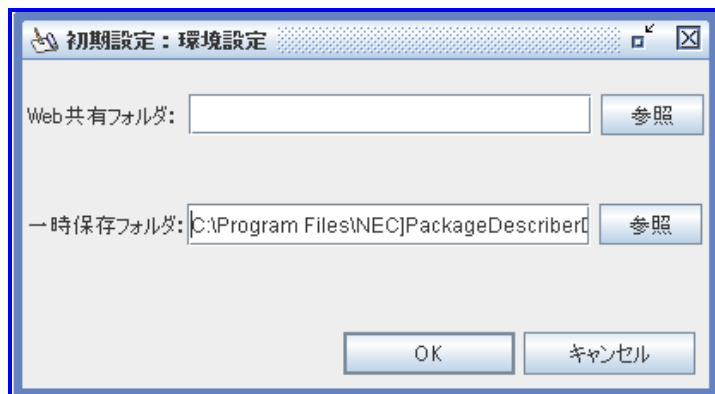
パッケージABCを例として説明します。

- 1) パッケージ作成時、指定したパッケージABCのフォルダ(ファイル)を「一時保存フォルダ」にコピーします。
- 2) パッケージ修正時、「一時保存フォルダ」に保存しているパッケージ ABC に対して修正を行います。
- 3) パッケージ削除時、パッケージ ABC を「一時保存フォルダ」から削除します。
- 4) パッケージ ABC をパッケージ Web サーバへ登録すると、「一時保存フォルダ」から「Web 共有フォルダ」へコピーします。
- 5) パッケージ Web サーバからパッケージ ABC を削除すると、「Web 共有フォルダ」からパッケージ ABC を削除します。

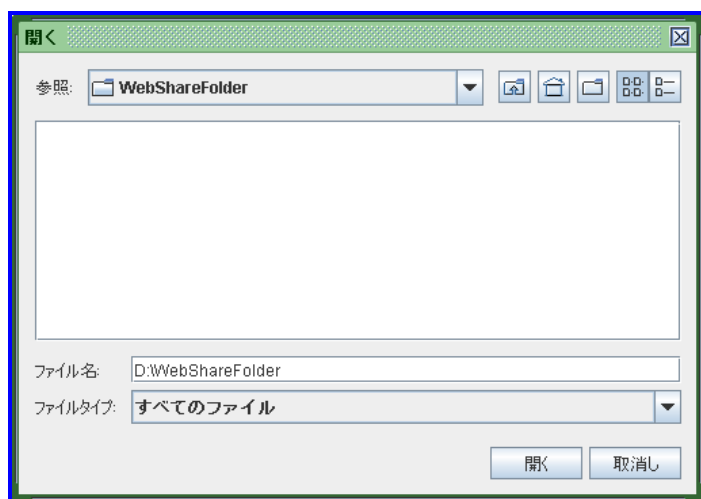
《初期設定》

PackageDescriber の初期設定について説明します。

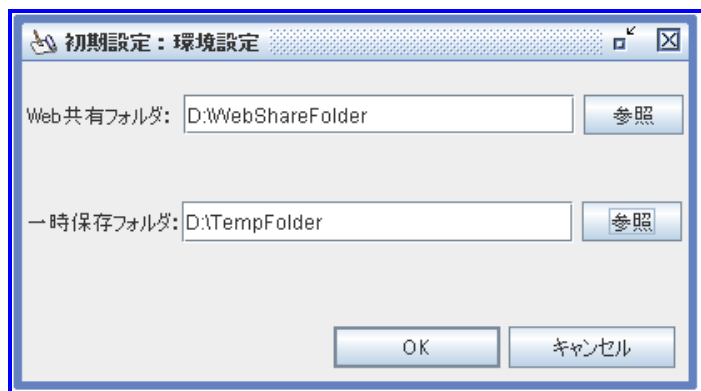
- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DPM PackageDescriber」を選択すると、PackageDescriber が起動し、「初期設定:環境設定」画面が表示されます。



- (2) 「Web 共有フォルダ」の「参照」ボタンをクリックすると、フォルダの選択ダイアログボックスが開きますので、フォルダを指定して「開く」ボタンをクリックします。



- (3) 「Web 共有フォルダ」に指定したフォルダが表示されます。「一時保存フォルダ」については、変更の必要がある場合のみ、同様の手順で変更してください。



(4) 「OK」ボタンをクリックすると、設定を保存して「初期設定:環境設定」画面を閉じます。

注意

- Web 共有フォルダを設定しない場合、管理サーバから自動ダウンロードはできません。また、Web 共有フォルダ、「一時保存フォルダ」は省略できません。
- Web 共有フォルダに「読み取り」と「書き込み」属性があることを確認してください。
- Web 共有フォルダには登録したパッケージが格納されるので、十分な空き容量を確保してください。
- ネットワークコンピュータの共有フォルダを「Web 共有フォルダ」に指定する場合、事前にローカルドライブの割り当てを行うことを推奨します。ドライブの割り当てが行われていない場合、ネットワークコンピュータの共有フォルダにアクセスできない場合があります。
- Web 共有フォルダを変更すると、以前に登録したパッケージは再登録する必要があります。
- 「Web 共有フォルダ」に<PackageDescriber インストールフォルダ>は指定できません。
- 「一時保存フォルダ」と「Web 共有フォルダ」には、同一フォルダは指定できません。
- パッケージを保存するフォルダ(通常は「一時保存フォルダ」)とパッケージIDの組み合わせに注意してください。
DPMでは、パッケージを保存するフォルダ下にパッケージIDに指定した名称でフォルダを作成し、パッケージを管理しています。
既にパッケージIDと同じフォルダが存在する場合は、いったんそのフォルダを削除しパッケージを作成します。そのためパッケージを保存するフォルダにシステムフォルダなどのパッケージの保存以外の用途で使用するフォルダを指定しないようにしてください。
- 「一時保存フォルダ」にファイルは指定できません。
- 「一時保存フォルダ」に指定するフォルダには書き込み権限が必要です。
- Windows Vista で UAC を有効に設定している場合は、以下に注意してください。
 - ・管理者権限を持ったユーザの場合も%ProgramFiles%への書き込み権限がない為、「一時保存フォルダ」を初期設定値から変更してください。
 - ・PDconfigファイルは手動で設定できません。
 - ・PackageDescriberをアンインストールした環境に、再度PackageDescriberをインストールすると、「初期設定:環境設定」画面が表示されない場合があります。その場合は、「設定」メニュー→「環境設定」画面から設定を変更してください。
 - ・UACの設定(有効/無効)を切り替えた後のPackageDescriberの初回起動時には、UACを切り替える前の「Web共有フォルダ」と「一時保存フォルダ」を再度設定してください。

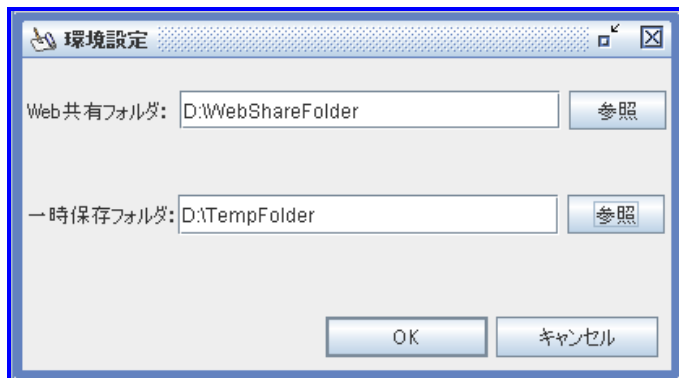
ヒント

- Web 共有フォルダの設定は「設定」メニューの「環境設定」から変更できます。
- PackageDescriber の起動に時間がかかる場合があります。
- 「Web 共有フォルダ」「一時保存フォルダ」を設定し「OK」ボタンをクリックすると、「<PackageDescriber インストールフォルダ>¥PDconfig」の PackSerFolder(Web 共有フォルダ)と PackageSavePath(一時保存フォルダ)に情報が書き込まれます。
- 「PDconfig」を直接編集する場合、2Byte 文字は入力できません。
一度、「初期設定:環境設定」画面で「Web 共有フォルダ」、または「一時保存フォルダ」で設定し「OK」ボタンをクリックして「PDconfig」に出力し、値を参照してください。
- 「PDconfig」を直接編集した場合、PackageDescriber を再起動してください。
起動後に「PDconfig」の設定が反映されます。
- 「一時保存フォルダ」でパッケージ作成時の保存フォルダを設定できます。
デフォルトは、「<PackageDescriber インストールフォルダ>¥Packages」です。

《環境設定》

パッケージ Web サーバの設定方法について説明します。

- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「PackageDescriber」を選択して、PackageDescriber を起動します。
- (2) 「設定」メニュー→「環境設定」をクリックして、「Web 共有フォルダ」、および「一時保存フォルダ」を設定します。



注意

「パッケージWebサーバへの登録/削除」画面、または「オンライン更新」画面を開いている場合、パッケージWebサーバの共有フォルダは設定できません。

環境設定	
Web共有フォルダ	省略不可です。初期設定時に指定したフォルダが表示されます。 入力できる文字数は、259Byte(半角259文字/全角129)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。 Web共有フォルダを変更する場合は、以前に登録したパッケージを再登録する必要があります。
一時保存フォルダ	初期設定時に指定したフォルダが表示されます。 入力できる文字数は、245Byte(半角245文字/全角122)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。
「参照」	フォルダの選択ダイアログボックスを開きます。 パッケージWebサーバへ登録していないパッケージは、管理サーバから自動ダウンロードできません。
OK	設定を保存して、画面を閉じます。設定に失敗した場合やWeb共有フォルダが指定されていない場合は、エラーメッセージが表示されます
キャンセル	設定を保存せずに、画面を閉じます。

注意

- 「Web共有フォルダ」と「一時保存フォルダ」は、「読み取り」と「書き込み」属性があることを確認してください。
- 「Web共有フォルダ」と「一時保存フォルダ」には登録したパッケージが格納されるので、十分な空き容量を確保してください。
- ネットワークコンピュータの共有フォルダを「Web共有フォルダ」、または「一時保存フォルダ」に指定する場合、事前にネットワークドライブの割り当てを行うことを推奨します。ドライブの割り当てが行われていない場合、ネットワークコンピュータの共有フォルダにアクセスできない場合があります。

- (3) 「OK」ボタンをクリックして、画面を閉じてください。「パッケージの登録/再登録」で登録したパッケージは、すべて「Web 共有フォルダ」配下に保存されます。

6.2. パッケージ作成

注意

- Express5800 シリーズ向けの RUR(リビジョンアップリリース)モジュールをパッケージ登録する場合は、RUR のインストール手順書を必ず確認してからパッケージの登録を行ってください。
- サービスパック適用前後で、ファイアウォール機能が無効から有効に切り替わるサービスパック (Windows XP SP2 など) のパッケージを登録する場合は、サービスパック適用時にほぼすべてのポートがブロックされ、管理対象マシンと通信できない状態となるため、シナリオ実行エラーとなってしまいます。その場合は、エラー解除した後にポート開放ツールにて、DPM で使用するポートを開放してください。
ポート開放ツールについては、「7.1 ポート開放ツール」を参照してください。
- SP2 以降のサービスパックのパッケージを登録する場合は、サービスパックの仕様によりサービスパック適用なしの環境へ直接適用できないものがあります。
サービスパックの仕様については、Microsoft 社のサイトなどで確認してください。

例)

Windows Server 2008 SP2 の場合、SP2 は、適用する前提条件として SP1 が適用済みである必要があります。(SP なしの環境へ直接 SP2 は適用できません。)

- ・パッケージ作成時は、「依存情報」タブの「レジストリ条件」に以下を指定してください。
キー名: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT
¥CurrentVersion
名前: CSDVersion
条件: 存在する
- ・自動更新機能でパッケージを配信する場合、管理サーバに複数のサービスパックのパッケージが登録されていると最新のサービスパックのパッケージを配信します。
前述の説明のように、SP 適用なしの管理対象マシンに対しては、サービスパックの仕様により、適用されません。
SP 適用なしの管理対象マシンへ SP2 を適用したい場合は、以下のいずれかの方法で配信してください。
 - SP2 のパッケージを未登録の場合
前提条件となるサービスパック(SP1)を自動更新機能で配信してください。その後に SP2 を登録してください。
 - SP2 のパッケージを登録済みの場合
前提条件となるサービスパック(SP1)をシナリオで配信してください。その後に該当のサービスパックが自動更新機能で配信されます。

6.2.1. 基本情報

パッケージの基本情報の入力方法を説明します。

PackageDescriberの「ファイル」メニュー→「パッケージ作成」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ作成」画面が表示されますので、「基本」タブの各項目を設定してください。赤枠で囲んだ箇所(タイプ)は、選択する種類により設定項目が変わります。

注意

タイプを変更した場合、「緊急度」、「実行設定」情報がデフォルトに変わりますので、もう一度確認してください。

・タイプをサービスパックに変更した場合

緊急度は「一般」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」のチェックボックスにチェックが自動的に入ります。

コピーするフォルダに複数のフォルダが追加されている場合、フォルダの設定はパッケージからすべて削除されます。

・タイプをHotFixに変更した場合

緊急度は「高」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」チェックボックスのチェックが自動的に外されます。

コピーするフォルダに複数のフォルダが追加されている場合、フォルダの設定はパッケージからすべて削除されます。

・タイプをアプリケーションに変更した場合

緊急度は「一般」に変更されます。また、実行設定タブの「インストール後再起動が必要」と「単独適用が必要」チェックボックスのチェックが自動的に外されます。

・タイプで「HotFix」を選択した場合

PackageDescriber

ファイル(F) 設定(S) ヘルプ(H)

パッケージ作成

基本 実行設定 対応OSと言語 依存情報 識別情報

* パッケージID:

会社名: リリース日付(YYYY/MM/DD):

パッケージ概要:

タイプ: 緊急度:

MS 番号:

説明:
MS Q 番号もしくはKB 番号を入力してください。
例: "Q327269" "KB823980"

OK キャンセル

基本	
パッケージID (入力必須)	パッケージにつけるID番号を入力します。 入力できる文字数は、63Byte(半角63文字)です。使用できる文字は、半角英数、および以下の記号です。 - パッケージIDには16進数表記の文字(%0D、%0Aなど)を含めないでください。 管理サーバに正しくパッケージがダウンロードできません。
会社名	パッチ、アプリケーションの発行元の名称を入力します。 入力できる文字数は、127Byte(半角127文字/全角63文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。
リリース日	パッチ、アプリケーションがリリースされた日付を入力します。 入力は、「YYYY/MM/DD」形式で入力してください。 無効な値を入力した場合は、自動的に空になります。
パッケージ概要	パッケージの概要情報を入力します。 入力できる文字数は、511Byte(半角511文字/全角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。
タイプ	パッケージのタイプを選択します。以下から選択できます。 ・HotFix ・サービスパック ・アプリケーション デフォルトは、「HotFix」です。 タイプを変更すると、変更したタイプによって画面が切り替わります。(画面が切り替わらない場合は、マウスを使用してタイプの変更を行ってください。) タイプを変更すると、「緊急度」、「実行設定」情報がデフォルトに変わります。
緊急度	パッケージの緊急度を設定します。以下の4種類から選択できます。 ・最高 ・高 ・一般 ・低 デフォルトは、「一般」ですが、タイプが「HotFix」の場合のみ「高」です。 自動更新対象のパッケージとして登録する場合は、緊急度を「最高」、または「高」に設定してください。(※1)
MS番号	Microsoft社が発行するサービスパックやHotFixにあらかじめ付けられているMS(KB)番号を入力します。入力できる文字数は、31Byte(半角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字です。 例)KB889293 Q819696 ・タイプで「サービスパック」を選択した場合、「MS番号」「識別情報」の入力は不要です。 ・Microsoft社のHotFixの場合、「MS番号」欄に入力した値と、レジストリに書き込まれるMS番号(KBXXXXXXやQXXXXXX)を比較し値が一致すれば、適用されていると判断します。必ず正しい値を「KB」もしくは「Q」を含めて入力してください。「MS番号」欄に入力しない場合は、「識別情報」に入力した、レジストリやファイルの情報で適用状態を判断します。 ・レジストリにMS番号を書き込まないHotFixの場合、MS番号にPackageDescriberで入力できない文字が含まれる場合、自動更新を行うためには「識別情報」の入力が必要です。 ・Microsoft社のHotFixの場合、「MS番号」、「識別情報」ともに情報を入力していないhotfixは自動更新の対象となりません。緊急度「最高」、または「高」を指定する場合は、いずれかを必ず指定してください。

※1

- 緊急度の種類により管理サーバが自動ダウンロードを行った際の処理が異なります。以下の表を参考にしてください。

緊急度	コンピュータの電源状態	パッケージ登録後の処理
最高	電源ON	即座に自動更新通知を発行します。
	電源OFF	即座に自動更新通知を発行しますが、電源OFFの場合、自動更新は行われません。次回コンピュータの起動時に、パッケージに設定された情報に基づきこのパッケージが適用済みかどうかを判断し、未適用のパッケージのみを配信します。
高	電源ON	管理サーバで指定した時刻に自動更新を行います。
	電源OFF	次回コンピュータの起動時に自動更新を行います。パッケージに設定された情報に基づきこのパッケージが適用済みかどうかを判断し未適用のパッケージのみを配信します。
一般		自動更新では配信されません。 管理サーバでシナリオを作成し、手動で配信してください。
低		

- 自動更新の対象になるためには、緊急度以外に以下の項目の設定が必要になります。設定しない場合は、緊急度が「最高」、「高」でも自動更新で配信は行われません。管理サーバでシナリオを作成し、配信してください。
 - ・HotFixの場合: MS番号 もしくは識別情報
 - ・サービスパックの場合: メジャーバージョン、マイナーバージョン
 - ・アプリケーションの場合: 表示名、表示バージョン もしくは識別情報
- 緊急度が「最高」パッケージの場合、パッケージの対象OSであればすべてのコンピュータに対し自動更新通知を発行します。ただし、電源OFF、自動更新の設定が常にOFFのコンピュータに対しては自動更新は行われません。

※2

- メジャーバージョンとマイナーバージョンに無効な値を入力すると、自動的に補正されます。
サービスパックの場合、メジャーバージョンとマイナーバージョンは入力必須です。以下の例)を参考にして入力してください。

例)Windows Server 2008/Windows 7 の場合

OS種別	サービスパック	メジャーバージョン	マイナーバージョン
Windows Server 2008	SP1	1	0
	SP2	2	0
Windows 7	SP1	1	0

・タイプで「サービスパック」を選択した場合

The screenshot shows the 'PackageCreation' window of the 'PackageDescriber' application. The 'Basic' tab is active. A red rectangle highlights the 'Type' dropdown menu, which is set to 'Service Pack'. Below it, the 'MS Number' field is empty, and the 'Major Version' and 'Minor Version' fields are also empty. To the right, the 'Urgency' dropdown is set to 'General'. A text box provides an example: 'MS Q number is input with KB number and version. Example: Windows 2000 Service Pack 4 case, MS Q number: Q327194, Major version: 4, Minor version: 0'.

基本

メジャーバージョン/マイナーバージョン

タイプで「サービスパック」を選択した場合、「メジャーバージョン」、および「マイナーバージョン」を入力してください。
「0～65535」の範囲で設定できます。
Microsoft社のサービスパックの場合、「メジャーバージョン」、および「マイナーバージョン」欄に入力した番号と現在のOSにインストールされているサービスパックのバージョンを比較し、適用されているかどうかを判断します。必ず正しい番号を入力してください。(※2)

・タイプで「アプリケーション」を選択した場合

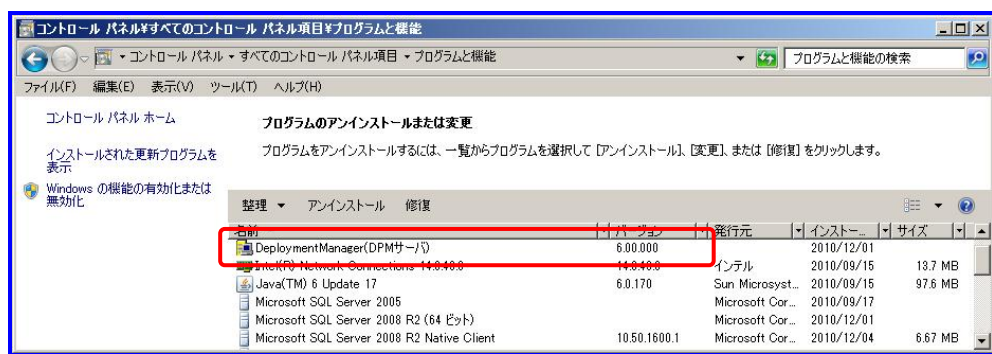
The screenshot shows the 'PackageCreation' window of the 'PackageDescriber' application. The 'Basic' tab is active. A red rectangle highlights the 'Type' dropdown menu, which is set to 'Application'. Below it, the 'Display Name' and 'Display Version' fields are empty. To the right, the 'Urgency' dropdown is set to 'General'. A text box provides an example: 'Application display name and display version are input. Please refer to the user guide for details.'

基本

表示名	タイプで「アプリケーション」を選択した場合、表示名を入力します。 入力できる文字数は、511Byte(半角511文字)です。 自動更新対象のパッケージとして登録する場合は、「プログラムと機能」に表示されるアプリケーション名を入力してください。(※3) インストールしても「プログラムと機能」に表示されないアプリケーションについては、識別情報を入力してください。詳細については、「6.2.5 識別情報」を参照してください。
表示バージョン	タイプで「アプリケーション」を選択した場合、表示バージョンを入力します。 「プログラムと機能」にバージョン番号が表示されない場合は、何も入力しないでください。 自動更新対象のパッケージとして登録する場合、「プログラムと機能」に表示されるバージョンを入力してください。(※3)「プログラムと機能」にバージョン番号が表示されない場合は、何も入力しないでください。 入力できる文字数は、126Byte(半角126文字)です。

※3

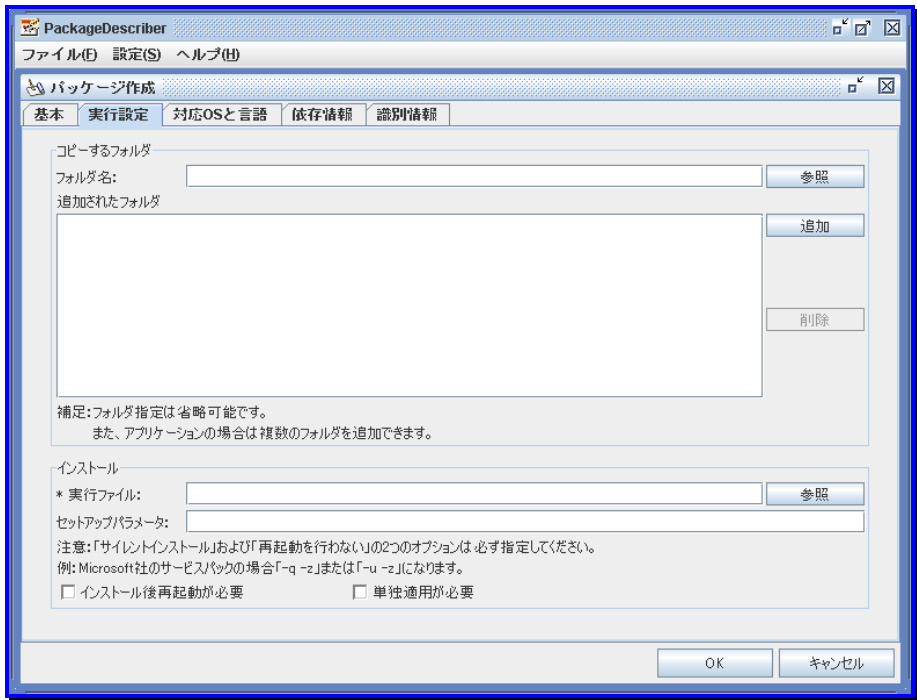
例)「プログラムと機能」に表示される「表示名」と「表示バージョン」です。



6.2.2. 実行設定情報

パッケージの実行設定情報の入力方法を説明します。

PackageDescriber の「ファイル」メニュー→「パッケージ作成」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ作成」画面が表示されますので、「実行設定」タブの各項目を設定します。



パッケージ作成	
実行設定	
コピーするフォルダ	
フォルダ名	パッチ、アプリケーションが格納されているフォルダ名を入力します。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字/全角127文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。
「参照」	「参照」ボタンをクリックして、パッチ/アプリケーションが格納されているフォルダを選択します。
「追加」	「フォルダ名」を指定して「追加」ボタンをクリックすると、「追加されたフォルダ」に追加します。
追加されたフォルダ	追加したフォルダを表示します。 ・サービスパック、およびHotFixの場合、追加できるフォルダは一つです。 ・アプリケーションの場合、複数のフォルダを追加できます。
「削除」	「削除」ボタンをクリックして、「追加されたフォルダ」で選択したフォルダを削除します。

インストール	
実行ファイル (設定必須)	実行ファイル名を入力します。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 実行ファイル名は、%xxを含むファイルは登録しないでください。%xxを含むパッケージは、管理サーバに正しくダウンロードできません。 「xx」は、16進数の0～fです。例)file%9d.exe ・実行ファイルには、以下のすべての条件を満たしているものを指定してください。 -サイレントインストールができること。(ファイルを実行中にキー入力など応答が必要ないこと、またはバッチファイルを作成して、サイレントインストールにできること。) -インストール中にOSの再起動が発生しないこと。 -ローカルシステムアカウントでインストールできること。(ネットワーク参照しない。) -ファイルサイズの合計が2GByteを超えないこと。 -実行中にプロセスを多段階に生成(実行ファイル→子プロセス→孫プロセス)する場合、生成した子プロセスは孫プロセスの終了を待ってから終了すること。ただし、実行ファイルがbatのようなスクリプトである場合は、実行ファイルは生成した子プロセスの終了を待ってから終了すること。
「参照」	「参照」ボタンをクリックして、実行ファイルを選択します。
セットアップパラメータ	実行ファイルに対するセットアップパラメータを指定します。 入力できる文字数は、128Byte(半角128文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 サービスパック/HotFixの場合、「実行後再起動しない」と「無人モード」、または「Quietモード」の二つのパラメータを指定してください。 例) Windows Server 2008の場合 ・実行後再起動しない:/norestart ・無人モード:/unattend ・Quietモード:/quiet サービスパック、HotFixのパラメータは、あらかじめ実行ファイルに「/h」、または「-?」を指定して実行し、確認してください。 なお、Windows XP SP2/SP3を指定し、かつOEM固有のドライバがインストールされている場合は、「コマンドプロンプトを表示せずに処理を実行」(「-o」)も指定してください。
インストール後再起動が必要	パッケージの適用後に再起動する場合、設定します。自動更新方式による適用時に有効です。
単独適用が必要	単独での適用が必要なパッチ、アプリケーション(例えば、サービスパック)の場合に設定します。チェックボックスにチェックを入れると、適用前に自動で再起動します。自動更新方式による適用時に有効です。

重要

- 登録されたサービスパック/HotFix/アプリケーションは、管理サーバの内部フォルダにコピーします。登録に必要な空き容量は、登録するサービスパック/HotFix/アプリケーションの容量の約2倍です。
- ここで登録できるサービスパック/HotFix/アプリケーションはサイレントインストール型であり、インストール後に再起動をしないものに限りです。(デジタル署名情報によるセキュリティ警告画面が表示されるようなものの場合、適用時に管理対象マシンで確認画面が表示されインストールが続行できません。)
※サイレントインストールとは、実行形式(setup.exe や Update.exe)を実行すれば自動的にセットアップを行う、「次へ」のクリックやキー入力が必要ない形式のことです。
※有効にするために再起動が必要なサービスパック/HotFix などの場合は再起動を行わないオプションをつけてイメージを登録し、シナリオで「パッケージ実行後に再起動を行う」オプションを設定するようにしてください。

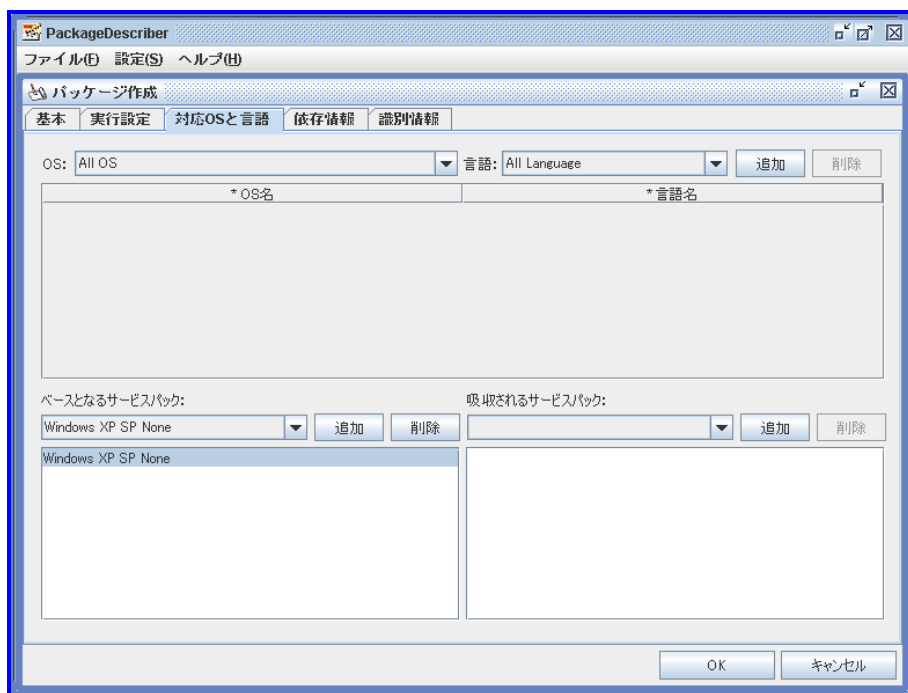
ヒント

パッチの登録は、フォルダ単位で行われます。一つのフォルダ内には一つのパッチのみを格納するようにしてください。

6.2.3. 対応 OS と言語情報

作成するパッケージの対応 OS と言語情報の入力方法を説明します。

PackageDescriber の「ファイル」メニュー→「パッケージ作成」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ作成」画面が表示されますので、「対応 OS と言語」タブの各項目を設定します。



パッケージ作成	
対応OSと言語	
OS (設定必須)	パッケージを適用するOSを選択します。パッケージが対応しているOSを選択してください。 「All OS」を選択した場合は、「Other OS」以外のすべてのOSが対象になります。また、OS情報を意識せず、すべてのマシンに適用します。
言語 (設定必須)	パッケージを適用するOSの言語を選択します。
「追加」	選択した「OS」、「言語」を追加します。
「削除」	選択した「OS」、「言語」を削除します。
ベースとなるサービスパック	サービスパック/HotFix/アプリケーションが適用できる前提となるサービスパックを設定します。「追加」、「削除」ボタンでサービスパックを追加、および削除ができます。
吸収されるサービスパック	次期サービスパックを設定します。「ベースとなるサービスパック」と併用して使用します。「追加」「削除」ボタンでサービスパックを追加、および削除ができます。 例)「ベースとなるサービスパック」にWindows Server 2008 SP2を、「吸収されるサービスパック」にWindows Server 2008 SP3を入力すると、【SP2が適用されていて、SP3は未適用の管理対象マシンに適用】という条件になります。

6.2.4. 依存情報

パッケージの依存情報の設定方法を説明します。

パッケージを適用する際に依存情報をチェックして、依存条件を満たす場合のみ適用を行います。

依存条件は、以下の3種類から指定します。

- ・依存パッケージ
- ・依存ファイル情報
- ・依存レジストリ情報

注意

依存レジストリ情報に「>」を使用すると正しく適用できない場合があります。

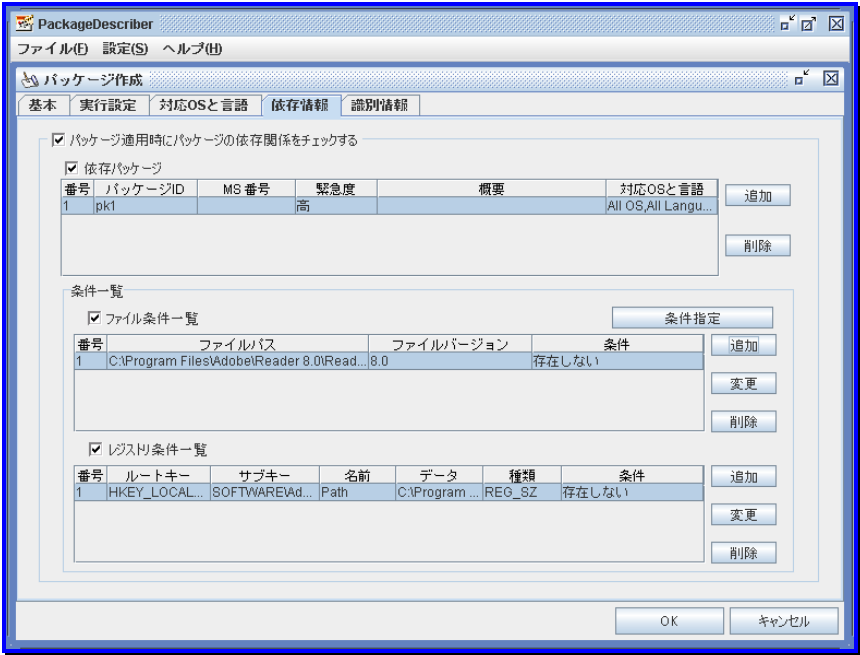
ヒント

「依存パッケージ」、「依存ファイル情報」、「依存レジストリ情報」を複合して追加すると、「依存パッケージ」の条件を満たし、「依存ファイル情報」「依存レジストリ情報」に任意に設定した条件をすべて満たした場合にのみ適用します。

例)「依存パッケージ」を「A」、「依存ファイル情報」を「B」、「依存レジストリ情報」を「C」とした場合、複合適用条件は、下記のようになります。

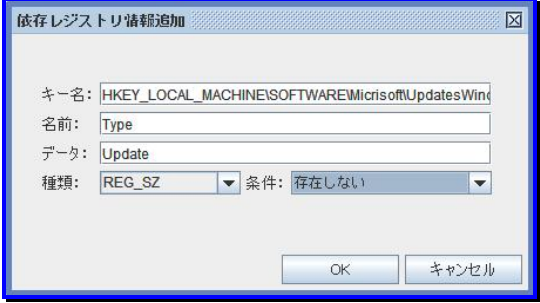
項目	追加情報	各適用条件	複合適用条件
A	1	1、2、3のすべてが適用されている	Aを満たし、かつ BとCに設定した 条件をすべて満 たす
	2		
	3		
B	1	and/orを任意に設定できます	
	2	1、2の条件のうちいずれか一つを満たす	
C	1		
	2		

- (1) PackageDescriber の「ファイル」メニュー→「パッケージ作成」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ作成」画面が表示されますので、「依存情報」タブ-「パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする」のチェックボックスにチェックを入れて、各項目を設定します。



依存情報	
パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする	「パッケージ適用時にパッケージの依存関係をチェックする」チェックボックスにチェックを入れると、設定項目が有効になります。
依存パッケージ	依存するパッケージがインストールされている場合のみ適用します。依存するパッケージは、PackageDescriberで登録されている他のパッケージから選択します。また、依存パッケージを複数追加すると、すべての依存パッケージが適用されている場合にパッケージの適用を行います。
「追加」	「追加」ボタンをクリックすると、「依存パッケージ追加」画面が表示されます。 「依存パッケージ追加」画面に表示されているパッケージは、現在パッケージWebサーバに登録されているパッケージです。リストから依存するパッケージを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。
「削除」	依存パッケージからパッケージを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、依存パッケージが削除されます。
条件一覧	

ファイル条件一覧	依存ファイル情報は、ファイルのいずれかの存在有無により適用します。パッケージを適用する条件にファイルを指定する場合、「ファイル条件一覧」のチェックボックスにチェックを入れてください。 依存条件は、「条件指定」を設定してはじめて判定されます。「ファイル条件一覧」、および「レジストリ条件一覧」に追加しただけでは判定されません。
「追加」	「追加」ボタンをクリックすると、「依存ファイル情報追加」画面が表示されます。各項目を設定して、「OK」ボタンをクリックしてください。 ・「ファイルパス」 入力できる文字数は、259Byte(半角259文字)です。使用できる文字は半角英数字/記号/全角文字です。 「ファイルパス」は、レジストリに記載されたパスを指定できます。 フルパスのレジストリ名を半角中括弧(「{」、「}」)で囲んで指定してください。 例)C:¥Program Files¥Microsoft Office¥Office配下のEXCEL.EXEを指定する場合 「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office¥9.0¥Excel¥InstallRoot¥Path」 の値が「C:¥Program Files¥Microsoft Office¥Office¥」と設定されていると仮定します。この場合、ファイルパスに {HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Office¥9.0¥Excel¥InstallRoot¥Path}EXCEL.EXEを指定してください。 ・「ファイルバージョン」 入力できる文字数は、31Byte(半角31文字)です。「x.x.x.x」の形式で入力してください。使用できる文字は、半角英数字/以下の記号です。 . ファイルバージョンを入力しない場合は、ファイルの有無が依存条件となります。 ファイルバージョンは、ファイルのプロパティの「バージョン情報」タブから確認できますが、「バージョン情報」タブが存在しない、または「バージョン情報」タブの「ファイルバージョン」の項目が空の場合、記入する必要はありません。 「ファイルバージョン」を入力して、条件に「存在しない」を設定すると、入力したバージョンが存在しない場合に一致と判断します。 例)ファイルバージョンに「4.0.0.0」を入力して、条件に「存在しない」を設定した場合、「3.0.0.0」や「5.0.0.0」のファイルが存在すると一致と判断します。「4.0.0.0」のファイルが存在する場合は、一致になりません。 ・「条件」 パッケージの適用条件を選択してください。 (※1)
「変更」	ファイルを選択し、「変更」ボタンをクリックすると、「依存ファイル情報変更」画面が表示されますので、設定を変更してください。

	「削除」	ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、「依存ファイル」が削除されます。
	レジストリ条件一覧	依存レジストリ情報は、レジストリのいずれかの存在有無により適用します。依存情報の条件にレジストリを指定する場合、「レジストリ条件一覧」のチェックボックスにチェックを入れてください。
	「追加」	「追加」ボタンをクリックすると、「依存レジストリ情報追加」画面が表示されますので、各項目を設定して、「OK」ボタンをクリックしてください。  ・「キー名」 レジストリキー名をルートキーも含めて入力してください。入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 ・「名前」 キー名に所属する値(ValueName)を入力してください。入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 ・「データ」 値のデータ(ValueData)を入力してください。「種類」で選択したタイプによって使用できる文字数、文字種が異なります。 -「REG_SZ」:1024Byte(半角1024文字)以内、半角文字 -「REG_BINARY」:1024Byte(半角1024文字)以内、半角文字 -「REG_DWORD」:0から4294967295までの半角数字 -「REG_QWORD」:0から18446744073709551615までの半角数字 ・「種類」 値のタイプ(ValueType)を選択してください。以下から選択できます。 -REG_SZ -REG_BINARY -REG_DWORD -REG_QWORD ・「条件」 パッケージの適用条件を選択してください。 「存在する」を指定した場合は、キー名と名前のみが比較されます。 REG_BINARYは、「存在しない」、「存在する」、「存在する(等しい)」、のみ選択できます。 (※2)
	「変更」	レジストリを選択し、「変更」ボタンをクリックすると、「依存レジストリ情報変更」画面が表示されますので、設定を変更してください。
	「削除」	レジストリを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、依存レジストリが削除されます。

※1

- DPM Ver5.0以前で作成したパッケージを本バージョンで読み込んだ場合、「条件」が以下のように変換されます。

DPM Ver5.0以前	本バージョン
存在しない	存在しない
存在する (ファイルバージョンが入力されている)	存在する(バージョンと等しい)
存在する (ファイルバージョンが入力されていない)	存在する(バージョンチェックなし)

- それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

設定した値		管理対象マシンの状態				
ファイルバージョン	条件	ファイルが存在する(バージョンは下記)				ファイルが存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	なし	
指定なし	存在しない	×	×	×	×	○
	存在する (バージョンチェックなし)	○	○	○	○	×
2.0.0.0	存在しない	○	×	○	○	○
	存在する (バージョンと等しい)	×	○	×	×	×
	存在する (バージョンより小さい)	○	×	×	×	×
	存在する(バージョン以下)	○	○	×	×	×
	存在する (バージョンより大きい)	×	×	○	×	×
	存在する(バージョン以上)	×	○	○	×	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

※2

- キー名、名前、データの入力に関して、半角文字の大文字小文字は区別しません。
- REG_SZ に対するデータの比較は、単純な文字列としての大小比較となります。「9.0.0.0」と「10.0.0.0」では、「9.0.0.0」が大きいと判断されます。
- DPM Ver5.0以前で作成したパッケージを本バージョンで読み込んだ場合、「条件」が以下のように表示されます。

DPM Ver5.0 以前	本バージョン
存在しない	存在しない
存在する (データが入力されている)	存在する(等しい)
存在する (データが入力されていない)	存在する

■ それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

1) キー名のみ指定の場合

設定した値	管理対象マシンの状態	
条件	存在する	存在しない
存在しない	×	○
存在する	○	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

2) 名前を指定の場合

・REG_SZ

設定した値		管理対象マシンの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	空	
空	存在しない	×	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	○	×
2.0.0.0	存在しない	○	×	○	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×	×
	存在する(より小さい)	○	×	×	○	×
	存在する(以下)	○	○	×	○	×
	存在する(より大きい)	×	×	○	×	×
	存在する(以上)	×	○	○	×	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

・REG_BINARY

設定した値		管理対象マシンの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		AA	BB	CC	なし	
空	存在しない	×	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	○	×
BB	存在しない	○	×	○	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

・REG_DWORD

設定した値		管理対象マシンの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	存在しない	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	×
2	存在しない	○	×	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×
	存在する(より小さい)	○	×	×	×
	存在する(以下)	○	○	×	×
	存在する(より大きい)	×	×	○	×
	存在する(以上)	×	○	○	×

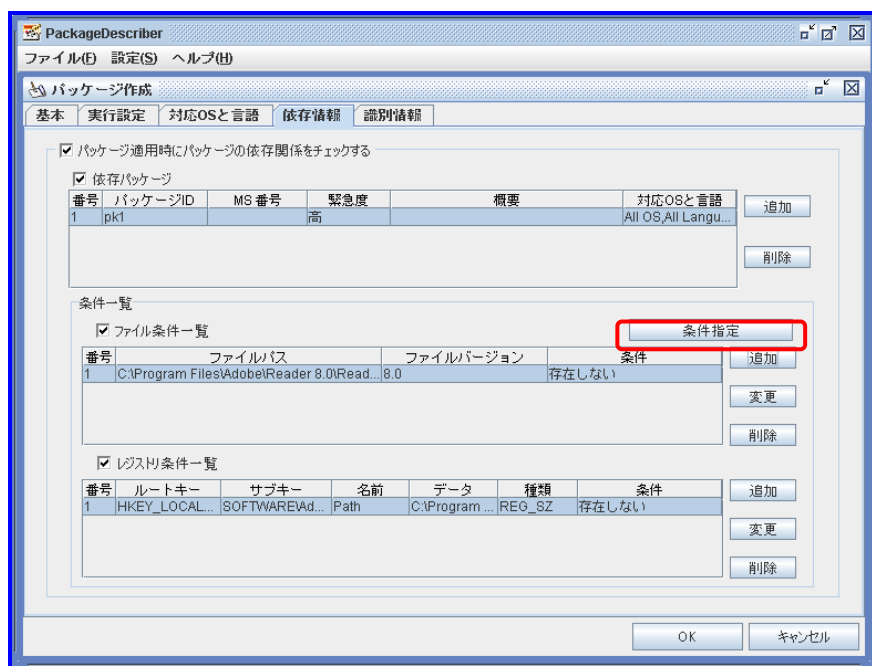
(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

・REG_QWORD

設定した値		管理対象マシンの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	存在しない	×	×	×	○
	存在する	○	○	○	×
2	存在しない	○	×	○	○
	存在する(等しい)	×	○	×	×
	存在する(より小さい)	○	×	×	×
	存在する(以下)	○	○	×	×
	存在する(より大きい)	×	×	○	×
	存在する(以上)	×	○	○	×

(○:依存条件を満たす ×:依存条件を満たさない)

- (2) 「条件一覧」グループボックスの「ファイル条件一覧」、および「レジストリ条件一覧」の設定後は、「条件指定」ボタンをクリックして、条件を設定します。



注意

- 「and」「or」条件に使用されている条件は削除できません。
- 削除する条件より下のファイル条件、レジストリ条件が「and」「or」条件で指定されている場合は、この条件は削除できません。
例)3番目のファイル条件が「and」「or」条件に使用されている場合、1番目と2番目のファイル条件は削除できません。

- 1) 「条件指定」画面が表示されますので、「追加」ボタンをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled '条件指定' (Condition Specification). It contains a table with two columns: '条件番号' (Condition Number) and '条件詳細' (Condition Detail). The first row has '1' in the first column and 'File1|Reg1' in the second. Below the table are four buttons: '追加' (Add), '変更' (Change), '削除' (Delete), and '閉じる' (Close). The '追加' button is highlighted with a red rectangle.

ヒント

各条件番号は、「and」条件として扱われ、条件詳細の「|」で区切られた各条件は「or」条件として扱われます。

- 2) 「OR条件指定」画面が表示されますので、条件の「and」、および「or」指定をしてください。
「ファイル条件」、または「レジストリ条件」を選択し、「>>」ボタンをクリックして、「条件項目」にOR条件を追加します。
「条件項目」に追加したOR条件を削除したい場合は、「<<」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows a dialog box titled 'OR条件指定' (OR Condition Specification). It has two main sections: 'ファイル' (File) and 'レジストリ' (Registry). The 'ファイル' section contains a list box with 'File1'. The 'レジストリ' section contains a list box with 'Reg1'. Between these sections are two buttons: '>>' and '<<'. To the right of these sections is a large empty box labeled '条件項目' (Condition Item). At the bottom right are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

6.2.5. 識別情報

作成するパッケージの識別情報の設定方法を説明します。

識別情報を利用して、管理対象マシンにパッケージが適用されたかどうかを判断します。

識別情報は、パッケージをインストールしたことにより起こるファイルとレジストリの変化を「識別情報」として入力します。

例)パッケージAを登録し、管理対象マシンに配信します。

- 1) 配信前→現在どのパッチがインストールされているか
ファイル情報やレジストリはどのようになっているか
- 2) 配信後→パッケージ A が配信されると、ファイルやレジストリにどのような変化があるか

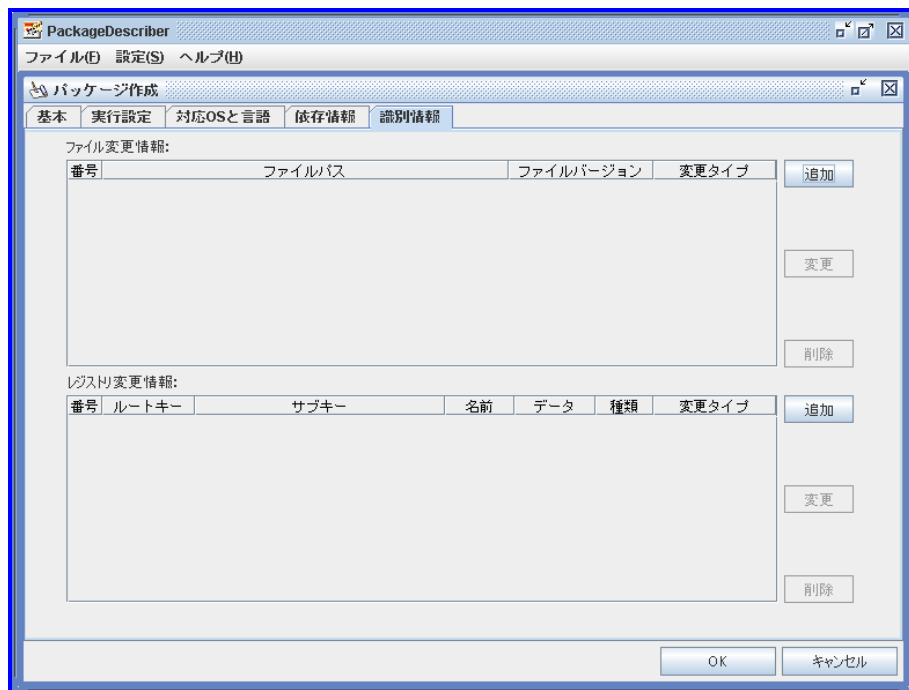
上記1)/2)を比較して得られる差分情報を「識別情報」として登録します。

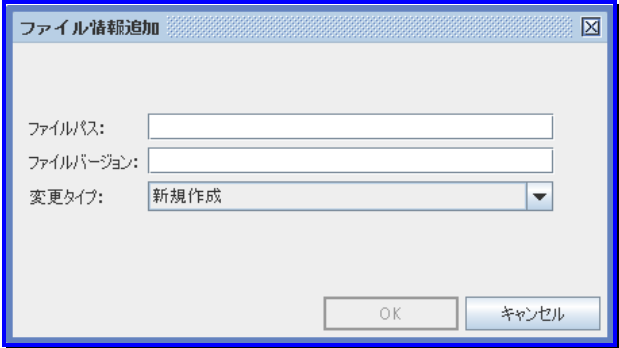
DPMでは、ここで指定した識別情報を元にパッケージの適用状況を判断します。入力したファイル変更情報とレジストリ変更情報をすべて満たした場合、適用済みと判断します。

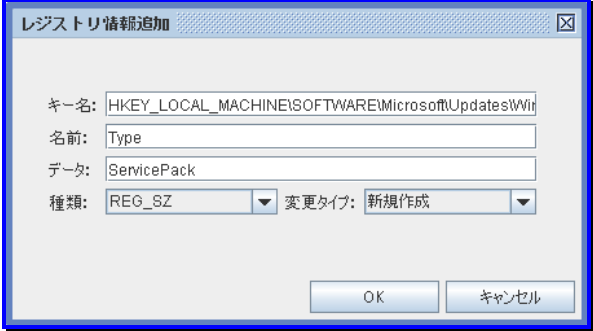
ヒント

- 作成するパッケージファイルが Microsoft 社の発行したサービスパック/HotFix である場合、識別情報を入力しなくてもレジストリに書き込まれた MS 番号(KBXXXXXX や QXXXXXX)と「基本」タブで入力した「MS 番号」を比較し、一致していれば適用済みと判断することができます。
- 作成するパッケージが Microsoft 社の発行したサービスパックの場合、識別情報を入力しなくても「基本」タブで入力した「メジャーバージョン」と「マイナーバージョン」と、現在の OS にインストールされているサービスパックのバージョンを比較し、適用されているかどうかを判断します。
- MS 番号を持っていない、または MS 番号で識別できないパッケージの場合や、レジストリなどにしか情報が残らないパッケージを適用する場合に識別情報の入力が必要になります。

- (1) PackageDescriberの「ファイル」メニュー→「パッケージ作成」をクリックすると、メインウィンドウに「パッケージ作成」画面が表示されますので、「識別情報」タブの各項目を設定します。



識別情報	
ファイル変更情報	パッケージを適用したことにより、ファイルシステムに起こる変更情報を元に適用状態の判断を行う場合に使用します。
「追加」	「追加」ボタンをクリックすると、「ファイル情報追加」画面が表示されますので、パッケージのファイル識別情報を追加してください。  ・「ファイルパス」 変化があったファイルパスとファイル名を入力します。入力できる文字数は、259Byte(半角259文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 ファイルパスは利用環境によって異なる場合があるため、システム環境変数を入力してください。(入力例については、「6.2.4 依存情報」の「ファイル条件一覧」-「追加」を参照してください。) ・「ファイルバージョン」 ファイルのバージョンを入力します。入力できる文字数は、31Byte(半角31文字)です。使用できる文字は、半角英数字/以下の記号です。 . ファイルバージョンを入力しない場合は、ファイルの有無が識別条件となります。 ファイルバージョンは、ファイルのプロパティの「バージョン情報」タブから確認できますが、「バージョン情報」タブが存在しない、または「バージョン情報」タブの「ファイルバージョン」の項目が空の場合、記入する必要はありません。 ・「変更タイプ」 変更タイプを設定します。以下から選択できます。 -新規作成: パッケージの適用で新規生成される場合に選択します。 -書き換え: パッケージの適用で、無条件に書き換えられる場合に選択します。 -バージョンアップ: パッケージの適用で、既存のファイルより新しい時にのみ書き換えられる場合に選択します。 -削除: パッケージの適用で削除される場合に選択します。 (※1)
「変更」	ファイルを選択し、「変更」ボタンをクリックすると、「ファイル情報変更」画面が表示されますので、設定を変更してください。
「削除」	ファイルを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、ファイルが削除されます。

レジストリ変更情報	パッケージを適用したことにより、変更のあったレジストリ情報を元にパッケージの適用の判断を行う場合に使用します。
「追加」	「追加」ボタンをクリックすると、「レジストリ情報追加」画面が表示されますので、パッケージのレジストリ識別情報を追加してください。  ・「キー名」 レジストリキー名をルートキーも含めて入力してください。入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 ・「名前」 キー名に所属する値(ValueName)を入力してください。 入力できる文字数は、255Byte(半角255文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号です。 ・「データ」 値のデータ(ValueData)を入力してください。「種類」で選択したタイプによって使用できる文字数、文字種が異なります。 -「REG_SZ」: 1024Byte(半角1024文字)以内、半角文字 -「REG_BINARY」: 1024Byte(半角1024文字)以内、半角文字 -「REG_DWORD」: 0から4294967295までの半角数字 -「REG_QWORD」: 0から18446744073709551615までの半角数字 ・「種類」 値のタイプ(ValueType)を選択してください。以下から選択できます。 -REG_SZ -REG_BINARY -REG_DWORD -REG_QWORD ・「変更タイプ」 変更タイプを設定します。以下から選択できます。 -新規作成: パッケージの適用で新規生成される場合に選択します。 -書き換え: パッケージの適用で書き換えられる場合に選択します。 -削除: パッケージの適用で削除される場合に選択します。 (※2)
「変更」	追加したパッケージのレジストリ識別情報を修正します。
「削除」	追加したパッケージのレジストリ識別情報を削除します。

※1

■それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

設定した値		管理対象マシンの状態				
ファイルバージョン	条件	ファイルが存在する(バージョンは下記)				ファイルが存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	なし	
指定なし	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	○	×
	バージョンアップ	×	×	×	○	×
	削除	×	×	×	×	○
2.0.0.0	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×	×
	バージョンアップ	×	○	○	×	×
	削除	×	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

※2

■それぞれの条件を指定した場合の動作は、以下となります。

1)キー名のみ指定の場合

設定した値		管理対象マシンの状態	
条件		存在する	存在しない
新規作成		○	×
削除		×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

2)名前を指定した場合

・REG_SZ

設定した値		管理対象マシンの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		1.0.0.0	2.0.0.0	3.0.0.0	空	
空	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	○	×
	削除	×	×	×	×	○
2.0.0.0	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×	×
	削除	×	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

・REG_BINARY

設定した値		管理対象マシンの状態				
データ	条件	名前が存在する				名前が存在しない
		AA	BB	CC	なし	
空	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	○	×
	削除	×	×	×	×	○
BB	新規作成	○	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×	×
	削除	×	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

・REG_DWORD

設定した値		管理対象マシンの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	×
	削除	×	×	×	○
2	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×
	削除	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

・REG_QWORD

設定した値		管理対象マシンの状態			
データ	条件	名前が存在する			名前が存在しない
		1	2	3	
空	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	×	×	×
	削除	×	×	×	○
2	新規作成	○	○	○	×
	書き換え	×	○	×	×
	削除	×	×	×	○

(○:識別条件を満たす ×:識別条件を満たさない)

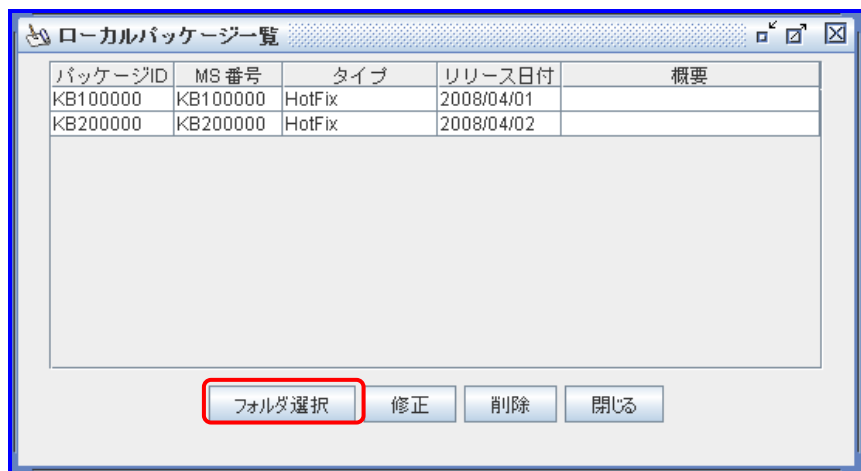
- (2) 必要な情報を入力後「OK」ボタンをクリックすると、「パッケージ情報ファイル」が作成されます。
「キャンセル」ボタンをクリックすると、入力情報はすべて破棄され「パッケージ作成」画面を閉じます。

以上で、パッケージ作成に必要な情報の入力完了です。
「パッケージ作成」画面の「OK」ボタンをクリックして、パッケージを作成してください。

6.3. パッケージ修正/削除

作成したパッケージの修正/削除方法について説明します。

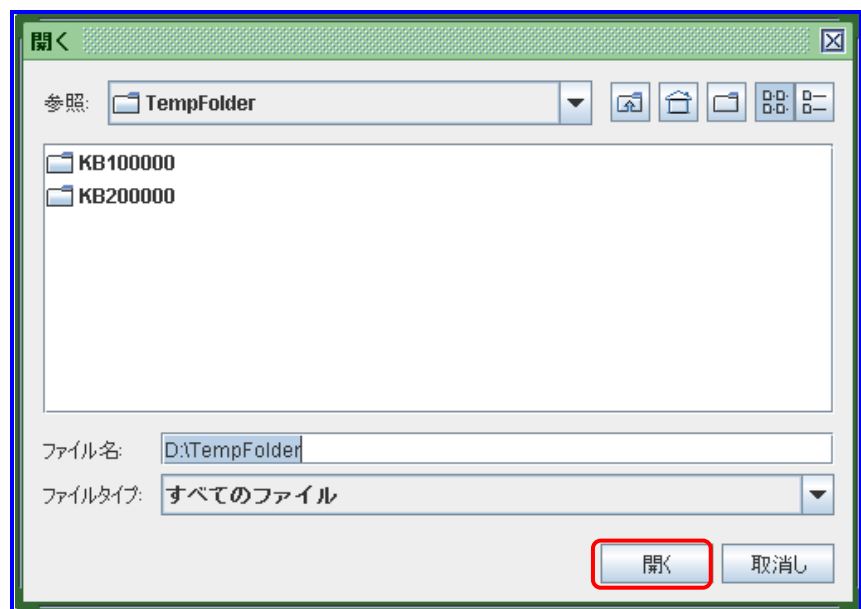
- (1) PackageDescriber の「ファイル」メニュー→「パッケージ修正/削除」をクリックすると、「ローカルパッケージ一覧」画面が表示されますので「フォルダ選択」ボタンをクリックします。



ヒント

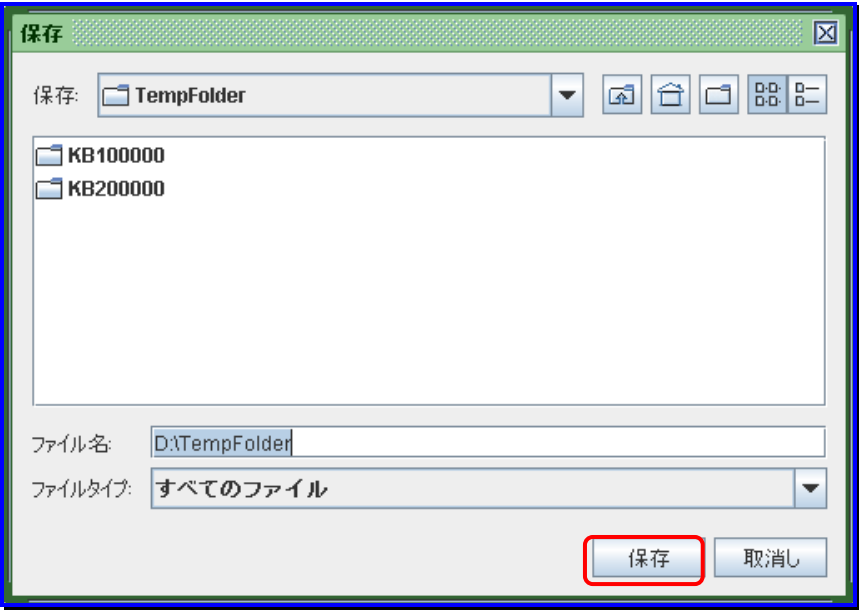
「ローカルパッケージ一覧」画面の各項目名をクリックすることで、パッケージのソート順を変更することができます。

- (2) フォルダの選択ダイアログボックスが表示されますので、修正/削除したいパッケージのフォルダを選択し、「開く」ボタンをクリックします。



- (3) 「ローカルパッケージ一覧」画面に指定したフォルダのパッケージが表示されますのでパッケージを選択し、修正/削除します。

(4) 修正の場合は、修正後に「保存」画面が開きますので、保存するフォルダを選択し、「保存」ボタンをクリックします。

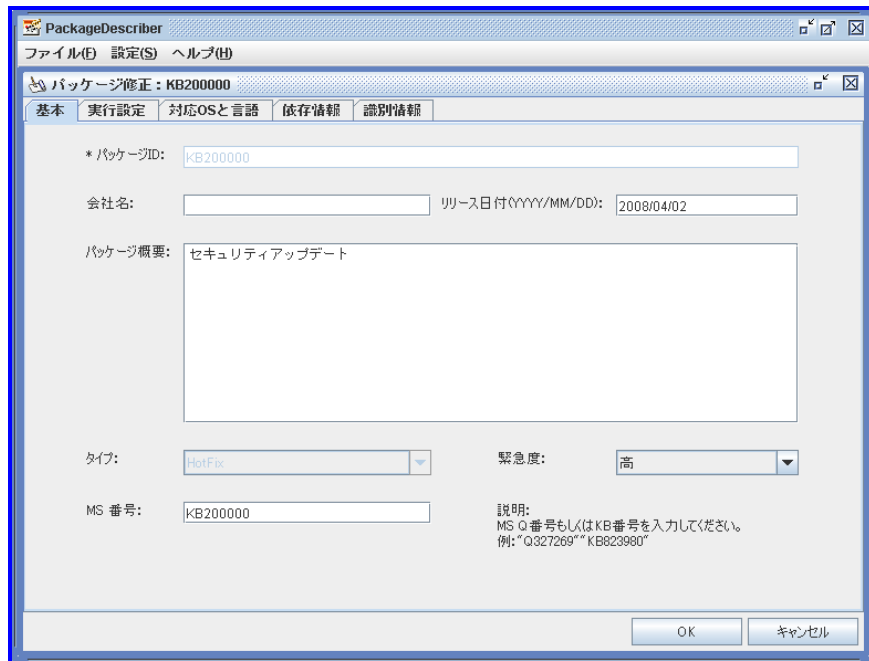


- 注意
- 最初に「ローカルパッケージ一覧」画面に表示されるパッケージ一覧は、「一時保存フォルダ」で指定したフォルダのパッケージ一覧です。
 - 「ファイル名」、「ファイルタイプ:すべてのファイル」が画面に表示されますが、フォルダを選択してください。
 - フォルダを「一時保存フォルダ」以外のフォルダに保存する場合は、誤ってバックアップのパッケージを上書きしないために、そのフォルダに同一パッケージIDのパッケージが存在しないことを確認してください。

(5) 「ローカルパッケージ一覧」画面からパッケージを選択し、修正/削除を行います。

ローカルパッケージ一覧		
	「修正」	「修正」ボタンをクリックすると、「パッケージ修正」画面を起動します。
	「削除」	「削除」ボタンをクリックすると、選択したパッケージを削除します。
	「閉じる」	「閉じる」ボタンをクリックすると、画面を閉じます。

- (6) 「ローカルパッケージ一覧」画面の「修正」ボタンをクリックすると、「パッケージ修正」画面が表示されますので、「基本」、「実行設定」、「対応 OS と言語」、「依存情報」、「識別情報」タブの各項目を修正してください。



重要

既にパッケージWebサーバに追加されたパッケージを修正した場合は、「ファイル」メニュー→「パッケージWebサーバへの登録/削除」→「登録/再登録」ボタンをクリックして、再登録を行ってください。詳細については、「6.4 パッケージWebサーバへの登録/削除」を参照してください。

ヒント

「基本」タブの「パッケージ ID」と「タイプ」は修正できません。各タブの説明については、「6.2.1 基本情報」から「6.2.5 識別情報」を参照してください。

6.4. パッケージ Web サーバへの登録/削除

作成したパッケージの、パッケージ Web サーバへの登録/削除方法について説明します。
作成したパッケージはパッケージ Web サーバに登録することで、管理サーバから自動ダウンロードできます。

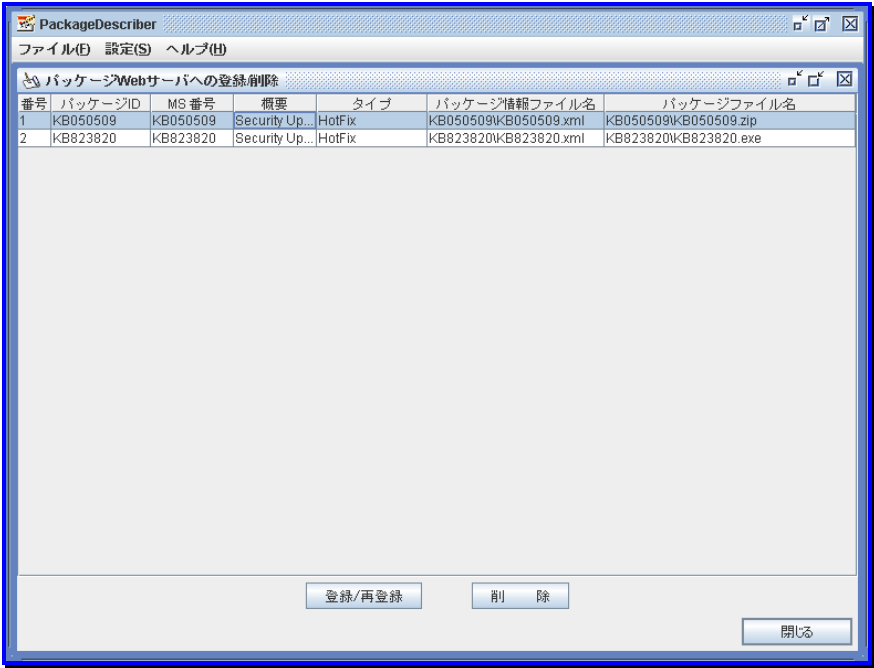
重要

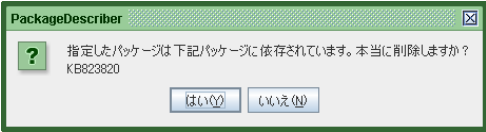
パッケージWebサーバへ登録する際は、HTTPサービスを停止してから作業を行ってください。
例)・World Wide Web Publishing Service(IIS)
・Apache Tomcat

ヒント

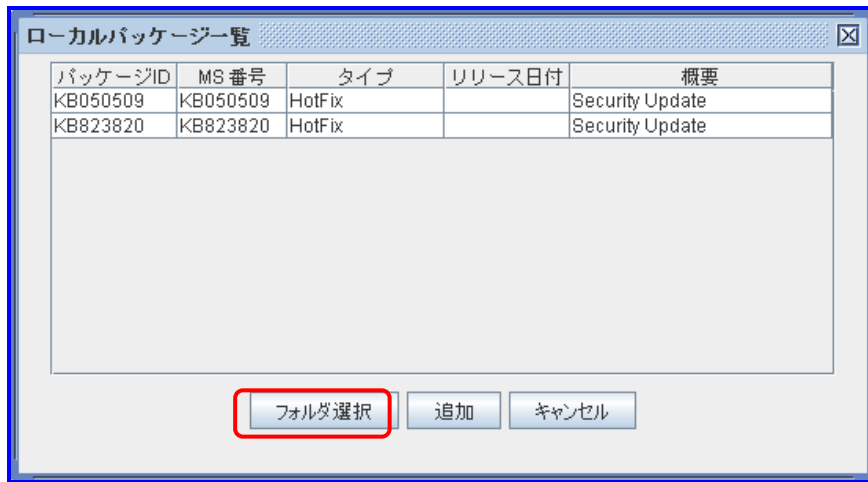
パッケージWebサーバへ登録していないパッケージは、管理サーバから自動ダウンロードできません。

- (1) PackageDescriber の「ファイル」メニュー→「パッケージ Web サーバへの登録/削除」をクリックすると、「パッケージ Web サーバへの登録/削除」画面が表示されます。
- 「パッケージ Web サーバへの登録/削除」画面では、パッケージ Web サーバに登録したパッケージが表示されます。



パッケージWebサーバへの登録/削除	
「登録/再登録」	「登録/再登録」ボタンをクリックすると、「ローカルパッケージ一覧」画面が表示されます。「ローカルパッケージ一覧」画面については、(2)の手順を参照してください。
「削除」	パッケージをパッケージWebサーバから削除します。 削除したいパッケージを選択し、「削除」ボタンをクリックすると、確認画面が表示されますので、削除する場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。 削除を選択したパッケージが他のパッケージから依存されている場合、以下の確認画面が表示されます。削除する場合は、「はい」ボタを、削除しない場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。 

- (2) 「登録/再登録」ボタンをクリックすると、「ローカルパッケージ一覧」画面が表示されますので、「フォルダ選択」ボタン→「開く」ダイアログボックスからフォルダを選択して、パッケージをパッケージ Web サーバに登録/再登録してください。



ローカルパッケージ一覧	
「フォルダ選択」	「ローカルパッケージ一覧」画面で登録/再登録したいパッケージのフォルダを選択および変更ができます。詳細については、「6.3 パッケージ修正/削除」を参照してください。
「追加」	登録したいパッケージを選択し、「追加」ボタンをクリックすると、パッケージをWeb共有フォルダにコピーしパッケージWebサーバに登録します。 また、「パッケージWebサーバへの登録/削除」画面に表示されます。 パッケージを再登録する際、当該パッケージが他のパッケージから依存されている場合は、以下の確認画面が表示されます。再登録する場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。登録しない場合は、「いいえ」ボタンをクリックしてください。 選択したパッケージが存在しない場合は、エラーメッセージが表示されます。
「キャンセル」	「キャンセル」ボタンをクリックすると、操作を中止して「ローカルパッケージ一覧」画面を閉じます。

6.5. オンライン更新

DPM に対応している OS に対して、新しいサービスパックがリリースされた場合(Windows Server 2003 に SP3 がリリースされた場合)など、OS 定義ファイルと言語定義ファイルをアップデートし、新しいサービスパックの情報を追加する必要があります。

PackageDescriberは、「オンライン更新」機能を利用して、DPMの公式Webサイトから最新の定義ファイルをダウンロードし、更新する機能を提供しています。

この機能を利用することにより、将来リリースされるパッチ、アプリケーションでも正しく情報ファイルを作成することができます。現在、本機能を使用するための情報(「OS情報URL」欄と「言語情報URL」欄)は空になっています。本機能をご利用頂く状況になった場合は、製品サイトなどでご案内します。

オンライン更新の方法について説明します。

- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DPM PackageDescriber」を選択して、PackageDescriberを起動します。

- (2) PackageDescriber の「ヘルプ」メニュー→「オンライン更新」をクリックすると、「オンライン更新」画面が表示されますので、各項目を入力し、「更新」ボタンをクリックします。
- 「オンライン更新」が開始されると、説明欄にオンライン更新の状況と結果が表示されます。

オンライン更新

OS情報URL:

言語情報URL:

☐ プロキシ

プロキシ: ポート:

説明:「更新」ボタンを押すと、オンライン更新が行われます。

更新 保存 & 閉じる

オンライン更新	
OS情報URL	OS定義ファイルの公式URLを入力します。デフォルトの設定から変更する必要はありません。
言語情報URL	言語定義ファイルの公式URLを入力します。デフォルトの設定から変更する必要はありません。
「プロキシ」	プロキシサーバを経由してDPMのWebサイトにアクセスする場合、チェックボックスにチェックを入れます。 直接インターネットと接続する場合は、チェックを入れる必要はありません。
プロキシ	プロキシサーバのアドレスを入力します。259Byt以内で入力できます。 「プロキシ」のチェックボックスにチェックを入れた場合は、必ずドメイン名、またはIPアドレスを入力してください。
ポート	プロキシサーバのポート番号を指定してください。 「1～65535」の範囲で設定できます。
「更新」	入力したOS情報URLと言語情報URLからファイルをダウンロードして保存します。
「保存&閉じる」	OS情報URLと言語情報URLをファイルに保存して画面を閉じます。

ヒント

7. その他ツール

本章では、DPM で使用するツールについて説明します。

7.1. ポート開放ツール

「ポート開放ツール」は、Windowsのファイアウォールが有効となっている場合にDPMで使用するポート/プログラムを開放するためのツールです。

DPMサーバ/DPMクライアントのインストール時に、本ツールにてポート/プログラムを自動で開放します。

また、DPMサーバ/DPMクライアントのインストール後(ファイアウォール機能を有効に切り替えた場合など)に本ツールを使用して、ポート/プログラムを開放することもできます。

7.1.1. ポート番号の設定

管理サーバ、管理対象マシンについて、ファイアウォール設定が有効となっている場合のポート番号/プログラムの設定については、それぞれ該当箇所を参照してください。

・管理サーバ

ファイアウォール設定を有効にしてDPMによる管理を行う場合は、以下のDPMが利用するポート/プログラムを自動開放します。

<自動開放するポート>

項目	プロトコル	プログラム
DPMサーバが利用するポート	TCP	apiserv.exe
	UDP	apiserv.exe
	TCP	bkressvc.exe
	UDP	bkressvc.exe
	TCP	depssvc.exe
	UDP	depssvc.exe
	TCP	ftsvc.exe
	UDP	ftsvc.exe
	TCP	pxemtftp.exe
	UDP	pxemtftp.exe
	TCP	pxesvc.exe
	UDP	pxesvc.exe
	TCP	rupdssvc.exe
	UDP	rupdssvc.exe
	TCP	schwatch.exe
	UDP	schwatch.exe

<自動開放しないポート>

以下は「ポート開放ツール」では、自動開放しないポートです。

項目	プロトコル	ポート番号
DPMサーバが利用するポート	TCP	80

※ポート番号を80(既定値)から変更している場合は、適宜読み替えてください。

・管理対象マシン

管理対象マシンのファイアウォール設定を有効にしてDPMによる管理を行う場合は、以下のDPMが利用するポート/プログラムを自動開放します。

項目	プロトコル	ポート番号/プログラム
電源状態の確認	ICMP	8(Echo 着信)
リモートアップデート、 自動更新、 ファイル/フォルダ詳細の表示	TCP	rupdsvc.exe
	UDP	rupdsvc.exe
シャットダウン	TCP	DepAgent.exe
	UDP	DepAgent.exe

ヒント

- 以下のサービスが停止している状態では、ポート開放ツールによるポート/プログラムの開放はできません。
 - ・Windows Firewall/Internet Connection Sharing(ICS)
 - ・Windows Firewall
 なお、Windows Server 2003(SP1/SP2)/Windows Server 2003 R2 では、デフォルトで上記サービスが無効となっています。上記サービスを起動させた後にポート開放ツールを実行してください。
- DPM のリモートアップデート機能を用いて、ポートが未開放のマシンに対してポート開放ツールを適用できません。

7.1.2. マシンごとの適用

管理サーバ、管理対象マシンのポート開放ツールを適用する方法について説明します。

注意

ポート開放ツールを実行するためには、管理サーバではDPMサーバ、管理対象マシンではDPMクライアントがインストールされている必要があります。

- (1) ポート開放ツールを適用するマシンのDVDドライブにインストール媒体をセットします。
- (2) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

- ・管理サーバの場合
D:¥TOOLS¥OPENPORT¥DepOpnPt.exe -m
- ・管理対象マシンの場合
D:¥TOOLS¥OPENPORT¥DepOpnPt.exe -c

(「D:」は、DVDドライブを指します。)

ヒント

コマンドオプションに"-s"を指定した場合、メッセージを表示しないサイレントモードで実行させることができます。

例)管理対象マシンの場合

D:¥TOOLS¥OPENPORT¥DepOpnPt.exe -s -c

(「D:」は、DVDドライブを指します。)

(3) 確認画面が表示されますので、ポートの開放を行う場合は、「OK」をボタンクリックします。



以上で、ポートの開放は完了です。

7.2. ディスク構成チェックツール

ディスク構成チェックツールについて説明します。

ディスク構成チェックツールは、ネットワークを介して、管理対象マシンの HDD 構成(HDD の台数やパーティション構成)情報を確認します。

(確認できる項目)

- ・HDD の台数
- ・パーティション構成(ファイルシステム、パーティションサイズ)
- ・ディスク管理方式(ベーシック/ダイナミック/GPT)
- ・バックアップ/リストア時に指定するディスク番号/パーティション番号

重要

- バックアップ/リストアを実行する際には、本機能にて対象となる HDD のディスク番号を確認し、バックアップ/リストアシナリオのディスク番号に適切な値を指定してください。
- ディスクビューアのデフォルトの設定では、隠しパーティションがすべて表示されません。したがって管理対象マシン上の OS で表示されるパーティション構成とディスクビューアで表示されるパーティション構成が異なる場合があります。
- ディスクビューアで表示されるディスクサイズ、パーティションサイズと管理対象マシンで表示されるディスクサイズ、パーティションサイズでは誤差が生じる場合があります。

注意

- パーティション未作成のベーシックディスクをダイナミックディスクに変換したディスクに対してディスク構成チェックシナリオを実行すると、ディスクビューアでは 0GByte のベーシックディスクと表示されます。
- ディスク構成チェックシナリオで確認できるディスク構成、およびパーティション構成については、バックアップ/リストア同様の制限があります。詳細については、「ファーストステップガイド 2.2.2 バックアップ/リストアについて」、および「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」の「ファイルシステムやディスク形式の対応状況」を参照してください。また本制限によりディスク、またはパーティションの認識に失敗した場合でも、シナリオ実行エラーにはなりません。

7.2.1. シナリオの作成

ディスク構成チェックシナリオを実行するには、以下の二つの方法があります。

- ・既に用意されている System_DiskProbe シナリオを使用する。
この場合は、「7.2.2 シナリオの割り当て」を参照し、既存の System_DiskProbe を使用してください。
- ・新たに作成したディスク構成チェックシナリオを使用する
この場合は、「3.13.4 「バックアップ/リストア」タブ」を参照し、新たにディスク構成チェックシナリオを作成してください。

注意

- ディスク構成チェックシナリオは、「オプション」タブ以外の設定項目を同時に設定できません。
- シナリオの「バックアップ/リストア」タブの「パーティション設定」グループボックスで「隠しパーティションを無視する」にチェックを入れている場合でも、隠しパーティションをカウントします。ディスクビューアでディスク番号(パーティション番号)を確認する際には、ディスクビューアの「表示」メニュー→「隠しパーティションを無視する」から、隠しパーティションの表示/非表示の切り替えを行ってください。ディスクビューアについては、「7.2.5 ディスク番号(パーティション番号)の確認」を参照してください。

7.2.2. シナリオの割り当て

シナリオの割り当て方法について説明します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「マシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「シナリオを割り当てる管理対象マシン」をクリックします。
- (4) 「操作」メニューの「シナリオ割り当て」をクリックします。
- (5) メインウィンドウに「シナリオ割り当て」画面が表示されますので、「7.2.1 シナリオの作成」で作成したシナリオを割り当てます。画面については、「3.8.3 シナリオ割り当て」を参照してください。

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > マシン > Client01-PC > シナリオ割り当て

シナリオ割り当て

基本情報	
名前	Client01-PC
グループ	Group01
UUID	a88fb000-0131-1000-8010-0016971ed232
IPアドレス	192.168.0.100
MACアドレス	00-16-97-1e-d2-32(*)
Deploy-OS	デフォルト値を使用
OS名	Microsoft Windows 7 Professional
サービスパック	

シナリオ設定

☒ シナリオ割り当て

シナリオ名: Backup 参照

☐ シナリオ割り当て解除

☐ シナリオ実行管理スケジュール

☒ 一回のみ ☐ 日単位 ☐ 週単位 ☐ 月単位

日付: 2010/12/31

時刻: 時 分

すぐに実行 OK キャンセル

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2011. Version: DeploymentManager 8.0

ヒント

「System_DiskProbe」シナリオは、「Built-in Scenarios」シナリオグループに格納されています。

7.2.3. シナリオの実行

ディスク構成チェックシナリオの実行方法について説明します。

シナリオの実行方法については、「3.8.6 シナリオ実行」を参照してください。

メインウィンドウの「シナリオ実行一覧」グループボックスで、シナリオを実行した管理対象マシンの「状態」欄が「シナリオ実行完了」と表示されたら、シナリオは完了です。



ディスク構成チェックシナリオの結果は、以下のフォルダに格納されます。

格納フォルダ : <イメージ格納用フォルダ>%probe

ファイル名 : probe_ **MAC アドレス**.log

※**MAC アドレス**は、ターゲットのマシンに実装されているLANボードのMACアドレスとなります。

例) C:\Deploy\%probe%\probe_001122334455.log

イメージ格納用フォルダの設定については、「管理」ビュー-「DPMサーバ」-「設定」メニューの「詳細設定」より設定できます。画面については、「2.7.1.1 「全般」タブ」を参照してください。

重要

シナリオを実行する際に管理対象マシンの電源が ON 状態の場合は、シナリオ実行は開始されません。以下のいずれかの操作を行ってください。

- ・「シナリオ編集」画面から、「オプション」タブ-「シナリオ実行動作設定」グループボックスにて、「シナリオ開始時に対象マシンの OS を再起動する」のチェックを入れる。

※Windows の管理対象マシンが以下の状態の場合は、「シナリオ開始時に対象マシンの OS を再起動する」にチェックを入れていても再起動できません。

- ワークステーションロックによりロックされている状態
- パスワード付きスクリーンセーバによるロック状態
- リモートデスクトップ、ターミナルサービス、その他リモート接続ソフトから接続された状態
- 編集中のデータやシャットダウン要求に応答しないアプリケーションが存在する状態

- ・手動で管理対象マシンを再起動する。

7.2.4. シナリオ実行結果の確認

ディスク構成チェックシナリオの実行結果を確認する方法について説明します。

- (1) Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。
- (2) ツリービュー上で、「リソース」アイコン→「マシン」アイコン→「ディスク構成チェックシナリオの実行結果を確認するマシングループ」アイコンをクリックします。
- (3) メインウィンドウに「管理対象マシン一覧」グループボックスが表示されますので、「状態」からディスク構成チェックシナリオの実行結果を確認してください。

ヒント

「状態」欄をクリックすると、「監視」ビューの「シナリオ実行一覧」グループボックスが表示されます。画面については、「4.3 シナリオ実行一覧」を参照してください。

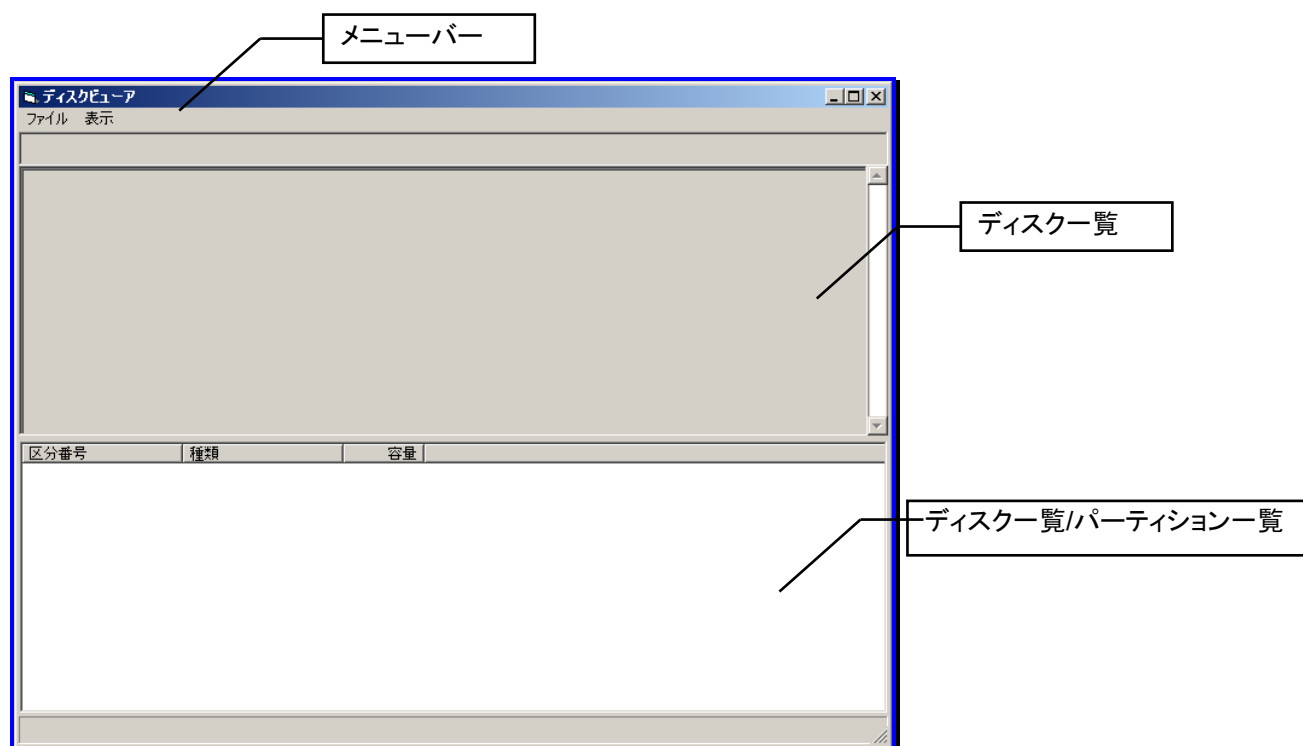
7.2.5. ディスク番号(パーティション番号)の確認

ディスクビューアでディスク番号(パーティション番号)を確認する方法について説明します。

- (1) 「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」から「ディスクビューア」を選択します。

ヒント

ディスクビューアは、ファイルを読み込むと内容を保持します。そのため、ファイルを読み込んだことがある場合は、ディスクビューア起動時、前回読み込んだファイルのディスク番号(パーティション番号)が表示されます。

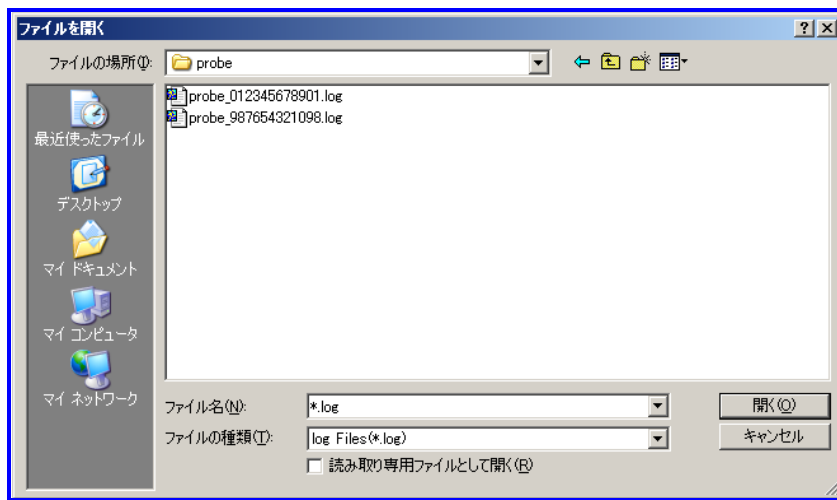


各項目の説明	
メニューバー	ログファイルの読み込み/保存/ディスク一覧/パーティション一覧の表示切り替え/隠しパーティションの表示切り替えを行います
ディスク一覧	ターゲットマシンのディスク一覧を表示します。
ディスク一覧/パーティション一覧	ディスク一覧や、画面上部のディスク一覧で選択したディスクのパーティション一覧を表示します。

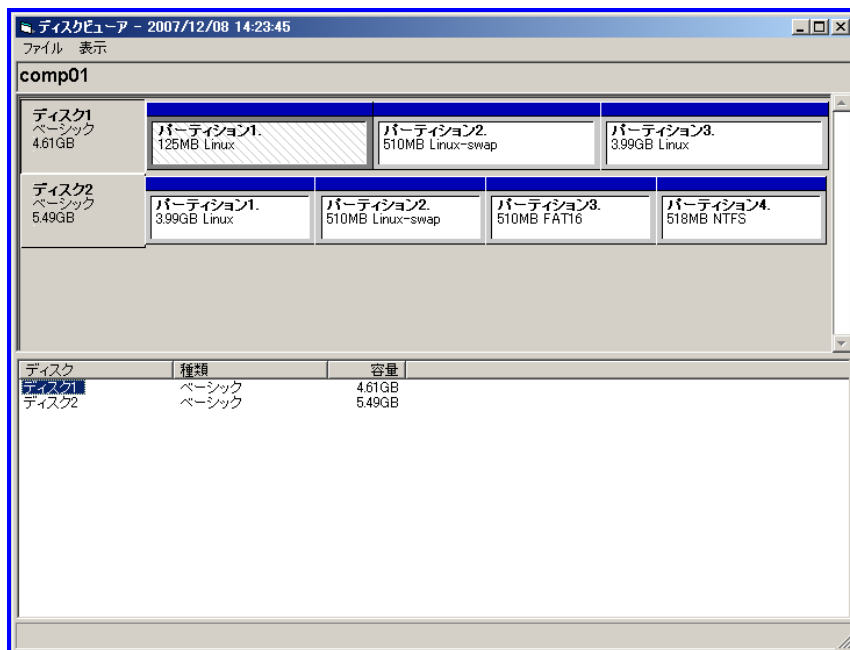
(2) ディスクビューア起動後、「ファイル」メニュー→「読み込み」をクリックします。

(3) 以下のフォルダに格納されているディスク情報ファイルを開きます。

格納フォルダ:<イメージ格納用フォルダ>%probe

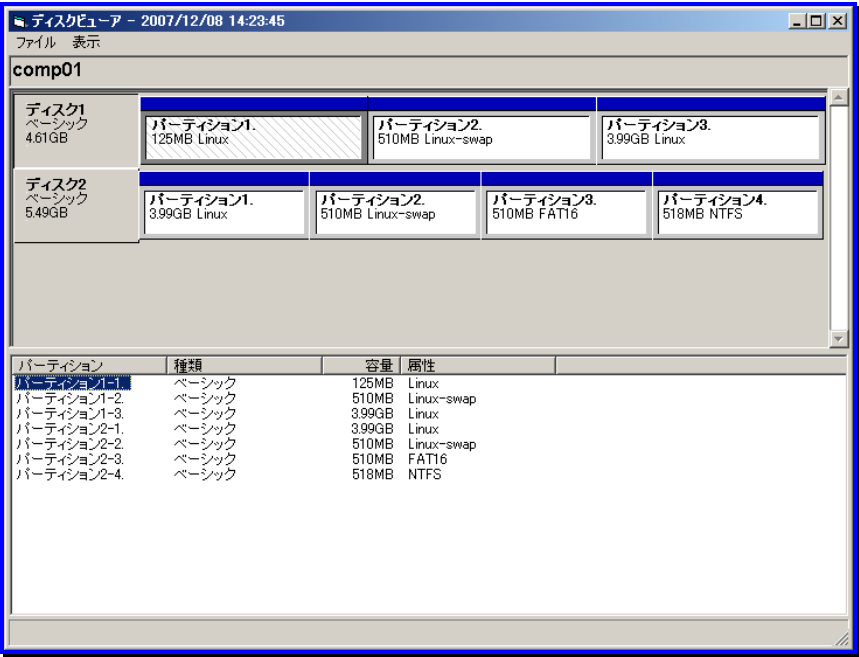


(4) 選択したディスク情報ファイルを読み込むと、管理対象マシンのディスク番号(パーティション番号)が表示されます。



(5) 「ディスクビューア」の「表示」メニュー→「パーティションの一覧」をクリックします。

(6) 「ディスク一覧」で選択したディスクのパーティション一覧が画面下部に表示されます。



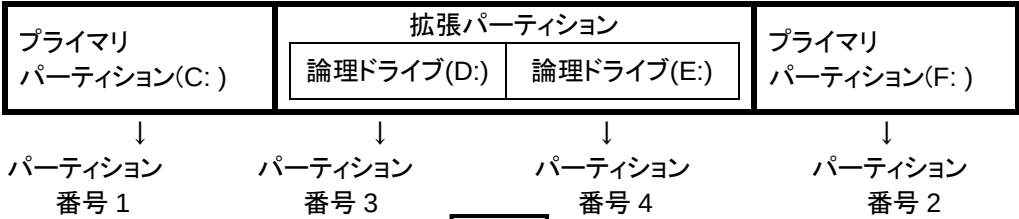
(7) ディスクサイズ、パーティションサイズ、およびパーティション一覧に表示される情報から、バックアップ/リストア対象となるディスク番号、パーティション番号の照合を行います。

注意

DPMのディスクビューでは、以下の順番でパーティション番号を割り振ります。
Windowsの「ディスクの管理」で表示されるパーティションの表示順序と異なる場合があります。

- ・プライマリパーティション
- ・拡張パーティションの論理ドライブ

例)ディスク装置が以下の場合



ディスクビューでの表示は以下となります

パーティション 1	パーティション 2	パーティション 3	パーティション 4
プライマリ パーティション(C:)	プライマリ パーティション(F:)	論理ドライブ(D:)	論理ドライブ(E:)

(8) 照合した結果に基づき、バックアップ/リストアシナリオにディスク番号、およびパーティション番号を確認します。

例)バックアップシナリオにディスク番号、およびパーティション番号を確認する場合

The image consists of two screenshots. The top screenshot is a 'ディスクビューア' (Disk Viewer) window showing the disk layout of 'comp01'. It identifies 'ディスク1' (Disk 1) and 'パーティション1' (Partition 1). The bottom screenshot is the 'DeploymentManager' 'シナリオ追加' (Add Scenario) window, specifically the 'バックアップ/リストア' (Backup/Restore) tab. It shows the configuration for a backup scenario, including the image file path, and the selection of 'ディスク番号' (Disk Number) and 'パーティション番号' (Partition Number) as '1'.

ディスクビューア - 2007/11/16 14:34:09

ファイル 表示

comp01

シナリオファイルの「パーティション番号(1~1000)」に指定する番号です。

パーティション1. 125MB Linux

パーティション2. 510MB Linux-swap

パーティション1. 399GB Linux

パーティション2. 510MB Linux-swap

パーティション3. 510MB FAT

シナリオファイルの「ディスク番号(1~1000)」に指定する番号です。

DeploymentManager

admin (Administrator) | アカウント | ログアウト

運用 | 監視 | 管理

リソース > シナリオ > ScenarioGroup01 > シナリオ追加

シナリオ追加

グループ名: ScenarioGroup01

シナリオ名:

HW設定 OS パッケージ **バックアップ/リストア** オプション

☒ バックアップ/リストアを実行する

☒ バックアップ ☐ リストア ☐ ディスク構成チェック

イメージファイル: C:\DeployBackup\参照

☐ マシン名 ☐ MACアドレス ☐ UUID

備考:

バックアップ/リストア対象

☐ フルセクタオプション

ディスク番号(1-1000): 1

パーティション設定

☐ ディスク全体

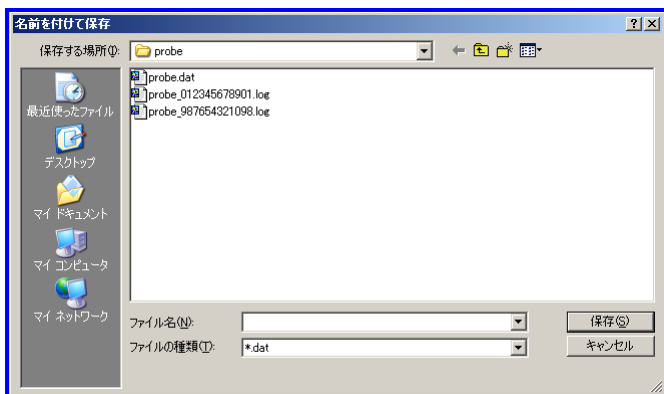
☒ 指定する

パーティション番号(1-1000): 1

Copyright(C) NEC Corporation 2002-2012. Version: DeploymentManager 6.1-20813

ヒント

- 「運用」ビュー→「シナリオ追加」画面→「バックアップ/リストア」タブ-「バックアップ/リストア対象」グループボックスで設定した内容によって、「パーティション番号」に指定する番号が異なります。指定するパーティション番号の確認については、ディスクビューアの「表示」メニュー→「隠しパーティションを無視する」から、隠しパーティションの表示/非表示の切り替えを行い確認してください。
- ディスクビューアで表示した結果は、別のファイルに保存できます。また、保存したファイルを再度読み込むこともできます。
ファイルの保存方法については、ディスクビューアの「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。「名前を付けて保存」画面が表示されますので、保存する場所とファイル名を指定してください。



<イメージ格納用フォルダ>¥Probe¥Probe.datは、ディスクビューアに一時ファイルとして書き込まれるファイルになるため、読み込みに指定しないでください。
保存したファイルの拡張子は、自動的に「.dat」に設定されます。

- (9) ディスクビューアの「ファイル」メニューから「終了」をクリック、またはウィンドウ右上の「×」ボタンをクリックし、終了してください。

7.3. 自動更新状態表示ツール

自動更新状態表示ツールは、管理対象マシンのタスクトレイに自動更新の状態をアイコン表示します。

注意

以下の管理対象マシンについては、自動更新状態表示ツールを使用できません。

- ・x64 Edition(Windows Server 2003/Windows XPのみ)のリモートデスクトップ
- ・Windows Server 2008(Server Coreインストール)
- ・Windows Server 2012(Server Coreインストール)
- ・Linux OS

タスクトレイに表示されるアイコンは、それぞれ以下の表のとおりです。

アイコン	管理対象マシンの状態	説明
	レディ	自動更新や、シナリオ実行を行っていない場合に 표시됩니다。(シナリオ実行エラー時にも左記アイコンが表示されます。)
	自動更新中	自動更新開始後、適用するパッケージを検索/判断している場合に 표시됩니다。
	自動更新ファイル転送中	管理対象マシンへ自動更新ファイルを転送している場合に 표시됩니다。
	自動更新ユーザ確認中	「すぐ実行」、または「次回起動時実行」のダイアログを表示している場合に 표시됩니다。
	自動更新再起動待ち中	以下のいずれかの場合に 표시됩니다。 ・次回起動時実行を設定後に再起動を待っている状態 ・再起動ダイアログで「キャンセル」ボタンをクリック後に再起動を待っている状態
	自動更新パッケージ適用中 (パッケージ ID)	自動更新パッケージを適用している場合に 표시됩니다。 パッケージ ID も表示されます。
	シナリオ実行中	シナリオを実行中の場合に 표시됩니다。
	自動更新エラー	自動更新でエラーが発生している場合に 표시됩니다。

ヒント

アイコンにマウスポインタを合わせるとポップアップでヒントを表示します

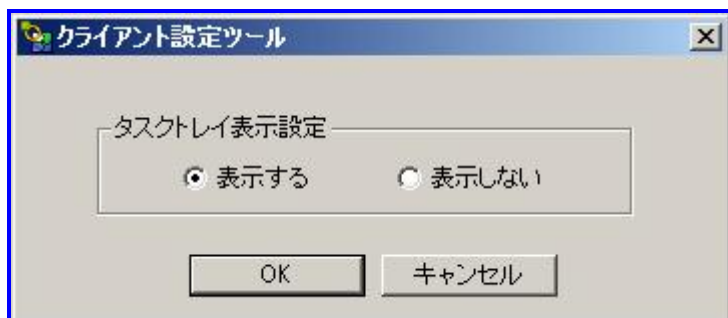
アイコン上で右クリックして、「クライアント設定ツール」、および「DeploymentManager について」のメニューを使用できます。

各メニューについては、「7.3.1 クライアント設定ツール」から「7.3.2 DeploymentManager について」を参照してください。

7.3.1. クライアント設定ツール

「自動更新状態表示ツール」の表示/非表示の設定を行います。

- (1) 「自動更新状態表示ツール」のアイコン上で右クリックします。
- (2) 表示されるメニューから、「クライアント設定」をクリックします。
または、「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「クライアント設定ツール」からも「クライアント設定ツール」を表示できます。
- (3) 「クライアント設定ツール」が表示されますので、「クライアントの自動更新状態表示ツール」アイコンの表示の有無を設定して、「OK」ボタンをクリックしてください。



7.3.2. DeploymentManager について

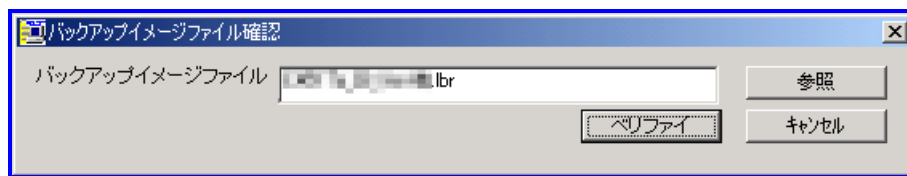
「自動更新状態表示ツール」のアイコン上で右クリックして「DeploymentManager について」を選択すると、使用している DPM クライアントのバージョンを表示します。

7.4. バックアップイメージファイルの確認ツール

バックアップイメージファイル確認ツールとは、リストアする前にバックアップファイルが不正でないか、正しくリストアできるかを事前に確認するためのツールです。

バックアップイメージファイル確認ツールの使い方について説明します。

- (1) DPMサーバの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DeploymentManager」→「バックアップイメージファイル確認ツール」を選択します。
- (2) 以下の画面が表示されますので「参照」→確認したいバックアップファイルを選択→「ベリファイ」ボタンをクリックします。



- (3) バックアップファイルの確認が完了するまで、しばらくお待ちください。
続いてダイアログボックスが表示されますので、「OK」ボタンをクリックしてください。

8. DPM コマンドライン

本章では、DPMで使用するコマンドラインについて説明します。

8.1. DPM コマンドラインからの操作

DPMコマンドライン(dpmcmd.exe)を使用することにより、Webコンソール上からではなく、コマンドラインから管理対象マシンの情報の表示やシナリオ実行などを操作することができます。以下の表にコマンドのオプションを記載します。

■DPMコマンドラインからコマンドを実行する方法について説明します。

- (1) DPM サーバ、または DPM コマンドラインをインストールしたマシンからコマンドプロンプトを起動します。
- (2) コマンドプロンプト上で、DPM コマンドラインをインストールしたフォルダに移動します。
- (3) dpmcmd.exe と、以下の表のオプションを指定して実行してください。

オプション	機能
srvlist	DPM サーバ表示
clilist	管理対象マシンの一覧表示、管理対象マシンの詳細表示
snrlist	シナリオ一覧表示
powon	電源 ON
shutdown	シャットダウン
assign	シナリオ割り当て/割り当て解除
snrexec	シナリオ実行
snrstop	シナリオ実行中断
progress	シナリオ実行状況表示
stsclear	ステータスクリア
cliadd	管理対象マシンの登録
cliremove	管理対象マシンの削除
liclist	ライセンス情報表示
?, /?, /help	ヘルプ表示

注意

コマンド実行中は以下のようなコマンドを強制的に停止する操作は行わないでください。
コマンドが異常終了する場合があります。

- 「Ctrl」+「Break」キーを押す
- コマンドプロンプトを閉じる
- ログオフ
- シャットダウン

ヒント

インストール先のデフォルトは、以下です。
C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager

■ コマンドのオプションについて説明します。

オプション	意味
"DPM サーバ" (必須)	DPM サーバの IP アドレス、または DPM サーバの DNS 名を指定します。
"DPM サーバ(2)"	DPM サーバの IP アドレス、または DPM サーバの DNS 名を指定します。 DPM Ver6.0 より前のバージョンで作成した DPM コマンドライン実行用のスクリプトファイルを流用できるようにするために残しています。 DPM Ver6.0 以降、"DPM サーバ(2)"の指定は省略できます。
"管理対象マシン(クライアント)"、または /M "MAC アドレス" (管理対象マシンを使用するオプションでは必須)	管理対象マシン(クライアント)、または MAC アドレスを指定します。 "管理対象マシン(クライアント)"は、識別名、またはマシン名が指定できます。 本章の各コマンドの説明では、"管理対象マシン(クライアント)"、または /M "MAC アドレス"を指定する箇所について、「"管理対象マシン(クライアント)" /M "MAC アドレス"」と表記しています。MAC アドレスはハイフン区切りで指定してください。 例) /M "00-03-ff-00-65-11" DPM で管理している管理対象マシンの中に識別名と、マシン名で同じ名前が存在する場合は、識別名が一致する管理対象マシンに対して、コマンドを実行します。 マシン名が重複している場合はコマンドを実行できません。 その場合は、識別名、または /M "MAC アドレス"で指定してください。
"シナリオ" (シナリオを指定するオプションでは必須)	DPM サーバに登録されているシナリオのシナリオ名を指定します。
"パスワード" (パスワードを指定するオプションでは必須)	DPM サーバに登録されている deployment_user のパスワードを指定します。初期パスワードは"dpmmgr"です。
/S	HTTPS で通信を行う場合に指定します。 このオプションを省略した場合は、HTTP で通信を行います。 このオプションは、省略できます。
/P "Web ポート"	DPM サーバ(IIS)で使用している http/https ポート(1～65535)を指定します。 このオプションを省略した場合は、以下のポートが使用されます。 ・/S を指定していない場合→IIS のデフォルト「80」 ・/S を指定している場合→IIS のデフォルト「443」 このオプションは、省略できます。
/A (シナリオ割り当てを行う場合には必須)	シナリオ割り当てを行う場合に指定します。
/U (シナリオ割り当て解除を行う場合には必須)	シナリオ割り当て解除を行う場合に指定します。
/W "ウェイト時間"	シナリオ実行終了を待つ場合に指定します。 指定時間内にシナリオ実行完了、またはシナリオ実行エラーとなった場合、または指定時間が経過した場合にコマンドが終了します。 "ウェイト時間"には、0～360(単位は分)を指定します。 0 を指定した場合は、シナリオ実行が完了するまで待ちます。このオプションを省略した場合、シナリオ実行終了を待たずにコマンドは即座に終了します。 このオプションは、省略できます。

/NAME "管理対象マシン(クライアント)のマシン名"	DPM サーバに登録する管理対象マシン(クライアント)のマシン名を指定します。 最大 63 バイト以内で入力できます。 数字のみの管理対象マシン(クライアント)名、および以下の記号/半角スペースは、入力できません。 .,;`~%!@#\$^&*+=+{ }¥ :'"<>/?[] このオプションは、省略できます。 マシン登録を行う場合、/M "MAC アドレス"と同時に指定できます。
/I "識別名"	DPM サーバに登録する管理対象マシン(クライアント)の識別名を指定します。 最大 63 バイト以内で入力できます。 数字のみの識別名、および以下の記号/半角スペースは、入力できません。 .,;`~%!@#\$^&*+=+{ }¥ :'"<>/?[] このオプションは、省略できます。 識別名は重複できません。既に登録されている識別名を指定するとエラーになります。
/IP "IP アドレス"	DPM サーバに登録する管理対象マシン(クライアント)の IP アドレスを指定します。 入力できる文字は、半角数字です。入力は、「xxx.xxx.xxx.xxx」の形式で入力してください。 このオプションは、省略できます。 IPアドレスは重複できません。既に登録されているIPアドレスを指定するとエラーになります。 管理対象マシンに複数のIPアドレスが存在する場合は、DPMサーバと通信するIPアドレスを入力してください。
/D "Deploy-OS ID"	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSのカーネルIDを指定します。 最大 256 バイト以内で入力できます。 このオプションは、省略できます。 このオプションを指定する場合は、/DNAME を同時に指定してください。
/DNAME "Deploy-OS 表示名"	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理対象マシンが使用するDeploy-OSのカーネルの表示名を指定します。 最大 256 バイト以内で入力できます。 このオプションは、省略できます。 このオプションを指定する場合は、/D を同時に指定してください。
/G "グループパス" (グループパスを指定するオプションでは必須)	指定された管理対象マシン(クライアント)が所属するグループのフルパスを指定します。 グループパスの最大階層数は 20 です。 マシングループの階層の区切り文字は"/"(半角スラッシュ)で記述してください。 各階層ともグループ名として入力できる文字数は、1~64Byte(半角 1~64 文字/全角 32 文字)です。使用できる文字は、半角英数字/記号/全角文字です。以下の記号は使用できません。 ; 指定したパスに該当するマシングループが存在しない場合、自動的にマシングループを作成します。(※1) 例) /G "/Group1/SubGroup1"
/F	自動的に作成するマシングループのゲートウェイとサブネットマスクの設定を行う場合に指定します。既に作成済みのグループの設定は変更されません。/F を指定しない場合、作成するグループは DPM サーバと同一ネットワークの設定になります。 /F は、/GW、/MASK オプションと同時に指定できます。/F のみ指定し、/GW、および /MASKを省略した場合、作成するグループのゲートウェイとネットマスクの設定は親グループの設定を引き継ぎます。ルート直下のグループを指定した場合は DPM サーバと同一ネットワークのグループとなります。

/GW "デフォルトゲートウェイ"	DPM サーバに登録されたグループのデフォルトゲートウェイを設定する場合に指定します。 ・/F を指定しない場合は、指定不要です。 ・グループのネットワーク設定と DPM サーバが同一サブネットマスクの場合は、指定不要です。 このオプションは、省略できます。
/MASK "サブネットマスク"	DPM サーバに登録されたグループのサブネットマスクを設定する場合に指定します。 ・/F を指定しない場合は、指定不要です。 ・グループのネットワーク設定と DPM サーバが同一サブネットマスクの場合は、指定不要です。 このオプションは、省略できます。
/ASSIGN "シナリオ名"	管理対象マシンの登録時にマシンに割り当てるシナリオの名前を指定します。 このオプションは省略できます。

※1

DPM Ver6.02 以降のバージョンでは、登録するグループの指定方法が、マシンが直属するマシングループの名前からマシンの登録先のグループのパス名に変更となりました。このため、DPM Ver6.02 より前のバージョンで作成したスクリプト(DPM コマンドラインの記載を含む)を使用する場合は、グループのパス名を記述するように見直してください。グループ名のみを指定した場合、ルート直下のグループとみなします。グループが見つからない場合はルート直下にグループが作成されます。

注意

DPMサーバ名やシナリオ名などスペースを含むオプションを指定する場合には、「"」ダブルクォーテーションで囲んで指定してください。スペースを含まないオプションを指定する場合は、「"」ダブルクォーテーションは省略できます。

ヒント

- 本章の各コマンドの説明では、指定必須でないオプションについて、大括弧(「[]」)で囲んで表記しています。
- コマンドの実行に成功した場合の返却値は、「0」となります。

8.1.1. DPM サーバ表示

指定された DPM サーバの IP アドレスとマシン名を表示します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" srvlist [/S] [/P "Web ポート"]	
機能	DPM サーバの IP アドレスとマシン名を取得し、表示します。	
結果表示	正常時	DPM サーバの IP アドレスと DPM サーバ名を表示します。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

8.1.2. 管理対象マシン一覧表示、管理対象マシン詳細表示

指定された DPM サーバに登録された管理対象マシン(クライアント)情報一覧、または指定された管理対象マシン(クライアント)の詳細情報を表示します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] clilist [/S] [/P "Web ポート"]	
機能	指定された DPM サーバ配下の全マシン情報(識別名、またはマシン名/MAC アドレス/電源状態/ステータス/割り当てシナリオ)を表示します。	
結果表示	正常時	管理対象マシン(クライアント)の情報を一覧表示します。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] clilist [/S] [/P "Web ポート"] "管理対象マシン(クライアント)" /M "MAC アドレス"	
機能	指定されたマシン情報(識別名、またはマシン名/OS 名/サービスパック/割り当てシナリオ/電源状態/ステータス/UUID/MAC アドレス/IP アドレス/Deploy-OS)を表示します。 なお、複数の管理対象マシン(クライアント)を同じマシン名で登録している場合は、該当する台数分表示されます。 指定された管理対象マシン(クライアント)が存在しない場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	指定された管理対象マシン(クライアント)の詳細を表示します。
	異常時	エラーメッセージ表示します。

8.1.3. シナリオ一覧表示

シナリオ一覧を表示します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] snrlist [/S] [/P "Web ポート"]	
機能	指定された DPM サーバ配下の全シナリオ情報を表示します。	
結果表示	正常時	シナリオ一覧を表示します。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

ヒント

シナリオの構成情報は、以下のとおりです。

- ・HW→HWイメージ
- ・OS→OSクリアインストール
- ・SP→サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル
- ・PP→アプリケーション
- ・BK→バックアップ
- ・RS→リストア
- ・DC→ディスク構成チェック

それぞれのシナリオで設定項目が指定してある場合は「1」、指定されていない場合は「0」が表示されます。

例)

```
C:\>dpmcmd 192.168.32.1 snrlist
シナリオ名      指定されている機能
                  HW OS SP PP BK RS DC
-----
シナリオ01      1  0  0  0  0  0  0
シナリオ02      1  1  1  0  0  0  0
シナリオ03      1  1  0  1  1  0  0
シナリオ04      0  0  0  0  1  0  0
シナリオ05      0  0  0  0  0  1  0
シナリオ06      0  0  0  0  0  0  1
```

8.1.4. 電源 ON

指定された管理対象マシン(クライアント)を電源 ON します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe " DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] powon [/S] [/P "Web ポート"] "管理対象マシン(クライアント)" /M "MAC アドレス" "パスワード"	
機能	指定されたマシンを電源 ON します。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

注意

以下の状態となっている管理対象マシンは、電源ONできません。「8.1.10 ステータスクリア」を行った後、再度実行してください。

- ・シナリオ実行中断
- ・シナリオ実行エラー
- ・リモート電源ONエラー

8.1.5. シャットダウン

指定された管理対象マシンをシャットダウンします。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe " DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] shutdown [/S] [/P "Web ポート"] "管理対象マシン(クライアント)" /M "MAC アドレス" "パスワード"	
機能	指定されたマシンをシャットダウンします。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合はエラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

注意

- 以下の状態となっている管理対象マシンは、シャットダウンできません。「8.1.10 ステータスクリア」を行った後、再度実行してください。
 - ・シナリオ実行中断
 - ・シナリオ実行エラー
 - ・リモート電源ONエラーなお、「シナリオ実行中」の場合は、シナリオが完了するのを待って実行してください。
- DianaScopeを使用して管理している管理対象マシンは、電源が投入されたタイミングで、Web コンソール上で電源ONの状態になります。
しかし、その後OSが起動し、DPMクライアントが起動するまでの間に、シャットダウンコマンドを実行するとエラーとなり、シャットダウンに失敗します。
管理対象マシンのOSが起動したことを確認してから、シャットダウンコマンドを実行してください。

8.1.6. シナリオ割り当て/割り当て解除

指定された管理対象マシンに対してシナリオ割り当て/割り当て解除します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] assign [/S] [/P "Web ポート"] /A "管理対象マシン(クライアント)" [/M "MAC アドレス" "パスワード" "シナリオ"]	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)に指定したシナリオを割り当てます。 指定された管理対象マシン(クライアント)、シナリオ、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] assign [/S] [/P "Web ポート"] /U "管理対象マシン(クライアント)" [/M "MAC アドレス" "パスワード"]	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)に割り当てられているシナリオを解除します。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

注意

以下の状態となっている管理対象マシンは、シナリオ割り当て/割り当て解除できません。「8.1.10 ステータスクリア」を行った後、再度実行してください。

- ・シナリオ実行中断
- ・シナリオ実行エラー
- ・リモートアップデート実行中
- ・リモート電源ONエラー

なお、「シナリオ実行中」の場合は、シナリオが完了するのを待って実行してください。

8.1.7. シナリオ実行

指定された管理対象マシンに対してシナリオ実行します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] snrexec [/S] [/P "Web ポート"] [/W "ウェイト時間"] "管理対象マシン(クライアント)" [/M "MAC アドレス" "パスワード"]	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)に対して割り当てられているシナリオを実行します。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。 指定された管理対象マシン(クライアント)にシナリオが割り当てられていない場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	「/W」オプションを指定した場合は、シナリオ実行結果を画面に表示します。 「/W」オプションを指定しなかった場合は、何も表示しません。 「/W」オプションで指定した時間内に結果が返ってこない場合は、「シナリオ実行中」と表示します。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

注意

以下の状態となっている管理対象マシンは、シナリオ実行できません。「8.1.10 ステータスクリア」を行った後、再度実行してください。

- ・シナリオ実行中断
- ・シナリオ実行エラー
- ・リモートアップデート実行中
- ・リモート電源ONエラー

なお、「シナリオ実行中」の場合は、シナリオが完了するのを待って実行してください。

8.1.8. シナリオ実行中断

指定された管理対象マシンに対してシナリオ実行中断します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] snrstop [/S] [/P "Web ポート"] "管理対象マシン(クライアント)" [/M "MAC アドレス" "パスワード"]	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)をシナリオ実行中断します。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。 指定された管理対象マシン(クライアント)のステータスがシナリオ実行中でない場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

重要

- シナリオ実行中断を行った管理対象マシンは、実行中のシナリオが中断された後、PXE ブートするタイミングで電源 OFF されます。
- 同時実行可能台数を越えた管理対象マシンにシナリオ実行を行っている場合は、タイミングによっては、管理対象マシンで実行処理を開始した後にシナリオ実行中断処理が行われる可能性があります。

注意

以下の状態となっている管理対象マシンは、シナリオ実行中断できません。

- ・非シナリオ実行状態
- ・シナリオ実行中断
- ・リモート電源ONエラー
- ・シナリオ実行エラー

8.1.9. シナリオ実行状況表示

指定された DPM サーバのシナリオ実行状況を表示します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] progress [/S] [/P "Web ポート"]	
機能	シナリオ実行中の管理対象マシン(クライアント)のマシン名とシナリオ名、進捗率を表示します。	
結果表示	正常時	シナリオ実行状況を表示します。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

8.1.10. ステータスクリア

指定された管理対象マシンのエラーを解除します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] stsclear [/S] [/P "Web ポート"] "管理対象マシン(クライアント)" /M "MAC アドレス"	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)のエラーをクリアします。 指定された管理対象マシン(クライアント)に誤りがある場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

ヒント

エラー状態とは以下の状態を指します。

- ・リモート電源ONエラー
- ・シナリオ実行エラー
- ・シナリオ実行中断

8.1.11. 管理対象マシンの登録

指定された管理対象マシンを登録します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] cliadd [/S] [/P "Web ポート"] /M "MAC アドレス" [/NAME "管理対象マシン(クライアント)のマシン名"] [/I "識別名"] [/IP "IP アドレス"] [/D "Deploy-OS ID"] [/DNNAME "Deploy-OS 表示名"] /G "グループパス" [/F /GW "デフォルトゲートウェイ"] /MASK "サブネットマスク" [/ASSIGN "シナリオ名"] "パスワード"	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)を登録します。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。 指定されたシナリオは DPM サーバに登録されていない場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

8.1.12. 管理対象マシンの削除

指定された管理対象マシン(クライアント)を削除します。コマンドの詳細は以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] cliremove [/S] [/P "Web ポート"] "管理対象マシン(クライアント)" /M "MAC アドレス" "パスワード"	
機能	指定された管理対象マシン(クライアント)を削除します。 指定された管理対象マシン(クライアント)、パスワードに誤りがある場合は、エラーを表示します。	
結果表示	正常時	何も表示しません。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

注意

以下の状態となっているクライアントに対してマシン削除はできません。

- ・シナリオ実行中
- ・シナリオ実行中断
- ・リモート電源ONエラー
- ・シナリオ実行エラー
- ・自動更新中
- ・自動更新ファイル転送中
- ・自動更新時間設定中

8.1.13. ライセンス情報表示

指定されたDPM サーバに登録されているライセンスの一覧と情報を表示します。コマンドの詳細は以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe "DPM サーバ" liclist [/S] [/P "Web ポート"] "パスワード"	
機能	指定された DPM サーバに登録されているライセンスの一覧と情報を表示します。	
結果表示	正常時	ライセンス情報とライセンス一覧を表示します。
	異常時	エラーメッセージを表示します。

ヒント

SSC向け製品の場合、ライセンス情報は表示されません。(DPMのライセンスはSSC製品に含まれるため)

8.1.14. ヘルプ

ヘルプを表示します。コマンドの詳細は、以下の表のとおりです。

コマンド	dpmcmd.exe ? /? /help dpmcmd.exe "DPM サーバ" ["DPM サーバ(2)"] ? /? /help	
機能	ヘルプを表示します。	
結果表示	正常時	ヘルプを表示します。
	異常時	——

ヒント

それぞれのコマンドの後ろにヘルプコマンドを付加することでそのコマンドの詳細なヘルプ情報を表示することができます。

- ・srvlist
- ・clilist
- ・snrlist
- ・powon
- ・shutdown
- ・assign
- ・snrexec
- ・snrstop
- ・progress
- ・stsclear
- ・cliadd
- ・cliremove
- ・liclist

9. 保守

本章では、DPMの保守に関する情報について記載します。

9.1. 管理サーバの IP アドレス変更手順

DPMの運用中に、DPMサーバをインストールしている管理サーバ自身のIPアドレスを変更する手順について説明します。

注意

手順どおりに行わなかった場合、DPMサーバが正常に動作しなくなります。IPアドレス変更と同時にネットワーク構成も変更する場合については、「3.5.1 マシングループ編集」を参照して、各グループの「ネットワーク設定」も変更してください。

■Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコン→「詳細設定」画面→「全般」タブの「IPアドレス」で「ANY」を選択している場合

- (1) DPM に関する処理を終了してください。
- (2) 管理サーバの IP アドレスを変更します。
- (3) 管理サーバを再起動してください。
- (4) 管理対象マシンを再起動してください。

■「ANY」以外を選択している場合

- (1) DPM に関する処理を終了してください。
- (2) 管理サーバの DVD ドライブにインストール媒体をセットします。
- (3) インストール媒体の以下のファイルを実行します。
 - ・SSC 向け製品の場合：
<インストール媒体>:¥DPM¥TOOLS¥IP¥ マシンアーキテクチャ¥RegSet1.reg
 - ・DPM単体製品の場合：
<インストール媒体>:¥TOOLS¥IP¥ マシンアーキテクチャ¥RegSet1.reg

※「マシンアーキテクチャ」フォルダのフォルダ名は以下のとおりです。

- ・OSがx86の場合:IA32
- ・OSがx64の場合:AMD64

例)

<インストール媒体>:¥DPM¥TOOLS¥IP¥IA32¥RegSet1.reg

- (4) 以下の画面が表示されますので、「はい」をクリックします。



- (5) 以下の画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- (6) 管理サーバの IP アドレスを変更します。
- (7) 管理サーバを再起動してください。
- (8) Web コンソールの「管理」ビュー→「DPM サーバ」アイコン→「詳細設定」画面→「全般」タブの「IP アドレス」から管理サーバが使用する IP アドレスを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

- (9) インストール媒体内の以下のファイルを実行します。

- ・SSC 向け製品の場合:
<インストール媒体>:\DPM\TOOLS\IP\ マシンアーキテクチャ\RegSet2.reg
- ・DPM単体製品の場合:
<インストール媒体>:\TOOLS\IP\ マシンアーキテクチャ\RegSet2.reg

※「 マシンアーキテクチャ」フォルダのフォルダ名は以下のとおりです。

- ・OSがx86の場合: IA32
- ・OSがx64の場合: AMD64

例)

<インストール媒体>:\DPM\TOOLS\IP\IA32\RegSet2.reg

重要

DPM サーバと、NetvisorPro VでTFTPサービスの連携設定を行っている場合は、以下のRegTFTP1.regを実行してください。なお、以降の手順説明の画面表示については、適宜読み替えてください。

- ・SSC向け製品の場合:
<インストール媒体>:\DPM\TOOLS\TFTP\ マシンアーキテクチャ\RegTFTP1.reg
- ・DPM単体製品の場合:
<インストール媒体>:\TOOLS\TFTP\ マシンアーキテクチャ\RegTFTP1.reg

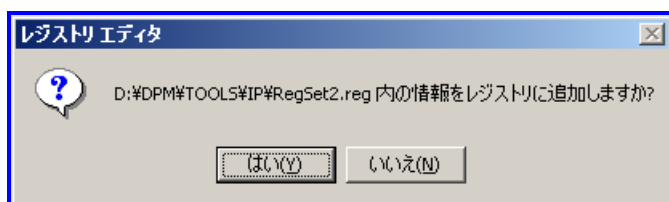
※「 マシンアーキテクチャ」フォルダのフォルダ名は以下のとおりです。

- ・OSがx86の場合: IA32
- ・OSがx64の場合: AMD64

例)

<インストール媒体>:\DPM\TOOLS\TFTP\IA32\RegTFTP1.reg

- (10) 以下の画面が表示されますので、「はい」ボタンをクリックします。



(11) 以下の画面が表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



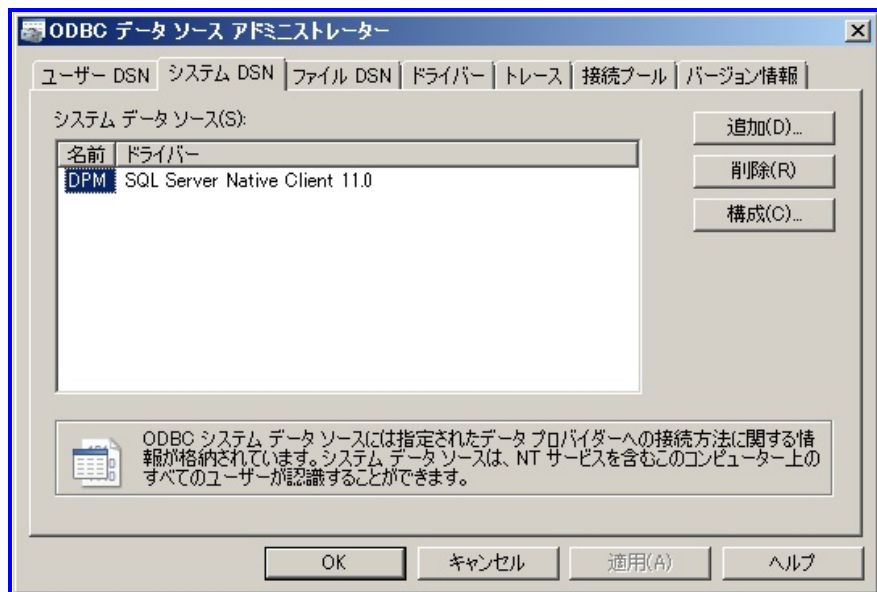
(12) 管理対象マシンを再起動してください。

9.2. データベースサーバの IP アドレス変更手順

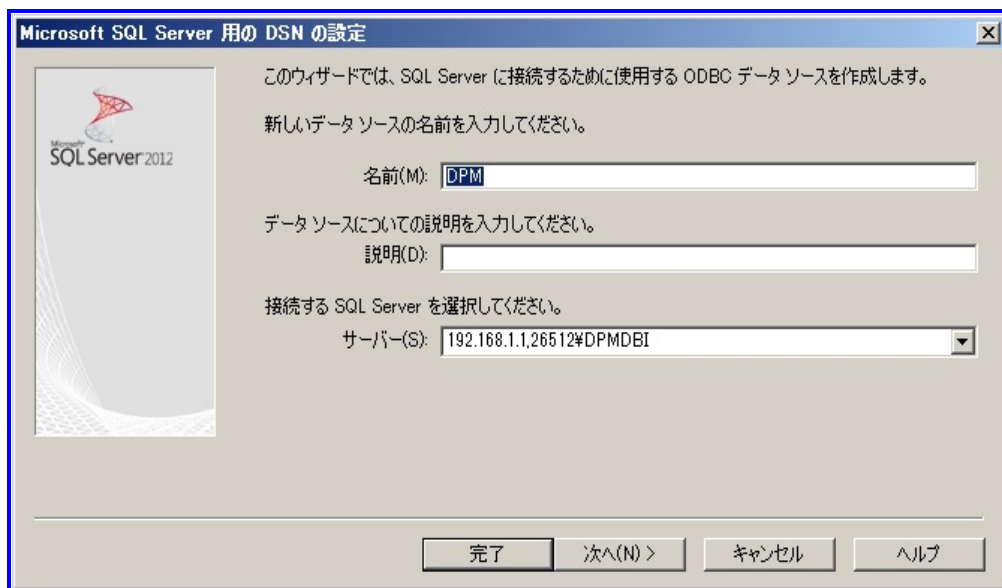
DPMの運用中に、データベースサーバのIPアドレスを変更する手順について説明します。

- (1) DPM に関する処理を終了してください。
- (2) 管理サーバ上で、「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて停止します。
- (3) データベースサーバ上で IP アドレスを変更します。
- (4) 管理サーバ上で、「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、実行するプログラムの名前に「regedit」を入力して「OK」ボタンをクリックします。
- (5) 「レジストリ エディター」が起動されますので、以下のレジストリの「値のデータ」を変更したデータベースサーバの IP アドレスに変更してください。
 - ・キー：
 - OSがx86の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\DeploymentManager
 - OS が x64 の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\NEC\DeploymentManager
 - ・値の名前: DBSrvIPAddress
- (6) 以下の手順に沿って「ODBC データ ソース アドミニストレーター」画面を起動します。
 - OSがx86の場合
「スタート」メニューから「管理ツール」→「データ ソース (ODBC)」を選択します。
 - OSがx64の場合
 - 1)「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択して、実行するプログラムの名前に「%WINDIR%\SysWOW64\cmd.exe」を入力し、「OK」ボタンをクリックします。
 - 2)コマンドプロンプトが起動しますので、起動したコマンドプロンプト上で「%WINDIR%\SysWOW64\odbcad32.exe」を実行してください。

- (7) 「ODBC データ ソース アドミニストレーター」画面が表示されますので、「システム DNS」タブを選択した後に、システム データ ソースの一覧から「DPM」を選択し、「構成」ボタンをクリックします。



- (8) 以下の画面が表示されますので、「接続する SQL Server を選択してください。」の「サーバー」でデータベースサーバを選択し、「変更後のデータベースサーバの IP アドレス,ポート¥インスタンス名」に変更して、「完了」ボタンをクリックします。



- (9) 管理サーバ上で、(2)で停止したサービスをすべて開始します。

9.3. 管理対象マシンの IP アドレス変更手順

管理対象マシンのIPアドレスを変更した場合は、自動的に管理サーバに通知されますので、特に操作する必要はありません。

ただし、管理サーバと管理対象マシンのIPアドレスを同じタイミングで変更した場合は通知されません。この場合、「インストールガイド 3.3.2 DPMクライアントを手動アップグレードインストールする」の「■インストール媒体によるDPMクライアントのアップグレード」を参照して、DPMクライアントがもつ管理サーバのIPアドレスの情報を再設定してください。

また、管理対象マシンにDPMクライアントをインストールしていない場合も通知されません。この場合、「リファレンスガイド 3.7.2. 管理対象マシン編集」を参照して、管理対象マシンのIPアドレスの情報を再設定してください。

なお、管理対象マシンのIPアドレス変更後は、バックアップシナリオの実行を推奨します。IPアドレス変更前のバックアップイメージをリストアすると、バックアップ採取時の状態に戻るため、IPアドレスも変更前のものとなります。

9.4. データバックアップ計画

9.4.1. データバックアップ手順

DPMを運用中にデータをバックアップする手順を説明します。

- (1) 管理者権限のあるユーザで管理サーバへログオンします。
- (2) DPMサーバをインストールした後にDPMサーバの詳細設定を変更している場合は、Webコンソールから「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」を選択し、各設定値を控えてください。
- (3) DPMに関する処理を終了してください。

注意

以下を確認してください。

- ・シナリオ実行中ではないこと(シナリオを実行中の場合は、シナリオが完了するまで待ってください。)
- ・DPMのWebコンソール(DPMの各種ツール類)などを起動していないこと

- (4) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて停止します。

- (5) データのバックアップを行います。

以下の各種データをバックアップしてください。

- ・<DPMサーバのインストールフォルダ>¥Datafile配下のすべてのファイル
- ・<DPMサーバのインストールフォルダ>¥Linux配下のすべてのファイル
- ・<DPMサーバのインストールフォルダ>¥Log配下のすべてのファイル
- ・<DPMサーバのインストールフォルダ>¥WebServer¥App_Data¥Data
 - Encrypted.dat
 - DpmProfile.xml

ヒント

DPMサーバのインストールフォルダのデフォルトは、「C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager」です。

- ・イメージ格納用フォルダ配下のすべてのファイル

ヒント

イメージ格納用フォルダは、Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「全般」タブを選択し、「イメージ設定」の「イメージ格納用フォルダ」から確認してください。イメージ格納用フォルダの既定値は、「C:¥Deploy」です。

- ・バックアップイメージ格納用フォルダ配下のすべてのファイル

ヒント

バックアップイメージ格納用フォルダは、Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「全般」タブを選択し、「イメージ設定」の「バックアップイメージ格納用フォルダ」から確認してください。バックアップイメージ格納用フォルダの既定値は、「C:¥DeployBackup」です。

- ・TFTPルート配下の以下のフォルダ(フォルダ、およびフォルダ配下のすべてのファイル)/ファイル)
 - backup
 - DOSFD
 - EFI64
 - EFIBC
 - EFIIA32
 - gpxelinux
 - HW
 - HW64
 - hwinfo
 - kernel
 - NBP
 - probe
 - pxelinux
 - pxelinux.cfg
 - nbprestvar.ini
 - Port.ini

注意

「インストールガイド 付録 F DPMサーバとNetvisorPro Vを同一マシン上に構築する」に記載の手順でDPMサーバと、NetvisorPro VのTFTPサービスの連携設定を行っている場合、TFTPルートは、「NetvisorPro VのTFTPルートフォルダ」となります。

ヒント

TFTPルートのデフォルトは、「C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥PXE¥Images」です。

・その他

手作業で変更したファイルやレジストリがある場合、該当するファイル/レジストリ

(6) データベースをバックアップします。

コマンドプロンプトで以下のバックアップコマンドを入力し、バックアップファイル(DPM.bak)を採取します。
なお、データベースサーバを構築している場合は、データベースサーバ上で行ってください。

```
sqlcmd.exe -E -S localhost¥インスタンス名
BACKUP DATABASE DPM
TO DISK='DPM.bak'
WITH INIT
GO
```

例)

```
sqlcmd.exe -E -S localhost¥DPMDBI
BACKUP DATABASE DPM
TO DISK='DPM.bak'
WITH INIT
GO
```

ヒント

- データベース名は、「DPM」(固定)となります。
- バックアップファイル(DPM.bak)は、以下のフォルダに作成されます。
<Microsoft SQL Server のインストールフォルダ>¥Backup
<Microsoft SQL Server のインストールフォルダ>のデフォルトは、「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11. **インスタンス名**¥MSSQL」です。

(7) レジストリデータのバックアップを行います。

・DPMサーバのレジストリデータのバックアップ

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行して、バックアップファイル(RegExportDPM.reg)を採取してください。
(以下のコマンドは、表記の都合上2行で記載していますが、1行で入力してください。)

-OSがx86の場合:

```
regedit /e RegExportDPM.reg "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager"
```

-OSがx64の場合:

```
regedit /e RegExportDPM.reg "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥DeploymentManager"
```

・データベースのレジストリデータのバックアップ

コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行して、バックアップファイル(RegExportDPMDB.reg)を採取してください。

なお、データベースサーバを構築している場合は、データベースサーバ上で採取してください。

(以下のコマンドは、表記の都合上2行で記載していますが、1行で入力してください。)

-OSがx86の場合:

```
regedit /e RegExportDPMDB.reg "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥DeploymentManager_DB"
```

-OSがx64の場合:

```
regedit /e RegExportDPMDB.reg "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥NEC¥DeploymentManager_DB"
```

ヒント

バックアップファイル(RegExportDPM.reg、RegExportDPMDB.reg)は、コマンドを実行したフォルダ下に作成されます。

(8) (4)で停止したサービスをすべて開始します。

以上で、DPMの運用時に更新されるデータのバックアップは完了です。

9.4.2. データ復旧手順

「9.4.1 データバックアップ手順」でバックアップしたデータを以下の手順に沿って復旧してください。

(1) 管理者権限のあるユーザで管理サーバにログオンします。

(2) DPMサーバのインストールと、詳細設定を行います。

・DPMサーバのインストールから行う場合

以下の内容を参照して、DPMサーバのインストール(、および詳細設定)を行ってください。

-インストールガイド

-DPMサーバをインストールした際に控えておいた各設定項目

ただし、DPMサーバのインストールの際に表示される「詳細設定」画面の設定については、「9.4.1 データバックアップ手順」の(2)で控えた内容があれば、その内容を入力してください。

・既にDPMサーバをインストール済みの環境に対してデータ復旧のみ行う場合

Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」に、「9.4.1 データバックアップ手順」の(2)で控えた内容を設定してください。

なお、DPMサーバをインストールした後に詳細設定を変更していない場合は、DPMサーバをインストールした際に控えておいた内容を設定してください。

(3) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager」という名前で始まるサービスをすべて停止します。

(4) 「9.4.1 データバックアップ手順」の(5)で採取したデータのバックアップを、バックアップ時と同じフォルダ/ファイルパスに上書きします。

また、「9.4.1 データバックアップ手順」の(5)の「その他」で控えた内容がある場合は、控えた内容を設定してください。

(5) 「9.4.1 データバックアップ手順」の(6)で採取したデータベースのバックアップを、バックアップ時と同じフォルダパスに上書きします。

なお、データベースサーバを構築している場合は、データベースサーバ上で行ってください。

(6) データベースの設定を確認します。

なお、データベースサーバを構築している場合は、データベースサーバ上で行ってください。

1) エクスプローラなどから、DPM.bakのプロパティを表示して、「セキュリティ」タブでユーザに「MSSQL\$**インスタンス名**」で始まるユーザが存在するかを確認します。

2) 「詳細設定」タブをクリックして、1)で「MSSQL\$**インスタンス名**」で始まるユーザが存在した場合は、「このオブジェクトの親からの継承可能なアクセス許可を含める」にチェックが入っているかを確認します。

1)で、「MSSQL\$**インスタンス名**」で始まるユーザが存在しない場合は、「このオブジェクトの親からの継承可能なアクセス許可を含める」にチェックを入れます。(この項目にチェックを入れると、「セキュリティ」タブに「MSSQL\$**インスタンス名**」から始まるユーザが追加されます。)

(7) コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行します。

なお、データベースサーバを構築している場合は、データベースサーバ上で行ってください。

```
sqlcmd.exe -E -S localhost¥インスタンス名  
RESTORE DATABASE DPM  
FROM DISK = 'DPM.bak'  
WITH REPLACE  
GO
```

例)

```
sqlcmd.exe -E -S localhost¥DPMDBI  
RESTORE DATABASE DPM  
FROM DISK = 'DPM.bak'  
WITH REPLACE  
GO
```

(8) 「9.4.1 データバックアップ手順」の(7)で採取したレジストリデータのバックアップファイルをバックアップファイルを採取したマシン上で、適用(エクスプローラからダブルクリック)します。

(9) (3)で停止したサービスをすべて開始します。

(10) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。

```
iisreset /restart
```

以上で、DPMのデータ復旧は完了です。

9.5. DPM で使用するポート変更手順

本章では、DPMで使用するポートの変更手順を説明します。

注意

- 手順どおりに行わなかった場合、管理サーバ/管理対象マシンが正常に動作しなくなります。
- 本章の手順に沿ってftsvc.exeで使用するポート(TCP:26508)を変更する場合は、イメージビルダ(リモートコンソール)の「接続設定」画面でも同じポートを指定してください。
- 本バージョンのDPMサーバを新規インストールした場合、DPM Ver6.1より前のDPMクライアントを自動アップグレードインストールできません。
以下のいずれかを行ってください。
 - ・DPMサーバを新規インストールする前に、本章の手順に沿ってPort.iniにアップグレードインストール前に使用していたポートを設定してください。
 - ・DPMサーバを新規インストールした後に、「インストールガイド 3.3.2 DPMクライアントを手動アップグレードインストールする」を参照して、シナリオによるDPMクライアントのアップグレードインストールを行ってください。(シナリオ完了まで20分程度かかります。)
- DPM Ver6.1より前のバージョンで作成したディスク複製OSインストール用のマスタイメージは、本バージョンのDPMサーバを新規インストールした環境では、使用できません。本バージョンで、マスタイメージを再作成するか、DPMサーバを新規インストールする前に、本章に記載の手順に沿ってPort.iniにアップグレードインストール前に使用していたポートを設定してください。

ヒント

DPM Ver6.1より前のバージョンでは使用するポートの既定値が異なります。ポート番号の詳細については、「付録 D ネットワークポートとプロトコル一覧」を参照してください。

■DPMサーバを新規インストール前にポートを変更する手順

- (1) 以下のファイルを%SystemDrive%(既定値C:)¥DPMPort¥にコピーします。

ヒント

SSC向け製品の場合:<インストール媒体>¥DPM¥Setup¥DPM¥Port.ini
DPM単体製品の場合:<インストール媒体>¥Setup¥DPM¥Port.ini

- (2) コピーしたファイルを編集し、使用するポートを指定して保存します。

- (3) DPMサーバを新規インストールします。

注意

アップグレードインストールを行った場合は、アップグレードインストール前に使用していたポートを引き継ぎます。

■DPMサーバをインストール後にポートを変更する手順

以下の手順を管理サーバで実施します。

- (1) DPM に関する処理を終了します。

- (2) <DPM サーバのインストールフォルダ>¥PXE¥Images¥Port.ini を編集します。

ヒント

Webサービス用ポート(既定値:26500)を変更する場合は、<DPMサーバのインストールフォルダ>¥WebServer¥App_Data¥Config¥MgrServerList.xmlの以下の行を修正してください。

<Port>変更するポート</Port>

(3) 管理サーバを再起動します。

(4) 管理対象マシンを再起動します。

10. 注意事項

本章では、DPMIに関する各種注意事項を説明します。

10.1. 装置/ストレージの注意事項

10.1.1. 機種対応モジュール

機種対応モジュールとは、製品に標準で添付されているDeploy-OSで対応していない機種を管理対象マシンとするためのアップデートモジュールになります。

機種対応モジュールについての注意事項は、以下の製品サイトで公開されているモジュール内の手順書に記載しています。

WebSAM DeploymentManager(<http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>)

→「動作環境」を選択

→「対応装置一覧」を選択

10.2. 管理サーバ、および管理対象マシンのコンピュータ名(ホスト名)を変更する場合の注意事項

管理サーバ、および管理対象マシンのOS上のコンピュータ名(ホスト名)は、任意のタイミングで変更できます。

WebコンソールのURLにホスト名を使用している場合、管理サーバのコンピュータ名にあわせて変更してください。

管理対象マシンのコンピュータ名(ホスト名)を変更した場合は、コンピュータ名(ホスト名)変更前のバックアップイメージをリストアすると、バックアップ採取時の状態に戻るため、コンピュータ名(ホスト名)も変更前のものとなってしまいます。変更した後にバックアップすることを推奨します。

10.3. 管理サーバ、および管理対象マシンのOSのユーザ名/パスワードを変更する場合の注意事項

管理サーバおよび管理対象マシンともOSのユーザ名/パスワードを変更した場合、以後の運用に影響はありません。

ただし、管理対象マシンのOSのユーザ名/パスワードを変更前のバックアップイメージをリストアすると、バックアップ採取時の状態に戻るため、ユーザ名/パスワードも変更前のものとなります。変更後の時点でバックアップすることを推奨します。

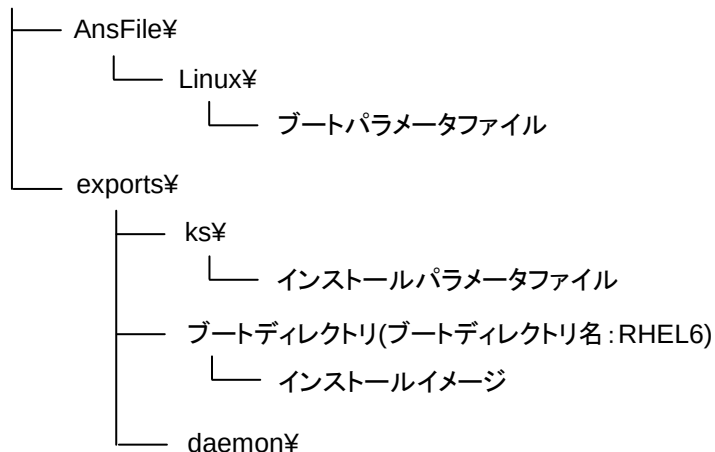
10.4. OS クリアインストールに関する注意事項

NFS サーバを構築できない場合、管理サーバ上に FTP/HTTP サーバを構築することで Red Hat Enterprise Linux 6 の OS クリアインストールを行うことができます。

本章は、その際の注意事項について説明します。なお、イメージ格納用フォルダを以下の構成として説明します。

管理サーバ(IPアドレス:192.168.0.1)

イメージ格納用フォルダ



- ・「オペレーションガイド 3.5.1 イメージを作成、登録する」の説明に沿ってイメージの作成、登録を行ってください。
なお、「3.5.1.1 NFS サービスをセットアップする」については、以下に読み替えてください。

FTP/HTTPサーバの説明書などを参照の上、FTP/HTTPサーバを構築後、Webコンソールで設定した「イメージ格納用フォルダ」の下に"exports"フォルダをFTP/HTTPサーバの仮想ディレクトリに設定してください。

- ・「3.5.2 シナリオを作成する」の手順を行う前に、以下を行ってください。
-ブートパラメータファイルをテキストエディタなどで開き、以下例)を参考にして、使用している環境に合わせてファイルサーバの指定(下線部分)を修正してください。

例)

修正前: `append initrd= RHEL6/initrd.img ks=nfs:192.168.0.1:/exports/ks/ks.cfg ksdevice=eth0`

修正後:

-FTP サーバの場合

`append initrd= RHEL6/initrd.img ks=ftp://192.168.0.1/exports/ks/ks.cfg ksdevice=eth0`

-HTTP サーバの場合

`append initrd= RHEL6/initrd.img ks=http://192.168.0.1/exports/ks/ks.cfg ksdevice=eth0`

- インストールパラメータファイルをテキストエディタなどで開き、以下例)を参考にして、使用している環境に合わせてファイルサーバの指定(下線部分)修正してください。

例)

修正前:

```
...
nfs --server 192.168.0.1 --dir /exports/RHEL6
...
#Mount /mnt/exports
mkdir /mnt
mkdir /mnt/exports
/bin/mount -o nolock -t nfs $NFSSERVER:/exports /mnt/exports
...
```

修正後:

-FTP サーバの場合

```
...  
url -url ftp://192.168.0.1/exports/RHEL6  
...  
#Mount /mnt/exports  
mkdir /mnt  
mkdir /mnt/exports  
cd /mnt/exports  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depagt  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depagtd  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depagtd.res  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depcancel  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depinst  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depinst.res  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depinst.sh  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/dpmversion.inf  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/GetBootServerIP  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/getinfo.sh  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/server.inf  
wget ftp://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/xdpmmsg  
...
```

-HTTP サーバの場合

```
...  
url -url http://192.168.0.1/exports/RHEL6  
...  
#Mount /mnt/exports  
mkdir /mnt  
mkdir /mnt/exports  
cd /mnt/exports  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depagt  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depagtd  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depagtd.res  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depcancel  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depinst  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depinst.res  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/depinst.sh  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/dpmversion.inf  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/GetBootServerIP  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/getinfo.sh  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/server.inf  
wget http://192.168.0.1/exports/daemon/redhatall/ia32/xdpmmsg  
...
```

-Red Hat Enterprise Linux 6 のインストール用 ISO ファイルをマウントして、ISO 内のすべての内容をブートディレクトリにコピーしてください。

11. トラブルシューティング

本章では、DPM のエラー情報に対する対処方法を説明します。

ヒント

最新の情報は、以下の製品サイトから確認できます。
WebSAM DeploymentManager(<http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>)

11.1. Web コンソール

?

「管理対象マシン詳細」画面で「HotFix/アプリケーション」の「詳細」をクリックした時に表示される「HotFix/アプリケーション一覧」画面の項目が表示されない。

➡ 本バージョンで管理対象マシンを管理するには、本バージョンのDPMクライアントが管理対象マシンにインストールされている必要があります。既にインストールされている場合は、再インストールしてください。インストール方法については、「インストレーションガイド 2.2 DPMクライアントをインストールする」を参照してください。

➡ 管理対象マシンの「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager Agent Service」、「DeploymentManager Remote Update Service Client」が起動しているか確認してください。

?

「管理対象マシン詳細」画面で「HotFix/アプリケーション」の「詳細」をクリックし、「HotFix/アプリケーション一覧」画面を表示すると、HotFix、またはアプリケーションが文字化けしている。

➡ 管理対象マシンにJIS2004の文字を含むHotFix、またはアプリケーションがインストールされている場合に発生する可能性があります。DPMは、JIS2004に対応していないため表示できません。また、この現象は「HotFix/アプリケーション一覧」表示以外の機能には、影響ありません。

?

情報の最新化を行うと、「ソケットでエラーが発生しました。」という画面が表示される。または、詳細情報として以下のメッセージが表示されている。

「対象のコンピュータによって拒否されたため、接続できませんでした。管理サーバのIPアドレス:26500

➡ 管理サーバが停止している可能性があります。「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「付録A サービス一覧」の「■DPMサーバ」に記載しているすべてのサービスが起動していることを確認してください。

サービスが停止している場合は、停止しているサービスをすべて開始してください。また、サービスを開始した後に管理サーバへ再接続を行ってください。

?

WebブラウザからWebコンソールを起動すると、Webブラウザに「ページを表示できません」というエラーが表示される。

以下のいずれかが考えられます。

- ➡
- Web コンソールを起動するための URL が誤っている可能性があります。URL が正しいか確認してください。
 - Web サーバが起動していない可能性があります。「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」を選択し、「Web サイト」が起動状態となっているか確認してください。

?

同一マシン上のすべてのWebコンソールのユーザ権限が、最後にログインしたユーザ権限と同じになる。



これは Internet Explorer のセッション共有機能の影響によるものです。

複数のウィンドウ/タブ(Internet Explorer 7 の場合はタブのみ)で同一サイトへのアクセスをした場合に最後に開いたウィンドウ(タブ)のセッションと同一になります。

以下の方法により、ウィンドウ(タブ)ごとにユーザ権限を切り分けてください。

・Internet Explorer 8/9(互換モード)の場合

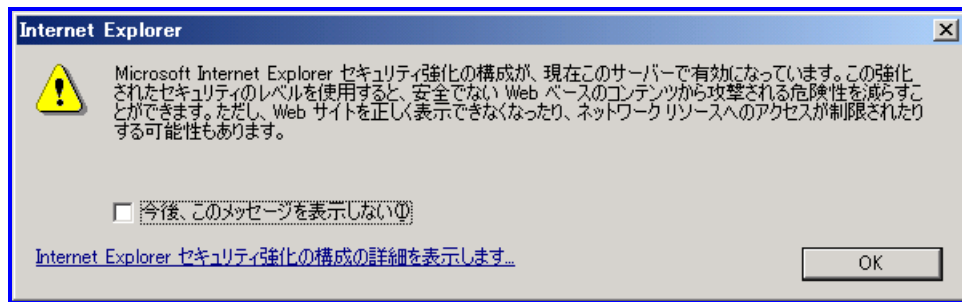
DPM の Web コンソールから「ファイル」→「新規セッション」をクリックしてください。

・Internet Explorer 7 の場合

別のウィンドウを開いてください。

?

Windows Server 2003上でWebコンソールを起動し、画面が切り替わる度に以下のメッセージが表示される。



「OK」ボタンをクリックしてください。

?

エラーメッセージの表示がおかしい。



マシン名、またはグループ名などにHTMLのタグ(<XX>)を使用すると、エラーメッセージの表示の際にHTML構文と解釈し、不正な表示を行う場合がありますが、動作上問題はありません。

?

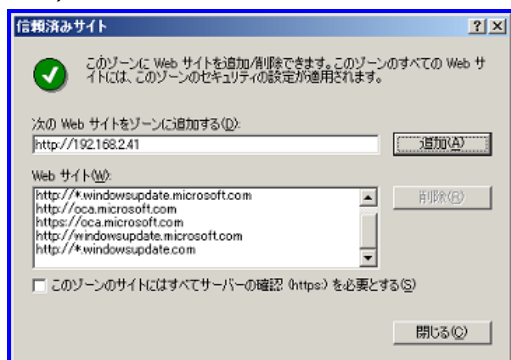
WebブラウザからWebコンソールを起動しても、Webブラウザに何も表示されない。

以下が考えられます。



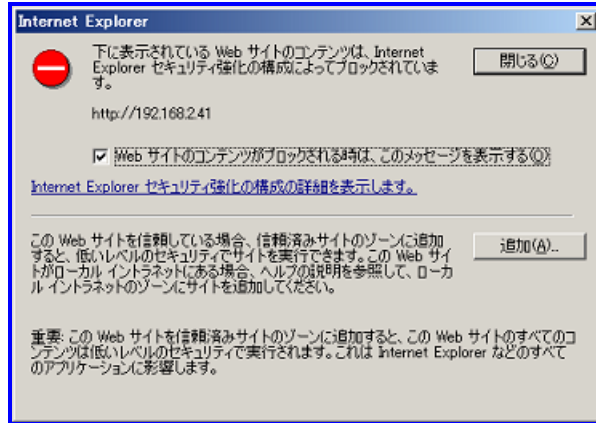
・Internet Explorer の「ツール」メニュー→「インターネットオプション」から、「セキュリティ」タブの信頼済みサイトを選択し、「サイト」をクリック後に管理サーバーに接続する URL の追加を行ってください。

例)管理サーバーの IP が「192.168.2.41」の場合



?

Windows Server 2003上でWebコンソールを起動すると、以下のメッセージが表示される。



➡ 表示されているURLに間違いが無いことを確認し、「追加」をクリックしてWebサイトを「信頼済みサイトのゾーン」に追加してください。

?

以下のいずれかの操作を行ったが「ファイルのダウンロード」画面が表示されず、CSVファイルをダウンロードできない。

- ・監視ビュー→「シナリオ実行結果一覧」→「シナリオ実行結果一覧」画面にて「操作」メニューの「CSV形式で保存」リンクをクリック
- ・監視ビュー→「自動更新結果一覧」→「自動更新結果一覧」画面にて「操作」メニューの「CSV形式で保存」リンクをクリック
- ・運用ビュー→「マシン」→「グループ一覧」画面にて「設定」メニューの「マシン情報エクスポート」リンクをクリック

➡ Internet Explorerのセキュリティ設定を確認してください。
Internet Explorerの「ツール」メニュー→「インターネットオプション」を選択し、「セキュリティ」タブの「このゾーンのセキュリティレベル」の「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、以下の設定にしてください。

- ・「ダウンロード」-「ファイルのダウンロード」を「有効にする」に設定する。
- ・「ダウンロード」-「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」を「有効にする」に設定する。(Internet Explorer 7/8のみ)

?

Webコンソールを起動しようとしたが、画面に「Internet Explorer ではこのページは表示できません」と表示され、起動できない。

➡ Webサーバが起動していない可能性があります。「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」を選択し、「Default Web Site」が開始状態となっているか確認してください。

- ➡ IISの匿名認証が無効になっている可能性があります。以下のとおり、設定を変更してください。
- (1)「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」を選択します。
 - (2)「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」画面が表示されますので、画面左側の「Default web Site」直下の「DPM」をクリックします。
 - (3)画面中央の「IIS」で「認証」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。
 - (4)画面中央の「認証」画面で「匿名認証」を選択して、画面右側の「操作」で「編集...」をクリックします。
 - (5)「匿名認証資格情報の編集」画面が表示されますので、「特定のユーザ」にチェックが入っており、ユーザ名が「IUSR」となっていることを確認してください。もし、「IUSR」となっていない場合は、「設定」ボタンをクリックして、ユーザ名を「IUSR」に設定してください。
 - (6)「匿名認証資格情報の編集」画面で「OK」をクリックして画面を閉じます。
 - (7)「認証」画面で「匿名認証」を選択して、画面右側の「操作」で「有効にする」をクリックします。

?

Webコンソールの画面(「管理対象マシン追加」画面や「シナリオ追加」画面など)を開いたときに、画面が文字化けしている。

➡ Internet Explorerの「エンコード」の「自動選択」をOFFにすることで回避できる可能性があります。
Internet Explorerの「表示」メニュー→「エンコード」→「自動選択」のチェックを外すことで、設定をOFFにできます。

?

シナリオの「バックアップ/リストア」タブでイメージファイルの「参照...」ボタンをクリックしても、ネットワークドライブや、USBハードディスクが表示されない。



ドライブの表示はローカルディスクのみとなります。

ネットワークドライブやUSBハードディスクを指定する場合は、「イメージファイル」欄に直接、イメージファイルのパスを入力してください。

詳細については、「3.13.4 「バックアップ/リストア」タブ」を参照してください。

?

Webコンソールで、管理対象マシンのMACアドレスが表示されない。



別のマシンへのLANボードの交換などで、一時的にMACアドレスが表示されない場合があります。

このような現象が発生した場合は、管理対象マシンを手動で再起動してください。再起動後も現象が回復しない場合は、Webコンソールから該当の管理対象マシンを削除して、再度登録してください。

※管理対象マシンのMACアドレスが表示されない場合は、下記の操作ができません。

- ・管理対象マシンへの自動更新時間設定
- ・電源状態の取得
- ・管理対象マシンの情報取得
- ・シナリオ実行
- ・電源ON
- ・シャットダウン



管理対象マシンがLinux OSで、かつ複数のLANボードを搭載している場合は、操作中にMACアドレスが表示されない可能性があります。

このような場合は、該当の管理対象マシンが、新規マシングループに登録されている可能性があります。

新規マシングループから該当する管理対象マシンを削除して、管理対象マシンのDPMクライアントを再起動してください。再起動後も現象が回復しない場合は、Webコンソールから該当の管理対象マシンを削除して、再度登録してください。

?

Webコンソールで画面を表示したまま一定時間が経過すると、次の操作時に「DeploymentManagerログイン」画面に戻る。



Webコンソールでセッションタイムアウトが発生すると、「DeploymentManagerログイン」画面に戻ります。ログインし直してください。

なお、タイムアウトまでの時間は、以下の手順で変更することもできます。

- 1)「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーションサービス (IIS) マネージャー」を選択します。
- 2)「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」画面が表示されますので、画面左側の「アプリケーション プール」をクリックします。
- 3)画面中央の「アプリケーション プール」で「DeploymentManagerPool」を選択して、画面右側の「アプリケーション プール タスク」で「停止」をクリックします。
- 4)画面左側の「Default Web Site」をクリックして、画面右側の「Web サイトの管理」で「停止」をクリックします。
- 5)画面左側の「Default Web Site」直下の「DPM」をクリックして、画面中央の「ASP.NET」で「セッション状態」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。
- 6)画面中央の「セッション状態」画面で「Cookie の設定」-「タイムアウト(分)(O):」(デフォルト20分)でタイムアウト値を指定して、画面右側の「操作」で「適用」をクリックします。
- 7)画面左側の「Default Web Site」直下の「DPM」をクリックして、画面中央の「IIS」で「認証」を選択して、画面右側の「操作」で「機能を開く」をクリックします。
- 8)画面中央の「認証」画面で「フォーム認証」を選択して、画面右側の「操作」で「編集...」をクリックします。
- 9)「フォーム認証設定の編集」画面が表示されますので、「認証 Cookie のタイムアウト (分)(A)」(デフォルト30分)でタイムアウト値を指定して、「OK」ボタンをクリックします。
- 10)画面左側の「アプリケーション プール」をクリックして、画面中央の「アプリケーション プール」で「DeploymentManagerPool」を選択して、画面右側の「アプリケーション プールの編集」で「詳細設定...」をクリックします。
- 11)「詳細設定」画面が表示されますので、以下の2項目にタイムアウト値を指定して、「OK」ボタンをクリックします。

- ・「プロセスモデル」-「アイドル状態のタイムアウト(分)」(デフォルト20分)
 - ・「リサイクル」-「定期的な間隔 (分)」(デフォルト1740分)
- 12)画面右側の「アプリケーション プールタスク」で「開始」をクリックします。
- 13)画面左側の「Default Web Site」をクリックして、画面右側の「Web サイトの管理」で「開始」をクリックします。

11.2. 管理サーバ

?

- DHCPサーバと管理サーバを別々のマシンにすると、管理対象マシンのMACアドレスの取得ができなくなった。
- ➡ 管理サーバ側のDHCPのサービスが、まだ起動している可能性があります。管理サーバで、「スタート」メニューから「管理ツール」から「サービス」を選択して、「DHCP Server」の「状態」が「開始」となっていないことを確認してください。「開始」になっていたら、プロパティ画面を開き、スタートアップの種類を無効にして、サービスを停止してください。
 - ➡ 詳細設定で、「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」にチェックが入っていない可能性があります。Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」を選択し、「DHCPサーバ」タブをクリックし、「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」にチェックが入っていることを確認してください。チェックが入っていない場合は、チェックを入れて「OK」ボタンをクリックした後、管理サーバを再起動してください。(管理サーバの再起動が不可の場合は、「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「付録A サービス一覧」に記載のすべてのサービスを停止後、停止したサービスをすべて開始してください。)

?

- DPMサーバのサービスが起動していない。
- ➡ シナリオ実行時に問題が発生してサービスが終了している場合があります。実行中のシナリオがあれば終了するのを待って、以下の操作を行ってください。管理サーバで「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、以下のサービスを再起動してください。
(停止していれば開始してください)
DeploymentManager API Service
DeploymentManager Backup/Restore Management
DeploymentManager Get Client Information
DeploymentManager PXE Management
DeploymentManager PXE Mftfp
DeploymentManager Remote Update Service
DeploymentManager Schedule Management
DeploymentManager Transfer Management
 - ➡ DPMサーバを上書きインストールすることにより復旧する場合があります。

?

- 「DeploymentManager API Service」サービスが、起動できない。
- ➡ ポート(TCP:56050/26500)が、他のアプリケーションなどで使用されている可能性があります。

?

- 「DeploymentManager Remote Update Service」サービスが、起動できない。
- また、<DPMサーバのインストールフォルダ>%Log%rupdssvc.csvに以下のエラーログが記載されている。
「RUPDSSVC: FUNCTION: CreateSocket(): bind Failed,error code=10048」
- ➡ ポート(TCP:56024/26506、TCP:56028/26507)が、他のアプリケーションなどで使用されている可能性があります。

?

- DPMサーバをアンインストールしてからインストールした際、アンインストールする前のシナリオやグループが残っている。
- ➡ アンインストールが正常に行われな場合があります。以下の手順で再インストールしてください。
(1)再度アンインストールを行う。
(2)DPMサーバをインストールしたマシンを再起動する。
(3)DPMサーバをインストールしたフォルダ配下とイメージ格納用フォルダ

(デフォルトは、C:\Program Files\NEC\DeploymentManagerとC:\Deploy)を削除する。
(4)再度一度インストールを行う。

?

アンインストールを中断した後に上書きインストールを行うと、エラーメッセージが表示され上書きできない。
➡ DPMサーバを完全にアンインストール後、新規にインストールしてください。

?

DPMサーバのサイレントインストールを実行しても応答がない。
➡ ネットワーク接続が検出できなかった可能性があります。
ネットワーク環境を確認し、再度DPMサーバをインストールしてください。

?

「DeploymentManager PXE Mfttp」サービスが起動していない。
➡ 以下のいずれかの操作を行った場合に、上記のサービスが起動しない可能性があります。
・DPMサーバと、NetvisorPro VでTFTPサービスの連携設定を行っている状態で、DPMサーバを本バージョンへアップグレードインストールした場合
・DPMサーバと、NetvisorPro VでTFTPサービスの連携設定を行っている状態で、DPMサーバのIPアドレスを変更した場合
「インストールガイド 付録 F DPMサーバとNetvisorPro Vを同一マシン上に構築する」の「■DPMサーバをインストールしたマシンにNetvisorPro Vをインストールするには、以下の手順に従ってください。」の(4)～(7)を再度行ってください。

11.3. 管理対象マシン

?

管理対象マシンの終了時にスタンバイ機能が表示されていない。
➡ 以下について確認してください。
・ターミナルサービスが有効の場合、スタンバイ機能は使用できません。コントロールパネルからターミナルサービスを無効化してください。
・デバイスのドライバなどが正常にインストールされていないと、スタンバイ機能が使用できない場合があります。

?

リモートデスクトップを使用してDPMクライアントのインストール/アップグレードインストール/アンインストールを行うと、以下のメッセージが出力された。

ファイルに次のエラーが発生しました、xxxxx\DepAgent.dll。
アクセスが拒否されました。
(0x5)

※xxxxxは、ファイルパス(可変)となります。

➡ 管理対象マシンのイベントビューアを開いた状態でインストール/アップグレードインストール/アンインストールを行うと上記メッセージが表示される場合があります。
「無視」ボタンを選択して上記メッセージを閉じた後、インストール/アップグレードインストールの場合は、管理対象マシンを再起動して、再度実行してください。
アンインストールの場合は、再起動後に自動的にDepAgent.dllファイルが削除されますので再度実行する必要はありません。

?

「DeploymentManager Remote Update Service Client」サービスが起動できない。
また、rupdsvc.logに以下のエラーログが記載されている。
※rupdsvc.logは、以下のフォルダ下に格納されています。

- ・x86の場合：%SystemRoot%\System32\
- ・x64の場合：%SystemRoot%\SysWOW64\

「RUPDSVC: bind() failed, code = 10048」

➡ ポート(TCP:56000/26510、TCP:56025/26511)が、他のアプリケーションなどで使用されている可能性があります。

?

「DeploymentManager Remote Update Service Client」サービスが起動できない。
また、rupdsvc.logに以下のエラーログが記載されている。

※rupdsvc.logは、以下のフォルダ下に格納されています。

・x86の場合: %SystemRoot%\System32¥

・x64の場合: %SystemRoot%\SysWOW64¥

「RMulticast receive socket create error, code = 10048」

➡ ポート(UDP:56001/26529)が、他のアプリケーションなどで使用されている可能性があります。

?

Windows Server 2008/Windows Vista/Windows 7の管理対象マシンをドメインに参加させると、ファイアウォールの設定が初期化され、ファイアウォールが有効になってしまう。

➡ ドメインサーバでドメインセキュリティポリシーが未定義の場合に発生します。

ドメインに参加する前にドメインセキュリティポリシーを定義しておいてください。

11.4. シナリオ

?

管理対象マシンにシナリオ割り当てできない。

➡ シナリオ割り当て先のマシンがシナリオ実行中、シナリオ実行エラー、シナリオ実行中断、リモート電源ONエラー状態のときは、シナリオ割り当てできません。シナリオが実行完了するか、マシンのステータスをクリアしてからシナリオ割り当てしてください。

?

シナリオファイル名を変更したい。

➡ シナリオファイル名の変更はできませんので、新しくシナリオを作り直してください。

11.5. シナリオ実行

11.5.1. 全般

?

シナリオ実行したのに「管理対象マシンの状態」がシナリオ実行中にならない。

➡ 「操作」メニューの「画面更新」をクリックするか、「F5」キーを押して画面を更新させると、状態が「シナリオ実行中」に変わります。またマシンのアイコンが実行中を示すまでは、実行中のシナリオに対し、編集、削除、またはシナリオ割り当て解除を行わないでください。シナリオが正常に実行されない場合があります。

?

シナリオの「オプション」タブ-「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れてシナリオ実行したのに、マシンが再起動しない。

➡ サービスパック/HotFixの適用、アプリケーションインストールの場合は、シナリオの実行前にマシンの再起動は行われません。

?

シナリオ実行中にエラーが発生した。

➡ 以下の方法で、エラー解除してください。

その後、イベントビューアにてエラーの内容を確認し、Webコンソールでマシンが正常な状態となっていることを確認してから、再度シナリオ実行してください。

例1)エラー解除の方法

- (1) 管理対象マシン一覧でエラーとなるマシンをクリックしてマシン情報画面が表示される。
- (2) マシン情報画面で「操作」メニューの「エラー解除」リンクをクリックする。

例2)エラー解除の方法

- (1) 「管理」ビュー→「シナリオ実行一覧」をクリックする。
- (2) ツリービュー上で、「シナリオ実行一覧」アイコンをクリックする。
- (3) 「操作」メニューの「ステータスの一括クリア」をクリックする。
- (4) 「ステータスの一括クリア」画面で「シナリオ実行エラー」を選択状態にする。
- (5) 「OK」ボタンをクリックする。

?

シナリオ実行中のまま完了にならない。

■ 以下を確認してください。

- ・DPMクライアントがインストールされていることを確認してください。
DPMクライアントをインストールしていない場合は、シナリオの中断後、DPMクライアントをインストールしてから再度実行してください。
- ・管理対象マシンにて、DPMクライアントのインストール時に設定した管理サーバのIPアドレスが正しいことを確認してください。
正しくない場合は、以下のレジストリを変更するか、DPMクライアントの再インストールを行って、正しいIPアドレスを設定してください。

<Windows>

キー:

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥depagent¥Parameters

値の名前: ServerIpAddress

<Linux>

/opt/dpmclient/agent/etc/フォルダに以下のファイルを修正してください。

ファイル名: server.inf

キー名: dpmserverip=

- ・シナリオ完了時にDPMクライアントが管理サーバと通信できる設定である。
- シナリオ実行中にWebコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「DHCPサーバ」タブ内の設定を変更した場合は、管理対象マシンがPXEブートに失敗するため、シナリオの完了を正しく検知できなくなります。シナリオを中断後、正しい環境に合わせて、「DHCPサーバ」タブ内の項目を設定した後にシナリオを再実行してください。

?

シナリオ実行後、すぐにシナリオ実行エラーが発生した。

■ DHCPサーバの設置場所や設定が間違っているか、DHCPサーバが正常に動作していない可能性があります。以下から現在の状況を確認してください。

- ・Web コンソールの「管理」ビュー→「DPM サーバ」→「詳細設定」→「DHCP サーバ」タブを選択して、正しく設定されていることを確認してください。
- ・リースすべき IP アドレスを持つ DHCP スコープが、非アクティブになっていないことを確認してください。
- ・DHCP サーバが承認され、IP アドレスをリースできる状態であることを確認してください。
- ・DHCP のアドレスプールが枯渇していないことを確認してください。枯渇している場合は、十分な量のアドレスプールを確保してください。
- ・Windows 以外の DHCP サーバを使用している場合は、固定アドレス設定が行われていることを確認してください。

■ リモートアップデートのシナリオを、シナリオで設定した「マルチキャスト配信開始条件」→「最大ターゲット数」を越えたマシンに実行した可能性があります。

実行するマシンの台数を減らすか、「最大ターゲット数」を増やしてください。

■ 電源がONになっているマシンに対して、HW設定、OSインストール、ディスク構成チェック、バックアップ/リストアのシナリオを実行した可能性があります。

マシンの電源をOFFにして再実行するか、電源ONのマシンに対して強制的に実行する場合は、シナリオのオプションタブで「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックを入れてください。

■ リモートアップデートのシナリオで、実行したパッケージのコマンド(実行ファイルパス + 実行ファイル名 + セットアップパラメータ)が259Byteを越えている可能性があります。イメージビルダ、PackageDescriberで259Byte以内になるように修正してください。

?

シナリオ実行中にエラーが発生した。

イベントビューアを確認すると、エラーログ情報が登録されている。

■ イベントビューアに登録されたログ情報を確認し、それぞれの処理を行ってください。

再実行後も問題が発生する場合は、その問題のため関連サービスが不正動作している可能性があります。実行中のシナリオがあれば終了するのを待って、管理サーバから以下の操作を行ってください。管理サーバで「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、以下のサービスを再起動してください。(停止していれば開始してください)

DeploymentManager API Service

DeploymentManager Backup/Restore Management

DeploymentManager Get Client Information
DeploymentManager PXE Management
DeploymentManager PXE Mtftp
DeploymentManager Remote Update Service
DeploymentManager Schedule Management
DeploymentManager Transfer Management

- ログ情報 1

- Error : Timeout error and stop run scenario. No response from target:

「説明」

一定時間、マシンからのレスポンスが無かったため、シナリオが実行タイムアウトしました。マシンが入力待ち状態、もしくはエラー表示などで停止している可能性があります。マシン、シナリオ内容、セットアップパラメータファイルなどを確認の上、マシンのエラーを解除し、マシンの電源をOFFにした後、再度シナリオを実行してください。

- ログ情報 2

- Error cannot create thread(xxxxxxxxxxxx)

- Error cannot allocate xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

「説明」

マシンの要求を処理するスレッドの作成や、バッファのメモリ確保に失敗しました。管理サーバの高負荷状態などの要因により、リソースが不足している可能性があります。

管理サーバの状態を確認の上、マシンのエラーを解除し、マシンの電源をOFFにした後、再度シナリオを実行してください。

- ログ情報 3

- Error cannot read CLF

- Error cannot change CLF

「説明」

管理しているマシン情報の読み込み、書き込みに失敗しました。

マシンのエラーを解除し、マシンの電源をOFFにした後、しばらく待って再度シナリオを実行してください。

- ログ情報 4

- Error cannot get xxxxxx path

- Error cannot read xxxxxx

- Error cannot open xxxxxx

「説明」

ファイルxxxxxxのパス取得、オープン、読み込みに失敗しました。

管理サーバの高負荷状態などの要因により、リソースが不足しているか、レジストリ情報が破壊されている場合があります。管理サーバの状態を確認の上、マシンのエラーを解除し、マシンの電源をOFFにした後、再度シナリオを実行してください。

- ログ情報 5

- Starting process of the computer failed MAC = XX-XX-XX-XX-XX-XX

「説明」

マシンのリモート電源ONに失敗しました。

ネットワークケーブルが接続されていないか、リモート電源ONする設定になっていません。POST画面中に強制電源オフした場合は、次回起動時リモート電源ONしないことがあります。

HW設定を確認してもう一度やり直してください。

- ログ情報 6

- Starting process of the computer failed when execute scenario MAC = XX-XX-XX-XX-XX-XX

「説明」

マシンのリモート電源ONに失敗しました。

ネットワークケーブルが接続されていないか、リモート電源ONする設定になっていません。POST画面中に強制電源オフした場合は、次回起動時リモート電源ONしないことがあります。

HW設定を確認してもう一度やり直してください。

- ログ情報 7

- scenario start write shared memory MAC : error = XX-XX-XX-XX-XX-XX : XXX

「説明」

サービスが異常終了した可能性があります。

(1)管理サーバで「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、以下のサービスを停止させる

DeploymentManager API Service
DeploymentManager Backup/Restore Management
DeploymentManager Get Client Information
DeploymentManager PXE Management
DeploymentManager PXE Mftfp
DeploymentManager Remote Update Service
DeploymentManager Schedule Management
DeploymentManager Transfer Management

(2)(1)で停止させたサービスを開始させる

(3)再度、シナリオ実行を行う。

- ログ情報 8
 - ・scenario start update module copy MAC : error = XX-XX-XX-XX-XX-XX : XXX
 - ・scenario start dir delete error MAC = XX-XX-XX-XX-XX-XX
- 「説明」
管理サーバのイメージ格納用フォルダにアクセスできない可能性があります。
イメージ格納用フォルダのアクセス権を確認した上、再度シナリオを実行してください。

?

シナリオ実行中にエラーが発生した。

マシンにディスプレイを接続して確認すると以下のメッセージが表示されていた。

➡ 表示されているメッセージに従って、それぞれの処理を行ってください。

- メッセージ 1
Error: Partition is too small for install windows operation system.
「説明」
Windowsをインストールするときに、「既存のパーティション」に設定した場合、既存のパーティションが4GByte未満の場合に表示されます。
4GByte未満のパーティションにWindowsをインストールする場合は、手作業によるローカルセットアップを行ってください。
- メッセージ 2
Error: No partitions defined.
「説明」
Windowsをインストールするときに、「既存のパーティション」に設定した場合、既存のパーティションが存在しないときに表示されます。
「新規パーティション」を選択して再実行してください。
- メッセージ 3
Error: No disk found.
「説明」
Windowsをインストールするときに、HDDが接続されていない場合に表示されます。HDDが正しく接続されているかを確認して再実行してください。

?

電源ON、またはシナリオ実行で、管理対象マシンの電源がONされない。

➡ POST画面中、強制的に電源をOFFにすると次回起動時にリモート電源ONしない場合があります。
その場合は、POST画面の完了後電源をOFFとするか、OSを起動してシャットダウンを行ってください。

?

シナリオ実行中に誤って電源を落としてしまった。

➡ Webコンソール上で、タイトルバーの「運用」をクリックして、「運用」ビューに切り替えます。ツリービュー上で、「マシン」アイコンをクリックし、電源を落としたマシンを登録したグループを選択します。指定するマシンを選択し、「シナリオ実行中断」を選択し、シナリオを中断してください。ステータスが正常に戻った後、再度シナリオを実行してください。

?

管理対象マシンがネットワークブートしないため、シナリオが実行できない。

➡ BIOSの設定のネットワークブート順位がHDDよりも低く設定されている可能性があります。ネットワークブートの起動順位をHDDよりも上にして、再度実行し直してください。

?

DPMコマンドラインを実行しても指定したコマンドが実行されない。
またコマンドプロンプトにもエラーが表示されない。

➡ 旧バージョンのDPMコマンドライン(コマンドライン for DPM)を使用している可能性があります。旧バージョンのDPMコマンドライン(コマンドライン for DPM)を使用している場合は、「インストレーションガイド 3.5 DPMコマンドラインをアップグレードインストールする」を参照して、アップグレードインストールを行ってください。

?

複数台の管理対象マシンに対して同時にシナリオを実行を行いリモート電源ONエラーが発生した。

➡ 複数台の管理対象マシンに対して同時にシナリオを実行する場合、「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコン→「詳細設定」→「ネットワーク」タブのリモート電源ONタイムアウト値のデフォルトでは、タイムアウトエラーが発生する場合があります。

目安として、リモート電源ONタイムアウト値に、リモート電源ON実行間隔×シナリオ実行台数と管理対象マシンの起動時間を加えた程度の値に設定ください。

?

シナリオ実行完了時やシナリオ中断時に、管理対象マシンの画面に以下が表示され、マシンの電源がOFFされない。

ERROR: Failed to power down by calling APM BIOS. The system has halted.

➡ APMに対応していないマシンではシャットダウン時に自動的に電源OFFされない可能性があります。
この場合は、管理対象マシンの電源を手動でOFFしてください。

?

DPMコマンドラインのコマンドを実行すると以下のメッセージが出力されコマンドが実行できない。
指定されたプログラムは実行できません。

➡ DPMコマンドラインを実行するために必要なランタイムが正しくインストールされていない場合に出力されます。

インストール媒体内の以下のファイルを実行し、ランタイムのインストールを行ってください。

・SSC向け製品の場合 :¥DPM¥Setup¥VCRTL¥vcredist_x86_2010SP1.exe

・DPM単体製品の場合 :¥Setup¥VCRTL¥vcredist_x86_2010SP1.exe

なお、上記モジュールをインストールするにはWindows Installer 3.1以上が必要です。

?

DPMコマンドラインを実行すると[イベント ビューア]の"システム"に以下のログが出力される。

ソース: SideBySide

イベントID: 32

説明: 従属するアセンブリ Microsoft.VC90.CRT を検出できませんでした。

エラー: 参照されたアセンブリはシステムにインストールされていません。

➡ DPMコマンドラインを実行するために必要なランタイムが正しくインストールされていない場合に出力されます。

インストール媒体内の以下のファイルを実行し、ランタイムのインストールを行ってください。

・SSC向け製品の場合 :¥DPM¥Setup¥VCRTL¥vcredist_x86_2010SP1.exe

・DPM単体製品の場合 :¥Setup¥VCRTL¥vcredist_x86_2010SP1.exe

なお、上記モジュールをインストールするにはWindows Installer 3.1以上が必要です。

11.5.2. Linux インストールパラメータファイルの作成

?

インストールパラメータ設定ツールの「ファイル」メニューの「開く」を選択して、既存のLinux インストールパラメータファイルを読み込んだ時に以下のメッセージが表示される。

対象ホストファイルが読み込めません。

➡ 選択したLinux インストールパラメータファイルは、本バージョンで対応していないOSの可能性があります。詳細については、「ファーストステップガイド 3.9.1 システム要件」、および「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」を参照してください。

➡ Linux インストールパラメータファイルが破損している可能性があります。

Linux セットアップパラメータファイル、およびLinux ブートパラメータファイルの内容を確認してください。

?

インストールパラメータ設定ツールから「ファイル」メニューの「開く」を選択し、既存のLinux インストールパラメータファイルを読み込んだ時に以下のメッセージが表示される。

Linuxパラメータファイルが読み込めません。

➡ 選択されたLinux インストールパラメータファイルは、本バージョンでは対応していないOSの可能性があります。詳細については、「ファーストステップガイド 3.9.1 システム要件」、および「ファーストステップガイド 付録 A 機能対応表」を参照してください。

Linux インストールパラメータファイルが破損している可能性があります。

Linux セットアップパラメータファイル、およびLinux ブートパラメータファイルの内容を確認してください。

11.5.3. ディスク複製 OS インストール

?

ディスク複製OSインストールによるOSセットアップ中に、マシンの画面に以下のメッセージが表示されて処理が停止した。

「本装置用のパラメータファイルが用意されていないかコピーに失敗しました。再起動後に表示されるウィザードにしたがってセットアップを行ってください。なにかキーを押すと再起動します。」

➡ 管理サーバの同時アクセス数の最大数を超えて接続しようとしている可能性があります。同時アクセスしているマシンを減らしてから再度実行してください。

?

ディスク複製OSインストールによるWindows OSのセットアップ中に、マシンにログオンした状態で処理が停止した。

また、パラメータで指定したマシン名などが正しく設定されていない。

➡ Windows OS初期化に時間がかかって、ディスク複製OSインストールの個性反映に失敗した可能性があります。

<イメージ格納用フォルダ>%Sysprep%Windows%DepConfig.iniをテキストエディタなどで開き、以下のTimeoutに設定した数値(ミリ秒)を変更してください。(半角数字で記入してください。)

なお、DepConfig.iniはマスタイメージ作成時、マスタマシンでCopy-ExpressSysprep.vbsスクリプトを実行した後に編集できます。

```
[SYSPREP]
Timeout=60000
```

例)

```
[SYSPREP]
Timeout=300000
```

?

Windows Server 2008/Windows Vista/Windows 7のディスク複製OSインストールによるOSのセットアップ中に、マシンの画面に以下のいずれかのメッセージが表示されて処理が停止した。

・「パス[specialize]の無人応答ファイルを解析または処理できませんでした。応答ファイルで指定されている設定を適用できません。コンポーネント[Microsoft-Windows-Shell-Setup]の設定を処理中に、エラーが検出されました。」

・「コンピュータが予期せず再起動されたか、予期しないエラーが発生しました。Windowsのインストールを続行できません。Windowsをインストールするには「OK」ボタンをクリックしてコンピュータを再起動してから、インストールを再実行してください。」

➡ 展開先のマシンのディスク複製用情報ファイルの「OS種別」と「プロダクトキー」が、マスタマシンのセットアップパラメータファイルの「OS種別」と「プロダクトキー」と異なっている可能性があります。

ディスク複製用情報ファイルの「OS種別」と「プロダクトキー」をマスタマシンのセットアップパラメータと同

じ設定に変更してマスタイメージをリストアした後、再度ディスクイメージの配布を行ってください。

?

ディスク複製OSインストールによるOSセットアップ中に、マシンの画面に以下のメッセージが表示されて処理が停止した。

「システムのレジストリに、無効なファイルパスが含まれています。インストールを続行できません。このシステムイメージは、ドライブ文字の割り当てがマシン間で整合性が取れているという保証なしで適用されました。」

➡ マスタイメージのシステム構成がマルチブートになっている場合に、表示される可能性があります。マスタイメージがマルチブートのシステム構成でないか確認してください。マルチブート環境でのディスク複製OSインストールはできません。(マスタイメージは、必ず単一システムとして構築してください。)

?

ディスク複製OSインストールによるOSセットアップ後、「ネットワークとダイヤルアップ接続」に登録されている接続名が文字化けしている。

➡ 手動で接続名を変更してください。

?

ディスク複製OSインストールによるOSセットアップの際に、マスタマシンでSysprepコマンドを実行すると「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログが表示され"Microsoft Remote Desktop Help Session Manager"の通信がブロックされていると表示された。

➡ Windows Server 2003 R2の場合に表示される可能性があります。しばらくすると自動的に続行され、問題ありませんので、しばらくお待ちください。

?

ディスク複製OSインストール中にIMJJPZP.DI_ファイル、またはその他のファイルを要求する画面が表示された。

➡ IMJJPZP.DI_が要求された場合、マスタマシンの「オペレーションガイド 3.3.1.3 マスタイメージ作成の準備をする」の「■ インストール媒体内のツールを手動実行する」で作成した¥SYSPREP¥I386¥LANG(Windows XP/Windows Server 2003/Windows 2000の場合は、¥SYSPREP¥I386¥LANG¥JPN)フォルダに以下の場所からIMJJPZP.DI_ファイルをコピーしてください。I386配下にLANGフォルダがない場合は作成してください。

Windows XP/Windows Server 2003の場合:(CD-ROM)ドライブ:¥I386¥LANG¥IMJJPZP.DI_

Windows 2000の場合:(CD-ROM)ドライブ:¥I386¥LANG¥JPN¥IMJJPZP.DI_

Windows Server 2003 R2(x64)の場合:(CD-ROM)ドライブ:¥AMD64¥LANG¥IMJJPZP.DI_

上記ファイルのコピー後、「オペレーションガイド 3.3.1.3 マスタイメージ作成の準備をする」の「■ インストール媒体内のツールを手動実行する」を参照し、再度ディスク複製OSインストールを行ってください。

その他のファイルが要求された場合も同様の手順でマスタマシンにファイルを追加して、再度ディスク複製OSインストールを行ってください。

?

ディスク複製OSインストール後、LinuxOS起動時に以下のようなメッセージが表示される。または、X-Windowが起動しない。

「"ホスト名"※ のURLが見つかりませんでした。そのため、GNOMEが正しく動作しなくなるおそれがあります。/etc/hosts ファイルに"ホスト名"※ を追加することでこの問題を解決できる場合があります。」

※"ホスト名": ディスク複製OSインストール後の各マシンのホスト名

➡ /etc/hostsファイルにホスト名が登録されていないためにX-Window起動時にエラーが発生することがあります。/etc/hostsファイルにホスト名を登録してください。使用している環境が固定IPアドレスの場合、以下のような行を登録してください。

例)192.168.0.1 servername

DHCPの場合は、ループバックアドレスに登録してください。

例)127.0.0.1 localdomain.localhost localhost servername

?

ディスク複製OSインストール後に、IPアドレスの競合が発生した。

➡ マスタマシンにエイリアスインタフェースが設定されていると、ディスク複製OSインストール後にIPアドレスの競合が発生します。以下の手順でエイリアスインタフェースの設定ファイルを削除した後、マシンを再起動してください。

```
# cd /etc/sysconfig/network-scripts
# rm -f ifcfg-eth*.*
# rm -f ifcfg-bond*.*
```

?

LinuxをインストールしたVMware ESX/ESXiの仮想マシンをマスタマシンとしてディスク複製OSインストールのバックアップを行うと、バックアップが終了した後、最初の再起動時のPOST処理で以下のエラーが表示されシャットダウンされた。

「Determining IP information for eth[]...failed; no link present. Check cable?」

➡ マスタマシン上でのディスク複製OSインストールの準備時、「オペレーションガイド 3.4.1.3 マスタイメージ作成の準備をする」の「■インストール媒体内のツールを手動実行する」に記載している設定が正しく行われていない可能性があります。

手順、設定を確認して再度ディスク複製OSインストールを行ってください。

?

VMware ESX/ESXiの仮想マシンに対してディスク複製OSインストールを行うと、個性反映が行われた後の起動時POST処理で、以下のエラーが表示され、ネットワークアダプタが認識できない。

「Determining IP information for eth[]...failed; no link present. Check cable?」

➡ ディスク複製用情報ファイル作成時、「5.4.3 ディスク複製用パラメータファイルの作成(Linux)」のスク립ト情報に記載されている設定が正しく行われなかった可能性があります。

手順、設定を確認して再度ディスク複製OSインストールを行ってください。

?

マスタマシンセットアップ用のシナリオ (System_LinuxMasterSetup/System_WindowsMasterSetup/System_WindowsMasterSetupVM)のシナリオ実行は成功したが、ディスク複製OSインストールに失敗する。

➡ DPM Ver6.12よりも前のDPMクライアントを使用している可能性があります。本バージョンのDPMクライアントにアップグレードインストール後、再度ディスク複製OSインストールを行ってください。

11.5.4. OS クリアインストール

?

BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信、OSクリアインストールのシナリオを実行した後、マシンが再起動する前に、シナリオ実行エラーになる。

➡ シナリオの「オプション」タブ-「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」にチェックが入っていますか？チェックが外れている場合、電源が入っているマシンに対しては、シナリオは実行されません。シナリオ修正するか、マシンの電源を切ってからもう一度お試しください。

?

OSクリアインストールのインストールシナリオを実行中に、マシンの画面に次のメッセージが表示されてシナリオが停止した。

「Cannot connect data server. Please stop running scenario on management server and press any key to reboot」

➡ 管理サーバの同時アクセス数の最大数を超えて接続しようとしている可能性があります。同時アクセスしているマシンを減らしてから再度実行してください。

?

OSインストールがエラーで止まってしまう。

➡ マシン名に使用できない文字を指定されている場合、OSインストールは途中でエラーとなります。使用できない文字の一覧は、使用しているOSのマニュアルなどを参照してください。

?

Linuxインストール中、次のメッセージが表示されインストールできない。

➡ Could not allocate requested partitions; Partitioning failed:
Could not allocate partitions as primary partitions
パーティションの設定が不正の可能性があります。(例えば、一つのベーシックディスク上に作成できるプライマリパーティションの数が上限値(4)を超えているなど。)
Linuxインストールパラメータファイル作成時に「ディスク情報設定」→「パーティションの設定」→「全ての既存パーティションを削除」を選択し、Linuxインストールを再度実行してください。

?

Linuxインストール中、次のメッセージが表示されインストールできない。

+----- Kickstart Error -----+

Error opening: kickstart file
/tmp/ks.cfg: No such file or
directory

[OK]

- +-----+
- ➡ NFS共有フォルダの設定が正しいか確認してください。
「インストールガイド 付録 C NFSサーバを構築する」を参照し、正しく設定を行った後Linuxのインストールを行ってください。
 - ➡ 前述の「NFSサービスのセットアップ」にあるexportsフォルダをNFS共有とした状態でDPMサーバをいったんアンインストールして、再度インストールするとエクスプローラのプロパティではNFS共有が設定されていますが、実際にインストールを行うと上記のエラーが出る場合があります。このような状態になった場合は一度NFS共有を解除し、改めて設定し直してください。
 - ➡ Linuxインストールパラメータの「インストールデバイス」の設定において、使用しているインストールデバイスを設定しているか確認してください。
「5.4.5 OSクリアインストール用パラメータファイル作成(Linux)」を参照し、「インストールデバイス」を正しく設定した後、再度Linuxのインストールを行ってください。

11.5.5. サービスパック/HotFix/Linux パッチファイル/アプリケーションのインストール

- ? リモートアップデートでシナリオ実行エラーが続く場合は、以下の操作を行ってください。
➡ 管理サーバを再起動してください。(管理サーバの再起動が不可の場合は、「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「付録A サービス一覧」に記載のすべてのサービスを停止後、停止したサービスをすべて開始してください。)
- ? サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのシナリオを実行したところ、「監視ビュー」→「シナリオ実行一覧」の「状態」欄のマシンが、「シナリオ実行中」のままで、シナリオ実行終了にならない。
➡ コマンドオプションが正しく設定されていない場合、マシン上に確認ダイアログボックスが表示されてシナリオが実行終了になりません。コマンドオプションはサービスパック/HotFixを「/h」、または「-?」のオプションをつけて実行するか、配布元のホームページなどで調べることができます。サイレントインストール型であり、インストール後に再起動を行わない設定のコマンドオプションを必ず指定してください。
- ? イメージビルダのサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールでイメージファイルの作成に失敗する。
➡ サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールでは、イメージファイルをZIP形式で保存しています。このZIPファイルが2GByteを越える場合、イメージファイルの作成に失敗します。
- ? イメージビルダでパッケージの修正を行うと「ファイルの圧縮に失敗しました。」、または「管理サーバへの登録に失敗しました。」と表示されパッケージの修正に失敗する。
➡ パッケージの作成日時より修正日時が古い場合、パッケージの修正に失敗します。パッケージの作成後に、マシンの日付と時刻を変更した、管理サーバとイメージビルダ(リモートコンソール)の時刻が異なるなどの原因が考えられます。
パッケージの作成日時を経過するのを待ってから修正するか、パッケージをいったん削除して再度作成してください。パッケージは、管理サーバのイメージ格納用フォルダ¥HotFixかイメージ格納用フォルダ¥PPに格納されています。
(イメージ格納用フォルダのデフォルトはC:¥Deploy、パッケージのファイル名は"サーバID"- "パッケージID".zipになります。)
- ? サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイルの実行に失敗しても、Webコンソール上でシナリオ実行が正常に終了したように表示される。
➡ サービスパックやHotFixの実行に失敗しても検知できない場合があります。この場合は実行が失敗した原因を取り除いてから、再度、シナリオを実行しなおしてください。
- ? BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信とサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールを同時に行うシナリオを作りたい。
➡ BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信とサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのインストールは、登録できません。同時に行う場合は、OSの登録をしてく

ださい。

?

BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信、またはサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのシナリオを実行すると、シナリオ実行エラーになる。

➡ 実行中断処理は正しく行われましたか？ 中断処理中に中断を解除してシナリオを実行すると、シナリオ実行エラーになる場合があります。

また、同じシナリオを同時に複数のマシンに実行させたい場合、マルチキャスト配信条件の最大ターゲット数を実行させたいマシンの数に設定してから、シナリオ実行してください。

?

複数のサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのシナリオを同時に実行しようとすると、シナリオ実行エラーになる。

➡ 「シナリオ詳細」画面を見て同じマルチキャストIPアドレスを指定していないか確認してください。もし同じマルチキャストIPアドレスを使用していなければ、最大転送レートを下げるか、シナリオを一つずつ実行するようにしてください。(同じシナリオであれば複数のマシンにシナリオ実行してもかまいません。)

?

サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのシナリオが開始されない。

➡ 最大ターゲット数が設定されていない、もしくは実行しようとしているマシンよりも多い場合、シナリオ実行は最大待ち時間待ってから実行されます。(最大待ち時間のデフォルトは10分です。)

?

最大転送レートを高く指定したのに、シナリオ実行時間が短縮されない。

➡ 最大転送レートはお客様のネットワーク環境により大きく左右されます。ネットワーク環境の性能以上の転送レートを出すことはできません。

?

リモートコンソールからイメージビルダでアプリケーションやサービスパック/HotFixを登録する場合に「管理サーバへの登録に失敗しました」とエラーが表示される。

➡ 登録するファイルサイズが非常に大きいと発生する場合があります。
以下のレジストリに設定されているタイムアウト値(秒数)を編集することでエラーは表示されなくなります。

Hive : HKEY_LOCAL_MACHINE
KEY : SOFTWARE\NEC\DeploymentManager
NAME : DIBReqTimeOut
Type : REG_DWORD
Value : 120

→デフォルトは、120秒となっています。タイムアウト値を設定してください。

エラーが表示されても登録は成功していますので、再登録は不要です。

イメージビルダを終了する時に以下の操作をしてください。

(1)一括登録処理で「はい(登録)」を選択。

(2)表示される書き確認で「いいえ(削除)」を選択。

?

リモートコンソールからイメージビルダでサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションをインストールする場合にデータの作成には成功するが、その後の管理サーバへの登録に失敗した。

➡ セットアップコマンド名のパスが非常に長いと発生する場合があります。

リモートコンソールから管理サーバに登録する場合、アップロード処理が管理サーバ側のイメージ格納用フォルダパスも含めたフルパスを最大パス長としてチェックするため、フルパスの上限を超えてしまい登録に失敗します。リモートコンソールで登録するファイルをドライブのルートに近い場所に移動するなどしてフルパスを短くして登録してください。

?

サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのシナリオ実行を中断し、中断解除後、再度シナリオ実行した場合にシナリオ実行エラーになる。

➡ 何らかの原因で管理対象マシンとの通信が不通になった状態で中断を行ったとき、中断処理を完了できずに中断状態のままになります。この状態で中断解除後シナリオ実行を行ってもシナリオ実行エラーになります。

このような場合は、しばらく待ってから(10分程度)再度シナリオを実行してください。

それでも、シナリオ実行エラーが続く場合は、お手数ですが、以下の操作を行ってください。

管理対象マシンで「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DeploymentManager

Remote Update Service Client」を再起動してください。(停止していれば開始してください)

?

Linuxの管理対象マシンに対してDPMクライアントの自動アップグレードシナリオを実行した後、別のリモートアップデートシナリオを実行したが開始されない。

➡ DPMクライアントの自動アップグレードシナリオを実行した場合に2分以内に別のリモートアップデートを実行するとDPMクライアントが正しく起動されません。DPMクライアントを再起動するか、OSを再起動してください。DPMクライアントを再起動する場合はコンソールを起動して、以下を実行してください。

```
> service depagt stop
> service depagt start
```

?

Linuxの管理対象マシンに対してリモートアップデートを実行するとシナリオ実行エラーになる。

➡ イメージビルダで、サービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールを行う際に、「実行設定」画面の「セットアップパラメータ」に標準出力するオプションを指定している可能性があります。

「5.5.3 Linuxパッケージ作成」を参照して、該当するオプションを指定していないかを確認してください。

該当するオプションを指定している場合は、そのパッケージを含むシナリオを削除した後に、該当するオプションを外したパッケージに修正してください。この修正したパッケージにて、シナリオファイルを作成した後、再度シナリオを実行してください。

?

x64のLinuxの管理対象マシンに対してマルチキャストによるリモートアップデートを実行するとシナリオ実行エラーになる。

➡ 必要なライブラリがインストールされていない可能性があります。`/lib/libgcc_s.so.1`が存在するか確認してください。存在しない場合は、以下のrpmパッケージをインストールしてください。

```
libgcc-3.4.5-2.i386.rpm
```

インストール後は、DPMクライアントを起動するか、OSを再起動してください。

DPMクライアントを起動する場合は、コンソールを起動して以下を実行してください。

```
> service depagt start
```

?

リモートアップデートのシナリオをマルチキャストで配信すると一部の管理対象マシンへのシナリオ実行に失敗する。

➡ 以下のすべてに該当する場合は、リモートアップデートのシナリオをマルチキャストで配信をするとシナリオ実行に失敗します。

管理サーバの複数のLANボード配下に管理対象マシンを接続している場合は、LANボードごとに異なるシナリオを作成して、実行してください。

- ・Webコンソール画面の「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコン→「詳細設定」画面→「全般」タブ→「IPアドレス」にANYを選択している。

- ・管理サーバの複数のLANボード配下に管理対象マシンが、接続されている。

11.5.6. バックアップ/リストア

?

シナリオ作成時に指定したパーティション番号と、マシンの画面に表示されているパーティション番号が異なっている。

➡ 対象のHDDに隠しパーティションが存在している可能性があります。パーティション指定のバックアップ/リストアでは、オプションで「隠しパーティションを無視する」にチェックを入れている場合は、隠しパーティションをカウントに含めません。チェックを外すか、対応するパーティション番号を正しく入力し直してください。

?

バックアップ/リストアの速度が遅い。

➡ バックアップ速度は、バックアップするデータ内容やシナリオでの転送レート、ネットワーク負荷の増大や一時的な不調、HDDアクセスの一時的な遅延などの影響を受けます。

データ内容については、対象ディスクのファイル/フォルダ数、ファイルの種類やDPMでのデータ圧縮率(圧縮が効きやすいかなど)が関係します。

そのほか、DPMサーバの負荷増大や、バックアップイメージファイル保存先のディスク書き込み速度の影響もあります。

?

バックアップのデータ転送中に突然、シナリオ実行エラーになった。

➡ 管理サーバの空き容量不足のため、データ転送ができなくなっている可能性があります。管理サーバのバックアップファイル保存先の空き容量を確認してください。空き容量不足では、バックアップは正常に動作しません。バックアップファイルの保存先を変えるか、空き容量を確保してください。

?

リストアした装置でOSを起動すると、別の装置のディスクイメージがリストアされた。

➡ バックアップしたイメージファイルが別の装置のバックアップイメージで上書きされた可能性があります。バックアップを行う際は、イメージファイル名が重複しないように注意してください。重複した場合は、以前のデータは上書きされます。
また、複数のマシンにバックアップを行う同一のシナリオを割り当て、同時に実行する場合、シナリオファイルの「バックアップ/リストア」タブの入力テキストボックス下のマシン名、MACアドレス、UUIDいずれかチェックを入れてください。

?

リストアを一斉実行しても、管理対象マシンのうち数台がシナリオ実行せず、「バックアップ/リストア実行一覧」画面には「リストア実行待ち」と表示される。

➡ シナリオファイルの設定で「最大ターゲット数」が、実際に実行しようとしている台数より小さい可能性があります。この場合、先に実行しているシナリオが終了したあと、残りのマシンのシナリオが開始されます。

?

リストアが実行待ちの状態からいつまでたっても実行されない。

➡ 実行しているシナリオファイルの「バックアップ/リストア」タブ「配信条件設定」グループボックスの「最大待ち時間」の設定が未入力の空欄になっている可能性があります。空欄になっていると、シナリオ実行の準備ができたマシンの数が「最大ターゲット数」の数に満たない間は、シナリオ実行されません。「バックアップ/リストア実行一覧」画面の「今すぐ開始」をクリックするか、いったん中断して、シナリオファイルの「最大待ち時間」に適切な値を設定して修正してください。

?

リストアのシナリオで最大ターゲット数を10に設定して作成し、10台のマシンに対して一斉実行しても、5台ずつしか実行されない。

➡ 「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「ネットワーク」タブ→「同時実行可能台数」の値が「5」となっていると、最大ターゲット数の値が10であっても、5台ずつしか実行されません。10台同時に実行したい場合は、「詳細設定」の「同時実行可能台数」の値を10に変更してください。

?

最大転送レートを高く指定したのに、シナリオ実行時間が短縮されない。

➡ 最大転送レートはお客様のネットワーク環境により大きく左右されます。ネットワーク環境の性能以上の転送レートを出すことはできません。

?

バックアップシナリオ/ユニキャストによるリストアシナリオ/ディスク構成チェックシナリオの実行が完了したのに「シナリオ実行一覧」のステータスは「準備中」のままとなっている。

➡ バックアップシナリオ、ユニキャストによるリストアシナリオ、ディスク構成チェックシナリオが完了する前に、別マシンで同一シナリオを実行した場合、Webコンソールから参照できる「シナリオ実行一覧」のステータスにはバックアップ/リストア、ディスク構成チェック完了時点からシナリオ実行完了時点までの間の状態を「準備中」と表示される可能性があります。動作上問題ありません。

?

マルチキャストによるリストアシナリオを実行中に「バックアップ/リストア実行一覧」でシナリオの実行状況を確認すると、シナリオが実行中に関わらず、既に終了している则表示される場合や、シナリオが表示されない場合がある。

➡ 「バックアップ/リストア実行一覧」は、シナリオを実行しても直ぐには更新されません。バックアップ/リストア対象のDiskへの読み込みや、書き込みが開始されたタイミングで更新されます。
それまでは、シナリオ実行前の状態が表示されます。更新前に画面を表示した場合は、暫く待って再度画面を開くか、「画面更新」をクリックしてください。

?

バックアップの途中で何も表示されないままシナリオ実行エラーになる。

➡ 正常にOSのシャットダウン処理を行わずにマシンの電源断を行った場合、シャットダウン時に行われるディスクへの遅延書き込み完了処理が行われず、ファイルシステムが不正となる可能性があります。また、ディスクへのアクセス中にシャットダウン処理を行わず電源断を行った場合も、ディスク表面に物理的な破損を生じる可能性があります。

これらのディスクに対してバックアップを行うと、途中でシナリオ実行エラーになる場合があります。
このような場合は、OSの再セットアップ、ファイルシステムの修復ツールなどを使用して、ファイルシステムを修復し、再度バックアップしてください。
なお、ディスク表面に物理的な破損(不良セクタ)が存在する場合、修復ツールなどを使用してもバックアップ/リストアできません。不良セクタが存在する場合は、新しいHDDに交換するか、HDDを物理フォーマットした後に、過去に採取したバックアップイメージでリストアし、復旧してください。

?

複数のリストアシナリオを一括で実行すると、最初に起動したマシンはシナリオが開始されるが、他のマシンは「getting Backup System image」と表示されたあと、すぐにシナリオ実行エラーになり、「シナリオ実行一覧」画面のマシンがエラー表示される。マシンの画面には次のようなメッセージが表示された。

「ERROR:Received the error from the PXE server.

Please contact your system administrator or support group.」

- ➡ シナリオ作成時に設定したマルチキャストIPアドレスがすべてのシナリオファイルで同じ値になっている可能性があります。「シナリオ編集」画面を開き、「バックアップ/リストア」タブ-「配信条件設定」グループボックスのマルチキャストIPアドレスの値を確認してください。他のリストアシナリオと同じIPアドレスを指定している場合、一方のシナリオは正常にシナリオが開始されません。IPアドレスの値が重複しないようにシナリオ修正画面から入力し直してください。エラー表示されたマシンに「シナリオ実行エラー解除」を選択すると、エラー表示が消え、再度シナリオ実行ができます。

?

パーティション指定してリストアすると、以下のいずれかのエラーメッセージが表示され、シナリオ実行エラーになる。

Cannot restore the data to a partition of a different size than the size you backed up.

Specify a partition with the following size.

(required size of a partition to restore)

(size of the specified partition)

(XXXXXX bytes)

(XXXXXX bytes)

Cannot restore the data to a partition of a different type than the type you backed up.

Specify a partition with the type same as you backed up.

(ID of the backed-up partition)

(ID of the specified partition)

(0xXX)

(0xXX)

- ➡ バックアップ元とリストア先のパーティションサイズとファイルシステム種別が一致していることを確認してください。シナリオファイルの修正画面を開き、対応するパーティションをもう一度設定しなおしてシナリオを実行してください。
- ➡ バックアップ元と異なるパーティションがリストア先として指定されている可能性があります。バックアップした時と同じパーティションにリストアしてください。シナリオファイルの修正画面を開き、対応するパーティションをもう一度設定しなおしてシナリオを実行してください。
- ➡ 管理対象マシン側に隠しパーティションが存在するため、「隠しパーティションを無視する」にチェックを入れて実行すると、バックアップ元と異なるパーティションを指定して実行しようとしている可能性があります。その場合は、「隠しパーティションを無視する」のチェックを外して、再度シナリオを実行してください。

?

バックアップ/リストアシナリオ実行時に、いつまでも処理が終了せず、管理対象マシン上に以下のメッセージが表示される。

FS: Cannot open root device "" or xx:xx

Please append a correct "root=" boot option

Kernel panic: VFS: Unable to mount root fs on xx:xx

- ➡ 管理サーバと管理対象マシン間のLAN接続に問題があるか、管理サーバが高負荷状態である可能性があります。LAN の接続状態、および管理サーバの負荷状態を確認の上、マシンの電源をOFFにした後、再度シナリオを実行してください。

?

リストアシナリオ実行時、管理対象マシンの画面に以下のメッセージが表示され、シナリオ実行エラー状態となる。

The size of the backup data to be restored is larger than that of the destination storage device. It cannot be restored. Specify a destination device whose size is larger than or equal to the following size.

(minimum required size of a destination device)

(the specified device: its size)

(XXXXXX bytes)

(DeviceName: XXXXXX bytes) .

- ➡ バックアップ元のHDDサイズとリストア先のHDDサイズを確認してください。
リストア先のHDDサイズの方が小さい場合に本メッセージが出力される可能性があります。
バックアップ元のHDDサイズ以上のHDDにリストアを行ってください。

?

バックアップシナリオ実行時、管理対象マシンの画面に以下のメッセージが表示され、シナリオ実行エラー状態となる。

Failed to backup.

There is something wrong with the management information of the GPT disk.

Check and repair the disk by CHKDSK or other tools,

and re-execute the scenario.

- ➡ バックアップ元のHyper-Vの仮想ディスクがGPT形式の場合、本メッセージが出力される可能性があります。
フルセクタバックアップを行ってください。
「シナリオ編集」画面の「バックアップ/リストア」タブで、「フルセクタオプション」のチェックを入れて再度シナリオを実行してください。

?

リストアシナリオ実行時、管理対象マシンの画面に以下のメッセージが表示され、シナリオ実行エラー状態となる。

Failed to restore.

The data is not written to the destination storage device.

Invalid data in the backup image.

For this error, contact your sales or support representative.

- ➡ バックアップ元のHyper-Vの仮想ディスクがGPT形式の場合、DPM Ver6.2よりも前のバージョンで作成されたバックアップイメージファイルをリストアすると上記メッセージが表示される可能性があります。
バックアップイメージファイルに不正なデータが含まれているため、リストアすることができません。
バックアップイメージファイルを再作成し、シナリオ作成の際に「バックアップ/リストア」タブで、「フルセクタオプション」のチェックを入れて、バックアップシナリオを実行してください。

?

何らかの理由により、以下のメッセージが出てエラー終了した際、キーボードから「p」、または「r」を入力しても、シャットダウン、またはリブート処理が行われない(キー入力が認識されない。)

「ERROR:<エラーメッセージ>

Press 'p' key to poweroff, 'r' key to reboot:」

- ➡ USBキーボード/マウスを使用している一部の機種において、キーボード/マウスが認識できない為、キー入力ができない場合があります。
電源ボタンを押下(長押し)して、電源を切ってください。

?

リストア実行中にシナリオ実行中断を行った場合、管理対象マシンの画面に以下のメッセージが表示された。

Failed to read or write the data in the managed machine.

For this error, contact your sales or support representative

- ➡ シナリオ実行中断を行った場合に表示されるメッセージです。管理サーバと管理対象マシンの通信路が切断されるため、意図したサイズのデータを取得できなかったために表示されるメッセージです。
シナリオ実行中断処理としては問題ありません。
- ➡ リストア実行中にリストアデータが途中までしか読み出せませんでした。
バックアップイメージが壊れていないか、ネットワークトラブルなどがないか確認してください。

?

リストアシナリオをマルチキャストで配信すると、リストアが実行されずにシナリオ実行中断になる。

また、管理対象マシンの画面に以下のメッセージが表示された後、再起動した。

(再起動後は、Webコンソール上の管理対象マシンのステータスにシナリオ実行エラーと表示された。)

Failed to read or write the data in the managed machine.
For this error, contact your sales or support representative
This System is reboot after XX seconds.
gzip : stdin : Unexpected end of file.

- ➡ 管理サーバが使用するIPアドレスにANYを指定し、かつ、リストアシナリオをマルチキャストで配信した場合にこのような現象が発生する可能性があります。管理サーバが使用するIPアドレスにANY以外(使用するLANボードに設定しているIPアドレス)を設定してください。設定方法については、「2.7.1.1 「全般」タブ」を参照してください。

?

シナリオ実行中に管理対象コンピュータ上で「boot:」や「login:」が表示され、処理が進まない。

- ➡ 管理対象マシン上で「Ctrl」+「C」キーなど処理を停止するキー入力が行われた可能性があります。バックアップ/リストアシナリオ実行中は管理対象マシン上でキー入力を行わないでください。

?

管理対象マシンのPXEブートに失敗する。

- ➡ 「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「DHCPサーバ」タブの内容が「DHCPサーバを使用しない」になっていませんか？
「DHCPサーバを使用しない」を選択している場合は、管理対象マシンはPXEブートできません。
PXEブートが必要な場合は、DHCPサーバを構築し、「DHCPサーバを使用する」を選択してください。
また、変更した設定は管理サーバ再起動後に有効になりますので、設定変更後は再起動を行ってください。

11.5.7. BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信

?

BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信を行うシナリオを実行後、管理対象マシンがネットワークブートしなくなった。

- ➡ BIOSのアップデートを行うと、BIOSの設定内容がデフォルトに戻る場合があります。ネットワークブートの優先順位が変更されていないか、ご確認ください。変更されている場合は順位の先頭にネットワークブートを指定してください。

?

BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信、またはサービスパック/HotFix/Linuxパッチファイル/アプリケーションのインストールのシナリオを実行すると、シナリオ実行エラーになる。

- ➡ 実行中断処理は正しく行われましたか？ 中断処理中に中断を解除してシナリオを実行すると、シナリオ実行エラーになる場合があります。
- ➡ 実行中のシナリオと同じシナリオを別のマシンに対して実行しようとしていませんか？ 同じシナリオを同時に複数のマシンに実行する場合は、マルチキャスト配信条件の最大ターゲット数を実行させたいマシンの数に設定してから、シナリオ実行してください。

?

BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信、OSクリアインストールのシナリオを実行した後、マシンが再起動する前に、シナリオ実行エラーになる。

- ➡ 実行前にシナリオの「オプション」タブの「シナリオ開始時に対象マシンのOSを再起動する」設定をしていますか？ していない場合、電源が入っているマシンに対しては、シナリオは実行されません。シナリオを修正するか、マシンの電源を切ってからもう一度お試しください。

11.6. 管理対象マシンの登録

管理対象マシンの電源をONにしても、新規登録されない。

?

➡ DHCPサーバの設置や場所の設定が間違っているか、DHCPサーバが正常に動作していない可能性があります。以下の項目を確認してください。

- ・ Web コンソールの「管理」ビュー→「DPM サーバ」→「詳細設定」→「DHCP サーバ」タブを選択し、「DHCP サーバを使用する」の設定が正しく行われていることを確認してください。
- ・ リースすべきIPアドレスを持つDHCPスコープが、非アクティブになっていないことを確認してください。
- ・ DHCP サーバが承認され、IP アドレスがリースできることを確認してください。
- ・ DHCP のアドレスプールが枯渇していないことを確認してください。枯渇している場合は、十分な量のアドレスを確保してください。
- ・ Windows 以外の DHCP サーバを使用している場合は、固定アドレス設定が行われていることを確認してください。

➡ 管理対象マシンがPXEブートに対応していない機種であるか、ネットワークの起動順位がHDDよりも下位に設定されている可能性があります。

x86ではBIOSの設定でネットワークの起動順位を確認してください。BIOSの確認方法については販売元にご確認ください。

DHCPサーバを使用しない運用を行う場合には、「管理」ビュー→「DPMサーバ」→「詳細設定」→「DHCPサーバ」タブ-「DHCPサーバを使用しない」に変更した場合、設定を有効にするために管理サーバの再起動が必要になります。管理サーバを再起動した後に、マシンを再起動してください。

管理対象マシンに複数LANボードが実装されている場合、DPMの通信に使用するLANボードがDPMサーバに登録されたのかを確認してください。

11.7. 自動更新

?

「監視」ビュー→「自動更新結果一覧」画面を起動し、該当するマシンと日時の詳細情報を確認すると、エラーログ情報が登録されている。

➡ 詳細情報を確認し、それぞれの処理を行ってください。
処理完了後に自動更新を行う場合は、管理対象マシンを再起動してください。

<詳細情報1>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ 自動更新準備中エラーが発生しました。
- ・

「説明」管理サーバのリソースが不足した可能性があります。管理サーバを再起動してください。

<詳細情報2>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ ソケットエラーが発生しました。
- ・

「説明」WinSockの初期化に失敗しました。

管理サーバのネットワーク設定(TCP/IPプロトコルが実装されているか)を確認してください。問題がない場合、管理サーバを再起動してください。

<詳細情報3>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ クライアントとの接続に失敗しました。

・

「説明」管理サーバが管理対象マシンと接続できませんでした。

- (1) マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。
「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」または「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- (2) ネットワークに問題がなければ、マシン側で以下のサービスを再起動してください。(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Agent Service

DeploymentManager Remote Update Service Client

<詳細情報4>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ クライアントに適用できるパッケージの検索に失敗しました。

・

「説明」エラーとなったマシンは、自動更新機能に対応していないOSである可能性があります。マシンのOSと言語を確認してください。下記は、自動更新機能に対応しているOSの一覧です。言語は「日本語」に対応しています。

OS名称
Windows 2000 Professional
Windows 2000 Server
Windows 2000 Advanced Server
Windows XP Professional
Windows Server 2003 Standard Edition
Windows Server 2003 Enterprise Edition
Windows Server 2003 Standard x64 Edition
Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003 R2 Standard Edition
Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition
Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition
Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition
Windows Vista Business
Windows Vista Enterprise
Windows Vista Ultimate
Windows Server 2008 Standard
Windows Server 2008 Enterprise
Windows Server 2008 Standard x64
Windows Server 2008 Enterprise x64
Windows Server 2008 R2 Standard
Windows Server 2008 R2 Enterprise
Windows Server 2008 R2 Datacenter
Windows 7 Professional
Windows 7 Ultimate
Windows 7 Enterprise
Windows 7 Professional x64
Windows 7 Ultimate x64
Windows 7 Enterprise x64
Windows 8 Pro
Windows 8 Enterprise
Windows 8 Pro x64
Windows 8 Enterprise x64

Windows Server 2012 Standard
Windows Server 2012 Datacenter

<詳細情報5>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ クライアントとの接続の再確認に失敗しました。
- ・

「説明」マシンとの通信エラーが発生しました。

- (1) マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」また「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- (2) ネットワークに問題がなければ、マシン側で以下のサービスを再起動してください。
(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Agent Service
DeploymentManager Remote Update Service Client

<詳細情報6>

- ・ コンピュータ:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ クライアント側のファイル生成に失敗しました。
- ・

「説明」マシンのディスク容量が不足している可能性があります。

管理対象マシンのディスクの空き容量を確認してください。通常、ディスクの空き容量は転送するパッケージ容量の3倍以上必要です。

例)100MByteのパッケージを適用する場合、管理対象マシンのシステムドライブの空き容量は300MByte以上必要です。

<詳細情報7>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ ファイル転送準備時にエラーが発生しました。
- ・

「説明」ファイル転送前の処理でエラーが発生しました。

管理サーバのリソースが不足した可能性があります。管理サーバを再起動してください。

<詳細情報8>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ ファイル転送スレッドの生成に失敗しました。
- ・

「説明」WindowsAPI(CreateThread())の呼び出しに失敗しました。

管理サーバ側のリソースが不足した可能性があります。管理サーバを再起動してください。

<詳細情報9>

- ・ マシン xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ ファイル転送コントロールスレッドの生成に失敗しました。
- ・

「説明」WindowsAPI(CreateThread())の呼び出しに失敗しました。

管理サーバ側のリソースが不足した可能性があります。管理サーバを再起動してください。

<詳細情報10>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ ファイル xxxxxxxx 転送時にエラーが発生しました。
- ・

「説明」ファイル転送中通信エラーが発生しました。

- (1) マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」または「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- (2) ネットワークに問題がなければ、マシン側で以下のサービスを再起動してください。
(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Agent Service
DeploymentManager Remote Update Service Client

<詳細情報11>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ クライアントへのファイル転送に失敗しました。
- ・

「説明」ファイル転送中通信エラーが発生しました。

- マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」または「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- ネットワークに問題がなければ、管理対象マシン側で以下のサービスを再起動してください。
(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Agent Service
DeploymentManager Remote Update Service Client

- マシン上で転送中のファイルが他のプロセスによって使用されている可能性があります。マシン上でウィルススキャンソフトなどが動作している場合、転送中のファイルがウィルススキャンソフトによってロックされ転送に失敗する可能性があります。その場合、次回自動更新実行時に再度ファイルの転送を行い適用を行います。

<詳細情報12>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ パッケージ xxxxxxxx 実行時にエラーが発生しました。
- ・

「説明」パッケージをマシンに転送しましたが、実行時にエラーが発生しました。

- (1) マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」または「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- (2) ディスク容量が不足になった可能性があります。

マシンのディスク容量が不足した場合に発生します。マシンのディスクの空き容量を確認してくだ

さい。通常、ディスクの空き容量は転送するパッケージの 3 倍以上必要です。

例)100MByteのパッケージを適用する場合、管理対象マシンのシステムドライブの空き容量は 300MByte以上必要です。

- (3) 解凍に失敗した可能性があります。

マシンに転送したパッケージに問題があるかどうかを確認してください。パッケージがマシン上で解凍できるかどうか確認してください。

<詳細情報13>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新開始
- ・ クライアントからの「自動更新終了」応答を受け取れませんでした。
- ・

「説明」

- (1) マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」または「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- (2) ネットワークに問題がなければ、管理対象マシン側で以下のサービスを再起動してください。(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Agent Service
DeploymentManager Remote Update Service Client

<詳細情報14>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新通知開始
- ・ ソケットエラーが発生しました。
そのようなホストは不明です。
- ・

「説明」

- (1) マシンに対して以下の手順で「ping」を実行してください。

「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前欄に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので「ping IPアドレス」または「ping ホスト名」と入力して「Enter」を押します。(pingとIPアドレス/ホスト名の間には半角スペースを入れてください。)

応答が無い場合、ネットワークの設定に問題が無いか確認してください。

- (2) ネットワークに問題がなければ、管理対象マシン側で以下のサービスを再起動してください。(停止していれば開始してください)

DeploymentManager Agent Service
DeploymentManager Remote Update Service Client

<詳細情報15>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新時間設定開始
- ・ クライアントが自動更新中、またシナリオ実行中の状態であるため、自動更新時間設定はクライアントの再起動後に有効になります。
- ・

「説明」

自動更新時間設定はマシンの次回起動時に有効になります。

<詳細情報16>

- ・ マシン:xxx (MAC:xx-xx-xx-xx-xx-xx)
- ・ 自動更新時間設定開始
- ・ クライアントの設定に失敗しました。

自動更新時間設定はクライアントの再起動後に有効になります。

・

「説明」

管理対象マシンの電源状態がOFF、または通信ポートが閉じられた状態であるため管理対象マシンとの接続に失敗しました。自動更新時間設定はマシンの次回起動時に有効になります。

?

自動更新で同じパッケージが繰り返し配信される。



管理サーバがパッケージの適用が行われたと判断するまでは自動更新の度に繰り返し配信が行われます。下記を確認し、それぞれの処理を行ってください。

<パッケージのタイプがHotFixの場合>

- ・MS番号が間違っている
MS番号を確認し、誤りがある場合は修正してください。
- ・MS番号では識別できないHotFixである
識別情報を設定してください。
- ・OSと言語に誤りがある
OSと言語を確認し、誤りがある場合は修正してください。
- ・識別情報に誤りがある
識別情報のファイルパスにテキスト形式などのファイルバージョンが無いファイルを指定した場合、ファイルバージョンを指定すると適用状態を正しく判断することができません。ファイルバージョンを指定している場合は、空に修正してください。また、テキスト形式のファイルで変更タイプに「書き換え」「バージョンアップ」を指定した場合も同様に適用状態を正しく判断することができません。テキスト形式のファイルの場合、変更タイプには「新規」もしくは「削除」を指定してください。

<パッケージのタイプがサービスパックの場合>

- ・メジャーバージョン、マイナーバージョンが間違っている。
メジャーバージョン、マイナーバージョンを確認し、誤りがある場合は修正してください。
- ・OSと言語に誤りがある
OSと言語を確認し、誤りがある場合は修正してください。
- ・識別情報に誤りがある
サービスパックの場合、識別情報は必要ありません。メジャーバージョンとマイナーバージョンに正しい値を入力してください。

<パッケージのタイプがアプリケーションの場合>

- ・表示名、表示バージョンが間違っている
表示名、表示バージョンを確認し、誤りがある場合は、修正してください。
- ・OSと言語に誤りがある
OSと言語を確認し、誤りがある場合は修正してください。
- ・識別情報に誤りがある
識別情報のファイルパスにテキスト形式などのファイルバージョンが無いファイルを指定した場合、ファイルバージョンを指定すると適用状態を正しく判断することができません。ファイルバージョンを指定している場合は、空に修正してください。また、テキスト形式のファイルで変更タイプに「書き換え」「バージョンアップ」を指定した場合も同様に適用状態を正しく判断することができません。テキスト形式のファイルの場合、変更タイプには「新規」もしくは「削除」を指定してください。

?

自動更新エラーが、画面に表示され自動更新が失敗する。



管理サーバのディスク容量が不足している可能性があります。

管理サーバのディスク容量を確認してください。ディスク容量が不足している場合は、必要なディスク容量を確保した後、管理サーバの再起動をしてください。

11.8. 自動ダウンロード

?

自動ダウンロードでエラーが発生しました。「管理」ビュー→「DPMサーバ」→パッケージのダウンロード設定画面の最終ダウンロード情報欄に「XXXX/XX/XX XX:XX:XX 自動ダウンロード失敗」と表示され、イベントビューアを確認すると、エラーログ情報が登録されている。



イベントビューアに登録されたログ情報を確認し、それぞれの処理を行ってください。
処理完了後に、再度、自動ダウンロードを行ってください。

<ログ情報1>

- DownloadFile: Failed to create the download directroy, Dir = XXX.
「説明」ディレクトリの作成に失敗しました。
管理サーバのディスク容量が十分でない場合に発生します。ディスクの空き容量を確認してください。

<ログ情報2>

- DownloadFile: Failed to parse URL, URL = XXX.
「説明」アドレスを解析できません。
パッケージWebサーバのアドレスが正しくない可能性があります。使用できない文字が使われていないか、ポート番号の設定が正しいかなどを確認してください。詳しくは、「2.7.3 パッケージのダウンロード設定」を参照してください。

<ログ情報3>

- DownloadFile: Failed to connect proxy server, Serve Name = XXX.
「説明」プロキシサーバに接続できません。

以下の項目を1から順に確認してください。

- (1)プロキシサーバのアドレスが正しくない可能性があります。使用できない文字が使われていないか、ポート番号の設定が正しいかなどを確認してください。
- (2)ネットワーク設定が正しくない可能性があります。
プロキシサーバにユーザ認証を設定していないか確認してください。プロキシを使用する場合は、HTTPのプロキシを使用してください。

<ログ情報4>

- DownloadFile: Failed to connect server, Serve Name = XXX.
「説明」パッケージWebサーバとの接続に失敗しました。

以下の項目を1から順に確認してください。

- (1)パッケージ Web サーバのアドレスが正しくない可能性があります。使用できない文字が使われていないか、ポート番号の設定が正しいかなどを確認してください。
- (2)ネットワーク設定が正しくない可能性があります。
プロキシサーバにユーザ認証を設定していないか確認してください。プロキシを使用する場合は、HTTPのプロキシを使用してください。

<ログ情報5>

- DownloadFile: Web server happened exception, Serve Name = YYY.
イベントビューアに登録されたログ情報は次の詳細メッセージを参照してください。
SendRequest: Http response error status = XXX.
(XXXの可能値は: 500、501、502、503、504、505)

エラーコードXXXが示すエラーメッセージは、「RFC2616」に沿ったエラーコードが付加されています。詳細については、「RFC2616」を参照してください。

<ログ情報6>

- DownloadFile: Failed to get response or response is error, URL = YYY.
イベントビューアに登録されたログ情報は次の詳細メッセージを参照してください。
SendRequest: Http response error status = XXX.
(XXXの可能値は: 400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414 、415)

エラーコードXXXが示すエラーメッセージは、「RFC2616」に沿ったエラーコードが付加されています。詳細については、「RFC2616」を参照してください。

例) SendRequest: Http response error status = 404
→ 指定されたURLは存在しません。

<ログ情報7>

- ・ DownloadFile: : The free disk isn't enough to download, URL = XXX.
「説明」管理サーバのディスク容量が十分でない場合に発生します。ディスクの空き容量を確認してください。

<ログ情報8>

- ・ DownloadFile: The file can't be refresh, Filename = xxx.
「説明」ファイルの更新に失敗しました。「xxx」に該当するファイルが使用中かどうか確認し、使用中の場合は終了させてから、再度ダウンロードを行ってください。

<ログ情報9>

- ・ PmDownloadPackages: Failed to compress files, Web Server ID = xxx, Package ID = xxx.
「説明」管理サーバのディスク容量が十分でない場合に発生します。ディスクの空き容量を確認してください。

自動ダウンロードの設定を行っているが、設定時刻になっても実行されない。
以下の項目を1から順に確認してください。

- ➡ (1) 「管理」ビュー→「DPM サーバ」→「パッケージのダウンロード設定」画面の「最終ダウンロード情報」を確認してください。
「XXXX/XX/XX XX:XX:XX 自動ダウンロード失敗」となっている場合は、「11.8 自動ダウンロード」のログ情報1～9を参照してください。
- (2) 「パッケージのダウンロード設定」画面面で指定する自動ダウンロード対象に、パッケージ Web サーバが追加されているか確認してください。いずれのパッケージ Web サーバも追加していない場合、自動ダウンロードは実行されません。パッケージ Web サーバ追加後に再度自動ダウンロードを行ってください。
- (3) 「パッケージのダウンロード設定」画面の「自動ダウンロードを行うにチェックが入っているか確認してください。チェックが入っていない場合、自動ダウンロードは行われません。

上記手順で解決できない場合は、自動更新が実行中でないことを確認し、管理サーバを再起動してください。

11.9. 電源 ON

電源ON、またはシナリオ実行で、マシンの電源がONされない。

- ➡ POST画面中、強制的に電源をOFFにすると次回起動時にリモート電源ONしない場合があります。その場合は、POST画面の完了後電源をOFFにするか、OSを起動してシャットダウンを行ってください。

電源はONしているのにマシンのアイコン表示が電源OFFになっている。

- ➡ 画面の更新が行われていない可能性があります。「操作」メニューの「画面更新」をクリック、または「F5」キーを押して、画面を更新させてください。

電源はONしているのに管理対象マシン一覧でリモート電源ONエラーと表示された。

- ➡ 管理対象マシンがPXEブートに対応していない機種、またはネットワークの起動順位がHDDよりも下位に設定されている可能性があります。
x86ではBIOSの設定でネットワークの起動順位を確認してください。BIOSの確認方法については販売元にご確認ください。

VMware ESX/ESXiの仮想マシンに対して電源ON、またはシナリオ実行を行っても、マシンの電源がONされない。

- ➡ VMware ESX/ESXiの仮想マシンはリモート電源ONに対応していないため、電源ONができません。手動で電源ONしてください。

11.10. スケジュール管理

?

電源管理スケジュールを設定したのに、設定した時刻にマシンが電源ON/シャットダウンされていない。

➡ マシンがシナリオ実行中だった可能性があります。電源ON/シャットダウンに指定していた時刻にマシンがシナリオ実行中だった場合、電源ON/シャットダウンは実行されません。

11.11. マシン情報インポート/エクスポート

?

マシンの情報をインポートしたのに管理対象マシン一覧にマシンが表示されない。

➡ 「操作」メニューの「画面更新」をクリック、または「F5」キーを押して画面更新すると表示されます。

11.12. ネットワーク設定

?

以下のエラーメッセージが表示された。

サーバのコンピュータ名の取消に失敗しました。
ネットワーク環境を確認してもう一度起動してください。

➡ ネットワークに接続されていない可能性があります。
ネットワークのケーブルが接続されているかどうか確認して再起動してください。

?

DHCPサーバと管理サーバを別々のマシンにしたら、マシンのMACアドレスの取得ができなくなった。

➡ 管理サーバ上に構築したDHCPサーバが起動している可能性があります。管理サーバで、「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択して、サービス"DHCP Server"が停止していることを確認してください。起動している場合は、プロパティ画面よりスタートアップの種類を無効にして、サービスを停止してください。

➡ Webコンソールの「管理」ビュー→「DPMサーバ」アイコン→「詳細設定」画面の「DHCPサーバ」タブで「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」にチェックが入っていない可能性があります。「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」にチェックが入っていることを確認してください。チェックが入っていない場合は、チェックを入れて、「OK」ボタンをクリックしたあと、管理サーバを再起動してください。(管理サーバの再起動が不可の場合は、「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「付録A サービス一覧」に記載のすべてのサービスを停止後、停止したサービスをすべて開始してください。)

?

管理対象マシンがネットワークブートしないため、シナリオが実行できない。

➡ BIOSの設定で、ネットワークブート順位がHDDよりも低く設定されている可能性があります。PXEネットワークブートの起動順位をHDDよりも上にして、再度実行し直してください。

?

複数のLANボードを使用して異なるネットワークを管理しようとして以下エラーが表示された。

PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received.

PXE-E55: proxyDHCP service did not reply to request on port 4011.

➡ 以下の(1)/(2)の手順を行ってください。

(1)DHCPサーバが使用するIPアドレスを変更します。

- 1) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「DHCP」を選択します。
- 2) 「DHCP」画面が表示されますので、ツリービューからサーバ名を右クリックして「プロパティ」を選択します。
- 3) プロパティ画面が表示されますので、「詳細設定」タブを選択し、「結合」ボタンをクリックします。
- 4) 「結合」画面が表示されますので、使用する IP アドレスのみにチェックを入れて、「OK」ボタンをクリックします。
- 5) 「スタート」メニューから「管理ツール」→「サービス」を選択し、「DHCP Server」を再起動してください。

(2)DPMが使用するIPアドレスを変更します。

- 1) Web コンソールの「管理」ビュー→「DPM サーバ」アイコン→「詳細設定」→「全般」タブ→「サーバ情報」→「IP アドレス」に(1)で設定した IP アドレスを設定してください。

?

管理サーバとDHCPサーバを別々のマシンにすると、ネットワークブート時に以下のエラーが表示された。

PXE-E55: proxyDHCP service did not reply to request on port 4011.

- ➡ DHCPサーバのオプションにオプション60(060 Class ID)を設定しているDHCPサーバが存在する可能性があります。DHCPサーバのオプション設定を確認して、オプション60(060 Class ID)の設定を解除してください。

?

シナリオを実行すると以下のエラーが表示された。

PXE-E53:No boot filename received

- ➡ DHCPサーバの設置場所設定が正しくありません。
DPMのメインウィンドウ画面の「管理」ビュー→「DPMサーバ」から「詳細設定」画面を開き、「DHCPサーバ」タブの設定が正しいかを確認してください。

既に正しく設定されている場合も、改めて設定してください。

設定が正しいにも関わらずエラーが表示される場合は、いったん現在とは違う設定(実際の環境が「DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している」なら「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」、「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」なら「DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している」)にした後、正しく設定しなおしてください。

例)「DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している」を設定している場合

- (1)「DHCPサーバが別のマシン上で動作している」を選択する
- (2)「OK」ボタンをクリックする
- (3)画面に表示されるメッセージに添ってサービスを再起動する
- (4)「DHCPサーバがDPMサーバと同じマシン上で動作している」を選択する
- (5)「OK」ボタンをクリックする
- (6)画面に表示されるメッセージに添ってサービスを再起動する

?

複数のLANボードがあるマシンに同一セグメントのIPアドレスを割り振ると電源状態が検知できなくなった。

- ➡ LANケーブルを接続していないLANボードに固定IPを割り当てた場合、正しく通信できない可能性があります。LANケーブルを接続していないLANボードには固定IPを割り当てずDHCP設定とするか、未設定としてください。

?

ネットワークブート中、管理対象マシンの画面に以下のメッセージが表示され、シナリオ実行エラーとなる。

PXE-E32: TFTP open timeout

- ➡ Windowsファイアウォールやセキュリティ対策ソフトウェアなどのポートブロック機能によって、TFTPポート(ポート番号:69)がブロックされている可能性があります。管理サーバがインストールされているOSにおいて、TFTPポートがブロックされていないか確認してください。DPMでの運用を行うためには、TFTPポートのブロックを解除する必要があります。

11.13. DHCP サーバを使用しない場合の運用

?

「電源ON」、「マシンの新規登録」でエラーが発生する。

- ➡ 管理対象マシンにDPMクライアントがインストールされているかを確認してください。インストール方法については、「インストレーションガイド 2.2 DPMクライアントをインストールする」を参照してください。

?

ブータブルCD起動からのバックアップシナリオ/リストアシナリオ/ディスク構成チェックシナリオの実行に失敗する。

- ➡ 以下について確認してください。
- 管理対象マシンは登録されていますか？
 - 管理対象マシンにシナリオは割り当てられていますか？
 - 管理対象マシンに割り当てられているシナリオは正しいですか？
 - 「マルチキャストリストア」シナリオが割り当たっていませんか？

「バックアップ/リストア」タブと同時に「HW設定」タブを指定するような、複数指定していませんか？
「バックアップ」シナリオ、「リストア(ユニキャスト)」シナリオ、「ディスク構成チェック」シナリオ以外はエラーになります。

?

ブータブルCDを管理対象マシンにセットして、Webコンソールからバックアップ/リストアシナリオ実行を行った場合、指定した以外のマシンでシナリオが実行されシナリオは正常終了するが、オペレーションで指定したマシンはシナリオ実行エラーになる。

➡ シナリオ実行したマシンに複数のLANボードが搭載され、かつ、それらの各々がDPMIに登録されている可能性があります。同じマシンが複数登録されている場合は不要な登録を削除し、再度、バックアップ/リストアを実行してください。

?

ブータブルCDをセットしてマシンを起動してもバックアップ/リストアシナリオが開始されない。

➡ ブート順位の先頭はCDになっていますか？
先頭でない場合は、CDのブート順位を先頭にしてください。

?

ブータブルCDをセットしてマシンを起動すると画面に「A state of communication was bad condition」と表示される。

➡ 何らかのエラーが発生した可能性があります。

- ・管理対象マシンが、管理サーバと接続する前にタイムアウトが発生する場合：
「詳細設定」画面の「ネットワーク」タブで、「リモート電源ONタイムアウト」の値を大きくして再度バックアップ/リストアを行ってください。
設定の詳細は、「2.7.1.3 「ネットワーク」タブ」を参照してください。
- ・ブータブルCDを使用する際に、管理サーバの「詳細設定」画面の「DHCPサーバ」タブで、「DHCPサーバを使用しない」を選択していない場合：
「2.7.1.4 「DHCPサーバ」タブ」を参照して正しい環境に合わせて「DHCPサーバ」タブ内の項目を設定してください。
※設定変更後は管理サーバの再起動が必要です。
- ・管理サーバと通信している管理対象マシン側のLANボードのMACアドレスが、DPMIに登録されていない場合：
適切なMACアドレスをDPMIに登録して、再度バックアップ/リストアしてください。
- ・上記のいずれにも該当しない場合：
ネットワークに未接続、またはネットワークの影響で管理サーバと管理対象マシンが接続できない状態である可能性があります。管理サーバと管理対象マシンの間のネットワーク状態を確認した後で、再度バックアップ/リストアしてください。

?

ブータブルCDをセットして管理対象マシンを起動すると、画面に以下のメッセージが表示され、処理が中断される。

linuxrc : Cannot find CD-ROM Drives.

➡ ブータブルCDがデバイスを認識できない時に発生する場合があります。
➡ USBのCD/FDDドライブを使用している場合は、ドライブを接続するポートを変更して、再度お試しください。
➡ DPMIが使用中のCDドライブに対応していない可能性があります。
現在、Panasonic社製の以下のCDドライブには対応していません。
KXL-840/RW11/RW20/RW21/RW31
これらのドライブを使用している場合は別のCDドライブを用意するか、「DHCPサーバを使用する」運用でバックアップ/リストアしてください。

?

バックアップ/リストア処理が開始されず、画面に以下のメッセージが表示される。
(以下のxは、数値が入ります。以下は、xに5が表示された場合の対応方法です。)

ERROR: Failed to read a file (x)

➡ バックアップ対象装置が以下のいずれかに該当する場合にバックアップ対象装置のディスクよりも以下のものが先に認識されるため、エラー表示されます。

- ・バックアップ対象装置にUSB機器を接続している場合
- ・バックアップ対象装置にUSB接続のためのインターフェースが存在する場合
- ・BladeServerの筐体にCD/DVDドライブが内蔵されている場合

この場合は、シナリオのディスク番号を変更後、シナリオを実行してください。
また、認識するデバイス数は装置に依存するため、変更後も同様のエラーが発生する場合には再度ディスク番号を変更してバックアップを行ってください。

?

リストアを中断した場合に以下のメッセージが表示される。

ERROR: Found the eof during the input of a binary stream.
gzip: stdin: unexpected end of file.



リストアデータ転送中に中断した場合に、本メッセージが表示されることがあります。リストアを中断して、本メッセージが出力された場合は、再度リストアを行うか、OSの再セットアップを行ってください。

11.14. PackageDescriber

?

Windows Vista上でPackageDescriberを起動しようすると、以下のエラーが表示される。

「Unable to access jarfile PackageDescriber.jar」



「一時保存フォルダ」の設定が、初期設定値から変更されていない可能性があります。

以下のいずれかの設定を行ってください。

- ・ユーザアカウント制御(User Account Control:UAC)を無効に設定して、PackageDescriberを使用する。
UACを無効にするには、「スタート」メニューから「コントロール パネル」→「ユーザーアカウント」→「ユーザーアカウント制御の有効化、または無効化」にて、「ユーザーアカウント制御(UAC)を使ってマシンの保護に役立たせる」のチェックを外します。
- ・管理者として実行する。
 - (1)「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「DPM PackageDescriber」を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
 - (2)「DPM PackageDescriberのプロパティ」画面が表示されますので、以下の設定を行った後、「OK」ボタンをクリックします。
 - ・「ショートカット」タブ
 - 「リンク先」を以下のように修正します。
[変更前]
C:¥Windows¥system32¥javaw.exe -jar PackageDescriber.jar
[変更後]
%ProgramFiles%¥Java¥jre7¥bin¥javaw.exe -jar PackageDescriber.jar
 - ・「互換性」タブ
 - 「特権」レベルの「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れます。
 - (3)「アクセス拒否」画面が表示されますので、「続行」ボタンをクリックします。
 - (4)デスクトップ上の「DPM PackageDescriber」のショートカットアイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択し、(2)から(3)を設定します。

上記を設定後、PackageDescriberの初回起動時に「ユーザー アカウント制御」画面が表示されますので、「許可」ボタンをクリックしてください。

11.15. 障害発生時の情報採取

■DPM使用中の障害に対し問い合わせ頂く場合は、以下の情報を添えてください。

- ・DPMバージョン/機種対応モジュール種別
- ・管理対象マシン情報
 - 機種型番
 - オプション構成/型番
 - マシン名
 - MACアドレス
 - OS種別
- ・発生日時

- ・現象内容
 - どのような操作/運用を行い、どのような結果となったか
 - ・画面上の表示
 - 管理サーバ
 - 管理対象マシン
 - ・再現性
 - 必ず発生する
 - 成功する場合もある
 - 過去は成功していたがある日を境に発生するようになった
 - 別の管理対象マシンでも発生する/発生しない
 - ・ログ収集ツールによるDPMログ
 - 管理サーバ
 - 管理対象マシン
- ※現象発生直後に採取してください。
- ログ採取前に同一マシンに対して再度シナリオを実行すると、
 - ログが上書きされる場合があります
 - 現象発生後、1週間経過するとDHCPサーバのログが上書きされます
- ・ネットワーク構成図

DPMのログ採取方法を以下に記載します。

ログ採取対象は、管理サーバ、および管理対象マシンです。

■ログ採取手順(Windows x86/x64)

以下の手順に沿って、管理サーバ、データベースサーバ(管理サーバとは別のマシンでデータベースを構築している場合のみ)、およびエラーが発生している管理対象マシン上で、それぞれログを採取してください。

- (1) DPM に関する処理を終了してください。
- (2) 該当マシンに Administrator 権限を持つユーザでログオンします。
- (3) 管理サーバのログを採取する場合は、本手順は必要ありませんので、(4)へ進んでください。
データベースサーバ、または管理対象マシンのログを採取する場合は、以下のフォルダを、任意の場所にコピーします。

ヒント

SSC向け製品の場合：
 <インストール媒体>:¥DPM¥TOOLS¥DpmLog
 DPM単体製品の場合：
 <インストール媒体>:¥TOOLS¥DpmLog

- (4) 「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、名前に「cmd」と入力して「OK」ボタンをクリックします。コマンドプロンプトが起動しますので、以下のフォルダに移動します。
 - ・管理サーバの場合:<DPM インストールフォルダ>¥DpmLog
 - ・管理対象マシンの場合:(3)でコピーしたフォルダ

例)(3)でコピーした場所が「C:¥」の場合
 cd /d C:¥DpmLog

(5) オプション「-A」を付けて、DpmLog.exe を実行します。以下のメッセージを参照して、収集したログを送付してください。

```
C:\DpmLog>DpmLog -A[Enter]
ログを収集しています。しばらくお待ちください。
ログの収集が完了しました。以下のフォルダを圧縮して送付してください。

保存先: log

C:\DpmLog>
```

注意

DpmLog.exeの実行中は、DPMの操作を行わないでください。

(6) ログを送付後は不要となるため、保存先の「log」フォルダをフォルダごと削除します。

■ログ採取手順(Linux)

以下のファイルを採取してください。ファイルを採取する際には、タイムスタンプが変更されないようにログを採取し(cp コマンドの-pオプションなど)、zipやgzipなどのコマンドを用いてLinux上で圧縮し、送付してください。

-システム設定ファイル

- /etc/hosts
- /etc/resolv.conf
- /etc/sysconfig/network
- /etc/sysconfig/clock
- /etc/sysconfig/iptables
- /etc/sysconfig/ipchains
- /etc/rc.d/rc
- /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-*ファイル

-バージョン情報

- Red Hat Enterprise Linuxの場合: /etc/redhat-release
- SUSE Linux Enterpriseの場合: /etc/SuSE-release

-DPMクライアントの関連ファイル

- /opt/dpmclient/フォルダ配下の全ファイル
- /var/log/messages* (messagesで始まる全ファイル)
- /tmp/dpm/フォルダ配下の全ファイル (存在すれば)

-ネットワーク情報

以下のコマンドの実行結果を採取してください。

- ifconfig -a
- netstat -anp
- route
- ps -axm | grep depagtd
- iptables -L

-システム情報

以下のコマンドの実行結果を採取してください。

- uname -a
- lspci -vx
- dmidecode
- biosdecode
- dmesg -s 65536

付録 A サービス一覧

DPMのサービス、およびプロセスは、以下となります。

ヒント

サービス表示名が「なし」、または「(子プロセス)」と表記されているものは、関連機能を実行した時に起動するプロセスです。常駐サービスではありません。

■DPMサーバ

サービス表示名	プロセス/ファイル名 (表示数)※1	機能
DeploymentManager API Service	apiserv.exe(1)	シナリオ実行/各種項目の設定
(子プロセス)	mkParams.exe(1 以上)	Windowsのディスク複製用情報ファイルを作成するツール
	magicsend.exe(1)	リモート電源ONの実行
	ipconfig.exe(1以上)	ネットワーク設定
	nbtstat.exe(1以上)	ネットワーク設定
DeploymentManager Backup/Restore Management	bkressvc.exe(1)	バックアップ/リストアの実行
DeploymentManager Get Client Information	depssvc.exe(1)	管理対象マシンからのOS/SP/パッチ情報を受信
DeploymentManager PXE Management	pxesvc.exe(1)	ネットワーク(PXE)ブートの制御
(子プロセス)	ipconfig.exe(1以上)	ネットワーク設定
	nbtstat.exe(1以上)	ネットワーク設定
DeploymentManager PXE Mftftp	pxemtftp.exe(1)	tftpサーバ機能
DeploymentManager Remote Update Service	rupdssvc.exe(1)	リモートアップデートの実行
(子プロセス)	zip.exe(1)	ファイル圧縮コマンド
	unzip.exe(1)	ファイル解凍コマンド
DeploymentManager Schedule Management	schwatch.exe(1)	スケジュール管理
(子プロセス)	magicsend.exe(1)	リモート電源ONの実行
	ipconfig.exe(1以上)	ネットワーク設定
	nbtstat.exe(1以上)	ネットワーク設定
DeploymentManager Transfer Management	ftsvc.exe(1)	ファイル転送サービス
(子プロセス)	CHKOS32.exe(1 以上)	OS種別取得ツール

※1

インストールフォルダのデフォルトは、「C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager」です。

■データベース ※1

サービス表示名	プロセス/ファイル名(表示数)	機能
SQL Server(インスタンス名)	sqlservr.exe(1)※2	SQL データベース(DPM用)

※1

データベースを構築しているマシン上で動作します。

※2

インストールフォルダのデフォルトは、「C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11. **インスタンス名**¥MSSQL¥Binn」です。

■イメージビルダ(リモートコンソール)

サービス表示名	プロセス/ファイル名(表示数)※1	機能
なし (子プロセス)	DIBuilde.exe(1)	イメージビルダ
	DIBPkgMake.exe(1)	パッケージ作成用ツール
	DIBPkgDel.exe(1)	パッケージ削除用ツール
	mkParams.exe(1)	Windowsのディスク複製用情報ファイルを作成するツール
	ExecLinuxIParm.jar(1)	Linuxのインストールパラメータを作成するツール
	ExecLinuxSysRep.jar(1)	Linuxのディスク複製用情報ファイルを作成するツール
	winftc.exe(1)	ファイル転送ツール
	zip.exe(1)	ファイル圧縮コマンド
	CHKOSCD.EXE(1)	OS CD-ROMチェックツール

※1

インストールフォルダのデフォルトは、「C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager」です。

■DPMコマンドライン

サービス表示名	プロセス/ファイル名(表示数)※1	機能
なし	dpmcmd.exe(1以上)	DPMコマンドラインからのシナリオ実行など

※1

インストールフォルダのデフォルトは、「C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager」です。

付録 B イベントログ

イベントログについては製品サイトを参照してください。

WebSAM DeploymentManager(<http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>)

→「ダウンロード」を選択

付録 C エラー情報

エラー情報については製品サイトを参照してください。

WebSAM DeploymentManager(<http://jpn.nec.com/websam/deploymentmanager/>)

→「ダウンロード」を選択

付録 D ネットワークポートとプロトコル一覧

■DPMが通信に使用しているポート一覧

ヒント

- 管理サーバ上に DHCP サーバや NFS サーバを構築する場合は、それぞれの表に記載の通信が、管理サーバと管理対象マシン間で行われます。
- DPM が通信に使用しているポート(Windows OS)の自動/手動開放については、「7.1 ポート開放ツール」を参照してください。

・管理サーバと管理対象マシンの通信

項目	管理サーバ			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理対象マシン		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更の可否				ポート番号	ポート番号変更の可否	実行ファイル名
電源ON	magicsend.exe	※1	不可	UDP	→	Direct Broadcast ※2	5561	不可	
シャットダウン	apiserv.exe schwatch.exe	※1	不可	TCP	→	Unicast	26509 ※10	可	Windows の 場合: DepAgent.exe Linuxの場合: depagtd
生存確認(電源ON/OFF状態の確認)	apiserv.exe schwatch.exe	- ※3	不可	ICMP Echo request	→	Unicast	8 ※3	不可	
	apiserv.exe schwatch.exe	0 ※3	不可	ICMP Echo request	←	Unicast	- ※3	不可	

ネットワーク ブート	pxesvc.exe	67	不可	UDP (DHCP)	←	Broadcast ※4※5	68	不可	
	pxesvc.exe	67	不可	UDP (DHCP)	→	Broadcast ※4※5	68	不可	
	pxesvc.exe	67	不可	UDP	→	Unicast	68	不可	
	pxesvc.exe	4011	不可	UDP	←	Unicast	68	不可	
	pxesvc.exe	4011	不可	UDP	←	Unicast	4011	不可	
	pxesvc.exe	67	不可	UDP	→	Unicast	4011	不可	
	pxemftftp.exe	69	不可	UDP (TFTP)	←	Unicast	※6	不可	
	pxemftftp.exe	69	不可	UDP (TFTP)	→	Unicast	※6	不可	
	bkressvc.exe	26503 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
	bkressvc.exe	26502 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
ディスク複製 OSインストール ※7	ftsvc.exe	26508 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
リストア(マルチキャスト)※8	ftsvc.exe	26508 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
	bkressvc.exe	26501 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
	bkressvc.exe	26530 ※10	可	UDP	→	Multicast	26530 ※10	可	
リストア(ユニキャスト)※9	ftsvc.exe	26508 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
	bkressvc.exe	26501 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
バックアップ ※9	ftsvc.exe	26508 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
	bkressvc.exe	26501 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
ディスク構成 チェック※9	ftsvc.exe	26508 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
リモートアップ デートによる サービスパック /HotFix/Linux パッチファイル/アプリケーションのインストール	rupdssvc.exe	※1	不可	TCP	→	Unicast	26510 ※10	可	Windows の 場合: rupdsvc.exe Linuxの場合: depagtd
	rupdssvc.exe	※1	不可	UDP	→	Multicast	26529 ※10	可	Windows の 場合: rupdsvc.exe Linuxの場合: depagtd
	rupdssvc.exe	26507 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	rupdsvc.exe(Win dowsのみ)

管理対象マシンのOS/HotFix情報取得	depssvc.exe	26504 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	Windows の 場合: rupdsvc.exe Linuxの場合: depagtd
自動更新要求	rupdsvc.exe	26506 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	rupdsvc.exe
	rupdsvc.exe	26507 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	rupdsvc.exe
自動更新通知	rupdsvc.exe	※1	不可	TCP	→	Unicast	26511 ※10	可	rupdsvc.exe
	rupdsvc.exe	26506 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	rupdsvc.exe
	rupdsvc.exe	26507 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	rupdsvc.exe
DHCPサーバを使用しない運用	pxesvc.exe	26505 ※10	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	
管理サーバ/ポート検索	pxesvc.exe	67	不可	UDP (DHCP)	←	Broadcast ※4	68	不可	Windows の 場合: GetBootServerI P.exe Linuxの場合: GetBootServerI P
	pxesvc.exe	67	不可	UDP (DHCP)	→	Broadcast ※4	68	不可	Windows の 場合: GetBootServerI P.exe Linuxの場合: GetBootServerI P
	pxesvc.exe	4011	不可	UDP	←	Unicast	※1	不可	Windows の 場合: GetBootServerI P.exe Linuxの場合: GetBootServerI P
	pxesvc.exe	4011	不可	UDP	→	Unicast	※1	不可	Windows の 場合: GetBootServerI P.exe Linuxの場合: GetBootServerI P
	pxemftf.exe	69	不可	UDP (TFTP)	←	Unicast	※1	不可	
	pxemftf.exe	69	不可	UDP (TFTP)	→	Unicast	※1	不可	
	apiserv.exe	※1	不可	TCP	→	Unicast	26520	可	Windows の 場合: rupdsvc.exe Linuxの場合: depagtd

- ※1
ポートは自動的に割り当てられます。
- ※2
管理サーバと同じセグメントのマシンに対しては255.255.255.255宛となります。
管理サーバと別セグメントの場合はダイレクトブロードキャストとなります。
例)192.168.0.0(MASK=255.255.255.0)セグメントの場合は、192.168.0.255宛となります。
- ※3
ICMP(Internet Control Message Protocol)ではポート番号を指定した通信は行いませんが、ICMPのTypeフィールド値を使ってルーティングします。
- ※4
DHCPリレーによりリレーされたパケットの宛先はUnicastになる場合があります。
- ※5
DHCPサーバと管理サーバが別装置の場合のみとなります。
- ※6
装置添付のLANボード ROMに依存します。
- ※7
リストアの項目に記載されているプロトコルとポート番号も、追加が必要となります。
- ※8
ネットワークブートの項目に記載しているプロトコルとポート番号も追加が必要となります(マルチキャストによるリストアはDHCPサーバを使用する運用のみとなります)。
- ※9
DHCPサーバを使用する運用を行う場合は、「ネットワークブート」の項目に記載しているプロトコルとポート番号も追加が必要となります。
DHCPサーバを使用しない運用を行う場合は、「DHCPサーバを使用しない運用」の項目に記載しているプロトコルとポート番号が追加が必要となります。
- ※10
DPM Ver6.1以降、使用するポートの既定値が変更となりました。DPM Ver6.1より前のバージョンからアップグレードインストールした場合は、アップグレードインストール前に使用していたポート番号をそのまま引き継ぐため、DPMサーバを新規インストールした際のポート番号(上記の表中の値)とは異なります。ただし、Webサービス用ポート(56050)は引き継がず新しいポート(26500)を使います。アップグレードインストール前に使用していた従来のポートを使用する場合には、手動で変更してください。DPMサーバを新規インストールした場合とDPMサーバをアップグレードインストールした場合の既定のポートは以下の表のとおりです。

DPMサーバを新規インストールした場合	DPM Ver6.1より前のバージョンから、アップグレードインストールした場合
26500	26500
26501	56020
26502	56022
26503	56030
26504	56011
26505	56060
26506	56024
26507	56028
26508	56023
26509	56010
26510	56000
26511	56025
26529	56001
26530	56021

注意

- 管理対象マシンのOSが、Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows Vista/Windows 7/Windows 8の場合、DPMクライアントのインストール時に使用されているネットワークの状況により、Windowsファイアウォールのパブリックプロファイル、プライベートプロファイル、ドメインプロファイルのいずれかのポート/プログラムが開放されます。

管理対象マシンがドメインに参加してドメインプロファイルに変更されると、DPMが使用するポート/プログラムがブロックされ通信できなくなります。

ドメインに参加する管理対象マシンや、ディスク複製OSインストールでマスタとするマシンには、あらかじめDPMが使用するポート/プログラムをドメインプロファイルで開放しておいてください。以下の手順により管理対象マシンのドメインプロファイルのポート/プログラムを開放することができます。

- ・ドメインのポリシーで設定する方法：

Windows Server 2008以降のドメインコントローラのドメインポリシーで設定してください。

- ・管理対象マシンのローカルで設定する方法：

(1)管理対象マシンの「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」の「受信の規則」から以下を選択し、右クリックして「プロパティ」を選択します。

-共通

DeploymentManager(DepAgent.exe)

DeploymentManager(rupdsvc.exe)

-Windows Vista/Windows7の場合

ネットワーク - エコー要求(ICMPv4 受信)

-Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows 8の場合

ファイルとプリンターの共有(エコー要求 - ICMPv4 受信)

(2)プロパティの「詳細設定」タブのプロファイルでドメインのチェックボックスにチェックを入れます。

- Windows Server 2003(SP1/SP2)/Windows Server 2003 R2では、セキュリティ更新(Post-Setup Security Updates:PSSU)により、最新の更新プログラムが適用されるまでは、すべての接続要求がブロックされます。

Windows Updateなどにより管理対象マシンを最新の状態に更新、もしくは、PSSUを手動で解除してください。PSSUを手動で解除するには、管理者でログインし、セキュリティ更新の画面を開いてください。

- 管理対象マシンのファイアウォールサービスを自動起動に設定している場合、ファイアウォール機能の有効/無効に関わらずマシンが起動してからファイアウォールサービスが起動するまでの間、すべてのポートが閉じられます。このタイミングで以下の操作を行うと、処理に失敗しますので、注意してください。

- ・シナリオ実行/シャットダウンを行うと管理対象マシンとの通信ができないため処理がエラーとなります。

このような場合は、管理対象マシンが電源ONとなっていることをWebコンソールから確認後、シナリオ実行/シャットダウンを行ってください。

- ・DPMクライアントのバージョン/リビジョンが、DPMサーバのバージョン/リビジョンと一致していない場合、DPMクライアントの自動アップグレードインストールが実行されますが、このタイミングで管理対象マシンと通信できないため自動アップグレードインストールに失敗します。

このような場合は、「インストレーションガイド 3.3.2 DPMクライアントを手動アップグレードインストールする」を参照して、シナリオ配信によるアップグレードを行ってください。

・データベースサーバと管理サーバの通信

項目	データベースサーバ			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理サーバ		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更可否				ポート番号	ポート番号変更可否	実行ファイル名
データベース		26512 ※2	可	TCP	←	Unicast	※1	不可	apiserv.exe bkressvc.exe depssvc.exe ftsvc.exe pxesvc.exe rupdssvc.exe schwatch.exe

※1

ポートは自動的に割り当てられます。

※2

ポート番号を変更する場合は、DPMサーバを新規インストールする前に行ってください。それ以降は、変更できません。

・DHCPサーバと管理対象マシンの通信

項目	DHCPサーバ			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理対象マシン		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更可否				ポート番号	ポート番号変更可否	実行ファイル名
IPアドレス取得		67	不可	UDP (DHCP)	←	Broadcast ※1	68	不可	
		67	不可	UDP (DHCP)	→	Broadcast ※1	68	不可	

※1

DHCPリレーによりリレーされたパケットの宛先はUnicastになる場合があります。

・NFSサーバと管理対象マシンの通信

項目	NFSサーバ			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理対象マシン		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更可否				ポート番号	ポート番号変更可否	実行ファイル名
OSクリーンインストール	- ※1	111	不可	TCP	←	Unicast	※2	不可	※1
	- ※1	111	不可	UDP	←	Unicast	※2	不可	※1
	- ※1	1048 ※3	不可	TCP	←	Unicast	※2	不可	※1
	- ※1	1048 ※3	不可	UDP	←	Unicast	※2	不可	※1
	- ※1	2049	不可	TCP	←	Unicast	※2	不可	※1
	- ※1	2049	不可	UDP	←	Unicast	※2	不可	※1

※1

Linux OS関連モジュールになります。(DPM製品には、含まれません。)

※2

ポートは自動的に割り当てられます。

※3

このポート番号は動的に変更される場合があります。もし通信に失敗する場合は、"rpcinfo -p" コマンドでmountd (NFS mount daemon)サービスが使用するポート番号を確認し、そのポートを開放するようにしてください。この方法によっても改善されない場合は、Windowsファイアウォールの設定を無効にしてください。

・Webコンソールと管理サーバの通信

項目	Webコンソール用マシン			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理サーバ ※2		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更可否				ポート番号	ポート番号変更可否	実行ファイル名
Web コンソール		※1	不可	TCP (HTTP)	→	Unicast	80 ※3	可	Web サービス(IIS)

※1

ポートは自動的に割り当てられます。

※2

管理サーバは、内部処理用(DPMサーバとWebサービス(IIS)との通信)にポート(TCP:26500)を使用するため、他のアプリケーションでこのポートを使用しないようにしてください。

※3

以下の手順を参考にして、使用するポート番号を変更することができます。

例)IIS7.0の場合

- 1)「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」を選択します。
- 2)「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」画面が表示されますので、ツリービュー上で、**コンピュータ名**→「Web サイト」→**Web サイト名**を右クリックした後に「バインドの編集」を選択してポート番号を変更します。

・イメージビルダ(リモートコンソール)と管理サーバの通信

項目	イメージビルダ(リモートコンソール)用マシン			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理サーバ		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更可否				ポート番号	ポート番号変更可否	実行ファイル名
イメージビルダ(リモートコンソール)	DIBuilde.exe	※1	不可	TCP	→	Unicast	26508 ※2	可	ftsvc.exe

※1

ポートは自動的に割り当てられます。

※2

DPMサーバをDPM Ver6.1より前のバージョンからアップグレードインストールした場合、アップグレードインストール前のポート(56023)が引き継がれます。

・DPMコマンドラインと管理サーバの通信

項目	DPMコマンドライン用マシン			プロトコル	接続方向	宛先指定	管理サーバ ※2		
	実行ファイル名	ポート番号	ポート番号変更の可否				ポート番号	ポート番号変更の可否	実行ファイル名
DPMコマンドライン	dpmcmd.exe	※1	不可	TCP (HTTP)	→	Unicast	80 ※3	可	Web サービス(IIS)

※1

ポートは自動的に割り当てられます。

※2

管理サーバは、内部処理用(DPMサーバとWebサービス(IIS)との通信)にポート(TCP:26500)を使用するため、他のアプリケーションでこのポートを使用しないようにしてください。

※3

以下の手順を参考にして、使用するポート番号を変更することができます。

例)IIS7.0の場合

- 1)「スタート」メニューから「管理ツール」→「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」を選択します。
- 2)「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ」画面が表示されますので、ツリービュー上で、**コンピュータ名**→「Web サイト」→**Web サイト名**を右クリックした後に「バインドの編集」を選択してポート番号を変更します。

注意

OS の種類によっては、エフェメラルポートの影響で DPM が使用するポートと、他のサービスやアプリケーションで使用するポートが競合し、DPMのサービスが起動できない場合があります。エフェメラルポートの確認方法と、対処方法については、「ファーストステップガイド 2.2.1 ネットワーク環境について」の「DPM が使用するポートについて」を参照してください。

ヒント

ルータとスイッチの設定については、ネットワーク機器のマニュアルを参照していただくか、購入元に問い合わせてください。

付録 E DPM が出力するログ

■DPMサーバ

DPMサーバをインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

ヒント

DPMサーバをインストールしたマシンには、イメージビルダとDPMコマンドラインもインストールされます。後述の「■イメージビルダ(リモートコンソール)」と「■DPMコマンドライン」の記載も合わせて参照してください。

フォルダ	<DPMサーバのインストールフォルダ>%Log (デフォルト: C:%Program Files%NEC%DeploymentManager%Log)
ファイル	apiserv.csv apitrace.log bkressvc.csv Deplnit.csv depssvc.csv DIBPkgMake.csv ftsvc.csv pmdb.log pminfo.log pxemftftp.csv pxesvc.csv rupdssvc.csv schwatch.csv rupdssvc_管理対象マシンのマシン名_管理対象マシンのMACアドレス.log
出力内容	DPMトレースログ、監査ログ、エラー情報、データベースアクセスログ
記録方法	apitrace.logは、最大1MByte。pmdb.logと、pminfo.logのファイルサイズは、最大16KByte。それ以外のファイルは、最大10MByteとなります。 apitrace.logは、ファイルの最大サイズを超えるとファイル内の先頭から、順番に上書きされます。 pmdb.logと、pminfo.logと、rupdssvc_管理対象マシンのマシン名_管理対象マシンのMACアドレス.logは、2世代管理。(ファイルの最大サイズを超えると、ファイル名が*.log.bakに変更され、元の*.log.bakが削除されます。) *.csvファイルは、5世代管理。(*.csvがファイルの最大サイズを超えると、ファイル名を*.csv.1に変更し、元の*.csv.nは、それぞれファイル名が*.csv.n+1に変更され、*.csv.4が削除されます。) また、各ファイルとも手動で削除できます。(*.csvと、apitrace.logは、DPMのサービス停止後に手動で削除してください。)

フォルダ	<DPMサーバのインストールフォルダ>%Datafile%LogFile%SnrReport (デフォルト: C:%Program Files%NEC%DeploymentManager%Datafile%LogFile %SnrReport)
ファイル	Scenario.rpt
出力内容	シナリオ実行結果
記録方法	ファイルサイズに制限はありません。 なお、Webコンソールから削除できます。(削除する手順の詳細については、「4.5.2 ログの削除」を参照してください。)

フォルダ	<DPMサーバのインストールフォルダ>%Datafile%LogFile%AuReport (デフォルト: C:%Program Files%NEC%DeploymentManager%Datafile%LogFile %AuReport)
ファイル	Index.rpt 管理対象マシンのMACアドレス.rpt
出力内容	管理対象マシンの自動更新(アプリケーション自動配信)の実行ログ
記録方法	管理対象マシンごとにMACアドレスで個別に管理します。 各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 最大ログ数については、Webコンソールから設定できます。 最大ログ数に設定した値によって、最大ログ数を超えるとIndex.rptの古いログから順番に削除、または古いログから10%を削除します。 最大ログ数の設定については、「4.7.2. 最大ログ数設定」を参照してください。 なお、Index.rptから古いログが削除される際に削除するログに関連する情報のみを、 管理対象マシンのMACアドレス.rpt から削除します。 また、ログファイルは、Webコンソールから削除できます。(削除する手順の詳細については、「4.7.4 ログの削除」を参照してください。)

フォルダ	<DPMサーバのインストールフォルダ>%Datafile%JSLog (デフォルト: C:%Program Files%NEC%DeploymentManager%Datafile%JSLog)
ファイル	CmdUserJSLog_YYYYMMDD.csv CmdSelfJSLog_YYYYMMDD.csv MngUserJSLog_YYYYMMDD.csv MngSelfJSLog_YYYYMMDD.csv ※YYYYMMDDは、日付となります。
出力内容	監査ログ(ユーザによる操作/DPMサーバ内部動作)
記録方法	各ファイルそれぞれ当日の日付のファイルに保存します。 各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 当日の日付分については、サービス起動中に削除することはできません。 過去の日付分はサービス起動中でも削除できます。なお、作成日から30日を超えると自動的に削除されます。

フォルダ	<DPMサーバのインストールフォルダ>%WebServer%Logs (デフォルト: C:%Program Files%NEC%DeploymentManager%WebServer%Logs)
ファイル	Browser.log Error.log JSOX-Event.csv LibAPI.log Polling.log Trace.log WebConsole.log
出力内容	Webコンソールの障害情報、トレース、監査ログ
記録方法	Polling.logは、最大1MByte。その他のファイルは、最大10MByteです。 Polling.logは、1ファイルに単調増加となり、 JSOX-Event.csvファイルは、2世代管理。(ファイルの最大サイズを超えると、ファイル名がJSOX-Event.csv.1に変更され、元のJSOX-Event.csv.1が削除されます。) その他のファイルは、6世代管理。(*.logがファイルの最大サイズを超えると、ファイル名を*.log.1に変更し、元の*.log.nは、それぞれファイル名が*.log.(n+1)に変更され、*.log.5が削除されます。) 各ファイルとも手動で削除できます。

フォルダ	<イメージ格納用フォルダ>¥upload¥dpmupload (デフォルト: C:¥Deploy¥upload¥dpmupload)
ファイル	管理対象マシンのMACアドレス_B.zip 管理対象マシンのMACアドレス_B_Error.zip 管理対象マシンのMACアドレス_R.zip 管理対象マシンのMACアドレス_R_Error.zip 管理対象マシンのMACアドレス_P.zip 管理対象マシンのMACアドレス_P_Error.zip 管理対象マシンのMACアドレス.zip 管理対象マシンのMACアドレス_Error.zip
出力内容	バックアップ/リストア/ディスク構成チェック実行時の管理対象マシン側の実行結果
記録方法	管理対象マシンごとにMACアドレスで個別に管理します。 各ファイルの最大サイズは、約50KByteで、シナリオを実行するたびにファイルを上書きします。なお、手動で削除できます。 UEFIモードの管理対象マシンの場合、各ファイルの最大サイズは約200KByteになります。

フォルダ	%SystemRoot% (デフォルト: C:¥WINDOWS)
ファイル	Inst_Dpm_Db.log Inst_Dpm_Dbadmin.log Inst_Dpm_Ports.log Inst_DPM_Mng.log
出力内容	DPMのインストールログ
記録方法	各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 Inst_Dpm_Db.logは、DPMサーバをインストールする度にファイルを上書きし、インストール後にサイズは増加しません。その他のファイルは、単調増加となります。各ファイルとも手動で削除できます。 なお、データベースサーバを構築している場合は、Inst_Dpm_Db.logと、Inst_Dpm_Dbadmin.logは、作成されません。

■データベース

データベースをインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	<SQL Serverのインストールフォルダ>¥MSSQL11. インスタンス名 ¥MSSQL¥Log (デフォルト: C:¥Program Files¥Microsoft SQL Server¥MSSQL11. インスタンス名 ¥MSSQL¥Log)
ファイル	ERRORLOG log_ <i>n</i> .trc (<i>n</i> は数値)
出力内容	SQL Serverのログ
記録方法	各ファイルともファイルサイズに制限はありません。 ERRORLOGは、7世代管理。(SQL Server(インスタンス名)が再起動すると、ファイル名をERRORLOG.1に変更し、元のERRORLOG. <i>n</i> は、それぞれファイル名がERRORLOG.(<i>n</i> +1)に変更され、ERRORLOG.6が削除されます。) log_ <i>n</i> .trcは、5世代管理。(log_1.trc~log_5.trcが存在する状態でSQL Server(インスタンス名)サービスが再起動すると、log_1.trcが削除されlog_6.trcが新規作成されます。) ERRORLOGは、削除できません。 log_ <i>n</i> .trcは、SQL Server(インスタンス名)サービス起動中に削除することはできません。過去ログはサービス起動中も削除できます。

■DPMクライアント(Windows)

DPMクライアント(Windows)をインストールした管理対象マシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	<DPMクライアントのインストールフォルダ> (デフォルト: C:\Program Files\NEC\DeploymentManager_Client)
ファイル	DepAgent.log rupdsvc.log DPMTray.log GetBootServerIP.log
出力内容	DPMクライアントのサービスログ 自動更新状態表示ツールのログ DPMクライアントの管理サーバ検索ログ
記録方法	DPMTray.logのファイルサイズは、最大1MByte。その他のファイルは、最大2MByteとなります。 DPMTray.logはファイルの最大サイズを超えると、すべてのログをクリアしてから、新しいログを記録します。 DepAgent.log、rupdsvc.log、GetBootServerIP.logは、2世代管理。(ファイルの最大サイズを超えると、ファイル名が*.log.bakに変更され、元の*.log.bakが削除されます。) 各ファイルとも手動で削除できます。

フォルダ	%SystemRoot%\DeploymentManager\JSLog (デフォルト: C:\WINDOWS\DeploymentManager\JSLog)
ファイル	CliSelfJSLog_YYYYMMDD.csv ※YYYYMMDDは、日付となります。
出力内容	監査ログ(DPMクライアントの内部動作)
記録方法	ファイルサイズの制限はありません。 当日の日付のファイルに保存します。 当日の日付分は、サービス起動中に削除することはできません。過去の日付分はサービス起動中も削除できます。作成日から30日を超えると自動的に削除されます。

フォルダ	%SystemRoot% (デフォルト: C:\WINDOWS)
ファイル	Inst_DPM_Win_Cli.log
出力内容	DPMのインストールログ
記録方法	各ファイルともファイルサイズに制限はありません。DPMクライアントをインストールする度に単調増加となります。手動で削除できます。

■DPMクライアント(Linux)

DPMクライアント(Linux)をインストールした管理対象マシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	/opt/dpmclient/agent/log
ファイル	depinst.log depagtd.log GetBootServerIP.log
出力内容	DPMクライアントのインストールログ DPMクライアントのサービスログ DPMクライアントの管理サーバ検索ログ
記録方法	depinst.logはファイルサイズに制限はなく、DPMクライアントをインストールする度にファイルが上書きされます。 depagtd.logと、GetBootServerIP.logは、2世代管理。(ファイルの最大サイズ(2MByte)を超えると、ファイル名が*.log.bakに変更され、元の*.log.bakが削除されます) 手動で削除できます。

■イメージビルダ(リモートコンソール)

イメージビルダ(リモートコンソール)をインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	<イメージビルダ(リモートコンソール)のインストールフォルダ>¥Datafile¥JSLog (デフォルト: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Datafile¥JSLog)
ファイル	ImgUserJSLog_YYYYMMDD.csv ImgSelfJSLog_YYYYMMDD.csv ※YYYYMMDDは、日付となります。
出力内容	監査ログ(ユーザによる操作/イメージビルダの内部動作)
記録方法	各ファイルの最大サイズに制限はなく、それぞれ当日の日付のファイルに保存します。 当日の日付分は、サービス起動中に削除することはできません。過去の日付分はサービス起動中も削除できます。作成日から30日を超えると自動的に削除されます。

■DPMコマンドライン

DPMコマンドラインをインストールしたマシンに出力されるログは、以下となります。

フォルダ	<DPMコマンドラインのインストールフォルダ>¥Log (デフォルト: C:¥Program Files¥NEC¥DeploymentManager¥Log)
ファイル	DPM_Trace1.csv
出力内容	監査ログ(ユーザによる操作/DPMコマンドラインの内部動作)
記録方法	DPM_Trace1.csvは、最大10MByte。 5世代管理。(DPM_Trace1.csvがファイルの最大サイズを超えると、ファイル名をDPM_Trace2.csvに変更し、元のDPM_Tracen.csvは、それぞれファイル名がDPM_Trace(n+1).csvに変更され、DPM_Trace5.csvが削除されます。) 手動で削除できます。DPMコマンドラインを実行中は削除できません。

付録 F 各コンポーネントのバージョン確認方法

■DPMサーバ

Webコンソールの画面下部(フッタ)を確認してください。

Webコンソールの起動、およびログイン方法については、「インストレーションガイド 5.1.1 Webコンソールを起動する」から「5.1.2 ログインする」を参照してください。

例)DeploymentManager 6.2-XXXXX

※XXXXXには、数値が入ります。

■DPMクライアント(Windows)

- 1)「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。
- 2)「表示」メニューから「詳細表示の設定」を選択します。
- 3)「詳細表示の設定」画面で、「バージョン」にチェックを入れ「OK」ボタンをクリックします。
- 4)「DeploymentManager」に表示された「バージョン」を確認してください。

例)6.20.000

■DPMクライアント(Linux)

以下のコマンドを実行して、表示されるバージョンを確認してください。

```
cd /opt/dpmclient/agent/bin  
depagtd -v
```

例)DeploymentManager Ver6.2

■イメージビルダ(リモートコンソール)

- 1)「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。
- 2)「表示」メニューから「詳細表示の設定」を選択します。
- 3)「詳細表示の設定」画面で、「バージョン」にチェックを入れ「OK」ボタンをクリックします。
- 4)「DeploymentManager (イメージビルダ)」に表示された「バージョン」を確認してください。

例)6.20.000

■DPMコマンドライン

- 1)「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。
- 2)「表示」メニューから「詳細表示の設定」を選択します。
- 3)「詳細表示の設定」画面で、「バージョン」にチェックを入れ「OK」ボタンをクリックします。
- 4)「DeploymentManager (DPMコマンドライン)」に表示された「バージョン」を確認してください。

例)6.20.000

■PackageDescriber

- 1)「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラムと機能」を選択します。
- 2)「表示」メニューから「詳細表示の設定」を選択します。
- 3)「詳細表示の設定」画面で、「バージョン」にチェックを入れ「OK」ボタンをクリックします。
- 4)「DPM PackageDescriber」に表示された「バージョン」を確認してください。

例)6.20.000

付録 G 用語集

■アルファベット順

Deploy-OS	管理対象マシン上で動作するDPM独自にカスタマイズしたLinux OS(カーネル)です。バックアップ/リストア/ディスク構成チェック時に管理サーバから管理対象マシンに送付され、管理対象マシンのメモリ上に展開されます。 なお、DHCPサーバを構築せずにDPMを運用する場合は、ブータブルCDに含まれています。
DHCPサーバ	DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)とは、IPアドレスを動的に更新するためのプロトコルです。 DHCPサーバは、DHCPで設定情報を提供する機能を持ったマシンやネットワーク機器のことを指します。 DPMでは、管理対象マシンがPXEブートを行う場合や、ディスク複製OSインストール時にIPアドレスの割り当てを行うために利用します。
DPMクライアント	DPMのコンポーネントの名称です。管理対象マシン上で動作して、DPMサーバとデータの受け渡しを行います。管理対象マシンの動作制御(シャットダウンなど)や、パッケージの適用/未適用などの情報送付を行います。
DPMコマンドライン	DPMのコンポーネントの名称です。コマンドラインから管理対象マシンの状態確認やシナリオ実行などの処理を実行します。
DPMサーバ	DPMのコンポーネントの名称です。Webコンソールの操作や、DPMコマンドラインからの指示により管理対象マシンへ処理を実行します。
ESX, ESXi	VMware社の仮想化ソフトウェアです。
Express5800シリーズ	NECが発売している企業向けワークステーション・サーバです。
Hyper-V	Microsoft社の仮想化ソフトウェアです。
IIS	Internet Information Servicesの略で、Microsoft社が提供するインターネットサーバ用ソフトウェアです。
LANボード	LAN(Local Area Network)接続用のボードです。NIC(Network Interface Card)、LANアダプタと呼ばれることもあります。
MACアドレス	Media Access Control addressの略で、各LANボードに固有のID番号です。
OSクリアインストール	Red Hat Enterprise Linuxを管理対象マシンに細かい設定をしながらインストールする機能です。
PackageDescriber	DPMのコンポーネントの名称です。パッケージを作成して、パッケージWebサーバへ登録するツールです。
PXEブート(ネットワークブート)	Preboot eXecution Environment bootの略です。 LANボードに搭載されているPXE(ネットワーク規格)を利用した、ネットワーク経由でプログラムを起動するブート方法です。 DPMでは、管理対象マシンの検出、バックアップ/リストア/ディスク構成チェック、パッケージの配信を行うために利用します。
SigmaSystemCenter	仮想化環境を含めたプラットフォームの統合管理を実現するソフトウェア製品です。DPMを同梱しています。
SQL Server	Microsoft社が提供している、リレーショナルデータベースを構築/運用するための管理ソフトウェアです。DPMで管理するデータを格納します。
Sysprep	Microsoft社が提供するWindows OSを展開するためのツールです。
VirtualPCCenter	仮想PC型シンクライアントを実現するソフトウェア製品です。
VLAN	物理的なネットワーク構成とは別に、論理的なネットワーク構成を構築してネットワークを複数のブロードキャストドメインに分割する技術です。
Webコンソール	管理対象マシンの状況確認や、管理対象マシンへの処理の実行を行います。
WOL(Wake On LAN)	LANで接続されたマシンを他のマシンからネットワーク経由で電源ONする機能です。
XenServer	Citrix社の仮想化ソフトウェアです。

■50音順

イメージビルダ	パッケージ、ディスク複製OSインストール用のディスク複製用情報ファイルなどを作成し、管理サーバに登録します。
イメージビルダ(リモートコンソール)	管理サーバとは別のマシンから使用する場合のイメージビルダを意味します。
インストール媒体	DPMが同梱されている媒体を指します。
仮想マシン	仮想マシンサーバ上に仮想的に実現されたマシンを指します。
管理サーバ	DPMサーバがインストールされている物理的なサーバを意味します。
管理対象マシン	DPMの管理対象となるマシンです。「コンピュータ」、「クライアント」または、「クライアントコンピュータ」と表記する場合もあります。
ゲストOS	仮想マシン上で動作するOSのことを意味します。
自動更新	管理対象マシンが、あらかじめ指定されたタイミングで管理サーバを参照して、未適用のパッケージがあった場合に配信要求を行います。また、パッケージを受け取った後に自動的に適用します。この機能を自動更新と呼びます。
自動更新通知	管理サーバに緊急度が「最高」のパッケージが登録された時にリアルタイムに自動更新を行うために管理サーバが管理対象マシンへ発行する通知です。
自動ダウンロード	あらかじめ管理サーバ側で指定した時刻に「パッケージWebサーバ」から新規作成されたパッケージを管理サーバへ自動的にダウンロードする機能です。
シナリオ	BIOS/ファームウェア用フロッピーディスクのイメージ配信、OSクリアインストール、サービスパック/HotFix/Linux/パッチファイル/アプリケーションのインストール、バックアップ/リストア/ディスク構成チェックなどの実行に使用する設定ファイルです。
ディスク構成チェック	バックアップ/リストアの実行前に事前にディスク構成を確認するための機能です。バックアップ/リストア時に指定するディスク番号を確認することができます。
ディスク複製OSインストール	Sysprepツール(マスタイメージ作成ツール)と、DPMのバックアップ/リストア機能を組み合わせたマシンのクローニングを行う機能です。
バックアップ/リストア	ディスク単位またはパーティション単位でのディスク内のデータをバックアップ、または、復元する機能です。
パッケージ	パッチ、アプリケーションとパッケージ情報ファイルを合わせたものを指します。
パッケージ情報ファイル	イメージビルダ、またはPackageDescriberで作成します。 パッチ、アプリケーションの基本情報、実行情報、適用OS情報、依存情報と識別情報の保存に用いるファイルを指します。
パッケージ登録	イメージビルダ、またはPackageDescriberで作成します。 PackageDescriberで作成したパッケージをパッケージWebサーバにアップロードすることを指します。
パッケージWebサーバ	また、PackageDescriberで修正したパッケージをパッケージWebサーバに再アップロードすることをパッケージ再登録と呼びます。 パッケージを保存するサーバを意味します。管理サーバが複数台存在する場合に設置して、パッケージを共有することができます。HTTPプロトコルでアクセスできる必要があります。
パッチ	Microsoft社が発表するWindows OS用のサービスパック、HotFixなどを総称してパッチと表記します。
フルセクタバックアップ	ハードディスク上のすべてのセクタをバックアップすること指します。
ホストOS	仮想化ソフトウェアが動作する基盤となるOSを指します。
マスタマシン	ディスク複製OSインストールの作成元となるマシンです。
マスタイメージ	ディスク複製OSインストールの作成元となるマシンのディスクイメージです。
有効セクタバックアップ	ハードディスク上の有効セクタのみをバックアップすることを指します。
リモートアップデート	サービスパック/HotFix/Linux/パッチファイル/アプリケーションのインストールを指します。

付録 H LDAP サーバを使用した Web コンソールのログイン方法

LDAPサーバとは、ネットワーク上に複数存在するユーザ認証のシステムを統合するために使用されるサーバで、LDAPプロトコルに対応したディレクトリ・サービスの製品で構築されます。
本章に記載の設定を行うことにより、LDAPサーバに登録しているユーザアカウントを使用してDPMのWebコンソールにログインできるようになります。

DPMで対応しているLDAPサーバは、以下となります。

- ・Windows Active Directory(Windows Server 2003/Windows Server 2008/Windows Server 2012)
- ・OpenLDAP(LDAPv3)

注意

Windows Active Directoryを使用する場合、「ユーザは次回ログオン時にパスワード変更が必要」オプションが選択されているとDPMからの認証に失敗します。

- (1) 事前にLDAPサーバの説明書などを参照し、LDAPサーバの構築、およびユーザアカウントを作成しておいてください。
- (2) 以下のファイルをテキストエディタなどで開き、使用している環境に合わせて編集してください。
<DPMサーバのインストールフォルダ>%WebServer%App_Data\Config\LdapConfig.xml

■各設定値については、以下のとおりです。

XML タグ	説明
Enable	Web コンソールのログインに LDAP サーバのユーザアカウントを使用するには、「true」を設定してください。 「true」に設定すると DPM サーバ、LDAP サーバの順に認証処理を行います。 デフォルトは、「false」(LDAP サーバのユーザアカウントは使用しない)設定です。
AccountAuthentication	Web コンソールにログインするユーザの権限を設定します。 以下のいずれかを設定してください。 ・7(Administrator) ・3(Operator) ・1(Observer) デフォルトは、「1」です。 なお、すべてのユーザアカウントに対して、同一のユーザ権限が設定されます。 各権限の詳細については、「2.2 ユーザ」アイコンを参照してください。
LDAPType	LDAP サーバの種別を設定します。 以下のいずれかを設定してください。 ・0(Windows Active Directory) ・1(OpenLDAP) デフォルトは、「0」です。
Host	LDAP サーバのホスト名、または IPv4 アドレスを設定します。 デフォルトは、「127.0.0.1」です。

Port	LDAP サーバに接続するためのポート番号を設定します。 デフォルトは「389」です。
UserDnPattern	以下の書式で入力してください。 ・Windows Active Directory の場合 : ドメイン名{0} ・OpenLDAP の場合 : "uid={0},ou=組織単位,dc=ドメイン構成要素" 例) ・Windows Active Directory の場合 : dpm.com{0} ・OpenLDAP の場合 : uid={0},ou=user,dc=dpm,dc=com

ヒント

LDAPサーバのユーザアカウントを使用してWebコンソールにログインする場合は、「管理」ビュー→「ユーザ」アイコン→「ユーザー一覧」グループボックスには、表示されません。

付録 I 改版履歴

◆ 第 1 版 (Rev.001) (2013.07) : 新規作成

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複製することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標および著作権

- SigmaSystemCenter、VirtualPCCenter は日本電気株式会社の商標または登録商標です。
- WebSAM は日本電気株式会社の登録商標です。
- ESMPro は日本電気株式会社の登録商標です。
- EXPRESSBUILDER は日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Hyper-V、Windows、Windows Vista、Windows Media、Microsoft Internet Explorer、Microsoft Office は米国MicrosoftCorporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は米国およびその他の国で Red Hat, Inc.の登録商標または商標です。
- SUSE は、米国およびその他の国における Novell, Inc.またはその子会社の商標または登録商標です。
- VMware、GSX Server、ESX Server および VMotion は、VMware, Inc.の登録商標もしくは商標です。
- Xen、Citrix、XenServer、XenCenter は、Citrix Systems, Inc.の登録商標もしくは商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。
- 本製品には The Apache Software Foundation より開発したソフトウェア(Apache Ant)が含まれています。
Apache Ant is made available under the Apache Software License, Version 2.0.
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>
- Tomcatは、Apache Software Foundationの商標または登録商標です。
- 7zip は Igor Pavlov の登録商標です。
- Portions of this software were originally based on the following:
 - software copyright (c) 1999, IBM Corporation., <http://www.ibm.com>.
- Mylex は、米国 LSI Logic Corporation の登録商標です。
- PXE Software Copyright (C) 1997 - 2000 Intel Corporation
- Copyright (c) 1998-2004 Intel Corporation
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice,
this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice,
this list of conditions and the following disclaimer in the documentation
and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL INTEL BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE. THE EFI SPECIFICATION AND ALL OTHER INFORMATION ON THIS WEB SITE ARE PROVIDED "AS IS" WITH NO WARRANTIES, AND ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE.

You may not reverse-assemble, reverse-compile, or otherwise reverse-engineer any software provided solely in binary form.

The foregoing license terms may be superseded or supplemented by additional specific license terms found in the file headers of files in the EFI Application Toolkit.

- GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc. 51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the

Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as

to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin St, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program `Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989

Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Library General Public License instead of this License.

- Copyright (c) 1989 The Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

- This is version 2004-May-22 of the Info-ZIP copyright and license. The definitive version of this

document should be available at <ftp://ftp.info-zip.org/pub/infzip/license.html> indefinitely.

Copyright (c) 1990-2004 Info-ZIP. All rights reserved.

For the purposes of this copyright and license, "Info-ZIP" is defined as the following set of individuals:

Mark Adler, John Bush, Karl Davis, Harald Denker, Jean-Michel Dubois, Jean-loup Gailly, Hunter Goatley, Ian Gorman, Chris Herborth, Dirk Haase, Greg Hartwig, Robert Heath, Jonathan Hudson, Paul Kienitz, David Kirschbaum, Johnny Lee, Onno van der Linden, Igor Mandrichenko, Steve P. Miller, Sergio Monesi, Keith Owens, George Petrov, Greg Roelofs, Kai Uwe Rommel, Steve Salisbury, Dave Smith, Christian Spieler, Antoine Verheijen, Paul von Behren, Rich Wales, Mike White

This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied. In no event shall Info-ZIP or its contributors be held liable for any direct, indirect, incidental, special or consequential damages arising out of the use of or inability to use this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions.
- Redistributions in binary form (compiled executables) must reproduce the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions in documentation and/or other materials provided with the distribution. The sole exception to this condition is redistribution of a standard UnZipSFX binary (including SFXWiz) as part of a self-extracting archive; that is permitted without inclusion of this license, as long as the normal SFX banner has not been removed from the binary or disabled.
- Altered versions--including, but not limited to, ports to new operating systems, existing ports with new graphical interfaces, and dynamic, shared, or static library versions--must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source. Such altered versions also must not be misrepresented as being Info-ZIP releases--including, but not limited to, labeling of the altered versions with the names "Info-ZIP" (or any variation thereof, including, but not limited to, different capitalizations), "Pocket UnZip," "WiZ" or "MacZip" without the explicit permission of Info-ZIP. Such altered versions are further prohibited from misrepresentative use of the Zip-Bugs or Info-ZIP e-mail addresses or of the Info-ZIP URL(s).
- Info-ZIP retains the right to use the names "Info-ZIP," "Zip," "UnZip," "UnZipSFX," "WiZ," "Pocket UnZip," "Pocket Zip," and "MacZip" for its own source and binary releases.

- 本製品には、Pocket Zip(Info-Zip)を改変した Zip を含んでいます。
- 本製品には、Apache Software Foundation が無償で配布しているソフトウェア(Xerces-C++ Version 3.1.1)を含んでいます。これらの製品については、それぞれの製品の使用許諾に同意したうえで利用してください。著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。

Xerces-C++ Version 3.1.1: The Xerces-C++ Version 3.1.1 is available in both source distribution and binary distribution. Xerces-C++ is made available under the Apache Software License, Version 2.0.

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>

- 本製品には、Microsoft Corporation が無償で配布している Microsoft SQL Server Express を含んでいます。使用許諾に同意したうえで利用してください。著作権、所有権の詳細につきましては、以下の LICENSE ファイルを参照してください。

<Microsoft SQL Server Express をインストールしたフォルダ>%License Terms

- 本製品には、Apache Software Foundation が無償で配布しているソフトウェア(log4net for .NET Framework 2.0 Version 1.2.10.0)を含んでいます。

著作権、所有権の詳細については以下のファイルを参照してください。

SSC向け製品の場合:<インストール媒体>%DPM%License%log4net for .NET Framework 2.0%

DPM単体製品の場合:<インストール媒体>%License%log4net for .NET Framework 2.0%

- 本製品には、SpringSource が無償で配布しているソフトウェア(Spring.Net Core functionality Version 1.2.0.20313)を含んでいます。

著作権、所有権の詳細については以下のファイルを参照してください。

SSC向け製品の場合:<インストール媒体>%DPM%License%Spring.Net Core functionality%

DPM単体製品の場合:<インストール媒体>%License%Spring.Net Core functionality%

- ・ 本製品には、Prototype Core Team が無償で配布しているソフトウェア (Prototype JavaScript framework, version 1.6.0.3)を含んでいます。

著作権、所有権の詳細については以下を参照してください。

=====

Prototype is freely distributable under the terms of an MIT-style license.
For details, see the Prototype web site: <http://www.prototypejs.org/>

=====

- ・ 本製品には、Datasoft Solutions が無償で配布しているソフトウェア (Tree Container Library(TCL) Version 5.0.6)を含んでいます。
- ・ It was downloaded from
ftp://ftp.ie.u-ryukyu.ac.jp/pub/software/kono/nkf171.shar

ftp://ftp.ij.ad.jp/pub/NetNews/fj.sources/volume98/Nov/981108.01.Z
Subject: nkf 1.7 (Network Kanji Filter w/Perl Extension)
Message-ID: <29544.910459296@rananim.ie.u-ryukyu.ac.jp>

Copyright:

Copyright (C) 1987, Fujitsu LTD. (Itaru ICHIKAWA)
(E-Mail Address: ichikawa@flab.fujitsu.co.jp)
Copyright (C) 1996,1998 Kono, COW
(E-Mail Address: kono@ie.u-ryukyu.ac.jp)

Everyone is permitted to do anything on this program
including copying, modifying, improving.
as long as you don't try to pretend that you wrote it.
i.e., the above copyright notice has to appear in all copies.
You don't have to ask before copying or publishing.
THE AUTHOR DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE.

- ・ ORIGINAL LICENSE:
This software is

(c) Copyright 1992 by Panagiotis Tsirigotis

The author (Panagiotis Tsirigotis) grants permission to use, copy,
and distribute this software and its documentation for any purpose
and without fee, provided that the above copyright notice extant in
files in this distribution is not removed from files included in any
redistribution and that this copyright notice is also included in any
redistribution.

Modifications to this software may be distributed, either by distributing
the modified software or by distributing patches to the original software,
under the following additional terms:

1. The version number will be modified as follows:
 - a. The first 3 components of the version number
(i.e <number>.<number>.<number>) will remain unchanged.
 - b. A new component will be appended to the version number to indicate
the modification level. The form of this component is up to the
author of the modifications.
2. The author of the modifications will include his/her name by appending it
along with the new version number to this file and will be responsible for
any wrong behavior of the modified software.

The author makes no representations about the suitability of this

software for any purpose. It is provided "as is" without any express or implied warranty.

Modifications:

Version: 2.1.8.7-current

Copyright 1998-2001 by Rob Braun

Sensor Addition

Version: 2.1.8.9pre14a

Copyright 2001 by Steve Grubb

This is an excerpt from an email I received from the original author, allowing xinetd as maintained by me, to use the higher version numbers:

I appreciate your maintaining the version string guidelines as specified in the copyright. But I did not mean them to last as long as they did.

So, if you want, you may use any 2.N.* (N >= 3) version string for future xinetd versions that you release. Note that I am excluding the 2.2.* line; using that would only create confusion. Naming the next release 2.3.0 would put to rest the confusion about 2.2.1 and 2.1.8.*.

- Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under a Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit <http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/> for more details.
- The Cygwin DLL and utilities are Copyright © 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011 Red Hat, Inc. Other packages have other copyrights.
UNIX® is a registered trademark of the Open Group in the United States and other countries.
- Copyright (C) 2001-2003 Hewlett-Packard Co. Contributed by Stephane Eranian eranian@hpl.hp.com
- Copyright 1994-2008 H. Peter Anvin - All Rights Reserved
- その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
- インストール媒体に格納されているソース、バイナリファイルは、各ソース、バイナリファイルのライセンスに帰属します。